



瑶族文化研究所 通訊 第十一号

編集・発行 一般社団法人 ヤオ族文化研究所

〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2-2-26-202

E-mail: office@yaoken.org URL: https://www.yaoken.org/

瑶族文化研究所

通 訊

第十一号

二〇二五・七

ヤオ族文化研究所

瑶族文化研究所

第十一号

通 訊

つうじん

教書育人竭力尽心

本清源家風頌千秋

右穆

普同供奉

左昭

是吾宗支

敬祖尊宗香火傳萬代

傳道授業釋疑解惑

滿

金

福

地

土

2024年度科学研究費基盤研究 (C)

「儀礼と神話—多媒体で表現されるミエンの飄過海神話と儀礼システムの立体的研究—」



目 次

11号刊行にあたって	4
	廣田 律子
I. 活動報告	
ヤオ族文化研究所活動報告	10
ヤオ族文化研究所 所員による獲得資金	13
II. 研究報告 1	
关于越南瑶族《韩朋传》与敦煌本《韩朋赋》以及新发现唐开元年間抄本《韩朋赋》残片	18
	金 文京
越南瑶族《英台古》整理與研究	25
	郭 正宜
故事歌在瑶族的流傳	53
——以廣西〈舜兒古記〉與越南〈舜兒古篆記〉為例	
	鄭 美惠
タイのミエンの歌における歌謡語彙の特徴について	69
	吉野 晃
中国藍山県「盤王願」に見る歌娘と師父の歌	80
	廣田 律子

瑶族經書儀式中的道教法術	112	張澤洪
《祖图》：记载泰国瑶族迁徙路线、时间的民间文献	131	玉时阶 玉璐 刘玉兰
《祖图》：泰国北部瑶族（优勉）的迁徙与定居路线	146	刘玉兰 宋巴
瑶族儀式文獻研究試論：聚焦文本之間的相互關係	170	丸山宏
从竞生走向共生：六堡茶传承中的多民族交往交流交融与互嵌式发展 ... ——铸牢中华民族共同体意识的广西实践系列之四	182	郝国强 李星莹 奉媛
泰国瑶族传统银饰锻造技艺的传承、发展与助力乡村振兴	198	邓有利 邓顾贵
瑶族宗教仪式剪纸研究	218	何红一
Importance of Livestock for the Mien (Yao) People Living in a Hillside Village in Northern Thailand: Focusing on their Sacrificial Utilization	230	MASUNO Takashi
瑶族度戒仪式	240	陈友山
——从金门与优勉两个支系的对比研究视角出发		
勉瑶挂灯仪式的结构、功能、象征和意义	250	谭静
——基于挂三灯、七星灯、十二盏大罗明月灯的考察		
过山瑶招郎入赘婚祭祖仪式的宗教人类学阐释	277	玉璐

藍山縣荊竹瑤族鄉散花儀式社會功能芻議	290
	盧 順 維

III. 研究報告 2

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」報告	318
	吉野 晃

神奈川県日本常民文化研究所・一般社団法人ヤオ族文化研究所 主催 2024 年度企画展「国境を越える民族のアイデンティティー ～ヤオ族の儀礼と神像画～」学生による参加報告まとめ	322
	増野 高司

11号刊行にあたって

神奈川大学 教授
廣田 律子

今回神奈川大学の2024年度国際交流事業に申請し『助成金を獲得して実施した(2006年～現在)ヤオ族関連研究成果最終報告会「ヤオの多面性と統一性」』が採択され、2024年10月11・12日に国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」を開催した。

ヤオ研究の拠点といえる、中国・香港・台湾・ベトナム・タイ・日本から多くの研究者が神奈川大学みなとみらいキャンパスに集い、積み重ねてきたヤオ研究の成果を発表し学術交流を行った。

このような貴重な機会が実現できたことは大変な喜びであるが、これは参加者各位のヤオ研究を前進させることへの熱意の証しといえる。心より感謝の意を表したい。

通迅11号はこの国際シンポジウムで発表された成果をまとめた論文集である。

以下に国際交流事業に提出した企画書の文面により本シンポジウムの目的、意義、内容、期待される成果をまとめる。

目的および意義

①中国湖南省永州市での調査

2008年11月に実施された最大規模の通過儀礼(度戒・トウサイ)の儀礼内容の把握と合わせ、儀礼で使用された大量の漢字経典および文書について、儀礼の実践と漢字経典の対応の明確化に努めた。2006年1月に馮家、2011年11月に大盤家、2015年12月に小盤家、2017年1月に趙家で実施された、中規模の通過儀礼(還家願・グーダーン兼ゾウダーン)の儀礼内容および漢字経典の把握のほか、異なる親族集団の事例を収集した。2010年8月の葬送儀礼では小規模の儀礼内容および漢字経典を把握し、規模の異なる儀礼間の異同を確認するために必要な資料を得た。年中行事の送船儀礼調査(2012年3月)、春節調査(2013年2月)、言語調査(2014年3月・8月、2015年8月)を行った。

②中国以外の地域での調査

タイ北部では通過儀礼調査(2014年1月、2018年11月)、ベトナムでは通過儀礼を含む複数の儀礼

および漢字經典に関する調査（2015年3月・9月、2016年2月・8月、2017年2月・9月、2018年1月、2019年1月）を実施した。タイ・ベトナムでの通過儀礼（トウサイ・ゾウダーン・グワダーン）および旧正月儀礼、架橋儀礼、神像画の開光儀礼の調査を通じ、儀礼に関する地域間の比較研究が必要であると認識を深めた。通過儀礼では盤王への祭祀において漢字經典の通称『盤王大歌』を読経する「歌堂」儀礼が実施されるが、この複数の異本を撮影した。さらに儀礼で使用される神像画の異なる祭司の所有する複数セットを撮影した。

③ミエンの儀礼漢字經典収蔵機関での調査

バイエルン州立図書館（250件、2010年3月）、オックスフォード大学ボードリアン図書館（100件、2010年8月、2012年12月）、アメリカ議会図書館（45件、2014年9月）および南山大学人類学博物館（130件、2011年3月、2011年6月、2012年6月、2015年8月）で調査を実施し、収蔵されたすべての漢字經典を把握するには至っていないものの、同一タイトルの異なる漢字經典の把握に努めた。

④収集資料の整理

儀礼調査後、儀礼の程序を作成し、漢字經典の使用について明確化し、静止画・動画を組み入れる作業を行い、データベースを作成し、ヤオ族文化研究所のウェブサイトにアップロードすることで研究者間で情報共有を行えるようにした（<https://www.yaoken.org/data-room/memonly/memonly-index.html>）。収集した漢字經典の翻刻を進め、同内容の複数本の比較対照を行い、ヤオ族文化研究所の刊行物『瑶族文化研究所通訊』等で公開を進めた。

以上①～④は、2008年度～2012年度科学研究費補助金 基盤研究（B）20401013、2012年度～2014年度科学研究費助成事業 基盤研究（B）24401018、2014年度～2015年度神奈川大学アジア研究センター共同研究「湖南省藍山県過山系ヤオ族の言語学的研究」、2016年度～2018年度神奈川大学共同研究奨励助成金「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」、2020年度～2023年度科学研究費補助金 基盤研究（B）20H01184「道教の比較研究から見るヤオ族儀礼文献学の構築」（研究代表：浅野春二）、2022年度～2025年度科学研究費補助金 基盤研究（C）22K01084「儀礼と神話 — 多媒体で表現されるミエンの飄遙過海神話と儀礼システムの立体的研究 —」を獲得して実施した。

本研究では音楽・言語・民俗・文化人類・宗教・歴史・美術・工学等を専門とする多分野の研究者が協同して多角的な研究分析を試み、この間数多くの研究成果をあげてきた。そればかりでなくヤオの文化認知を広げるための展示（2017年チューラーロンコーン大学、2018年復旦大学、2017年ユーラシア文化館企画展）を行ったり、現地の祭司（中国・ベトナム）や海外のヤオ研究者を招へいしての

国際シンポジウム（2009年中国長沙、2010年横浜、2012年中国長沙、2015年横浜、2019年平塚）等行ってきた。研究成果は『瑶族文化研究所通説』等で発表しているほか、ヤオ族文化研究所のウェブサイト (<https://www.yaoken.org/>) で公開に努めている。

2020年から現在まではコロナ禍の下、オンラインでの研究会を22回実施し、中国国内、香港、台湾等からも多くの研究者が参加している。この間「The 12th International Convention of Asia Scholars The “Tao Among the Yao”: Ethnographic and Textual Studies on the Rituals and Manuscripts of the Lanten Yao of Laos」(2021年8月)の参加をきっかけに香港大学のラオスのランテンヤオをフィールドとする研究チームとの交流が始まり、2023年8月25日・26日には香港大学との共同開催で、香港大学香港人文社会研究所において対面で「International Workshop on Yao Healing Rituals」を開催し、研究交流を継続している。中国のヤオ文化の研究拠点である広西民族大学との相互訪問を再開し、ヤオ族文化研究所のデジタル資料の提供(2022年9月)、講演の実施や研究成果に関する交流(2023年9月4日～12日)を進め、2024年3月には台湾輔仁大学においても研究交流を行った。

コロナ禍の下の研究交流を通じて、ヤオ儀礼文化がエスニックグループや居住地や親族集団の違いによって多様な面をもつ一方、共通して継承している面があることが分かってきた。世界観、霊魂観、人と神との関係性、死と再生を意図する儀礼等ヤオの個性的な特徴を形成する統一性をもちながら、その表現方法は極めて多彩である。「多面性と統一性」をテーマとするシンポジウムを通じて、多地域をフィールドとする多分野の研究者が研究成果を持ち寄り、大局的かつ深度のある議論を展開することで、ヤオの儀礼文化の本質を立体的に解明できると考える。

この20年にわたる共同研究の集大成となる研究発表の機会と位置づけている。

内容

参加メンバーは民俗学・民族学・文化人類学・歴史学・美術・音楽学・言語学・宗教学・文献学等の多分野の国籍も日本・中国・香港・台湾・タイ・ベトナム・欧米からなる専門家が揃い、ヤオの儀礼の実践とそこで使用される文献(経典・文書)、歌謡、音楽、神画、言語、教育、衣食住、生業、親族組織等について研究を積み重ねてきた面々である。発表内容はグループA「歌謡の諸相」、グループB「移住・方術・冥界などに関する会文献・儀礼文献」、グループC「生業・技術」、グループD「儀礼実践の諸相」の分野に分かれる。それぞれのグループにコメンテーターとして金文京先生、謝聰輝先生、佐野賢治先生、遠藤耕太郎先生をお願いした。さらに中国湖南省永州市から現役祭司の趙金付氏、盤榮富氏、盤保古氏、盤万古氏にも参加いただいた。

関連展示として神奈川大学横浜キャンパスミュージアムコモンズにおいて9月9日から10月

31日まで『常民文化ミュージアム 2024年度企画展「国境を越える民族のアイデンティティー — ヤオ族の儀礼と神像画 — 』を開催し、ヤオ族文化研究所の所蔵する神像画等を公開した。

神像画展ポスター https://yaoken.org/data-room/data/Tenji_Poster.jpg

神像画展リーフレット <https://yaoken.org/data-room/data/Leaflet.pdf>

展示解説動画 <https://yaoken.org/data-room/data/ExplanationEX.mp4>

展示解説動画 (Youtube 版) <https://youtu.be/nL2Y1EaxSzs>

研究面での期待される成果

ヤオの儀礼知識・儀礼文献は、多面的で豊富な内容をもつにも関わらず、解読すること自体が充分に実現してこなかった。極めて複雑な儀礼の実践内容とも関連させつつ、民俗学・文化人類学・歴史学・音楽・宗教学・道教研究・言語学の知見をつきあわせた多分野からの研究交流は、学術的に重要な成果を必ず上げ得ると考える。今回国内外からの参加者は、ヤオ研究の第一線で研究成果をあげている研究者であり、相互に研究交流を進めることでさらにヤオ研究を深めることになり、全世界のヤオ研究の拠点からの参加者による貴重な討論が実現した。特に多数の若手の研究者による発表はヤオ研究が今後さらに展開する可能性の表れといえる。本シンポジウムを契機に次世代へのスムーズな研究継承が実現すると期待する。

またヤオはベトナム・タイ・ラオスをはじめとする東南アジアやアメリカ等世界各地に分散して居住しており、この儀礼文献・文書の公開及び研究成果発表を通じてヤオ自身自民族の文化を再発見し、再評価することに繋がる。すでに本研究所の活動に刺激され、湖南省ヤオ族文化研究センターが設立されたほか、相同の儀礼知識を伝承してきたものの継承の危機を迎えているタイやアメリカのヤオが、度戒儀礼の資料の提供を望んでおり、ヤオの儀礼伝承に更なる展開が予想される。このような継承の危機にある儀礼と儀礼文献・文書を収集記録保存すること自体、ヤオの社会に留まらず人類文化の保存継承の観点からもその意義は大きい。さらに蓄積された研究成果について内外の研究者と交流を行うことで国際的学際的なヤオ研究の振興に繋がると自負する。

今回の国際シンポジウムを通じて活動の成果を発信することで、さらにヤオの伝統文化の保存活用継承に資することになり、ヤオの儀礼文献をユネスコの世界記憶遺産に登録申請する動きを活発化することに繋がることを望んでいる。

教育面での期待される成果

世界には独自の儀礼文化を継承する少数民族が存在し、その文化は人類文化遺産ともいえる貴

重なる価値をもち、その文化の保存・継承・活用が必要であることを学生や学内外からの参加者に認知してもらう機会となった。これにより、異なる文化を理解し尊重し、多様性を認める活動を進めることに繋がると期待する。

国際シンポジウム開催にあたり筑波大学名誉教授の丸山宏先生には種々なことをご相談させていただいた。準備段階から開催に向けて広西民族大学民族学与社会学学院の譚静先生、ヤオ研の岡本浩一氏にはさまざまにご尽力いただいた。

開催においては司会進行に泉水英計先生、内藤久義先生、通訳に譚静先生、曹永梅先生、項青先生をお願いした。さらに運営に経営学部卒業生の上野早也樹氏と歴史民俗資料学研究科後期課程の朴美子氏、受付その他に廣田ゼミの面々の力が発揮された。種々な方々の力が結集された国際シンポジウムの成功を祝いたい。

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」配布資料

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」論文集 <https://yaoken.org/data-room/data/handoutBookletJP.pdf>

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」要旨集 <https://yaoken.org/data-room/data/2024abstract.pdf>

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」プログラムチラシ（日本語版） <https://yaoken.org/data-room/data/2024flier.pdf>

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」プログラムチラシ（中国語版） <https://yaoken.org/data-room/data/2024flierCN.pdf>

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」録画映像・静止画

録画映像 <https://yaoken.org/data-room/data/video/241011-12Symposium.mp4>

静止画 <https://yaoken.org/data-room/image/241011-12Symposium.zip>

I. 活動報告



2024年10月 聞き取り調査の様子 撮影：廣田律子

1. ヤオ族文化研究所活動報告

(2023年11月～2025年3月)

(1) ヤオ族文化研究会開催履歴

※敬称略。以降同様。

年	日付	回次	開催場所	発表者	タイトル
2023	11/25	第102回	Web会議	鄭美恵	越、中瑶族黄氏女故事之比較（越中瑶族黄氏女故事の比較）
2024	1/28	第103回	Web会議	孫嘉玥	千般都是魯班教——瑶族的魯班信仰儀式与法術
	5/5	第104回	Web会議	呉佳芸	勉瑶醫療符咒的視覺表現——以婦幼相關符圖為例 （ミエンの医療符の視覺表現—婦幼相關符を例として—）

(2) 『瑶族文化研究所通訊』第10号刊行 2024/3

執筆者	タイトル	掲載頁
廣田律子	10号刊行にあたって	3
赵书峰 房珩	东南亚勉瑶民间礼俗音乐文化考察研究	10-24
袁君煊	瑶族“朝踏”写本文献的题跋	25-33
廣田律子	『大歌書』解説I	34-87
吉野晃	タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(7) —「趙富安旺的歌」の発音と注釈—	88-112
吉野晃	ミエンの『尚鬼（家先）書』の二種類のテキスト	113-146
譚静 冯春梢	从疾病观的视角解读勉瑶安龙仪式 —基于对广西恭城瑶族自治县家宅安龙的考察—	147-169
譚静	Yao Healing Rituals Workshop 瑶族治病仪式工作坊会议纪要	170-186

(3) 蒞臨輔大宗教学系所（台湾）において研究交流 2024/3/4（開催場所：台湾 輔仁大学）

(4) 国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」（神奈川大学 2024年度国際交流事業『助成金を獲得して実施した〔2006年～現在〕ヤオ族関連研究成果最終報告会「ヤオの多面性と統一性」』）開催 2024/10/11・12（開催場所：神奈川大学 みなとみらいキャンパス）

グループA「歌謡の諸相」（2024/10/11）

発表者	所属	テーマ
金文京	京都大学 名誉教授	ベトナム瑶族「韓朋伝」と敦煌本「韓朋賦」および新発見唐代写本について
郭正宜	広東韶関学院 文学与傳媒学院 副教授	ベトナムヤオ族の『英台古』に関する整理と研究
鄭美恵	國立臺中科技大學 通識教育センター 助理教授	ヤオ族における物語歌の流伝 — 広西の『舜兒古記』とベトナムの『舜兒古篆記』の事例を中心に —

発表者	所属	テーマ
吉野晃	東京学芸大学 名誉教授	タイにおけるミエンの歌における歌謡語彙の特徴について
廣田律子	神奈川大学 教授	中国藍山県「盤王願」に見る歌娘と師父の歌
金文京	京都大学 名誉教授	コメント

グループ B 「移住・方術・冥界などに関する社会文献・儀礼文献」(2024/10/11)

※発表時に改題されたものは()内に記す。以降同様。

発表者	所属	テーマ
張澤洪	四川大学 道教与宗教 文化研究所 教授	ヤオ族の儀礼および文献における道教の法術
玉時階	広西民族大学 瑶学研究中心 教授	『祖図』 — タイのヤオ族の移動ルートと時間を記載した民間文献 —
玉路	南寧師範大学 学報編集部 副研究員	
Thanyalak Saeliao (劉玉蘭)	チェンラーイ・ ラーチャパット大学 社会学院 講師	『祖図』 タイミエンヤオの祖先の移動ルート — 盤氏家族、鄧氏家族の事例を中心に —
丸山宏	筑波大学 名誉教授	ヤオ族儀礼文献研究試論 — テキスト間の相互関係に注目して —
陳玫奴	天主教輔仁大學 助理教授級專案教學人員	ミエンヤオの『評皇券牒』から見る「盤瓠」と その叙事の伝統的な分析について
Martin Tse (謝孟謙)	香港大學 人文社會研究所 助理講師	かくれんぼ 敵対者の魂を捕らえてひきはなす — 禁盆法の文献的研究 — (五方香火魂 — 藍靛ヤオの『禁盆秘語』を閲読する —)
孫嘉玥	香港大學 博士生	すべては魯班教である — ヤオ族の魯班信仰と儀礼と法術について —
謝聰輝	国立台湾師範大学 教授	コメント
趙金付	湖南省永州市藍山県 瑶学研究中心 理事	
盤榮富	湖南省永州市藍山県 瑶学研究中心 理事	

グループ C 「生業・技術」(2024/10/12)

発表者	所属	テーマ
郝国强	広西民族大学 民族学与社会学学院 院長	六堡茶の伝承における多民族の交流、融合、および 相互浸透による発展
Somchai Rungrachatavanit (鄧耀利)	タイ国瑶人会 会長	タイにおけるヤオ族の伝統銀細工制作技術の伝承、 発展と農村振興への支援
Phimporn Rungrachatavanit (鄧顧貴)	合弁中・高等職業 教育学校 副学長	
何紅一	中南民族大学 文学与 新聞傳播学院 元教授	ヤオの宗教儀礼における切り紙の研究
増野高司	神奈川大学 非常勤講師	タイ北部のミエン (ヤオ) 族が暮らす山村における家畜の重要性 — 供犠利用の観点から —
佐野賢治	神奈川大学 名誉教授	コメント

グループD「儀礼実践の諸相」(2024/10/12)

発表者	所属	テーマ
Joseba Estevez (周思博)	香港大學 人文社會研究所 助理教授	異人を料理し森を征服する — 中国およびタイの周縁部におけるランテンヤオの霊的戦い — (Spiritual Warfare in a Daoist Society at the Margins of Chinese Empire: Conquering the Forest and Fortifying Households, and Villages)
David A. Palmer (宗樹人)	香港大學 人文社會研究所 教授	
Joseba Estevez (周思博)	香港大學 人文社會研究所 助理教授	霊馬を駆り不可視の舟を漕ぐ — ランテンヤオのコスモロジー的景観と 霊的職能者の心象旅行をマッピングする — (Killing Magic among the Lanten Yao of Laos)
譚靜	広西民族大学 民族学与社会学学院 講師	ミエンヤオ掛燈儀礼の構造・機能・象徴と意義 — 掛三燈・掛七星燈・掛十二盞大羅明月燈の考察に基づき —
楊小君	広西民族大学 民族学与 社会学学院 助理研究員	インタラクティブな儀礼チェーンからの 「年猪を殺し」文化の実践表現
玉璐	南寧師範大学 学報編輯部 副研究員	ヤオ族の婿入り祖先祭祀儀礼の宗教人類学的解釈
盧順維	四川大学 道教与宗教文化 研究所 博士後期課程 西南民族大学 外国語文学学院 講師	藍山県荊竹瑶族郷における散花儀礼の社会機能について
張卓	四川大学 道教与宗教文化 研究所 博士後期課程	九州を通り抜ける魂 — ハイヤオの生命儀礼における帝国のメタファー —
遠藤耕太郎	共立女子大学 文芸学部 教授	
盤保古	湖南省永州市藍山県 瑶学研究中心 会員	コメント
盤万古	湖南省永州市寧遠県 瑶学会 会員	

(5) 祭司趙金付さんへの聞き書き調査実施 2024/10/14 ~ 10/19 (実施場所: 神奈川大学 みなとみらいキャンパス)

(6) 「道教的邊界與邊界的道教」 2024 國際學術研討會において口頭発表など
2024/11/8・9 (開催場所: 台湾 輔仁大学)

日付	発表者	発表・ コメントの別	テーマ
11/8	陳玫紋	発表	初探勉瑶《評皇券牒》中「盤瓠」道教化的過程
11/8	吳佳芸	発表	從符圖探討勉瑶驅瘟法術的組成與意涵
11/9	廣田律子	発表	治病儀式和除災招福活動中的靈魂與疾病 —— 勉瑶與道教、法教的案例比較
11/9	陳玫紋	コメント	廣田律子「治病儀式和除災招福活動中的靈魂與疾病 —— 勉瑶與道教、法教的案例比較」
11/9	丸山宏	発表	從瑶族儀式文獻試看邊界道教法教之基本特徵
11/9	丸山宏	コメント	張超然「解除禁忌: 道教謝土安宅儀式及其發展」
11/9	丸山宏		総合座談

(7) 所員によるその他の研究業績

※氏名の 50 音順

氏名	内容	年月
◆論文・図書など		
袁君煊	『瑶族“朝踏”儀式与文献』上海古籍出版社 302p. ISBN: 978-7-5732-1466-9	2014 年 12 月
曹咏梅	「歌垣の伝統と現代への継承 — プイ族の查白歌節を事例として —」『國學院雑誌』（創刊一三〇周年記念特集 伝承文化研究の現在）第 125 卷 11 号 pp.207-222	2024 年 11 月
張澤洪	「老撾藍靛瑶經書所見道教文化的傳播」『宗教學研究』2023 年第 4 期 pp.111-120	2023 年
張澤洪	「南詔大理國神話的社會記憶」『中國邊疆史地研究』2024 年第 3 期 pp.150-159	2024 年
張澤洪	「長江流域水神楊泗將軍的歷史考察」『宗教學研究』2024 年第 4 期 pp.200-206	2024 年
張澤洪	「湘南瑶族還家願儀式與文化交融」『民族研究』2024 年第 5 期 pp.63-74	2024 年
張澤洪	「論道教的煉度科儀」『世界宗教研究』2024 年第 7 期 pp.52-63	2024 年
張澤洪	「金元全真宗師齋醮弘道心態探析」『全真道研究』第 14 輯 山東大學出版社 pp. 6-35	2024 年 8 月
張澤洪	『西南地區多元族群與文化研究』巴蜀書社 485p. ISBN: 978-7-5531-1666-2	2024 年 9 月
張澤洪	「本文、圖籙、科誡：寇謙之道教改革與神授經書」『中國本土宗教研究』第 8 輯 北京：社會科學文獻出版社 pp.59-69	2024 年 12 月
陳玟玟	“Collections of Yao Manuscripts in Western Institutions.” In <i>Vernacular Chinese-Character Manuscripts from East and Southeast Asia</i> , edited by David Holm, pp.115-147. Berlin: De Gruyter.	2024 年
廣田律子	「資料紹介 ヤオの神像画 I」『麒麟』神奈川大学経営学部 17 世紀文学研究会 pp.15-22	2025 年 3 月
増野高司	「タイ北部の農村開発における山地民の対応：ウシやバリケン導入の試み」池谷和信編『熱帯の家畜と人：飼育と流通を地理学から探る』海青社 pp.141-160	2025 年
吉野晃	「漢語で書かれ、タイのミエンに伝承された歌詞 — 『伯偕趙氏劉氏古圖』発音と注釈 —」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系』76: pp.199-215	2025 年

2. ヤオ族文化研究所 所員による獲得資金

年度	事業名称	研究課題	決算額
2024	科学研究費 基盤研究 (C)	儀礼と神話 — 多媒体で表現されるミエンの飄遙過海神話と儀礼システムの立体的研究 —	700,000 円
	神奈川大学国際交流 事業	助成金を獲得して実施した (2006 年～現在) ヤオ族関連研究成果最終報告会 「ヤオの多面性と統一性」	1,816,000 円

II. 研究報告 1

2024 年度神奈川大学国際交流事業『助成金を獲得して実施した（2006 年～現在）ヤオ族
関連研究成果最終報告会「ヤオの多面性と統一性」』

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」発表論文

※掲載辞退者分含まず



2024 年 10 月 国際シンポジウム当日の様子 撮影：神奈川大学廣田ゼミ

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月11日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループ A 「歌謡の諸相」

A 組 「歌謡的各種形態」

关于越南瑶族《韩朋传》与敦煌本《韩朋赋》以及新发现唐开元年間抄本《韩朋赋》残片

京都大学 名誉教授
金文京

一、新发现的唐开元年間抄本《韩朋赋》残片

根据中国的考古学刊物《考古》2021年8月号所载新疆维吾尔自治区文物考古研究所〈新疆尉犁县克亚克库都克唐代烽燧遗址〉,当地发掘出盛唐时期的纸文书及木简861件。该文介绍其中木简3件、纸文书4件。木简中有记载“临河烽状上,当烽四面罗截,一无动静。及烽子五人,并得平安。开元四年八月十日。烽师蒋果。”等文字,可知是唐玄宗开元四年(716)的公文。纸文书则除2件公文之外,以“冬景既终、春光已逼”开始的书信以及《韩朋赋》(拟题,原件无题名)残片。

其中《韩朋赋》仅存一纸六行,据该文所登图片以及录字,其文如下:(数字为行数;□为破损字;□内推定或改订字;◇为补字;()为校字。原文没有标点,参考该文录字的标点,笔者重新标点)。

- 1 □□□篋看,若其不開,新婦有返(同“歸”)。語未盡,出門
- 2 □〔便〕拜□〔使〕, 者連把,接待上車,疾如風雨。朋母於是,
- 3 呼天喚地,貞夫曰:「呼天何益,踏地何晚(免)。四(駟)馬一去,
- 4 何時可返。」朋母新婦去後,乃開篋看。艷色
- 5 光影,忽然喚(煥?)出,飛及貞夫。此光明到〈宋〉国。
- 6 □…………… □集會諸臣,入(後闕)

紙背用淡墨写以下二行文字:

- 1 馬賓、閏元節、辛崇福、张思訓
- 2 □正月廿七日 掩耳□□先天三年 正月

按先天沒有三年。先天二年(713)十二月一日改元稱开元,“先天三年正月廿七日”其实是开元二年(714)正月廿七日。正月廿七日距改元的十二月一日只两个月,边塞烽地可能来不及传到改元

消息，以致仍用先天年号。“掩耳”是当地小地名，指“掩耳守捉”。《韩朋赋》残片很可能也是同一时期的抄写。

战国时代宋国的韩朋与其妻贞夫的悲剧性故事，最早見於敦煌发现前汉末期至王莽时期木简⁽¹⁾、后汉画像石及画像镜等⁽²⁾，由来甚久。其次是魏曹丕《列异传》（見《艺文类聚》卷92）、晋干宝《搜神记》的〈韩凭〉（卷11⁽³⁾）以及敦煌的《韩朋赋》，亦见于敦煌本《注千字文》、西夏本《类林》等书。明代傳奇《韩朋十义记》⁽⁴⁾，时代背景转移為唐末，情节也多所更改，已非原话。

二、敦煌本《韩朋赋》与尉犁本《韩朋赋》的比较

其中篇幅最长、内容最详实、具有代表性的自是敦煌《韩朋赋》。今兹引用敦煌《韩朋赋》与尉犁本《韩朋赋》（以后稱尉犁本）的同一部分如下，以資比较⁽⁵⁾。（加下划线部分与尉犁本文字相同。）

上堂拜客，使者扶轡（輦）。贞夫上車，疾如風雨。朋母於後，呼天喚地。嚎啕大哭，鄰里驚聚。贞夫曰：「呼天何益，喚地何免。駟馬一去，何得歸返？」梁伯迅速，日日漸遠。初至宋國，九十（《變文集》作“千”、此据斯3904改）餘里。光照空（《變文集》作“宮”、此据斯3904改）中。…諸臣聚集，王得好婦。

两相比较，吻合的文字相当多。且押韵字也相同（晚〈免〉·返）初步可以推定大体上属于同一系统的版本。可是敦煌本没有尉犁本的“篋看，若其不開，新婦有暇（歸）”，“朋母新婦去後，乃开篋看。艷色光影，忽然喚〔煥？〕出。飛及貞夫。”的文字，值得注意。此一情节当是：贞夫临走，把篋交给朋母，且嘱咐千万不要开，开了就不能回来。可是朋母忍不住开了篋，篋一开，里面光影飞到贞夫处，贞夫变为美女，被宋王看上，无法回去，就发生了以后的悲剧。此一情节的有无就是两本

(1) 裘錫圭〈汉简中所见韩朋故事的新资料〉（《复旦学报（社会科学版）》1999—3）。

(2) 黑田彰〈韓朋溯源—吳氏藏韓朋画像石について〉（《京都語文》28 佛教大学国語国文学会 2020）；黑田彰〈韓朋溯源（二）—吳氏韓朋画像石について〉（《文学部論集》105 佛教大學 2021）；森下章司〈漢代の説話図〉（《国立歴史民俗博物館研究報告》2015）、孫麗萍《韩朋故事演进与《韩朋赋》写本的时代》（《形象史学》2022）。

(3) 中华书局标点本（1979），见《艺文类聚》卷40、《法苑珠林》卷36、《独异志》卷中、《北户录》卷3、《岭南录异》卷下、《太平广记》卷559。

(4) 《古本戏曲丛刊》初集收明万历年间唐氏富春堂刊本影印。

(5) 《敦煌变文集》（人民文学出版社 1957）138～139頁。現存抄本有6種，即伯2653、斯2922、斯3227、伯3873、斯4901·3904·10291（此3件为同一人抄写，原为1卷）、俄藏ДХ.10277V。其中有相当於尉犁本部分的只有伯2653、伯3873、斯3904。《敦煌变文集》以伯2653为原卷，校以他卷。

的同中有异。

那么，接下来的问题是，到底原先就有此一情节，是敦煌本所删，还是原先无此情节，是尉犁本所加？两者必居其一。敦煌诸本的抄写年代大体晚唐至五代，不可能早于尉犁本的开元二年。可是抄写年代的早晚与创作年代的前后是两个不同的问题，不能以此断彼。因尉犁本仅有6行文字，孰先孰后一时难以遽定。虽然如此，笔者认为前者即敦煌本删除的可能性较大。理由有四。

敦煌本情节中，当初贞夫寄给远赴宋国不回来的韩朋书信中就说：“妾今何罪，独无光晖？”此与贞夫到宋国后，“九十余里，光照空中。”可谓前后相应。假设中间如有贞夫把自己美貌（光彩）藏在篋中，因朋母开篋，篋中光彩飞到贞夫身边，回复美貌的尉犁本情节，故事更为完整合理。此其一。

敦煌本情节中，韩朋由于宋臣梁伯的诡计，宋王“打韩朋双板齿，并着故破之衣裳”，变为丑貌；而宋王最后用鸳鸯之毛，“摩拂其身，大好光彩，唯有项上未好。”也就是说，宋王用毛拂身体，变为好貌，唯项上没变，再拂项上，以致丧身。可见《韩朋赋》中三个主要人物，韩朋、贞夫、宋王都有改头换面之举。变身应该是构成故事的重要主题之一。此其二。

《韩朋赋》的文体是韵散交替的俗赋体。前面已指出，“晚（免）·返”为两本共同的押韵字。如更仔细看，尉犁本除“晚（免）·返”两字之外，前面“使·雨·地”三字很可能也押韵，因为俗赋押韵较宽且不规则。而敦煌本则分别“輦·雨·地·聚”四个字，“免·返·远”三个字都押韵，比尉犁本多出两个押韵字。尉犁本虽然残缺多处，可初步可以认定是一种删节本。既为删节本，而加以新的情节，恐怕不合情理。此其三。

明代传奇《韩朋十义记》虽然时代背景不同、情节也非原貌、可是中间有韩朋之妻李氏自毁面貌的情节。贞女毁貌虽然明代烈女传中司空惯见，戏曲、小说中也屡见不鲜，仍然也可能是古老情节的遗音。此其四。

总而言之，笔者认为，《韩朋赋》中贞夫把美貌藏在篋中，后因朋母打开，再变美貌的情节原已有之的可能性较大，尉犁本不仅抄写年代很早，且保存故事原貌，尤为难能可贵。何况还有另一重要的旁证。

三、越南瑶族《韩朋传》中的相关情节

根据越南老街省文化体育旅游厅编《越南瑶族民间古籍（一）》（民族出版社 北京 2011）所收七言句说唱本《韩朋传》，虽为近代抄本，故事情节也多所更改，可是竟然保留与尉犁本相同的情节

如下：（该书 267 页）⁽⁶⁾。

当时拜别親老母，老娘在後好安身。

顏容藏在金廂（箱）里，我娘千万莫开廂（箱）。

三娘去得三五日，婆婆想妇又开廂（箱）。

顏容飞随三娘去 三娘美貌似花新

正是三娘船过水，水底现出好顏容。

落阳江水清如镜，现出顏容十分新。

三娘便知娘开櫃，放出顏容走随（？）娘。

三娘肚里暗伤恸，眼中流泪落分（紛）。

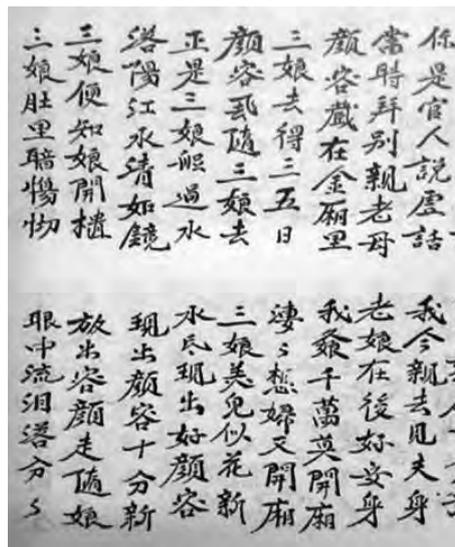


图 1：瑶族抄本《韩朋传》（《越南瑶族民间古籍（一）》）

此本韩朋之妻名已改为三娘，与《韩朋赋》不同，可不难看出所叙情节与尉犁本如出一辙⁽⁷⁾。

8 世纪新疆边地的抄本竟然与远离时空的当代越南瑶族说唱抄本吻合，令人惊讶不已。这绝不可能时偶然的巧合，更不可能是瑶族固有的故事，肯定是传播过去的，。至于其具体传播情况，一时难以澄清。兹对其背景暂陈笔者几点浅见，以资后考。

第一，晚唐劉恂《岭表录异》卷下引用《搜神记》云：“南人謂此禽即韩朋夫妇之精魂。”可见韩朋故事很早流传到南方⁽⁸⁾。

第二，据日本泽田瑞穗的研究⁽⁹⁾，贵州彝族等南方少数民族中，迄今还流传有关韩朋的部分故事。

第三，笔者曾经讨论敦煌《舜子变》与广西壮族师公戏《舜儿》共同的内容，就指出晚唐时由北方被派到桂林的军队中有艺人，北方民间传说、文艺作品传播南方，军中艺人的迁徙可能是途径之一⁽¹⁰⁾。《韩朋赋》的传播也可能有同样情况。

(6) 参看郑美惠《〈越南瑶族民间古籍·韩朋古〉之故事特色与价值》（日本神奈川大学编《瑶族文化研究所通讯》8号 2021）。

(7) 有关尉犁本《韩朋赋》的探讨，见于朱利华《考古新发现见证韩朋故事的汉唐流变》（《中国社会科学报》2261期 2021）；孙丽萍《韩朋故事演进与《韩朋赋》写本的时代》（《形象史学》2022）。都没有提及越南瑶族《韩朋传》。

(8) 今本《搜神记》有此文，当是后人增补。余嘉锡已指出。

(9) 泽田瑞穗《连理树记》（中国伝承と説話 東京 研文出版 1988）。

(10) 金文京《敦煌《舜子变》与广西壮族师公戏《舜儿》》（《西域—中外文明交流的中轉站》香港城市大学出版社 2009），《敦煌本《舜子至孝变文》と広西壮族師公戲《舜兒》》（慶應義塾大学《言語文化研究所紀要》26号 1994）。

四、韩朋故事在日本的影响

日本中世纪镰仓时代、室町时代（13—16世纪）的《假名本曾我物语》、《女训抄》，《三国传记》等书都引用了有关韩朋故事的部分内容⁽¹¹⁾，可知韩朋故事之前已流传到日本。近年来日本学者关心更早的平安时代的文学作品如《伊势物语》（900前后）、《源氏物语》（1008）与韩朋的故事的关系，纷纷发表论文⁽¹²⁾。

按初唐欧阳询所编《艺文类聚》卷92〈鸟部下·鸳鸯〉引用《列异传》云：“宋康王埋韩馮夫妻。宿夕文梓生，有鸳鸯雌雄各一，恒栖樹上，晨夕交頸，音聲感人。”又《法苑珠林》卷36也引用《搜神记》的韩憑故事。而《艺文类聚》、《法苑珠林》两书早在八世纪以前已流传到日本，《日本书纪》（720）、《万叶集》（780）等早期文献都参考过两书，多所引用。因此，此时日本文人很可能已知道韩朋故事，对之后平安时代的文学产生影响，当时情理之内。

五、日本浦嶋子传说中的玉手箱与尉犁本《韩朋赋》、瑶族《韩朋传》

有关浦嶋子（亦称浦岛太郎）的传说，是迄今在日本可谓家喻户晓、老幼咸知的故事，日本各地也有浦岛神社等相关遗迹。故事内容是：浦岛太郎在海边救了海龟，海龟为了报恩，把他带到龙宫。浦岛太郎受到龙王之女乙姬的热情招待，恩爱已深。过了几天后，浦岛太郎思乡心切，要回陆地。乙姬就把玉手箱送给浦岛太郎，郑重嘱咐说千万不要打开。浦岛太郎回到故乡，岂知龙宫短短几天，地上已过几百年，人世皆非。浦岛太郎感慨之余，忘了乙姬的嘱咐，打开玉手箱，结果原本年轻的他，一下子变为老翁。

此一故事最早的版本见于《日本书纪》卷13〈雄略紀〉22年；《万叶集》卷9〈詠水江浦嶋子〉以及《丹波国风土记》逸文。《日本书纪》记事简单，没有相关玉手箱情节。《万叶集》云：“浦嶋子打开玉篋，从中涌出白云，飞到常世边（谓不老不死之乡）。浦嶋子瞬时变为老人，以至死亡。”《丹波国风土记》则云：“浦嶋子打开玉匣，从中风云涌出，翩飛蒼天，再也不能会见其妻。”两书所述大同小异。

相关玉手箱（玉篋、玉匣）的早期中国类话见于陶渊明《搜神后记》的袁相、根碩二人故事（卷

(11) 参看和田和子《敦煌本『韩朋赋』と「語り」の時空》（《お茶の水女子大学中国文学報》36 2017）。

(12) 黒田彰《韩朋溯源（二）— 呉氏韩朋画像石について》（《文学部論集》105号 佛教大学 2021）、三木雅博《『伊勢物語』梓弓章段と韩朋譚— 弓矢の血書に込められた女の誠心》（《中古文学》108号 2021）、今井友子《源氏物語における朧月夜の人物造型— 韩朋譚の関わりについて》（和漢比較文学会 2022年度大会発表資料）等。

一)⁽¹³⁾，即两人入深山遇见两女，各成夫妻。而“二人思归潜去。归路二女追还已知，乃谓曰：自可去。乃以一腕囊与根等，語曰：慎勿开也。於是乃归。后出行，家人开视其囊。囊如蓮花，一重去一重復至五盖。中有小青鸟飞去。根还知此，怅然而已。后根于田中耕，家依常饷之。见在田中不动。就视但有壳如蝉蛻也。”此一故事中，山女给袁相、根碩一腕囊，嘱咐“慎勿开也”，可是打开腕囊的不是本人，而是家人。且腕囊被打开后，根碩就“蝉蛻”（仙化）。

与浦嶋子传说的玉手箱情节不尽相同。而尉犁本《韩朋赋》、瑶族《韩朋传》中朋母打开箱子的情节则与浦嶋子传说更多吻合之处：

第一，打开不可打开的箱子。打开的人《韩朋赋》是朋母，浦嶋子传说中则本人。

第二，打开箱子后，箱里的东西飞到远处。《韩朋赋》中飞到贞夫身边，浦嶋子传说则飞去常世边。

第三，打开后容貌发生变化。《韩朋赋》中贞夫变为美女，浦嶋子传说则浦嶋子变老至死。可知《韩朋赋》的箱子藏有贞夫的美貌，浦嶋子传说的玉手箱则藏有浦嶋子长生不死的生命。

第四，《韩朋赋》和浦嶋子传说都具有叙述男女悲欢离合的爱情故事性质。

《韩朋赋》和浦嶋子传说相同情节的关系，是直接的影响，抑或同一起来源的相类情节，今难以遽断，尚待进一步的研究⁽¹⁴⁾。不管如何，不失为研究东亚民间故事传播的有趣资料。

六、尉犁本《遊仙窟》残片的发现

《考古》论文所介绍的尉犁遗物中，除《韩朋赋》以外，还有《遊仙窟》抄本残片。可是该文对《遊仙窟》残片没有具体说明，也没有图版。由此，笔者多方寻找，所幸在中国《腾讯網》〈2020年全国十大考古新发现即将揭晓，新疆克亚克库都克烽燧遗址入围〉⁽¹⁵⁾中找到照片。残片只有三行，且每行都阙下半段^(图2)。今据以录字如下（标点由笔者所加）：

1 無如少府公者。少府公乃

2 女。聞琴識相如之器量。山濤之妻，鑿壁

(13) 参看出石誠彦《浦島の説話とその類例》（《支那神話伝説の研究》中央公論社、1943初版，1973增补改订版）。

(14) 三木雅博《古代浦島説話における「玉手箱」開箱と韓朋譚—中国尉犁（イリ）県出土「韓朋賦」断簡・ベトナム瑶（ヤオ）族民間古籍『韓朋伝』に見える開箱の記述との比較考察—》（《梅花女子大学文化表現学部紀要》2024）对此问题有详实的分析。

(15) <https://new.qq.com/rain/a/20210412a0ea8z00>、2023年3月31日阅览。

3 不敢妄〔望〕德。十娘曰：遣綠竹取琵琶

再引用今本《遊仙窟》的相同部分如下，（）内是残片所阙文字：

1 無如少府公者。少府公乃（是仙才，本非凡俗。下官起謝曰：昔卓王之）

2 女。聞琴識相如之器量。山濤之妻，鑿壁（知阮籍之賢人。誠如所言。）

3 不敢妄〔望〕德。十娘曰：遣綠竹取琵琶（琵琶彈）

相形之下，残片确实是《遊仙窟》抄本，盖无疑问。学界一直认为《遊仙窟》在中国早已亡逸，只在日本保留。日本现存多种版本，其中最早的是镰仓时代（约 13 世纪）的金剛寺抄本。尉犁本《遊仙窟》抄写年代应该与《韩朋赋》相近，大概是八世纪，比日本最古版本早五百年，弥足珍贵。

七、小结—尉犁遗物所带来的对东亚文化交流的启发

据《考古》论文，尉犁所发现文书，除《韩朋赋》、《遊仙窟》以外，还有以“冬景既终，春光已逼逼开始的书信以及《孝经》、《千字文》等书，也值得重视。书信由季节问候之语开始，是当时书仪（书信范本）的常例。《千字文》是习字、识字的童蒙书、《孝经》则民间流通最广的儒家经典，这些都是构成最底层教养的基础性书籍。加以发现的官方文书既有纸张又有木简的事实（当时唐朝本土的官文书早已不用木简），尉犁所发现文书在在表示当时基层文化的面貌。

有趣的是，这与同一时期日本奈良时代的文化情况颇为相似。《千字文》是初次传入日本的汉籍，以后广为流传；《孝经》也有奈良时代抄本；书仪的影响在《万叶集》中处处可见：官方文书纸张、木简并用。一在西北边陲，一在东海列岛，相去几万里之遥，是当时中国文化光被的东西极限。且地域面积也一大一小，可两地呈现文化面貌如此吻合，足以令人深思。

再者，尉犁本《韩朋赋》和越南瑶族《韩朋传》的吻合，韩朋故事对日本文学的影响，以及《遊仙窟》在日本大张其道，中土的空白和尉犁残片的新发现等，也都是思考东亚文化交流的好材料。尉犁发现的遗物引发种种反思，弥足珍贵。期待早日全部公开。

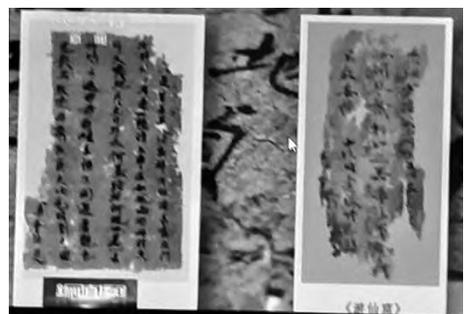


图 2：《腾讯网》公开的图像。右为《遊仙窟》，左为《韩朋传》

越南瑤族《英台古》整理與研究

韶關學院 文學與傳媒學院 副教授
郭正宜

摘要

筆者近年在越南收集不少越南瑤族《英台古》故事歌謠，本文謹簡明扼要地介紹並講解其中一本《英台古》故事歌謠。此《英台古》手抄本並非單獨一個手抄本，而是夾雜在其他儀式文本之中；同時此抄本存在著土俗字、錯簡等相關問題，使得閱讀該文本，產生一些理解的難度。因此，重新梳理該《英台古》文本，有一定的重要性。其次，該《英台古》故事情節複雜，增加許多故事情節，略有不同於漢地傳統的認知。本文謹重新整理其文本順序，並通過該《英台古》說明越南瑤族梁祝故事情節，藉此說明越南瑤族《英台古》故事情節及其衍異。

關鍵詞：越南、瑤族、英台古、民間故事

Collation and research of the "Yingtai Gu" of the Yao in Vietnam

Abstract

In recent years, the author has collected a number of stories and ballads of the Yao people in Vietnam, and this article would like to briefly introduce and explain one of the stories of the "Yingtai Gu". This "Yingtai Gu" manuscript is not a single manuscript, but is interspersed with other ritual texts; At the same time, there are problems related to vernacular characters and missimplifications in this manuscript, which makes it difficult to understand the text. Therefore, it is of certain importance to reorganize the text of the "Yingtaigu". Secondly, the storyline of "Yingtai Gu" is complex, and many storylines are added, which is slightly different from the traditional perception of China. In this article, we would like to rearrange the order of the texts and explain the storyline of the Liang Zhu of the Yao nationality in Vietnam through this "Yingtai Gu", so as to explain the storyline of the "Yingtai Gu" of the Vietnamese Yao people and its derivation.

Keywords: Vietnam, Yao nationality, "Yingtaigu", folk tale

「ベトナムヤオ族の『英台古』の整理と研究」

要旨

筆者は近年、ベトナムで多くのベトナム瑶族の《英台古》民間物語歌謡を収集しました。本稿では、その中の一本の《英台古》民間物語歌謡について簡明に紹介し、解説します。この《英台古》の手抄本は単独の手抄本ではなく、他の儀式文書に混ざっており、また土俗字や誤った簡略などの問題があるため、読み解くのに困難を伴います。そのため、この《英台古》のテキストを再整理することは一定の重要性を持っています。さらに、この《英台古》の物語は複雑なストーリーを持ち、多くの物語情節が追加されており、中国の伝統的な認識とはやや異なっています。本稿では、そのテキストの順序を再整理し、この《英台古》を通じてベトナム瑶族の梁祝物語の情節を説明し、ベトナム瑶族の《英台古》物語の情節及びその変遷を明らかにします。

キーワード：ベトナム、瑶族、英台古、民間物語

一、前言

歌謡作為一種民間文學，是民歌與民謠的總稱。中國古代常以合樂為歌、徒歌為謠。歌謡由人民群眾自發創作並在民間口頭傳誦，詞句大多有押韻、簡練，語言風格往往樸實清新，是民間百姓表達願望思想、抒情達意的重要文化載體之一。現今流傳以文字形式記載、留存的歌謡通常是經過文人加工整理的，當中不免或多或少夾雜著記錄者自己的思想情調及生活感悟等。著名民間文學家鍾敬文先生指出：“民間歌謡是人民集體的口頭詩歌創作，屬於民間文學中可以歌唱和吟誦的韻文部分。它具有特殊的節奏、音韻、章句和曲調等形式特徵。”“民歌受到音樂的制約，有比較穩定的曲式結構，所以歌詞也有與之相適應的章法和格局；民謠大都沒有固定的曲調，唱法自由近於朗誦，所以謠詞多為較短的一段體，在章句格式的要求不像民歌那麼嚴格。”⁽¹⁾ 民間歌謡相對自由的演唱方式和隨性多變的音樂曲調是由創作主體及其生活環境共同決定的。鄉間百姓在勞動的間隙為了自娛自樂會隨意哼唱日常所見所聞所感，熟悉的景物、古老的傳說、身邊的故事、人生的感悟，這些都是信手拈來的歌唱題材，或多或少地流淌在其歌謡之中。人們所喜愛的歌謡隨著時間的推移也慢慢地積澱流傳下來，成為民間文藝和音樂史研究的珍貴文化遺產和精神財富。歌謡不僅具有文學性，同時也具有音樂性，可以說是文學與音樂的結合是歌謡的重要屬性之一。

“梁山伯與祝英台”（以下簡稱“梁祝”）的傳說大約起源於1600多年前的晉代，最初大抵是

(1) 鍾敬文主編，《民間文學概論》，北京：高等教育出版社，2010年，頁173。

以故事、歌謠等口傳型態在民間傳播，後來進入縣志等史料記載，在唐代以後被文人整理改編，成為詩詞、傳奇的內容或主題，逐漸發展演化為小說、戲劇、曲藝、繪畫、音樂、電影、當代新媒體等藝術創作的經典故事題材。“梁祝”歌謠是“梁祝”文藝群落中的重要樣式，產生的時間較早，流佈地域廣闊（甚至流傳到海外），表現形式豐富多樣，傳播過程凸顯出中國廣大人民的審美認知和文化價值取向的不斷演進和嬗變。“梁祝”歌謠做為一種以民間傳說為依託的歌謠，既有與其他一般民謠相同或相似之處，更有其獨特性、典型性，具有相當大的研究價值。

二、‘梁祝’在越南與少數民族研究述評

“梁祝”歌謠不僅數量和種類繁多，傳播範圍廣遠，藝術價值很高，而且成為眾多說唱（鼓詞、彈詞、木魚書、寶卷、道情、唸歌）民間藝人改編、創作、表演的素材庫和藝術的源頭，同時也是“梁祝”戲曲（如川劇《柳蔭記》、越劇《梁山伯與祝英台》、京劇《梁山伯與祝英台》等）作品的參照文本，其中許多感情真摯、意蘊深刻、優美清雅的歌詞語句都轉化為各種“梁祝”戲曲的經典唱詞和精彩段落。換言之，“梁祝”歌謠是“梁祝”文藝創作繁榮發展的重要資源之一。

民間流傳的“梁祝”歌謠具有開放性的結構特徵和富於變化的內容。在一千多年的“梁祝”故事傳承歷史中，“人們吟詠創作了數以千計的梁祝民間歌謠”⁽²⁾，這些歌謠型態多樣、內容繁複，異彩紛呈，流傳範圍寬廣，幾乎遍及整個中國。根據梁祝文化研究專家周靜書先生統計，浙江、江蘇、河南、廣西四省的“梁祝”歌謠數量較多，種類也很豐富。比如，流傳於浙江的民間小調“竹枝詞”、“十二月花名”、“挖花凋”以及江蘇宜興的“祝英台四季歌”、“十二月花名唱梁祝”、“十八相送唱梁祝”等都是具有濃郁地方特色的“梁祝”歌謠。河南汝南地區的百姓幾乎人人都會唱“梁祝”、說“梁祝”，“河南的梁祝民間歌謠可能有數十首（部），如今能看到的有 10 多首（部）。”⁽³⁾ 上述地區的“梁祝”歌謠與當地的梁祝廟、梁祝讀書處、梁祝墓等歷史古蹟交相輝映，共同構成了具有特色的“梁祝”文化景觀。⁽⁴⁾ 另外，根據研究考證，廣西的“梁祝”歌謠數量最多，高達近百首。同時，這裡也是少數民族“梁祝”歌謠的集中地，唐代瑤族古典歌謠集《盤王歌》裡就已收錄“梁祝”歌謠。⁽⁵⁾ 瑤族情歌《山伯來會祝英台》和盤王歌《梁祝歌》、藍靛瑤《山伯英台

(2) 周靜書、施孝峰，《梁祝文化論》，北京：人民出版社，2010 年，頁 83。

(3) 周靜書、施孝峰，《梁祝文化論》，北京：人民出版社，2010 年，頁 118。

(4) 毛巧暉，《遺產化與民俗節日之轉型：基於‘2017’斂巧飯’民俗風情節’的考察》，《北京聯合大學學報》（人文社會科學版），2018 年第 1 期。

(5) 何家煒主編，《梁祝研究大觀》，北京：大眾文藝出版社，2005 年，頁 52。

古歌》⁽⁶⁾ 仡佬族古條歌《山伯英台歌》、《梁祝重緣》、壯族琵琶歌《祝英台》、《祝英台之歌》、畚族山歌《變成蝴蝶双双來》、《一雙石卵在墳心》、壯族嘹歌《梁山伯與祝英台》和敘事歌《梁山伯歌》等“梁祝”歌謠，一部份是由流傳過去的漢族“梁祝”歌謠轉譯而來的，另一部份是先接受了漢族地區的“梁祝”傳說，再把傳說改編成少數民族自己的歌謠。少數民族地區的這些歌謠都顯示出各民族的生活習慣、民俗節慶、審美風格等信息。

不論是漢族地區的“梁祝”歌謠，還是少數民族地區被地方化、民族化的“梁祝”歌謠，民間百姓自由編唱的“梁祝”歌謠大都具有語言質樸生動、情節鮮活有趣、人物個性鮮明、易記易唱易傳、地域特色鮮明等特色。千百年來，這些“梁祝”歌謠在中國廣袤的地區傳唱流布，主要是通過口耳相傳的原始方式在民間傳播，其中，大多數歌謠由於沒有文字記錄而失傳，只有一小部分生存下來，為今人所知。瑤族作為中國越南的跨境民族，瑤族從中國遷徙到越南，也將“梁祝”帶往越南，如本文的《英台古》，也很幸運地被抄寫下來，被人所知。

關於“梁祝”題材在國外接受情形，膾炙人口、震撼人心的“梁祝”傳說，不僅在中國境內有著廣泛的接受範圍及程度，在國外也廣泛地傳播，經過創新性的改編而走向世界的舞台，被日本、印尼、韓國、朝鮮、越南等多個國家的民眾接受。匡秋爽《“梁祝”文藝在東南亞的傳播及影響》中說：

越南歷史研究院專家阮友心在《梁祝文化在越南的傳播與影響》一文中，以 20 世紀初和 1945 年 9 月作為時間分割點，梳理“梁祝”文化的傳入和傳播情況。20 世紀初傳入越南的中國傳說《梁山伯與祝英台》很快就被一些越南文人關注，例如越南詩人潘孟各就曾譯過我國明末小說家凌濛初所著的擬話本小說集《二刻拍案驚奇》中翠翠寫的一首答詩：“平生每恨祝英台，懷抱為何不早開。我願東君勤用意，早移花樹向陽栽。”詩的注解裡詳細介紹了“梁祝”故事的內容，以便越南讀者對詩裡的祝英台有較為清晰的認識。儘管“梁祝”故事此時已經得到了文人階層的認可，但越南的廣大民眾尚未對此有太多瞭解，傳播與影響也就無從談起。當越南北方解放之後，隨著中國對越南的全面支持與援助，中國的一些文藝作品也逐漸傳入越南，其中的彩色戲曲影片《梁山伯與祝英台》在越南產生了廣泛影響。1955 年初，電影《梁山伯與祝英台》開始在越南北方的主要城市及鄉村公開放映。該片的反抗封建勢力、掙脫枷鎖尋求自由的精神深深地感染了越南觀眾，尤其是剛剛從帝國主義統治下解放出來的越南北方人民，他們從該電影中看到了祝英台為了追求愛情而勇敢地抗爭，這與越

(6) 熊有章主編，《藍靛瑤歌謠大全》，文山州非物質文化遺產保護和藝術研究中心，2019 年，《山伯英台歌》，頁 112-116。

南人民內心的渴望和理想是契合的。(7)

越南學者阮友心憑藉自己多年來對“梁祝”傳說的關注與研究，認為在 20 世紀初期到 50 年代，梁祝情史故事起初只能在文人界流行，從 50 年代起，通過中國梁祝電影放映，同時得到越南藝術各類型改編表演，得到越南各部門領導的看重，梁祝文化漸漸地廣泛地傳播與影響到越南大眾。(8) 但越南學者阮友心尚未關注到中越跨境民族，如瑤族等，所傳唱的“梁祝”歌謠。因此，研究“梁祝”文化的傳播至越南，不僅要注意現當代的“梁祝”文化傳播這一環節，仍須關注中越跨境民族的本身所蘊含的“梁祝”文化的另一環節。關注這兩個環節，才能完整地認識“梁祝”文化傳播越南的全面面貌。

梁祝的研究是伴隨著搜集整理而展開的。上世紀 1980 年代，關於少數民族梁祝故事的研究不斷深入，迎來一股梁祝研究的熱潮，較有代表性的研究成果如雲南李子和《西南部分少數民族梁祝傳說的流傳和衍變》(9)，該文對布依族、壯族、白族、水族、苗族、傣族、瑤族、彝族、仡佬族、侗族等少數民族的梁祝故事進行了介紹，並展開了初步的比較研究，開創了我國少數民族梁祝故事比較研究的先河。九十年代，雷國強的《南方少數民族梁祝傳說的社會根源》(10)一文則從社會文化的角度分析研究了南方各少數民族接納梁祝故事的社會原因。作者指出南方少數民族地區的封建化進程和社會心理要求是梁祝傳說在南方少數民族中流傳的社會根源。

本世紀以來，隨著我國民族文學、民間文學、民俗學、文學人類學等交叉學科研究的進展，學者們的研究目光較多的集中到了梁祝故事在少數民族不同文化語境中傳播過程的變異性，變異性正是中華各民族在文化交流過程中形成的“多元一體”格局的展現。過偉先生《梁祝傳說在少數民族中的流傳與變異》(11)一文從民族的文化、生活和心理素質的差異等方面分析了梁祝傳說在少數民族中變異的原因。劉紅(12)把白族《讀書歌》中的故事與漢族梁祝傳說在人物、情節、環境與習俗方面的差異進行比較，從文化的層面展示了白族文化具有的開放性和相容性。晉克儉以《苗嶺梁祝歌》為例研究認為，梁祝傳說之所以在少數民族中得以傳播並發生變異，除了受傳說的口頭文學特

(7) 匡秋爽，《“梁祝”文藝在東南亞的傳播及影響》，《長春師範大學學報》，第 34 卷第 5 期，2015 年 5 月，頁 189。

(8) 周靜書，《梁祝文庫》之理論·研究卷，北京：中華書局，2007 年，頁 658。

(9) 李子和，《西南部分少數民族梁祝傳說的流傳和衍變》，《貴州社會科學》，1984 年第 5 期，頁 94-99。

(10) 雷國強，《南方少數民族梁祝傳說的社會根源》，載《梁祝文化大觀》（學術論文卷），周靜書主編，1999 年，頁 400-407。

(11) 過偉，《梁祝傳說在少數民族中的流傳與變異》，《廣西師範學院學報》，2006 年第 3 期，頁 20-23。

(12) 劉紅，《論白族〈讀書歌〉與漢族梁祝傳說的差異》，《楚雄師範學院學報》，2006 年第 4 期，第 56-60 頁。

徵決定外，還與苗族的社會歷史及民族心理有關⁽¹³⁾。在晉克儉的另一篇論文《論梁祝傳說的文化認同作用——兼談南方少數民族梁祝敘事詩》中，則通過對南方梁祝傳說的分析，認為梁祝傳說的更大價值在於民族的文化認同作用。⁽¹⁴⁾

近幾年來，隨著民間文藝理論的發展和故事研究的深入，梁祝故事的研究成為學位論文研究的熱門主題，這當中有楊芳的碩士學位論文《梁祝傳說在壯族地區的流傳與變異研究》⁽¹⁵⁾，作者運用文化傳播和接受理論，通過分析壯族地區的梁祝傳說異文，提出應該探求文化傳播中的文化心理根源，從而有助於推進梁祝文化研究的深入。晉克儉的博士學位論文《南方少數民族梁祝敘事詩研究》⁽¹⁶⁾，從南方的少數民族梁祝敘事詩入手，分析了南方少數民族梁祝敘事詩的特點，認為南方少數民族人民在接受梁祝故事時接受了故事的主要情節，對部分情節進行了民族化的增加和再創造，這種增加和再創造與各民族深厚文化積澱有密切聯繫，尤其和原始信仰觀念有關。

另外，關於瑤族的梁祝故事歌謠，有劉保元《論宗教與瑤族民間文學的關係》，記載了廣西金秀瑤族自治縣的《梁山伯與祝英台》唱本 240 餘行、賀縣瑤族村寨的《梁山伯與祝英台》唱本 856 行。賀縣本有一處派生情節，不同於漢族唱本。簡而言之，即馬郎不服，到陰府十殿及天府控告梁山伯與祝英台等派生情節。⁽¹⁷⁾ 雷文彪《廣西金秀瑤族“梁祝”故事傳播變異表徵的成因探析》，指出廣西金秀大瑤山瑤族地區流傳《梁山伯與祝英台》唱本，與傳統的“梁祝”故事存在著很大的差異。這種傳播變異與大瑤山地區多民族融合發展的歷史境遇、獨特的婚俗習慣和審美習俗密切相關。同時作者也認為《梁山伯與祝英台》唱本的變異傳播也是民間文學自身不斷完善發展的內在需求。⁽¹⁸⁾ 唐聘帆《金秀大瑤山瑤族“梁祝”故事傳播的變異表徵》，說明“梁祝”故事在廣西大瑤山瑤族的傳播主要有兩種形式流傳。一種是以《梁山伯與祝英台》唱本形式流傳，另一種是以歌謠的形式作為《盤王大歌》中的部分內容進行傳唱。流傳於大瑤山地區的《梁山伯與祝英台》唱本共有 266 行，每行 7 字，整本唱本共 1862 字。從文本結構的變異、情節結構的變異、思想觀念的變異、人物形象的變異、故事結局的變異及其他的變異等六個方面探討“梁祝”故事傳播的變異表徵。

(13) 晉克儉，《梁祝傳說在苗族地區的傳播及其變異原因》，《貴州民族學院學報》，2008 年第 1 期，頁 128-130。

(14) 晉克儉，《論梁祝傳說的文化認同作用》，《民族文學研究》，2012 年第 5 期，頁 138-146。

(15) 楊芳，《梁祝傳說在壯族地區的流傳與變異研究》，廣西民族大學碩士學位論文，2008 年 4 月。

(16) 晉克儉，《南方少數民族梁祝敘事詩研究》，中央民族大學博士學位論文，2008 年 3 月。

(17) 劉保元，《論宗教與瑤族民間文學的關係》，《中南民族學院學報》，1990 年第 5 期，頁 3。

(18) 雷文彪，《廣西金秀瑤族“梁祝”故事傳播變異表徵的成因探析》，《廣西科技師範學院學報》，第 34 卷第 4 期，2019 年 8 月，頁 14-17。

三、越南瑤族《英台古》文本概況

筆者所收集的越南瑤族《英台古》⁽¹⁹⁾，並不是一個完整的唱本，中間也有夾雜一些科儀的文辭，在閱讀上造成一些障礙。如圖一所示為抄寫本的第一頁：

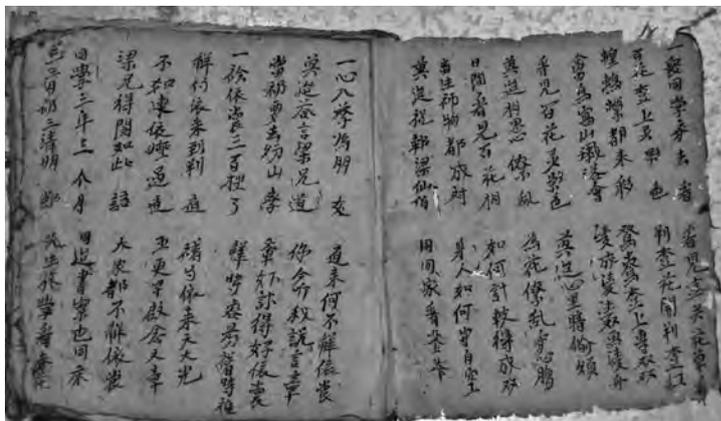


圖 1

由圖一所示，為《英台古》的歌謠文本。如圖二所示：

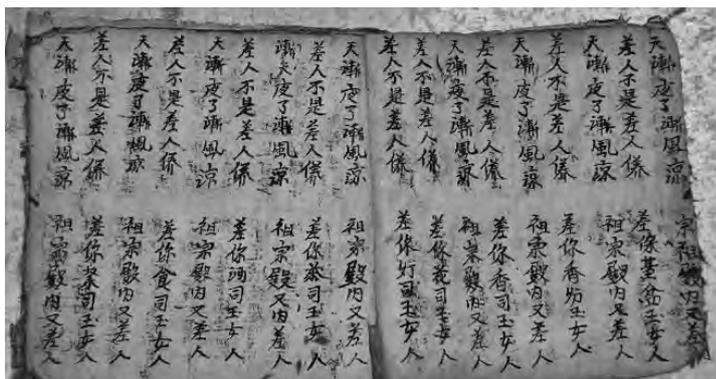


圖 2

從圖二的第一句話為：“天漸夜了漸風涼，宗祖店內又差人”，這些話語看來是科儀相關的文句，與《英台古》的故事內容並無關係。而這本《英台古》中，有著這些不相關的文句，不成系統，造成解讀這本《英台古》的內容，會造成困擾。去除這些不相關的文句，共 592 行，每行 14 字，約 8288 字。詳細文字內容請參閱附錄一。

在這本《英台古》的情節，跟傳統的“梁祝”故事情節，比較上不同的有兩個地方，一是馬郎去陰府告梁山伯與祝英台，其情節類似上述劉保元所述的賀縣本，又與《梁祝文化大觀》中的“壯族梁山伯與祝英台”第十二章描繪類似：

(19) 此《英台古》由筆者朋友阮氏容女士提供，特此致謝！

文才七成絞腸痧，寫下陰狀服毒亡
陰府去告梁山伯，要求閻羅段公案。(20)

這三個文本均有馬郎到地府告梁山伯與祝英台的情節，文句或有所不同，但情節類似。

第二個不同的是，在越南瑤族《英台古》，梁山伯回陽後，考狀元，後因奸臣想要將女兒匹配給梁山伯，山伯不肯，於是被陷害去番邦買馬、滯留番邦等情節，這與潮州歌冊《梁山伯祝英台全歌》，寫越州祝英台以“父母之命”許嫁馬俊，務州梁山伯因不得與英台廝守而與其双双化蝶。閻王認為梁祝乃兩情相悅，死有所冤，遂命回陽，完婚成家。之後山伯考中狀元，因為拒絕宰相李立指婚，被李立誣告、迫害，最終在賢臣馮元禮幫助下識破奸相李立陰謀，李立被誅，山伯得封鎮國公。(21)

這本《英台古》雜揉了瑤族、壯族、潮汕地區等相關情節，顯示出獨特的特色。

四、小結

從“梁祝”文化的傳播而言，關於在越南的傳播，目前的研究，仍侷限在現近代的“梁祝”文化的傳播，但也忽略了中越跨境民族，如瑤族、壯族等其他少數民族從中國遷徙到越南，他們也深受“梁祝”文化的影響。因此，研究“梁祝”文化在越南的傳播，應該要注意中越跨境民族的文化傳播，才能全面地理解“梁祝”文化在越南的傳播。另外，這《英台古》的情節雜揉了瑤族、壯族、潮汕地區等相關情節，這是值得繼續研究的方向。

(郭正宜 韶關學院 文學與傳媒學院 副教授，廣東 韶關 512005)

附錄一

1. 一众同学齐去看，看见树头花草看，
2. 百花树上灵影色，判树花开判树红，
3. 蝗(虫鸟)蝶都来彩，鸳鸯树上专双双，
4. 禽鸟窝山飞落会，□□□□鱼凌舟，
5. 看见百花灵影色，英(台)心里暗偷烦，
6. 英(台)相思新僚乱，为花僚乱秀心肠，

(20) 周靜書，《梁祝文化大觀》(故事歌謠卷)，北京：中華書局，1999年，頁762。

(21) 林相，《論潮州歌冊對梁祝故事的改編》，《福建商學院學報》，2019年第3期，頁88。

7. 日間看見百花相，如何計較得成雙，
8. 畜生□物都成對，人身如何守自空，
9. 英(上)台)祝報梁仙伯，同回家看(父上)(父下)，
10. 一心入學為朋友，夜來何不解依(衣)裳。
11. 英(上)台)答言梁兄道，你今聽我說言章，
12. 當初要去廬山學，(父車)(女下)(言下)得好依(衣)裳，
13. 一衿依(衣)裳三百捏了，解時容易著時難，
14. 解□依來到判(半)夜，(禘著)□依來天大光，
15. 不如連依座過夜，五更早啟念文章，
16. 梁兄得聞(聞)如此語，大家都不解依(衣)裳，
17. 同學三年三個月，同(上)台)書寮也同床
18. 三月初三清明節，先生放學看春花，
19. 文保得聞(聞)如此語，相來不敢設行藏，
20. 行程去到廬山學，二人抽有彈偏生，
21. 壹拜先生孔子老，二拜左右學郎君，
22. 仙先得見靈伶利，安排書案在東街，
23. 文保安名梁山伯，今連安作祝英(上)台)，
24. 日里寫書同筆硯，夜來同座也同床，
25. 早晚吃飯同酒盞，夜間同枕也同眠，
26. 一張綿皮同遮蓋，不識英(上)台)是女人
27. 三年供結同羅張，仙伯相言問小郎，
28. 文保解依先過去，金連連衣過大江，
29. 文保回頭看得見，當時怕有笑連
30. 你是人家富貴子，假作男人起學堂
31. 今連答言文保道口，梁兄聽我說言章
32. 兄途身乾好行路，我途身濕得身涼
33. 過山也有山神大，過水也有水龍王
34. 上有皇天下有地，赤身路躄犯三光
35. 不犯皇天也犯地，犯若龍王難解寬
36. 不如連依行過水，日晒風吹身自乾

37. 不知父母身病重，不知家里為何思
38. 自古養兒便防老，積穀便防四月飢
39. 告稟先生來方學，等我回歸看(父上)(父下)
40. 明日暫別梁兄去，暫別梁兄為歸本香
41. 英(上)當時收筆硯，收起詞書入籠箱
42. 一別梁兄名仙伯，知我是陰你是陽
43. 如字左邊是何字，梁兄曉的慢回尋
44. 若兄又曉陰陽字，你兄在學唱文章
45. 二別在家擊當立，早晚教知禮儀強
46. 仙伯答言英(上)道，未曾讀得滿文章
47. 腳踏青草同書案，眼中流淚落連連
48. 梁兄答言英(上)道，你今听我設言章
49. 同學三年三個月，不曾審犯秀才郎
50. 昨日同去看花色，回歸流淚落連連
51. 不思相若茶定婦，不知相若前家鄉
52. 英(上)答言梁兄道，你今听我設言章
53. 也無相若茶定婦，也無相若前家鄉
54. 昨夜三更得一望，分明口見我(父上)(父下)
55. 金日我但先歸去，梁兄罷學慢回尋
56. 英(上)別了梁仙伯，便叫梁兄途路長
57. 送到南容大路口，梁兄退步我回鄉
58. 歸家千萬來相會，莫作烏雞過路行
59. 共修學堂百隨意，相尋家里喫茶腸
60. 兄到家中堂上坐，無茶喫水也為甜
61. 三年結儀莫利別，莫作閑人過路行
62. 梁兄答言英(上)道，不知貴宅在何方
63. 英(上)答言梁兄道，仔今听我說言章
64. 茶歌如口親父母，成人長大也難強
65. 辭別學生眾朋友，兄弟寬心在學堂
66. 三天學生双流淚，梁兄寸斷不能言

67. 玳住學堂灵砂樂，回家相若淚滄汪
68. 大小學生都流淚，先生淚落断肝腸
69. 出門再拜梁仙伯，停聲則耳可思量
70. 供兄過山山不重，共兄過水水無肝
71. 舟庭式人對面坐此，金夜孤舟獨白兄
72. 式人相別双流淚，石畱花開滿園紅
73. 看見梅花灵影色，便是英(ㄣ台)本色腸
74. 仙伯移步回書櫃，英(ㄣ台)流淚落滄汪
75. 夜來仙伯归房睡，相若英(ㄣ台)獨自行
76. 英(ㄣ台)獨行無人判，過了已灵領共江
77. 归到家中見父母，先拜(父上)前後拜(父下)
78. 拜了(父車)(父娘)廳上坐，相身移步入房長
79. 後公問兒去入學，不知唱出旧文章
80. 脫下男依放貴內，番來芋著女衣裳
81. 讀得四言知禮壹，讀了蒙求禮儀強
82. 青松座下分叉路，南容江邊祝家莊
83. 望見七曾高樓台，四邊黃土立家莊
84. 屋上便蓋瑠璃瓦，一双獅子把門前
85. 一條淥水廳前過，花魚跳過專双双
86. 鳳凰白雀無沙數，隻了飛來都是双
87. 門前花樹無沙數，晚間百雀都來朝
88. 籠里今雞声報曉，石鵲飛來執兩邊
89. 塘內鵝鴨嬰敬雞，羅常張里是郎房
90. 九曲橋梁門前架，告到梁兄是我鄉
91. 如今入門求親事，借問親西取合隻
92. 祝公一言便赴首肯，當時領茗馬家茶
93. 受了馬家茶共礼，梁兄罷學便回鄉
94. 斯夜三娘得一夢，分明夢見秀才郎
95. 夢見梁兄在學縣，必定梁兄到此方了
96. 未曾归家看父母，先來尋問祝英(ㄣ台)

97. 梁兄答言家童道，家童听我說言章
98. 你家有个英(乚台)弟，同共我今在學堂
99. 祝我罷學來相兄，莫作鳳凰飛上天
100. 讀得九經識礼儀，讀得明心書字深
101. 把筆如同龍挑尾，念箋如同水落灘
102. 一筆龍鳳九溝字，壁上提箋句了弦
103. (父車)(父娘)得聞心寬喜，我女通明归本鄉
104. 娘姐歸家半边月，有個媒人來問娘
105. 媒人便對祝公說，公了听我說言章
106. 堂上有个聰明女，南容有个馬家郎
107. 男無十八丹身住，女人十五家空房
108. 龍頭芳檯听上坐，家童人口緣茶旁
109. 必定梁兄來尋我，英(乚台)房內再梳妝
110. 婦相三春楊柳樹，眼如北斗滿天星
111. 面相光粉如銀白，一身都著好衣裳
112. 手拎白綾扇一把，輕了移步出听堂
113. 出來看見梁仙伯，勝如羅漢對觀音
114. 龍堂栲椅廳堂坐，家人厨內整茶湯
115. 吃了三盃放下了盞，梁兄開口設言章
116. 你家有人英(乚台)弟，同供我今在學堂
117. 家童答言秀才道，秀才听我設言章
118. 我家有有英(乚台)弟，出有一个祝三娘
119. 你且寬心門外坐，等我回家報典娘
120. 家童答言小娘道，小娘听我設言章
121. 門外有个郎君子，分明端正秀才郎
122. 你名道姓梁仙伯，同供小娘在學堂
123. 祝他归家來相見，莫作無心過路边
124. 英(乚台)得聞如此語，必定梁兄至此方
125. 便起家童出去接，梁兄移步入家口
126. 有婦千里能相會，無婦對面不相逢

127. 梁兄得聞心暗(口乙)，當時(口乙)在听堂
128. 英(讎台)得見梁兄死，便把好言報典郎
129. 石上栽花根未定，得知娘命落何方
130. 二人相辭言未了，梁兄回步至家莊
131. 梁兄起身生受禮，眼中流泪落双双
132. 英(讎台)相從出門去，不覺行程到本鄉
133. 歸到家中拜父母，先拜(父上)前後拜(父下)
134. 拜了(父上)(父下)堂上坐，茶飯不思空肚脹
135. 祝我罷學來相看，見他一面我回鄉
136. 英(讎台)對面眉了笑，半稔判臬設言章
137. 當初在學正是我，女人假作秀才郎
138. 女人不敢從男教，人為收親是女人
139. 梁兄答言英(讎台)道，妹他不戴學堂中
140. 供我三年三個月，何不當初報典郎
141. 英(讎台)答言梁兄道，你今咱我設言章
142. 我把根執你路落，歸來路上(惕火)從祥
143. 當初我祝丁边口，如何萍在學堂中
144. 三魂七魄都飄散，如何命里得安全
145. (父上)(父下)得聞如此語，婆婆到處諸媒人
146. 到處請媒人不伯，梁婆親手做媒人
147. 梁婆去到英台屋，請取梁婆入宅堂
148. 龍頭栲椅廳堂坐，英(讎台)行礼奉茶湯
149. 吃了三盃放下盞，英(讎台)開口問言章
150. 婆來到此有何事，永世無來到此方
151. 梁婆當時回答言，□娘听我說言章
152. 我有一男梁仙伯，同供小娘在學堂
153. (父車)(父娘)得見兒病重，上床去問我兒男
154. 你去讀書三年朔，今日和見我兒番
155. 不知無人去等你，不知書籠無人相
156. 歸家三日無寬喜，知是我兒有土番了

157. 梁兄答言(父上)(父下)道，從頭一二設言章
158. 當初我去炉山學，遇見英(乚台)共我行
159. 三年讀書同筆硯，夜間同(耳空)又同床
160. 一緇綿被同遮蓋，不識英(乚台)是女身
161. 今日回家知口女，如今枉死愁心腸
162. 祝公未曾設言盡，家童祝英(乚台)
163. 門外有個梁婆到，自身做媒來問娘
164. 英(乚台)得聞家貴道，番身房內再梳莊
165. 喫兄檳榔紅沙血，眼相天星暗照光了
166. 照鏡顏容灵端正，輕輕移步出廳堂
167. 首把白綾扇壹柄，八副羅裙掃地長
168. 出來相見抄有倖，拜了梁婆哭壹腸
169. 此相道蓮花裙出水，勝如明月未曾說
170. 相請梁婆听上坐，家人整物好茶湯
171. 如今我兒身有病，相思病重不離床
172. 莫恠老人來冒獨，兒要相身共結双
173. 英(乚台)答言梁婆道，你今听我說言章
174. 當初在學便從我，归家從母不從郎
175. 受了馬家茶共礼，好如何你不嫁他人
176. 消何造罪傳天下，強姦取強好難堂
177. 如今上門取親事，借問取親事應見
178. 祝公答言梁婆道，梁婆听我設言章
179. 几个媒人來問我，我今設與馬家郎
180. 眾婆答言英(乚台)遊，小如听我言章
181. 看婆不嫁梁仙伯，與你尋思老藥方
182. 英(乚台)開口微了笑，小娘原來識藥方
183. 一要東海龍凰腦，二要西海鳳凰腸
184. 三要今雞眼中血，四要青龍背上光
185. 五要仙人手中甲，六要玉女帶頭巾
186. 七要千年屋上雪，八要萬年屋上相

187. 九要雷公雪裏水，十要西天螢上腸
188. 老婆取得十般藥，梁兄此病便离床
189. 喫了三盃茶供酒，梁婆開口設言章
190. 英(讎台)我今來冒獨，只為小兒在學堂
191. 我有一男梁仙伯，相思病重不離床
192. 好借當祁交結識，同心設語莫我亡
193. 英(讎台)偷芸梁婆誦，娘今必定不著郎
194. 只念當祁朋友意，前世命中不合郎
195. 梁婆聞如此語，當時(口乙)炁在听堂
196. 英(讎台)叫得梁婆道，對面分明設與婆
197. 我拿出郎同心意，三年結儀不悲輕
198. 一別南容梁仙伯，你在陰司我在陽
199. 叁魂飄散隨郎去，夜里分明夢見郎
200. 好惜名灯風打死，好惜紅蓮被水傷
201. 大叫三聲梁仙伯，四边雲霧蓋坟堂
202. 梁兄有灵并有聖，列开坟蓋娘身
203. 若兄無灵并無聖，一時去嫁馬家郎
204. 英(讎台)哭聲未口尽，八角英墓刘边兩
205. 見兄身才一边勝，英(讎台)跳入墓中藏
206. 葬坟未經判個月，英(讎台)行嫁馬家郎
207. 三十除人過娘去，不其行過墓門边
208. 面前烏雲暫了起，唱歌鼓爺鬧連連
209. 英(讎台)答言媒人道，個岸石牌何個亡
210. 媒人答言英(讎台)道，個岸石牌僊伯亡
211. 英(讎台)得聞心暗(口乙)，肚中無火自然熱
212. 想若當初同入學，與我上坟燒好柱香
213. 墓門燒香拜三拜，英(讎台)哭泣兩三聲
214. 昔日問兄在此處，金日見兄在此方
215. 兄山伯當時答下肚，為花(口乙)炁在高樓
216. 爺娘哭得肝腸断，六親九眷再心煩

217. 便相木校來莊載，七了修齋傷道腸
218. 只面讀書求名利，難知今日為花亡
219. 修齋滿散送斗去，送去还山立墓場
220. 葬在南容大路上，便請匠人立石碑
221. 墓前立起石碑記，四边山水甚高強
222. 左边青龍來朝拜，右边白虎護文堂
223. 梁婆得聞如此語，梁兄此病實難當
224. 辭別梁婆归房內，脫下肝衫交典當婆
225. 在學羅裙送一衿，寄與梁婆归定心
226. 咬破手兒寫血字，寫成血字兩三行
227. 在生不得為夫婦，死入陰同夢結双
228. 英(讠台)答言梁婆道，梁婆听我說言章
229. 肝衫莫與梁兄見，胸归床頭帶氏朝
230. 梁兄便知英(讠台)飛，必定英(讠台)到我身
231. 起來結開帶氏看，得見羅衫幕衣敕
232. 梁兄相來手中清，得見青書兩三行
233. 打開白石便來看，金水提書兩三行
234. 祝報馬家莫要望，別處求親莫望娘
235. 娘今归共梁仙伯，你茶來定洛空亡
236. 今世不得為夫婦，後世相逢慢嫁郎
237. 注定有緣共仙伯，生陽同枕死同坟
238. 馬家當吞下肚，(口乙)失命在坟堂
239. 三個坟營一處葬，三個墓門品地莊
240. 祝家無男生一女，害死人家兩個男
241. 有個細兒緊手腳，檢得羅裙幅判边
242. 檢得条群成蝴蝶，變成蝴蝶滿天飛
243. 墓當門時便和合，結成夫婦在文中
244. 已十除人心耐耐了，相邀去報馬家郎
245. 馬家等待日头落，不是新人來拜堂
246. 轎夫媒人歸報早，新人跳入墓中藏

247. 馬家得聞心列耐，差人去掘文何難
 248. 掘開坟墓不見物，出見白石一双行
 249. 祝家無男生一女，隨去共他結日親
 250. 因為梁家判路？，強貼我妻半路亡
 251. 冥王千萬容小告，申狀梁兄退我妻
 252. 強佔人妻無成晁，誰家好提手護
 253. 冥皇不共我作主，便殺性命入棺亡
 254. 殿前刀劍如銀箔，抄殺門鬼便及刀鎗
 255. 一紙狀詞告仙伯，當時跳下好恓惶
 256. 閻王投上拷伶問，你是何州何縣鎮
 257. 你你迎詞狀悲嘆，王了听審合知祥
 258. 成雙便是梁仙伯，丹身便是馬家郎
 259. 見人富貴佻難學，聰明容易學時難
 260. 仙伯英（乜台）歸世去，置造後代等人佑
 261. （父上）（父下）哭得肝腸斷，六親九眷斷肝腸
 262. 十王四府都遊過，冥司陰府艺歸長
 263. 打隨地獄門前過，看其門上寫牌方
 264. 十王兩边都遊過，為行陰府甚多端
 265. 去到閻皇天子殿，也火鬼便殺在力
 266. 低頭跪下申詞狀，申狀梁家奪我妻
 267. 點向尋到生死殿，右言仙伯奪□□
 268. 你歸閻皇受上審，閻王殿上審生□
 269. 牛頭馬面無沙數，逕条法律尽齊全
 270. 閻王殿上審仙伯，陰間簿里設□良
 271. 今有馬号來告你，声了告你奪妻殤
 272. 強奪人妻非輕事，當時剝骨倫連了
 273. 閻皇高聲罵仙伯，□得英（乜台）心里光
 274. 仙伯跪下連時訴，閻王听我合知郎
 275. 我在越州諸異學，明為仙伯姓為梁
 276. 我是姓馬家為号，越州本縣是家常

277. (父上)(父下)受了我禮聘，定取英(讎台)為結双
278. 算定連時吉日(禾宴)，不知此事到陰皇
279. 途中不識何鬼降，合來此處到閻皇
280. 行嫁山伯坟前過，如知陰府囑妻方
281. 誰舍我妻归陰府，婚恩拆散理难詳
282. 閻皇得聞如此語，當時心里便從詳
283. 便叫公差來押主，設尋兩個在何方
284. 十王四府都尋問，並無足跡□□□
285. 生也要处為夫婦，死也要娘同墓地
286. 閻皇審事思良想，此事分明难注張
287. 又叫英(讎台)來審問，英(讎台)跪下訴言章
288. 我在南容大路口，娘今名梁說三娘
289. 閻王便罵英(讎台)道，買注李演詔承準前
290. (父上)(父下)受領人茶了，為何你不結媳圓
291. 罵你英(讎台)無礼儀，生人去共死人眠
292. 英(讎台)跪下連時訴，王了听審要知詳
293. 扮為男子同相会，正明□□读□
294. 供我炉山三載宿，夜間同宿壹枝床
295. 情深日火难分手，不其他急相(父上)(父下)
296. 聲了叫我回同日，只為譚書在後行
297. 算定後行來結对，他(言犬)行到本鄉
298. 英(讎台)回家半個月，(父日)(父月)領若馬家茶
299. 受了馬家茶共礼，娘今不願結他双
300. 叫取判官來檢簿，判官橫簿合知說
301. 若是三人皆死日，留他地府正當观
302. 若是三人皆不死，便超引路專回陽
303. 判官便點生死簿了，古詩三人命有緣
304. 檢簿古言皆不死，都是爭婚把命亡
305. 閻皇听得判官設，便叫公差來殿前
306. 把筆起來寫復字，又罵馬家之事強

307. 我是閻王明鏡審，視你回陽不可良
308. 分付還魂水一碗，把你喫了放回陽
309. 與你三齊共口吃，墓門破裂再還陽
310. 當初我是明武縣，扮為男子學堂中
311. 路上遇逢梁仙伯，同供炉山赴學堂
312. 前此有緣金日會，同床同枕又同眠
313. 我供梁兄三載宿，歸家限定結媳（女圓）
314. 因為他遲陸個月，便讀詩書在後口
315. 馬號無口強取我，陽間不願結（女目）（女圓）
316. 前世（女目）娟皆注定，我王听審要知詳
317. 批准英（乚台）共仙伯，前生結儀學堂口
318. 叫取梁家來押主，三人跪訴下言章
319. 便叫家童報外廷，一呈去到祝家鄉
320. 祝公得聞家董說，千言万語苦連灵
321. 出叫前生猪狗命，生其一女相心場
322. 祝公去到梁家屋，親手躬迎接入堂
323. 梁家整非筵中洞，黃昏飲酒三婆
324. 六親九眷都來齊，寬喜樂語看三娘
325. 五百銀系餌一百金，老酒百呈共百譚
326. 綾羅緞疋無沙數，利時吉日放船行
327. 仙伯便捏英（乚台）手，一程归到我家鄉
328. （父上）（父下）得見連口問，我兒何識專回陽
329. 山伯答言（父上）（父下）道，你金我說言章
330. 我亡去到閻王殿，馬家告我奪他双
331. 一紙狀詞灵猛列，閻王殿上告三神
332. 取得閻王明鏡審，間陽托賴免災殃
333. 就準我兩為夫婦，三魂落獄再還鄉
334. （父上）（父下）得聞見說，洗身沐浴換衣裳
335. 因為他遲陸個月，便讀詩書在後行
336. 馬號無攸請取我，陽間不願結（女目）（女圓）

337. 前世姻(女員)皆注定, 我王听審要知詳
338. 就準英(乚台)共仙伯, 前生結儀學堂中
339. 叫取梁家來押主, 三人跪下訴言章
340. 叫取判官來檢簿, 判官檢簿合知詳
341. 若是三人皆死日, 留他地府正當行
342. 若是三人皆不死, 便超引路專回陽
343. 閻王便罵英(乚台)道, 買注李典詔承準計
344. (父上)(父下)受領人茶了, 為何你不結媳圓
345. 罵你英(乚台)無礼儀, 生人去共死人眠
346. 英(乚台)跪下連時訴, 王了听審要知詳
347. 當初我是明武縣, 扮為男子學堂中
348. 路上遇逢梁仙伯, 同供炉山赴學堂
349. 前此有緣金日會, 同床同枕又同眠
350. 我供梁兄三載宿, 歸家限定結媳(女圓)
351. 情深日久难分手, 不其他急相(父上)(父下)
352. 声了叫我同回日, 只為譚書在後行
353. 算定後行來結對, 他就先行到本鄉
354. 英(乚台)回家半個月, (父日)(父月)領若馬家茶
355. 受了馬家茶共礼, 娘今不願結他双
356. 我也要娘為夫婦, 死也要娘同墓埋
357. 閻皇審事思良想, 此事分明难注張
358. 又叫英(乚台)來審問, 英(乚台)跪下訴言章
359. 我在南容大足口, 娘今名叫祝三娘
360. 今有馬号來告你, 声了告你奪妻強
361. 強奪人妻非輕事, 當時剝骨倫連了
362. 閻皇高声罵仙伯, 驚得英(乚台)心里光
363. 仙伯跪下連時訴, 閻王听我合知鄉
364. 我在越州諸巽縣, 明為仙伯姓為梁
365. 扮為男子同相會, 正明假作讀彘文
366. 供我炉山三載宿, 夜間早聖日同行

367. 日間同檯同筆硯，晚間同宿壹枝床
368. (父上)(父下)得見連口問，我兒何識專回陽
369. 山伯答言(父上)(父下)道，你今听我說言章
370. 我亡去到閻王殿，馬家告我奪他双
371. 一紙狀詞灵極列烈，閻王殿上告三神
372. 取得閻王明鏡審，陽間拖賴免災殃
373. 就準我兩為夫婦，三魂落獄再還鄉
374. (父上)(父下)得聞我兒設，洗身沐浴換衣裳
375. 便叫家童報外父，一呈去到祝家鄉
376. 判官便點生死簿了，右判三人命有緣
377. 檢簿右言皆不死，都是爭婚把命亡
378. 閻皇听得判官說，便叫公差來送前
379. 把筆起來口復安，又罵馬家文事強
380. 我是閻王明鏡審，批你喫了放回陽
381. 與你三人齊共吃，墓門破列再還陽
382. 仙伯便提英(讎台)手，一程归到我家鄉
383. 領了礼謝夫退位，整火水童去判娘
384. 奴婢驟(馬尺)共(馬疋)，寶貝綾(糸羅)滿箱
385. 祝公兩家齊寬喜，我兒有福主家堂
386. 馬家(父上)(父下)心(冇寸)(南寸)，心中暗兄在心腸
387. 不見我兒回到屋，如今流泪落連了
388. 三个坟頭一處葬，如何兩個得回陽
389. 我兒也會爭妻死，為何不面个得回陽
390. 馬家婆娘(口乙)炆死，相身腸命到王前
391. 祝公得聞家堂設，千言萬語落連連
392. 出叫前生諸狗命，生共一女相心場
393. 祝公去到梁家屋，親手(身旁)迎接入堂
394. 梁家整非筵中湧，黃昏飲酒醉三虫
395. 六親九眷都來看，寬喜樂語看三娘
396. 五百系銀一百金，老酒百呈共百譚

397. 綾(糸羅)緞疋無沙數，利時吉日放船行
398. 一百夫人禮聘，開船就到祝家鄉
399. 祝公大開筵中酒，鑼聲右笛鬧連了
400. 橋關官便問有何事，你來到此為何思
401. 馬婆跪下氏頭拜，閻皇殿下設言章
402. 我有一男名為號，三人賜命到皇前
403. 因為兩得回轉，回到陽間重結双
404. 不見我兒歸到屋，不知罪重不回陽
405. 閻王殿上復口說，三個爭婚到此方
406. 此爭分明審了罪，便把三魂水壹盆
407. 便把長生水一碗，三人吃了專回陽了
408. 燒身屍回不得，留他地府正當行
409. 祝報馬婆回陽日，你兒燒骨不齊全
410. 沐浴煉形難合骨，三司難度專回陽
411. 若你要回陽世日，六道輪流合得番
412. 不見成男男成女，度過三司送出陽
413. 專女
414. 也有變成雞共鴨，變成牛馬共豬羊
415. 過禮燒了成双双，勝如十五日團圓
416. 累唱英(乩台)共仙伯，又唱馬家之事強
417. 馬家回魂歸到屋，听如棺槨咱(父上)(父下)
418. 牛頭獄卒便來打，夜叉鬼便棒來糧
419. 土也不於妻不得，(子玉)受陰間(口乙)烝亡
420. 審得還魂水一碗，苦無得脫免災殃
421. 父母得聞心寬喜，但得回歸看(父上)(父下)
422. 豪家女子天了萬，男取誰人促結双
423. 手邊也有天金女，取得歸房花便仙
424. 馬號答言(父上)(父下)道，我去取官出外邊
425. 要習公明鬧仙伯，中須有日受災殃
426. (父上)(父下)得聞兒聲語，棺槨裏內有全

427. 掘開棺槨見兒起，今身出限苦連了
428. 我兒答言(父上)(父下)道，我落陰司苦萬件
429. 地獄門前都遊過，出為仙伯祝英(上台)
430. 十殿冥皇相來打，一双獅子判身(身良)
431. 我亡去到閻皇殿，把門鬼便口刀鎗
432. 殿前刀劍如銀白，剋得心中(生圣)头驚
433. 夫口貪花我搥你，真花好豔近身边
434. 仙伯便提英(上台)首，便入房中致意眠
435. 花色貪遙心閑閑，(巾羅)幃帳里暗思量
436. 英(上台)答言夫主道，你今听我說言章
437. 路上逢花莫要彩，我夫千萬莫生心
438. 結粉顏容我無彩，千今女姐不同娘
439. 言語祝尽夫主道，寒衣穿(木暑)不休量
440. 仙伯祝尽英(上台)道，我妻听我設言章
441. 陰間不贏陽間斗，奉上皇了萬注相
442. 我去不能冤(彳里)士，來到道里萬心傷
443. 仙伯得聞如此語，說言便祝我回鄉
444. 我今要去求官位，要雜京城見章
445. (父車)(父娘)答言我兒道，用归房內問三娘
446. 堂上親母子又老，無人伏侍在身边
447. 我便歸房間妻主，三娘開口說言章
448. 共你濱波來結对，如今結对有諫言
449. 仙伯答言英(上台)，你今听我說言章
450. 三月初三開大考，廣照天下眾官圓
451. 得見皇都開世考，文武官員烈兩边
452. 壹百赴我回鄉了日，數來占出有三千
453. 三百筭來科世考，我是头名眾狀元
454. 有个貪花个補顏，是我門生讀書強
455. 朝當有個李丞相，生身一女好嬌娘
456. 便是年當十八歲，戀花發起正當時

457. 便起龍婁招女婿，秀才轉出尔報長
458. 寒便添依飢添食，千金女姐我無連
459. 我往京城去(走水)省，判年到月我回鄉
460. 你在家中則是你，朝日幫照原仙
461. 英(乚台)心中思量相，可借男人黨日強
462. 赴省榜官名士主見，亮秋天得昨早回鄉
463. 仙伯得聞如此語，便祝妻主泪連了
464. (ㄛ著)起藍袍便上馬，英(乚台)邊叫出大門前
465. 酒店便逢買酒店，買花便叫買花人
466. 若你不從我主意，狀元眾等當沈塵
467. 我便答言李臣道，不能腳踏兩頭船
468. 差我寫榜朝門奏，福福藍身錯時難
469. 狀元不是閑也事，我要回头看(父上)(父下)
470. 祝者如今年又老，太山崩到命歸陰
471. 設了連時便上馬，連時寫出奏王前
472. 丞相心中寬大惱，當時走馬打三鞭
473. 去到五更皇登殿，李臣奏本就通言
474. 得聞狀元梁仙伯，文才眉貌十分強
475. 發起相公樓下等，不見仙伯過婁長
476. 惜日便是回鄉日，一時早來蘭馬車
477. 我便答言丞相道，你來蘭我有何言
478. 家內也有親妻主，取得英(乚台)祝三娘
479. 不覺秀求舌若我，相公迎樓入听堂
480. 丞相答言狀元道，官招女婿在婁前
481. 擊鼓三次手接，李臣兩手奏官圓
482. 取出茶來我不領，李臣開口設言章
483. 接了去到沙場地，急相父母共三娘
484. 望見北番國內里，遊了暫了到京前
485. 番王殿上開口問，天边叫我說言章
486. 一面差人去進表，差人專送馬兽強

487. 番王國內留我住，不共我住設灵卒
488. 丞相見我攻灵日，又來寫本奏京前
489. 與他北番去買馬，好日玖不回鄉
490. 相是是人要駿馬，我皇听奏要知詳
491. 聞說西天要買馬，我皇听我奏言章
492. 冒奏龍顏听國道，軍皇要用馬同堂
493. 正是北番去燕有馬，放其式萬馬高強
494. 有一狀元梁進事，名為仙伯姓為梁
495. 惜日慣通番國內，與他去買馬高強
496. 皇帝听得李臣奏，差人就到我家鄉
497. 差官叫我皇前去，皇了開口設言章
498. 與你北番去買馬，轉取千萬馬高強
499. 郎便在朝領過口，軍兵三万共同行
500. 不覺我(父上)年又老，英(上台)哭泣泪連了
501. 限滿其年又員化，修齋拜答在灵前
502. 送殯我(父上)還山去，又到我(父下)梁病時
503. 睡在病床病又死，公婆都死入黃泉
504. 又送我(父下)還山去，英(上台)無靠醜心惶
505. 家堂淫無絡人看，想著親夫仙伯恩
506. 人設梁兄又被罪，發落番州大易良
507. 不覺我夫年又老，如同刀割妹心腸
508. 身上無錢难計較，手拎譚琴你路
509. 交結番王在久日，恐防奸己要滿連
510. 大馬騎來也無边，二來出限為何言
511. 王帝得听李臣奏，差官就到北番边
512. 番王見我梁仙伯，數完貳萬馬高強
513. 歸到本朝數馬疋，李臣又奏上京前
514. 還是差官构你退，相來他去又無良
515. 王帝听得只從表，便是統兵已教难
516. 罷了狀元問車罪，北番留住玖年長

517. 我王得見孝女(子子), 右言道理不為強
518. 丞相李臣招女婿, 秀取舌茗狀元郎
519. 梁兄不從他主意, 不能共兄結會雙
520. 丞相心中實大惱, 連時近去到身边
521. 解救軍身梁仙伯, 赦他發起為回鄉
522. 幽州去提歸殿內, 王了說了我寬心
523. 陳(父車)奏得家仙伯, 念若當初同学堂
524. 一念寫書回鄉里, 又來便問慢婦長
525. 交結番王五載口, 番王要(耳占)我王天
526. 王了听得李臣奏, 當時罰罪我難言
527. 構了狀元問軍罪, 今來此處受災殃
528. 李臣年當四十歲, 望你陳(父車)共主將
529. 官員答言梁兄道, 相其不久已多年
530. 若是李臣丞相死, 你來我處慢从詳
531. 不覺李臣當時死, 陳(父車)上本奏京前
532. 王帝得聞官人奏, 當時開拆就知詳
533. 不齊番王無得馬, 不誰我住玖年長
534. 李臣見我灵玖日, 难得回鄉看母娘
535. 王了得聞李臣奏, 差官就到我家鄉
536. 便押狀元馬歸(角半), 誰何你住五年長
537. 不覺番王還了馬, 拜辭王帝我回鄉
538. 遊遊去到京城里, 連時繳馬去還三
539. 李臣見我繳馬馬, 又來寫本上京前
540. 敢得我王構他退, 別無他定起無連
541. 英(上台)便共官人去, 去到幽州大日場
542. 上任為官經海道, 陳(父車)審問得言章
543. 仙伯跪下連時訴, 我是明生仙伯梁
544. 我為李臣招女婿, 合來此處受災殃
545. 不覺李來若若我, 明羅接我在京
546. 小吾答言李臣道, 不能配我在京前

547. (糸房)來不領米不飲，不其他恨在心腸
548. 奉上王都領茶我，連時寫本上京前
549. 且在炉山同學梁，見共英(上台)在學堂
550. 英(上台)答言陳(父車)道，陳(父車)你咱我言章
551. 我是豪家富貴女，正明假作媼妾生
552. 婚供梁兄為夫婦，如今赴者不回鄉
553. 陳(父車)弓身英(上台)說，今在當初同學堂
554. 你夫狀元身有罪，幽州里內受災殃
555. 若是為住海官道，要到幽州大易場
556. 若是小娘心要去，明朝早了共同鄉
557. 手拎彈琴雙流淚，要去幽州大易場
558. 抽身遊行街前去，陳(父車)只罵在街前
559. 我今為官去赴任，極切孝福過前行
560. 英(上台)跪下連時訴，老(父車)上馬訴言章
561. 奴今孝為公婆死，不識老(父上)在面前
562. 聞設狀元身有罪，吉凶無知死是生
563. 官人得知娘姐面，面熟不知在那邊
564. 當初男人出相面，如今同坐壹邊床
565. 你上王都去起省，誰何今日受災殃
566. 當初我祝千言語，與你同鄉看(父日)(父月)
567. 屋上(父日)(父月)都死了，錢財用了我思良
568. 我唱彈琴來到此，手執彈琴作路糧
569. 悲為親夫声了苦，(上原)悔雪打可思良
570. 我赴夫看夜明秋，為何不得妻同鄉
571. 仙伯答言我妻道，我妻听我說言章
572. 你共何人來到此，抽身來看受災殃
573. 英(上台)哭泣回夫主，陳(父車)帶我共同行
574. 仙伯得聞如此語，謝拜官人千万身
575. 尋得官人帶善婦，割肉還恩難報腸
576. 官人答言梁兄道，念若當初同學堂

577. 路上本錢來問我，筵山過水共同行
578. 說了英(乚台)來到此了，我夫但听我言章
579. 數佰人了聞我到，就知我到在沙場
580. 歸家不見(父上)(父下)面，當時下拜泪連了
581. 怨吠(父車)(父娘)今先仇，誰何不等我回鄉
582. 因為李臣從殺我，受罪沙場日玖延
583. 今日罪消回家里，堂前不見我(父車)(父娘)
584. 一怨(父日)(父月)我不見，忒怨(个兒)(个舟)花謝枝
585. 月落過了再十五，我今拋世断肝腸
586. 我為女婿招女婿，分明想仔在心腸
587. 丞相一女年十八，顏容眉貌十分天
588. 結起秀來婁下等，(木也)來若我了休先
589. 取出茶來我不領，如今他腦在心腸
590. 丞相心中實大惱，連時奏本上京前
591. 與我此番去買馬，不共我住五年長
592. 李臣自我处多日，設我处住五年長

故事歌在瑤族的流傳

——以廣西〈舜兒古記〉與越南〈舜兒古篆記〉為例⁽¹⁾

臺灣·國立臺中科技大學通識教育中心 助理教授
鄭美惠

摘要

瑤族原是中國南方的山地民族，大多散居在海拔 1000 公尺左右的高山林區，部分居住在生態環境比較惡劣的大石山區，少部分與漢族雜居在山坡邊緣的丘陵或河谷地帶。明末清初之際，部分瑤族從廣東、廣西向雲南、貴州遷徙；一部分瑤族則經廣西、雲南進入越南、寮國。

當瑤族從中國進入越南時，帶去了許多民間文獻，越南學者將其稱為「越南瑤族古籍」。這些越南瑤族古籍文獻大多是用漢字抄寫，亦有部分則是使用「土俗字」。在眾多的越南瑤族民間古籍中，亦可見有豐富的越南瑤族敘事歌謠。「敘事歌謠」為講述一個故事的傳統民歌，具有一個清晰的故事。

2009 年，越南老街省文化體育旅遊廳將在老街省等地收集到的 9648 本瑤族民間文獻進行分類、整理後，再加以掃描、影印與篩選，出版了 *Sách Cổ Người Dao* 一書。書名之中文意指為《瑤人古書》，由越南河內國家民族文化出版社所出版。

〈舜兒古篆記〉(Truyện Thuần Nhi)，便是 *Sách Cổ Người Dao* (《瑤人古書》) 中收錄的一則敘事歌謠，故事內容講述舜兒在登基為帝前遭受繼母虐待等等情節。無獨有偶，廣西瑤族也流傳有相似的故事——〈舜兒古記〉。舜為中國上古時代五帝之一，有孝感動天的相關傳說。而廣西瑤族古歌〈舜兒古記〉、越南瑤族古籍〈舜兒古篆記〉則皆保留有詩歌體的樣貌，正好作為不同文類「異本」之呈現。上述兩者除了在表現形式上與中國傳統漢文學不同之外，情節的變異亦有所差別。從這些差異當中，將可見同類主題故事在不同文化／地域間呈顯之特色與意義。

關鍵詞：越南瑤族、民間古籍、敘事歌謠、舜

一、前言 —— 有關舜的記錄

在中國古代歷史記錄中，堯與舜常是被並稱為聖王明君的代表人物。因此，先秦以來的文獻亦

(1) 承蒙日本京都大學金文京名譽教授提供評論建議，謹此致謝！

有不少他們的記述。不過，因著諸子百家的關注點有所差異，對於堯舜的看法也不盡相同。⁽²⁾ 故，丁山教授便言：「總而言之，堯舜的人格與政治，是跟著晚周諸子思想的本體隨時變化因人而異其趣的。」⁽³⁾

而典籍史書提到堯、舜，便免不了要對堯舜禪讓事跡津津樂道一番；儘管，許多學者已提出它並不是可靠的歷史記述，而是飽含意味的傳說。⁽⁴⁾ 其中，可以說最早對舜子故事進行全面、系統性整理的，就是太史公司馬遷。⁽⁵⁾ 《史記·五帝本紀》中的〈舜本紀〉具有幾個組成部分：

1. 舜母死，瞽叟再娶生象。
2. 瞽叟愛後妻，常欲殺舜，舜避逃。
3. 四嶽推薦舜
4. 堯帝測試舜，二女觀其內、九男觀其外。
5. 舜耕歷山之事
6. 堯帝贈與舜稀衣、琴、為築倉廩、予牛羊
7. 瞽叟欲殺舜一井、廩迫害事件
8. 象分贓舜之物
9. 舜通過四項考驗⁽⁶⁾

針對上述描述，有關於舜如何逃脫井、廩之害的方法，留給讀者許多想像的空間。⁽⁷⁾ 由此可見，《史記·五帝本紀》對於井、廩之害的描寫已非純粹事件的記載，反而充滿文學的想像，讓後繼的創作者有發揮的空間。⁽⁸⁾ 故王國維在〈古史新證〉云：「上古之事，傳說與史實混而不分。史實之中故不免有所緣飾，與傳說無異；而在傳說之中，也往往有史實之素地，二者不易區別，此世

(2) 張鴻勳：〈神聖與世俗：《舜子變》的敘事學解讀——兼論敦煌變文與口承故事關係〉，《敦煌學》第 25 輯（2004/7），頁 377。

(3) 丁山：《中國古代宗教與神話考》（上海：上海文藝出版社，1988/3），頁 244、247。

(4) 劉守華：〈試論「舜子變」的演變〉，《第二屆敦煌學國際研討會論文集》（臺北：國家圖書館漢學研究中心，1991/6），頁 571-572。

(5) 謝明勳：〈舜子故事源流考論：以《史記·舜本紀》及敦煌寫本《舜子變》為中心考察〉，《第五屆唐代文化學術研討會論文集》（高雄：麗文出版社，2001/9），頁 341。

(6) 廖秀芬：〈從經典到世俗——以《舜子至孝變文》為中心之敘事架構〉，《敦煌學》第 28 輯（2004/7），頁 131-132。

(7) 謝明勳：〈舜子故事源流考論：以《史記·舜本紀》及敦煌寫本《舜子變》為中心考察〉，《第五屆唐代文化學術研討會論文集》（高雄：麗文出版社，2001/9），頁 341。

(8) 廖秀芬：〈從經典到世俗——以《舜子至孝變文》為中心之敘事架構〉，頁 132。

界各國之所同也。」⁽⁹⁾

除此之外，亦不難發現突出「倫理道德」方面的力量，可以說是司馬遷立說的主要基調。不可否認地，絕大部分的人對於舜子故事的認知，多半正是以太史公書為藍本，也就是司馬遷的認知對後世舜子故事的發展，實具有指標性的參考作用。⁽¹⁰⁾

相較於史籍，民間通俗文本則著重在舜的家庭生活及其與家人互動的描寫。以流行於唐五代的〈舜子至孝變文〉為例，其組成部分如下：

1. 樂登夫人病死，交代瞽叟善待舜子。
2. 瞽叟娶得繼阿孃，不久前往遼陽經商。
3. 三年後，阿爺即將歸來，繼阿孃以摘桃傷足，臥床不起，且誣陷舜。舜遭瞽叟毒打，帝釋為他醫治。
4. 瞽叟命令舜到後院修倉，以兩個笠子騰空飛下，地神擁起救之。
5. 瞽叟命令舜到廳前掏井，帝釋變作黃龍救之。
6. 後母一女，阻止阿爺掩井殺舜子。
7. 生母顯靈，指示舜前往歷山躬耕。
8. 舜子在市集與瞽叟重逢，舜以舌舐父目，父重獲光明。
9. 父欲殺後阿娘，舜阻止之。
10. 姚帝將二妃嫁予舜，王位由舜繼承之。

《史記·五帝本紀》也記載有舜逃脫焚廩之害，以兩笠飛下的情節；看似不合理，唐代變文竟依然沿用，不過，卻增加了其毫髮無傷是因為有「地神」的暗中協助。創作者加入神靈救助，合理化舜得以逃脫迫害，也滿足世俗百姓渴望神蹟出現的心理。而帝釋化為黃龍，救舜出井，也使得舜如有神靈護體，神聖不可侵犯。以上情節皆再再呈現舜子並不尋常，他的一舉一動似乎皆有神靈於暗中保護著。⁽¹¹⁾

此外，有學者認為〈舜子變〉其說雖有所本，然而，並非一昧承襲舊說，而是多有新義，其中並夾雜有極為厚重之「孝道」觀念，並認為這樣的現象跟與佛教徒弘揚佛教具體作法密切相關。不僅如此，以庶民想法為依歸，呼應人心，引發聽者共鳴，其通俗化的意味相當強烈。⁽¹²⁾

有關於舜子的故事，亦出現在廣西、越南瑤族民間古籍中。文學交流是文化交流的重要組成部

(9) 王國維：〈古史新證〉，《王觀堂先生全集·第6冊》（臺北：文華出版社，1968/3），頁2077。

(10) 謝明勳：〈舜子故事源流考論：以《史記·舜本紀》及敦煌寫本《舜子變》為中心考察〉，頁339、350。

(11) 以上摘錄自廖秀芬：〈從經典到世俗——以《舜子至孝變文》為中心之敘事架構〉，頁126、136-138。

(12) 謝明勳：〈舜子故事源流考論：以《史記·舜本紀》及敦煌寫本《舜子變》為中心考察〉，頁352。

分，是文化交流的最高級存在形態。任何一個民族的文學在其形成和發展中，或多或少會伴隨著與其他民族文學的相互交流、相互影響、相互促進的情形。因此，文學藝術的全球化，在很大程度上應該理解為文學價值和藝術價值的全人類共用；也就是價值的共識，而不是排斥個性、多樣性、多元性。不同的民族，在思想、行為和感情方面的相通性，突出了和彰顯了文學藝術的全球化共性、普遍性，這是全球化的可能性的前提，同時它又是建立在民族文學的差異性的基礎上。因為個性的差異性、風格的獨特性，正是文學之所以為文學本質特徵。⁽¹³⁾ 於此，透過與廣西、越南瑤族民間古籍的故事之比較，應可一窺不同族群、地域下，同類型故事其間的差異及其所反映投射之意義，以呈現各自獨特的文化面貌。

二、瑤族與越南瑤族古籍 —— *Sách Cổ Người Dao*（《瑤人古書》）

瑤族是中國南方的山地民族，大多散居在海拔 1000 公尺左右的高山林區，部分居住在生態環境比較惡劣的大石山區，少部分與漢族雜居在山坡邊緣的丘陵或河谷地帶。隋唐時期，瑤族先民主要分布在長沙、武陵、零陵、巴陵、桂陽、衡山、澧陽、熙平等郡，即今天的湖南大部分地區和廣西東北部、廣東北部山區。宋代，瑤族雖仍主要分布在湖南境內，但已有一定數量的瑤族向兩廣遷徙。元代，因戰亂更是被迫大量向南遷徙，深入兩廣腹地。到了明代，兩廣成為瑤族的主要分布地區。明末清初，部分瑤族又從廣東、廣西向雲南、貴州遷徙。與此同時，部分瑤族經廣西、雲南進入越南、寮國。此後，部分瑤族又經越南、寮國進入緬甸、泰國。1970 年代末 80 年代初，居住在東南亞一帶的部分瑤族又向歐美遷徙；瑤族由此而成為世界跨境民族。⁽¹⁴⁾

而越南在全世界有瑤族的國家中，人數排在中國之後，居第二位。在越南全國 60 個省市中，有 39 個省有瑤族居住。⁽¹⁵⁾ 大陸學者玉時階教授亦說瑤族是一個世界性的跨境民族，除中國外，2010 年時世界上還有 90 餘萬的瑤族居住在越南、寮國、泰國、美國、法國、加拿大等國。其中越南大約有 80 萬人，主要分布在河江、老街、高平、北件、諒山、宣光、安沛、太原、富壽、永福、北江、廣寧、萊州、山羅、和平、清化、義安、富安、嘉來、多樂、林同、平福、同奈等省，以上這些省份都是在越、中、寮的邊境。⁽¹⁶⁾ 當瑤族從中國進入越南時，帶去了許多民間文獻，越南學者將其

(13) 趙曉虎：〈全球化背景下的中國文學〉，《廣譯》第 5 期（2011/9），頁 80-83。

(14) 玉時階：《歷史的記憶——瑤族傳統文化研究》（北京：民族出版社，2016/12），頁 2、4、10-11。瑤族作為一個國際性民族，除了居住在中國的部分之外，還有的居住在越南等國家和地區。這些瑤族雖然居住在中國境外，但與中國瑤族是有共同的淵源。張有雋：〈中國瑤人文書及其研究〉，《廣西民族學院學報（哲學社會科學版）》1990 年第 3 期，頁 81。

(15) 奉恒高主編：《瑤族通史（下卷）》（北京：民族出版社，2007/6），頁 951。

(16) 玉時階：《歷史的記憶——瑤族傳統文化研究》，頁 2。

稱為「越南瑤族古籍」。這些越南瑤族古籍文獻大多是用漢字抄寫，亦有部分用土俗字抄寫。(17)

越南學者陳友山 (Trần Hữu Sơn) 博士認為瑤人古籍主要是指瑤人於 20 世紀初以前寫的全部書籍，是用像漢字的象形文字或借用漢字來記載。(18) 根據各種越南瑤族古籍的功能、需求，包含有宗教信仰書、文學書、習字和教做人道理的書。其中，由於瑤人的宗教信仰豐富，這類的古籍是最主要的類型。宗教信仰書有很多種，一是各類的經書；此外，還有各種看日子、建房、婚禮、祭禮、徵兆、算命等方面的書，這類書的使用頻率比較高。另外，也有各種祭祖書、求治病的書、求福求子書等等。可以說每種普通的需求、信仰，瑤人都有對應的指導書。雖然文學書的數量沒有宗教信仰書的數量那麼多，但是越南各個瑤人村寨還是都保有文學書；而文學書包含有：民間詩歌、史詩、俗語、謎語等。(19)

在陳友山博士從事田野調查的過程中，他發覺古籍在越南瑤人群體的生活中占有重要的地位，可以說整個瑤族文化都隱藏在古籍裡。因此，想了解瑤人，就得了解古籍以及當今社會中古籍的命運。(20) 不僅如此，因為有文字，有古籍，瑤人的民間文學沒有失傳。(21)

由於瑤族分布在越南全國 34 個省的村寨裡，古籍遺產相當豐富。(22) 1970 年代前，幾乎所有的越南瑤族村寨都有民間文獻，但由於經濟全球化的衝擊等原因，瑤族民間文獻流失很大。越南老街省文化體育旅遊廳在福特基金會贊助下，歷經幾年的努力，將在老街省等地收集到的 9648 本瑤族民間文獻進行歸類、整理，並申報為國家的「非物質文化遺產」項目。之後，又經過掃描、影印、篩選，並於該書後方附上越南文文本，在 2009 年正式出版。書名為 *Sách Cổ Người Dao*，中文意指

(17) 玉時階：《越南瑤族民間古籍（一）·前言》（北京：民族出版社，2011/8），頁 1-2。瑤族民間古籍內容廣泛，涉及歷史遷徙、族譜、家譜、文學、宗教、醫學和農事等。這些古籍文獻大都產生于唐宋元明清各朝代，均是以漢文書寫的手抄本，是研究瑤族歷史文化的重要史料。見玉時階：《歷史的記憶——瑤族傳統文化研究》，頁 410。此外，張有雋教授亦表示瑤人借用漢字編制各種文獻，傳抄經書和歌本，一定有很久的歷史。……從已經掌握的資料來看，瑤人文書種類繁多，按其內容、性質和作用，大致可分為過山文書、族譜和碑文石刻、宗教經書、歌書、醫書、其他瑤人古書等幾大類。見張有雋：〈中國瑤人文書及其研究〉，頁 25-27。

(18) 玉時階教授以為實際上是指學術界所說的土俗字；見陳友山著，李彩雲譯：〈古籍和瑤人保存古籍的問題〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 2。

(19) 陳友山著，李彩雲譯：〈瑤人和古籍〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 15-17。依據陳友山的描述：「瑤人的史詩不長，只有 200 ~ 300 句，超過 500 句的史詩很少，屬於『七言長篇』史詩。……有些史詩受了中國史詩的影響，如：〈梁山伯與祝英台〉、〈唐王〉、〈包公〉……」；由此可見，此處所謂的「史詩」應該比較像是民間故事詩一類的題裁。

(20) 陳友山著，李彩雲譯：〈古籍和瑤人保存古籍的問題〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 1。

(21) 陳友山著，李彩雲譯：〈瑤人古籍的價值〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 40。

(22) 陳友山著，李彩雲譯：〈古籍和瑤人保存古籍的問題〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 8。

為《瑤人古書》，其中第一卷為詩歌故事 (Truyện Thơ)。該書由陳友山 (Trần Hữu Sơn) 主編，民族文化出版社 (Nhà Xuất Bản Văn Hóa Dân Tộc) 出版。2010 年，廣西民族大學瑤學研究中心在越南老街省文化體育旅遊廳的同意授權委託之下，將已在越南河內國家民族文化出版社所出版的 1-2 冊帶回中國出版，命名為《越南瑤族民間古籍》。(23)

Sách Cổ Người Dao (《瑤人古書》) 原書雖然為越南河內民族文化出版社所出版，且為便於該國學者的認識與研究，將所有資料皆用越南語加以翻譯置於書後 (24)；但，事實上古籍的原貌主要還是以漢字為主。在 *Sách Cổ Người Dao* 原書中，收錄有不少故事書，像是〈韓朋古〉、〈童永古一本啟〉、〈灶皇古記〉等共 24 篇，以敘事歌謠的型態呈現。所謂的敘事歌謠，指的就是講述一個故事的傳統民歌，和一般著重在以抒情為主的民歌並不完全相同，它是有一個清晰的故事的。(25)

三、廣西瑤族〈舜兒古記〉以及越南瑤族〈舜兒古篆記〉

根據《中國少數民族古籍總目提要·瑤族卷》之介紹：在廣西凌雲縣瑤族聚居區亦流傳有舜兒故事，該故事對於研究瑤族社會歷史具有參考價值。(26) 這則可見的舜兒故事文本，原題為〈舜兒古記〉，總共有 483 句，大多以七言詩歌體呈現。故事概要是說：

舜兒的父親是堯公子，娶了李家女為妻。婚後三年無子息，經修橋念佛感動玉皇上帝，而生了一男一女。舜兒七歲時，被送入學堂讀詩書。三年三個月後，終得返家。不料，母親卻生了大病。母親故去，舜兒為其守孝三年。在舜兒生母去世後，父娶了後娘楊七婆，她帶象兒一起嫁過來。

舜兒父去河南、貴州做生意，舜兒在家遭後娘虐待，她自己的孩子象兒不但用海碗飽食又有肉吃，還得好衣衫穿；舜兒卻是吃得少，又只有破爛衣裳。某天，後娘要舜兒爬樹去摘成熟的桃子，於是，舜兒砍竹架梯上樹摘果，後娘竟收了梯子藏起來。過程中，她卻不小心反傷了腳。舜兒下不了樹，急著哭泣，又合掌向天祈求。上界玉皇得知，便命令白鶴來救舜兒，舜兒騎著白鶴才平安落地。後娘又要舜兒醫治她的腳傷，便讓他得以有飯可吃。

沒多久，後娘再起殺心，趁著舜兒爬上倉，指使象兒收了長梯，然後放火燒倉房。舜兒再度合掌拜天地，上界玉皇知曉後，先派雷兵降雨滅火，又令白鶴載舜兒下倉房。舜兒回家後責問後娘，卻反被後娘打得皮開肉綻，逃到山中去。舜兒妹妹得知消息，尋至山中送飯，兩人相見淚眼以對。為

(23) 玉時階：〈前言〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 1-2。

(24) 筆者於 2017 年 11 月 11 日訪談陳友山博士，根據原書編者陳友山博士敘述，書後所附越南語文本乃是依照瑤人講述者口傳之記錄，講述者有 Hoàng Sĩ Lực、Triệu Văn Quỳ 等人。

(25) J. H. 布魯范德著，李揚譯：《美國民俗學》（廣東：汕頭大學出版社，1993/12），頁 133。

(26) 國家民族事務委員會全國少數民族古籍整理研究室組織編：《中國少數民族古籍總目提要·瑤族卷》（北京：中國大百科全書出版社，2013/10），頁 398。

免妹妹遭殃，舜兒與她分別。豈料，三更半夜舜兒卻大病了起來。所幸上界玉皇飭令送藥給舜兒，他大難不死。

待到堯公返家，後娘栽贓舜兒惡劣，堯公不信。後娘因迫於堯公在家，不敢再打罵舜兒。可惜，好景不長，舜兒父親一出門去湖南，後娘又想殺舜兒。她告訴舜兒後園有口老井，裡頭藏有無數銀子，讓舜兒下井去挖寶。舜兒做了長梯下井，後娘令象兒把梯子收走。然後，用石堆泥土填井。被困井中不見天日的舜兒嚇得哭泣，叩首百拜，引來龍神和土地神相伴。土公和土母亦將此事上奏玉皇，玉皇命龍王引舜兒出井。

後來，舜兒經人指點，到歷山耕種。在得到玉皇派來的雷兵之協助下，獲得豐收，便接來妹妹同住。父親逝世，完成安葬之後，皇府國公來請舜兒登基。象兒得知消息，大為嘲笑。於是，舜兒買香拜天地；天色竟大變，三司雷公劈殺後娘和象兒。後娘跟象兒遭雷劈為四塊，分別變成蚊子、毒蟲、鼠蛇等物。最後，舜兒當上皇帝。⁽²⁷⁾

而〈舜兒古篆記〉(Truyện Thuần Nhi) 即為 *Sách Cổ Người Dao* (《瑤人古書》) 詩歌故事卷中的第 13 則，通篇以七言詩歌體形式表現，共有 212 句。與中國出版的加以比對，句數完全相同。

〈舜兒古篆記〉故事的大意如下：

舜兒三歲的時候，母親就過世了。他跟父親雖然住在一起，但衣褲卻沒人可以幫忙縫補。於是，他的父親便娶個繼妻。周氏嫁給他的父親後，趁著丈夫出門工作，日日打罵舜兒。舜兒不得閒，不僅要上山看管牛群，衣衫破爛還無人縫補，夜間寒冷也沒有被子可蓋。

父親賺了些錢，交給後娘收藏。見到舜兒衣衫依舊破爛，便問後母怎麼回事？後母用計裝哭，一邊向舜兒父親抱怨，舜兒難教，天天跟其他小孩玩耍；一邊又取出新衣，讓舜兒替換。可是，一旦父親再出門，後母立刻就要他脫了新衣，把衣裳收回箱籠裡。

周氏心中暗想，留著舜兒將後患無窮。於是，便想計謀要除去這個眼中釘。有一天，周氏準備了飯食讓舜兒吃，一方面告訴舜兒，曾經有人在後院地底下埋了無數金銀，如果想要有好的衣衫，隔天努力去把地下寶藏挖出來。舜兒不疑有他，隔天果然去挖地。可是，挖了十餘丈，根本就不見金銀財寶。這時，才恍然大悟是繼母要害他。因此，趕緊又挖了一個橫坑躲著。果不其然，繼母眼見舜兒在深不可測的地底內，便放下石堆，想要將他活埋。

舜兒的生母雖然已經死了，但是她的靈魂看到自己的兒子被害，便化作了龍，穿過土層去救舜兒。舜兒這時已經快要喘不過氣，突然見到一隻龍來到身邊，而龍穿越過的土層正好給舜兒一個縫

(27) 國家民族事務委員會全國少數民族古籍整理研究室組織編：《中國少數民族古籍總目提要·瑤族卷》，頁 398。

詳細文本則可見廣西民間文學研究會編：《瑤族文學資料第九集·歌謠》(廣西：廣西民族學院中文系民間文學教室，1980)，頁 48-54。

舜兒也是抵莫子
 舜兒同父君一宅
 無人縫紉與衣袴
 遠公接取後妻袴
 周氏替滯遠家裏
 遠今日，出外作
 舜兒在家同轉母
 即日父在無被罵

年方三歲母既亡
 父子二人食飯清
 無人針線縫衣袴
 晨昆袴好與家建
 願作孀養舜兒
 或生意業或耕種
 後娘連日打無情
 食也飽未睡也安

舜兒古篆記

【越南出版】

(十三) 舜兒轉

舜兒也是抵莫子
 舜兒同父君一宅
 無人縫紉與衣袴
 遠公接取後妻袴
 周氏替滯遠家裏
 遠今日，出外作
 舜兒在家同轉母
 即日父在無被罵

年方三歲母既亡
 父子二人食飯清
 無人針線縫衣袴
 晨昆袴好與家建
 願作孀養舜兒
 或生意業或耕種
 後娘連日打無情
 食也飽未睡也安

舜兒古篆記

瑶人古韻

【中國出版】

隙能呼吸。舜兒又抓著龍的尾巴，龍藉此便將他帶到洞外。

繼母以為舜兒已死，歡天喜地。沒想到，舜兒竟然毫髮無傷的回家來。繼母又裝作傷心樣，哭訴她以為失去舜兒了。嘴上說著好聽話，感謝老天不絕好人命；內心卻又想著惡毒的計謀。

又有一天，狂風將米倉的屋簷吹壞了，繼母要舜兒爬上去修理。舜兒依言便爬上了屋頂，不料，後母居然在底下放了一把火。眼見火勢猛烈，舜兒情況危急，卻飛來一隻鳥，將舜兒救下地。

當舜兒長到十五歲時，他到深山裡自食其力。憑著自身功夫，開墾耕種，穀糧堆積如山。有一年遇到天災，到處飢荒，米價昂貴。舜兒就將米賣給有錢人；見到窮苦的人家，則將米送給他們。

舜兒不在家，周氏日子過得自在快樂。舜兒的父親因為乾旱，生意不好，於是回家；卻不見舜兒的蹤影，忙問周氏舜兒的下落。周氏假意哭泣，告知他舜兒落井身亡。舜兒的父親聽了，傷心欲絕。

後來，夫妻兩個聽說有人在三江口賣米，有錢的人去買，米糧要價公道，貧窮的人則是不需要任何花費。周氏要丈夫去求米，於是，隔天舜兒父親便前往三江口。舜兒父親遇到一位看起來二十幾歲的君子，便向他說明源由且求其救助。舜兒一聽，反問他姓名和住處後，趕忙下拜，和父親相認，並將過往繼母的詭計告訴父親。父親聽聞後，又喜又怒，喜的是舜兒平安健在，怒的是後妻竟

然那麼壞心。舜兒父親氣的想要殺了周氏，但舜兒卻好言相勸，要父親心存善念。舜兒將米給了父親，又派船將父親送返家。周氏見到丈夫歸來，忙問狀況。舜兒父親告訴周氏，他遇到一位形似舜兒的好心人。

新的一年，百姓扶持舜兒擔任新王，因為他濟貧扶弱，讓百姓免於飢荒。舜兒登基後，迎接他的父親到天子殿。之後，又去接了周氏。當舜兒一樣在轎前下拜時，卻突然一聲雷響，活活將周氏劈死了。(28)

上述兩個舜兒故事的文本雖然都是出自於瑤族，不過，兩者之間仍是存有一些差異。首先，廣西的版本較越南的多了有關舜兒父親以及舜兒出生前的描述，且與中國所言舜兒父親是「瞽叟」亦大相逕庭，指稱是「堯公子」。

依照《尚書·堯典》的記載：「帝曰：『咨！四岳。朕在位七十載，汝能庸命，巽朕位？』岳曰：『否得忝帝位。』」曰：『明明揚側陋。』師錫帝曰：『有鰥在下，曰虞舜。』帝曰：『兪，予聞，如何？』岳曰：『瞽子，父頑，母嚮，象傲；克諧以孝，蒸蒸乂，不格奸。』帝曰：『我其試哉！』」清楚可見，帝堯因年事已高，開始考慮尋找接班人。這時，四岳的首領推薦舜，理由是舜的孝德—在舜的家庭中，其父生性凶頑、其母愚昧、其弟狂傲，在這種環境下，舜仍能以孝悌之德感化他們，使家庭和睦，這證明舜是有大德之人。(29)

因此，堯、舜並非父子關係，而廣西文本卻言舜兒父親是「堯公子」，恐是由於一來堯、舜聲名遠播，二因起於對「堯退舜繼」帝位之誤解，以為兩人是皇家父子。同樣的情況，到了越南的〈舜兒古篆記〉就更為明顯，稱舜兒父親為「遶」公。「遶」，實際上應為「堯」。在瑤族的文獻裡，瑤人使用漢語文是不嚴格的，他們不像漢語文本那樣講究用詞組句，而是常用同音詞或近音的詞語來代寫正規的漢語詞語。於是，在書面上就出現了所謂的「錯別字」。(30) 不過，從「堯公子」到「遶」公的抄寫，卻可見其一脈相傳的痕跡。

再者，在廣西的〈舜兒古記〉中，出現有中國地理上的地名，例如：「其後堯公去作客，直往河南作客其」、「奏往貴州河南界」、「爺又將前去作客，再往湖南作客時……」(31) 等等，這些「河南」、「貴州」、「湖南」的稱呼到了越南〈舜兒古篆記〉則皆已不得見。由此可知，對於生活在越

(28) 古籍原文請見 Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, (Hà Nội: Nhà Xuất Bản Văn Hóa Dân Tộc, 2009/12), pp.260-271; 越南老街省文化體育旅遊廳編:《越南瑤族民間古籍(一)》, 頁 211-222。中文白話散文見鄭美惠輯撰, 阮氏蕾譯編:《看故事學越南語:令人驚豔的越南瑤族民間古籍故事》(台中:白象文化事業有限公司, 2024/5), 頁 90-91。

(29) 劉曉:〈「瞽叟殺舜」故事的演變及其文化意蘊〉,《湖北工程學院學報》第 43 卷第 2 期(2023/3), 頁 11。

(30) 李增貴:〈瑤歌的整理和翻譯〉,《廣西民族研究》第 2 期, 1985, 頁 88-90。

(31) 廣西民間文學研究會編:《瑤族文學資料第九集·歌謠》, 頁 49、51。

南的瑤人來說，中國的地名可能不是那麼必要熟悉與記憶，於是，反映在故事的認知上加之代代相傳的過程中便被稀釋而刪減了。

四、越南瑤族〈舜兒古篆記〉和中國古代的舜子故事之比較

所謂的世界文學，是指那些不僅在本民族範圍內發生發散性影響，而且同時對其他民族的精神生活產生輻射性影響的作品。所以，不同民族文學間可以進行相互文學比較。(32)

如同前文所述，瑤族從中國向外遷徙時，也隨之帶去了民間文獻，因而使得這些古籍也能在世界各地瑤人族群中流傳。研究越南瑤族的陳友山博士便指出，越南老街省的瑤人都有教育孩子習字的傳統。越南瑤族很注重文字的傳承，在傳統家庭中，瑤人都期望自己的兒子能學習漢字和瑤族土俗字。因為懂得使用漢字和瑤族土俗字的人才可以做巫師，而巫師是瑤人傳統社會中最高貴的職業。(33)

越南瑤族古籍中記載了上千句反映人與人之間、人與自然之間相處方式的優美句子，而那些被選用來教導的句子變成「賢文」，成了瑤人生活的規矩。除了習字外，更重要的是可以學習各種處理與親人、鄰居之間關係的方式。孩子們通過學習，學會了敬重父母、勤奮勞動、關愛兄弟姐妹。於此，整個群體都好像生活在各種道德教導中。古籍也記載了傳承了一代又一代的儀式、風俗、信仰，從呱呱墜地到離開人世，瑤人都在接受古籍所傳承的文化洗禮。例如：巫師們會按古籍所記載的各種安胎、求花、供母的儀式為胎兒祈福；也會用古籍指導家庭，並進行各種儀式。透過儀式，傳統文化信息得以傳承。(34)

而越南瑤族古籍教材的內容都是用三言、四言、七言的古文形式寫成，且依據不同年齡的學生有不同的道德標準。例如：十歲以上的，就會學到如何處理個人與集體的關係，強調忠、孝、節、義等精神。同時，在這個年齡階段，孩子們也會學到很多瑤人的故事、詩、神話等。這些書都歌頌了窮人家的孩子學習好、飽含情義或武功高超的事蹟，批判那些懶惰、凶惡的人。(35) 以〈舜兒古篆記〉(Truyện Thuần Nhi) 為例，故事結局之後便有警戒的話語——「奉勸人娘作繼婦，莫生惡意害前兒。莫學周氏惡心者，害若紫微皇帝機。」(36)

(32) 趙曉虎：〈全球化背景下的中國文學〉，頁 85-86。

(33) 陳友山著，李彩雲譯：〈瑤人古籍的價值〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 36。

(34) 陳友山著，李彩雲譯：〈瑤人古籍的價值〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 37-38。

(35) 陳友山著，李彩雲譯：〈瑤人古籍的價值〉，《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 38。

(36) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.271. 越南老街省文化體育旅遊廳編：《越南瑤族民間古籍（一）》，頁 222。

由此便不難理解，中國文化圈中流傳的舜子故事為何也會／能進入到越南瑤族社會裡，並持續傳播及保存著。可見主人翁舜兒即使遭遇繼母虐待卻仍自食其力努力生活，甚且伸出援手救助貧苦者，更難能可貴地心存善念勸慰父親原諒對其予以施暴的繼母等等；不論是漢人還是越南瑤人，都認為這樣的精神是值得效尤的。當然，繼母的殘忍、狠心、惡毒，則是全人類所不予認同的。換言之，舜子故事亦得以在越南瑤族流傳，正是價值的共識並不受限於國家、區域或族群區隔之實際體現。

不過，即使文學、藝術有所謂全球化的共性和普遍性之現象，但是，文學之所以為文學，主要還是在本質特徵仍然有其個性的差異性與風格的獨特性上。此外，在民間文學流傳過程中，會因時空距離、語言、習俗的差異，或甚且講述者個人的特質等因素，而產生或多或少的變異。這也就是說，流傳狀態中的內容，其實一直是流動著的，雖然大體主流的樣態差不多，但流動過程中免不了會有旁流異支的加入或歧出。因為實際上民間文學的理解，一直就是和民俗的各種事項以及語言等等息息相關的。從他處傳來的民間文學，若在本地落地生根，就一定會留下本地民俗及語言的特色。因時因地而有變異，而有不同異文，正是各地不同民俗、語言的制約所造成的結果。⁽³⁷⁾於是，*Sách Cổ Người Dao*（《瑤人古書》）的〈舜兒古篆記〉（*Truyện Thuận Nhi*）也就或多或少有別於中國古代的舜子故事，而這正也是它們特別的所在之處。

首先，以文學體裁來看，中國古代的舜子故事如同前面所述，可見於史冊典籍的記載，其後在通俗文本例如變文當中被加以改編。然而，在這些資料當中，卻幾乎不見有用七言詩歌體敘述故事的型態。專門收集中華謠諺的朱介凡先生在《中國歌謠論》裡提到，歌謠是苗瑤地區精神生活的主要呈現。而故事歌者，就是唱歌謠以敘述故事。邊疆民族的故事歌，除了敘述其民族的事物，大多多的部份，皆把中國本土普遍流傳的小說、戲劇、故事傳說，糅合吸納，作為講唱的主題。《廣西特種部族歌謠集》說這種歌叫「古言歌」，正是中原地帶「講古」之意。此外，七言句子算是歌謠的主要句式，尤以邊遠地區為然。⁽³⁸⁾因此，從這個觀點而言，〈舜兒古篆記〉以七言敘事詩形式作為一種文類留存的意義，是有其重要的價值。⁽³⁹⁾

再者，從故事情節著眼，也有其不同於中國舜子故事之處。首先，中國的舜子故事當中，對待

(37) 胡萬川：《民間文學的理論與實際》（新竹：國立清華大學出版社，2004/1），頁 246-247。

(38) 朱介凡：《中國歌謠論》（台北：中華書局，2019/5），頁 70、252、548-549。

(39) 「敘事歌的藝術遠在文字出現之前就已經很成熟了」；見阿爾伯特·貝茨·洛德著，尹虎彬譯：《故事的歌手》（北京：中華書局，2004/5），頁 124。

舜子不慈愛的並非僅僅只是後母，還有舜子的親生父親瞽叟。⁽⁴⁰⁾ 生身父親為虐待孩子的幫兇，是比較特別的，也令人匪夷所思，更遑論瞽叟還不只是幫兇，而是主要的加害者之一。⁽⁴¹⁾ 因此，為了合理化思維，舜子的父親被塑造成「瞽叟」的形象——即眼睛看不見，眼瞎的人。〈舜子至孝變文〉最後甚至有這樣的描述：「……叟耳識其音聲，曰：『此正似吾舜子聲乎？』舜曰：『是也。』便即前抱父頭，失聲大哭。舜子拭其父淚，與舌舐之，兩目則明。……」⁽⁴²⁾。而瞽叟的盲愚昏聩正是為了凸顯舜的賢良、英明，也就是說，父慈子孝並不稀奇，父不慈反是襯托了子的孝。⁽⁴³⁾

相較之下，*Sách Cổ Người Dao*（《瑤人古書》）中的〈舜兒古篆記〉（Truyện Thuần Nhi）則更近似於「灰姑娘」故事之「後母虐待前妻子女」的類型。⁽⁴⁴⁾ 民間故事中的後母，似乎都有一個共通的特質，以虐待繼子女有名；而灰姑娘類型故事中的後母也未有不狠毒的。後母的出現似乎就只為了虐待小孩，或為自己的私心而有所作為，卻不是以身為母親的角度來行事。因此，講到「後母」，就等於「狠心」、「惡毒」，可以說她在故事中的角色幾乎被定型。後母為何會一面倒的有如此之形象呢？鹿憶鹿教授以為，這可能是因為後母對父親不滿，見到繼子就生氣，於是，將氣出在繼子身上。後母故事中，似乎常見到父親是缺席的，忙於賺錢養家的父親對於子女的關心顯然是不夠的，而父親角色不夠稱職，是否代表他的丈夫角色可能也扮演不好？故事中後母的誇張行徑，少見父親出面關切，可以說是後母故事的普遍現象。⁽⁴⁵⁾ 〈舜兒古篆記〉便描述舜兒的父親為了生意或是農耕，日日外出做事。偶然回家，才或多或少發現了兒子穿著的衣裳破爛而詢問了繼母周氏。繼母一面以孩子難教推託，一邊當著父親的面讓舜兒換了新衣。然而，只要父親一不在，繼母就立刻收回舜兒的新衫。甚至，考量到久留舜兒遲早會成禍患，反而逼得後母心生歹念，設計謀欲除掉舜兒這個眼中釘。⁽⁴⁶⁾

(40) 日本金文京教授認為：敦煌〈舜子變〉謀害舜的主體從《孟子》、《史記》中的瞽叟、弟象轉移到後妻，後妻扮演了重要的角色。金文京：〈敦煌《舜子變》與廣西壯族師公戲《舜兒》〉，《西域——中外文明交流的中轉站》（香港：香港城市大學出版社，2009/1），頁57。

(41) 鹿憶鹿：〈不能翻身的後母角色——從二十四孝到灰姑娘故事中的後母〉，《廣西梧州師範高等專科學校學報》第19卷第2期（2003/5），頁11。

(42) 無名氏：〈舜子至孝變文〉，《世界文學大系·中國之部第二冊》（臺北：啟明書局，1960），頁131。

(43) 鹿憶鹿：〈不能翻身的後母角色——從二十四孝到灰姑娘故事中的後母〉，頁9-10。

(44) 阿爾奈——湯普森分類法（AT分類法）為國際通用的民間故事類型分析法，當中的編號：510 Cinderella and Cap's Rushes. I. The Persecuted Heronine. (a)The heroine is abused by her stepmother and stepsisters and (a1) stays on the hearth or in the ashes and, (a2) is dressed in rough clothing—cap of rushes, wooden cloak, etc. ; Antti Aarne's, Translated and Enlarged by Stith Thompson, *The Types of The Folktale—A Classification and Bibliography*, (Suomalainen Tiedeakatemia, Academia Scientiarum Fennica, 1964), p.175.

(45) 鹿憶鹿：〈不能翻身的後母角色——從二十四孝到灰姑娘故事中的後母〉，頁8、10-11。

(46) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.260-262。

雖然，〈舜兒古篆記〉裡的父親因為忙碌而疏於對孩子的照料，不過，對比中國史冊典籍以及〈舜子至孝變文〉等等的描述，〈舜兒古篆記〉中舜兒的父親並未一面倒的偏袒後母，甚至在歸家後，「不見舜兒在何方，忙問周氏傳兒郎，如何不見在家中」。當繼妻周氏告知舜兒由於落井身亡，其父還傷痛莫名。⁽⁴⁷⁾ 可以說，在〈舜兒古篆記〉裡，舜兒的父親並不像是「瞽叟」那般無情無義的加害者，他更似被繼妻蒙在鼓裡而遭騙上當的受害者，並非不愛自己的孩子。如此情節的差異，可能與古籍在越南瑤族中扮演的角色有所關連。如同前面所述，越南瑤族古籍重在對子弟，尤其是師公、道公養成的教育之傳授，除了道法的學習外，道德涵塑亦不可失。父親對於孩子不慈愛，恐怕並不是一個良好的教育示範，因此，相關的情節也就發生了「變異」，以符合當地的文化和宗教信仰。由此可見，民間文學的內容具有流動的特質，也就是說，任何民間文學絕不僅是自動的「原文」傳播，甚至也不僅僅是情境中的原文，而實際上是一種複雜的傳通事象。⁽⁴⁸⁾

如上的現象，在越南瑤族〈舜兒古篆記〉中還可見於舜兒受困於井中一段。當繼母周氏施毒計，誘騙舜兒地下藏有金銀，待得挖了深井十餘丈之後，周氏竟放下石頭，將舜兒埋於井內。大難不死的舜兒，由於躲在橫向坑道間，因此逃過一劫。不過，卻無法自深井脫離。此時，舜兒的親生母親，「香魂見兒被害埋，母親化作烏龍隻，川（穿）過土中救我兒」。⁽⁴⁹⁾ 由此可見，解救舜兒的烏龍，乃是生身母親靈魂之所變。此處之情節，與〈舜子至孝變文〉的描述並不相同。〈舜子至孝變文〉裡，瞽叟要舜子去淘井，隨後用大石將井填塞，於是，帝釋變作一黃龍，引舜出穴。⁽⁵⁰⁾

瑤族深受儒、佛、道三教的影響，尤其是道教對瑤族的影響最深。道教是中國土生土長的宗教，瑤族在中國已接受道教並信仰，遷入越南時，也把與道教信仰相關的儀式帶進了越南。越南瑤族有許多宗教儀式與活動，一年中各種大小宗教儀式及活動從不間斷⁽⁵¹⁾，而這些宗教的程序、儀式都極具道教色彩。此外，越南瑤人認為祖先、親人、鄰居死後都將融入超然的力量。他們下黃泉時，仍帶著原來在世時的品行，有的追隨仙佛，有的與鬼神交友。因此，即使屍身腐爛，他們仍然對子孫有多重的影響。⁽⁵²⁾ 於此，〈舜兒古篆記〉才會出現舜兒已過世的母親化身龍隻對其救助的情節，與〈舜子至孝變文〉所說的帝釋護佑舜子則大相逕庭。帝釋，原為印度教神明，後為佛教所吸收，乃成為佛教的護法神；為一名具佛教色彩之至上人物。⁽⁵³⁾ 不難發現，越南瑤族的〈舜兒古

(47) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.267。

(48) 揚·哈羅德·布魯范德著，李揚譯：《美國民俗學概論》，頁 37。

(49) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.263。

(50) 無名氏：〈舜子至孝變文〉，頁 130。

(51) 奉恒高主編：《瑤族通史（下卷）》，頁 1008、1011-1012。

(52) 杜光聚、阮璉著，黎巧萍、李娜譯：《越南瑤族的今昔》（北京：民族出版社，2018/8），頁 127。

(53) 謝明勳：〈舜子故事源流考論：以《史記·舜本紀》及敦煌寫本《舜子變》為中心考察〉，頁 357。

篆記〉與中國〈舜子至孝變文〉清晰地呈顯了各自不同宗教思維的投射。

由前可知，瑤人受道教的影響很大。不僅流傳數量最多的古籍是各種道教經書，就連像〈舜兒古篆記〉這樣的敘事歌謠，也或多或少體現、投射並反映了道教在其生活中舉足輕重的地位。於是，在〈舜兒古篆記〉的敘述表現上，便衍化出有別於中國流傳的舜子故事之樣貌。這個部分也同樣呈現彰顯在廣西的〈舜兒古記〉裡，例如：「七七修齋都完備」等等的描述。⁽⁵⁴⁾

有學者以為〈舜子至孝變文〉修辭上有一突出的特點就是「重複」，即舜子先後遭遇到「摘桃」、「塗廩」、「浚井」的三次災難。而以「三」為標誌的「三疊式」組織結構形式，是民間故事的主要特徵之一。所謂的「三疊式」，就是故事中相同或相近的情節，一而再、再而三地反覆再現，像事件的三起三落、三次考驗、三道難題、三次較量等等。⁽⁵⁵⁾而劉守華教授更表示其中的「難題考驗」情節，實際上是源於世界上各民族普遍存在的「成年禮」。這是流行於部落社會的古老習俗。就男子而言，常常要強迫他接受一系列的考驗，如讓他脫離家庭和部落，放逐森林原野之中，經受艱苦生活的磨練，以象徵他脫離童年而進入成年，成為本部落社會的正式成員，可以擔當重任，並獲得同異性交往的資格。把人類古代社會的流行習俗和舜的傳說聯繫起來進行思考，就不難明白，它的基本情節是由古代成年禮中的一系列考驗所構成的。塗廩、浚井等等，原本不是他人對舜的迫害，而是部落領袖按照傳統禮俗安排的幾場考驗。後來在敘說中才演變成瞽叟和象精心設計的陰謀；舜則脫危難而不生怨恨，從而成了儒家倡導的孝悌之道的楷模。⁽⁵⁶⁾

〈舜兒古篆記〉在三道難題的描述上，雖然與〈舜子至孝變文〉不完全相同；不過，依然具有「三疊式」的結構，甚至，就其內容情節而言，可能更貼合劉守華先生所言的生活習俗之投射。在後母投石於井、放火燒屋的毒計雙雙失敗之後，「舜兒眼見惡心寔（實），郎遊別處不回家。舜兒年方十五歲，走入深山住一人。」自此之後，舜兒便在歷山赤手空拳，辛勤地開墾耕種。而周氏以為舜兒被迫離家出走，已然死亡，日日在家感到自在快樂。⁽⁵⁷⁾實際上，越南瑤人社會，小孩長到六、七歲稍懂事，就會逐漸跟著大人做些活兒，以增長知識和技能；男孩甚至要跟父兄上山狩獵，下地幹活。在這期間，小孩通過聽大人唱歌、講故事，從旁觀摩大人舉行的各種儀式，獲得一些自然、社會和人生的知識，為進入社會作準備。男孩長到十二、三歲以後，經濟條件允許的，宗族要為其舉行「度戒」儀式。「度戒」儀式不僅要受「睡陰床」、「跳雲台」、「上刀梯」等嚴格考驗，還要接受師父訓詞。「度戒」儀式對教育青年有重要意義，讓青年懂得經過儀式他們已長大成人，必

(54) 廣西民間文學研究會編：《瑤族文學資料第九集·歌謠》，頁 53。

(55) 張鴻勳：〈神聖與世俗：《舜子變》的敘事學解讀——兼論敦煌變文與口承故事關係〉，頁 389。

(56) 劉守華：〈試論「舜子變」的演變〉，頁 574-575。

(57) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.265-267。

須像成年人一樣承擔起社會責任，不怕艱難困苦，去完成自己的職責。⁽⁵⁸⁾ 因此，〈舜兒古篆記〉中，舜兒受繼母之迫，不得不離家，在歷山獨自生活，接受各種考驗；更能反映瑤人社會下男孩子成長的日常情狀。

最後，〈舜兒古篆記〉與〈舜子至孝變文〉在故事結局上亦有所差異。〈舜子至孝變文〉提及，由於舜勸阻眾人殺害後母而傳孝名於天下，於是，「堯帝聞之，妻以二女」且「遂卸位於舜」。⁽⁵⁹⁾ 對於上古時期「堯舜禪讓」是否真有其事，一直是論者深感興趣且樂於討論的問題。然不論其事是否實有，抑或是別具意義，其所發揮之莫大影響，無疑是正面的。營設一種崇高美德以供後人追循，並將其事委諸於前賢高行，或許正是當初眾人戮力編造此類傳聞的原始初衷。⁽⁶⁰⁾ 也就是說，透過這樣的故事，亦不斷推動著孝德作為中華民族核心精神的穩固與發展，並體現了中華民族重視孝德的精神傳統。⁽⁶¹⁾

儘管〈舜兒古篆記〉的最後，當舜父得知後妻惡心肝的實際情況，欲殺周氏之時，也同樣得到了舜兒的勸攔。不過，舊皇之所以退位，更主要是因為舜兒救濟貧困者而深獲百姓的支持。⁽⁶²⁾ 此外，不同於〈舜子至孝變文〉：「父放母命已後，一心一意快活」⁽⁶³⁾，卻不曾交代後母日後之境遇如何；反觀〈舜兒古篆記〉言及舜兒登基後，即迎接親生父親到朝陽殿，舜父笑吟吟地搭上了轎子，下轎後亦安然地接受了舜兒的禮請，卻不料換成周氏時，「舜兒轎前方下拜，一聲雷響霹靂娘亡」。⁽⁶⁴⁾ 舜兒的父親與虐待舜兒的後母，下場竟是天差地別。

大團圓故事，是一種世界性的民間文學現象。在傳統鄉土社會，民間故事擔負著極其重要的社會功能——倫理道德，亦即價值觀教育的功能。傳統鄉土社會的教育普及率低，鄉民歷史知識和價值觀念的形成，很大程度上是通過老輩人口口相傳的故事來間接完成的。民間故事總是要讓人相信善良、正義是能夠得到天道支持的，即所謂「善有善報，惡有惡報」。即便現實生活中常有是非顛倒，好人不得好報的事例發生，但在民間故事中是絕不可以出現的，否則便會混淆是非觀念，不利於未成年聽眾世界觀、人生觀和價值觀的形成。所以，那些惡毒的後母、背叛的兄弟、兇殘的巨人、陰險的老妖婆一定會受到應有的懲罰；藉此呈現一個井然有序的世界，並由此滿足了人終極的和永

(58) 奉恒高主編：《瑤族通史（下卷）》，頁 990-991。

(59) 無名氏：〈舜子至孝變文〉，頁 131。

(60) 謝明勳：〈舜子故事源流考論：以《史記·舜本紀》及敦煌寫本《舜子變》為中心考察〉，頁 358-359。

(61) 劉曉：〈「瞽叟殺舜」故事的演變及其文化意蘊〉，《湖北工程學院學報》第 43 卷第 2 期（2023/3），頁 14-15。

(62) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.269-270。

(63) 無名氏：〈舜子至孝變文〉，頁 131。

(64) Lưu Xuân Lý, *Sách Cổ Người Dao Tập I Truyện Thơ*, p.270-271。

恆的願望。而懲惡揚善是世界性的故事母題，也是全世界的宗教信念，只要相信有一種超自然的公平正義的力量存在，就一定會相信人類善惡行為都有相應的結果。⁽⁶⁵⁾ 誠如本文前面所述，古籍既作為越南瑤族人學習道德以及宗教知識之重要媒介，也就會自然而然地認同像〈舜兒古篆記〉這類故事的精神，並將其予以保存和流傳。

五、結語

總體來說，越南瑤族敘事歌謠〈舜兒古篆記〉由於故事內容具有道德倫理的教育作用與意義，即使故事素材源自於中國漢人文化圈，卻仍被重視生活教育和習字傳統的越南瑤人予以擷取和吸納；甚至，因而將其記錄在瑤族民間古籍中，代代相傳。

此外，廣為流傳的作品，流傳得越久越遠，變異就越多。而各個不同地區展現的各個不同的文化特色，也就更明顯。這是因為故事要動聽者之心，一定要讓大家對故事有著聲息相通的意趣。因此，故事中不同信仰、不同文化的價值判斷，也一定會轉而合乎本地信仰與文化的價值判斷。⁽⁶⁶⁾ 於是，〈舜兒古記〉、〈舜兒古篆記〉便也自然而然承載了廣西／越南瑤人的道教思維和相關風俗和特色，並在故事中具體且鮮明地表露無遺。

沒有兩個文化是雷同的，即使某些民族習俗形式上表現了某個共同點，但是當這個共同點一旦進入某個特定的文化脈絡之中，與該文化其他特質形式相組合，這個共同點的情感傾向和文化意義卻又差異鮮明。⁽⁶⁷⁾ 而廣西〈舜兒古記〉、特別是越南 *Sách Cổ Người Dao*（《瑤人古書》）的〈舜兒古篆記〉正皆是這樣的例子，可以說它們是中國舜子故事外另一個重要的「異本」之代表。因為它們的存在，也讓我們見證到文學作品有其共通的精神卻又富含多元面貌獨特性之特質與價值。

(65) 施愛東：《故事法則》（北京：生活·讀書·新知三聯書店，2022/1），頁 54、58、66-67。

(66) 胡萬川：《民間文學的理論與實際》，頁 26。

(67) 孟慧英：《西方民俗學史》（北京：中國社會科學出版社，2006/9），頁 303。

タイのミエンの歌における歌謡語語彙の特徴について

東京學藝大學 名譽教授
吉野 晃

1. ミエンの言語使用

中国南部と大陸東南アジア北部に分布するミエンは、モン = ミエン (Hmong-Mien) 語族のミエン語を母語としている。ミエンの使用言語は甚だ複雑である。ミエン口語の他に、大儀礼では儀礼語(ツィア・ワー tsia'-wa:', ritual language. ミエンは粵語 kek' wa:' だという)で経文を読誦し、小儀礼では口語(ミエンワー mien' wa:')あるいは漢語雲南方言(ケツワー k'et' wa:')を用い、歌は歌謡語(文語) (literary language あるいは song language) で唱う。歌謡語は、ミエン語でヅウンニエイワー (dzuj nei wa:' 歌の言葉)という。同じ漢字であってもミエン口語と儀礼語と漢語雲南方言と歌謡語では発音が異なる。たとえば、「不」という漢字は、口語では「マイ」(mai')であるが、儀礼語では「パツ」(pa?)、漢語雲南方言では「プ」(pu)、歌謡語では「ヤーム」(ja:m')と読む。

「歌謡語」は、ミエン口語と異なる言語ではない。口語語彙とは異なる歌用の雅語語彙の集合を dzuj nei wa:' と言っているのである。このような歌用の雅語群を持つことがミエンの歌の最大の特徴である。実際の歌詞には、歌謡語語彙が多く入るが、口語語彙も漢語語彙も入っている。歌謡語語彙と口語語彙が漢字で書かれるときには、発音の似ている漢字を宛字するため、字面だけ読んでも意味が分からない。即ち、歌謡語と口語の両方を知らなければ漢字で書かれた歌詞は理解できないのである。本発表では歌の種類によって、字面だけでは意味不明の語彙の割合が異なることを示す。

更に、筆者は2冊のミエン語 - 英語辞典 *Modern English-Mienh and Mienh-English Dictionary*. (Panh(ed.)2002) と *An Iu-Mienh —English Dictionary with Cultural Notes* (Purnell(ed.)2012) から 800 語以上の歌謡語を抽出した。更に、現地調査によって辞典にない歌謡語語彙を収集した (吉野 2020)。本発表では、それらの作業に基づいて、ミエンの歌謡語の特徴を述べる。

2. 表記の説明

本稿で用いる発音表記やフォントにない文字の示し方を以下で説明する。

発音は IPA (国際音標文字) を用いる。声調は、無：中平、´：高昇降あるいは高平、`：低平、ˇ：

低昇、^：中降、~：低昇降で示す。ハイフンでつながった熟語の場合、ハイフン前の音節は平音節の場合は中降調に、促音節の場合は低平調になる。

フォントにない字を〔 〕で示す。今までは〔A+B〕の形で示したが、Aが偏でその右にBが旁となるのか、A冠の下にBが来るのかが分からなかった。その弊を補うため、以下のような書き方をする。理解のため、既存の文字で例を示す。

〔A→B〕Aが偏となりBが旁となる偏旁の関係。又は単にAの右隣にBが位置する。例：〔泣→立〕=泣。

〔A↓B〕Aが冠となり、Bが脚となる関係。又は単にAの下にBが位置する。例：〔父↓多〕=爹。

3. 語彙素性

歌詞で用いられる語彙は、1. 歌謡語語彙、2. 口語語彙、3. 漢語語彙である。個々の歌謡語語彙の漢字と発音、漢字と意味の関係を語彙素性^{そせい}という。歌謡語の語彙素性としては大雑把には1. 漢語由来の語彙、2. ミエン語由来の語彙(歌に特化した意味となっている)、3. 由来不明の語彙がある。更に細かく区分すると、ミエンの歌詞には、①漢語借用詞、②漢語異義詞、③訓字詞、④音仮名詞、⑤造字詞、⑥由来不明詞といった語彙素性の異なる語彙が混じっている。以下では、漢字との関係を基軸に語彙を分類するが、これはミエンの歌の歌詞が漢字テキスト化されうることと、歌謡語語彙の大半が漢語由来の語彙であることによっている。ミエンの歌詞は基本的に漢字でテキスト化される。これは即興歌の場合も同様である。タイにおいては、即興歌といえどもその場で即座に創作して歌うという事例は多くない。筆者の見たところ、既存の歌を覚えておき、そのまま唱うか、部分的に歌詞の語彙を入れ替えて唱うといったやりかたで即興に歌を作成するのが多い。そのために漢字で即興歌の歌詞をテキスト化することも行なわれている。このようにミエン歌謡の歌詞は漢字に基づいているのである。

①漢語借用詞：意味は漢語と同じ。ミエン語式音読み。漢字と意味、漢字と発音が関連している。漢語文として読める。例) 家 ca: (家)。

②漢語異義詞：元は漢語語彙だが意味が現代漢語とは異なる語彙またはミエンが漢字を用いて独自に作った熟語。ミエン語式音読み。漢字と発音が関連しているが、意味は漢語と異なっている。例) 妻對 t^hai-toĩ (夫婦)。

③訓字詞：意味は漢語のまま。ミエン語で訓読み。漢字と意味が関連しているが、発音は関連

せずミエン語である。例) 不 ja:m` (~ない)。

④音仮名詞：宛字。ミエン語語彙に音の近い漢字を宛てる。ミエン語読み。漢字と発音が関連しているが、意味は漢字と関連しない。例) 苗 miu^ (男性一人称代名詞)。

⑤造字詞：日本の国字のようにミエンが漢字の部首を組み合わせて独自に作った字で示される語彙。ミエン語読み。例) [イ → 蘭] la:n^ (人の類別詞。~人)。

⑥由来不明詞：漢字と意味・発音が関連しない。ミエン語読み。例) 覓 win^ (家、家屋)。

字面だけ見ると①と③は漢語として読め、②は形式的に漢語として読める。しかし、④、⑤、⑥は漢語としては意味が全く通らない。即ち、④、⑤、⑥が多いと漢語文としては意味不明となる。歌謡語語彙としては、①漢語借用詞と②漢語異義詞が圧倒的に多い。以下では、②漢語異義詞、③訓字詞、④音仮名詞、⑤造字詞および⑥由来不明詞の歌謡語語彙について報告する。以下の表は、先に挙げた2冊の辞典から抽出した語彙と、筆者が調査で採集した歌詞から抽出した語彙の幾つかを挙げた。

4. 漢語異義詞の歌謡語語彙

上に述べたように、ミエン語における漢語異義詞は、読みがミエン語式音読みで、発音が元の漢語語彙と関連しているのであるが、(1) 意味が漢語語彙とは異なる語彙、或いは(2) ミエンが漢字を組合わせて独自に作った語彙を含む。実は(1)と(2)は区別できないものもあるので、この両者を漢語異義詞として纏めたのである^(表1)。以下の表では、パネルの *An Iu-Mien — English Dictionary with Cultural Notes* (Purnell (ed.)2012)(IMED) の表記と IPA 表記を示し、IMED 表記のアルファベット順に配列した。

表 1 歌謡語 漢語異義詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
cai-doix	tʰai-toi̯	妻對	夫婦
cin bin	tʰin pin	千邊	様々なこと、様々な場所
cing	tʰiŋ	清	①清い、②~し尽くす
cuotv fim	tʰuətʰ fim	出心	同情する、寛大さを示す、他人を自発的に助ける
daaix	ta:i̯	帶	①帯びる、②世話する、抱く
dongc duang	toŋ` twaŋ	洞中	平地 (青山と対比して)
faan-siən	fa:n-siən	翻身	転生する、生まれ変わる
faanh jeix	fa:n` cei̯	煩計	悩む

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
faanh zoix	fa:n˥ tsoi˨	煩在	存在する
faix hiaangx	fai˨ ɕa:ŋ˨	細向	述べる、説明する
faix nyingh	fai˨ ɲin˥	細言	話す
guaax	kwa:˨	掛	①掛ける、②伝える、
guaax bouc	kwa:˨ pəu˨	掛歩	借用書
henh	hen˥	閑	空の、無人の
hiaang muonh	ɕa:ŋ muən˥	香門	祖先
hinh hong	ɕin˥ ɕoŋ	仁兄	兄弟
jiex hoz	ciə˨ ho˨	過後	後になって、その後
koi-zei	kʰoi-tsei	開枝	始める
kuaa	kʰwa:	花	①花、②子どもの霊、子ども
laauh ei	la:u˥ ei	勞衣	刺繍、刺繍する
linh liouz kuaa	lin˥ ljəu˨ kʰwa:	蓮柳花	言い寄る男、愛人
liouc zingh	ljəu˨ tsin˥	流情	情が湧く
liouc˨-linh	ljəu˨-lin˥	流連	(言葉が) 繰り返しが多く乱れている
liouh laah	ljəu˥ la:˥	留辣	聡明な
lorqc yaangh	loʔ˥ ja:ŋ˥	落陽	この世に生まれる
luonh seix	luən˥ sei˨	輪世	夫婦となる、結婚する
maaic yungh	ma:i˨ juŋ˥	賣羊	①羊を売る ②アヘンを売る
maengc duang	mɛŋ˥ twaŋ	命中	一生、運命
nin-dong	nin-toŋ	年冬	一年
ndoqc daan	doʔ˥ da:n	獨丹	独身である、一人だけ、私だけ
nzaej	ɕzɛŋ	撐	船を操る、船を漕ぐ
nziex	ɕziə˨	遮	覆う、助ける
nzuonx gitv	ɕzuən˨ kit˨	轉結	死ぬ
seix nzipc	sei˨ ɕzip˨	世接	代々引き継ぐ
siou seix	sjeu sei˨	守世	居る
weic seix	wei˨ sei˨	爲世	家族を営む
zanx nzaangc	tsan˨ ɕza:ŋ˨	進字	家族の新しいメンバー(出生者、養子、婚入者)を家族の登録簿に記入する
ziangh cun	tsjaŋ˥ tsʰun	成春	(穀物が) 実る
ziou-dingh	tsjou-tin˥	州廷	国、県
zoix yungz daaih	tsoi˨ juŋ˨ ta:i˥	再養来	再生する

このリストの中には、一方で「撐」や「仁兄」のように、漢語の意味と少しだけ異なるものがあると同時に、もう一方では、ミエンの慣習などを踏まえないと分からないものもある。例えば「進

字」は、家族に新たに加わった者(出生した赤子、養子、嫁や婿の婚入者の名を家族の登録簿に書き入れることである (IMED : 588)。この登録簿はタイの行政上の家族登録簿のことと考えられる。これはタイの慣習を知らないと意味が分からない。「再養来」は、「養」juŋ[~]がミエン語で「生む」という意味であり、ミエン語が分からないとやはり意味が分からない。このように、字面から漢語的コンテキストで推定できる意味ではなく、部分的に意味的関連があっても全く異なる意味となっていることが多い。

5. 訓字詞の歌謡語語彙

不 ja:m[`]、莫 i^ˇ、都 sjaŋ[´]、雨 həu[~] は、漢字の意味を保持して、発音はミエン語である (表2)。この4語は、専ら歌詞に使う。他に口語では、知 pei、有 ma:i^ˆ、怕 dʒiə^ˇ、光 jaŋ などがあり、これらは歌詞にも使われる (表3)。

表 2 歌謡語 訓字詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
yaamc	ja:m [`]	不	～ない
ix	i ^ˇ	莫	～するな
siangv	sjaŋ [´]	都	全て
houz	həu [~]	雨	雨

表 3 口語 訓字詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
bei	pei	知	知る
maaih	ma:i ^ˆ	有	ある、もつ
nziex	dʒiə ^ˇ	怕	おそれる
njang	jaŋ	光	明るい

6. 音仮名詞の歌謡語語彙

音仮名詞はミエン語語彙に音の近い漢字を宛てたものである(表4)。苗 miu、表 piu[´]、丹 ta:n は歌にのみ使われる男性一人称単数代名詞である。口語では jia (男女ともに使う)である。苗丹、表丹と組合わせて使うこともある。

表 4 歌謡語 音仮名詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
biuv	piu'	表	私 (男性一人称単数代名詞)
cepv	ts ^h ep'	割	一時的に住む
corh horh	ts ^h o ^h ho ^h	佐何	~だろう
daan	ta:n	丹	私 (男性一人称単数代名詞)
dipc	tip`	牒	切り離す
fai hinx	fai ^h çin ^h	細杏	小鳥、燕
fiou	fjəu	秀	①片付ける、②耕作する
guh biuh	ku ^h piu ^h	高標、高俵	蓮
guh jei	ku ^h cei	高肌	知る
hei	hei	戲	競う
hliepv	liəp'	𦍋	火花が散る、輝く
jei	cei	肌	心
miuh	miu ^h	苗	私 (男性一人称単数代名詞)
muoqc gitv	muəʔ' kit'	木結	最終の
nzangh	dzaŋ ^h	曾	散らかる、様態、回
saeqv	səq'	鵠	(しゃもじで) 叩く
tangv	taŋ'	等	出会う
toh	to ^h	逃	苦難、窮状、貧困
weih	wei ^h	惟	数える
wuonh	wuən ^h	穩	愛する
wuonh jei	wuən ^h cei	穩肌	愛情
zorng	tsɔŋ	庄	(飯を) 盛る
zorv faang	tsɔ' fa:ŋ	左相	出会う
zouc	tsəu`	杵	①木 ②暮らす

表 5 口語 音仮名詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
gou	kəu	鈎	夫の姉
hnangv	ŋaŋ'	能	~のような
hlaaix	la:i ^h	那	いずれの、どれの
muoz	muə ^h	帽	兄弟姉妹の類別詞
njien-youh	jiən-jəu ^h	歡由、寛由	うれしい
yaang	ja:ŋ	央	若い、可愛い
youz	jəu ^h	友	弟

ここで示した漢字は一例である。漢語借用詞や漢語異義詞、訓字詞にくらべ、音仮名詞は書く人によって字の変差の幅が大きい。これは音の近い漢字を宛てるに際して個人の漢語知識によるからである。

7. 造字詞

造字詞はその構造を見ると音仮名詞の一種と言える。すなわち、漢字の偏・冠と旁・脚を組合わせて漢字にない字を作っているのであるが、多くの場合、旁や脚の音がミエン語の発音に近いのである。元々漢字ではないので、意味はまったく通らない(表6)。

表 6 歌謡語 造字詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
jaax	ca:~	[扌 → 架]	粉を顔に塗る
laanh	la:n^	[亻 → 蘭]	人の類別詞
ngorz	ŋo~	[艹 ↓ 旧]	妻
nzipv	dzip'	[口 → 接]	畳む
nzaatv	dza:t'	[口 → 腊]	こする、(米を) とぐ
guaan	kwa:n	[冫 → 筥]	分散する

8. 由来不明詞

表 7 歌謡語 由来不明詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
winh	win^	覓	家、家屋

表 8 口語 由来不明詞の例

IMED 表記	IPA 表記	漢字	意味
horngh	hoŋ^	衍	様相、階層
la'fapv	la'fap'	拉搥	汚れ、ごみ

覓は漢語発音は xiàn であり、意味は「ヒユ」という植物の名称である(愛知大学中日辞典編纂所(編) 2010:1825)。衍は漢語発音は yǎn であり、意味は「広がる、余る」である(愛知大学中日辞典編纂所(編) 2010:1930)。拉搥の搥は漢語音は tián であり、意味は「打つ」であって(<https://jigen.net/kanji/25655>、諸橋 1967:354)、なぜ fap' に宛字したか分からない。これらは、音仮名詞のような発音の近い漢字

を宛字したものでもなく、由来は不明である。

9. 漢字多読の諸相

漢語借用詞と漢語異義詞には、同じ漢字に異なった音読みがなされることがある。これは、日本語の漢字の漢音と呉音のように、漢語語彙を受容した歴史層次が異なるためである。ミエン語の漢語受容の歴史層次としては上古層、中古層、現代層に分かれる(黄 2013: 102-103)。筆者がざっと見たところ、中古層の語彙が過半を占めるという見通しである。但し、これには更なる精査が必要である。古い層次の発音が保持されていても、それが後世に歌謡語語彙として採用される可能性はあるため、上古層の発音を残していても、その歌謡語語彙が上古層で受容されたとは簡単には言えないが、歌謡語語彙形成の時期を推定するに参考となろう。中古層には粵語由来の語彙が多いが、これは儀礼語のツィア・ワーをミエンが粵語であると言っているのを見ると、儀礼語と同じ歴史層次で歌謡語語彙の多くが受容されたと考えられる。

10. 比喩による修辭

歌謡語では、比喩的表現が屢々使われる。例えば、飲 *jiəm'* は元々「飲む」意味であるが、歌の中では「食べる」意味で使われる。また、歌詞では太陽を月と書く。この場合、発音は日を表す *ɲut'* である。一方、口語の月は *la:* である。虫のことを鳥と書くこともある。この場合の発音は *piu'* である。

恋愛歌では女性を玉、仙、鳳、京と表現する隠喩的表現が多用される。これらの表現は呼称としても謂称としても使われる。また村を街、州廷、国、県と提喩的に表現することもある。

11. 歌詞の実例

下に歌詞の実例を示す。その際、上に述べた語彙素性毎に字体を替えて示す。

漢語借用詞：明朝体 例) 萬民

漢語異義詞：ゴシック体+下線 例) 妻對

訓字詞：明朝体+下線 例) 丕

音仮名詞・造字詞・由来不明詞：ゴシック体 例) 表、[イ → 蘭]、覓

比喩的表現には波下線(〰)を付した。

歌謡語語彙には網掛けを施した。

また、パーネルによると、ミエンの歌は 14 種類あり、概要を示すと、情由(恋愛歌)、姊妹(親族

歌)、難情(悲嘆歌)、傳天下(悲嘆歌)、古(故事歌)、碼頭(応答歌)、出門(応答歌)、a:dzja:u(遊び歌)、教人(教誡歌)、甲子(六十干支歌)、郡(姓分類歌)、pom(掛け歌)、隱(謎かけ歌)、ts^hen(言祝ぎ歌)になる(Purnell 1991:379. 歌の種類の漢字名は筆者がつけた)。以下ではこの中から教誡歌、故事歌(物語故事歌)、恋愛歌を示す。

教誡歌「趙富安旺歌」(吉野 2024b : 96)

修 錯 陽 煩 陽 間 罪 陽 官 断 了 事 平 安
 fjəu˥ tsʰaʔ˥ jaːŋ˥ faŋ˥ jaːŋ˥-keŋ˥ tswi˥ jaːŋ˥ ciən˥ tun˥ liu˥ dzai˥ peŋ˥-on

この世で間違ったことをすると、この世の罪となる。この世の官人が断を下して平安となる。

修 錯 聖 神 陰 間 罪 不 到 閻 皇 事 不 清
 fjəu˥ tsʰaʔ˥ siŋ˥ tsien˥ jiəm-ken˥ tswi˥ ja:m˥ tʰau˥ jiəm-huŋ˥ dzai˥ ja:m˥ tsʰiŋ˥

神について間違ったことをすると、あの世の罪となる。閻羅王のところへ行かなければ罪状は分からない。

陽 罪 有 錢 買 得 命 陰 罪 有 錢 難 抵 当
 jaːŋ˥ tswi˥ ma:i˥ tsin˥ ma:i˥ tuq˥ meŋ˥ jiəm˥ tswi˥ ma:i˥ tsin˥ na:n˥ ti˥ tɔŋ˥

この世の罪は金で命を買うことができるが、あの世の罪は銭があっても罪を帳消しにするのは難しい。

黄 金 难 買 長 生 命 閻 皇 掛 步 命 担 當
 jaŋ˥ ciəm˥ na:n˥ ma:i˥ taŋ˥ seŋ˥-meŋ˥ jiəm˥ huŋ˥ kwaː˥ pəu˥ meŋ˥ da:m˥ tɔŋ˥

黄金では長命を購うことは難しい。閻羅王のところに(これまでの行為の)借用書が揃えば罪を受ける。

物語故事歌「五月捨出来的歌」(吉野 2024a : 233)

邦 叩 許 神 有 靈 聖 吹 生 六 甲 正 團 圓
 paŋ-kʰau˥ həu˥ tsien˥ ma:i˥ liŋ˥ siŋ˥ tswi˥ seŋ˥ luəʔ˥ ca:p˥ tsij˥ tun˥ jun˥

神に頼り願掛けすると靈験があった。神の助けて胎児が生じ、円満に育った。

六 甲 現 齊 欠 神 愿 借 錢 借 賑 謝 神 恩
 luəʔ˥ ca:p˥ çin˥ dzo:i˥ kʰiəm˥ tsien˥ jun˥ kaː˥ tsin˥ kaː˥ tsə:ŋ˥ tsia˥ tsien˥ en

子供が生まれたが、願掛けの謝恩が必要であった。借金し、物を借りて神恩に感謝した。

朝 々 守 在 家 覓 伏 怕 出 門 前 風 扇 花
 tsiu˥ tsiu˥ sjeu˥ tsoi˥ ca˥ win˥ puəʔ˥ dzia˥ tsʰuət˥ muən˥ tsin˥ pwaŋ˥ sin˥ kʰwa˥

毎日昼間は家において子供を抱く。外出すると風が子供に障るのではないかと恐れる。

神 愿 謝 清 奈 心 帶 春 耕 抛 散 帶 花 央
 tsien˥ jun˥ tsia˥ tsʰiŋ˥ noi˥ fiəm˥ ta:i˥ tsʰun-keŋ˥ beu˥ dza:n˥ ta:i˥ kʰwa˥ jaːŋ˥

願掛けの謝礼儀礼を終え、満足して子供を抱く。畑に行くのはやめて、子供を抱く。

恋愛歌「後生娘子歌」(吉野 2017:49-50)

表 是 留 心 掛 穩 玉 又 怕 玉 情 未 穩 肌
 piu˥ tsei˥ ljəu˥ fiəm˥ kwaː˥ wuən˥ jut˥ jəu˥ dzia˥ jut˥ tsij˥ mei˥ wuən˥ -cei

私は私の愛情を貴方に伝えます。しかし、貴方がまだ私のことを好いていないか心配です。

又 怕 玉 街 爲 過 外

jəu˥ dzio˥˥ ɲut˥ ca:i wei˥ ciə˥ ɲiə˥

また、貴方の村の外の村に私より格好良い男性がいるかもしれないと心配です。

別 處 現 金 影 過 街

piəʔ˥ tsʰəu˥ ɕin˥ ciəm en˥ ciə˥ ca:i

表 丹 心 肌 掛 穩 念

piu˥ ta:n fiəm-cei kwa:˥ wuən˥ nim˥

不 有 那 日 捨 拋 慌

ja:m˥ ma:i˥ ɲa:i˥ ɲut˥ siə˥ beu hwa:ŋ

私は貴方を好いており、一日たりともその想いを捨てることはありません。

歌の種類によって、漢語文として読みやすい歌詞と読みにくい歌詞がある。教誡歌「趙富安旺的歌」は、道徳教訓を説く歌であり、漢語借用詞の決り文句が多い。そのため、音仮名詞などが少なく、漢語文として読みやすい。物語故事歌「五月捨出来的歌」は物語を語る歌である。物語故事歌は、個人の物語を語るものであり、個人の生活や感情に沿った表現が増える。勢い漢語異義詞や音仮名詞が多くなり、漢語文としてはやや読みにくくなる。恋愛歌「後生娘子歌」は男女の歌掛けの恋愛歌であり、個人的な感情と求愛を述べる歌である。そのため、ミエン語に即した語彙である音仮名詞や漢語異義詞が多くなり、漢語文としては読めない。また、恋愛歌の特徴として、比喩的表現が多用される。ここでは「貴女」を玉と言い、「村」を街と言っている。こうなるとますます漢語文としては読みにくくなる。

12. おわりに

ミエンの歌詞は複雑な様相を呈している。それは歌詞が異なった語彙素性の語彙によって組み立てられているからである。漢語借用詞や訓字詞が多ければ漢語文として解説可能であるが、漢語異義詞、音仮名詞、造字詞、由來不明詞が増えると、漢語文としては理解不可能になってゆく。これは歌の種類によって様相が異なり、既存の歌詞がある定詞歌は漢語借用詞が多く、即興歌は漢語異義詞や音仮名詞が多い傾向にある(吉野 2017)。定詞歌の中でも歌の種類によって、より公的な内容のものは漢語借用詞が多く、より私的な内容のものは漢語異義詞と音仮名詞の割合が増える。このように、歌謡語語彙は、漢字との関係により語彙の素性が異なり、また歌の種類によって語彙素性の異なる語彙の割合が異なり、歌詞の解説を難しくしているのである。

参照文献（アルファベット順）

- 愛知大学中日辞典編纂所(編) 2010 『中日大辞典 第三版』大修館書店。
- 黄行 2013 「瑶 - 漢関係詞層次分析」向柏霖ほか(編) 『中国少数民族漢語借詞的歷史層次』商務印書館, pp.97-139.
- IMED → Purnell (ed.) 2012.
- 諸橋轍次 1967 『大漢和辞典 縮刷版 第五卷』大修館書店。
- Panh, S. 2002 *Modern English-Mienh and Mienh-English Dictionary*. Victoria: Trafford Publishing.
- 珀内尔 (Purnell, H.C.) 1988 「“優勉” 瑶民間歌謡的韵律結構」喬健／謝劍／胡起望(編) 『瑶族研究論文集』民族出版社, pp.143-170.
- Purnell, H. C. 1991 The metrical structure of Yiu Mien secular songs. In Lemoine, J./Chiao Chien (eds.) *The Yao of South China: Recent international Studies*. Paris: Pangu, pp.369-394.
- Purnell, H. C. (ed.) 2012 *An Iu-Mienh — English Dictionary with Cultural Notes*. Chiang Mai: Silkworm Books.
- 吉野晃 2017 「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(2): 『後生娘子歌』発音と注釈」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』68, pp.47-58.
- 吉野晃 2020 「ミエンの歌謡語(文語) 語彙について— *An Iu-Mienh — English Dictionary* と *Mienh-English Dictionary* に収録された歌謡語語彙(初稿)—」『瑶族文化研究所通訊』7, pp.126-158.
- 吉野晃 2022 「定詞歌と即興歌の間に—タイ北部, ミエンの歌謡における歌詞の多様性—」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』73, pp.101-118.
- 吉野晃 2024a 「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(6)—『五月捨傳出来的歌』の発音, 注釈, 転生観および修辭法—」東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ 75, pp.231-252.
- 吉野晃 2024b 「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(7)—『趙富安旺的歌』の発音と注釈—」『瑶族文化研究所通訊』10, pp.88-122.

参照ウェブサイト

字源ネット <https://jigen.net/kanji/25655>.

中国藍山県「盤王願」に見る歌娘と師父の歌

神奈川大学 教授
廣田 律子

要旨

「盤王願」(ピエンフンニョオン)は前半の男性が祭司となる掛灯(グワーダーン)と後半の盤王への謝恩を行う歌堂(ガダーン)からなる還家願(ジャビョウニユン)儀礼の後半部分の儀礼大項目である。

「盤王願」は、順に添香・剪花酒・意者・請盤王・請家先・流楽・唱盤王大歌・送王の小項目で進められる。このとき師父は『大歌書』等、また歌娘は『慶盤王歌書』を詠唱する。歌書は共に七言で構成され、漢語由来の語や漢字の意味通りの文字が使用され表記されている⁽¹⁾。ヤオ語の音を当てた漢字表記も見られる。音訓を付すにあたって独自の法則があると考えられる⁽²⁾。師父と歌娘により内容的に同一の歌詞が歌われる場面もあるが、同じ内容には聞こえないほど、全く別の音訓を付し、異なる曲節で詠唱される。師父の歌はチャンガーとされ歌娘の歌はバーゾオンとされる。歌は歌神劉三姐から神の声や歌書を渡され始められるとされる。

師父と歌娘の歌書の内容のそれぞれの特徴は、師父の歌書にはヤオの神話伝承(天地創造・飄遙過海・兄妹婚・洪水・ヤオの誕生・天変地異・諸王の所業等)が豊富に含まれるが、歌娘の歌書には歌堂の儀礼を進行する流れ(盤王を迎え、願ほどきをし送り出す)が述べられている点にある。

師父と歌娘がお互いの歌の詠唱を前提として歌い進め、決められた場面で同一の歌詞を詠唱することもある。それぞれのパートを歌う目的は盤王を代表とする神々を言祝ぎ、慶賀し謝恩する意思を表現することで一致しているといえる。

儀礼の実践とも呼応しながら男女異なる歌書を詠唱することで一つの儀礼空間が完全になる。このような複雑で多様な方法で神を慶ばせる構成を考えるのはミエンの真骨頂といえる。盤王への慶賀を言葉と曲節と儀礼実践で表現することが最高の表現とされ、これを通してミエンとしての絆を確認することになる。

はじめに

中国湖南省藍山県の還家願儀礼についてこれまで研究を進めてきたが、今回は盤王に対する謝恩を目的として実施される儀礼大項目「盤王願」に見える、男性歌手師父(祭司)と女性歌手歌娘の詠唱における関係性について考えたい。

師父と歌娘はそれぞれ漢字経典を詠唱するが、その歌詞内容と詠唱の実践を組み合わせ考察することで師父と歌娘の歌書の特徴や詠唱の意味について明らかにしたい。事例としては2011年に大盤家で行われた還家願儀礼の調査結果をもととする。

1. 中国のミエン・ヤオ儀礼と詠唱

中国湖南省藍山県で行われる還家願儀礼は、男性が祭司としての資格を得る通過儀礼を主な目的として実施される。この還家願儀礼の後半に行われる儀礼大項目の「盤王願（ピエンフンニョオン）」⁽³⁾は救世主盤王への謝恩儀礼であるが、七言上下句の歌謡書を用いて進められるので歌堂（ガダーン）儀礼と称される。「盤王願」の実施は、飄遙過海神話にある神々との契約関係が現在に至っても引き継がれ、救世主盤王に象徴される祖先神が子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどの祭祀が続けられてきたことを意味する。

「盤王願」儀礼の実践⁽⁴⁾において、小項目「意者」（盤王願を行う施主家の願掛けの経緯、願ほどの実施内容を説明する）小項目「請盤王」（神々を招へいする）に続く小項目「流楽」（神々を喜ばせる歌謡詠唱）で、飄遙過海神話の「点男点女過山根」⁽⁵⁾が祭司により読誦詠唱される。その内容は盤古天地創造、四月八日の洪水発生、伏羲兄妹の生き残り、兄妹婚、ミエン・ヤオの誕生、寅卯二年にわたる日照り、飄遙過海、遭難と願掛け、三廟聖王の加護、無事上陸、謝恩と歌堂良願儀礼の実施その後の移住である。

「流楽」においてミエン・ヤオが盤王願儀礼を行うことになった原点に立ち返り、飄遙過海を歌い、願掛けと願ほどの祭祀の原義を確認することで過去から現在に至るまで綿々と引き継がれる盤王との祭祀契約とその履行を再現する儀礼を行うことが表明される。

その後神の声が渡され歌娘が女性専用歌書の『慶盤王歌書』⁽⁶⁾の詠唱を始める。

その後小項目「唱盤王大歌」において、神話叙事および歴史叙事である『大歌書』⁽⁷⁾（いわゆる『盤王大歌』）を師父が読誦詠唱し、また盤王への願ほどの儀礼の内容等が述べられる『慶盤王歌書』を歌娘が読誦詠唱を続けることで、自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先を讃え、綿々と継承されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀が行われる。男性の歌と女性の歌が別々の歌書を用いてそれぞれ詠唱することが重要と考えられる。

唱盤王大歌で歌われる『大歌書』には「点男点女過山根」にあるような海を渡る移動の歴史と祭祀の起源の内容は含まれていない。『大歌書』にある盤王にかかわる記述の「盤王出世」および「盤王起計」の文面には、盤王が福江西天に生まれ、犁を使い農耕を行い、苧麻を植え、高機を使って苧麻織りを行ったとあり、生業にかかわる一祖先神と見える⁽⁸⁾。

ミエン・ヤオの神々は盤王の名に集約されてはいるものの、実際には三廟聖王と総称され、さらに連州唐王グループ、行平十二遊師グループ、福(伏)霊五婆グループ、福江盤王グループ、厨司五旗兵馬グループ、陽州宗祖家先グループにグループ分けすることができる、ミエン・ヤオの祖先神の神統に属する神々が祭祀の対象とされている⁽⁹⁾。もちろんテキストには神々それぞれに関する記述があり、やはり「流楽」で祭司によって詠唱される。

神々は連州、行平、福(伏)霊、福江、厨司、陽州の地名を付して称されるが、これはミエン・ヤオが長年にわたって移住を繰り返してきた記憶の地とそこで活躍した祖先神とが接合して理解されていることを表している。現地では三廟聖王の中でも盤王を特別と考え、救世主の盤王(ピエンフン)さらに犬祖神話の龍犬盤瓠(盤護)とも一致すると考えている⁽¹⁰⁾。

祭祀性が強いとされる七言からなる詩、詞章は、祭祀の場において歌謡語を用いた詠唱という形態を取って表出されることで、より一層呪力が発揮されると考えられていると推測する⁽¹¹⁾。祭祀を経て神から与えられた声によって、七言の調子でミエン・ヤオの重要な民族知識が伝えられることに意義があるといえる。

対句と反復は儀礼において重要な意味をもつ⁽¹²⁾とされるが、師父が歌う『大歌書』や歌娘が歌う『慶盤王歌書』においても複数の修辭的表現と反復が確認でき、祭祀歌謡の重要な特性を有しているといえる。歌書の詠唱の実践においては多くの場面で修辭的の反復繰り返しが見られるが、これにより民族の起源や歴史が学習され、民族知識の定着に繋がることになる。さらに男性だけでなく女性も歌を通じてミエン・ヤオの民族知識を継承し、歌手として神と対話する役割を担っているといえる。現行の儀礼実践の中で女性が歌書を使用し詠唱することは、漢字文化圏で学校教育の学習環境のある中国において特別といえる。

「盤王願」祭祀においては、祭壇の供物にまで民族の神話(飄遙過海)が表現され、豚の頭の上に乗せられた肉片は、「点男点女過山根」にある大時化の際船の舳先で無事を祈るのに兄が使った妹のハンカチを表すとされる。さらにしっぽは船の櫂、腸は接岸のロープ、肝臓は船の碇、腹膜は帆布を表すとされる。豚の上に積み重ねられた笹に包まれたちまきは帆を表す葉でくるまれているとされ、その上に挿された旗は救世主盤王の好きな36種の花を表すとされる^(図1)。神話と歴史が歌われる儀礼空間にはミエン・ヤオの神話世界が表現され、自民族のアイデンティティを五感で認識する場となる。神話はヤオ文化の源泉といえ、神話の詠唱こそ儀礼実践の意義である。

2. 師父の歌書『大歌書』の本意

ミエンの人々は歌を創作することに慣れ親しんでいる。冠婚葬祭や新築等祝儀不祝儀に歌は付

きもので、男女が歌を掛け合う。村が洪水におそわれたり、客が遠方よりやってきたりしても歌を作る。その昔は男女が恋の歌を交わす歌垣や歌の競い合いも盛んであったという。すでに文字化された『大歌書』にも恋の歌が盛り込まれ、歌によるコミュニケーションが反映されたミエンの歌文化を見いだすことができる。

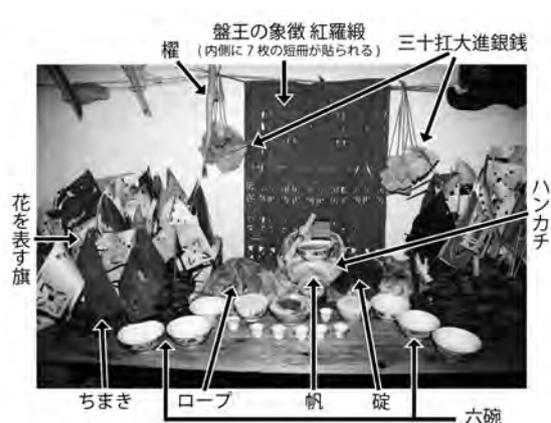


図1 盤王を祀る祭壇 飄遙過海神話を表す豚の供犠

もちろん『大歌書』はミエンの大事記として神話および歴史的な題材が記述されている。干ばつ洪

水等の災害、天地創造、射日、兄妹の生き残りと婚姻、ミエンの誕生、植物の創造、農耕の開始、学院の創設、黄巢の戦乱、石崇や魯班や南蛇や彭祖の伝承、閻山や桃源洞の伝承を見ることができる。

しかしその記述の中に恋の歌が積極的に意図的に紛れ込んでいるといえる。ミエンの大事記を伝承するだけでなく恋の歌が盛り込まれているのはなぜであろうか、複数版本を使用して、恋の歌を抜き出すところからはじめたい。

2.1. 『大歌書』の最初の部分について複数の版本からの読み解き

中国本に見える恋の進展を表現する箇所について、A本：藍山県匯源郷趙金付氏所蔵『大歌書』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-19、ファイル名：khi20111117IMG_0885～khi20111117IMG_0943）⁽¹³⁾とB本：寧遠県九嶷山紫荊村盤旺古所蔵『盤王歌書』（光緒九年盤法傳の銘あり〔ファイル名：khi20151229IMG_3034～khi20151229IMG_3131〕）とC本：資興市團結瑶族郷祭司所蔵『趙財一郎大歌書』（乾隆四二年の盤連智・何庭魁の銘あり〔ファイル名：DSCN4064～DSCN4174〕）を比較する⁽¹⁴⁾。

以下にA本、B本、C本について最初の部分のみ対比検討表を示すが番号は行数を表す。

最初の乙女あるいは若者の家で歌堂があると聞いて若者あるいは乙女がはるばるやってくるという部分は、前置きとして男女の出会いとしての歌堂の場が述べられている部分といえる。A本とB本にあり、B本の方が記述は詳しいが、C本には全く記述がない。銘の年代が正しいとすれば、A本・B本の内容は19世紀になって加筆されたと考えられ、その後A本は削徐が加えられた可能性がある。もちろん書写した原本の違いによるものとも考えられる。

A 本	13 (8-4)	人話郎村歌堂到	怕娘不念
		あの若者（乙女）の村で歌堂があると人は話している。	若者が乙女の意にかなうかどうか分からない。
A 本	14 (8-5)	手拿酒盞方哀（挨相）坐 ※「（）」は推測した字。以降同様。	怕娘不念
		手に杯をもち隣に座り、挨相 → 相挨	若者が乙女の意にかなうかどうか分からない。
B 本	29	人話娘村歌堂到	踏上一 {街 / 廳} 第二街 / 廳 ※「/」はその前後の字が分け字であることを示す。「{ }」は分け字の範囲を示す。範囲が示されていない場合は前後1字が分け字である。以降同様。
B 本	30	手拿酒盞相挨座（坐）	怕娘不唸賤郎來 / 情

ここに現れているように歌堂を訪れ、杯を交わし、若者が乙女の意にかなうか心配している部分は歌堂は歌を歌うことで男女の意思を通じさせる機会であると読み解ける。C 本は全く抜け落ちており、「起声唱」から始まる。

A 本	44 (9-18)	論娘唱	娘也唱條郎也條
		あの乙女は自分の番で歌いだす。	あの乙女が歌うと若者も歌う。
A 本	45 (10-1)	娘也唱條定酒盞	郎也唱條定酒筵 / 行
		乙女は歌いながら酒食をすることを約束する。	若者も歌いながら酒食をすることを約束する。
B 本	41	論娘唱	郎也唱 {雙 / 條} 郎唱雙 / 條
B 本	42	娘也唱 {雙 / 條} 定酒盞	郎也唱 {雙 / 條} 定四行 / 腰
C 本	5	輪娘唱	娘也唱 {雙 / 條} 郎唱★ ※「★」は剥落等で視認できない字。以降同様。
C 本	6	★★唱雙條酒盞	郎也唱條★路★★

とあるようにまず乙女が歌いだし、若者も合わせて歌う。そして酒食を共にすることを約束する。無事に意思が通じることとなったようである。

A 本	68 (11-6)	日正中	南蛇過海便（變）成龍
		日は天中に昇る。	南蛇が海を渡れば龍となるように歌が下手な人もそのうちに上手になる。
A 本	69 (11-7)	南蛇也難過海見	好雙過路也難連
		南蛇が海を渡るところはめったに見られない。	道で会っても恋人になるのは難しい。
B 本	65	月正中 / 真	南蛇過海也難逢 / 連
B 本	66	南蛇過海也難見	好雙過路也難逢 / 連
C 本	37	月正中	南蛇過海變成龍 / 人
C 本	38	南蛇過海也難見	好漢過路憶？也？佳逢

とあるように、日あるいは月が天中に昇り、南蛇が海を渡るのはめったに見られないように、道であっても恋人になるのは難しいと、恋の道の険しさが述べられる。

A 本	78 (11-16)	日落江 / 西	黄蜂過嶺口含糖 / 坭
		日は川 / 西に沈む。	黄蜂は口に花粉 (飴 / 坭) を含んで峰を越える。坭 ← 泥
A 本	79 (11-17)	黄蜂含糖歸結閉	共娘作笑結成雙 / 妻
		黄蜂は花粉をつけて巣に帰る。閉 → 兜	乙女と一緒に夫婦二人、喜んで家に帰る。
B 本	75	月落江 / 西	黄蜂過嶺口含糖 / 坭
B 本	76	蟻 (黄) 蜂含糖歸結兜	定娘作笑討成雙 / 妻
C 本	51	月落江	黄蜂過嶺口卸坭 / 唐 (糖)
C 本	52	黄蜂卸糖歸結苑	共娘作笑討成雙

とあるように、黄蜂が花粉を含んで巣に帰るように乙女と一緒に夫婦二人喜んで家に帰ると大団円が述べられている。

A 本	94 (12-14)	日頭過江全是夜	屋背離根全是陰
		日が川を越えると真っ暗な夜になる。	家の背後はまったく陰だ。
A 本	95 (12-15)	看娘便是過江月	落了干 (干) 娘何處尋
		あの乙女は川の上を過ぎる月のように遠い存在だ。	月が沈めば、どうやってあの乙女を捜すことができようか。
B 本	89	日頭過江專是夜	屋背離根專是陰 / 涼 (涼)
B 本	90	看娘比能落江月	落了何曾何處尋 / 涼 (涼)
C 本	63	日頭過江轉是夜	屋背離根轉是陰 / 涼 (涼)
C 本	64	看 (女ト) (娘) 元能落江月 ※「[]」は1字を分解して示している。「[]」は配置を示しており、例の場合は左右に配置する意。以降同様。	落了教 (女ト) (娘) 何處尋 / 看

とあるように、真っ暗な夜のように、若者は運が悪く、遠い存在の乙女と連れ添えないつらさが述べられており、恋はそう簡単にはいかないと述べられている。

A 本	3 (13-1)	夜深深	絲線繡鞋來討親 / 雙
		夜が更けた。	糸で刺繍した靴を履いて縁組を求める。
A 本	4 (13-2)	絲線繡鞋三重底	踏來娘屋討成親 / 雙
		糸で刺繍した靴は3層の底。	その靴を履いてあの乙女の部屋に入り縁組みを求める。
A 本	5 (13-3)	夜深深	把火入房照細針 / 絲
		夜が更けた。	若者は灯火をもって部屋に入って乙女の衣服の細かい針の目 / 糸まで照らす。注) 灯火は桐油灯。
A 本	6 (13-4)	照得細針 {帶 / 托} 細線	針娘裙脚細演演 / 微微
		細かい帯や敷物の針の目や糸まで照らす。	あの乙女のスカートの裾の針の目まで細かく照らす。
A 本	7 (13-5)	夜深深	脚底無鞋凍 (涼) 到心 / 驚
		夜が更けた。	靴を履かずに心まで凍るほど / 驚くほど冷たい。

A 本	8 (13-6)	郎姐開門把郎入	無床貼地也甘心 / 慢商量
		あの乙女が戸を開けて若者を入れてさ えくれれば、	寝台がなく、地面に寝ることも考える。
A 本	9 (13-7)	夜深深	把火夜行蘆 / 蕉裡林
		夜が更けた。	夜、たいまつをもって葦 / バショウの林 に行く。
A 本	10 (13-8)	郎今不圖 {蘆 / 蕉} 子喫	且圖 {蘆 / 蕉} 葉 {貼娘 / 得庶} 身
		今、若者は葦 / バショウの実を食べるこ とをせず、	葦 / バショウの葉で乙女の体を覆い、体 を隠そうとする。庶 → 遮
A 本	11 (13-9)	夜深深	把火夜行 {漆 (漆) / 茶} 裡林
		夜が更けた。	夜、たいまつをもって漆 / 茶の林に行く。
A 本	12 (13-10)	郎今不圖 {漆 (漆) / 茶} 子喫	且圖漆 (漆) 買得黄金 / 茶話討成親
		今、若者は漆 / 茶の実を食べることをせ ず、	ただ漆 / 茶を売って黄金を得、縁組を求 めたい。
A 本	13 (13-11)	夜深深	把火夜行班竹林
		夜が更けた。	夜、たいまつをもって班竹の林に行く。
A 本	14 (13-12)	班竹好做簸箕合	簸箕團米穀歸心
		班竹は箕を作ることができる。	箕で穀物をすくえば、穀物が中心に集 まる。
A 本	15 (13-13)	夜深深	把火夜行舟 (丹) 竹林
		夜が更けた。	夜、たいまつをもって一人竹の林を行 く。 注) 丹は一人の意。
A 本	16 (13-14)	舟 (丹) 竹好做郎傘柄	擔來娘屋討成親
		竹で傘の柄を作る。	傘を担いであの乙女の家縁組を求め に行く。
A 本	17 (13-15)	夜黄昏	作笑不知姐 (妹) 鎖離
		日暮れ。 注) 5 時頃。	乙女の家に行く途中はうれしく思いな がら行ったのに、あの乙女が鍵をかけ たことを知らなかった。
A 本	18 (13-16)	歸到門前偷出淚	不得鎖匙開姐離
		門前に行き、心がなえそと涙する。	鍵がないからあの乙女の戸を開けるこ とができない。
A 本	19 (13-17)	夜黄昏	作笑不知姐 (妹) 鎖街 / 門
		日暮れ	乙女の家に行く途中はうれしく思いな がら行ったのに、あの乙女が鍵をかけ たことを知らなかった。
A 本	20 (13-18)	但觀門前隱姐眼	后門當當望娘來 / 行
		前の扉は閉まっており、あの乙女から 若者は見えない。 注) 觀は関、門前は前門。	若者は裏門へ回ってあの乙女の家の人 が帰ってくるのを待ち望む。
A 本	21 (14-1)	黄昏十二時	手拿歌卷 (巷) 過娘離 / 門
		夜中 12 時	手に歌巻をもってあの乙女の門前を通 る。 注) 歌巻は七言連四句の歌が書かれた 求婚書。

A 本	22 (14-2)	歌卷裡頭有句話	話娘夜睡不 \square (關) 離 / 門 ※「 \square 」は空白を示す。以降同様。
		歌卷にはこんな言葉がある。	夜眠るときに門から離れないようにと乙女にいう。
A 本	23 (14-3)	黄昏十二時	欠雙無我早商量 / 尋思
		夜中 12 時	添えずにいる私のことを考えて、
A 本	24 (14-4)	欠雙無我 {商量 / 尋思} 討	莫守爺娘是共腸 / 時
		添えずにいる私のことを考えて、	大人になったのだから父母から離れましょう。
A 本	25 (14-5)	黄昏十二時	入娘羅帳解娘衣 / 衫
		夜中 12 時	あの乙女の薄衣の帳に入り着物を解く。
A 本	26 (14-6)	入娘羅帳細 {聲 / 心} 話	含笑解娘身上衣 / 衫
		あの乙女の薄衣の帳に入り、か細い声で打ち明ける。	ほほ笑んであの乙女の着物を解く。
A 本	27 (14-7)	黄昏抄攪欄橋坐	橋卷裡頭好綯麻 / 結絲
		夜に腰掛けに座り、	腰掛けに座り、麻や糸を紡ぐ。
A 本	28 (14-8)	欠雙便來對面話	莫益楊梅暗開花 / 結枝
		添うことについて向かい合って話し合おう。	楊梅がひそかに花を開き、実を結ぶように進めるなかれ。
A 本	29 (14-9)	黄昏抄攪欄橋坐	得見七星便過天 / 江
		夜に腰掛けに座り、	七星が天の川を渡るのが見える。
A 本	30 (14-10)	{娘 / 郎} 姐問 {郎 / 娘} 因何事	思量無事入心連 / 子無雙
		あの乙女 / 若者は若者 / あの乙女に「どうしたの?」と尋ねる。	「なんでもない」物思いをしていた / 添うことができないのかと
A 本	31 (14-11)	黄昏騎馬過河巷	河巷不通馬轉頭 / 身
		夜、馬に乗り川にさしかかる。	川にさしかかると渡れず、道を変える。
A 本	32 (14-12)	光處點燈暗處坐	思你看娘心裡愁 / 子無雙
		灯火をともしと暗いところで座っているのを照らす。	あの乙女に会いたくて胸を焦がす / 添うことができない。
B 本	109	夜深深	系 (絲) 線繡鞋來討雙 / 親
B 本	110	系 (絲) 線繡鞋三重底	踏來娘屋討成雙 / 親
B 本	111	夜深深	把火入房照細針 / 系 (絲)
B 本	112	照得細 {針 / 系 (絲)} 帶細線	針娘裙腳細吟吟 / 微微
B 本	113	夜深深	腳底無鞋通道心 / 京
B 本	114	娘姐開門把郎入	無床捕 (舖) 地也甘心 / 慢思量
B 本	115	夜深深	把火又行爐 (蘆) 裡林
B 本	116	郎今不圖爐 (蘆) 子吃	爐 (蘆) 葉織蓆貼仔身
B 本	117	夜深深	把火又行蕉裡林
B 本	118	郎今不圖蕉子吃	且圖蕉葉好遮身
B 本	119	夜深深	把火又行漆裡林
B 本	120	郎今不圖漆子吃	且圖賣得黃漆金
B 本	121	夜深深	把火又行丹竹林
B 本	122	丹竹好做簸箕合	簸箕簸米苔歸心
B 本	123	夜深深	把火又行班 (斑) 竹林
B 本	124	班 (斑) 竹好做涼傘柄	擔來外屋討成親
B 本	91	夜黃昏	作笑不知姐鎖門 / 匙

B 本	92	歸到門前偷出淚	不得鎖匙開姐門 / 匙
B 本	93	夜黃昏	作笑不知姐鎖門 / 皆
B 本	94	但關前門淹姐眠	後門當當望娘行 / 來
B 本	95	黃昏十二時	手拿歌卷過娘● / 門 ※「●」は判読できない字。以降同様。
B 本	96	歌卷裡頭有句話	共娘眠睡莫關● / 門
B 本	97	黃昏十二時	欠雙無我早思量 / 相思
B 本	98	欠雙無我思量討	莫守爺娘是共時 / 腸
B 本	99	黃昏十二時	入娘羅帳解娘衣 / 衫
B 本	100	入娘羅帳細聲話	含笑解娘身上衣 / 衫
B 本	101	黃昏抄橈 (凳) 欄橋座 (坐)	橋卷裡頭好績麻 / 系 (絲)
B 本	102	欠雙便來對面話	莫能楊梅暗結花 / 系 (絲)
B 本	103	黃昏抄橈 (凳) 欄橋座 (坐)	得見七星便過天 / 江
B 本	104	娘姐問郎因何事	思量無事入心連 / 仔無雙
B 本	105	黃昏騎馬過協巷	協巷不通馬轉頭 / 身
B 本	106	光處點燈暗處座 (坐)	思議看娘心裡愁 / 過仔心
C 本	67	夜深連	系 (絲) 線繡鞋來討雙 / 親
C 本	68	系 (絲) 線繡鞋三重底	踏上娘屋討成雙 / 親
C 本	69	夜深深	把火入房照細系 (絲) / 針
C 本	70	照得細 {系 (絲) / 針} 川 (拖) 細線	針娘裙腳細吟吟 / 微微
C 本	71	夜深深	腳底無鞋通到涼 (涼) / 心
C 本	72	娘擔開門把郎入	無床舖地也干 (甘) 心 / 慢商量
C 本	73	夜深深	把火夜行蕉子林
C 本	74	〔女卜〕 (娘) 今不圖蕉子吃	且圖蕉葉好遮身
C 本	75	夜深深	把火夜行蘆裡林
C 本	76	郎今不圖蘆子喫	蘆葉織蓆貼娘身
C 本	77	夜深深	把火夜行松裡林
C 本	78	郎今不圖松子喫	且圖松葉細吟吟
C 本	79	夜深深	把火要行茶裡林 / 藤子喫
C 本	80	郎今不圖茶 / 藤子喫	且圖 {茶 / ★ (藤)} 賣得黃金 / ★★★
C 本	81	夜深深	把火要行班 (斑) 竹林
C 本	82	班 (斑) 竹好做簸箕夾	簸箕簸米谷歸心 / 中
C 本	83	夜深深	把火要行丹竹林
C 本	84	班 (斑) 竹好做涼 (涼) 傘柄	擔來娘屋討相連
C 本	85	夜黃昏	作笑 (玩耍) 不知姐鎖門 / 離 (籬)
C 本	86	歸到門前偷說泪 (淚)	不得鎖匙開姐門 / 離 (籬)
C 本	89	夜黃昏	作笑不知姐關門 / 離 (籬)
C 本	90	但關前門影姐 (被人) 眼	後門打開 (堂堂) 望郎來 / 行
C 本	87	夜黃昏	手拿歌卷過〔女卜〕 (娘) 門 / 離 (籬)
C 本	88	歌卷裡頭有句話	報娘夜睡不關門 / 離 (籬)
C 本	91	黃昏十二時	歡歡無我早商量 / 思尋
C 本	92	歡歡無我商量討	莫守〔父也〕 (爺) 娘自共時 / 腸
C 本	93	黃昏十二時	入娘羅帳解娘衣 / 衫
C 本	94	入娘羅帳細聲話	卸笑解娘身上衣 / 衫
C 本	95	黃昏抄橈攔門坐	門巷裡頭好績麻 / 系 (絲)

C 本	96	欠雙便來討面話	莫做楊梅暗結花 / 支 (枝)
C 本	97	黃昏抄攬欄門坐	得見七星現出山 / 天
C 本	98	娘姐問郎因何事	思量無事子無親 / 入心連
C 本	99	黃昏騎馬過合巷	合巷不通馬轉身 / 頭
C 本	100	光處點燈暗處坐	思娘看你心裡愁 / 過子心

とあるように、夜がふけ、若者は縁組を求めて乙女の部屋に入り恋心をうち明け睦み合うが、逢瀬を重ねることは難しい様子が述べられている。

A 本	40 (15-2)	大星又問小星事	小星在後討雙圖 / 連
		大星は小星に何かを聞く。	小星は脇で二人の気持ち / 添うかどうかを求めるが、人にはどうしようもないことだ。
A 本	41 (15-3)	大星上	小星在後托香爐 / 煙
		大星は昇る。	小星は脇で香炉 / 煙を捧げている。
A 本	42 (15-4)	托得香 { 爐 / 煙 } 欠水碗	以後托來郎慢圖 / 連
		香炉を捧げて水碗がない。それはいつも必ず一緒にあるべきもの、どちらがかけてもダメなものの方がかけるようなもの。	捧げた香炉は若者の気持ち / 添いたいと伝えている。今は水碗がなく、意に沿えないのでゆっくり進めるしかない。
B 本	134	大星又問小星事	小星在後得雙圖 / 連
B 本	135	天星上	小星在後托香煙 / 爐
B 本	136	托得香 { 煙 / 爐 } 欠水碗	舊 (日) 後托來郎慢連 / 圖

とあるように、二人の気持ちはうまくかみ合わず恋は挫折と述べられている。この部分は C 本にはない。

曲とされる叙事詩部分の「洪水沙曲」を見ても、

A 本	35 (17-17c 17-18a)	手把沙被鋪金龍	人生一世愛相逢
		手に金龍の刺繍が施されている布団をもつ。	人生は一世の間にお互いに結婚しなさい。
A 本	37 (18-1b)	廿八後生會相思	相要相打繡
		28 歳になって思い合う。	互いに刺繍をする。要 → 要
A 本	42 (18-5b 18-6a)	今年又逢人還愿	中廳唱出好今言
		今年もまた願ほどきをする家がある。	庁堂で昔の歌を歌いだす。
A 本	43 (18-6b)	都是嘍羅子話得	女來連
		どの歌も内容は、流楽	女性との縁についてである。
A 本	44 (18-6c 18-7a)	廿八後生真郎康	撐船過海念人雙
		28 歳の若者は健やかで、	船をこいで海を渡り二人が一緒になることを願う。
A 本	45 (18-7b 18-8a)	到來歌堂裡	腳踏上娘床
		歌堂を訪れ。	あの乙女の寝台に踏み上がる。
A 本	46 (18-8b 18-9a)	睡到五更郎歸去	郎今歸去路頭忙
		寅の刻まで眠り、若者は帰っていく。	若者は帰り道は山道で歩きにくい。忙 → 蒙

A 本	48 (18-10b)	廿八後生會相思	單身無我
		28 歳はお互いに合い、恋人を探す。	一人ではいられない。
A 本	49 (18-11)	愛行郷裡逢著一雙娘歸家說報郎爺	
		外の村に行き、二人の乙女に出会った。家に帰って父にこのことを知らせる。愛 → 要	
A 本	50 (18-12)	姐家無錢使空著一位娘	
		家は金がなく、一人の乙女にさえ何もしてやれない。	
B 本	52	手把衫袖伏金龍	人生一世愛相逢
B 本	44	今年又逢人還愿	中廳唱得好金言
B 本	45	但是嘍囉 / 哩子	姐妹看見出來連
B 本	46	廿八後生正郎康	撐船過海練人雙
B 本	47	行到娘房裡	腳踏上娘床
B 本	48	睡到五更郎歸去	郎今歸去路頭忙
B 本	50	廿八後生會過頭	相邀相賭起高樓
C 本	29	手把衫袖伏金簪	人生一世愛相逢
C 本	31	二十八後生會思量	入山斬木做 (抖) 高機

とあり、C 本は対応部分が欠如している。

人生は一世の間に結婚しなさいの部分は共通して述べられている。女性との縁を求め夜ばいに通うが、結婚に至る道のりは厳しいと読み取れる。

『大歌書』の冒頭は男女の恋の歌である。この男女の恋のテーマは『大歌書』のメインテーマとして、背骨のように最後まで貫かれている。

2.2. その他の叙事詩の曲部分の恋歌

曲とされる叙事詩部分について「沙水沙曲」以外の例を『大歌書』A 本のみでの記述から見てみると、やはり恋の歌が見える。

歴代の王たちの所業を述べた部分の「二段三峰曲」には、

38 (25-12b 25-13a)	一雙白馬真白馬	朝朝騎過娘門外
	つがいの白馬は真っ白な馬。	毎朝それに乗ってあの乙女の家門の外を通る。
39 (25-13b 25-14a)	一人出看囉哩	二人看
	乙女が出てきて見る。ララ	二人はまみえる。
40 (25-14b)	好做風流把你看	
	風流なものとあなたに見られる。 注) 風流抹拈話忝面白延招拒抹延弧意。	
87 (27-13b 27-14a)	將錢去買青銅籠	買歸家裡裝娘嫁
	青藤の籠を錢で買おうとする。銅 → 藤	買って帰り嫁入りの支度とする。
88 (27-14b 27-15a)	裝娘出嫁囉哩	嫁人郷
	嫁入りを支度し、嫁入りする。ララ	他村に嫁入りする。

89 (27-15b 27-16a)	嫁落人郷不望歸	嫁落人郷成人我
	他村に嫁入りすると帰れない。	他村に嫁入りすると家をなす。 注) 我=娥 菴人抛意味。

とある。

さらに「三段満曲」には、

47 (42-12)	坐落櫓頭櫓尾完	手拿笛子引娘吹
	腰掛けに座ると、(?)	手に笛をもち、吹いて乙女を呼び寄せる。
48 (42-13)	吹下列山列嶺歸	寅卯二年賊反亂
	笛を吹きながら山嶺を下り、家に帰る。	寅と卯の2年に反乱が起こる。

とある。

さらに、

43-17	十五年間逢養大 留把唐王來討雙	15年の間によく育てられてきたもので、唐王は縁組みを求めに来た
44-2	色嫁早 也為大哥色嫁多 / 錢	媒酌人が早く来た。若者に頼まれた媒酌人が来た

とある。

恋の内容の歌は、「四段荷葉盃」に

54-3	郎来一夜望天光	若者は一夜来て、暁まで泊まった
54-17 ~ 18	手拿笛 (笛) 子引娘吹 引吹引唱引雙歸	手に笛をもって笛を吹いてあの娘を誘う。笛を吹いて歌を誘う。一緒に帰ろうと誘う
55-3	三百貫隨娘心意 隨娘心意對成雙	両親は三百貫があり、娘の心からの願いをかなえることができるようになった。娘の心からの願いがかなって縁組みになった

とある。

次に「第六飛江南曲一段」に、

97-1 ~ 2	手拿笛 子引娘吹 引娘吹 引吹引唱 引雙歸	笛をもち若者は笛を吹いてあの娘を誘う。笛を吹いて歌を誘う。一緒に帰ろうと誘う
----------	-----------------------	--

とあるが、この一文は54頁の17行とも「又第七韻六曲」の104頁の5～6行とも共通する。

また、

97-7 ~ 8	翁娘出門 聲聲多祝	あの娘は嫁に行き、おめでとうといわれる
----------	-----------	---------------------

とあるが、この一文は「又第七韻六曲」の105頁の15～16行とも共通する。

さらに、

97-17～18	人來問 翁娘齊聲答說 起眠來看 嫩相思思着 當初養	人が尋ねる、娘ははっきりと答える。眠らずに見る。若者は相思相愛、成長を思う
----------	------------------------------	---------------------------------------

とある。

次の「垂六曲」に

107-4～6	郎來一夜多情謝 紅盆洗腳上床眠 眠得一更死 (正) 也好 眠得二更事也愁 眠得三更人來捉	若者がやってきて一夜を求める。足を洗いベッドに上がって眠る。一更まで眠ればよし。二更まで眠ると寂しい。三更まで眠れば人が呼びに来る
---------	---	---

とある。

叙事詩部分にも恋の歌がちりばめられていることが見える。

2.3. 謎解き形式部分の恋歌

『大歌書』A 本中タイトル「又何物段」は問答形式⁽¹⁵⁾で構成され、冒頭部分を例にすると経文の文面の七言上下四句は、

71-2	何物変 变成何様得娘連	何に変われば、何に変われば彼女に繋がることができようか
71-3	得郎变成銀梳子 上娘頭上作横眠	彼が銀の櫛に変われば彼女の頭の上で横になって眠ることができる

とあるが、実際には、

問	何物変 变成何様得娘連	何に変われば、何に変われば彼女に繋がることができようか
	得郎变成何様子 上娘頭上作横眠	彼が何に変われば彼女の頭の上で横になって眠ることができるだろうか
	何様子上娘頭上作横眠	どうすれば彼女の頭の上で横になって眠ることができるだろうか
答	容易変 变成一様得娘愛	変われる 一度変われば彼女のハートをつかめる
	变成二様得娘連	二度変われば彼女に繋がることができる
	容易変 变成二様得娘連	変われる 二度変われば彼女に繋がることができる
	得郎变成銀梳子	彼が銀の櫛に変われば
	上娘頭上作横眠	彼女の頭の上で横になって眠ることができる
	銀梳子 上娘頭上作横眠	銀の櫛なら彼女の頭の上で横になって眠ることができる

表に示すとおり問答で詠唱される。女性の頭から足元まで身に着けるものに男性が変身する内容が続くが、本文の七言上下句四句のうち三句目と四句目が何に変身するか、変身するとどのようかという答えになっており、それを引き出すために、一定の調子が繰り返される。「何に変わればよいのかな、何に変われば〇〇になるかな?」「簡単簡単何に変わればよいかって、〇〇に変われば〇〇になる」のように謎掛け形式で次々と反復展開される。実際の詠唱法は極めて複雑であり、

経文の文面を一見するだけでは、詠唱法まで理解することはできない。

この部分の内容は恋する若者がどうすれば彼女と一緒にいられるかという内容に終始しているが、経文の文面を示す。

71-2 ~ 3	何物變 變成何様得娘連 得郎變成銀梳子 上娘頭上作横眠	訳は前出
71-4 ~ 5	何物變 變成何様得娘連 得郎變成金釵子 上娘頭上插横眠	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が金のかんざしに 変われば彼女の頭の上に挿されて横 になって眠ることができる
71-6 ~ 7	何物變 變成何様得娘連 得郎變成羅帕子 上娘頭上復横眠	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼がターバンに 変われば彼女の頭の上に巻かれ横 になって眠ることができる
71-8 ~ 9	何物變 變成何様得娘連 得郎變成耳環子 耳環輕輕娘耳邊	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼がイヤリングに 変われば、彼女の耳元にそっと いられる
72-1 ~ 2	何物變 變成何様得娘連 得郎變成羅領子 羅領排排娘脛邊	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が着物の襟に 変われば、彼の首もとにつけら れていられる
72-3 ~ 4	何物變 變成何様得娘連 得郎變成青銅鋼 入娘衫袖出腦前	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が前垂れ飾りに 変われば服の打ち合わせに頭を出 すことができる
72-5 ~ 6	何物變 變成何様得娘連 得郎變成羅縵(酒)子 上娘身上復横眠	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が帯に変われば 彼女の体に巻きついて眠れる
72-7 ~ 8	何物變 變成何様得娘連 得郎變成羅裙子 羅裙多伏娘脚邊	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼がズボンに 変われば彼の足にひそんでい られる
72-9 ~ 10	何物變 變成何様得娘連 得郎變成領纏子 領纏纏帶娘脚邊	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が脚半に 変われば彼女の足に巻かれる ことになる
72-11 ~ 12	何物變 變成何様得娘連 得郎變成皮鞋子 皮鞋踏在娘脚邊	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が靴に 変われば彼女の足もとで踏 まれることになる
72-13 ~ 14	何物變 變成何様得娘連 得郎變成陽火子 急光急暗正來連	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が蛍になれば 光ったり暗くなったりして繋 がっていられる
72-15 ~ 16	何物變 變成何様得娘連 得郎變成協燂子 飛入深房永世連	何に変われば何に変われば彼女に繋がる ことができようか。彼が青頭蚊に なれば、家に侵入し、ずっと 一緒になれる

このように男性が女性に対して、姿を変えてまで一緒にいたいという恋心をなぞなぞを解く形式で表現しており、歌遊びとでもいえる領域だと考える。

『大歌書』は、大事記を記述するほかに、ミエンにとって心情表現の重要な手段と考える歌の特に恋の歌を織り交ぜることで歌の文化を伝承する書承教材とされているのではないだろうか。もちろん読誦詠唱されることで歌謡専用の言語と曲節が示され、口承教材ともなると考えられる。

ミエンは『大歌書』を用いて多面的な伝承を実現している。書承と口承という伝承方法だけでな

く、内容において民族の大事記等多方面の民族知識の伝承を実現している。このようにミエンの歌文化は極めて複雑であり、多角的な分析が必要といえる。

2.4. 『大歌書』の諸王に関する記述内容

『大歌書』では天地創造や諸王諸神による所業へと展開する内容が見られる。

歌堂儀礼で祭祀の対象となるのは、ミエンが海を渡り、遭難した際、救ってくれた盤王をはじめとする三廟聖王である。三廟聖王は、連州・行平・伏霊・福江・厨司・楊州の地名と結び付いた神々であり、福江に結び付いた神は盤王である。連州は唐王、行平は遊師、伏霊は五婆、厨司は五旗の各神と結び付けられている。中国の歌堂儀礼では『大歌書』が唱われる前に歌堂の実施を表明し、この三廟聖王に対する供物や紙銭等が十分であるかどうか、卜具を使用して、神々に確認を行う等する。この際に神々に関係する内容の七言上下句の歌が歌われる。このとき『善果書一本』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-16）および『歌堂書・意者書』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-26）が使用される。これらの経典に収められた歌詞と「唱盤王大歌」で詠唱される『大歌書』の歌詞には共通する部分が見られる。

連州・行平・伏霊・福江・厨司の内『大歌書』の歌詞との一致がはっきりと見える福江・連州・行平部分について述べる。

2.4.1. 福江盤王について

「盤王願」の「流楽」は、大歌書を歌う儀礼項目（「唱盤王大歌」）の前に行われる。まず神を歌堂の場に招き、さらに供物等を点検してもらい、最終的に『大歌書』の詠唱を始めてよいか確認する儀礼項目といえる。

最初の神々を招く場面では、連州唐王、行平遊師、伏霊五婆、福江盤王、厨司五旗それぞれについて記述されている箇所が読誦される。『歌堂書・意者書』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-26）が使用されるが、福江盤王を取り上げると、タイトル「又唱福江廟」の箇所が二回読誦される。該当部分の文面を以下に示す。

1	一花謝二花開	一神退位二神来
	一つ花に謝し、二つ花開く。	第一神が退けば第二神がお越しになる。
2	抛兵踏上伏（福）江廟	踏上伏江廟上行
	兵が福江廟に派遣される。	兵が福江廟に到着する。
3	出世盤王先出世	盤王出世在伏（福）{江 / 西天}
	誕生した盤王は早産の子だ。	盤王は西天福江に誕生した。
4	盤王出世伏江廟 / 西天	帽帯肖々朝上江 / 天
	盤王は西天福江の寺で誕生した。	頭に高い帽子をかぶっていた。

5	出世盤王先出世	盤王出世在福江 / 西天
	誕生した盤王は早産の子だ。	盤王は西天福江に誕生した。
6	盤王出世福江廟	两个金童在两边 / 行
	盤王は福江の寺で誕生した。	二人の金童が両側に控えている。
7	相賭盤王愛相賭	釋迦相暗 (賭) 在江辺 / 河
	盤皇は他人との交流が好きだ。	罪人を捕まえる釈迦は川辺で枷を作る。
8	盤王坐得三年半	{盤王殿 / 釋迦背} 上出紅連 (蓮) / 谷羅 (螺)
	盤王は三年半座す。	枷は使われず、虫やキノコが生える。
9	高枿望見斉眉見 (紫微鏡)	龍児画 (花) 粉在江村 / 州
	高台から紫微鏡で見る。	龍王の子孫が洪州にいる。
10	盤王年 (原) 生一對女	一年四季出行之 (郷) / 遊
	盤王に二人の娘が生まれる。	娘たちは一年四季外出して遊行する。
11	玉女梳頭不乱髮	聖女梳頭髮乱飛
	玉女は髪をきちんと梳く。	聖女は髪を梳くのに髪がぼうぼうになる。
12	玉女梳頭是伏 (仏) 様	連着唐王双下帰 / 不了時
	玉女は髪を梳くと仏様のようになる。	唐王と一緒に帰る。
13	出世信王先出世	信王出世不無 (有) 人 / 娘
	誕生した信王は早産の子だ。	信王が誕生するときに母が亡くなる。
14	信王出世無衣着	路逢金骨 (骨) 刀 (刀) 鹿 (遮) 身
	信王は誕生したとき着物がなく、	道にあった木の葉で体を覆う。
15	一声声在福江廟	二声落馬在壇前
	角笛一吹きで福江廟に至る。	二吹きで祭壇で馬を下りる。
16	来到壇前同万福	得見伏靈五婆先在 / 前
	祭壇の前に至り、万福をもたらす。	次に伏靈五婆を招へいする。

この経文は、『大歌書』A本の33頁16行から34頁8行とほぼ一致する。『大歌書』の詠唱に先行して行われる儀礼において招へいする神(この例では盤王)の素性が明らかにされるが、その文面は『大歌書』の盤王に関する記述と一致していることが分かる。

儀礼の実践では『歌堂書・意者書』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-26)に続き、『善果書一本』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-16)を使用し、「三年養猪還聖願涼(良)信到壇来請師」(三年豚を養い、願ほどきのために施主は祭司を招く)から始まり、歌堂の実施を表明し供物を勧める内容が読誦される。その後『神名書』(ヤオ族文化研究所文献番号:C-3)を使用し、具体的に招へいする神々の名が読み上げられる。

福江という地名と結び付いた盤王だが、盤王グループといえる複数の神々から構成される。『神名書』(ヤオ族文化研究所文献番号:C-3)には、この盤王グループを招へいするのに、「請你福江盤王聖帝 盤古郎老聖人 在左辺金童 右辺玉女 (木メメ木金) (鑿に類似) 手涼打傘 ●黄趙二位● 禾花姉妹 五谷仏娘 李家李請書丁 劉一劉二仙童 把瓶献瓶郎官 許願童子 把願判官 一行聖衆 各人奏到福江大廟停」と複数の神名が連ねられ、読誦される。

その後『善果書一本』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-16）に戻り、供物を神々に勧める内容が読誦される。この『善果書一本』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-16）「三年養猪……」（三年豚を養い…）から歌堂の実施を表明し、供物を勧める内容部分まで3回繰り返し読誦される。

盤王について『大歌書』には、

(35-1)	盤王起計	
	盤王のわざ、行い、才能	
1 (35-2)	起計盤王先起計	盤王起計立春名
	盤王の行い。	盤王は立春を決めた。 注) 立春立夏立秋立冬も決めた。
2 (35-3)	黄龍又定五雷熟	專望五雷轉一聲
	黄龍が五雷を決める。 注) 五雷は東南西北中の五雷。	五雷が第一声を出すのをもっぱら望む。 注) 最初の雷が鳴ると立春の印、農耕の始まりを意味する。
3 (35-4)	起計盤王先起計	盤王起計開犁頭 / 鈿
	盤王の行い。	盤王が犁を創った。
4 (35-5)	鼠王過海偷禾種	黄龍含水吩禾莖 / 花
	鼠王は海を渡り稲の種を盗んだ。	黄龍は水を口に含み、稲の頭 / 花に吹きかけた。
5 (35-6)	起計盤王先起計	盤王起計開犁梗 / 鈿
	盤王の行い。	盤王が行い、犁で田を耕した。梗 → 耕
6 (35-7)	開得犁鈿也未使	屋底大塘谷報生 / 芽
	犁を作ったがうまく使えなかった。	家の下の田の稲が芽を出したのに。
7 (35-8)	起計盤王先起計	盤王起計立春名 / 哀
	盤王の行い。	盤王は立春を決めた。 注) 名と哀は同じ意。
8 (35-9)	立得春 {名 / 哀} 都足了	屋背映見段段青 / 齊
	立春となり何事もそろった。	家の裏の稲の苗は青々となった。見 → 田
9 (36-1)	起計盤王先起計	盤王起計種苧麻 / 絲
	盤王の行い。	盤王が行い、チョマを植えた。
10 (36-2)	種得苧 {麻 / 絲} 兒孫績	兒孫世代繡羅花 / 衣
	植えられたチョマは息子や孫によって紡がれた。	代々薄い着物に刺繡を施した。
11 (36-3)	起計盤王先起計	初發苧 {麻 / 油} 葉大球 / 花
	盤王の行い。	チョマの実も葉も大きくなり花も咲いた。
12 (36-4)	苧麻籽細不成苧	蕉麻籽細便成細 / 羅
	チョマの種からは糸を作れず、茎の皮で作る。	バシヨウで布を創った。
13 (36-5)	起計盤王先起計	盤王起計開高加 / 機
	盤王の行い。	盤王が行い、織機を創った。
14 (36-6)	開得高 {加 / 機} 織細布	布面又凋李柳花 / 絲
	創られた織機で目の細かい布を織った。	布の表に柳花の模様が施される。
15 (36-7)	著苧盤王先著苧	著羅唐王先著蕉 / 羅
	盤王が最初にチョマ布の着物を着た。	唐王は最初にバシヨウ布の着物を着た。

16 (36-8)	盤王著苧世也好	唐王著 {蕉 / 羅} 更請條 / 婁羅
	盤王はチョマ布の着物を着て見てくれがよい。すてきだ。 注) 世は試の意。	唐王はパシヨウ布の着物を着てさらによい。請 → 清
17 (36-9)	盤古留得有七格	羅衣手中無本錢
	盤王は7反の布を残す。	羅衣は手元にあるが、金がない。

とある。

以上列挙した盤王に関する『大歌書』の経文は、盤王に供物を点検してもらう儀礼項目において歌われる『善果書一本』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-16）および『歌堂書・意者書』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-26）の経文と一致することを確認した。

儀礼の中で使用される経典に繰り返し繰り返し盤王の所業が述べられ、複数回福江盤王について同じ内容が読誦詠唱されるのである。連州唐王、行平遊師等についても同様である⁽¹⁶⁾。

以下に示す、連州唐王を呼ぶ記述の最初の部分（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-26、ファイル名：kmo20111119IMG_2470）には、上光童子（師男）の魂が師父の兵と一緒に唐王の廟に行き、男女の恋歌の掛け合いさながらに歌を掛け合っている様子が述べられており、ここからは、神と童子の関係は、世俗の男女と同様に歌を掛け合う関係と読み取ることができる。神との歌の掛け合いからは、大歌書に恋歌が組み込まれたのと同様の発想を見いだすことができ、神とのやりとり、つまり儀礼空間での実践は、世俗の原理で解釈可能ということができる。神と人との関係は、男女の関係と同様に解釈されていると考えられ、ここに大歌書に恋歌が導入されている意味を読み取ることができるのではと考える。⁽¹⁷⁾

抛兵踏上連州廟	踏上連州廟上行
上光童子が連州廟に上がる。	連州廟に上る。
連（蓮）子花開入連洞	連（蓮）子花開在塘邊／頭
蓮の花は開き、連州洞に入る。	蓮の花は湿地に咲く。
愛挿連（蓮）花入連洞	連（蓮）子花開在連邊
蓮を好み連州洞に入る。	蓮は連州に咲く。
摘得一技頭上挿	又摘二枝手里連
一枝摘み頭に挿す。	二枝摘み手にもつ。
入連洞	二人相入保連塘／州
連州洞に入る。	笛と鼓をもつ二人が連州に入る。
人話連（蓮）花発連早	郎来今夜正合双／来
人の話では蓮の花は朝咲く。	上光童子は今夜会いに来る。
担糞去翁（種）梨柿杵（樹）	去翁梨柿望成林／行
肥料を担ぎ梨や柿の木にやる。	梨や柿が林になるように。
去翁（種）梨柿成 {林／行} 子	梨柿成林花便生／開
梨や柿が林になるように。	梨や柿は林になり花が咲く。

撐舡過海尋娘姓	今夜正知娘姓唐
船を操り海を渡り乙女の姓を求める。	今夜まさに乙女の姓が唐と知る。
娘小姓唐郎姓彩	共入花粉討成双
乙女の姓は唐で若者(私)の姓は彩(彩=等待つの意)。	ともに花に入りむつまじくする。

3. 師父と歌娘の詠唱から見えること

3.1. 男性師父と女性歌娘の歌書内容

師父の歌う『大歌書』の内容と、歌娘の使用する歌書の内容との比較を行う。女性専用歌書は2011年に大盤家で実施された還家願儀礼で、歌娘馮友妹が詠唱した『慶盤王歌書』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-29)を用い、『大歌書』は藍山県趙金付所蔵の『大歌書』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-19)、さらに寧遠県盤旺古所蔵の『盤王歌書』(ファイル名:khi20151229IMG_3033~3131)を用いる⁽¹⁸⁾。

『慶盤王歌書』の内容は、祭司の行う祭祀の実践に即しているが、経文のキーワードをピックアップすると、拜神聖、起声唱、引歌出、引娘唱、初世唱、不唱了、圓堂歌、黄師歌、家願唱、伏問仔、師官歌、曲歌、遠郷詩、三断思、四断思、謝鈴、師女、謝歌、女人遊願歌、伏願歌、送王歌、送神、賀主歌、抽酒奉酒歌、折兵分将起馬登途歌、皇出世がある。

大意を述べると、乙女は歌堂があると聞き、貴州から湖南にやってきたと、遠方から来た経緯を述べる。施主家の男性をほめ、優秀さと富貴を言祝ぐほか、家をほめ、酒をほめる。歌娘は劉三娘の歌曲を得て歌い、盤王を賀すためよい歌を歌うとする。施主家のもてなしを感謝し、施主家を言祝ぐ。唐王が五穀豊穰をもたらすとする。還家願の実施内容。盤王をはじめとする神々を連州、行平、伏靈、伏江、厨司、陽州の各地へと送る。ヤオ人の山での生活を述べる。神々は馬や船で帰るとする。施主家を賀し、長寿、五穀豊穰、財を成す、子孫繁栄であるよう言祝ぐ。祭司を賀し、祭司の儀礼での役割の賞兵師、相伴師、書表師、相替師、護霊師、厨司を挙げて賀す。参加者の帰宅を促す。折兵錢を神々がおさめるとする。最後に皇出世でミエン・ヤオ族にとって重要な海を渡る飄遙過海神話が述べられる。

師父の『大歌書』の歌い出しに合わせた、歌娘の歌書の「家願唱自起」部分では、歌の祭りがあると人が話しているという歌詞がある。歌娘歌書では「人話郎村歌堂到」とされ、男性歌書は、趙氏本では「人話郎村歌堂到」、盤氏本では「人話娘村歌堂到」とあり、歌の祭りが郎つまり若者の家で行われるのか、娘つまり乙女・彼女の家で行われるのか、まったく逆である。男性用の歌書の後に続く歌詞から判断すると、乙女の家で歌堂が開催されるので、そこに若者がやってくるという方が筋が通る。娘と郎の字を音が似ているため書き間違えたかと推測する。

歌娘の歌書については他の二異本⁽¹⁹⁾を見たがすべて若者の家で歌の祭りが行われることになっており、果たして歌娘の歌書はどちらが正しいのかをさらに異本を見て判断する必要がある。

前項で示したように、『大歌書』の最初の部分は遠方の村の男性が、歌堂があると聞いて、船に乗ってわざわざ女性の家に来て来るという内容から説き起こされている。さらに男性が女性に恋し、夜這いをする求婚の様子が綴られている。

馮友妹使用『慶盤王歌書』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-29）には、khi20111120IMG_1166 右に「娘是遠郷遠來客 娘是客人不敢來 / 声」（娘は遠方の村から来た客で、むやみに歌いたくない）とある。khi20111120IMG_1167 右に「人話郎村歌堂到 娘隨路遠架車行 / 來」（若者の村で歌の祭りがあると人がいう。娘は遠方を車に乗って来る）とある。khi20111120IMG_1168 右に「今朝若來若不來 爺娘不把妹偷來 / 行」（今日来るかどうか、娘の父が娘を行かせたがらない）とある。khi20111120IMG_1168 右に「白藤好織千年籠 見娘好合万年双 / 親」（白藤で千年使える籠を編むように、娘と万年添い遂げたい）とある。khi20111120IMG_1171 左に「郎村鷄啼双泪落 思着娘郷路在長 / 遠」（若者の村の鶏が朝を告げ二人は涙する。遙か遠い娘の村）とある。khi20111120IMG_1172 右に「歸去也 船頭開傘々排々」（娘は帰る。船の舳先で傘を開いて颯爽と）とある。恋の歌は女性の歌書にも見える。

歌娘の歌書では乙女が歌堂の行われる若者の村を訪れるという設定であり、二人が恋仲となるという内容である。師父の歌書では乙女の村で歌の祭りがあるので若者が出掛けて行くという設定であり、逆の設定となっている。互いの歌の掛け合いの都合でこのようになっていると考えられる。もともとミエンには男女が歌を掛け合いお互いの意思を疎通させる風習、それはまたお互いの明晰さを競う歌比べの場であったと考えられるが、そのような歌の文化があったと想像できる。

歌娘の歌書の最後には「皇出世」⁽²⁰⁾と題される、師父が流楽において歌う「点男点女過山根」の内容に通じる飄遙過海を含む神話伝承の記述がある。しかしこの部分は盤王願では詠唱されず太平良願という村の除災招福を行う儀礼で歌娘により詠唱される。

師父は「盤王願」において天地創造、洪水、兄妹婚、ヤオの出現、天変地異、諸王の所業、飄遙過海等の神話伝承の記述された『大歌書』をはじめとする経典を詠唱する。だが歌娘は盤王願において神話伝承を詠唱することはない。盤王を慶賀し謝意を伝える儀礼を進める基本的な流れを導くような内容を詠唱するのである。歌娘の歌を聴くことで盤王が迎えられてから願ほどきをし、また送り出されるまでどの段階にあるか理解できるのである。実際に祭司が儀礼を進行しそれに即した歌を歌娘が歌っているといえる。歌と儀礼が一体となり複合的な祭祀の場を演出することになる。

3.2. 『慶盤王歌書』「女人遊願歌」部分に見る儀礼の全容

「女人遊願歌」（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-29、ファイル名：khi20111120IMG_1184～1186）部分は祭りの全体の目的や意義が示されている部分であるので以下に訳を示す。

1	騎馬過郷（雲）來到（偷）願	騎龍便（使）把馬龍頭（還）/邊（勾）
	馬に乗って還願に来た	竜馬に乗って還願に来た
2	莫把（放）小娘（郎）落馬去	今世能（便）有到（偷）願頭（還）/邊（勾）
	あの子を馬から落とさせない	還願の場に来られる
3	銅鍋莫殺定水（煎茶共）熱	師人結願便（使）高台/銅鈴
	お茶を入れる水を鍋で沸かす	祭司は祭壇に向かい鈴を鳴らす
4	師人著衫定（共）鬼話	筭頭落地鬼分明/來齊
	祭司は法衣を着、神の言葉を話す	ト具で占い、神々の来臨を知る
5	當初結願師人結	結了神安掛壁頭/邊
	願掛けは祭司が行う	神に願掛けをし、神は壁に掛けた紅羅緞に在します
6	當初願斷壁開葉	壁葉未開願便勾/還
	本来願掛けは壁に植物の葉が生えてから行う	今まだ壁に葉はないが願ほどきを行う
7	當初結願師人結	結了初安做了頭/邊
	願掛けは祭司が行う	願を神に掛け、神は在します
8	當初願斷（結願）挑生子	挑子未生願便勾/還
	願を掛けたのは、子孫が途絶えようとしていたから	子孫が生まれず、願を掛けた
9	當初結願使茶情（青）/井茶	世今還願使銅鈴/長（灯）沙
	願掛けにお茶を供える	今願ほどきにあたり、鈴を鳴らす
10	丹（但）使 {銅鈴/長（灯）沙} 還不過	又請外人來唱歌/聽聲
	鈴を鳴らすがまだ足りない	外から人を頼み、歌を歌ってもらう
11	當初結願使張紙	世今還願使萬千/秋
	願掛けに紙銭を供える	願ほどきには幾千万円必要である
12	丹（但）使萬 {千/秋} 還不過	出路逢花折一（又摘）添/秋（収）
	幾千万円でも足りない	出掛けると花があり一輪手折る
13	當初結願師人結	結了茶（齊）安箱底沙/收（収/抽）
	願掛けは祭司が行う	願ほどきに茶を箱に収める
14	當初不（未）還心不（未）憶	世今還了世無愁/憂
	願ほどきをしないと心が落ち着かない	今願ほどきをし、憂いがなくなる
15	當初結願師人結	結了茶（齊）安沙（杉）木良/流
	願掛けは祭司が行う	願ほどきに杉木を供える
16	天光落日歌堂散	水推杉木斷中央/由（根）
	日が落ちて歌堂がひける	杉木を一刀両断にし滞りなく終える
17	遊 願 到	遊願到郎便良/由（遊）
	遊願に至る	遊願は願ほどきのため
18	今年遊過娘門外	後年遊過別人街（郷）/洲
	今年はこの娘の家の外で遊願する	今後は別の家で行う
19	遊 願 到	遊到江邊水急頭/邊
	遊願に至る	川に遊び水際に行く

20	江邊水急船灘過	願是中廳今日勾 / 夜還
	川は流れが急で渡れない	還願は施主の家で今夜行われる
21	遊 願 到	銅鈴有骨願便勾 / 還
	遊願に至る	鈴は願掛けにも願ほども用いる
22	銅鈴解徳舞神意	歌詞解得無神愁 / 思
	鈴を鳴らし舞い神々を招く	歌を歌い神を喜ばせる
23	遊 願 到	遊到天 {平 / 針 (官 / 齊)} 地也平 / 針 (官 / 齊)
	遊願に至る	遊願を行い、天も地も平静に丸く収まる
24	遊到天 {平 / 針 (官 / 齊)} 下細雨	遊到地平轉入門 / 針收早禾
	天が平静になり細雨が降る	地が平静になり穀物がとれる
25	遊 願 到	遊到天 {平 / 針 (官 / 齊)} 地也平 / 元
	遊願に至る	遊願を行い、天も地も平静に丸く収まる
26	遊到天 {平 / 元} 下細雨	遊到天 {平 / 元} 成秀才 / 官
	天が平静になり細雨が降る	天が平静になり秀才が官となる
27	鴉色杵頭色便色	色下大洲酒盞腰 / 烏
	カラス色の樹がさらに黒くなり	この世の杯は酒杯となる
28	今年色破還良願	色破願頭放火燒 / 收
	今年還良願を行う	還願に紙銭を燃やす
29	鴉色杵頭色扛色	色下大洲酒盞街 / 盃
	カラス色の樹が赤くなる	この世の杯は酒杯となる
30	天光落日歌堂散	大王歸去也無來 / 回
	日が落ちて歌堂がひける	大王 (盤王) がお帰りに戻らない
31	筆是大洲鬼 (兎) 毛筆	墨是貴州松子煙 / 烏
	筆は兎の毛を使い	墨は貴州の松煙を使い
32	天光落日歌堂散	筆頭打破萬年書 / 千年
	日が落ちて歌堂がひける	筆で書かれた願は千年万年の書
33	不 唱 了	大王歸去下流洲 / 灘
	歌を終える	大王はお帰りに川を下る
34	人話流洲江水大	大王撐下不無憂 / 難
	人は川の水が増しているという	大王にとって問題はない
35	不 唱 了	黃稈伏排撐下灘 / 洲
	歌を終える	稲の藁を並べ洲を渡れるようにする
36	撐到半灘黃稈亂	變成鴉鴿漫天遊 / 飛
	洲の途中で藁が壊れる	カラスやニワトリとなって天に飛び去る
37	不 唱 了	六笛花開伏大排 / 船
	歌を終える	6回笛を鳴らし花が開き船を繋ぎ並べる
38	伏得大 {排 / 船} 撐下海	遊願播歸交把師 / 下地燒
	船を繋ぎ海に出ることができる	遊願し戻り、師に託し焼いてもらう
39	不 唱 了	六笛花開伏大收 / 交 (橋 / 求)
	歌を終える	6回笛を鳴らし花が開き願を収める
40	伏得大 {收 / 交 (橋 / 求)} 撐下海	遊願播歸下地收 / 燒
	願が収められれば海に出ることができる	遊願し戻り、師に託し焼いてもらう
41	不 唱 了	收執 (什) 歌詞籠裡藏 / 收
	歌を終える	歌詞を収めてしまう

42	三更半夜人相請	不曾（成）把火過鄉求 / 連（郎）
	夜半に逢い引きする	火をかざして互いの村を訪問したことはない
43	不 唱 了	風吹木換（縣）轉魁魁 / 排排
	歌を終える	風が吹き梢をゆらす
44	風吹木換（縣）{魁 / 排} 了轉	世唱一（伏共唱）條轉入歸 / 街（庁）
	風が吹き梢をゆらす	歌を収め家に帰る
45	不 唱 了	風吹木換（縣）轉興興 / 平平
	歌を終える	風が吹き梢をゆらす
46	風吹木換（縣）{興興 / 平平} 轉	收什（拾）歌祠（詞）轉入廳 / 門
	風が吹き梢をゆらす	すべての歌を終え家に入る

この「女人遊願歌」の詠唱に際しては戸外で三人の青年男性（三姓単郎）と三人の青年女性（三姓青衣）が対面して並び、歌娘は「女人遊願歌」の詠唱を行う。三人の女性のうち中央の女性が盤王への願書（家先壇に置かれた竹筒から取り出された盤王への願掛けの証文）が結び付けられた銅鈴（法具）を持ち、願書の紙を少しずつちぎって捨てる。

「女人遊願歌」の歌詞からは盤王への願掛けと願ほどきに盤王を招き、祭りを実施することとさらなる願掛け、祝言そして盤王に船でお帰りいただくこと等が見える。この「女人遊願歌」の場でも再度祭りの目的が告げられ、盤王への願掛けと大願が成就したことへの謝恩の意であることが表現されている。同時に祭祀の実践において祭司によって願掛けの証文が粉々にされることで、願ほどきが完了することを実際に表現する。

3.3. 師父と歌娘の詠唱での接点

師父と歌娘の詠唱の実践と使用経典の内容の一致に注目して見てみる。

3.3.1. 歌いはじめ

儀礼の進行にそった形で師父、歌娘別々の歌書を用い詠唱が進められるが、接点もある。師父と歌娘の詠唱実践での接点は、まず歌娘の歌いだしに見られる。

歌娘の歌いだしは2011年の大盤家で行われた還家願儀礼程序の「盤王願」部分の程序⁽²¹⁾から見ると、小項目「流楽」において、正面祭壇前にカスタネット・長鼓・笛をもった祭司の弟子の三姓単郎（三郎）と呼ばれる男性3人が並び、その後ろに三姓青衣（三娘）と呼ばれる若い女性3人が並ぶ。3人のうち中央の女性は花嫁がかぶるかぶり物を着けている。

師父は経典（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-15、ファイル名：khi20111117IMG_0726~khi20111117IMG_0753）を使用し、飄遙過海神話や現在の居住地への移住の経緯を含んだ「点男点女過山根」を詠唱したのち、「請男人出唱歌詞」の部分、そこには拜神聖・引歌出・引娘唱・起歌唱・初世唱・初世声・初世逢・初世収・過几嶺・過几洞・離客頭・相伏問・莫禄問・娘会話・不唱了と男性の歌う歌詞の

タイトルが書かれている頁を歌う。さらに「女人出唱歌詞」部分の入席唱・引郎唱・起歌唱・初世唱・初世声・初世逢・初世収・不唱了と女性の歌う歌詞のタイトルが書かれている頁を歌う。これは歌書が収められている箱から取り出されることを意図している。男性と女性の歌書のタイトルには同一のものが多く見いだせる。

このとき神に届ける特別な歌を歌うにあたって必要とされる歌神（劉三姐⁽²²⁾）の声を神から歌手に渡されたか否かを卜具で占い、巽卦（表裏そろう）が出ると「陰声保・陽声気」とされ歌神に守られるとされ、年配女性歌娘の歌が『慶盤王歌書』（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-29、ファイル名：khi20111120IMG_1152～khi20111120IMG_1209）を使用して開始される⁽²³⁾。本来正面祭壇前に並ぶ若い男女（三郎と三娘）が自身で歌ったものと想像されるが、今は三郎の歌を師父が、三娘の歌を年輩の歌娘が詠唱する。

師父は、「拜神聖 拜神無聖聖無知 / 難 三百二人郎作笑 人々教我拜神難 / 思……」（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-15、ファイル名：khi20111117IMG_0730）と歌う。

歌娘は、「拜神聖 拜神無聖々無難 / 知 三百二人娘作笑 人々教我拜神安 / 糸……」（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-29、ファイル名：khi20111120IMG_1153）と歌い始める。

開始の部分を見ても師父の歌詞と歌娘の歌詞はほぼ同じであるが、師父の歌詞が郎で歌娘の歌詞が娘とされているところは歌い手の役割を分けているのかもしれない。歌娘の別の版本には郎とされているものもあるので混同されているのかもしれない⁽²⁴⁾。

男性師父の歌はチャンガーとされ女性歌娘の歌はバーゾンとされ曲節が全く異なるが、さらに同じ漢字でも読み方が全く異なり、師父の読み方は漢語に近く、経典のどこを歌っているか分かるのだが、歌娘の場合は全く分からない。いずれにせよ歌いだしの歌詞内容は、経典に記された文面から見て師父の歌詞の方が行が多いもののほぼ同様の歌詞が歌われる。

ただし男女の歌の掛け合いというようなことはせず、同じ歌詞の歌を音と曲節を変えて同時に歌う。内容はこれから歌を歌いだすという内容である。

師父は経典「不唱了 收拾歌詞籠裡蔵 / 収 三更半夜人相請 不曾把火過求郎 / 郷求」（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-15、ファイル名：khi20111117IMG_0734）まで歌う。

歌娘は経典「不唱了 收拾歌詞籠裡蔵 / 収 三更半夜人相請 不曾把火過人去連双 / 郷」（ヤオ族文化研究所文献番号：Z-29、ファイル名：khi20111120IMG_1154）まで歌う。このように男女の歌書の内容の一致が見られる。

3.3.2. 『慶盤王歌書』の「圍堂歌」部分

やはり「流楽」において三姓青衣と楽器をもった三姓単郎が戸外で対面して並ぶ。祭司の弟子が

玉簡をもち、鈴を振りつつ、対面する三姓青衣と三姓単郎の間を8の字に回り、これは串歌堂を意味するという。

このときに歌娘は「圍堂歌」部分を歌う(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-29、ファイル名:khi20111120IMG_1153～khi20111120IMG_1156)。一方師父も経典(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-16、ファイル名:khi20111117IMG_0839～khi20111117IMG_0842)の同内容の歌詞の部分を歌う。

歌娘の「圍堂歌」の始め部分は、「踏入歌堂協三協 長沙姊妹協三声 / 沙 四辺歌詞且慢唱 且听師人先出歌 / 声 大王席上有碗水 姊妹齊々来種花 / 系」である。

師父の場合は「踏入歌堂協三協 長衫姊妹協三声 / 沙 四辺歌詞且慢唱 且聽師人先出声 / 歌 大王席上有盃水 姊妹齊々来挿系 / 花」である。

最初の部分の歌詞の一致が見られるが、この後の歌詞についてもほぼ一致する。

3.3.3. 『大歌書』の歌いだし部分

師父が小項目「唱盤王大歌」において『大歌書』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-19、ファイル名:khi20111117IMG_0883～khi20111117IMG_0944)の歌い始めにおいて、歌娘は『慶盤王歌書』の「家願唱自起」部分(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-29、ファイル名:khi20111120IMG_1159～)を詠唱するが、内容的に一致する部分がある。

「家願唱自起」の最初は、「人話郎村歌堂到 湖南江口挿修牌 / 系 共村姊妹開書読 書字不真娘正来 / 知……」と歌う。『大歌書』の最初には「人話郎村歌堂到 湖南江口挿條系 / 排 共村姊妹開書読 書自(字)不真郎自来 / 知……」とあり、一致する歌詞が見える。

歌堂が行われると聞き男女が集まる様子が述べられる部分が一致する。歌堂は男女の歌合戦の場であったと想像できる。

3.3.4. 『慶盤王歌書』の「伏願歌」部分

歌娘が小項目「唱盤王大歌」において『慶盤王歌書』の「女人遊願歌」部分(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-29、ファイル名:khi20111120IMG_1184～khi20111120IMG_1186)を歌うときには、再び三姓青衣と三姓単郎が戸外で対面して並ぶ。その後室内に戻り『慶盤王歌書』の「伏願歌」(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-29、ファイル名:khi20111120IMG_1186)部分を歌うが、そのときに師父もまた経典(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-26、ファイル名:kmo20111119IMG_2612～kmo20111119IMG_2615)「又復願歌」部分を歌う。

タイトルおよび最初の部分「門前遊願転 門前遊願到台頭 / 辺」のみ一致が見られる。

3.3.5. 『慶盤王歌書』「送神」部分

歌書の内容の一致ではなく、歌娘の歌に呼応して師父(祭司)が儀礼の実践と詠唱を行うという接点も見いだせる。

小項目「送王」において詠唱される、『慶盤王歌書』の「送神」(ヤオ族文化研究所文献番号：Z-19、ファイル名：khi20111120IMG_1188～khi20111120IMG_1190)部分は儀礼の終わりの段階ですべての神々にお帰りいただく内容である。儀礼の実践では師父もテキスト(ヤオ族文化研究所文献番号：Z-15)を読誦し問答形式で祭祀の終わりを予告し、お帰りいただくよう促すのでこれに対応している⁽²⁵⁾。『慶盤王歌書』の「賀主歌」(ファイル名：khi20111120IMG_1190～khi20111120IMG_1197)部分は儀礼の主催者を言祝ぐ内容であり、儀礼の実践では師父があらためて神々に施主の繁栄と五穀豊穡、家畜の増殖、金銀財宝を願うのでこれに対応している⁽²⁶⁾。『慶盤王歌書』の「折兵分将起馬登途歌」(ファイル名：khi20111120IMG_1200～khi20111120IMG_1202)部分は神々の名を挙げつつ奉納金を受け取ったことを確認する内容で、儀礼の実践においては師父が神々に約束した紙銭を献上し、足りたかどうか卜具で占うのでこれに対応する内容である⁽²⁷⁾。

歌娘の詠唱は、神々へ還願を主催する施主の願ほどきの意思を伝え、儀礼の進行を明らかにし、さらには神々を喜ばせる役割を担っているといえる。女性の詠唱からは神々へ言葉を届けるには七言で構成された詩とゆっくりとした反復繰り返しによる旋律がもっともよいとされていることも分かる。

3.4. ミエンの歌世界

中国・東南アジア大陸部に広く分布する山地民ミエン・ヤオは共通する祭祀儀礼を伝承し、儀礼で使用される経典には、現在に至るミエン独自の祭祀対象である盤王(ビエンフン)に対する祭祀起源伝承が、漢字で記され視覚的に認識される。盤王伝承は、声に出して読まれるつまり、詠唱されることで、聴覚的にも認識される。そればかりか、儀礼の祭壇に飾られる切り紙細工、供物、舞踊のパフォーマンス等種々な媒体に記され認識される。盤王伝承は、ミエン社会の由来と儀礼の正当性を広報するメッセージとして複数の媒体に記され、反復発信されることで、儀礼の場集まるミエンがイメージーションを共有することになる。

神話と歴史が歌われる儀礼空間には神話世界が表現され、自民族のアイデンティティを五感で認識する場となる。岡部隆志の説く「神話的時間」⁽²⁸⁾の成立する空間が設えられるのである。

ミエン・ヤオの儀礼では、歌は神の声がわたされ歌書や歌詞が引き出されて初めて詠唱されると考えられており、歌謡語を用いた大歌の詠唱自体極めて神聖な行為だといえる。永池健二によれば、歌は目に見えない存在に働きかけを行い、隠れている者を言葉によって顕在化する⁽²⁹⁾とするが、事例の中でも効果的に歌が用いられており、祖先の移住の記憶と歴史、神とされる祖先の所業を顕在化しているといえる。さらに救世主盤王との契約が反復される。

さらに比嘉実が南島歌謡の研究において「言霊にすぎりながら、呪術的に自然に立ち向かい、克服しようとする祭式歌謡には、ひたすら呪術的心性にのみ頼るのではなく、歴史的に獲得された体験的な自然に対する認識が基層にあることを忘れてはならない」⁽³⁰⁾と述べているが、ミエン・ヤオ族の歌書にも民族が蓄積してきた自然に対してのみならず種々な知識や精神文化が凝縮されており、詠唱では反復の形式を取りつつ発露されるのである。

折口信夫は『古事記』にある倭建命が東征の途中で火の番をする老翁と掛け合った歌を取り上げ、掛け歌が歌の起源であると説明している⁽³¹⁾。さらに折口信夫は、片歌五七七を原型に短歌の様式が発生すると考え「神様の詞を促し尋ねようとする、どうしてもある定つた神の語の様式を以てしなければならぬと信じてゐた」⁽³²⁾ところから発して、人間が神と応接する様式が五七七であったとされたというのである⁽³³⁾。金文京は従来の演劇史において取り上げてこられなかった祭祀性を強くもつ文芸の詩讃系文学・詩讃系演劇に光を当て論じている。金文京によれば詩讃系文学は主に七言詩を基本とするが、この起源は巫歌等民間宗教にあり、それ故、知識人からは五言詩に比べ軽視されたとする⁽³⁴⁾。

儀礼の進行にそった形で師父と歌娘は別々の七言詩で構成される歌書を用い、その読み方や曲調も異なるやり方で詠唱する。お互いに歌を掛け合ったりは一切しないが、お互いの歌の詠唱を前提として歌い進めている。それは決められた場面で、同一の歌詞を歌うことに表れているといえよう。それぞれのパートを歌う目的は盤王を代表とする神々を言祝ぎ慶賀し謝恩する意思を表現することで一致しているといえる。

歌で自分の心情を表現する伝統があり、男女が歌を掛け合う場面もあり、その上で神を喜ばせる儀礼を七言の歌で進行することが考え出された。男女異なる歌書に男性歌書は神話や歴史叙事に、女性歌書は儀礼の進行に重点を置き記述される。男女の恋の歌のちりばめられたそれぞれの歌書を詠唱することは、世俗の原理が神祭りの場でも通用していることを示している。神と人との関係は、男女の関係と同様に解釈されており、恋の歌が導入されてはじめて儀礼が完全になる。七言詩には対句修辞表現反復繰り返しが多用され複雑で多様な方法で神を喜ばせる構成が考えられており、ミエンの真骨頂といえる。ミエン特有の民族知識の伝承方法といえる。

補足すれば、漢字を日常生活で用いない社会に居住するベトナムやタイのミエン・ヤオ族は中国のミエン・ヤオ族とほぼ同じ漢字テキストを伝承し、それを用いて儀礼を継承しているが、次世代への漢字学習に課題を抱えている。漢字テキストは声を出して読み上げられるが、漢字は日常使うミエン語や漢語とも異なる音訓を付して読まれる上に経文によって決まったリズムと旋律を備えた節が付けられる等、儀礼と漢字テキストにともなう知識は大変に複雑である。社会の変化が進み

伝統的価値を軽視する傾向が生まれる中儀礼を行う祭司の儀礼知識の継承も難しい状況にある。中国では歌娘が使用する歌謡テキストは、ベトナムにも存在するが、ベトナムの儀礼の実践においては師父によって歌われている。推測だが、ベトナムやタイに移住し漢字文化圏から出たグループの女性が従来漢字学習を行える環境にあったかははなはだ疑わしいといえ、ほとんど口承の形がとられてきたと考えられる。現状ではタイやベトナムでは漢字テキストを詠唱できる女性はほとんどおらず、部分的に口承で伝承されているのみとなっている。中国でも女性歌手の多くは年配者であり、次世代への継承を促すためにも女性歌書と詠唱の貴重さを強く訴えたいと考える。

注

- (1) 真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉編『東アジアの歌と文字』勉誠社 2021年3月 202p. に最先端の研究が見える。
- (2) 吉野晃「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(7) — 「趙富安旺的歌」の発音と注釈 —」『瑶族文化研究所 通 訊』第10号 ヤオ族文化研究所 2024年3月 pp.88-89 表記の説明部分に詳しい。
- (3) 詳しい儀礼内容および歌謡については、廣田律子「儀礼における歌謡 — 「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として —」廣田律子編『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016年4月 pp.1-53 で述べた。
- (4) 程序は「盤王愿儀礼程序(2011年還家愿儀礼程序)」『瑶族文化研究所 通 訊』第5号 ヤオ族文化研究所 2015年3月 pp.15-51 にまとめた。
- (5) 流楽の最初にミエン・ヤオ族のアイデンティティーの根幹をなす、移住と海を渡り遭難した際の盤王への救済の願掛けと無事に難を乗り越えた後の盤王への願ほどきの祭祀の実行、その後の移動と祭祀の継承が明らかにされる「点男点女過山根」が師父によって読誦される。(廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第121号 日本道教学会 2013年 pp.1-23、廣田律子「儀礼における歌謡 — 「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として —」廣田律子編『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016年4月 p.42 注14に訳を示した)。経典はヤオ族文化研究所文献番号 Z-15 および Z-26。
- (6) 「ミエン・ヤオ族還家願儀礼における女性歌手と歌書の伝承」『東アジア比較文化研究』18 東アジア比較文化国際会議日本支部 2019年7月 pp.30-57 で女性の歌書について中国やタイの複数の異本を比較検討した。ヤオ族文化研究所文献番号 Z-29。歌書の最後に盤明福・馮友娟が光緒一八年(1892年)に書写した『慶盤王歌』一本を1984年に書写したとある。
- (7) 『神奈川大学共同研究奨励助成金「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」成果報告書 中国本』ヤオ族文化研究所 2019年3月 214p. で藍山県祭司趙金付氏の『大歌書』(ヤオ族文化研究所文献番号 Z-19、Z-20)の翻刻を行った。
- (8) 種々なテキストに見られる盤王に関する記述については、廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の祭祀儀礼にみる盤王の伝承とその歌唱」『歴史民俗資料学研究』第20号 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 2015年3月 pp.103-146 で述べた。
- (9) 松本浩一「度戒儀礼に見える神々：呉越地方・台湾の民間宗教者の儀礼と比較して」『瑶族文化研究所 通 訊』第3号 ヤオ族文化研究所 2011年11月 pp.24-34 に述べられている。
- (10) 廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第121号 日本道教学会 2013年5月 pp.1-23 に盤王の伝承についてまとめた。
- (11) 廣田律子「湖南省藍山県ヤオ族の還家愿儀礼の演劇性」『中国近世文芸論 — 農村祭祀から都市芸能へ —』東方書店 2009年 pp.99-128 で論じた。
- (12) 山本直子「古代歌謡の対句と祭式儀礼」『同志社国文学』第65号 同志社大学国文学会 2006年 pp.1-10
- (13) A本については翻訳を進めており『大歌書』解説I』『瑶族文化研究所 通 訊』第10号 ヤオ族文化研究所 2024年3月 pp.34-87 に『大歌書』の前半部の翻訳を示した。

- (14) 廣田律子「湖南省「大歌書」三種翻刻」『瑶族文化研究所通訊』第6号 ヤオ族文化研究所 2017年3月 pp.85(58)-142(1) で当該三種の翻刻を行った。廣田律子「ミエン・ヤオ族の還家願儀礼で読誦詠唱される『大歌書』の異本対照の試み」『國學院雜誌』第117巻第11号 國學院大學 2016年11月 pp.396-425 でも異本対照を行った。
- (15) 儀礼で行われる歌問答について、廣田律子「儀礼における歌書の読誦—湖南省藍山県ヤオ族還家願儀礼に行なわれる歌問答—」『國學院雜誌』第116巻第1号 國學院大學 2015年1月 pp.225-254 にまとめた。
- (16) 『大歌書』に連州については、

51-18	大州裡頭置學院 貴州兩路置書高 / 停 (庭)	大州には学院が置かれる貴州の兩路には書房が置かれる
52-2	大州裡頭置學院 學院也 {完 / 平} 州也完 / 平	大州には学院が置かれる。学院ができあがると州の任務も完成する
52-3	學院也 {完 / 平} 州也定 除 (徐) 司相剋入州門 / 庭	学院ができあがると州の任務も完成する。徐司は誘い合って州の門に入る
52-6	老鼠偷喫猫兒飯 猫兒寫狀下街遊 / 來 (求)	鼠が猫の餌を盗み食いすると猫が訴訟状を書いて町の通りを回る
52-7	不信但看明月晏 老鼠擔枷入縣門 / 街	これを信じないなら明るい月の昇るときに鼠が首かせをはめられて県市街に入るのをご覧なさい
52-8	老鼠偷喫猫兒飯 猫兒寫狀下州論 / 高 (告)	鼠が猫の餌を盗み食いすると、猫は訴訟状を書いて町で訴訟を起こす
52-9	不信但看明月晏 老鼠擔枷入縣門 / 牢	これを信じないなら明るい月の昇るときに鼠が首かせをはめられて県の門に入るのをご覧なさい
52-10	瑤人 {會 / 愛} 擔格木弩 販客愛擔桑柘鎗 / 枯	瑤人は格木の石弓を担ぐことを好む。普通の客は桑柘鎗を担ぐ
52-11	(罪) 人擔枷牢裡坐 公人無事說囚章 / 圖《分明 / 写文章》	罪人は首かせをはめられて牢屋に座る。役人は仕事があれば世間話をする
52-14	朝過州門怕不怕 夜過縣門驚不驚	朝に州の門を通るときに怖がるか怖がらないか、夜に県の門を通れば大声が聞こえる

とある。

『大歌書』に行平については、

67-3	造寺魯班會造寺 魯班造了匠家裝 / 曾	寺を造る魯班は寺を造る。魯班は工人の村を造った
67-4	莫怪歌詞說相報 琉璃使瓦萬有藏 / 層	歌詞を怪しむことなく伝え合う。瑠璃を瓦にし蔵を造る
67-9	魯班造寺會造寺 魯班造了起門眉 / 樓	魯班は寺を造る。魯班は楼門を造る
67-16	瓦匠批過是龍跡 石灰批過是龍頭 / 衣	瓦職人は龍の痕跡だと評す。石灰は龍の頭だと評す
67-18	樓上又雕木古事 壁上又雕龍細經 / 章	楼に古事を刻む。壁に聖なる経文を刻む
68-2	樓上又雕木古事 壁上細書字字紅 / 清	楼にまた古事を刻む。壁に細かい文字をはっきりと書く
68-3	三尺紅羅掃佛殿 四尺紅羅掃佛堂 / 前	三尺の赤い布で仏殿を掃く。四尺の赤い布で仏堂を掃く
68-4	佛堂佛殿都盡掃 不久細心郎有雙 / 我有連	仏堂仏殿はすべて掃かれた。しばらくして二人の細心の若者が来る
68-5	南安寺裡十二任 六任在高六任啼 / 底	南安寺には十二の香爐(?)がある。六は高く六は低い
68-6	在底人着人來問 在高又着火煙遮 / 齊	低いところに人が訪ねに来る。高いところは火が着いても煙が遮られる
68-7	造寺魯班會造寺 造了有名在聖爐 / 煙	魯班は寺を造る。香爐で有名となる

68-8	僧家焼香寺門過 寺門留下七名爐 / 煙	仏教徒は香を焚きに寺の門をくぐる。寺門に七つの名高い香爐がある
68-15	僧家會念阿彌佛 小箱退寺轉遊遊 / 輕輕	仏教徒は阿彌仏を念ずる寺を辞して転々とする
68-16	火燒南安寺裡佛 烏鴉來報火燒身 / 香	南安寺の仏が火災に遭う。烏鴉が火に立ち向かい身を焦がす
69-3	捨心下海燒龍屋 金生麗水救魚真 / 情	信心を捨て聖なる建物を焼く。金生は水を利用して救いの手を差し伸べる
69-4	銅佛羅漢火燒盡 不見龍兒現出斤 (斤) / 身	銅製の仏像を尽く焼く。龍の子が現れるのを見ない

とある。

- (17) 連州唐王に関する見解は 10 月 11 日、12 日開催国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」終了後に丸山宏先生と共にいった趙金付氏への聞き取りの中で見いだされたものである。
- (18) 廣田律子「湖南省「大歌書」三種翻刻」『瑶族文化研究所通説』第 6 号 ヤオ族文化研究所 2017 年 3 月 pp.85-142
- (19) 小盤家 2015 年盤 [弓麗] 娟使用歌書、趙家 2017 年趙秀堂使用歌書。
- (20) 廣田律子「ミエン・ヤオ族還家願儀礼における女性歌手と歌書の伝承」『東アジア比較文化研究』Vol. 18 2019 年 7 月 pp.39-45 で複数本を比較した。
- (21) 廣田律子「盤王愿儀礼程序 (2011 年還家愿儀礼程序)」『瑶族文化研究所通説』第 5 号 2015 年 pp.15-51
- (22) 『大歌書』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-19)の最初にある「坐席三幡」(ファイル名:khi20111117IMG_0887)では「大歌の作者である劉三妹娘の歌詞と劉三妹娘の歌声を受け取らないうちは、粗末な言葉で連州、行平、伏靈、伏江、五旗、家先の心になうものではない」とある。下冊に入る直前に読誦される『大歌書』(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-19)の最後に加えられた「接鈴用」(ファイル名:khi20111117IMG_0943)の内容には「劉三妹娘の歌詞と声を受け取って貴い言葉で神々の心になったものである」とある。
- (23) 廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016 年 pp.1-53 に詳しく述べた。
- (24) 倉澤茜・廣田律子「女性歌書の対校」『瑶族文化研究所通説』第 9 号 ヤオ族文化研究所 2023 年 pp.130 (137)-266 (1)] では中国寧遠県、藍山県の 3 冊の版本を比較している。該当部分は pp.256 (11) -257 (10)。
- (25) 小項目「送王」の直前の小項目「退席」では祭司により経典(ヤオ族文化研究所文献番号:Z-15)が読誦されるが、問答形式で、片付けることを神々に知らせる。
- 酒是何人酒 棹是何人棹 何人声々還良愿 酒是大王酒 棹是大王棹 家主声々還良愿 何人棹上得分明 大王棹得分明
- (酒は誰の酒 船の櫂は誰の櫂 誰が還家願を行うのか 酒は大王の酒 櫂は大王の櫂 施主が還家願を行う 誰が船のこぎ方を分かっているのか 大王が船のこぎ方を分かっている)
- 帰りの船を整え、供物も載せ、神を送る支度をする中、あえて問い掛けで、謎掛け謎解きの形式を取り、祭祀の終わりを予告しお帰りいただくように促している。(廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016 年 p.24)
- (26) 廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016 年 p.27
- (27) 廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016 年 pp.25-27
- (28) 岡部隆志「水平としての問答論」『日本歌謡研究』第 52 号 日本歌謡学会 2012 年 pp.1-11
- (29) 永池健二『逸脱の唱声—歌謡の精神史—』新泉社 2011 年 342p.
- (30) 比嘉実『古琉球の世界』三一書房 1982 年 196p.
- (31) 辰巳正明の解説による(辰巳正明「文学における信仰起源説と恋愛起源説」『折口信夫—東アジア文化と日本学の成立』笠間書院 2007 年 pp.370-371)。
- (32) 折口信夫「古代歌謡」『折口信夫全集』第五卷 中央公論社 1995 年 p.254
- (33) かけあいの項の解説による(西村亨『折口信夫事典』大修館書店 1998 年 p.101)。
- (34) 金文京「詩讀系文学試論」『中国—社会と文化』第 7 号 中国社会文化学会 1992 年 pp.110-136

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月11日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループ B 「移住・方術・冥界などに関する
社会文献・儀礼文献」

B 組 「关于迁徙、方术、冥界的社会文献和仪
式文献」

瑶族經書儀式中的道教法術

西北民族大學鑄牢中華民族共同體意識研究院 教授，四川大學道教與宗教文化研究所 教授
張澤洪

摘要

瑶族經書包括經典、科儀、疏表、秘語、歌書、神唱等文書類，經書中的科儀、疏表、秘語是師公做儀式的文本依據。隨歷史上道教在瑶族社會的傳播，道教齋醮的法術科儀為瑶族所汲取，從而豐富了瑶族宗教儀式的內容。瑶族經書儀式中的道教法術，是國際瑶學研究值得討論的問題。論文從瑶族宗教的法術秘語，瑶族宗教經書中的咒訣神符，瑶族經書中的步罡法術三個維度展開，以討論瑶族經書儀式中所見的道教法術。秘語是瑶族師公在儀式中使用的法術，藍靛瑶的道派、師派皆有秘語，秘語在儀式中與科儀本配合行用。瑶族宗教經書的秘語是法術的一種，一些瑶經甚至以秘語作為經名。老撾藍靛瑶經書中傳承的秘語甚為豐富，大英圖書館藏 EAP791 號瑶族經書中的秘語就多達數十本。瑶族的秘語受道教影響較多，道教靈寶派的中黃秘語為靈寶法術之一。陝西整屋有全真開教秘語碑，金代全真宗師王重陽在傳教過程中，就曾以秘語傳授弟子。瑶族宗教經書中的咒訣神符，在瑶族宗教儀式中有廣泛行用。瑶族宗教經書中的咒訣神符的不同格式，豐富了瑶族宗教儀式壇場的內容，生動表達瑶人對道教神靈和民間土俗神的崇信。瑶族宗教的咒訣神符汲取道教法術，而道教有經乃法之本，法乃經之用之說。瑶族經書的行罡之說來自道教，高功在壇場行步罡踏斗之科儀稱為行罡。通過瑶族經書儀式中道教法術的討論，有力說明瑶族是西南少數民族中受道教影響最深的族群。

Abstract

The Yao manuscripts encompass a diverse range of texts, including the Canonical Texts (經典), Liturgical Texts (科儀), Statements and Memorials (疏表), Secret Instructions (秘語), Song Books (歌書), Sacred Singing (神唱) and other types of texts. Of particular interest are the Liturgical Texts, Statements and Memorials, and Secret Instructions, which serve as the textual basis for the rituals performed by the masters (師公). The dissemination of Taoism within the Yao society has led to the adoption of Taoist Zhai and Jiao rituals by the Yao people, thereby enhancing the content of their religious ceremonies. The study of the Taoist methods and arts as presented in the Yao manuscripts and rituals represents a significant area of interest for international research in the field of Yao studies. In this article, we commence with an examination of three key dimensions:

the Secret Instructions, the Spells and Talismans (咒訣神符), and the techniques of "Walking along the guideline" (步罡法術) as outlined in the Yao manuscripts. This will facilitate an investigation into the methods and arts associated with Taoism as evidenced in the Yao manuscripts and rituals. The Secret Instructions are utilized by the Yao masters during their ceremonial practices. Both the Taoist (道派) and Shihist (師派) sects of the Indigo Yao (藍靛瑤) possess secret Instructions that are integrated with the Liturgical Texts during the rituals. These Secret Instructions found in the manuscripts of the Yao encompass various methods and arts, with some Yao manuscripts incorporating the Secret Instructions directly into the text's title. The Landian Yao manuscripts from Laos contain numerous Secret Instructions, with a significant presence in the British Library's collection of Yao scriptures, EAP 791. These Secret Instructions of the Yao community exhibit a strong influence from Taoism. Among the Lingbao School of Taoism practices, the Middle Yellow Secret instructions (zhonghuang miyu) stand out as a noteworthy method and art. In Zhouzhi, Shaanxi Province, there exists a monument dedicated to the Secret Instructions of Quanzhen, utilized by Wang Chongyang, the founder of Quanzhen, for instructing his followers in the Jin Dynasty. The spells and talismans in the Yao manuscripts are employed extensively in the religious ceremonies of the Yao people. The diverse forms have enhanced the contents of the ritual altars of the Yao religion and have served to vividly express the Yao people's faith in the Taoist deities and the folk deities of the local community. The spells and talismans of the Yao religion are inspired by the Taoist methods and arts, which posit that the scriptures serve as the foundation for the methods and that the methods are the practical application of the scriptures. The practice of "Walking along the Guideline" in the Yao manuscripts is derived from Taoism, in which a high priest performs a ritual called "Xingang" which involves Walking along the Guideline and Treading on the Dipper. The discussion of Taoist methods and arts in the Yao manuscripts strongly suggests that the Yao people are the most deeply influenced by Taoism among the ethnic minorities in the Southwest China.

瑤族文書指瑤經寫本的一種類型，在瑤族社會師公習稱為經書，本文採用瑤族經書的概念。對瑤族經書學界有不同分類，鄭德宏、李本高等編《瑤人經書》將所搜集清代湖南瑤經分為四大類：還盤王願經、傳度經、安龍奠土經、道場經。⁽¹⁾ 羅宗志《信仰治療：廣西盤瑤巫醫研究》對引錄的 318 本瑤族經書按宗教儀式用途分為：打齋、打醮、度戒、加職、還願、開光、祭祖、送鬼、架橋、表奏、占卜、小法十二類。⁽²⁾ 歷史上瑤族在西南民族走廊的遷徙，道教在西南少數民族各族群中的傳播，長期的文化互動促成了道教與瑤族宗教的結合，瑤族經書就充分反映瑤族與道教兩者雜糅的特點。早在 20 世紀 30 年代民族學家在西南瑤族地區的調查中，就發現大量清代至民國時期

(1) 鄭德宏、李本高等選編：《瑤人經書》，長沙：嶽麓書社，2000 年。

(2) 羅宗志著：《信仰治療：廣西盤瑤巫醫研究》，北京：中國社會科學出版社，2012 年，第 169-174 頁。

的瑶族經書，他們根據瑶族宗教經書與儀式觀察記錄，說明瑶族宗教有濃厚的道教色彩。⁽³⁾ 瑶族宗教有豐富的科儀法術，這是瑶族宗教與道教相融攝的結果，本文對此作如下的考察。

一、瑶族宗教的法術秘語

(一) 瑶族經書中所見的法術

瑶族宗教的法術秘語深受道教影響，道教齋醮的法術科儀是歷代宗師建構的結果。宋元道經《靈寶玉鑒》卷一《道法釋疑門》就說：“太極仙翁、薩真人、路真官、歷代祖師，皆於此用心，以不負經旨也。”⁽⁴⁾ 英國牛津大學伯德雷恩 (Bodleian) 圖書館藏瑶經 S3433 號《無上玉京大齋法》，其中論及大齋行用的法術有：

論鎮邪法、論變身法修齋用、人家初請之法、論存主之法、論存六畜之法、論混沌之法、論啟齋法、論存家財法、論打丁之法、莊壇法、論燒竹頭法、論整壇法、查發之法、南相封壇一收六凶法、又收神兵神將之法、收賊之法、論收返師返主之法、收天煞地煞之法、收火殞之法訣、收官符之法、收六丁六甲六癸六壬之法、收天災百病之法、又存家財六畜法、存村團之法、論合境法、開光壇院法、論佞睡法訣、發符吏功曹法、諸獄牒法、論會聖法言、論救壇法、按香火法、按廚堂之法、又救壇法、論宿起道法、按金鐘玉磬法、通牒稱職法、此迓九帝法、論請聖法三時說醮同用、論宣開壇疏法、論按五老法、宣詞法、宿啟行道法、次飛鄂都章開通章解穢章法、論開通路章鄂都章法、論發放童董茱簡之法、存社壇法、宣洞陰天赦法、論啟師破獄之法、論血盆生產傷法、破血盆地獄法、論虎傷之法、論禁虎頭之法、論虎傷地獄法、論確播法、論存亡丁確播法、論殺狗償傷法、生母藥傷法、毒藥死地獄法、金童案法、山熊咬死地獄法、論落石死地獄法、山豬傷法、山豬地獄法、又火燒傷法、禁火之法、或燒死地獄法、論木傷法、木傷地獄法、論水傷法、落水死地獄法、禁諸傷法、蛇傷地獄法、賊刺死地獄法、投龕死下墨堂地獄法、大齋破案法、論花樓案法、論受苦案法、又論風流堂法、論遊鄉案、玉皇中堂案法、論愁人案法、鴛鴦案法、論暗羅地獄法、論當天羅地獄法、吊頸傷法、吊頸死地獄法、過油盆法、論懺悔法、架黃道橋法、論淨壇法、呈供法、投表判亡法、三宮酬鬥法、告鬥狀法、迓王之法、初霄化財法、三壇法訣、論三時法、誦經法、論贊燈法、論陞堂法、放禽法、放魚法、赦食法專當今早、放赦法、放劍法、解訟之法、降真說醮法、飛章法、宣曉諭榜法、召孤法、咒

(3) 奉恒高主編：《瑶族通史》，北京：民族出版社，2007年，中卷第617頁。

(4) 《道藏》，文物出版社、上海書店、天津古籍出版社聯合出版，1988年，第10冊第141頁。

霄露水登法、飛懺墳章法、金絲續命章、飛訟章仙拔章、玉皇赦劫章法、血湖章法、下堂煉度法、又祈谷章、運經入庫法、大升度法、皇都經疏法、倒廚堂法、華夏退罡法訣、開光材樓法、拆壇院法、論吃寫法、散筵退船法、論贊材樓之法、大灑穢法通用、大小齋醮秘密終畢。

經書中提到的下堂煉度法來自道教。道教煉度科儀的“煉”，是法師以真火、真水交煉亡者靈魂，“度”，則是交煉亡魂，以拔度幽靈。宋代道經《靈寶玉鑒》卷三十八《煉度更生門》：

靈寶大法，有受煉更生之道。外則置設水火，內則交媾坎離。……況道者神之主，神者氣之主，氣者形之主。故煉形合氣，煉氣合神，煉神合虛，則唯道為神，形同太虛矣。所謂金液煉形，玉符保神，形神俱妙，與道合真是也。其煉度更生之道，確乎無以議焉。(5)

瑤族宗教的打齋用於超度死者，打齋的秘法受道教的影響。英國牛津大學伯德雷恩 (Bodleian) 圖書館藏瑤經 S3431 《大齋密語》，記載瑤族打齋的各種秘法有：

神兵神將法、發師收六凶法、天割地煞、收火殃法、禁官符、收五音、禁虎法、禁盜賊法、收返師返主、存主人丁法、存家財六畜、存村齋醮同用、存六丁六甲、收天災百病、收勿毛犬貓、初請齋醮同用、存主、磨墨法、存亡、祛穢法、存清醮、存家財六畜、存齋醮五供、發師莊缸去、封壇消穢、丁踏法、擊鼓法、合鏡、開光壇院法、存壇院、散筵洗手、主交香錢、入睡、發符吏、會聖、救壇法、安香火、宿起默咒、宿起法、安金鐘玉磬、鳴法鼓二十四通、迓帝、請聖、皈依、信劄、上香、安鎮、宣開壇疏、安鎮、解穢章、酆都章、宣詞、宿起行持、飛酆都章、啟師、存村厝壇、存主、豎玉皇幡咒、救苦幡咒、孤魂幡咒、放赦、宣赦、高功破獄、都講咒、監齋咒、啟油盆、引回、回壇、懺悔亡、探黃道橋、探水橋、存斗盆、點燈默咒、又請十保官、替棺槨、次判、初霄化財、取糧、迓王、開光表、投表、三壇按教、皈依、依教宣科、存墓殿、招神煞、開光、安龍法、大慶墓法、替墓款、安救苦三時、大齋早朝安玉皇大教、午朝陸堂、晚朝、召孤魂法、咒霧露、解訟、設醮、飛訟章、金絲章、消災章、懺墳章、赦劫章、祈嗣章、煉度、宣都疏、諷彌羅咒、倒香爐法、考大案、拆壇院法、開光材樓、贊材樓、度牲、回壇拜佛咒、邦法散筵、散筵、安座咒。

其中的存想、高功破獄、煉度、上章、咒語、表文，早朝午朝、晚朝的三時科儀，安金鐘玉磬、鳴

(5) 《道藏》第 10 冊第 398 頁。

法鼓二十四通，都是道教齋醮科儀中的法術。

但瑤族秘語法術中的很多內容，是對治處理瑤族社會生活中的內容，這又反映出瑤族宗教保留著較多的原始信仰和地域社會的民間傳統。英國牛津大學伯德雷恩（Bodleian）圖書館藏瑤經 S3430 號，記載瑤族宗教行用以下法術：

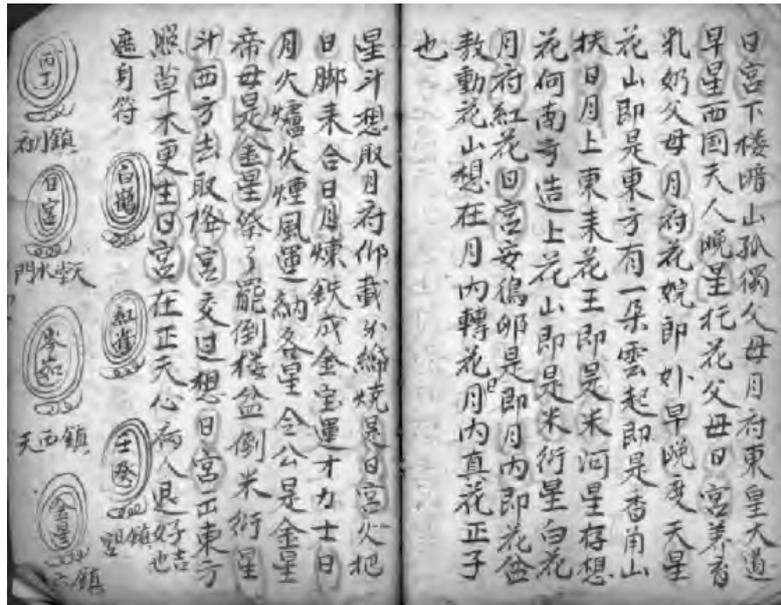
論打丁法、論存主法、論存六畜法、論混沌法、論丁木法、論取竹裝壇法、論裝壇院法、論燒竹頭法、論整壇法、論發師出腳法、論安相承什雌雄鬼法、論水前火後化法、論水神兵法、論收五音邪法、論禁虎法、論禁盜賊法、論收返師主法、論收天煞、地煞含九堂大法法、論水火殃法、論黃幡豹尾法、論禁官符法、論六丁六甲法、存主本命元辰法、存家財六畜法、論存村團法、存香花五供法、存洪恩壇院法、論合鏡法、論動鼓法、論放功曹牒法、論招香火兵法、論五傷雞法、論割兵法、論立天庭法、論白道橋法、論投香火五供法、論進表法、論安壇法、論解穢法、論請聖法、論收什法、論倒清燈法、論倒清燈收什法、洪恩放推請牒法、論初造衝樓心法、論主男女開光法、論開光點樓法、論安樓法、又架黃道橋法、又招羅五兵法、又接聖法、又割兵法、又宣三元大會榜法、又放土地公法、又引出當今燈法、安廚堂法、又造婁人法、又豎幡法、又論賀樓法、又法師上臺陞堂法、又關開堂法、有論架解凶橋法、又宣曉諭榜法、便請帝母降壇中法、又宣黃榜法、又進詞表法、又放魯班法、又起地橋法、叩師覓取真花法、沖壇法、又二雷請聖法、又上香法、又獻伍供法、又大小筵會安壇法、大會槌日姑法、引堂參拜法、又不長公不長母法、天平地平法、又封霧路瓶法、又宮地母法、又天和地合法、又婚姻和合法、又論七里暗山法、



大英圖書館藏 EAP550/1/18 秘法 1

又川胎度子法、又送子歸房法、二霄清燈法、又二霄清燈收什法、又度狴犴法、又祭葦筵法、又拜送帝母法、又水魂讀命法、又倒婁法、又倒黃道布辰法、又收兵法、又倒罷法、又壇官隔別法、又簿官鈎鐮法、又收什倒罷法、又請政謝兵旗法、又奉送聖賢法、又化財馬法、解法服法、又喪家修齋者簽伺、又倒筵會台盆法、又退回法。

歷史上瑤族宗教如此多的各種秘法，需要在田野考察中結合儀式予以比較。



大英圖書館藏 EAP550/1/18 秘法 2

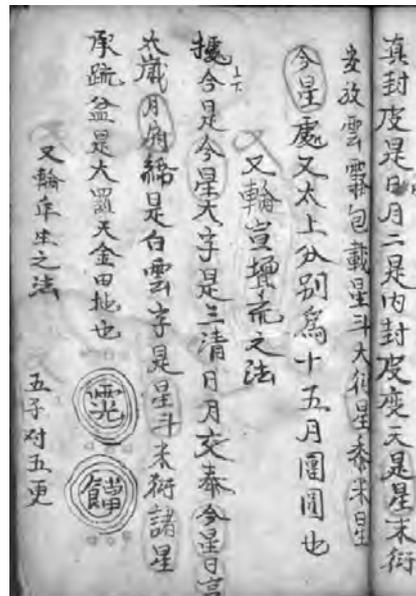
大英圖書館 EAP550/1/177 經書中的法術：

又論動鼓之法、論安五老之法、玉察玉孔星、又誦經答天地法、破獄之法、初開齋醮之法、又封壇之法、又五供齋食之法、又輪宿所建之法、又分破暗之法、又金童玉童之法、又安五靈五星法、又輪初著香衣奉道在壇院之法、又封器之法、又論啟孤水燈之法、又輪升堂之法、又輪冤家之法、又輪度解湖心甲之法、又煉度之法、又輪設醮迎帝之法、又輪宣都疏之法、又輪倒幡之法、又輪安五老之法、一輪道士寫章之法、又輪宣壇疏之法、又輪年生之法、又一開聲開簡之法、又論九帝姓名之法、又輪放伸奏公牒之法、一論禁壇之法、又初開卯用之法、又論祭功曹之法、又論宿啟建壇之法、又考幡用之法、又敕送瘟王之法、又論三朝福爐之法、一論破紙之法、又一論解白衣煞、解攀鞋驛馬煞、解短命短夭煞、解黃泉滅門煞、解相軍骨髓煞、解男正煞女女正煞也、解公姑夫同次、解鐵掃煞、解喪門煞、解八敗大敗煞、解煞一夫或一妻、解妨三夫或三妻、解胞胎煞、解妨媒人、分兵法之用、解寡宿煞、解孤神孤獨煞、解前五鬼後五神煞、解望鄉煞（此是媒人用）、解下

生咸池法、解上中下半劫煞、解破家煞、解吞炎煞、解狼籍煞、解公姑夫法同用、解妨公姑、解婦正煞公姑、解鐵掃煞、解短命煞法、解正煞三夫、解血盆法、解豬煞、殄溫法。



大英圖書館藏 EAP550/1/177 冤家之法



大英圖書館藏 EAP550/1/177 宣壇之法

廣西荔浦瑤族經書⁽⁶⁾《開禁書》：

敕招兵劍法、敕旗法、敕米法、敕禾法、敕水法、祭兵變口法、敕白席腰帶法、又一件開禁敕水藏身法、敕藏身符法、藏村法、敕封閉、變碗法、變符法、變盤席法、變白布法、敕紅布法。

廣西荔浦瑤族經書《設雜鬼法語畫雜符》：

藏病人床吾師敕變、變紅鸞石法、罵鬼陽話、罵鬼章變法、出門藏身變體、出門變十物用、出門路五雷藏身、化笛存想內容、變香爐水碗法、招魂變陰橋、又封門法、變菜法、變酒法、變飯法、變茶法、變床法、又變飯法、變肉法、

廣西荔浦瑤族經書《合婚法齋壇變物法》：

變刀用、合婚一宗、雪山咒、又到雪山法用、又到起馬出門變屋用、又到變刀用、又到變

(6) 廣西荔浦縣茶城鄉清良村黃泥壩屯馮金亮師公收藏有 123 部經書。其中 84 部標有抄寫時間，大部分為 1980 年以來的抄本，最早者為嘉慶十四年（1809），最晚者可至 2013 年。其中，清代抄本 20 部，民國抄本 13 部，1950-1970 年代抄本 3 部，1980-2013 年抄本 42 部，無法斷代的 6 部。馮金亮保存經書比一般師公多的原因，是他做師公以來長期注意收集經書，凡聞知周邊地區哪家師公有經書，他都會想方設法去抄寫。

米用、又到變碗、又到變屋、又到修喪入殮亡人用、又到送亡變屋、又到王姥咒出喪用、又用七師供物關出喪用、又到變火把用、要行罡變九火把、又到放火、又到起火同起風、又到隔路塞閉、又到落馬變亡人用。

廣東乳源瑤族宗教有豐富的法術，用於度身經書中所載法術有：

又收邪師用，又收邪師法用，又收大邪師法用，又收邪師邪法用，門外用黃斑虎訣，又一條若系收邪師法用，變水法用，藏身法用，唱邪師歌用，招方位請藏身法用，又變茅法用，又變水碗藏身法用，又變大茅山法用，大聲唱打病人身法用，又第二條大聲打身，下冷湯法用，大落禁用，又變石頭法用，又變碗用，又聲唱過隔在此斷界，壇前開金井法又下禁法用，收邪師法用，邪師歌，要行罡用，答法用，又敕左壇法用，神壇法用，又北方功曹，又中方總壇法用，又藏屋法用，批計放邪法，又變草席法用，又變草席用，又細聲變草席法用，又變瓦缸用，又變杉板用，又變燈盞用，又變席角用，又變水槽法用，又變刀口法用，又變腳底用，又雪山咒冷湯法用，又茅山法用，又冷湯法用，火堂變犁頭法用，又變火磚法用，吩水法，變手指法，變含犁頭法用，踏火磚法用，下雪水法用，又變燒紙法用，又變手指法用，又藏身法用，又變鑼鼓法用，又上刀山用，又一樣踏水槽用。⁽⁷⁾

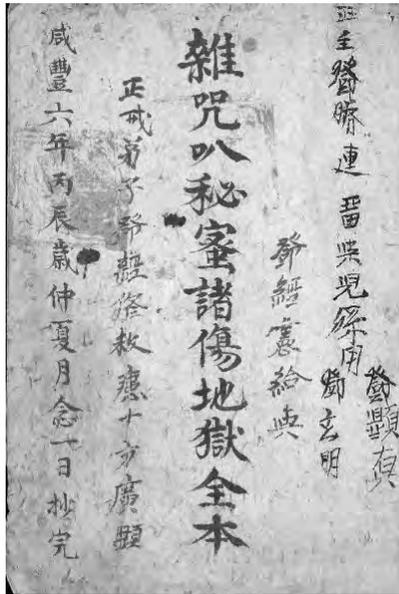
瑤族宗教法術還有隔路法用、閉門法用、出路寄身法用、敕茅郎藏身法用等。

(二) 瑤族秘語與道教秘語的比較

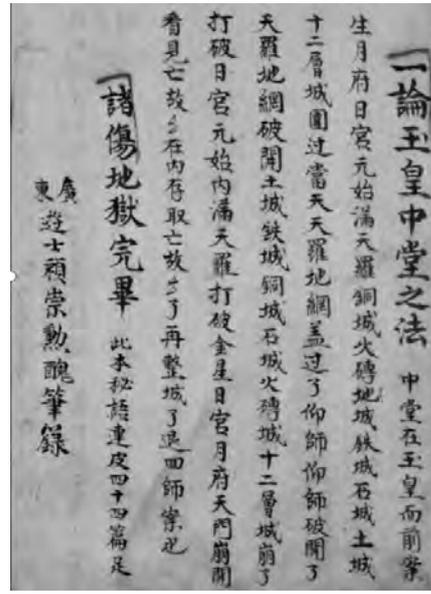
瑤族經書包括經典、科儀、疏表、秘語、歌書、神唱等文書類。 “秘語”，是瑤族師公師徒間秘密傳授的法術。經書中又稱“秘語”為“密語”、“金語”、“天機”。藍靛瑤的道派、師派皆有“秘語”類經書，秘語在儀式中與科儀本相配合。瑤族宗教的秘語是常行的法術，一些瑤經以秘語作為經名，如英國牛津大學伯德雷恩（Bodleian）圖書館 S3408 號《無上玉京盟真救苦大小齋秘語》、S3372 號《新雜諸秘語詮本》、S3422 號《雜解治邛秘語》、S3432 號《諸傷地獄秘語》、S3434 號《抄雜百解秘語》、S3452 號《喪家秘語》、S3453 號《送終喪家秘語》、S3465 號《受戒秘語》、S3470 號《天師集解秘語》、S3474 號《玄門授械秘語》、S3479 號《齋醮秘語》、S3481 號《受戒咒符秘語》、S3483 號《重集秘語解法》、S3485 號《清醮秘語》、S3500 號《喪家秘語一本》、S3506 號《早晚救患、伸門安龍、解冤秘共一本秘語》、S3515 號《清醮秘語》、S3522 號《一本祖傳秘語》、S3532 號《道師受戒秘語》、S3536 號《燈筵救苾秘語》、S3545 號《癩瘋秘語一卷》、S3547

(7) 盤才萬、房先清收集，李默編注：《乳源瑤族古籍彙編》，廣州：廣東人民出版社，1997年，上冊第255-256頁。

號《癩瘋天機秘語》、S3397 號《婚姻祭諸煞秘語》、S3297 號《婚姻專花秘語》等。



大英圖書館藏 S3432 號諸傷地獄秘語封面



大英圖書館藏 S3432 號諸傷地獄秘語末頁

老撾藍靛瑤經書中的秘語較為豐富。大英圖書館藏 EAP 791 所見秘語經書有：《郎秘金語一冊》《喪家秘語》《清醮秘語一本》《受戒秘語》《大齋治亡秘語》《小百解秘語》《洪恩秘語》《亡秘天機金語全冊》《大齋良緣秘語》《重集齋知短秘語》《度亡天機秘語》《一本清醮秘語》《雜解治亡秘語》《集解老君秘語》《百解秘語一本》《絕亡秘語壹本》《晨昏救患日五會密語》《又件諸百皆集秘語》《齋醮秘語號法一部》《雜百解諸件小秘語》《重集齋短亡秘語》《救患天機秘一卷》《清醮大齋授戒同一本秘語》《諸神秘語》《一本大治天娘亡堂秘語》《送終三夜秘》《清醮秘語》《門道大小凶齋秘全》《一本求財秘語》《貢延洪恩秘語大全一本》《重集齋短蜜語》《雜百解諸件小秘語》《度亡秘語》《大齋秘語》《一本黃泉秘語》《一本小雜秘》《新雜諸禁盤秘語一本》《一本三夜喪秘語》《諸天秘雜百解小部語冊》《授戒秘語》《早晚救患燈延秘語》《一冊百解黃泉秘語》《一本師教道教授戒秘語》《伸門按龍解冤秘語》《一本百秘語》《喪家秘語一部》《一本亡秘語》《隔空亡秘一本》《解神煞秘密》《道公受戒師公受戒二教同本秘語》《一本百解天機一本清醮秘語》《初真秘語存冊》《癩瘋秘語壹冊》《破獄交簡煉度秘》《按龍秘語一本救患秘》《一本亡秘朝天金語》《早晚救患秘語》《三夜喪家秘語》《一本黃泉秘語》《百解秘語》《貢延洪恩秘語一冊》《道教受戒秘語》《諸百解禁盆秘密一本》《重集早晚祭鬼秘語全科》《婚姻除煞秘語》《按龍秘語受戒二本》《另養秘語》《亡故大敗秘語》《破柔佛巴魯治亡秘語一本》《又襲大齋秘語》《大亡秘語》《禁盆秘集法》《燈筵伸門按龍解冤朝天諸秘天機》《一本良緣秘語》《婚恩諸傷共亡秘語》《一論絕虛花千金秘語》《禁盆秘語》《寶短秘語存冊》《一本大滅債

秘語》《洪恩紅樓秘語》《大齋先天秘語》《太上老君秘語》《部禮破列秘語一部》《隔空亡秘語一本》等。

瑤族經書“秘語”的概念來自於道教，道教靈寶派的中黃秘語就很有名。唐代道經《高上玉皇本行集經》卷中《太上天光明圓滿大神呪品第二》卷中：“上清自然之靈書，九天始生之玄劄，空洞之靈章，上聖之祕語，玉晨之尊典。”⁽⁸⁾ 宋代道經《靈寶無量度人上品妙經》卷三十《斷絕胎根閉塞死戶品》：“天籍祕語，丹華杳冥。”⁽⁹⁾ 宋曾慥《道樞》卷八《昆侖篇》說登昆侖神山，“惟得秘語靈文，斯可至矣”。⁽¹⁰⁾ 王欽若《翊聖保德傳》卷下：“此生得遇上真下降，屢受祕語。”⁽¹¹⁾ 正德《姑蘇志》卷五十八《釋老》載莫月鼎，“信筆塗墨，出詭秘語，人莫能曉”。⁽¹²⁾ 元劉大彬《茅山志》卷四《誥副墨》之《乞封五真人奏劄》：“天真降顧，親受秘語，上清經教，漸降人間。”⁽¹³⁾

金代王重陽在傳教過程中，亦以秘語傳授弟子。《金蓮正宗記》卷二《重陽王真人》：“遂索毫楮書秘語五篇，使之詳讀。先生讀之數過，方悟妙理，戒之曰：天機不可輕泄。即令投之火中。”⁽¹⁴⁾ 《金蓮正宗記》卷三《丹陽馬真人》：“七朵金蓮最先放徹，五篇秘語獨自傳來。”⁽¹⁵⁾ 《長春道教源流》卷五《邱長春弟子紀略下》載董志平：“年十九，師邱真人，教以全真秘語”。⁽¹⁶⁾ 《金蓮正宗記》卷二《重陽王真人》載王重陽：“書畢語之曰：‘昔日披氈師真秘語雲：九轉成，入南京，得知友，赴蓬瀛。吾今將赴其約。’……丹陽曰：‘入道區區尚無所得，吾師棄我，遑遑何歸。’訴之未終，忽開目曰：‘汝輩憾恨奚為若此，昔日甘河所得秘語五篇，今付於汝。’丹陽再拜，跪而授之。”⁽¹⁷⁾ * 陝西藍屋有《全真開教秘語碑》。⁽¹⁸⁾ 《徐仙翰藻》卷十一《戒將吏榜》：“此太上秘語，必無妄語。”⁽¹⁹⁾ 《天皇至道太清玉冊》卷二《道藏三洞經目錄》：“《上清大洞回車畢道秘籙》，一部八卷；《靈寶中盟秘籙》，一部八卷。此二籙，玉清瓊劄，太霄琅書，內誥密言，中黃秘

(8) 《道藏》第1冊第702頁。

(9) 《道藏》第1冊第200頁。

(10) 《道藏》第20冊第648頁。

(11) 《道藏》第32冊第658頁。

(12) [明]王鏊等纂：（正德）《姑蘇志》，明正德元年（1506）刻本。

(13) 《道藏》第5冊第572頁。

(14) 《道藏》第3冊第348頁。

(15) 《道藏》第3冊第356頁。

(16) 《藏外道書》第31冊第86頁。

(17) 《道藏》第3冊第348頁。

(18) [清]陳銘珪撰：《長春道教源流》，《藏外道書》第31冊第157頁。

(19) 《道藏》第35冊第474頁。

語。開明三景，混合百神，服餌黃華，卷舒元氣。玉田花滿，徜徉三島，煙霞金鼎，丹成嘯味。九霄日月，致虛抱一，飛步凌空。參受者仙籍登名，天宮進職，宿愆對九祖超升。”⁽²⁰⁾ 經書中將神呪稱為秘語。《張三豐先生全集》卷八：“此係斗宮妙法，元始秘語。”* 明白雲霄《道藏目錄詳註》卷四：“《悟玄篇》有圖，言玄修秘語。”⁽²¹⁾

瑤族經書題記言及秘語的法術功能，明確宣稱此法術來自道教。英國牛津大學伯德雷恩（Bodleian）圖書館藏瑤族經書 S3500 號《喪家秘語》封面：“喪家秘語壹本，存你本，無錢自集。龍吟虎嘯，左種兵千千，右神將萬萬。”S3500 號《喪家秘語》第 1 頁：“大小喪終同用，老君秘語莫亂傳。李朝忠。喪家秘語存本。亡故升天，福歸孝門。東主李妙翰。喪家秘語，演教師傅李妙鎮，給付弟子李妙翰，十方上達。咸豐貳年壬子歲次正月二十八抄完畢。”S3500 號《喪家秘語》第 2 頁“一本喪家秘語，投度師父李妙翰，執與弟子李雲淨，晨昏二晚，超亡度爽，用應十方上達。”

廣東排瑤《大傳書》第二十六《解法門》說：“今日當壇傳授法，壇前授法聽吾言。法在信州龍虎山，五嶺壇前拜老君。”⁽²²⁾ 瑤族宗教法術有藏身法、雪山法、收犯法、五雷法、收驚法、隔路法、退卡法、收曬法、止血法、移災法、變水法、變席法、變身法、變禾法、變碗法、黃河水法、開山法等上百種之多。瑤族的一些秘語經書中無載，全靠師公口傳心授。絕大多數法術記在師公頭腦裡，這種師傅法術一般沒有文字記載。

二、瑤族宗教經書中的咒訣神符

瑤族宗教經書中的咒訣神符，在瑤族宗教儀式中有廣泛行用。瑤族宗教經書中的咒訣神符的不同格式，豐富了瑤族宗教儀式壇場的內容，生動表達瑤人對道教神靈和民間土俗神的崇信。瑤族宗教的咒訣神符汲取道教法術，而道教有經乃法之本，法乃經之用之說。宋金允中《上清靈寶大法總序》說：“於是纂聚中洞諸經符咒訣目，集以成書，而實宗於《度人》之一卷。惟經乃法中之本，而法乃經之用。法出於靈寶，而隸乎洞玄，故謂之靈寶大法。由是經典之內，凡可以開度亡爽，利祐生民，符書法術，莫不兼收並錄，燦然聯屬矣。”⁽²³⁾ 瑤族宗教儀式法術的運用，亦體現道教經法關係的特質，儀式中法師要運用咒語、口訣、書符、手訣等儀式符號以通神，以達到祈禳生民、濟度亡靈之目的。

(20) 《道藏》第 36 冊第 370 頁。

(21) 《道藏》第 36 冊第 825 頁。

(22) 李默、房先清編：《八排瑤古籍彙編》，廣州：廣東人民出版社，1995 年，第 72、324 頁。下同。

(23) 《道藏》第 31 冊第 345 頁。

(一) 咒語

咒語是頌神制邪之文，是瑤族宗教使用廣泛的秘語。瑤族經書的咒語與道教咒語形式相同，道教認為咒是神靈的言辭，咒語具有神通法力，能度人籙仙，制星、制魔、制水、鎮五方、濟法界，故又稱為神咒。周玄貞《皇經集注》卷六《神咒品十五章》：“道言：是大神咒者，元始之妙言，玉皇之真誥，上清自然之靈書，九天始生之玄紫，空洞之靈章，上聖之秘語，玉宸之尊典，成天立地，開張萬化，安神鎮靈，生成兆民，匡御運度，保天長存；上制天機，中檢五靈，下策地祇，嘯命河源，運役陰陽，召神使仙；此至真之妙。又神應自然，致天高澄，令地固安，保鎮五嶽，萬品存焉。”⁽²⁴⁾ 咒語是道教齋醮主要的法術手段，瑤族宗教運用咒語同樣有此功能。

瑤族宗教咒語的名目，各地瑤族經書中有記載。S3399 號科儀經書：

海翻咒、太陰咒、康元帥咒、馬元帥咒、趙元帥咒、鄧元帥咒、辛元帥咒、師父咒、玄天咒、財馬神咒。

廣西荔浦瑤族經書《華戒書》：

太極咒、淨口咒、海幡咒、靈寶進用、道德科、玉皇科、師父咒、鄧元帥咒、馬元帥咒、趙元帥咒、辛元帥咒、康元帥咒、獻香咒用、靈王咒用、玄蘊咒用、邪師咒用、又到敕水法用、敕劍法用、請章入用、又到行罡差光入用。

廣西荔浦瑤族經書《盤王書》：

道德咒、聖主咒、北斗咒、李十六咒、李十一咒、李十二咒、師父咒、財馬咒、鄧元帥咒、辛元帥咒、康元帥咒、關元帥咒、趙元帥咒、馬元帥咒、玄香咒、靈王咒、玄壇咒、太陰咒、彌陀咒、邪師咒、銅鐘咒、功曹咒。⁽²⁵⁾

廣西荔浦瑤族經書《盤王書》：

道德咒、聖主咒、北斗咒、李十六咒、李十一咒、李十二咒、師父咒、財馬咒、鄧元帥咒、辛元帥咒、康元帥咒、關元帥咒、趙元帥咒、馬元帥咒、玄香咒、靈王咒、玄壇咒、太陰咒、彌陀咒、邪師咒、銅鐘咒、功曹咒。

瑤族《北斗咒》的咒語內容，與道教《北斗咒》相同。廣西荔浦瑤族經書《盤王書》之《北斗

(24) 《道藏》第 34 冊第 680 頁。

(25) 廣西荔浦瑤族經書《盤王書》，有幾個不同的經本，此為師哥書的《盤王書》。

咒》曰：

北斗七星，天中大神，貪狼巨門，祿存文曲，廉貞武曲，破軍輔星。大周天界，細入微塵，何災不滅，何福不臻。元皇正氣，來護我身，天罡所指，晝夜長存。隔欺小鬼，好道有靈，長天轉儀，念賜長生。高上玉皇，紫微大帝，三台生我來，三台養我來，三台護我來。道德原行八寶表，五方小鬼走飄搖。

元代道經《法海遺珠》卷十四《告斗求長生法》之《識三台法》：“三台生我來，三台養我來，三台護我來。”⁽²⁶⁾ 宋代道經《太上三洞神咒》卷六《祈禳開度諸咒》之《北斗咒》：

北斗九辰，中天大神，上朝金闕，下覆昆侖。調理綱紀，統制乾坤。大魁貪狼，巨門祿存，文曲廉貞，武曲破軍。高上玉皇，紫微帝君，大周天界，細入微塵。何災不滅，何福不臻，元皇正炁，來合我身。天罡所指，晝夜常輪，俗居小人，好道求靈。願見尊儀，永保長生。三台虛精，六淳曲生，生我養我，護我身形。魁魁魁魁魁魁鯉鯉鯉鯉尊帝，急急如律令！⁽²⁷⁾

道教的《七星殺鬼咒》：

北斗靈靈，斗柄前星。貪狼躁惡，食鬼吞精。巨門烜赫，照耀光明。祿存吐霧，統攝天兵。霞沖文曲，光耀廉貞。威臨武曲，真人輔星。天罡大聖，破軍之精。四天閉黑，濁炁混凝。常持斧鉞，手把天丁。威南一吸，膽碎心傾。靈官搜檢，聽察尋聲，九州社令，一一呼名。誅鉏兇惡，定罪不輕。橫逆者死，慈善者生。斬頭截足，粉碎其形。鬼妖蕩盡，人道安寧。驅邪治病，符到奉行。急急如律令敕！⁽²⁸⁾

元代道經《法海遺珠》卷四十二《書符咒》：

北斗七星，天中大神，上朝金闕，下覆崑崙。調理綱紀，統制乾坤。大魁貪狼，巨門祿存，文曲廉貞，武曲破軍。大周天界，細入微塵，何災不滅，何福不臻。元皇正炁，來合我身，天罡所指，晝夜常輪。俗居小人，好道求靈，常見尊儀，願保長生。高上玉皇紫微帝君急急如律令！⁽²⁹⁾

(26) 《道藏》第 26 冊第 802 頁

(27) 《道藏》第 2 冊第 93 頁

(28) 《道藏》第 30 冊第 54 頁。

(29) 《道藏》第 26 冊第 977 頁

瑤族的星斗崇拜受道教影響，廣西荔浦瑤族經書《無量度人經》：“無拘天門，東斗注算，西斗記名，北斗落死，南斗上生，中斗文魁。”此五斗功能說就直接摘引道經。廣西荔浦瑤族經書《敕五雷火用》：

敕變東方五雷之火，南方五雷之火，西方五雷之火，北方五雷之火，中央五雷之火，燒人人生，燒鬼鬼滅亡。准吾奉太上老君急急如令敕！

此咒語是宋代雷法傳播瑤族社會的例證。北極驅邪院屬雷部，主司煞伐掃蕩邪穢，雷部四聖真君為道教四大護法神，亦稱“北極四聖真君”。廣西荔浦瑤族經書《藏邪師用》：

天上之鬼，速上天堂，地下之鬼，速下地藏。你是奴婢之鬼，擔槍在洞殺牛犛，光頭禾尚四腦光。准吾奉太上老君急急令敕！

瑤族宗教咒語的太上老君急急令敕！與道教咒語結尾語相同。瑤族師公在儀式中的變身法術，都要默誦咒語以配合行用。咒語可以莊嚴壇場，增強儀式的神秘氣氛。瑤族宗教各種祭祀法事，從開始至結束，其間每一個程式，都穿插有咒語之辭，這是向神靈的誦禱、訴說。在瑤族宗教各種祭祀壇場上，師公琅琅禱告，伴隨鼓樂聲聲，仿佛天界神真降臨。

（二）法訣

瑤族宗教的法訣是和咒語配合行用，法訣同樣來自道教。道教高功的掐訣法術，有著豐富的訣目內容，道教的法訣有七百餘目，即七百餘種掐訣的手勢。廣東乳源瑤族修齋度亡儀式中運用的法訣：

打巾頭出大光明訣一道，小光明訣一道，封山訣一道，蛇頭王訣一道，十萬長沙王訣一道，飛天量訣一道、連天鐵尺訣一道，大降魔訣一道，小降魔訣一道，起期訣一道，犀牛訣一道，白象訣一道，麒麟訣一道，獅仔訣一道，黃斑訣一道，烏斑訣一道，豺狼猛虎訣一道，銅牛鐵牛訣一道，大毒南蛇訣一道，五百蠻王訣一道，飛天毒雷訣一道，金龜強梁訣一道，飛天毒龍訣一道，孔雀明王訣一道，銅銃訣鐵銃一道，長槍訣一道，短槍訣一道，銅弓木弩訣一道，差神訣一道，祖師訣一道，本師訣一道，二郎訣一道，三郎訣一道，三元法主訣一道，三帝將軍訣一道，五營兵馬訣一道，十道蠻王訣一道，大保師公封羅卯訣一道，山河社稷盡皈依訣一道。(30)

(30) 李默、房先清編：《八排瑤古籍彙編》，廣州：廣東人民出版社，1995年，第765頁。

廣東八排瑶接引亡師廳前坐兵床的科儀，法師行用的法訣有：

大小光明訣、交鬼訣、訣陀頭王訣、長沙王訣、飛天鐵尺、打鬼訣，連天鐵尺、打鬼訣、大小降魔訣、起旗、犀牛白象訣、麒麟獅子訣、黃斑烏斑訣、豺狼猛虎訣、銅牛鐵牛訣、大毒小毒訣、五百蠻雷兵訣、飛天毒訣、金龜強梁訣、崩山毒龍訣、孔雀明王訣、飛天潭鳥訣、銅銃鐵銃訣、長槍短槍訣、銅弓木弩訣、琉璃火箭訣、祖師本師訣，三郎二郎訣，三元法主訣、三帝將軍訣、五營兵馬訣、十洞蠻王訣、叉神訣。⁽³¹⁾

瑶族宗教法訣名稱，有的與道教相同，如祖師訣、三元法主訣，有的法訣具有瑶族社會的特點，如十洞蠻王訣、大保師公封羅卯訣。瑶族宗教神唱更是生動讚頌法訣的功能，廣西瑶族還盤王願《著裝引神歌詞》：“學法便學老君法，莫學釋迦法不真。接訣便接老君訣，接盡閻山鬼滅亡。老君得法傳天底，釋迦要度九年春。”⁽³²⁾ 廣東乳源瑶族《承帽變帽》：“師男頭戴金冠帽，左手執印接香門。左手執起老君訣，口念老君法令行。左腳又踏蓮花朵，右腳又踏蓮花尊。師男有心來學法，後代師男命又長。”⁽³³⁾ 廣西瑶族經書說：“學得祖師一個訣，強如買得一莊田。上村救男男興旺，下村救女女平安，保得人丁興旺了，富貴榮華千萬年。”⁽³⁴⁾ 廣東乳源瑶族神唱《又到黎十二》：“師男執得祖師訣，不圖富貴且圖花。”⁽³⁵⁾ 廣東乳源瑶族《師男學法救良民》：“三十六訣撥付你，遊行四上救良民。救得男安女也好，師父有名你有聲。”⁽³⁶⁾ 宋元妙宗《太上助國救民總真秘要》卷二《上清北極天心正法門下靈文符咒》的變神訣：“凡行持遣敕，並先變神，掐本師訣，存為驅邪院使，天師服飾。二神將，日時功曹立於左右訖，次用上帝訣。次變神訣，念咒。次遣用掐上帝訣，兩手俱作，叩齒三十六通。”⁽³⁷⁾ 瑶族宗教的法訣亦有變神法術的運用。

(三) 神符

神符是瑶族經書重要的一類。瑶族神符用於鎮妖、驅邪、斬鬼、救疾、護身、保宅等。瑶人認為神符具有神的威力，有“驅邪外出，引福歸堂”之神奇功能。瑶族神符有黃紙朱砂符、白紙朱砂

(31) 李默、房先清：《八排瑶古籍彙編》，廣州：廣東人民出版社，1995年，第723頁。

(32) 張聲震主編：《還盤王願》，南寧：廣西民族古籍整理出版規劃辦公室，2002年，第153頁。

(33) 盤才萬、房先清收集，李默編注：《乳源瑶族古籍彙編》，廣州：廣東人民出版社，1997年，上冊第341頁。

(34) 胡起望：《論瑶傳道教》，昆明：《雲南社會科學》1994年第1期，第61-69頁。

(35) 盤才萬、房先清收集，李默、朱洪校注：《拜王歌堂》，廣州：廣東人民出版社，1994年，第276-159頁。

(36) 盤才萬、房先清收集：《拜王歌堂》，廣州：廣東人民出版社，1994年，第115頁。

(37) 《道藏》第32冊第56頁。

符、桃符、竹符、黑紙白粉符等 200 多種。黃紙符、白紙符、桃符較常用，竹符、黑紙符較少用。焚燒、化食、張貼、隨身帶用紙符。釘插地上各個方位用桃符或竹符。其用途，有治病符、收魂符、護身符、安胎符、催生符、押喪出煞符、安龍謝土符、斷狼虎鼠雀符、封山符、放水符、燒窯符等。⁽³⁸⁾ 瑤族黃紙朱砂符沿用道教書符的傳統，元代道經《法海遺珠》卷十八列舉上界符、中界符、下界符，稱“前三符，並黃紙朱書，用都天大法主印印之”。⁽³⁹⁾ 道教有長生靈符、救苦真符、十傷符，道教傳授九真妙戒，要告行元始符命、金籙白簡長生靈符。道教科儀中宣稱“汝等若能受持金籙白簡、九真妙戒、長生靈符、救苦真符，當消九幽大罪，標名九宮。”⁽⁴⁰⁾

廣西荔浦瑤族經書《化符書》，有變籤用、變纂用、變梳用、又變刀用、又變碗用的神符，還有水符、手符、水盆符、又聖火符、水符蓋兩用、雪山水盆符、犁頭符、藏身符、大門符、帖身符、真人食符等各種符圖、咒語。



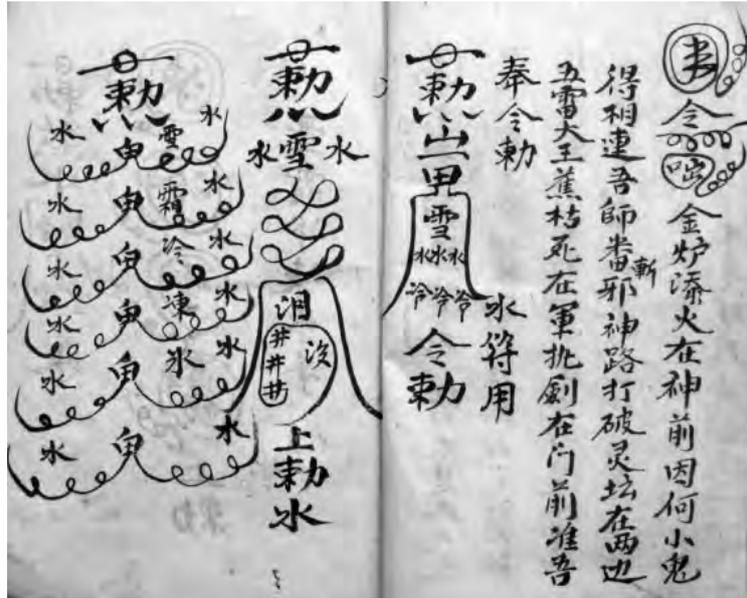
廣西荔浦瑤族《化符書》變纂神符、咒語

瑤人收魂有叫魂、架橋招魂和神符收魂，其中以架橋招魂為隆重。一般的受驚嚇、頭痛發熱則叫魂，重病或久病不愈則架橋招魂。招魂時神符須寫上失魂人的姓名和出生年月日。符文為“三魂七魄附符打落星火作速”。此符用桃樹片做成、釘插十字路口。既將魂收回，還需使其安定，又有安魂符一道，化符水令病人服下“安魂定魄壽命延長”。魂安定之後，還需藏好以免被外鬼攝去，

(38) 參見廣東省地方史志編纂委員會編：《廣東省志·少數民族志》，廣州：廣東人民出版社，2000年，第137頁。

(39) 《道藏》第26冊第830頁。

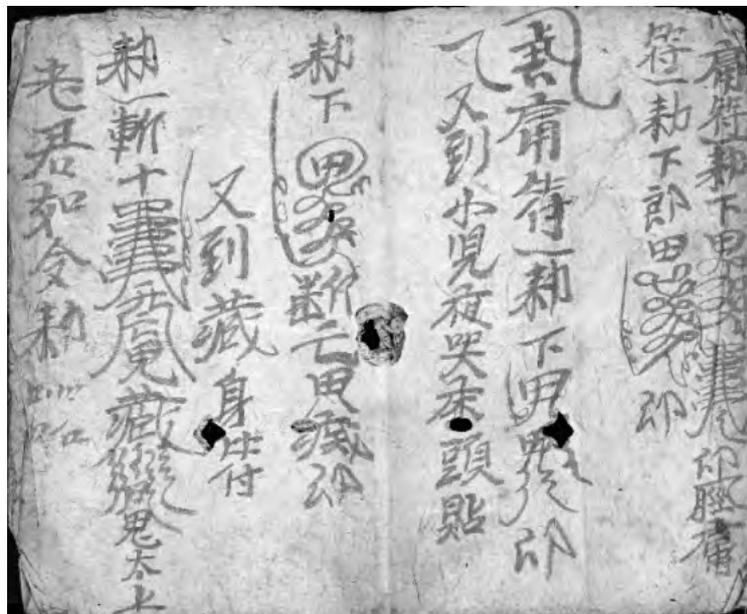
(40) [宋] 蔣叔興撰：《無上黃籙大齋立成儀》卷四十一《符命門》，《道藏》第9冊第617頁。



廣西荔浦瑤族《化符書》敕水神符

所以還需畫兩道藏魂符置家先神位：“長生室內藏三魂迪一吉”，“敕令藏蓋闔家老幼大小男女三魂七魄”。(41)

S3259 號經書的神符有：燒吃聰明符、玉皇敕令靈神符、安六甲符二道、隔瘟靈符、小兒夜叫符、肚痛用酒包吃符、具吹生靈符、痛符、倒隔符、藏身符。



S3259 號經書的藏身符

(41) 趙家旺：《瑤族神符》，廣東省民族研究所、李筱文、趙衛東主編：《過山瑤研究文集》，北京：民族出版社，2008年，第132頁。



S3259 號經書的倒隔符

瑤族宗教經書中所見符法還有：禁官符、七星變橈符、敕隔瘟符、隔精符、敕九良星符法等。瑤族宗教中有專門的神符經書，廣西荔浦瑤族經書《化符書》題記說：“馮法香自抄畫符書一本，付以子孫世代應用，不可失漏也。”

瑤族經書中有豐富的步罡法術，這是瑤族宗教對道教步罡法術的汲取。瑤族宗教中罡步與法訣常配合行用，這與道教科儀中步罡與手訣相配合是相通的。對瑤族經書中的步罡法術及其與道教的關係，值得專文予以詳細討論。

結語

通過以上對瑤族經書儀式中的道教法術的討論，可見瑤族宗教有著濃厚的道教元素。從瑤族經書及瑤族歷史文化的考察，小傳統的瑤族宗教對大傳統的道教的汲取，豐富了中國民族學的中華民族多元一體理論和民族走廊理論。瑤族宗教經書中濃郁的道教元素，是中華民族多元一體政治格局下道教在南嶺走廊傳播的結果。在中國西南少數民族中，各民族傳統宗教都不同程度受到道教影響，而瑤族傳統宗教道教化的趨勢至為明顯。瑤族宗教道教化表現在諸多方面，瑤族宗教的經書具有濃厚的道教色彩。瑤族經書儀式中的道教元素，是歷史上瑤族深受道教影響所致。瑤族經書是反映其宗教思想的文本載體，我們從瑤族經書儀式的角度討論瑤族與道教的關係，旨在以實證研究豐富中華民族多元一體格局理論的內涵。

張澤洪，現為四川大學二級教授，四川大學道教與宗教文化研究所博士生導師。國家“十三五”規劃文化重大工程——《中華續道藏》副主編。學術著作有《文化傳播與儀式象徵——中國西南少數民族宗教與道教祭祀儀式比較研究》《道教齋醮符咒儀式》《道教唱道情與中國民間文化研究》《道教禮儀學》《中國社會歷史中的道教》《中國西南少數民族梅山教》《瑤族宗教經書文化內涵研究》等 23 種，專著及撰稿著述共計 495 萬字。在國內外發表學術論文 344 篇，其中 CSSCI 核心刊物 154 篇，在宗教學、民族學、哲學權威刊物《世界宗教研究》《民族研究》《哲學與文化》發表 21 篇。人大報刊複印資料《宗教》《民族研究》《文化研究》《中國古代、近代文學研究》等轉載 15 篇，《中國社會科學文摘》轉摘 3 篇，《高等學校文科學報文摘》轉摘 4 篇。《瑤族宗教經書文化內涵研究》入選 2022 年度《國家哲學社會科學成果文庫》。參加主研的《中國道教思想史》，獲四川省人民政府哲學社會科學優秀成果壹等獎，獲教育部第 6 屆高等學校科學研究優秀成果獎（人文社會科學）貳等獎。並先後獲四川省人民政府第九次、十一次、十三次、十五次、十九次哲學社會科學優秀成果三等獎。先後主持國家社會科學基金項目 5 項（其中重點項目 2 項），教育部人文社會科學重點研究基地重大研究項目 3 項。在宗教學、民族學研究領域是國內外有影響力的學者。

《祖图》：记载泰国瑶族迁徙路线、时间的民间文献⁽¹⁾

——域外瑶族《祖图》研究之二

广西民族大学瑶学研究中心 教授 玉时阶
 南宁师范大学学报编辑部 编辑, 副研究员 玉璐
 泰国清莱皇家大学社会学院 讲师 刘玉兰

摘要

《祖图》是瑶族为了追本溯源,记载历代祖先宗教法名及其安葬地点的族谱。明清之后,部分瑶族从中国迁徙到东南亚及欧美,其中,泰国是瑶族从东南亚进入欧美的一个重要节点与中转站。泰国瑶族《祖图》记载了每个泰国瑶族家族历代祖先的安葬地点、离开中国的时间及在泰国居住了多少代人,并在迁徙过程中如何根据生态环境的变化以家庭为单位进行迁徙等内容。《祖图》承载着每个泰国瑶族家族对本民族历史文化与中国历史文化的记忆,既反映了瑶族从中国进入泰国的具体迁徙路线与时间,是研究世界瑶族历史文化的重要民间文献,也反映了泰国瑶族对祖籍国的深深眷恋与执着的中华民族身份认同。研究泰国瑶族《祖图》,不仅具有重要的文化人类学价值,而且对探讨瑶族如何从中国走向世界,认识世界,与世界各国民族交往交流交融,为讲好中国与东南亚跨境民族的“中国故事”提供了一份生动的素材,为全面、系统地研究域外瑶族历史文化提供新的研究路径;而且对中国与东南亚各国在“一带一路”倡议合作中实现“学术合作共赢”具有重要的学术意义,对构建中国—东盟命运共同体具有重要现实意义。

关键词: 泰国瑶族;《祖图》;迁徙路线与时间;交往交流交融;

族谱是移民史研究的基本资料,其核心内容是追本溯源、考述祖先世系。作为中国宗族组织的重要标识物,族谱具有法国历史学家诺拉所说的“记忆之场”的文化特征,承载着一个家族乃至国家的文化记忆。所以,在传统中国,过去几乎每个家族都拥有自己的族谱。历史上,瑶族作为一个刀耕火种的山地游耕民族,“吃尽一山又一山”,长期过着迁徙不定的游耕生活。明清之后,瑶族开始从中国西南地区向东南亚地区迁徙。20世纪70年代末,瑶族进入欧美,成为世界民族。世界各地的瑶族都是从中国迁徙去的,但瑶族究竟是什么时候离开中国迁徙到泰国,其迁徙路线如何?这对学术界一直是个谜。瑶族民间保存的《祖图》却为我们解开了这个谜。历史上,瑶族为了追本溯源、考述祖先世系,每个家庭都修有族谱。其族谱有《家先单》与《祖图》两种。《家先单》仅记载了本家族

(1) 本文为国家社科基金冷门绝学研究专项“域外瑶族《祖图》的搜集、校注与研究”(项目编号:21VJXG031)的阶段性研究成果。

近二三十代祖先夫妻的宗教法名，而《祖图》不仅记载本家族近二三十代祖先夫妻的宗教法名，还记载了本家族近二三十代祖先夫妻的安葬地点，为研究瑶族是什么时候离开中国，又从中国途径哪里去泰国提供了真实、宝贵的历史资料。依据这些资料，我们不仅可以追溯与复原瑶族历史上的一段段历史与文化，而且还可以探讨瑶族文化与中华民族文化及世界民族文化的交往交流交融。

一、瑶族《祖图》与《家先单》

我是谁？我从哪里来？这既是每个人都关心的问题，也一直是历史学、民族学、人类学研究回避不了的热点问题。瑶族是一个历史文化悠久的民族，其发源地在中国的黄河与长江中下游一带。后来逐渐从北向南和西南迁徙，最后进入东南亚与欧美，成为世界民族。据2020年第七次全国人口普查数据统计，中国有瑶族3309341人，主要分布在广西、湖南、广东、云南、贵州、浙江、海南岛、福建等省区。域外有瑶族100多万人，主要分布在越南、老挝、泰国、美国、法国等国家，其中，越南约90万人，泰国约5万人，美国5万多人，老挝约2.5万人，缅甸约1000多人，法国约1500人，加拿大约1000人。但瑶族是什么时候离开中国，进入泰国？中国与泰国的文献都没有记载，学术界也一直没有明确的结论。但瑶族民间保存的《祖图》却为我们找到了解决这个问题的钥匙。

《祖图》是瑶族民间具有重要历史文化价值的传统古籍文献。历史上，瑶族是一个不断迁徙的山地游耕民族。这种以居山、耕山、吃山、迁徙不定的山地游耕农业在瑶族社会中持续了很久，直到20世纪中叶之后才逐渐消失。故史籍上记载说：“瑶人耕山为生，以粟、豆、芋魁充粮，其稻田无几。”⁽²⁾“各自以远近为伍，刀耕火种，食尽一山，则移一山。”⁽³⁾“择土而耕，迁徙无定”，“伐木耕土，土薄则去”，“随山散处，刀耕火种，采实猎毛，食尽一山则他徙。”⁽⁴⁾“今岁此山，明年又别岭矣。”⁽⁵⁾“过山瑶依山为食，一二岁辄弃去，更治他山。”⁽⁶⁾“所居之处，不四五年即迁。”⁽⁷⁾这种几年迁徙一次的刀耕火种的山地游耕农业生活，使得他们每迁徙一次就离原来的居住地越远，数十年后就记不住原来居住生活过的地方了。所以，在刀耕火种山地游耕生活时期，瑶族人死时，他们请师公做完仪式后，就找个地方埋葬，入土为安，并不垒土为坟。然后请师公或由本家族中会汉字的人将死者的姓名或宗教法名记载在《祖图》中。每年清明节时在家中神龛前摆酒、

(2) 参见(宋)周去非：《岭外代答》卷3，四库全书本。

(3) 参见(明)戴璟：《广东通志初稿》卷35，嘉靖十四年刻本。

(4) 参见(清)谢启昆：《广西通志》卷278，光绪十七年桂垣书局刻本。

(5) 参见(清)蒋廷锡等：《古今图书集成》卷1415《方輿汇编·庆远府风俗考》，中华书局影印本。

(6) 参见(清)王闿运等：《桂阳直隶州志》卷23《峒瑶志》，同治七年刻本。

(7) 参见(清)汤大宝：《开化府志》卷9，道光九年刊本。

肉、米饭等，烧香焚纸钱，请师公或由家中老人喃神，祭祀先人，并拿出家中收藏的《祖图》，由远到近地一一喃念《祖图》中安葬在各地历代祖先的宗教法名，请祖先神灵回来享受供品。祭祖时，家族中人均要站立在旁静听，以示“不忘祖根”。正如日本学者白鸟芳郎所说，东南亚的瑶族尽管他们没有祖先坟墓，但他们通过对祖先神龛的祭祀，用祷告仪式表达了一种固有的世界观和生命观，表明了他们对万物有灵的宗教崇拜。在并没有祖先坟墓的情况下，通过宗教仪式制造了最虔诚的想象中的坟墓，并通过宗教仪式来祭祀祖先，祈求祖先的神灵保佑。⁽⁸⁾瑶族这种通过喃念《祖图》祭祀祖先的习俗大约在明清时期就已出现。明清时期，随着汉文化在瑶族地区的传播，瑶族在湘粤桂交界的南岭走廊地区从北向南和西南迁徙过程中，为了记住历代祖先及其居住地，便用汉字与瑶族自创的俗字记载本家族历代祖先的宗教法名、安葬地点等，在节日祭祖时拿来喃念，以示不忘祖宗。这种记载有本家族历代祖先宗教法名、安葬地点的瑶族民间古籍文献，瑶族将其称为《祖图》，或称之为《祖途》《墓图》《墳壘》《坟墓图》等。《祖图》既是汉文化与瑶族文化交往交流交融的产物，是瑶族传播本民族文化的重要民间文献及民族认同、文化认同的重要途径；也是瑶族对中华文化认同的标志，是记载瑶族从中国走向世界的民间文献及各国文化人类学者研究瑶族迁徙之路和瑶族历史文化的重要文献资料。因受“文化大革命”等影响，国内瑶族已经很少有家庭还保存有《祖图》。而域外瑶族则大多数家庭都还保存有《祖图》，其中，以移居越南、老挝、泰国、美国瑶族家庭保存的《祖图》文本数量、记载祖先的代数最多。

域外瑶族《家先单》与《祖图》的最早研究者是日本学者。20世纪70年代初，国外兴起了一股研究东南亚瑶族的热潮。日本学者长期关注与调查研究东南亚瑶族，他们在东南亚瑶族的研究上取得了较大的成果。日本学者白鸟芳郎从1969年到1974年在泰国西北部调查回国后，将搜集到的《家先单》等11种瑶族民间文献和宗教经典合集为《瑶人文书》出版，这是学术界最早对泰国瑶族《家先单》的研究。随后，日本学者竹村卓二教授到泰国瑶族地区调查后也发表了有关瑶族《家先单》的论文，说泰国瑶族的祖先都是从中国迁徙去的。每个瑶族都有家谱，家谱一般都记载有10代或11代的祖先名字，并都记有从第1代到11代祖先的死亡地点。⁽⁹⁾在其编著的著作中也论述了他在泰国清莱府夜庄县帕莱村收集的被称为“祖先册”的家谱，认为这种家谱也叫“家先书”或“祖灵簿”。并说在泰国北部的瑶族中是没有墓地和墓碑的，但瑶族在观念上极为重视祖先墓地，将祖先墓地地

(8) 参见[日]白鸟芳郎：《〈瑶人文书〉及其宗教仪式》，肖迎译，《云南档案》1995年第3期。

(9) 参见[日]竹村卓二：《关于泰国北部瑶族的研究情况——1982年12月23日在广西民族学院的讲学报告(摘要)》，《广西民族学院学报》，1983年第3期。

点登记在“祖先册”中是一条原则。⁽¹⁰⁾显然，竹村卓二先生将瑶族“家先单”与瑶族“祖图”混为一谈了。长期以来，我国学术界也一直把瑶族《家先单》与瑶族《祖图》混为一谈。如张有隽先生认为，瑶人有家谱，称为“家支簿”或“家先单”，一般以房族为单位，记载分房及迁徙情况、历代家先姓名法名和下葬地址。⁽¹¹⁾何海狮先生也认为，瑶族《家先单》有三种，一种是登记一代代家先夫妻法名的名册，二是在家先法名后面加上生、死日期，三是在家先法名后面加上埋葬地点。⁽¹²⁾姚舜安先生亦把泰国北部清莱府夜桩县米沙村调查所见到的瑶族赵财珠家中记录有其九代祖先安葬地的《祖图》称为“家谱”。⁽¹³⁾

一般说来，瑶族的《家先单》与《祖图》都抄写在封面写有“家先单”三字的同一本文献上，其正文前面部分是《家先单》，把历代祖先夫妻的法名抄录完后，再另起一行，写上“祖图”作为题目，然后另起一行，抄录历代祖先夫妻宗教法名及其埋葬地点。所以，很多人只看了封面的“家先单”标题，就把后面的内容认为全部属于《家先单》，没有留意正文里面另起一行的“祖图”二字及其后面的历代祖先安葬地点，从而将《祖图》与《家先单》混为一谈。这是大部分学者没有正确区分《祖图》与《家先单》的主要原因。其次是国内瑶族家庭因为种种原因基本上现在都没有《祖图》了，许多学者只能根据二手资料了解瑶族《祖图》情况，得出错误结论。加上纸质抄写的《祖图》因传承年代久远，容易破损；或因兄弟分家，各自迁徙，都会重新请师公抄写，因师公文化水平不太高，认识的汉字有限，在重新抄写时难免发生错漏，甚至用瑶族自造的俗字代替汉字的现象十分严重；而且中国西南地区和东南亚地区潮湿多雨，瑶族过去多居住于茅棚、木屋中，《祖图》不易保存，残本较多，从而给后人增加了考证的难度。

事实上，瑶族《家先单》与《祖图》虽然都抄写在同一本纸质的民间文献中，有部分内容相同，都记载了历代祖先夫妻的法名，但瑶族《祖图》除了记载历代祖先夫妻的法名外，还记载了历代祖先埋葬的地点，这是《家先单》没有的。下为我们在泰国清莱府清盛县瑶族李法连家看到其家族抄写在同一手抄本上的《家先单》与《祖图》：

家先单：书主李法连《家先丹（单）》：太清一郎、赵氏五娘郑氏六娘——太龙二郎、赵氏五娘——李应一郎、李氏一娘——李金五郎、盘氏五娘——李盖一郎、邓氏一娘——李官二郎、邓氏五娘——李明三郎、龙女圣娘——李行一郎、盘氏五娘——李法宝、邓氏者——李法陞、两位

(10) 参见[日]竹村卓二：《瑶族的历史和文化——华南、东南亚山地民族的社会人类学研究》，金少萍、朱桂昌译，民族出版社2003年版，第135页、第162页。

(11) 参见张有隽：《中国瑶人文书及其研究》，《广西民族学院学报》，1990年第3期。

(12) 参见何海狮：《家屋与家先——粤北过山瑶的家先观念与实践》，社会科学文献出版社2015年版，第185页。

(13) 参见姚舜安：《瑶族迁徙之路的调查》，《民族研究》1988年第2期。

邓氏者——李法德、邓氏者——李法亮——李法江——李法进、盘氏者——李法通。

祖图：太清一郎墓坟安葬在云南道开花（化府）文山县罗竜里、赵氏五娘墓坟葬广西道崙练冲（疑为广西融水苗族自治县同炼瑶族乡）、郑氏六娘坟墓安葬广西道——太龙二郎坟墓安葬广西、赵氏五娘供（共）地葬——李应一郎墓坟安葬广西道、同妻李一氏一同供（共）处——李金五郎葬在广西道城县（不详）、盘氏五娘安葬在广西道城县（不详）——李盖一郎安葬开祠（不详）、邓氏一娘安葬在开花（化）府——李官二郎葬在开花（化）府、邓氏五娘开花（化）府——李行一郎葬在猛竜府⁽¹⁴⁾猛宣县、盘氏五娘猛竜府猛宣县——李法保葬在猛竜府、邓氏者癸未年十月十九日未时命归阴安葬在猛竜府——李法陞祖坟葬在猛竜府河会县、两位同妻不见——李法德夫妻二人不有——（漏李法亮、李法江）——李法进癸卯年二月廿五作病三命反（返）天，十月十八日安葬在蜜（湄）额河左河边——李法通墓坟葬在蜜（湄）额半（畔）河左边。

可见，瑶族的《家先单》和《祖图》虽然都记载在同一本文本上，《家先单》在前，《祖图》紧随其后，但各自所记载的内容是不同的。

最早使用瑶族民间文献探讨瑶族从中国迁徙到泰国的学者是日本的竹村卓二先生，他在泰国帕莱村瑶族邓福昌家中看到了邓福昌家族的《祖图》，但竹村卓二先生将其称为“祖先册（一种谱系）”，说该“祖先册（一种谱系）”记载了邓福昌祖先从中国广东——广西柳州府贵县——广西泗城府——云南临安府——越南——泰国的迁徙路线。但遗憾的是竹村卓二先生没有分清楚邓福昌家族的《家先单》与《祖图》的不同，将“祖先册”认为是“一种谱系”；只对邓福昌家族从中国迁徙到泰国的路线做了分析，没有对邓福昌家族离开中国的时间与在泰国居住的时间进行研究。姚舜安先生也通过探讨泰国清莱府夜庄县湄赛村瑶族赵财珠家族“族谱”，发现其祖先从中国到泰国的迁徙路线是：中国庆远道（广西庆远府）——广西泗城府——云南开化府——寮国（今老挝）猛跃洞——猛洋洞（今老挝境内）——暹罗（今泰国）——清迈。但也没有探讨赵财珠家族是什么时候离开中国，什么时候到泰国的。我国学者由于种种原因，过去对泰国瑶族都了解不多。20世纪80年代末，我国学者才开始走出国门，对泰国瑶族进行调查研究。1989年，应泰国朱拉隆功大学邀请，广西民族学院赴泰国瑶族考察组⁽¹⁵⁾到泰国瑶族地区进行调查回来后，出版了《泰国瑶族考察》⁽¹⁶⁾一书。该书除了系统地介绍泰国瑶族社会的政治、经济、卫生、教育、历史、婚姻、丧葬、宗教信仰、文学艺术外，还收录了17份泰国瑶族《祖图》，这是中国学者最早在泰国搜集到的瑶族《祖图》，也是中国学者第

(14) 猛竜府，今老挝琅南塔省，历史上曾经属于暹罗（今泰国）管辖，1904年后属于老挝管辖。下同。

(15) 广西民族学院考察组组长为陈永昌处长，课题组组长姚舜安教授，课题组成员张有隽副教授、李增贵副教授、玉时阶讲师。

(16) 参见广西民族学院赴泰国瑶族考察组编著：《泰国瑶族考察》，广西人民出版社1992版，第27-60页。

一次将《家先单》与《祖图》区分开来研究。而姚舜安教授的《瑶族迁徙之路的调查》则是中国学者最早研究泰国瑶族《祖图》的论文。此外，玉时阶在 1989 年参加广西民族学院赴泰国瑶族考察组到泰国瑶族地区考察时看到瑶族《祖图》后，2019 年 4 月和 2023 年 5 月及 2024 年 7 月又 3 次在泰国瑶族地区考察时搜集到 50 份瑶族《祖图》。但至今为止，没有人对泰国瑶族《祖图》进行全面、系统地研究。本文根据作者在泰国所搜集的瑶族《祖图》为研究对象，探讨瑶族是什么时候离开中国，途径哪里进入泰国，在泰国居住了多少代人；他们从中国进入泰国后，在与泰国民族文化交往交流交融过程中，如何在保留、传承中华民族传统文化的同时，又借鉴、学习泰国民族文化，使其传统文化既保持了中华民族传统文化特色，又具有泰国民族文化特点，为构建中国—东盟命运共同体打下了坚实的文化基础。

二、泰国瑶族《祖图》的文化人类学价值

瑶族是何时走出国门，进入泰国的？学术界有不同看法。学术界绝大多数人认为，瑶族离开中国后首先是进入越南和老挝，然后到泰国，再从泰国去欧美。但瑶族什么时候进入越南、老挝，然后在什么时候进入泰国，因为中国与东南亚国家的史书都没有记载，所以国内外学者没有做过研究。

《祖图》是瑶族民间重要的古籍文献之一，是研究瑶族历史文化的重要资料。它不仅回答了域外瑶族我是谁？而且回答了域外瑶族是从哪里来的，途经哪里到泰国，在泰国居住了多少代人、多少年等这一历史疑案。笔者从 1989 年、2019 年、2023 年、2024 年先后 4 次在泰国瑶族地区考察时搜集到 50 份瑶族《祖图》，其中完整记载瑶族从中国迁徙到泰国的《祖图》有 29 份，其他的《祖图》有的只有瑶族从越南或老挝迁徙到泰国的记载，有的只有瑶族在泰国境内迁徙的记载，没有从中国迁徙出去的记载。所以，本文仅以记载了瑶族从中国迁徙到泰国的 29 份《祖图》为研究对象，探讨瑶族从中国进入泰国的迁徙路线、在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间。

（一）《祖图》记载了瑶族从中国进入泰国的迁徙路线

明清之后，瑶族逐渐从中国南岭走廊由北向南迁徙，进入越南、老挝后又向泰国迁徙。但由于受刀耕火种山地游耕农业生活的影响，各个家族从中国进入泰国的迁徙路线是不一样的。

1. 从中国广西经云南进入越南、老挝，再进入泰国的瑶族家族有难府塔汪帕县难莫村邓贵华家族、难府塔汪帕县镇莫村邓发财家族、难府难莫村邓法珠家族、难府塔汪帕县黄金周家族。

2. 从中国广西经云南进入泰国的瑶族家族有难府塔汪帕县南帮村邓文显家族。

3. 从中国贵州经云南进入老挝，再进入泰国的瑶族家族有难府塔汪帕县难彭村盘富意家族、清莱府清盛县李富银家族。

4. 从中国广西经云南进入老挝，再进入泰国的瑶族家族有难府塔汪帕县南帮村盘有周家族、难府塔汪帕县南帮村邓法坛家族、难府塔王帕县难彭村盘法鹤家族、清莱府清盛县班秀镇帕莱龙村冯财进家族、清莱府清康县冲才镇昆美彭村邓法公家族、清莱府清盛县李富银家族、清莱府清康县李法连家族、清莱府清盛县帕来龙村赵法官家族、帕天府清堪县夜老乡龙回寨赵金寿家族。

5. 从中国广西经云南进入越南，最后进入泰国的瑶族家族有南邦府敖县边境村刘德熊家族、南邦府敖县坤恒村盘生林家族。

6. 从中国云南进入老挝，再进入泰国的瑶族家族有南邦府赵元福家族。

7. 从中国广西经四川、贵州、云南、贵州进入泰国的瑶族家族有清莱府数隆县冲才镇会唱咯村盘财进清家族。

8. 从中国广东经广西、云南，再入泰国的瑶族家族有南邦府敖县帕四角村冯法德家族。

9. 从中国广东经广西、云南进入老挝，再进入泰国的瑶族家族有清莱府清盛县班秀镇帕莱龙村冯法田家族。

10. 从中国贵州经广西、云南后进入老挝、缅甸，再进入泰国的瑶族家族有南邦府敖县三角村盘财寿家族。

11. 从中国广西经湖南、云南进入越南，又回迁中国云南，再进入老挝，最后进入泰国的瑶族家族有清莱府莱竜县猛声洞赵法广家族。

12. 从中国广西进入贵州后，又回迁广西，经云南进入老挝、缅甸，最后进入泰国的瑶族家族有南邦府闹敖县三角村盘贵福家族。

13. 从中国广西经云南进入越南，又迁回云南；再进入老挝，又迁回云南；再次进入老挝、越南，又回迁老挝；进入泰国后又回迁老挝，最后再次进入泰国的瑶族家族有清莱府清康县邓法意家族。

14. 从中国广西进入越南、老挝后，又回迁越南，最后进入泰国的瑶族家族有南邦府汪内县帕错村邓福进家族。

15. 从中国广西经云南进入泰国、老挝，又回迁到泰国，然后又回迁到老挝，最后才进入泰国的瑶族家族有清莱府清康县帕莱龙村冯元珠家族。

16. 从中国广东经广西、云南进入老挝，后又回迁中国云南，又进入老挝，最后进入泰国的瑶族家族有南邦府敖县坤恒村邓法渡家族邓法渡家族。

17. 从中国广西经云南进入越南后，又回迁中国云南，又再进入越南、老挝，最后进入泰国的瑶族家族有帕天府猛蚌洞邓有升家族。

（二）《祖图》记载了瑶族家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间

历史上，瑶族究竟1代人以多少年计算为好？越南学者杜光聚与阮琏以每30年为一代计算，来推断瑶族进入越南的时间。^{（17）}我们认为这种计算方法显然不符合历史事实。学术界一般认为，20世纪50年代前，中国人基本上是18岁左右就结婚，所以多以20年为一代人。越南老街省文化体育旅游厅原厅长陈友山博士也认为，“越南的瑶族结婚早，在瑶人的家谱中按20年计算周期是合理的。”^{（18）}据我们在中国、越南、老挝、泰国瑶族地区调查，瑶族因为是个刀耕火种的山地游耕民族，繁重的山地耕作需要较多的强劳动力，男子过去一般都在15—18岁之间结婚，女子结婚时间则更早。就是在现在，农村中的瑶族男子一般也在20—25岁以前结婚，30岁才结婚的人极少。除了个别家庭经济极为困难的男子，才会在30岁后结婚。所以，认为瑶族过去以20年为一代人比较合理。

1. 泰国难府塔汪帕县难莫村邓贵华家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

邓贵华家族在泰国的已故祖先有邓传一郎、邓法贞、邓法印、邓法乡、邓法才、邓法鹤、邓法显7代人安葬在泰国，共140年；现在泰国瑶族人均寿命都有60岁以上，而现在的《祖图》持有人多是50岁以上，故我们按50年计算《祖图》持有人年龄，所以邓贵华家族在泰国已经居了190年；再加上其祖先邓胜二郎在越南居住了1代人，20年；邓传一郎、邓法印在老挝居住了2代人，40年；所以邓贵华家族已离开中国250年。

2. 泰国难府塔汪帕县镇莫村邓发财家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

邓发财家族在泰国已故的祖先有邓法坛、邓法进、邓法有、邓法定、邓法广、邓法珠6代人，共120年；加上《祖图》持有人50年，邓发财家族在泰国已居住了170年。加上其祖先邓胜二郎在越南居住了1代人，20年；邓法堂、邓法清在老挝居住2代人，40年；邓发财家族离开中国已230年。

3. 泰国难府塔汪帕县南帮村邓文显家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

邓文显家族在泰国已故的祖先有邓法水、邓法无、[邓]法寿、邓宥三郎、邓阱二郎、邓向一郎、邓法坛等6代人，共120年，加上《祖图》持有人50年，邓发财家族在泰国已居住了170年。邓法水是从中国云南进入泰国的第一代人，邓文显家族离开中国已170年。

4. 泰国难府塔汪帕县难彭村盘富意家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

盘富意家族在泰国已故的祖先有盘法意1代人，20年；加上《祖图》持有人50年，盘法意家族在泰国已经居住了70年。加上其祖先盘发贵、盘法旺在老挝居住了2代人，40年，盘法意家族离开中国已110年。

（17）参见 [越] 杜光聚、阮琏：《越南瑶族的今昔》，黎巧萍、李娜译，民族出版社2018年版，第23页-31页。

（18）参见 [越] 越南老街省文化体育旅游厅编著：《越南瑶族民间古籍》：民族出版社2011年版，第26页。

5. 泰国难府塔汪帕县南帮村盘有周家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

盘有周家族在泰国已故的祖先有盘法禄、盘法鹤、盘法贵 3 代人，共 60 年，加上《祖图》持有人 50 年，盘有周家族在泰国已居住了 110 年。加上其祖先盘法全在老挝居住了 1 代人，20 年，盘有周家族离开中国已 130 年。

6. 泰国难府塔汪帕县南帮村邓法坛家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

邓法坛家族在泰国已故的祖先有邓陆二郎、邓传一郎、邓向一郎、邓法鱼、邓法寿、邓法坛 6 代人，共 120 年，加上《祖图》持有人 50 年，盘有周家族在泰国已居住了 170 年。邓法坛家族离开中国已 170 年。

7. 泰国难府塔王帕县难彭村盘法鹤家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

盘法鹤家族在泰国已故的祖先有盘法香、盘法禄、盘法鹤 3 代人，共 60 年；加上《祖图》持有人 50 年，盘法鹤家族在泰国已居住了 110 年。加上其祖先盘法全、盘法贵在老挝居住了 2 代人，40 年，盘法鹤家族离开中国已 150 年。

8. 泰国难府难莫村邓法珠家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

邓法珠家族在泰国已故的祖先有邓法定、邓法广、邓法进、邓法坛、邓法有、邓法珠 6 代人，共 120 年；加上《祖图》持有人 50 年，盘法鹤家族在泰国已居住了 170 年。加上其祖先邓胜二郎在越南居住了 1 代人，20 年；邓法清、邓法堂在老挝居住了 2 代人，40 年，邓法珠家族离开中国已 230 年。

9. 泰国难府塔汪爬县黄金周家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

黄金周家族在泰国已故的祖先有黄法印、黄法钱、黄法行、黄法应 4 代人，共 80 年；加上《祖图》持有人 50 年，盘法鹤家族在泰国已居住了 130 年。加上其祖先黄法保在越南居住了 1 代人，20 年；黄法旺、黄法安、黄法德在老挝居住了 3 代人，60 年，黄金周家族离开中国已 210 年。

10. 泰国清莱府清盛县班秀镇帕莱龙村冯财进家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

冯财进家族在泰国已故的祖先有冯盖七郎、冯法鱼、冯寿四郎、冯法德 4 代人，共 80 年；加上《祖图》持有人 50 年，冯法进家族在泰国已居住了 130 年。加上其祖先冯情一郎在老挝居住了 1 代人，20 年；冯财进家族离开中国已 150 年。

11. 泰国清莱府清盛县班秀镇帕莱龙村冯法田家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

冯法田家族在泰国已故的祖先有冯盖七郎、冯陆二郎、冯龙二郎、冯法水、冯法田 5 代人，共 100 年；加上《祖图》持有人 50 年，冯法进家族在泰国已居住了 150 年。加上其祖先冯法朝在老挝居住

了1代人，20年；冯法田家族离开中国已170年。

12. 泰国清莱府清康县冲才镇昆美彭村邓法公家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

邓法公家族在泰国已故的祖先有邓有寿、邓法妇(富)、邓法公3代人，共60年；加上《祖图》持有人50年，邓法公家族在泰国已居住了110年。加上其祖先邓贵一郎、邓聪一郎在老挝居住了2代人，40年；冯法田家族离开中国已150年。

13. 泰国清莱府数隆县冲才镇会唱咯村盘财进清家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

盘财进清家族在泰国已故的祖先有盘法香、盘法财、盘法度3代人，共60年；加上《祖图》持有人50年，盘财进清家族在泰国已居住了110年。其家族离开中国已110年。

14. 泰国清莱府清盛县班秀镇帕莱龙村冯发德家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

冯发德家族在泰国已故的祖先有冯情一郎、冯寿四郎、冯法德3代人，共60年；加上《祖图》持有人50年，冯发德家族在泰国已居住了110年。其家族离开中国已110年。

15. 泰国清莱府清盛县李富银家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

李富银家族在泰国已故的祖先有李法进、李法通、李法聪3代人，共60年；加上《祖图》持有人50年，李富银家族在泰国已居住了110年。加上其祖先李行一郎、李法保、李法陞在老挝居住了3代人，60年；李富银家族离开中国已170年。

16. 泰国清莱府清康县邓法意家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

邓法意家族在泰国已故的祖先虽然有邓财三郎的妻子黄氏一娘、邓胜五郎的妻子李氏一娘，但她们的丈夫去世时都不在泰国，所以只能算《祖图》持有人50年，故邓法意家族在泰国只居住了50年。加上其祖先邓完二郎、邓旗五郎在越南居住了2代人，40年；邓金一郎、邓法完、邓财三郎、邓胜五郎在老挝居住了4代人，80年；邓法意家族离开中国已170年。

17. 泰国清莱府清康县李法连家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

李法连家族在泰国已故的祖先有李法进、李法通2代人，40年；加上《祖图》持有人50年，李法连家族在泰国已居住了90年；加上其祖先李行一郎、李法保、李法陞、李法德在老挝居住了4代人，80年；李法连家族离开中国已170年。

18. 泰国清莱府清康县帕莱龙村冯元珠家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

冯元珠家族在泰国已故的祖先有冯盖七郎、冯陞二郎、冯龙二郎、冯法水4代人，80年；加上《祖图》持有人50年，李法连家族在泰国已居住了130年；加上其祖先冯法朝、冯法官在老挝居住了2代人，40年；冯法珠家族离开中国已170年。

19. 泰国清莱府清盛县帕来龙村赵法官家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

赵法官家族在泰国已故的祖先有赵法朝、赵法官 2 代人，40 年，加上《祖图》持有人 50 年，李法连家族在泰国已居住了 90 年；加上其祖先赵法金、赵法钉、赵法聪在老挝居住了 3 代人，60 年；赵法官家族离开中国已 150 年。

20. 泰国清莱府莱菴县猛声洞赵法广家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

赵法广家族在泰国已故的祖先有赵林五郎、赵法明、赵法宝 3 代人，60 年，加上《祖图》持有人 50 年，赵法广家族在泰国，已居住了 110 年；加上其祖先赵贵三郎在越南居住了 1 代人，20 年；赵陞一郎、赵法坛、赵法拆、赵法安在老挝居住了 4 代人，80 年；赵法广家族离开中国已有 210 年。

21. 泰国南邦府汪内县帕错村邓福进家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

邓福进家族在泰国已故的祖先有邓法香、邓法县 2 代人，40 年，加上《祖图》持有人 50 年，邓福进家族在泰国已居住了 90 年；加上其祖先邓盖一郎、邓良五郎在越南居住了 2 代人，40 年；邓哨六郎、邓进一郎在老挝居住了 2 代人，40 年；邓福进家族离开中国已 170 年。

22. 泰国南邦府敖县三角村盘财寿家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

盘财寿家族在泰国已故的祖先有盘法保 1 代人，20 年，加上《祖图》持有人 50 年，盘财寿家族在泰国已居住了 70 年；加上其祖先盘法林、盘法香、盘法灵、盘法应、盘法案在老挝居住了 5 代人，100 年；盘法广在缅甸居住了 1 代人，20 年；盘财寿家族离开中国已 190 年。

23. 泰国南邦府闹敖县三角村盘贵福家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

盘贵福家族在泰国已故的祖先有盘法林、盘法连 2 代人，40 年，加上《祖图》持有人 50 年，盘贵福家族在泰国已居住了 90 年；加上其祖先盘政一郎在老挝居住了 1 代人，20 年；盘传四郎在缅甸居住了 1 代人，20 年；盘贵福家族离开中国已 130 年。

24. 泰国南邦府敖县帕四角村冯法德家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

冯法德家族在泰国已故的祖先有冯法寿、冯法保、冯法香、冯法祖、冯法财、冯法旺、冯法广 7 代人，140 年；加上《祖图》持有人 50 年，盘贵福家族在泰国已居住了 190 年。冯法德家族离开中国已 190 年。

25. 泰国南邦府敖县坤恒村盘生林家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间：

盘生林家族在泰国已故的祖先有盘元一郎、盘广一郎、盘法安、盘法明、盘法定、盘法金、盘法承、盘法香 8 代人，160 年；加上《祖图》持有人 50 年，盘生林家族在泰国已居住了 210 年。盘生林家族离开中国已有 210 年。

26. 泰国南邦府敖县坤恒村邓法良家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

邓法良家族在泰国已故的祖先有邓法良、邓法度 2 代人, 40 年, 加上《祖图》持有人 50 年, 邓法良家族在泰国已居住了 90 年; 加上其祖先邓金二郎、邓法坛在老挝居住了 2 代人, 40 年; 邓法良家族离开中国已 130 年。

27. 泰国南邦府敖县边境村刘德熊家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

刘德熊家族在泰国已故的祖先有刘法镇、刘法灵、刘法承、刘法林 4 代人, 80 年; 加上《祖图》持有人 50 年, 刘德熊家族在泰国已居住了 130 年; 加上其祖先刘钱三郎、刘念二郎、刘法惠、刘法旺在老挝居住了 4 代人, 80 年; 邓法良家族离开中国已 210 年。

28. 泰国南邦府赵元福家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

赵元福家族在泰国已故的祖先有赵法向 1 代人, 20 年; 加上《祖图》持有人 50 年; 赵元福家族在泰国已居住了 70 年; 加上其祖先赵法盖、赵法腾、赵法官、赵法林居住了 4 代人, 80 年; 赵元福家族离开中国已 150 年。

29. 泰国帕天府猛蚌洞邓有升家族在泰国居住的时间、家族代数及离开中国的时间:

邓有升家族在泰国已故的祖先只有母亲邓氏者(邓法仁妻), 邓有升为《祖图》持有人, 50 年, 邓有升家族在泰国已居住了 50 年; 加上其祖先邓护一郎、邓清二郎、邓法香在越南居住了 3 代人, 60 年; 邓法莲、邓法盖、邓法仁在老挝居住了 3 代人, 60 年; 邓法良家族离开中国已 170 年。

综上所述, 已在泰国不到 1 代人的家族有 2 个、1 代人的有 3 个、2 代人的有 5 个、3 代人的有 7 个、4 代人的有 4 个、5 代人的有 1 个、6 代人的有 4 个、7 代人的有 2 个、8 代人的有 1 个。已在泰国居住 50 年的家族有 2 个、70 年的有 3 个、90 年的有 5 个、110 年的有 7 个、130 年的有 4 个、140 年的有 2 个、150 年的有 1 个、170 年的有 4 个、210 年的有 1 个。已离开中国 110 年的家族有 3 个、130 年的有 3 个、150 年的有 5 个、170 年的有 9 个、190 年的有 2 个、210 年的有 4 个、230 年的有 2 个、250 年的有 1 个。

(三) 泰国瑶族迁徙特点

历史上, 瑶族是一个刀耕火种的山地游耕民族。哪里有山林就往哪里迁徙, 砍荒耕种。“随山散处, 刀耕火种, 采实猎毛, 食尽一山则他徙。”⁽¹⁹⁾“今岁此山, 明年又别岭矣。”⁽²⁰⁾ 迁徙路线较复杂, 没有规律性。有的家族直接从中国到国外, 也有到国外后又迁徙回中国, 再到国外; 或到

(19) 参见(清)谢启昆:《广西通志》卷 278, 光绪十七年桂垣书局刻本。

(20) 参见(清)蒋廷锡等:《古今图书集成》卷 1415《方輿汇编·庆远府风俗考》, 中华书局影印本。

泰国后又迁徙到老挝或越南，然后又回到泰国。如泰国难府塔汪帕县南帮村邓文显家族，从广西道平乐府经广西罗城、泗城府进入云南道建水县、文山县后，又重回建水县，再到云南勐腊，然后又迁徙回建水县，再从建水县进入泰国难府。泰国清莱府清康县邓法意家族，从广西道罗城县迁徙到广西道融县长安镇、广西道泗城府后，又迁徙回罗城县，再经凌云县、云南文山县进入越南归化府水尾州猛坝洞，然后又迁徙回云南道临安府，再迁徙到老挝琅南塔省，又迁徙回云南道临安府，从临安府又迁徙回老挝琅南塔省，再进入越南猛崩能州后，又迁徙回老挝琅南塔省，最后才进入泰国。泰国清莱府清康县帕莱龙村冯元珠家族，从广东乐昌县经广西昭平县、永福县、罗城县、云南文山县、建水县后进入泰国难府、清莱府清康县，然后又迁徙到老挝琅南塔省勐沙县，从老挝勐沙县又迁回泰国清莱府清康县。泰国南邦府汪内县帕错村邓福进家族，从广西罗城县经凌云县进入越南归化府文盘州后，又迁徙回广西凌云县，然后又迁徙到越南归化府文盘州，再到老挝琅勃拉邦，然后迁徙到越南安西府、奠边府，又重回老挝琅南塔省，再迁徙到泰国南邦府后，又迁徙回老挝琅南塔省，最后才迁徙到泰国清迈府、清莱府，又迁徙回清迈府，最后在泰国南邦府网坭（汪内）县定居。其迁徙的目的大多是寻找草木茂盛山地，垦荒耕种，维持生存。所以，哪里草木茂盛，就哪里迁徙，没有规律性。

从迁徙的单位来看，一般是以家庭为单位进行迁徙。刀耕火种的山地游耕农业产量不高，一个山岭能养活的人不多。所以刀耕火种需要较多的土地山林，才能供养较多的人，一个山岭不可能供几个家庭垦荒耕种。所以各个家族，“各自以远近为伍，刀耕火种，食尽一山，则移一山。”⁽²¹⁾ 据泰国差博·卡差·阿南达博士 20 世纪 60 年代末在泰国清迈府的调查，泰国瑶族“迁徙纯粹是为了农业生产的需要”，“到目前为止，他们仍然过着游耕生活……从事这类型的农业要砍伐森林，晒干倒下的树木，把它们烧掉，然后耕种。几年以后，由于耕地地力耗尽，收成不好，他们就放弃这块地另找一块。如果人口密度不大，他们会在 10 年或 15 年以后回来再种这块地。”“他们认为地力下降就去找寻并开垦新土地。”过去一般是 5 年游耕一轮，现在是 3 年一轮。⁽²²⁾ 我们在泰国清莱府、清迈府、帕天府、难府等瑶族村寨调查时，当地瑶族村民也都说，我们瑶人过去砍山烧荒种玉米、旱谷时，一块地只能种几年就要丢荒，不另外找地砍山烧荒耕种，根本活不下去。所以，瑶族过去在一个地方只能住几年或 10 年、8 年，然后就要搬家，另寻地垦荒耕种。

结语

《祖图》是泰国瑶族的传统民间文献，是他们民族文化的源头与民族的根。泰国瑶族村民家中

(21) 参见（明）戴璟：《广东通志初稿》卷 35，嘉靖十四年刻本。

(22) 参见 [泰] 差博·卡差·阿南达：《泰国瑶人——过去、现在和未来》，谢兆崇、罗宗志译，民族出版社 2006 年版，第 11 页、67 页、70 页。

珍藏的一本本《祖图》，记录了一个个瑶族家族数十年或数百年来历史文化，保存了瑶族在迁徙过程中极其重要的文化信息，道出了中华文明的历史基因。每一本《祖图》都记载了泰国瑶族记忆中的离散源头，是其对祖籍国长期积累下来的深厚文化积淀，是他们民族传承的根；每一本《祖图》都用汉字与瑶族俗字一起抄写，充分体现了各民族文化互学、互鉴、融通的过程，承载了中华民族共同体的历史文化记忆，是他们与祖籍国维系关系与认同的文化纽带。正因为这些民间文献的不断传承，使他们在多元文化冲击下仍然能顽强地传承本民族文化，哪怕远离故土、漂泊海外，他们依然可以凭借这些民间文献与文化传统，在新的文化语境中重构民族文化，重塑民族记忆。这些珍贵的文化典籍不仅是他们富有民族特色的文化符号，而且已经成为文化人类学者研究域外民族文化记忆的宝库。

泰国是中南半岛最大经济体和东盟重要成员国，同中国地缘相近、人文相通、血缘相亲、友好交往源远流长。历史上，瑶族从中国向泰国迁徙时，将具有中国文化内涵的《祖图》等民间文献也带到了泰国。《祖图》中一个个串联在一起的地名，构成了中华文化从中国通向泰国的一条条文化交往交流交融的山地文化之路，记录了瑶族文化与中华民族文化向泰国传播的历史，展现了瑶族文化与中华民族文化突出的连续性，向世界弘扬了中国瑶族与泰国瑶族共同创造的优秀传统文化，促进了中华文化与泰国文化的交往交流交融，共同构成了兼容并蓄、璀璨绚丽的中泰文明，促进了中泰民族民间文化交流和心灵相通、文化相通，深化了“中泰一家亲”理念，夯实了中泰命运共同体的社会民意基础，为构建中国与东盟命运共同体打下了文化认同基础。

瑶族是一个跨境而居的国际性民族。瑶族从中国进入泰国道路既是一条山地迁徙之路，也是中泰文化的交往交流交融之路。《祖图》是瑶族从原来熟悉的生态环境与人文环境走入陌生的生态环境与人文环境后，面临新的社会转型时文化自觉的开始，瑶族《祖图》的撰写与传承其实质是在追问：我是谁？我从哪里来？我将到哪里去？研究泰国瑶族《祖图》，探讨瑶族如何从中国进入泰国，走向世界，认识世界，与世界各国民族交往交流交融，不仅可以为我们讲好跨境民族的“中国故事”提供了一份生动的素材，为我们全面、系统地研究世界瑶族历史文化提供新的研究路径，而且对促进中国与泰国在“一带一路”倡议合作中实现“学术合作共赢”具有重要的学术价值与现实意义。

- [作者]：1. 玉时阶，广西民族大学瑶学研究中心教授，地址：南宁市，邮编 530006；
2. 玉璐，南宁师范大学学报编辑部编辑，副研究员，博士，地址：南宁市，邮编 530001。
3. 刘玉兰，泰国清莱皇家大学社会学院，讲师，博士。

[作者联系方式] 玉时阶，广西南宁市西乡塘区大学东路 188 号，广西民族大学瑶学研究中心，邮编 530006，电话 13907714809。

鄧旺二郎趙氏二娘鄧太二郎
 鄭氏三娘鄧金一郎盤氏二
 娘共地祖墳葬在廣西道
 坪樂府龍供縣城管入倒坪
 崗上春江下春江嶺脚坪座
 向吉方地主李通天雷通地
 家清州社王開山頭木鄭官室

图 1: 泰国瑶族《祖图》1

鄧法法趙氏者共地葬在暹羅
 道盤南府管上網怕洞管入念
 半河冲祖墓葬在念極何辺座
 南向北半嶺平下軟地主
 鄧法法弟一同妻盤化者
 盤氏者家先丙寅年二月二十九日
 建生得壽陽六十五年又到乙巳

图 2: 泰国瑶族《祖图》2

五位家先供一處葬坟山葬在盤賴州
 盤磨洞臨安府座向吉利
 盤法聰盤白者供一處葬坟山葬在
 吉處座向吉利
 盤法全坟山葬在盤奄府念角河念
 冲中岑坪座向吉利 妻中鄧氏者
 坟山葬在盤府管上盤拉洞管入汾河
 头冲令头坪座向吉利
 盤法祿家先弟一妻中李氏者二位供一處
 葬坟山葬在盤南府管上盤蚌洞管入念
 央河头冲令头坪座東向西昌菜地主
 盤法祿的弟二妻中李氏者坟山葬在
 盤南府管上盤蚌洞管入念療河头冲
 半令坪座東向西盤南卜軟地主
 盤法鶴坟山葬在暹羅道盤南府管上
 網怕洞管入會蒙河头冲令脚坪座北

图 3: 泰国瑶族《祖图》3

《祖图》：泰国北部瑶族（优勉）的迁徙与定居路线⁽¹⁾

泰国 清莱皇家大学社会学院
刘玉兰
宋巴

摘要

本文以居住在泰国清莱府、帕遥府、南邦府和楠府的盘氏家族与邓氏家族的《祖图》为研究对象，旨在分析泰北瑶族（优勉）的迁徙路线和聚居地。《祖图》既标注了泰北瑶族迁徙路线上的地点名称，又证实了中国、越南、老挝和泰国瑶族之间的祖先联系，以及跨国界的血缘关系和语言。在现代社会背景下，这种联系对该地区人民的友谊和共同繁荣或许意义不大。然而，在后现代社会和数字技术转型时代，这种联系不仅与该地区各国政府的政治经济合作政策相契合，更是该地区人民经济社会可持续发展的文化资本，对定居在泰国的瑶族与中国的关系尤为重要，能为该地区人民带来持续的经济和社会发展。

关键词：瑶族；祖图；迁徙与定居；泰北

Zutu : Migration and Settlement Routes of the Yao (Iu-Mien) in Northern Thailand

Thanyalak Saeliao, Ph.D. and Sombat Boonkhamyueng, Ph.D.
Faculty of Social Sciences, ChiangRai Rajabhat University

Abstract

This article aims to analyze the migration and settlement routes of the Yao (Mien) in Northern Thailand. It conducts research and analysis based on the purposive sampling, interviewing key informants, and four volumes of manuscripts of grave records or “zutu” (祖图, zutu) of two families namely the Deng and Pan families, who settled in ChiangRai, Phayao, Nan, and Lampang provinces. These grave records not only indicate the ritual names of ancestors and the places name or toponym (地名, *diming*) of graves, but also confirm the migration routes and connections between the

(1) 本文是合作研究项目的一部分，项目由中国广西民族大学和泰国清莱皇家大学合作研究中国和东南亚大陆瑶族的历史、社会和文化。子项目“祖图：泰国北部瑶族的迁徙和定居”，并将在于2024年10月10日至16日在日本东京神奈川大学举行的瑶族文化国际研讨会上发表。在此，特别感谢中国广西民族大学国社会科学与民族学玉时阶教授、谭静博士，广西民族大学文学院盘美花教授和北京中央民族大学乔翔博士对撰写本文的帮助和支持。

homeland and new settlement, as well as the cross-border kinship and language relationships among the Yao people. In addition, these connections and relationships are also of the cultural capital, which can be used as a “tool” for socio-economic development and shared the common prosperity of the people of mainland Southeast Asia.

Keywords: Yao (Iu-Mien) grave records, migration and settlement routes, Northern Thailand

“จู่ถู่” (เอกสารบันทึกหลุมฝังศพ) : เส้นทางอพยพและตั้งถิ่นฐานของ ชนชาติเย้า(อ้าวเมี่ยน)ในภาคเหนือของประเทศไทย

บทคัดย่อ

บทความนี้มีจุดมุ่งหมายเพื่อวิเคราะห์เส้นทางอพยพและตั้งถิ่นฐานของชาวเย้า (เมี่ยน) ในภาคเหนือตอนบนของประเทศไทย ด้วยการวิจัยภาคสนามและสัมภาษณ์อย่างแบบเฉพาะเจาะจงในการสัมภาษณ์ผู้ให้ข้อมูลหลักและเอกสารต้นฉบับตัวเขียนบันทึกหลุมฝังศพหรือ “จู่ถู่” (祖图, zutu) จำนวน 4 เล่มของ 2 ตระกูล คือ ตระกูลตั้งและตระกูลผาน ซึ่งตั้งถิ่นฐานอยู่ในจังหวัดเชียงราย พะเยา น่าน และลำปาง เอกสารบันทึกหลุมฝังศพ ไม่เพียงระบุชื่อตามพิธีกรรมของบรรพบุรุษและสถานที่หรือภูมินาม (地名, diming) ของหลุมฝังศพเท่านั้น แต่ยังสะท้อนถึงเส้นทางอพยพและความเชื่อมโยงระหว่างมาตุภูมิกับถิ่นฐานที่อยู่แห่งใหม่ ตลอดจนความสัมพันธ์แบบเครือญาติชาติภาษาข้ามพรมแดนในหมู่ชนชาติพันธุ์เย้าด้วย ยิ่งกว่านั้น ความเชื่อมโยงและความสัมพันธ์นี้ยังหมายถึง ทูตทางวัฒนธรรมที่นำมาเป็น “เครื่องมือ” สำหรับการพัฒนาเศรษฐกิจสังคมและความเจริญรุ่งเรืองร่วมกันของประชาชนในประชาชาติแห่งผืนแผ่นดินใหญ่เอเชียตะวันออกเฉียงใต้ได้ด้วย

คำสำคัญ: เย้า (อ้าวเมี่ยน) , บันทึกหลุมฝังศพ, เส้นทางอพยพและตั้งถิ่นฐาน, ภาคเหนือของประเทศไทย

引言

泰国北部山地民族的研究调查开始于上世纪 50 年代末⁽²⁾。公共福利部内政部与亚洲及远东经济委员会社会福利部合作, 于 1961 年 10 月至 1962 年 3 月对泰国北部山地民族村落进行了社会经济调查, 涵盖清迈、达府、清莱府的 18 个村落, 包括 4 个苗族村落、4 个黑拉祜族村落、2 个红拉祜族村落、4 个瑶族村落和 4 个傈僳族村落。1964 年, 泰国政府建立山地民族研究中心, 对山地民族展开多方面、多维度的考察和研究。公共福利部内政部民族研究中心 (TRC) 旨在研究经济、社会、文

(2) Micah F. Morton, Ian G. Baird. (2019). “From Hill Tribes to Indigenous Peoples: the Localisation of a Global Movement in Thailand”. *Journal of Southeast Asian Studies*. (50 (1). p. 7-31 February.

Bhruksasri, Wanat. (1989). “Government Policy: Highland Ethnic Minorities”. In McKinnon, John and Vienne, Bernard. (Eds.) *Hill Tribes Today: Problems in Change*. Bangkok: White Lotus.

化和生产、生活状况，其主要目的是掌握实际情况并确立发展山地民族经济社会的方针政策，以保障国家安全并停止种植成瘾植物⁽³⁾。关于山地民族村落迁徙和定居历史的研究仍然是一个被忽视的问题，并没有受到太多的研究关注。大多数关于山地部落族群的研究往往仅注明各山地部落群体的原居地。例如，拉祜族、阿卡族、傈僳族的原居地皆在云南省或中国西南地区，他们通过缅甸掸邦移民至泰缅边境地区定居。而苗族和瑶族最初居住在中国南部的广东、广西、贵州、云南等地，经越南和老挝的西北部地区移民至泰国老挝边境，后迁移至楠府、帕遥府和清莱府定居，并进一步扩展至泰国的清迈、甘烹碧等地区定居⁽⁴⁾。然而，这些研究尚未对山地部落族群的迁徙和定居历史，尤其是在家族层面展开深入调查。20世纪80年代后期，政府出台创建国民身份证的政策，使得该政策的实施困难重重。

在用于教育工作、教科书文件以及学术文章的资料中，西方探险旅行记录较多，其中大多数会明确指定时间、村庄或地方的名称以及山地部落的祖国或原居地名称。然而，整个地区的历史并未被完整地连接起来。因此，泰国北部山地部落迁移和定居的整体历史仍不清晰。例如，在1900年首次出版的詹姆斯·麦卡锡（James McCarthy）的考察探险记录《暹罗的测量与探索》（*Surveying and Exploring in Siam*）中，麦卡锡指出，拉祜族原住在中国西南地区，从1880年开始，通过缅甸掸邦移民过来，最终定居在芳地区的 DoiPhaHomPok 山。另外，苗族和瑶族是中国南方的原始民族，1880年起，通过越南北部地区移民过来，越南的华潘河镇（华潘省）四双楚泰、琅勃拉邦等地来到湄公河西岸、清莱和楠府等地区定居⁽⁵⁾。这仅表明这些不同的山地部落群体在暹罗生活了不少于140年。

詹姆斯·麦卡锡（James McCarthy）又名 Phra Wiphabhuwaton，是一位爱尔兰探险家和地图绘制者。他在1881年至1893年间测量并绘制了暹罗王国地图，并于1885年至1901年担任暹罗王国第一位制图师。其著作涵盖了泰北地区民族概况，包括兰纳各民族以及湄公河区域东岸各个城市的概况，如老挝的琅南塔、普卡、乌多姆赛、琅勃拉邦，越南的华潘河镇（华潘省）四双楚泰，还有缅甸掸

(3) วันช พุกษะศรี. (2538). ดงภูผา บันทึกการสำรวจหมู่บ้านชาวเขา จ.เชียงใหม่-เชียงใหม่-พะเยา ปี พ.ศ. 2504-2505.

เชียงใหม่: สถาบันวิจัยชาวเขา. (Wanat Phruksasri (1995), 《山地部落村庄调查记录》，清迈-清莱-帕天府，1961-1962年，清迈：山地部落研究所）

พรรณนิภา วุฒิการณ์, (2517). “การศึกษางานสงเคราะห์ชาวเขาของกรมประชาสงเคราะห์ ระหว่างปี พ.ศ. 2509-2516”. วิทยานิพนธ์รัฐศาสตรมหาบัณฑิต. จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. (Phannipa Wutthikarn, 1974年《1966年至1973年公共福利部山区部落福利工作的研究》，朱拉隆功大学硕士论文)

(4) Hanks, Jane Richardson., Hanks, Lucien Mason. (2001). *Tribes of the North Thailand Frontier*. New Haven: Yale University Southeast Asia Studies.

Hanks, Lucien M., Hanks, Jane R., Sharp, Lauriston., Sharp, Ruth B. (1964). *A Report on Tribal Peoples in Chiang-rai Province North of the Maekok River*. Data Paper Number 1, Ithaca: Cornell University

(5) McCarthy, James. (1994). *Surveying and Exploring in Siam*. Bangkok: White Lotus.

邦的各个城市等。

从泰国社会科学家的视角来看,可以说, Boonchuay Srisawat 于 1950 年出版的作品《清莱的三十个民族》是一部最早描写泰国山地部落族群的作品,引起了人们对高山民族的普遍关注。Bunchuay 提到了瑶族(优勉人),写道:“……瑶族原本居住在中国广东、广西、西藏、云南等地区,后来因遭受扰乱和奴役而迁徙、逃亡至缅甸边境、云南南部、印度支那和泰国地区……来到泰国后居住在湄占县的山区以及湄占河边,大约有 5 至 6 个村庄,大概在 1948 至 1949 年从清孔的大山以及云南移民过来。自 1950 年 3 月至 4 月,数百个瑶族家庭从缅甸和云南步行进入夜丰颂府,来兴府,碧差汶府等泰国境内……”⁽⁶⁾。

同时,1949 年中国共产党建立中华人民共和国后,来自中国南部和西南地区的山地部落的迁徙开始受到泰国政府及盟国在学术、政治以及经济发展等多方面的重视。此外,中华民国政府军及其家属也从云南省撤退,途经缅甸掸邦,沿泰缅边境建立军事基地,分布于清迈和清莱两个地区。泰国政府于 1951 年设立“边境巡逻警察部队”,负责保护边境并维护边境和平,同时成立“交通援助委员会”以帮助照顾偏远地区的人民和山地部落族群。在 1959 年,政府将“交通援助委员会”改为“山地部落福利委员会”,后来又设立了与山地部落直接履行职责的政府机构,即山地部落发展和福利中心,负责经济社会发展,以及山地部落研究中心负责学术工作。

因此,本文旨在对山地部落族群的迁徙和定居路线进行调查和分析,以定居在清迈、清莱、帕遥、楠府和南邦府的瑶族(Mien 或 Iu Mien)族群为案例进行研究。通过对邓氏、盘氏两个姓氏家族的 20 本祖图(墓碑志)和家先单(祖谱)的原始文献进行研究分析,并查阅编年史、西方探险家的探险记录、研究报告以及相关学术文章,以拓展瑶族知识的疆界,使其覆盖更多领域。主要内容分为两个要点:一是原始文献祖图的重要性及前人研究概述;二是瑶族祖图和家先单的特点;三是原始祖图与泰国北部地区瑶族的迁徙和定居。最后是总结与评论。

一、原始祖图的重要性及前人研究概述

瑶族原有的祖图(墓碑志)和家先单(家谱)属于氏族内部的重要文献,对宗族家族成员而言意义非凡,他们将之视为传家宝珍藏。然而,在收集和研​​究此类文献的过程中存在诸多障碍和问题。以中国瑶族为例,1966 年至 1976 年的文化大革命致使许多原始书面文献遭到破坏,尤其祖图类文献,如今在中国极少见到。而对于中国境外的瑶族来说,在祖先一代又一代翻越千山万水的迁徙过程中,许多原始的文字记载也丢失了。不过,庆幸的是,祖图、家先单这类文献在中国境外各国优勉支系的

(6) บุญช่วย ศรีสวัสดิ์. (2547). 30 ชาติในเชียงใหม่. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์สยาม, หน้า 297-298. (Bunchuay Srisawat, 2004, 《清莱的 30 个民族》, 曼谷: 暹罗出版, 第 297-298 页)

瑶族家庭中得到较好保存，传承至今，成为了重要的文化遗产。

瑶族 (Iu-Mien; Mien) 是一个跨国民族，拥有数千年的社会文化历史。据 2020 年第七次全国人口普查数据统计，中国有约 330 万瑶族人口定居在广西、湖南、广东、云南、贵州、浙江、海南、福建等省区。据统计，2019 年，超过 110 万瑶族在中国境外定居，分布在越南、老挝、泰国、美国、法国、加拿大等国家。其中，越南有超过 89 万瑶族，泰国居住着超过 5 万瑶族，美国有超过 5 万瑶族，老挝约有 2.5 万瑶族，法国、加拿大和澳大利亚约有 2500 名瑶族⁽⁷⁾。

综上所述，瑶族原居地在中国南方，其后历经迁徙，翻越高山大河，从华南一路辗转至东南亚，甚至漂洋过海抵达欧洲和美国。瑶族的迁徙路线不仅仅是一条为寻找宁静居所的旅程，更是一条文化融合之路。瑶族文化与汉族文化、东南亚文化以及西方文化相互交融。当瑶族迁徙定居时，他们所处的生态和社会文化景观或是与原来不同，或是与不同的社会和文化群体共同生活。瑶族在这种情况下相互扶持、共同奋斗，为迈向新的美好生活而努力，在变革中适应新的社会和文化模式。瑶族人不断关注并思考着“我是谁？我从哪里来？我该去哪里？”等问题。因此，原始文献、墓碑志、祖图和家谱等资料对于瑶族来说，无论是在宗族层面还是在族群层面，都具有至关重要的意义。

此外，原始书面文献中的祖图和家先单，也是研究瑶族文化历史的重要文献，能够证明瑶族的迁徙以及他们搬迁至山区居住的历程。他们穿越平原和大河，从华南一路迁徙至东南亚，历经数百年不断的迁徙与居住变迁，以此纪念他们的祖先和原来的居住之地。瑶族移民按照仪式用汉字记录姓名、宗族等信息，将每代祖先的墓地名称记载在书本上，即祖图和家先单。同时，在传统和信仰的重要日子，如祖先崇拜节日、鼓舞士气的仪式等，瑶族人民也会带上这样的原始文字文献进行吟诵。这表明每个姓氏的子孙至今仍对已故的祖先怀有尊敬、崇拜和感恩之情，不忘祭奠。因此，这两种手稿文献是表达对祖先感恩之情的重要工具，这份感激之情已成为瑶族独特的特色，也是他们“民族认同” (Ethnic Identity) 的一种索引，尝试在公众中建立实证意识，期望得到瑶族以及各族人民的相互接受和尊重。同时，这两种原始手稿文献也是对历史研究感兴趣的研究者的重要工具或“研究单位”，有助于对瑶族的迁徙路线以及历史文化进行深入研究。

关于祖图和家先单的研究成果若要顺利开展，就中国而言，由于 1966 年至 1976 年的文化大革命，此类记录几乎都被销毁，瑶族中很少有人能将此类记录妥善隐藏并仔细保存。另一方面，从中国大陆移居国外定居的瑶族，其两种原始文字文献保存得相对较好，尤其是定居在越南、老挝、泰国和美国的瑶族。研究瑶族的学术界认为，两种原始手稿文献不只是记录氏族名称和礼名的文献，而是按照瑶族血缘制度中的辈分顺序书写的。有些版本还记录了死亡日期和地点名称。

在泰国，原始的祖图和家先单文献被认为是“写有他们名字的人民记录的唯一文件”。宗族家庭

(7) 玉时阶、玉璐：《瑶族（祖图）见证中华民族文化交流互鉴》中国社会科学网 - 中国社会科学报，2024。

遵循中国亲属制度的原则，以及根据各氏族祖先的仪式命名的法名。有些卷宗还可能记录出生、死亡时间、所属辖区和安葬地点。因此，这两份原始书面文献对氏族家族来说意义重大，对瑶族社会文化史的研究也非常重要，它们被认为是人民历史的经验文献或民间历史。

早期人们对瑶族《祖图》及《家先单》的考察，大部分研究成果出自日本学者之手。20世纪70年代初，日本学术界就对东南亚少数民族展开了深入调查研究。1957至1958年，岩田敬二教授（Professor Keiji Iwata, 1922 - 2013）作为日本东南亚文化研究委员会委员⁽⁸⁾，在一个研究项目中对“老挝村庄的社会文化状况”进行了研究。他通过在老挝万象省万荣市的 BanPhaTang 进行的实地调研，撰写了一部重要的学术著作《老挝北部的少数民族：尤其是瑶族》。该著作详细介绍了老挝万荣瑶族的经济形势、社会与文化状况。他还指出，瑶族在该地区生活已有50多年（或自1900年以来），村里设有中文学校，汉语课程由中国老师讲授；瑶族在日常生活和仪式中的重要事项也用汉语书写。

后来，在1969至1972年间，白鸟教授（Shiratori Yoshiro）和索非亚大学的教员对清莱府清康县和南邦府彝县（BanRomYuen, ChiangKham and BanKhunHaeng, Ngao）地区的瑶族（Mien; Iu Mien）村庄进行了探索。白鸟教授撰写了一系列有关瑶族的重要研究报告和学术文章，例如1975年的《瑶人文书》（Yao Documents, 1975）、1978年的《东南亚山地部落民族志》（Ethnography of the Hill Tribes of Southeast Asia, 1978）⁽⁹⁾等。日本学者还查阅了众多重要文献，如家谱记录、道德教科书、授戒仪式文本、金银文献、天海游记、女子歌集、诸神的传说以及丧葬仪式等教材，共计约11册。此外，还有瑶族民间文学作品集。可以说，日本学者的研究为瑶族原始文献、墓碑志、家谱、祖图等的研究奠定了坚实基础。随后，竹村卓二教授（Takuji Takemura）又撰写了两篇关于瑶族仪式的研究报告：《泰国北部瑶族的宗族组织和功德制度》以及《泰国北部瑶族宗教生活的民族志》（Clan Organization and Merit-Making Systems of the Yao, Northern Thailand And An Ethnography of the Yao Religious Life in Northern Thailand）⁽¹⁰⁾。在这项工作中，竹村教授提出了瑶族从中国南部到泰国北部的迁徙路线

(8) Keiji, Iwata. (1959). "Ethnic Groups of the Nam Song and Nam Lik- Their Geographical Distribution and Some Aspect of Social Change". *Japanese Journal of Ethnology*. Vol. 23. Nos. 1-2, p. 63-79.

Keiji, Iwata. (1960). *Minority Groups in Northern Laos: Especially the Yao*. Lao Project, Paper No. 15. University of Massachusetts, Department of Anthropology.

(9) Shiratori, Yoshiro. 1975. *Yojin Monjo* [Yao Documents]. Tokyo: Kodansha.

Shiratori, Yoshiro. 1978. *Tonan Ajia Sanchi Minzokushi* [Ethnography of the Hill Tribes of Southeast Asia]. Tokyo: Kodansha.

(10) Takemura, Takuji (1975). *Clan Organization and Merit-Making Systems of the Yao, Northern Thailand*. Report submitted to Thailand NRC, Bangkok.

Takemura, Takuji (1978). *An Ethnography of the Yao Religious Life in Northern Thailand*. Osaka.

观点。不过，地方命名可能存在差异，这是依据每个地区瑶族的发音而定的。

对于中国学者而言，结合国内经济、政治条件，必须加快国家的复兴与发展。此外，在冷战时期，世界社会对中国以外的少数民族的研究分为两个极端，似乎存在障碍与问题，难以进行。直至 20 世纪 80 年代末，中国学者才有机会出国旅行并开展研究，尤其是对东南亚各民族以及少数民族群体的调查研究。例如，泰国内政部公益厅山地部落研究所于 1986 年 5 月 31 日特邀姚舜安教授（姚舜安，Yao Shunan, 1934 - 1995）来作学术报告。在清迈大学山地部落研究院与广西民族学院学术交流研讨会上，姚舜安教授发表了《瑶族迁徙之路的调查线》（Migration Routes of the Yao Nationality）⁽¹¹⁾。姚舜安教授通过分析中国南方瑶族的原始文献——祖图和家先单，提出在两种原始文献中都有祖先的地名和坟墓名称出现，可以通过分析和联系来推测瑶族的迁徙路线和居住地的变迁。

邓氏家族的迁徙路线和居住地情况亦是如此。在墓志铭中有记载：“……元朝大德九年（公元 1309 年），当时居住在该地区被称为‘千家洞’的瑶族中，有一人叫邓大华，迁居江华县；还有一人叫邓公明，迁居广西富宣。因畏惧皇帝的士兵追杀，他们不得不逃离……”。姚舜安教授分析指出，当邓氏家族祖先面临驻扎在该地区的元朝军队的压力时，邓氏家族先祖邓大华携全家迁离千家洞，前往其他地区居住。姚舜安教授绘制了一条线路，明确了邓氏家族的迁徙方向，其疏散路线为“……湖南千家洞—广东乐昌—广西平乐府贺县、富川—荔浦—昭平—柳州—三江和融县—罗城—天峨—凌云—田林—云南文山—河口—越南—老挝—泰国……”⁽¹²⁾。这意味着，邓氏家族的先民，名为“邓大华”，最初定居在千家洞地区，现湖南省永州府江永镇千家洞瑶族自治县），时间大约是元朝大德九年（公元 1309 年）。然而时间问题可能存在差异，因为大德时期是元成宗皇帝在位时期，即 1294 年至 1307 年铁木尔汗在位期间，如果是大德九年，应该是公元 1303 年，需要从

(11) เหยาชุ่นอัน. (1986). “เส้นทางอพยพของชนชาติเย้า”. *ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขา*. ปีที่ 9 ฉบับที่ 4 ตุลาคม-ธันวาคม 2528. หน้า 29-38.---(รองศาสตราจารย์ เหยาชุ่นอัน ได้บรรยายพิเศษในวันที่ 31 พฤษภาคม ค.ศ. 1986 แต่ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขาจัดพิมพ์ในปี ค.ศ. 1985 (หรือ พ.ศ. 2528) (姚舜安. (1986). 《瑶族迁徙之路的调查》来自山地部落研究所的期刊，1985年10-12月第9年第4期，29-38页。--- (姚舜安教授于1986年5月31日作专题讲座，但山地部落研究所期刊发表于1985年)

姚舜安. 《瑶族迁徙之路的调查》. 民族研究, 1988 (02): 76-82. (Yao Shunan. “Migration Routes of the Yao Nationality”. *Journal of Nationalities Studies*. 1988. (No. 2): 76-82 (中文版)

(12) เหยาชุ่นอัน. (1986). “เส้นทางอพยพของชนชาติเย้า”. *ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขา*. ปีที่ 9 ฉบับที่ 4 ตุลาคม-ธันวาคม 2528. หน้า 29-38.---(รองศาสตราจารย์ เหยาชุ่นอัน ได้บรรยายพิเศษในวันที่ 31 พฤษภาคม ค.ศ. 1986 แต่ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขาจัดพิมพ์ในปี ค.ศ. 1985 (หรือ พ.ศ. 2528) (姚舜安. (1986). 《瑶族迁徙之路的调查》来自山地部落研究所的期刊，1985年10-12月第9年第4期，29-38页。--- (姚舜安教授于1986年5月31日作专题讲座，但山地部落研究所期刊发表于1985年)

姚舜安. 《瑶族迁徙之路的调查》. 民族研究, 1988 (02): 76-82. (Yao Shunan. “Migration Routes of the Yao Nationality”. *Journal of Nationalities Studies*. 1988. (No. 2): 76-82

各个方面进行重新研究。

1989年，泰国朱拉隆功大学与中国广西民族学院（现广西民族大学）开展合作项目。泰方邀请中国学者前往清莱、清迈、帕遥、楠府、南邦等地区对瑶族进行调查研究。陈永昌教授担任考察组组长，考察组成员包括张有隽教授、李增贵教授和玉时阶教授等人。该研究小组撰写了重要的调查报告《泰国瑶族考察记录》，共14章，重点内容涵盖经济、社会、文化、健康、学习史、婚礼、葬礼、教义、信仰、文学和艺术概况等方面⁽¹³⁾。

此外，来自广西民族学院的研究团队收藏了17卷以上瑶族的重要手稿。尤其是玉时阶教授，他致力于拓展中国境外瑶族的知识领域，在中国境内外收集了大量原始文献、墓葬记录和家谱记录。他历经三十多年的实地调查，收集了79多份文献，其中包括越南、老挝、美国、泰国等的文献。

与此同时，中国的其他学者也撰写了许多关于瑶族迁徙的著作，涉及国内瑶族文献以及迁徙方向、路线、原因、过程和国外瑶族的存在等内容。包括瑶族翻山越岭的分布与迁徙、墓碑记录及其学术价值、瑶族从边境进入东南亚的迁徙手稿文件（如越南、老挝地区）、明清时期瑶族进入越南的时间及分布等。

对于研究瑶族祖图和家先单的文献，大多数采用学术著作的搜索方法或使用二手信息，而忽视了直接搜寻瑶族文字的原始文献并进行综合解释分析。

本文作者认识到这两种原始书面文献至关重要，利用自身的便利条件，对泰国清莱、帕遥、楠府、南邦、清迈、甘烹碧等各府瑶人社区，老挝以及美国加利福尼亚州、俄勒冈州的瑶族社区进行了实地考察，采集到60份祖图和家先单。限于篇幅，本文选取了属于邓氏（SaeTen）和盘氏（SaePhan 或 SaePan）两个姓氏族群体的4份祖图进行分析和解释，以了解泰国瑶族的迁徙和定居历史。

二、瑶族祖图和家先单的特征

瑶族的原始文献包括墓碑记录，亦称“祖图”（瑶族称为“tsou³¹tou³¹”）以及家谱记录，亦称“家先单”（瑶族称为“tca³¹fin³¹ta:n³³”），它们是瑶族家族的原始书面文献。它们以繁体汉字书写，手写于桑纸或竹面上，用于祭祀祖先的诵经仪式，其中祖图用于坟墓（安葬）的诵经仪式，家先单用于家庭的诵经仪式。过去，桑皮纸是稀有物品，这两种记录文献仅由家族族长或长子保存。而如今，几乎每家每户都有记录。此类文献经常被复制，以供家庭特定仪式使用。

本文作者共收集到60余卷祖图和家先单的原始文献。泰北瑶族有些家族将各卷记录编成单册，大多分为两卷；也有一些家族没保存祖图，但保留了记载家谱的文献，即“家先单”。还有一个非常重要的特点，即使用汉语繁体字记载，以桑纸的形式书写，并且按照瑶语发音记录，既有汉语意义，

(13) 泰国瑶族考察，广西民族学院赴泰国瑶族考察组编者，广西人民出版社，1989年。

也有瑶语意义。

从瑶族的宇宙观进行分析，祖图和家先单显示出瑶族拥有共同的宇宙观念，即将世界与社会划分为两个不同的世界：阳界和阴界。其中，阳界指的是能够被人类所经验到的现实世界；而阴界则是人类的精神世界，或者说是超出肉眼可见范围的世界，尽管肉眼无法看见，但可以通过特定的方式去感受。所以，阳界的事物与阴界的事物同时存在，不受时间和地点的限制，例如所谓的“魂”

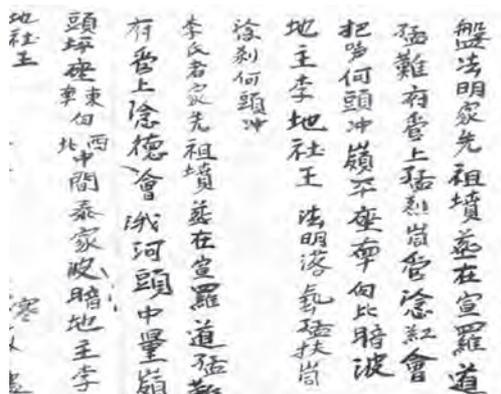
“神”“鬼”等，从古至今、从国内到国外，都与阳界的万物共同存在。阴界的一切虽然无法被看见，但是可以通过特殊的仪式被感受到，或者被阴界选中的人和组织所觉察到，并且每个人的行为都应当与阴阳两个世界保持和谐一致。

另一方面，可以说每个人的行为，包括身体、语言、心意所产生的行动或行为，都与阳界和阴界的万物不可避免地存在着相互作用。阴界的一切事物，能够跟随、感知阳界每个人的一举一动。人类的一举一动，也无法逃脱阴界万物的监视。如果人类在阳界的行为与阴界万物产生负面相互作用，结果便是惩罚。有可能对肇事者直接惩罚，也可能对其亲密子孙惩罚，还可能导致财产损失、日常生活困难或谋生商业运作不成功。

如果人们意识到自己受到了阴界的惩罚，就必须执行仪式。以“阴界语言”作为沟通两个世界的“工具”，向阴界请求宽恕。阴界语言是记载在祖图和家先单中的语言。因此，瑶族会举行祭祀活动，祈求阴界的宽恕，或者请阴界的每一代祖宗来保护、祝福自己和家庭的直系亲属永远生活顺利。

根据原始文献祖图和家先单祈请祖先时，祭祀者或“师公”不仅依据祖图和家先单上的名字祈求召唤祖先，还会邀请世代宗族参加这种仪式，同时也会注明墓地的名称或瑶族对其名称或称呼，以及每个祖先在阴界的“新家”位于哪个城市，隶属谁的管辖。

虽然每份文件都未注明祖先的出生或死亡日期，但是明确记载了宗族各代祖先的埋葬地点，这使得子孙们能够知晓他们的祖先曾经定居的地方。而且，当把祖先的墓地串联起来时，子孙后代便可以了解祖先的迁徙路线。有些家族还会在祖先的坟墓周围进行划线标注，例如楠府的邓氏家族的祖先记载如下图一所示。

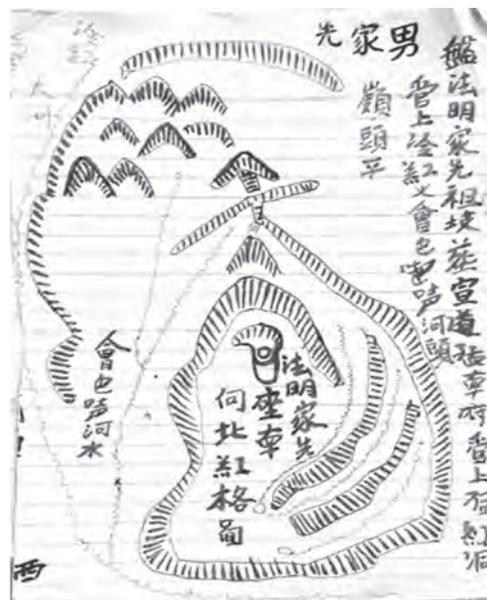


“盤法明家先祖墳葬在宣羅道猛難府管上猛烈
峒管滄紅會把声何(河)頭冲嶺平座南向北暗波地
主李地社王法明落氨猛扶峒滄利何(河)頭冲
李氏者家先祖墳葬在宣羅道猛難府管上滄德會峨
河頭中量嶺頭坪座东南向西北中間泰家暗波地主
李地社王”

这家的祖图存在特殊情况，其祖先中也有姓盘的，另外还记载并绘制了祖先墓葬区域环境地形图，这种祖图是极为罕见的。在楠府，这些内容都是在原始墓葬文字中进行绘制和书写的。男祖先的祖图如下图（右图）所示。



女祖先



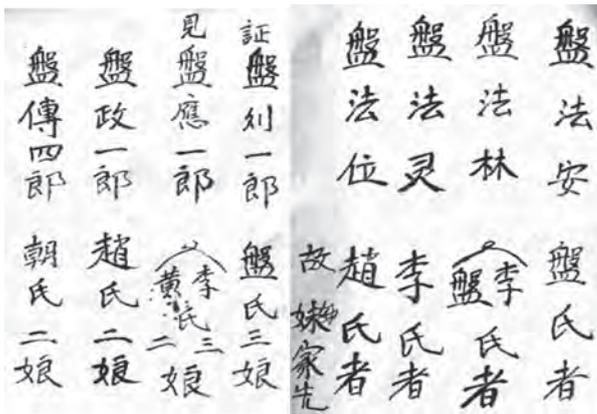
男祖先

在这份记录邓氏家族的祖图中，关于男祖先（右图）的主要内容为：邓氏家族的祖先名为盘法明，祖坟墓在暹罗道（泰国旧名）猛楠府（即现今楠府）管辖下的猛烈峒、所管的滄紅义、會把声河頭冲，嶺头坪，座南向北，此方向用于仪式中的叫魂及召唤祖先。暗波地主李地社王是神或是保护地方的土地公。

关于地区名称“Meng Lae”，是指 1907 年建立的城市，与 Mueang Pon、Mueang Ngop、Mueang Pue 等城市合并而建立，后来于 1961 年解散为 Mueang 的 Thung Chang 区，如今是楠府的一个县城。另外，“Nian hong yi hui”（滄红义会）和“Hui Pa Shen”（会巴声），也在今楠府区域内。

女祖先（左图）的内容如下：邓氏家族的祖先名叫李氏者，埋葬在暹罗道（泰国旧名）猛楠府（即现今楠府）管辖下的滄德、會峨河（河名）附近的頭中量嶺頭坪（地名），座东南向西北中間，此方向用于仪式中的叫魂及召唤祖先。泰家暗波地主李地社王是保护地方的土地公。总的来说，记录祖图时应当写上祖先法名、详细的位置，如省、府、县、镇以及周边环境，包括山名、河名和方向，另外还需记录神或保护地方的土地公等。

家先单则记录了家族中世代男性之首的祖先的名字，即排列每一代祖先的名字，用于家庭层面的仪式，例如叫魂仪式或供奉祖先等家庭仪式。以下是盘氏家族的祖先记载的家先单，如图三所示。



“..... 盘法安 盘氏者
 盘法林 李氏者 盘氏者
 盘法灵 李氏者
 盘发位 赵氏者 故妹家先
 証 盘利一郎 盘氏三娘
 见 盘应一郎 李氏三娘 黄氏二娘
 盘政一郎 赵氏二娘
 盘传四郎 朝氏二娘”

从上图来看，这是盘氏的家谱，从右到左读。

- 第一行，祖先“盘法安”，妻子名叫“盘氏者”；
- 第二行，祖先“盘法林”，有两个妻子，一个叫“李氏者”，一个叫“盘氏者”；
- 第三行，祖先“盘法灵”，妻子叫“李氏者”；
- 第四行，祖先“潘发位”，妻子叫“赵氏者”；
- 第五行，祖先“盘利一郎”，妻子叫“盘氏三娘”；
- 第六行，祖先“盘应一郎”，两个妻子，一个叫“李氏三娘”，一个叫“黄氏二娘”；
- 第七行，祖先“盘政一郎”，妻子叫“赵氏二娘”；
- 第八行，祖先“盘传四郎”，妻子叫“朝氏二娘”。

原始的家先单文献记录，并非仅仅是仪式名称的记载，还记录了阴界的名字以及祖先的死亡顺序。而且，每个名字的第二个字也指向并反映了家庭层面发生的一些重要事件，例如不同级别的男性任命，并为每个级别的任命提供一个礼仪名称。如“挂三台灯”等同于一级挂灯仪式，此类仪式会被记录下来。男性尊称“法名”，女性尊称“氏者”，还有“挂七星灯”或度戒、斗赛、做堂等等级。在较高级别中，男性的名字会记为“郎”，妻子的名字记为“娘”。因此，挂灯或度戒不仅仅是一种继承男性血统的仪式，通过崇拜众神作为见证人祭祀阴界的祖先通过表达感激之情来增加自己的功德。包括祈求祖先保佑自己一生顺利和仅工作职责但把阳界的名字加上阴界的名字。重要的是瑶族男性为家族后裔，必须举行祭祀仪式。并且被认为是已经有“老师”或“师父”的人了。如果通过了第一级仪式，师公或仪式执行者必须取法名给该人或仪式名称仪式举行后写在笔记本或制出生证明（年生板），以及死后这些名字也必须记录在墓志和家谱中。

综上所述，墓志记载(祖图)和家先单记载是瑶族非常重要的手稿文献。因为它是一份指出瑶族宇宙观及其与阳界或人界联系的文献。在思想和实践上都与阴世界或精神世界相关。作为子孙，我们必须表达我们的感激之情。瑶族人相信，永远铭记祖先的功德两份文献中所记载的举行仪式、诵

经祈求祖先，不仅仅是祈求子孙宽恕的一种方式。侵犯或诽谤祖先的无论是身体还是心灵举行仪式并高喊上述邀请也是祈求祖先保佑自己生活幸福、事业兴旺。在工作和生活上取得成功它还增加了具有共同血统的亲戚之间的亲密感和联系，也想象着祖先出生的土地。

从瑶族人民的角度来看，这些抄本、祖图、家先单中记载的祭祖祈福仪式，一方面是对祖先功德的感激和缅怀，另一方面还具有祈求祖先庇佑的心愿，例如：保佑家人平安富足、工作顺利；宽恕子孙在身心上对祖先的冒犯；增进宗族亲属之间的亲密和联系，记住他们与祖先出生地的联系，等等。

三、祖图：泰国北部瑶族（优勉）的迁徙和定居

瑶族（优勉族）从中国南方、贵州省和云南省迁徙，穿过越南西北部地区、西双楚泰、华盘五六，老挝的琅勃拉邦、猛赛，来到泰国北部地区定居，但其具体时间尚无法确定。13世纪和14世纪，瑶族从广西和广东省迁徙到贵州和云南省。后来在17世纪，来自中国南部和西南部的移民定居在越南北部，并于1880年迁徙至西双楚泰、华盘五六，琅勃拉邦、猛赛、猛兴、猛南塔和猛普卡，来到湄公河西岸建立家园，此地属于暹罗王国（泰国）的领土。在这方面，暹罗的官方文件或档案或“编年史”写道，瑶族从中国南方迁徙到西双楚泰地区的高山上居住，包括华盘五六城和琅勃拉邦。自1880年起，詹姆斯·麦卡锡（James McCarthy）随暹罗军队出征，击败霍尔军队，掠夺老澜沧国人民，给老澜沧国人民带来苦难，其对瑶族的记载进行了考察。该地区定居的（苗族及其他民族）的情况记载得相当详细。⁽¹⁴⁾

在这方面，记录各地事件的文件还指出，在1017年至1022年的广西省、1040年的广东省和1056年至1064年的福建省的报告中，出现了一个名为“瑶”的民族。而这期间，贵州、云南两省的报告尚未发现瑶族。这意味着瑶族是从广西、广东、福建等省迁徙到贵州省、云南省，并继续向南迁徙至越南北部、老挝和泰国。

瑶族的迁徙似乎并非是一次大规模的迁移，也不是以搬家、搬迁城市的形式去寻求新的居住地。相比之下，对越南清化省瑶族迁徙的个案研究发现，瑶族从中国南部向越南北部的迁徙过程是以小群体的形式进行的，他们通常在高山森林中漫步，定期停下来种植水稻和蔬菜以获取食物。迁徙可

(14) Kacha-ananda, Chob. (1983), "Yao: Migration, Settlements and Land." *Highlanders of Thailand*. London: Oxford University Press. p. 212-214

องค์การการค้าครูสภา. (2507). *ประชุมพงศาวดารเล่ม 9*. กรุงเทพฯ: ตีพิมพ์โดยสำนักงานพาณิชย์. หน้า 58 (教师理事会贸易组织, 1964年, 第9卷, 曼谷: Suksaphan Phanit 第58页)

McCarthy, James. (1900). *Surveying and Exploring in Siam*. London: John Murray.

能从 13 世纪一直持续到 20 世纪 40 年代⁽¹⁵⁾。以中越边境地区的瑶族为例，在中国广西省龙州市与越南的高平市和谅山市，1893 年之前居住在龙州的 C. Bos (Lang Son) 在两座城市中写道：“……总的来说，蛮族（瑶族 — 笔者）是一个游牧部落，在一个居住地定居不超过 2~3 年……种植技术落后……他们选择山脚下森林茂密的地方，通过切割、清理和用火焚烧来准备种植区域……2~3 年后，当土壤失去肥力时他们就迁徙、搬迁，去寻找新的居住地。有时远在千里之外……主要农作物有山稻、高粱、土豆、芋头、棉花、蓖麻……有时也种植生姜、烟草、油菜……”⁽¹⁶⁾ 这意味着瑶族的迁徙主要是以寻找新的、肥沃的农业栖息基地为重要目的。

岩田敬二 (Keiji Iwata, 1922 - 2013) 于 1957 - 1958 年对老挝籍瑶族聚居特征进行调查时发现：老挝万荣市达僧帕当 (TaSaengPhaTang) 区有 3 个瑶族村庄，其中盖搜村 (KaiSou) 有 27 户，帕龙村 (PhaLouang) 有 5 - 6 户，帕南宾村 (PhaNamPin) 有 7 - 8 户。另外，在琅勃拉邦省附近还有 3 个瑶族村庄：帕共村 (PhaKoum) 有 25 户，哦色村 (OmSe) 有 4 - 5 户，达夜村 (TamYat) 有 10 户。这些瑶族人定居在距离自家农田不远的小片房屋里⁽¹⁷⁾。

对于泰国瑶族，在 1961 年，Wanatch Pruksasri 及其同事 (1995) 对居住在泰老边境地区的瑶族村庄进行了调查，清莱府峰县帕昌农乡中有这样的描述：“……普浪卡村是瑶族部落的 12 个村庄之一，这些村庄彼此相隔很远，即从普浪卡村到其他村庄，步行距离大约 30 分钟，有时 3 小时，有些村要 6 小时，但不超过 1 天 (12 小时) ……帕昌农乡 1 号村有 5 个村小组 (村小组 - 作者) ……” 每个村庄 (官方) 都控制着一定数量的房屋，例如，普浪卡 1 号村有 12 个村小组，即普浪卡村有 25 户 (分为 3 个小组，第一组有 19 户，第二组有 2 户，第三组有 4 户)，邦马哦村有 15 户，会峰村有 16 户，会东村有 17 户，另外算呀龙 2 号村有 27 户等。此外，他还注意到上述瑶族的迁徙和住所流动有这样一个规律：“……瑶族的迁移路线从广西省来到云南省居住……然后又迁移到了东京猛赖、孟腾 (猛赖 MuangLai 或西双楚泰 Sipsongchutai, 猛赖潮 LaiChau 市、猛腾 MueangThang 或颠编 DienBien 作者) ……村长名叫邓进坤的瑶族酋长迁移到了猛恁 MuangNgoi (琅勃拉邦省 MuangNgoi - 作者) ……迁移到猛浑 MuangHun 附近，在芒河上游地区 (乌多姆猜省猛浑 MuangHun, Udomxai 南

(15) Mai Van Tung, Le Thi Thanh, Le Duy The. (2023). “An Introduction to the History and Culture of the Dao in Thanh Hoa province”. Hong Duc University. Journal of Science.E8, Vol.13, p. 48-55

(16) C. Bos. (1909). *Notes on the Lung Chow T'ing, Langson and Caobang*. CA: privatdruck, ohne und Verlag. p. 29. เอกสารชิ้นนี้มีความน่าสนใจ การจัดพิมพ์หนังสือเล่มนี้ C. Bos เขียนในคำนำว่าได้รับการแนะนำจาก Dr. J. MacGowan (Dr. Daniel Jerome MacGowan, 1815-1893) หมายความว่า C. Bos ต้องเขียนหนังสือเล่มนี้ก่อนปี ค.ศ. 1893 เพราะ Dr. MacGowan เสียชีวิตที่เมืองซางไห้ในวันที่ 19 กรกฎาคม ค.ศ. 1893 <https://reader.library.cornell.edu/docviewer/digital?id=sea035#page/4/mode/1up>

(17) Keiji, Iwata. (1960). *Minority Groups in Northern Laos: Especially the Yao*. Lao Project, Paper No. 15. University of Massachusetts, Department of Anthropology.

蓬河)……没有足够的土地来种植水稻……邓进坤先生于是带领瑶族从猛浑迁徙到普伟山 DoiPuWae (楠府桐昌县 DoiPhu Wae - 作者)……所以他向楠府省长请求允许将他的村庄搬到喃窝山 Doi Nam Wao, 并在那里居住了 13 年, 土地耕种耗尽, 因此搬到了帕昌农山 Doi Pha Chang Noi 地区……后来又遭受了死亡……所以把村庄搬到了现在的普浪卡村 Ban Phu Langka……近 30 年以来没有搬到其他任何地方……”。(18)

从调查记录来看, 瑶族的迁徙和搬迁似乎是基于寻找鸦片种植区的条件。以邓氏家族迁居的迁徙路线为例, 开始迁出广西, 前往云南, 目前尚不能确定具体时间, 大概是清朝末年。因为清军与太平天国运动 (1850 - 1872) 之间的战斗, 几乎在中国南方各地造成了混乱, 普通百姓为逃避饥饿和苦难而迁移。邓氏的祖先随后从广西迁徙到了云南, 接着, 迁往越南西北部的猛赖和颠编 (MuangLai, MuangThanh)。同时, 一些太平天国叛乱分子逃离了清军的镇压, 来到该地区居住 (1864 - 1887) 并在当地制造混乱。在经历太平天国运动的苦难后, 他们向南迁徙, 直至暹罗王国。Phra Wiphabhuwaddon (詹姆斯·麦卡锡) 提及瑶族和苗族时表示, 1880 年之前, 这两个民族尚未在湄公河右岸或者兰纳首府定居。这意味着瑶族在 1880 年代才迁移到泰国北部定居。

同一期, 山地部落研究所的瑶族研究员 Mongkol Chanbamrung, 通过在楠府塔旺帕县南腊漭村 (BanNamLakNuea) 收集的实地数据得出成果。村里的一位线人称, 李文飞先生 (Lee Wenfei) 一家人自 1854 年起就移民到楠府地区定居, 大约一年后, 他们把消息传给了邓进坤先生邓家族的祖先 “Srisombat”, 后来邓进坤先生与邻居和亲戚也移民来到楠府地区迁徙居住。(19)

在这方面, 如果我们考虑詹姆斯·麦卡锡 (James McCarthy) 在《1881 - 1893 年暹罗勘测与探索》(Surveying and Exploring in Siam 1881 - 1893) (1900) 中的记录, 可以看到瑶族于 1880 年代移民至湄公河右岸, 邓进坤先生可能于 1884 年或 35 岁左右移民至楠府地区。这个年龄对于带领一个家庭来说是合适的。邻里亲戚纷纷来到楠府城区开拓定居, 并被皇室任命 (ChaoSuriyaphongPhalitdet, 1894 - 1918) 为楠府的统治者, 称为 “PhayaInthakhiriSrisombat”。但如果考虑到其他条件的脉络, 会发现霍尔大军对老兰象国的侵略和掠夺给谋生的人们制造了混乱, 平原地区和高地地区都深受其害。与此同时, 亚洲、欧洲和美洲世界市场对鸦片的需求不断增加。因此, 鸦片易买易卖, 价格昂贵。瑶族是重要的鸦片种植群体, 为了寻找适合种植鸦片的地方, 无论是在政治方面, 还是受到各地统治者

(18) วันช พฤกษ์ศรี. (2538). ดงภูผา บันทึกการสำรวจหมู่บ้านชาวเขา จ.เชียงใหม่-เชียงใหม่-พะเยา ปี พ.ศ. 2504-2505. เชียงใหม่: สถาบันวิจัยชาวเขา. หน้า 71-83 (Wanath Phruksasri, 1995, 《山地部落村庄调查记录》, 清迈-清莱-帕逸府, 1961-1962年, 清迈: 山地部落研究所, 第71-83页)

(19) มงคล จันทร์บำรุง. (2531). “จากแผ่นดินใหญ่จีนถึงไทย: การย้ายถิ่นและตั้งถิ่นฐานของเข่า”. ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขา. ปีที่ 12 ฉบับที่ 3,4 กรกฎาคม-ธันวาคม. หน้า 33-45 (Mongkol Chanbamrung, 1988, 《从中国大陆到泰国: 瑶族移民和定居》。来自山地部落研究所的期刊, 第12年, 第3,4期, 7-12月, 第33-45页)

的惠顾，包括能够轻松且以优惠价格分配鸦片，所以移民到暹罗王国定居，这是最一致的选择。

总之，对瑶族的研究表明：十七世纪末十八世纪初，瑶族从中国南方迁徙而来，在越南和老挝北部地区定居，之后逐渐迁移至楠府和清莱府，并后来分散到泰国的其他地区。他们常以小群形式迁徙，寻找周边自然资源丰富或适合谋生的地区，尤其是便于鸦片种植和鸦片流通的地区。然而，这些研究仍存在局限性，无法清晰指出各个宗族的迁徙和定居路线。对《祖图》的检索和分析将有助于弥补上述局限性。

本文从清莱、帕遥、楠府、南邦、清迈、甘烹碧地区（包括老挝和美国）收集的约 60 卷《祖图》中，抽取了具体类型的邓氏《祖图》12 卷、盘氏 8 卷。经研究发现，迁徙路线改变了瑶族的祖居。他们不仅自明末清初（1620 - 1722）就一直向南进发，而且在清末（1840 - 1860），广大民众面临着清廷与叛军战争的苦难时，瑶族的祖先也从中国南部迁徙到越南北部定居。与此同时，太平天国起义军撤退并在越南西北部建立基地以及进行抢劫，给该地区民众带来痛苦。因此，邓氏家族始祖从北部向南迁移到暹罗统治下的各个城市，直至他们在湄公河左岸的楠府及其他地区定居。根据对邓氏两本和盘氏两本祖图所记载墓地的查找分析，文献中的埋葬地点标明了迁徙路线和定居地址如下：

第一卷，邓氏家族的祖图⁽²⁰⁾

根据祖图，邓氏家族（SaeTen 或 SaeTang）目前居住在楠府谱县帕康乡帕康村，有其祖先的姓名和坟墓位置的详细信息。反映迁徙路线和居住地流动的情况如下：

第一代，鄧太二郎葬在廣東道司州大益香入羅坪冲福龍大地進夢。

第二代，鄧氏三娘葬在廣西道平樂府襲承縣管入上川江頭嶺脚平蓮花大地。

第三代，鄧金一郎葬在廣西道平樂府襲承縣管入川江峽頭嶺脚平福龍大地。

第四代，盤氏一娘葬在廣西道汝寧州管入双塘口冲山牛坪蓮花大地。

第五代，鄧安一郎葬在廣西道柳州府四城縣五陽頭三里边家岗长莲江四保平福龍大地。

第六代，黃氏二娘葬在廣西道柳州融縣管入皆江中樂由隔界蓮花大地。

第七代鄧白一郎葬在廣西道柳州府羅城縣管入四堡冲蓮大地。

第八代，盤氏一娘葬在雲南道開花府文山县管下永坪里何百道花大地。

第九代，鄧堡一郎葬在雲南道開花府文山縣管入黄河冲其龍大地。

第十代，趙氏二娘葬在雲南道開花府文山縣管下安南里撒卡甲管入羅南冲福龍地主。

第十一代，鄧行四郎葬在雲南道開花府文山縣管下安南里撒卡甲管入。

第十二代，趙氏三娘葬在雲南道融安府建縣管猛賴崗。

第十三代，鄧祿五郎葬在東京道管上倫州猛門崗管下滄月岔崗。

(20) 祖先的名字和地点名称按照原始祖图使用的繁体字写。

- 第十四代，盤氏一娘葬在東京道管上偷州猛門崗管下滄莫滄月岔河。
- 第十五代，鄧張妹家先祖葬在東京道管上妹順州崗管上刮竹坪冲。
- 第十六代，鄧林四郎葬在宣羅道猛竜府猛賴洞岩社王脚平福龍地大。
- 第十七代，鄧氏二娘葬在東京道管上猛清奠盈府寧边州業森社猛們崗。
- 第十八代，盤氏一娘葬在東京道管上猛清碳靈府寧边州業森社猛們崗。
- 第十九代，鄧盖一郎葬在猛喃府管上滄医河岔冲。
- 第二十代，盤氏者葬在猛難府管上念買貫冲田头嶺却平座東向西掣地主。
- 第二十一代，鄧貞五郎盤氏三娘日共葬在東京道管上遵教州猛蘭崗。
- 第二十二代，鄧法孛葬在宣羅猛竜府管上猛賴洞南崩岔岑脚平福龍大地。
- 第二十三代，鄧氏者葬在猛賴州惧米冲連花大地刀家地主。
- 第二十四代，鄧法陞葬在宣羅道猛竜府管上他南崩管入轟沙滄相中量龙塘冲。
- 第二十五代，鄧氏者葬在宣羅道猛竜府管上轟沙峒管入念譚夢何頭冲嶺部坪。
- 第二十六代，盤行六郎盤娘安蒸吉州吉县。
- 第二十七代，盤法財葬在宣羅道猛難府管上恒崗管入念林钯河。
- 第二十八代，李氏者葬在宣羅道猛難府管上猛林管上双遂何頭冲腊波地主。
- 第二十九代，盤法定葬在宣羅道猛難府管上猛畜尚管入波河頭冲嶺頭炼。
- 第三十代，盤氏者葬在宣羅道猛南府管上猛蚌崗管入粉會灘冲羊嶺坪。
- 第三十一代，盤法明葬在宣羅道猛難府管上猛烈崗管念紅會把留何頭冲嶺平。
- 第三十二代，李民者葬在宣羅道猛難府管上陰德會峨河頭中量嶺頭坪。
- 第三十三代，盤法定期添第一红花 融荷租坂葬在宣羅道猛難府管上軒崗。

邓氏家族 (SaeTen 或 SaeTang) 的祖图中共有 33 位祖先，其中男性 15 人，女性 18 人，注明了姓名和埋葬地点，说明其迁徙和定居路线如下：

从埋葬在广东省的第一代祖先开始，邓氏的祖先定居于中国广东省司州市。第二代祖先从广东省移居至广西省柳州市四城、罗城区，第二代至第七代先祖安葬于此城。后来，第八代祖先由广西省移民，前往云南省开化市文山区定居；第八代至第十一代祖先葬于文山县。至于第十二代，遗体葬于云南省龙安市建祥区。第十三代祖先从云南迁徙到了越南北部地区定居，第十三代祖先至第十五代祖先葬于东京。此后，第十六代从越南北部地区移民，进入猛莱市(今越南莱朝省和奠边省)或西双楚泰省，这是暹罗王国的贡国，第二十二世祖葬于长城。琅勃拉邦，曾是暹罗王国贡国的城市，直到第二十六代祖先，他们才从湄公河右岸的琅勃拉邦迁徙至湄公河左岸的楠府地区定居，直至今日。

综上所述，邓氏家族的墓地位置反映的迁徙路线为：广东省司州市出发——广西省柳州市西城

区——云南省开化市文山区——越南北部地区——越南猛赖奠边县或莱朝省和奠边省(前暹罗贡国)——老挝猛淹或琅勃拉邦(原暹罗贡国)——泰国楠府。

第二卷，鄧氏家族的祖图

邓氏家族(姓 SaeTen 或姓 Srisombat)，定居于帕遥府蚌县帕昌农乡邦卡村，其祖图指出其祖先的姓名和埋葬地点，反映了邓氏家族的迁徙路线，如下所示：

第一代，鄧政一郎葬在廣西道柳州府融縣管入長安鎮。

第二代，馮氏一娘葬在廣西道柳州府融縣禮炫長安鎮。

第三代，鄧錢一郎葬在廣西道柳州府融縣管入長安鎮。

第四代，趙氏二娘葬在廣西道柳州府融縣管入長安鎮。

第五代，鄧財一郎同妻趙氏一娘鄧氏三娘公婆三人共葬在廣西道柳州府融縣。

第六代，鄧良四郎葬在廣西道四城府管下羅西洞。

第七代，鄧氏一娘葬在廣西道四城府凌雲縣。

第八代，鄧承一郎葬在廣西道柳州府融縣。

第九代，鄧氏四娘廣西道柳州府融縣管下六甲洞。

第十代，鄧向二郎葬在廣西道四城府管入交阿壩。

第十一代，趙氏三娘葬在雲南道開化府文山縣。

第十二代，鄧明四郎葬在雲南道管下猛所籐條河。

第十三代，馮氏二娘葬在雲南道管下猛丁馬驢塘大塘。

第十四代，鄧清一郎同妻鄧氏二娘公婆一共猛障府管上猛危太陽寨。

第十五代，鄧傳一郎猛障府管上那恐嶺脚坪。

第十六代，鄧氏六娘葬在雲南道管下猛所籐條河丫口寨。

第十七代，盤氏一娘葬在猛障府猛賴州管上滄兔坪報義河。

第十八代，鄧傳一郎第三妻鄧氏二娘葬在猛障府管上那恐嶺脚坪。

第十九代，鄧旺一郎鄧氏二娘公婆一共葬在猛障府管上猛庫洞管入念耗冲。

第二十代，鄧盖三郎葬在猛賴州管上念兔園龍寨。

第二十一代，鄧陞一郎原命生于己酉歲八月二十七日寅時建生不幸于乙丑年二月二。十一日午時壽終歸除二十四日化屍又到三月十五日壬戌日寅時安莖連花大地坟墓葬在宣羅道猛難府管上猛蚌縣管入念卡冲。

第二十二代，鄧陞一郎第一同妻李氏一娘不幸毀于前清光緒戊子年十一月三日酉時。壽終歸陰葬在猛障府管上那恐洞管入會燒義河嶺脚坪先哺他地主。

第二十三代，鄧陞一郎第二同妻馮氏六娘葬在暹羅道猛難府猛蚌县管入念卡冲。

第二十四代，鄧安四郎原命生于前清光緒十一年乙酉歲八月初七日丑時建生又不幸歿于民國五十四年乙巳歲十一月初一日巳時命壽終又到丙午歲二月十七日丙寅月寅時葬在暹羅道昌萊府昌堪县華僑儀山。

第二十五代，鄧安四郎第一同妻李氏六娘不幸歿于丁巳年五月二十一日命婦陰府安葬在暹羅道昌萊府蚌县管入帕姜叻坪河塩塘座南向北帕當帕姜叻地主行遊社王。

第二十六代，鄧安四郎第二同趙氏三娘不幸歿于丁卯年六月吉日吉時壽終歸陰安葬在暹羅道昌萊府猛蚌县管入念卡冲。

第二十七代，鄧法有鄧氏者公婆二位一共葬在暹羅道昌萊府猛蚌县管上念刮河。

第二十八代，鄧度二郎康命生辛亥歲二月十五日吉時建生又幸發于(1974)乙丑歲二月十七日上午十一分钟壽終又到乙丑歲二月二十戊寅日上午安葬在暹羅道碧遥府猛蚌县管入念卡河边邦卡龍馬寨。

邓氏家族(姓 SaeTen, Srisombat)的祖图中共有祖先 28 人，包括男性 16 人，女性 12 人，注明了姓名和埋葬地点，反映出来的迁徙和定居路线如下：

第一代至五代祖先葬于广西省柳州府融县长安镇，六代至七代葬于四城府罗西和凌雪县。但第八至九代祖先却照例安葬在柳州府融安区，后面第十代又分别安葬于广西省西城府。此后，第十一至十六代祖先分别安葬于云南省的不同城市：开化府、猛所、猛丁。第十七至二十代祖先归葬于猛赖、猛唐或西双楚泰，这些是暹罗国家的贡地。第二十一代祖先葬于楠府一带。直至第二十八代，共有 8 人，全部葬于暹罗境内。

综上所述，邓氏家族的先祖墓地位置反映的迁徙路线为：广西省柳州、罗城、融安、罗西和凌雲地区 —— 云南省开化市、文山、猛所、猛丁、猛融 —— 越南猛赖、猛市或琅勃拉邦(暹罗属国) —— 老挝 —— 泰国楠府。

第三卷，盤氏家族的祖图

本祖图是盤氏家族(姓 SaePan)，定居于清莱府都龙县帕昌农乡会沧咯村，同样标注了祖先的姓名和埋葬地点，反映了盘氏家族迁徙路线的细节。如下所示：

第一代，盤用一郎安葬在廣西道柳州府四城縣管入馬草冲。

第二代，趙氏二娘葬在廣西道貴林府管入永真州管吊勝十果冲。

第三代，盤無二娘葬在廣西道度表府思思縣板罵山洞。

第四代，趙氏五娘葬在廣西道柳州府羅城縣管入城堡勝山洞冲。

第五代，趙氏二娘葬在廣西道度表府思思縣管入板駕洞寨旗冲。

第六代，盤應四郎葬在四川道仁懷縣管政坭何忽。

第七代，鄧氏三娘葬在貴州府道吳兵管下遠城洞雷廷洞。

第八代，盤明二郎葬在貴州道永封州長羅洞。

第九代，李氏一娘死在貴州道吳遠城縣管入沖崖管下大紅沖領頭坪。

第十代，盤向二郎葬在開花府山縣河高隍寨領却平。

第十一代，李氏一娘葬在貴州道吳遠城縣管下沖崖同妻二人盤氏二娘在開花府平。

第十二代，盤法細葬在暹羅道清萊府猛崖縣管入會乳河邊沖。

第十三代，李氏者在暹羅道清萊府管入城康縣管上南敖河邊沖。

第十四代，盤法財死在暹羅道清萊府增縣管上陳河邊沖。

第十五代，李氏者葬在暹羅道清萊府芳類隆縣祝才洞管入噲祥藥河邊沖。

盤氏家族的祖圖中共有祖先 15 人，包括男性 7 人，女性 8 人，註明了姓名和埋葬地點，反映了 15 代祖先的不同埋葬地點：第一代祖先葬於廣西省；第二代至第五代祖先均在廣西，但在不同的城市，包括西城、桂林、度表、羅城、思恩縣等。第七代葬於四川道仁懷縣，後第八至第九代祖先葬於貴州省務川縣。第十代葬於開化府文山县，第十一代又葬於貴州道務川縣，第十二至第十五代葬於暹羅王國清萊（泰國）。

綜上所述，盤氏家族的先祖墓地位置反映遷徙路線為：廣西省柳州府、西城府、融安、思恩縣等地區——四川道仁懷縣——貴州省務川、永封、務遠縣——雲南省開化——貴州道務遠——泰國清萊府。

第四卷，盤氏家族的祖圖

盤氏家族（姓 SaePan），定居於南邦府熬縣坡刀鄉坤恒村，其祖圖也記載了祖先的姓名和埋葬地點，反映了盤氏家族的遷徙路線。如下所示：

第一代，盤惠三郎原日葬在廣西道柳州府融縣長鎮管入四常江漕口九柳沖。

第二代，趙氏一娘葬在廣西道柳州府融縣長安鎮管入四閘江銅羅。

第三代，鄧氏二娘葬在廣西道柳州府融縣長安鎮管入四江大田同羅沖。

第四代，盤位二郎原日葬在廣西道柳州府融縣長安鎮四常河曹口大田。

第五代，鄧氏一娘原日葬在廣西道柳州府融縣長安鎮四常河。

第六代，盤傳五郎原日葬在融縣長安鎮管入四長江宜洞。

第七代，趙氏三娘原日葬在融縣長安鎮管下常江同羅大田洞清神沖。

第八代，鄧氏四娘原日葬在控枝道里京國管入未春州清水沖。

第九代，盤江二郎原日葬在開化府文山县管入永平里。

第十代，趙氏一娘原日葬在雲南道開化府永平里管入晋明冲。

第十一代，盤財四郎原日葬在雲南道開化府文山县管入大阿洞。

第十二代，李氏三娘原日葬在雲南道临安府建水县管下猛赖洞。

第十三代，盤周三郎原日葬在雲南道临安府建水县管下次桶坝洞管入念幹冲。

第十四代，鄧氏二娘原日葬在雲南道临安府建水县管入猛蚌洞。

第十五代，盤元一郎原日葬在猛竜府管上猛哈洞管入念家冲。

第十六代，趙氏六娘原日葬在宣羅道猛竜府管入念阿洞管入會魯冲。

第十七代，趙氏者原日葬在宣羅道猛竜府管上猛宣洞。

第十八代，盤廣一郎原日葬在宣羅道猛南府管上猛蚌洞。

第十九代，馮氏者原日葬在宣羅道猛南府管上猛蚌洞。

第二十代，盤法原日安葬在宣羅道猛竜府管上猛宣洞。

第二十一代，趙氏者原日葬在宣羅道猛南府管上猛蚌洞。

第二十二代，盤法明原日葬在宣羅道猛竜府管上猛呀洞。

第二十三代，鄧氏者原日葬在宣羅道猛南府管上猛蚌洞。

第二十四代，盤法定年庚生于午年九月初二日戌時建生得寿陽間八十歲在於已卯歲七月二十日子時命中歸陰又到八月二十日辰時安葬在宣羅道猛南府管上猛蚌洞。

第二十五代，鄧氏者年庚生于甲戌歲十二月吉日吉時建生得寿陽間四十一歲又到甲寅歲四月十四日戌時命中歸陰又到五月十八日葬在暹羅道猛南府管上猛蚌洞管入念沙喇半河冲。

第二十六代，盤法金原日葬在宣羅道猛南府管上猛蚌洞。

第二十七代，盤法承年庚生于丁酉歲二月初三日戌時建生得寿限間七十九歲又到乙卯時年三月十七日申時命中歸陰又二十一日丑時化屍又到四月初四卯時下安葬在暹羅道猛杯府管上猛霜洞。

第二十八代，盤法承的妻中鄧氏者年庚生于龙戌歲七月吉日吉時建生得寿陽間八十四歲又到癸亥歲二月十八日申時命中歸陰又到三月初二日未時化屍三月十四日下葬在暹羅道喃邦府管上猛熬洞管入。

第二十九代，盤法香行庚生于辛酉年十月初一日戌時建生得寿陽間六十九歲又到庚午年正月二十一日子時命中歸陰又到二十四日巳時大排下葬在宣羅道南邦府管上猛熬洞。

第三十代，盤法香同妻李氏者年庚生于壬戌年八月初一日戌時建生得寿陽間八十四歲又到乙酉年二月初十日酉時選命中歸陰又到十一日申時化屍又到二月二十八日巳時安在宣羅道南邦府管上猛熬洞。

第三十一代，泰国南邦府熬县……壬年八月初一日時建生得寿陽間八十四歲又到七酉年二月初

十日酉時邀命中歸陰又到士日中時化屍又到二月二十八日巳時安在運羅道邦府管上猛熬洞。

该祖图记载了盘氏家(姓 SaePan) 31 位祖先的名字和埋葬地点, 详情如下:

第一代至七代祖先埋葬于广西省柳州市融安县。第八代祖先移民到校枝道里京国(今越南北部地区), 而后就埋葬在这个地区。第九代至第十一代祖先葬于云南省开化市文山县。第十二代至十四代祖先由开化市文山县迁居临安市建水县, 三代人均葬于该县。第十五代至十七代祖先从云南省移民到暹罗王国猛隆(今泰国)定居。第十八至二十六代祖先移居到暹罗王国猛南府, 其中有九位祖先葬于猛南府猛蚌(现为蚌县帕遥府)。第二十七至三十代祖先后来移民到南邦府的猛熬地区, 后来都埋葬在这个地区。

综上所述, 记录南邦府熬县坡刀乡坤恒村盘氏祖先坟墓的文献, 记载盘氏祖先的姓名和埋葬地点, 也反映了他们的迁徙定居路线如下: 广西省柳州市融安县——越南北部地区——云南省开化市文山区、融安市建水区——暹罗王国(泰国)楠府南邦府。

通过对泰国瑶族两个家族四卷祖图和亲属记录的检索与分析, 发现这些记录不仅依据该地区的仪式和坟墓地点标明姓名, 仅限于市、省、县或地区级别, 而且还能够推测出每个家庭的迁徙和定居路线。这四卷祖图所记载的内容相同, 四个瑶族家族的祖先都定居在广西省柳州市(现广西壮族自治区), 他们的故乡在同一个城市或地区。此外, 上述文件除了明确表明他们通过婚姻具有相同的血缘关系, 同时也明确指出泰国北部的四个瑶族是世代相近的“民族和语言亲属关系”, 各氏族祖先的迁徙和定居路线也相似。

四、结语 祖图是优勉特有的连接过去和现在并联系跨国亲戚的桥梁

通过对瑶族两个姓氏家族的祖图和家先单的分析、探讨以及与长老前辈的交流, 我们发现祖图里记载的各家族祖先的名字, 并非一个个寻常的名字, 而是一个仪式的名称, 或者说是他们在“阳界”中的称呼。在阳界或者人界, 尽管每个祖先都居于坟墓中, 但都有一个彼此相距遥远的“家”, 例如在中国、越南、老挝、泰国。瑶族人相信, 他们在阳界的距离不是阴界和阳界之间的障碍, 通过举行一定的仪式是可以邀请到祖先的魂灵的。这使得子孙后代依然能与阴界的祖先保持着密切的联系。而每个家庭的每一位祖先, 也始终照顾和保护着子孙后代, 为他们解决和排除生活中的困难和障碍。

每个家庭的始祖都葬于广西省柳州市, 这表明邓氏家族和定居在泰国上北部的盘氏家族曾共处一地。此外, 从祖图中女性祖先名字的记载可知: 邓氏的男祖与其他姓氏联姻, 比如赵氏、冯氏、盘氏、李氏等, 也就是说, 邓家、赵家、冯家自第一代祖先起便结成了姻亲关系, 在广西省柳州市开始共同生活。后来, 各家族的祖先迁徙至云南开化、暹罗王国(泰国), 包括越南猛赖、猛颠边(或四双楚泰地区)、猛泷(琅勃拉邦)以及猛南府。祖图里对于每个家庭祖先的坟墓记载, 也反映出迁徙

和定居的路线，涵盖了瑶族与当地少数民族文化融合的可能性。这是祖图和家先单中用汉字记录瑶族声音的实例，还有汉族人对此类录音的书写。这些都是社会现实，展现了每一代瑶族祖先在迁徙路径上的文化融合。所以，祖图不但记录了迁徙和定居的路线，还彰显了瑶族在迁徙中与其他民族的文化融合，特别是与汉文化的融合以及汉化。

祖图中记录的埋葬地点，有些卷册详细到了街道和村一级的地名。但通常而言，一般只记录区、市、省、县或地区的名称。依照各家族祖先去世的日期和时间排列，如广西省柳州市——云南省开化市文山区——莱市、颠边市（今越南的莱州省和奠边省）——猛泷（或琅勃拉邦，前暹罗朝贡国）老挝——暹罗帝国喃城——帕遥府蚌区和南邦府熬县等。倘若将祖图中记录的地名连成一条线，便能清晰地呈现出邓氏家族和盘氏家族的迁徙和定居路线。

但清莱府都龙县帕昌农乡会沧咯村的盘氏家族的祖图中记录的地点看上去与其他家族的有些不同。第一代男性始祖名叫盘用一郎，葬在广西道柳州府罗城县；第二代女性始祖，名叫赵氏二娘，葬在广西道桂林府。我们可以尝试这样分析和解释：盘家和赵家的先祖缔结了婚姻关系，始祖去世后，第二代祖先及其子孙迁徙至广西桂林，后代则迁徙至四川定居，而后又迁到贵州省、云南省，直到第十二代祖先移民到老挝和暹罗王国（泰国）定居。若如此思考和分析，从这些祖先墓地的记录情况来看，盘氏家族的迁徙路线和家族生活颇为艰难。

然而，如果从国际关系层面来审视祖图文件，它不仅呈现了前文所述的迁徙和定居路线，还证实家庭、祖国或祖先的出生地之间或许存在具体的关联，以及携带着子孙与新的居住地之间的关系。最为关键的是“跨国界的民族语言亲属关系”，特别是家庭层面的联系和族群关系。例如，通过对祖先名字和埋葬地名字的分析比较，我们能够发现，文献中记载的邓氏家族、盘氏家族，或者其他姓氏在泰国、老挝、越南和中国定居的祖图，都极有可能源自同一个家族，各国其他的瑶族家族也存在跨越国界的民族血缘和语言联系。

在这个问题上，如果各国政府认识到东南亚大陆各国和人民之间和平、安宁和共同繁荣的价值与重要性，那么各国政府便可以制定国际关系政策，或者加强国家与国家之间经济、政治、社会和文化合作的政策，在国家对人民以及人与人之间，可以称为“文化外交”和“人民外交”。尤其是“共同构建一个拥有人类未来的社会共同体、平等谋利、共享利益或各国人民共同繁荣”的政策，是当前重要且必要的。

参考文献

泰语

- บุญช่วย ศรีสวัสดิ์. (2547). *๓๐ ชาติในเชียงใหม่*. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์สยาม, หน้า 297-298.
- มงคล จันทร์บำรุง. (2531). “จากแผ่นดินใหญ่จีนถึงไทย: การย้ายถิ่นและตั้งถิ่นฐานของเย้า”. *ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขา*. ปีที่ 12 ฉบับที่ 3,4 กรกฎาคม-ธันวาคม. หน้า 33-45
- พรรณนิภา วุฒิกุล, (2517). “การศึกษาทางสังคมของชาวเขาของกรมประชาสงเคราะห์ ระหว่างปี พ.ศ. 2509-2516”. *วิทยานิพนธ์รัฐศาสตรมหาบัณฑิต*. จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย
- วันช พฤษะศรี. (2538). *ดงภูผา บันทึกการสำรวจหมู่บ้านชาวเขา จ.เชียงใหม่-เชียงใหม่-พะเยา ปี พ.ศ. 2504-2505*. เชียงใหม่: สถาบันวิจัยชาวเขา.
- เหยาซุ่นอัน. (1986). “เส้นทางอพยพของชนชาติเย้า”. *ข่าวสารสถาบันวิจัยชาวเขา*. ปีที่ 9 ฉบับที่ 4 ตุลาคม-ธันวาคม 2528. หน้า 29-38.
- องค์การคำครุสภา. (2507). *ประชุมพงศาวดารเล่ม ๙*. กรุงเทพฯ: ศึกษาภัณฑ์พาณิชย์.

英语

- Bhruksasri, Wanat. (1989). “Government Policy: Highland Ethnic Minorities”. In McKinnon, John and Vienne, Bernard. (Eds.) *Hill Tribes Today: Problems in Change*. Bangkok: White Lotus.
- C. Bos. (1909). *Notes on the Lung Chow T'ing, Langson and Caobang*. CA: privatdruck, ohne und Verlag. p. 29.
<https://reader.library.cornell.edu/docviewer/digital?id=sea035#page/4/mode/1up>
- Hanks, Jane Richardson., Hanks, Lucien Mason. (2001). *Tribes of the North Thailand Frontier*. New Haven: Yale University Southeast Asia Studies.
- Hanks, Lucien M., Hanks, Jane R., Sharp, Lauriston., Sharp, Ruth B. (1964). *A Report on Tribal Peoples in Chiangrai Province North of the Maekok River*. Data Paper Number 1, Ithaca: Cornell University.
- Kacha-ananda, Chob. (1983), “Yao: Migration, Settlements and Land.” *Highlanders of Thailand*. London: Oxford University Press. p. 212-214.
- Keiji, Iwata. (1959). “Ethnic Groups of the Nam Song and Nam Lik- Their Geographical Distribution and Some Aspect of Social Change”. *Japanese Journal of Ethnology*. Vol. 23. Nos. 1-2, p. 63-79.
- Keiji, Iwata. (1960). *Minority Groups in Northern Laos: Especially the Yao*. Lao Project, Paper No. 15. University of Massachusetts, Department of Anthropology.
- Mai Van Tung, Le Thi Thanh, Le Duy The. (2023). “An Introduction to the History and Culture of the Dao in Thanh Hoa province”. Hong Duc University. *Journal of Science*. E8, Vol.13, p. 48-55.
- McCarthy, James. (1994). *Surveying and Exploring in Siam*. Bangkok: White Lotus.

Micah F. Morton, Ian G. Baird. (2019). “From Hill Tribes to Indigenous Peoples: the Localisation of a Global Movement in Thailand”. *Journal of Southeast Asian Studies*. (50 (1). p. 7-31 February.

Shiratori, Yoshiro. 1975. *Yojin Monjo* [Yao Documents]. Tokyo: Kodansha.

Shiratori, Yoshiro. 1978. *Tonan Ajia Sanchi Minzokushi* [Ethnography of the Hill Tribes of Southeast Asia]. Tokyo: Kodansha.

Takemura, Takuji (1975). *Clan Organization and Merit-Making Systems of the Yao, Northern Thailand*. Report submitted to Thailand NRC, Bangkok.

Takemura, Takuji (1978). *An Ethnography of the Yao Religious Life in Northern Thailand*. Osaka.

汉语

玉时阶、玉璐：《瑶族（祖图）见证中华民族文化交流互鉴》中国社会科学网 - 中国社会科学报，2024。

姚舜安. 瑶族迁徙之路的调查[J]. 民族研究, 1988 (02): 76-82. (Yao Shunan. “Migration Routes of the Yao Nationality”. *Journal of Nationalities Studies*. 1988. (No. 2): 76-82.

泰国民众救助厅、劳动厅和社会福利部资料，2002年。第75页，150页。

泰国瑶族分布的人口与居住地区 2016年山区民族的调查

泰国瑶族考察，广西民族学院赴泰国瑶族考察组编者，广西人民出版社，1989年。

祖图的主人

1. ครูบุญฉาน แซ่เต็ง ตั้ง พระ หมิง บ้านปากกลาง ตำบลปากกลาง อำเภอปัว จังหวัดน่าน (楠府坡县纳班镇帕康村邓法明)
2. อาจารย์แคะเว่น ศรีสมบัติ บ้านปางคำ ตำบลผาช้างน้อย อำเภอเชียงคำ จังหวัดพะเยา (帕遥府清康县帕常农镇邦卡村邓财县赵云富)
3. นายจ้อยจั้น แซ่ฟ่าน บ้านห้วยช้างลอด ตำบลโชคชัย จังหวัดเชียงราย (盘财进，清莱府都龙县帕昌农乡会沧咯村)
4. นายแข่งลิ้น แซ่ฟ่าน บ้านขุนแหง หมู่ 7 ตำบลปงเตา อำเภองาว จังหวัดลำปาง (南邦府熬县坡刀乡坤恒村)

2024年12月18日訂正版 2024年10月11日發表論文 中国語版（丸山）

瑶族儀式文獻研究試論：聚焦文本之間的相互關係

筑波大學 名譽教授
丸山宏

前言

近數年來我對於勉系瑶族還願儀式所用之儀式文獻努力做錄文與翻譯的工作。其主要目的是為了深入解讀文本結構和理解其獨自的表現特徵。在此借用珍貴的機會來將我發現的有趣的內容給大家介紹共享。

看儀式文獻文本，某一本文獻之中，或不同文獻之間，常常有看過同一詞彙多次出現的現象。偶而遇到此種現象時，我很注意此種現象，而且它有時候給我非常深刻的印象。此報告要舉例子來說明其現象與意義。讀解儀式文獻之文本時，重視文獻中或文獻之間出現的同一詞彙或同一歌詞句子，探討其文脈與意義。我想此種單純的方法也會幫助我們能得到有啟發性的發現。通過此方法，不必按照已有的學說，直接根據文本內容，可以切實深入地理解瑶族編制文本的方式以及其宗教與社會的特徵。本報告是運用此方法的初步嘗試。

探討儀式文獻中的例證

藍山縣勉系瑶族還願開壇時，誦唸《善果書上本》⁽¹⁾、《聖書下本》⁽²⁾等文獻。本報告以此兩本以及其他相關文獻當作史料，想探討不同程序中反覆出現的表現，例如〈眼睛〉〈七星〉⁽³⁾之含意。瑶族文獻文本沒有通過很嚴格的標準化，其內容也會保持某一種程度的自由度，所以同一個範疇的文獻中不一定出現同樣文本或詞彙。在此探討中，我比較重視現在還在常被使用的文獻內容。

- (1) 《善果書上本》，趙金付法師所藏，ㄎ才族文化研究所文獻 A-32。此書 1a 提起趙子鳳法師，他就是趙金付法師的老師。27a 提起大明國，可以推測此書的源頭在明朝時創造而後世世代代繼承下來。
- (2) 《聖書下本》，趙金付法師所藏，ㄎ才族文化研究所文獻 A-11。此書，從上元二聖開始，其內容是上述《善果書上本》的下一本，兩本是分不開的。
- (3) 《善果書上本》，A-32, 4b 記載〈北斗咒〉，此咒文與眼睛沒有直接的聯繫。此報告留意的是與眼睛光亮有關的七星之主題。

一、〈接祖師歌〉形容祖師們〈世今坐在香壇內，眼睛流朗在壇中〉。

A-32a, 49b-50a

祖師歌

男孫出門求着你，高樓打鼓鼓堂堂，
都來擁赴便行罡，油麻肚內自排行，
爺父師，隨屋子，爺父有名法某郎，
世今坐在香壇內，眼睛流朗在壇中，

男子出門，流落香壇裡內，求作你，借你六十
陰兵陽兵，赴我便行罡，油麻肚內自排行，
一身便靠你遮壯，

開筊師，撥法師，
證法師，隨屋師，
開筊，撥法，證法，有名法某郎，

男子出門，流落香壇裡內，求着你，借你六十
陽兵，赴我便行罡，油麻肚內自排行，
一身便靠你遮壯，

師男出門求着你，高樓打鼓鼓堂堂，
問說今朝有狀請，陰陽師父式齊臨，
一朝一夜歸功位，二聲落馬到回壇，

上引〈祖師歌〉中，師男請祖師們來儀式場。做儀式時，需要稱呼祖師們的具體的姓和法名。請來的祖師包括翁師、師爺、師父，還請度戒時引導師男的開筊（教）師，撥法師、證法（證盟）師等。他們有的是自家人，有的不同姓的人。有的是已去世從墳墓那裡以靈魂的形式來場，有的還活著的老師也直接來場，或者還活著的沒法來場但以靈魂形式來場。有意思的是祖師他們坐在壇內，而且他們每一位的眼睛流朗光亮。來壇後，他們守護師男做行罡，幫助師男去神界承接神明。較為特別的是，引文中看到，師男要借用每位祖師托帶來的六十個陰陽兵頭的力量。上引之內容，與後述的〈賞浪兵頭〉感謝祖師和他所管的兵頭之內容，兩者密切聯繫，兩個項目是分不開的。〈賞浪

兵頭〉文本中雖然無表現，但我推測，賞浪時坐壇的很多祖師，他們的眼睛也會與請祖師時候一樣流朗。以我所了解的範圍內，道教或法教（師公教）的啟師請師之儀式文本中，沒有看過此類眼睛流朗的表現⁽⁴⁾。

二、〈請上元二聖歌〉形容一位強力的神明〈埋了三年屍不爛，兩眼比如北斗星〉。

A-11, 2a-4b

請上元二聖

前略

又請上元官大七，七州七縣七官台，
金碗載飯七官吃，伏望七官身上來，
五官有錢去買馬，七官無錢去買牛，
買得牯牛三百隻，又買牯牛四百頭，

去到南安變及化，半是買來半是偷，
打在湖南大路上，趕船不到落沙洲，
三旛白旗鋪床睡，望見娘村淚便流，
趕米不來吃沙石，入肚不溶死便休，
捨身拜入三清殿，三清教我管兵頭，

當初細細偷雞吃，世今膽大轉偷牛，
眼睛利利偷牛賊，黃昏走在牛欄邊，
手把銅刀偷牛吃，主人眼睡不知天，
一個狗兒紛紛叫，偷得牯牛心喜歡，
細細思量心不歡，磨利殺刀再去偷，

七官吃大真 大，一個牛兒做半餐，
又把牛腳 架，又把牛皮做大鍋，

(4) 參看湖南湘中的例子，呂永昇、李新吾（編）2015，《〈家主〉與〈地主〉湘中鄉村的道教儀式與科儀》，香港科技大學華南研究中心，pp.63-67, pp.160-162，列記祖師姓名生年歲月日時。

又把牛頭去祭鬼，又把牛角闢刀梯，
 一更哨子上大路，二更哨子入娘房，
 銅盆栽水郎洗腳，洗了上床共娘眠，
 眠得一更正是好，眠得二更真是愁，
 眠得三更人來捉，鑼聲鼓響在床頭，
 不覺八郎走得快，七尺長鎗飄過離
 衫袖掛在籬笆表，狗噉四邊人得知，
 不知爺娘在裡外，斬郎頭斷血淋死，
 血淋死了血淋死，破郎頭斷血淋死，
 莫放上村巡檢聽，莫放下村叔老知，
 叔老得知不好事，一時寫狀便行移，
 不怕爺娘兄弟眾，不過爺娘兄弟多，
 血淋死了血淋死，無人來念我身屍，
 一條竹扛兩人抬，抬去陽州洞裡埋，
 埋了三年屍不爛，兩眼比如北斗星，
北斗七星騎馬過，叫郎出世管兵頭，
 大喊一聲天地動，回來打破小童身，

在開壇儀式重要的場面之一，諸神明到齊，鑑點醮筵時，請上元七官來壇。在此儀節請他，因為他是偷牛的強盜變成的一種很厲害的厲神。這裡有兩個故事。看引文第二段，敘述他吃沙死後，去三清那裡，三清讓他變神，管兵頭。但第三段又開始另一個故事，描寫圍繞他的事情和他自己的感情變化等內容，非常生動。當賊時，他眼睛利利，表示他是很利害的賊，其眼睛也比較特別。他被殺死後，屍體不爛，留下來的兩個眼睛像北斗七星一樣光亮。做為神明的北斗七星剛好騎馬過路⁽⁵⁾，發現他有特別之處，讓他再生管陰兵。此是陰鬼變強神的典型故事。上元七官，他眼睛與北斗七星一樣光亮，描寫在陰慘的屍體中他還留下來的光明力量。

(5) 參看還歌堂願用的歌書《慶盤王歌書乙本》Z-26, 57b-58a, 〈門口用, 連州書〉, 其中提到如下。〈心問仔, 問仔江靈(伏江)連大双, 伏江半嶺見麼怪, 有怪便來說報郎(娘), 伏江半嶺見小怪, 得見七星現過天, 家主聲聲還良願, 兒孫世代出聰明〉。從此可以了解到逢見北斗七星, 認為是一個吉祥前兆。

三、〈賞浪兵頭歌〉形容很多的兵頭在壇〈今日人家輪流請，兩個眼眉做一堆〉。

賞浪兵頭

A-11, 26b-27a, 27b

去時有功歸有賞，後生賞浪我兵頭，
每日差兵輪流轉，未曾冷落我兵頭，
太尉南朝李十六，部兵李十二，
通天李十一，後生賞浪我兵頭，
坐壇一堆鬼，祖師連本師，

中略

今日人家輪流請，兩個眼（眼）眉坐一堆，

賞浪兵頭的結尾部分

A-11, 28b-29a, 29b-30a

人話師公得酒吃，生鐵犁頭得嘴光，
人話師公得肉吃，屋裡便成餓貓兒，
人話師公得錢數，不見師公買馬騎，
祖師父，你本師爺，後生賞浪我兵頭，
公（翁）父師，某某，坐壇，回來賞，回來賞浪我兵頭，
爺師父，某某，開筊師，法某某，撥法師，法某某，證盟師，法某某，

中略

師郎時時叫師父，師父時時護師男，
師男便是藤纏樹，師父便是樹纏藤，
藤纏樹來樹纏藤，生生死死共商量，
生生死死無方（放）過，死死生生無方（放）行，

上村救男男興旺，下村救女女平安，
男也興旺女平安，時時靈應小師郎，

師男出門，打開十二條香花路，條條通得好人家，

大人一年大一歲，小人一歲大過孫，
若有十方人相請，筊頭落地保師男，
保得師男香門旺，香門興旺望神催，

上引部分，後生（師男）感謝祖師與本師，得到他們以及他們所托帶的兵頭之幫助，順利達到還願儀式的目的。賞浪時，文本提起師公貪酒肉錢的幽默表現。據上引文本說，鬼（神）、祖師、本師，做為一堆而坐壇，文本明顯表示他們每一位都有兩個眉毛與眼睛。在很多祖師與師父坐壇的情況下，文本以藤跟樹等巧妙的比喻來形容師父與師男之間的密切關係，又通過投筊方式來保證師男今後宗教活動之活躍興旺⁽⁶⁾。

四、〈脫童歌〉形容師男回復眼睛的力量〈你把眼魂交付我，兩眼化為北斗星〉。

A-11, 61b-62b

脫童歌

前略

立眾聖，
你把人魂交付我，我把聖魂還你神，
聖魂退，人魂番，聖魂速速上本壇，
人魂速速上郎身，時時湧（擁）護小師男，
湧護師男香門旺，流鄉過界救良民，

你把頭魂交付我，師男頭上放毫光，
你把頭（髮）魂交付我，髮亂便成馬尾絲，
你把耳魂交付我，聽聞九州鑼鼓聲，
你把眼魂交付我，兩眼化為北斗星，
你把鼻魂交付我，師男時時聽聞香，

(6) 參看胡起望，2009，《瑤族研究五十年》，中央民族大學出版社，所收，〈論瑤傳道教〉，pp.208-209，胡起望老師也從《開壇書》引用了同樣內容的文本，指出其對師公的幽默與肯定，但是沒有指出引文的儀式文脈位置。

你把口魂交付我，時時口內說文章，
你把脛魂交付我，師男旺（脛）內去偷糧，
你把手魂交付我，朝朝起手寫文章，
你把肚魂交付我，師男肚內自排行，
你把腳魂交付我，師男起腳便行罡，

頭上三魂頭上立，腳上四魂腳下安，
脫便脫，童便童，脫了金鎖，脫金童，
脫了金童，脫金鎖，三朝一七又相逢，

後略

上引是脫童儀節的歌詞。開壇儀式中，師男先要上光。上光後，神魂付體，達到開壇的大目的之後，師男要脫童，將神魂還給神，將他自己的人魂回到自己的身體中。人魂是分別掌管人體各個器官的。若不回來，就不像活著的人了，變成沒有能力的人了。所以一定要讓各器官的魂回來。魂回來後，師男恢復了具有高水平能力的人。在此描寫的各方面的能力，與當做師公的人的高度能力密切聯繫。引文中說，眼魂回來了，他眼睛就變成與北斗星一樣的光亮。眼睛變成七星般的光亮。

同樣內容在掛燈時用的〈變身咒〉中和開天門時用的〈送聖歌〉中看到，如下（下面五、和六、的文本）。變身時，師公的左右眼睛化為左右七星。此也表示師公應該具備的光亮的眼睛力量，好像與脫童時的形容不矛盾，形容得一樣。開天門結束時，描寫了師公的高度能力，也提起眼睛是七星。

五、掛燈時用的〈變身咒〉形容師父的眼睛

〈左眼化為左七星，右眼化為右七星〉。

《上光書》⁽⁷⁾ Z-24, 114b-115a

又（變身）藏身用

勅變吾師身，
頭上化為大葫蘆，頭髮化為松柏如絲，
左眼化為左七星，右眼化為（右）七星，

(7) 原書缺封面，擬題《上光書》，趙金付法師所藏，才族文化研究所文獻 Z-24。此書 1a 看到洪武二字，要注意其源頭在明朝的可能性。

左眉化為左鐵鈎，右眉化為右鐵鈞（鈎），
 左耳化為左太山，右耳化為（右）太山，
 左鼻化為左高山，右鼻化為右高山，
 左口化為左石岩，右口化為右石岩，
 上齒化為（上）鐵鑿，下齒化為下鐵齒（鑿），
 左腳化為左銅板，右腳化為右鐵板，
 左手化為殺鬼火，右手化為殺鬼邪，
 肚內化為大禾倉，小禾倉，
 大腸化為大南蛇，小腸化為小南蛇，
 左腳化為（左）青龍，右腳化為右白虎，
 左邊化為左麒麟，右邊化為（右）獅（子），
 衣衫化為葉，

 大浪丁天，小浪丁地，
 騎（寄）在老君殿上（收藏），奇（寄）在仙人肚內收藏
 三尊界過，羅剛界過，
 靈神尋不見，靈鬼無踪，
 無踪無跡，無跡無踪，
 吾奉太上老君，急急如令勅，

六、開天門結尾時用的〈送聖歌〉形容師父的眼睛〈七星〉。

《叫天書》⁽⁸⁾，62b-64a
 辭別鬼，辭別神，辭別金鑾殿上人，
 你歸陰，我歸陽，你歸陰府判門坐，
 我歸陽間救良民，

 男人修路得長生，辭別東南及西北，
 東南西北辭別了，師男退步下文（雲）梯，

(8) 《叫天書》，pp.212-213，泰國瑤族所用，抄書人董勝利，民國 62 年抄，白鳥芳郎（編），《僑人文書》，講談社，pp.212-213。

一收千兵齊同去，二收陽兵齊團圓，
玉帝高宮上聖，手拿馬鞭上馬背，
錢罡酒禮錢紙，速速上天堂，
下界靈神，叫我下文（雲）梯，

祖師代（帶）郎去，本師代（帶）郎回，
弟子，陰陽師父，同去又同回，

說，去時三車三拜，投罡執決，
回時三車三拜，射（謝）勞陰陽師父，

叩望天師，吹傳地師，吹傳本師，
吹傳師男，本身頭上，
行罡成罡，行決成決，
大浪通天，小浪通地，

師男，口說肚記，肚里聰明，
口是銅鈴，牙是鐵釘，眼是七星，
牛角灣灣，說話不叉（差），
牛角呵呵，說話不錯，

過後以來，
吹專師男，本身頭上，
修求也到，作福也元（圓），

以上都是儀式文獻中不同位置上發現之同一詞彙或同類表現的實在的例子，已舉例說明完了，下面想要寫簡單的總結語。

結語

此論文探討在不同儀節的文本中出現之同樣詞彙或表現，特別注目關於眼睛的表現。方法比較簡單，但通過此種方法，也可以發現如下重要的信息，給我們一個較好的思考機會。

上面舉幾個例子來簡單地介紹了勉系瑶族儀式文獻中的有關眼睛和北斗七星之表現，探討了其內涵。其涵蓋的主題可以說比較廣。關係到祖師的樣態，陰鬼變神的契機，師公本身的能力等不同

方面。

對師男來講，承接師父過來時，或賞浪感謝師父時，實際上與想像中能看到壇坐的很多位師父。據文本內容，師父身體特徵中，被強調的就是他們的眉毛與眼睛，尤其每一位師父的光亮眼睛所發出來的一種做為老師的力量。

又通過上元七官的故事，可以了解到他變為厲神具有強烈個性的祖師之一，決定此種重大變化的契機，是與其死後還留下來的眼睛力量分不開的。

關於師公本身的眼睛，在脫童歌，變身咒，開天門時的送聖歌等內容中，可以看到師公的眼睛應該是與北斗七星一樣很光亮，其可能的涵意，我想師公做儀式時應該所具備的高度能力水平有關的。

在此要提起一個故事與相關的問題意識。我自己也還記得趙金付法師有一次給我們講述過他自己的經驗。就是他的師父趙子鳳老師，晚年雖然身體不佳的情況下，堅持繼續來到自己培養的高足趙金付法師所主持的儀式場，看他如何做儀式⁽⁹⁾。師父親自來看他高足時發出來的眼光，我推測，又嚴格又慈祥，很期待後生將宗教傳統正確地繼承發展下去。

此論文只探討了儀式文本的小一部分內容，就是文本如何形容在壇的祖師們或師父們的眼睛，知道了他們眼睛像七星般地流亮。探討的這些表現不只在單獨出現而在不同儀節位置上反復地多次出現。剛才上面提到的，師父來看師男，是在儀式場內常發生過的現實。儀式文本內容，與儀式場的實際情況，將兩方面統合地理解瑤族的宗教文化，我覺得是很一個很重要的研究方法。此論文想強調，通過此方法，可以深入掌握瑤族宗教文化如何維持發展其豐富複雜傳統之重要側面。

(9) 參看廣田律子 2013，〈湖南省藍山縣勉系瑤族道教儀式調查研究——以表演性項目為中心之考察〉，呂鵬志、勞格文（主編），《〈地方道教儀式實地調查比較研究〉國際學術研討會論文集》，新文豐出版股份有限公司，291 頁。

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月12日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループ C 「生業・技術」

C 組 「生産技術」

从竞生走向共生：六堡茶传承中的多民族交往交流交融与互嵌式发展

——铸牢中华民族共同体意识的广西实践系列之四

广西民族大学 民族学与社会学学院 院长 郝国强
广西民族大学 民族学与社会学学院 硕士研究生 李星莹
广西民族大学 民族学与社会学学院 博士研究生 奉媛

摘要

茶文化是中华民族传统文化的重要组成部分，是各民族交往交流交融的载体和结晶。六堡茶是岭南地区的特色茶，蕴含瑶族与汉族饮食文化的共生之美。在六堡茶文化的变迁过程中，通过“舜帝南巡”“茶箩娘”等民间叙事，岭南先民对中华文化的认同得到延承；通过制茶技艺从瑶族内部家族传承到各民族间师徒传承方式的转变，区域社会中的族际关系从竞生最终走向共生。同时，当前六堡茶从“侨销茶”向“畅销茶”的发展转向有助于多民族互嵌式的产业共同体建设。在铸牢中华民族共同体意识的时代背景下，六堡茶已成为一种富有情感共鸣和精神认同的文化符号。

关键词：六堡茶；竞生；共生；民族交往交流交融

一、问题的提出

2022年10月17日，习近平总书记参加党的二十大广西代表团讨论时，针对六堡茶，他连续提出三个问题：“六堡茶是不是可以泡、可以煮？”“是不是收藏时间越久越好？”“山坪村有自己的茶品牌吗？”^①历史上，六堡茶是广西重要的贸易商品之一，通过茶船古道远销海外，并以其独特的色香味和药用价值在国内外的茶叶市场上享有盛誉。现今，六堡茶制作技艺在2014年被列入国家级非物质文化遗产名录，使这一独特工艺逐渐得到认可。2022年11月，“中国传统制茶技艺及其相关习俗”被联合国教科文组织列入人类非物质文化遗产代表作名录，子项目涵盖六堡茶制作技艺。2023年5月的国际茶日，由文化和旅游部主办的“茶和天下 共享非遗”主题活动在福建省福州市开幕，汇集全国15个省（区、市）的44个各类相关国家级非遗代表性项目的传承人，广西由国家级传承人韦浩群和自治区级传承人陈伯昌代表参加，他们从茶史、茶事、茶缘、茶技、茶具等多个角度全面展示了六堡茶文化的多元魅力。此外，梧州市还积极采取“政府引导、企业主体、茶农参与”“农业生产+非遗文化+旅游”的模式，建立“茶厂+传承人+工作室+培训班+合作社”等多种创新发展模式，形成以茶企为龙头、村级集体经济为特色、种植大户和普通农户相辅相成的茶园建设格

^① 宁黎黎，刘欣颜：《看中国式现代化图景 | 茶香富农》，《央视新闻》2023年3月3日。

局⁽²⁾，以六堡茶产业发展助推铸牢中华民族共同体意识的实践。

近年来，人类的饮食文化与文化认同、食品加工与文化符号、饮食类非遗与民族交往交流交融等关系备受学界关注。食物作为一种具有象征意义的媒介，在特定情境中成为民族认同的重要符号。⁽³⁾通过饮食与民族关系、文化、符号相结合可以分析出某一民族的文化意识⁽⁴⁾，并从历史人类学的视角揭示各民族的交往交流交融。例如，万建中通过历史演进法推演出北京饮食文化中多民族融合的初始状况和演进图式，以证明北京饮食文化是多民族融合的产物⁽⁵⁾；郝国强、何元凯采用历史人类学和叙事学的方法，对广西米粉文化的多重叙事进行意义诠释，发现米粉文化的叙事强化了广西各民族交往交流交融的历史记忆⁽⁶⁾。韦玮、王璐瑶基于贵州黔南共享的地域自然环境、历史文化和生计方式，描绘民族酸食与地域酸食的融合史，以此表现出酸食对当地多民族人群对地域饮食文化认同的情感，⁽⁷⁾等等。

茶作为一个与民族、历史和社会发展紧密相连的重要文化载体，众多学者分别从民族学、社会学、历史学等学科视角对茶文化进行了深入探讨。针对六堡茶，学界主要从民族间茶文化互动⁽⁸⁾、六堡茶的制茶技艺与伦理实践⁽⁹⁾、六堡茶的社会生命史⁽¹⁰⁾等角度切入，专注于探讨六堡茶文化的历史发展与文化传播等。然而，笔者目力所及，学界尚缺乏对六堡茶文化的系统研究，尤其是在文化内涵、历史演变、民族“三交”等方面。因此，本研究以历史人类学和田野调查为主要方法，以广西梧州市苍梧县六堡镇为田野点，进行了为期一年的参与观察。团队成员不仅拜访了文化馆、县政协、六堡茶博物馆、茶叶文化传习基地、传承人工坊、青少年活动中心等相关部门和机构，还收集和整理了详实的民族迁徙、民间传说、传统技艺传承等信息，特别是对18位不同年龄段的六堡茶传承

(2) 阳秀琼，范立强，陈斯雅，芦俊文：《三产融合，六堡茶走出全产业链发展路》，《当代广西》2023年第17期。

(3) 徐新建，王明珂，王秋桂，徐杰舜，彭兆荣，邓启耀：《饮食文化与族群边界——关于饮食人类学的对话》，《广西民族学院学报（哲学社会科学版）》2005年第6期。

(4) 吴燕和：《港式茶餐厅——从全球化的香港饮食文化谈起》，《广西民族学院学报（哲学社会科学版）》2001年第4期。

(5) 万建中：《民族交往与文化交融的历史演进——基于北京饮食文化的视角》，《西北民族研究》2020年第1期。

(6) 郝国强，何元凯：《从民族交融到共同富裕：广西米粉的多重叙事及其意义诠释》，《南宁师范大学学报（哲学社会科学版）》2021年第5期。

(7) 韦玮，王璐瑶：《地域、社会与情感——基于贵州黔南多民族地区酸食的人类学考察》，《青海民族大学学报（社会科学版）》2022年第4期。

(8) 陈勇：《“六堡茶”区域民族茶文化互动研究》，《贺州学院学报》2023年第2期。

(9) 苏娟：《六堡茶农的制茶技艺与伦理实践》，博士学位论文，华东师范大学，2021。

(10) 邵凡晶：《19世纪中期至20世纪中期六堡茶的社会生命史研究》，博士学位论文，中央民族大学，2018。

人进行了深入访谈，旨在从六堡茶文化的演化过程出发，包括其文化的起源、发展过程、传承方式转变等，揭示从瑶族茶到六堡茶的生成逻辑，从民族“三交”视域下解析六堡茶文化蕴含的瑶汉饮食文化的共生之美。

二、从岭南“峒茶”到“侨销茶”：六堡茶文化的多重叙事

叙事是解释性或说明性的描述一个社会、一个时期的故事或表现。专业叙事在某些条件下会转变为大众叙事，进而影响经济事件与历史进程。⁽¹¹⁾从远古时代的神话传说，到文字时代浩如烟海的典籍，再到大众传播时代的各种新闻和文艺作品，人类一直在以“讲故事”的形式描绘或记录人类的生产、生活场景与集体记忆，⁽¹²⁾而故事中的神话和传说都是人们把握世界的重要方式。⁽¹³⁾

（一）六堡茶起源的地方叙事

“六堡茶”得名于其产地六堡镇。在明代初期，保甲制度的推行使得茶叶产区保持了基本稳定，随着清代苍梧县设立多贤乡等十一个乡，多贤乡设头堡、二堡……六堡，六堡所在区域被标记为“茶亭”，为著名的茶叶产销区域，且该地的茶品因质量上佳、独特的浓厚口感获得粤地民众认同，由此得名“六堡散茶”。⁽¹⁴⁾六堡茶承载着丰富的历史传承与文化积淀。六堡镇至今流传着四则民间传说，生动地展示了六堡茶文化的历史底蕴和文化内涵。

一是源于“茶箩娘”传说。

“‘茶箩娘’在我们六堡当地被视为守护神，传说她生前教人们种植、制作六堡茶并教人们以茶致富，死后成为茶神和圣母，专司茶叶的年景及收成，为百姓避灾，带来吉祥和幸福。因此，每年中秋，我们六堡镇都会举行请‘茶箩娘’的仪式，向她祈求福祉和来年茶叶得以丰收。”⁽¹⁵⁾

二是六堡茶源于龙母传说。

“很久以前，龙母在苍梧帮助百姓后升仙归来，为改善我们六堡镇百姓困苦的生活，龙母呼唤农神在六堡镇黑石山下播下了茶树种子，因此地泉水清澈明亮，这棵茶树茂盛生长，茶叶被村民卖给山外的人，换取生活所需。此后，人们将种子散播开来，形成了漫山遍野的茶树林，遍布六堡镇，

(11) [美] 罗伯特·希勒：《叙事经济学》，北京：中信出版集团，2020年，第1-3页。

(12) 郝国强，何元凯：《从民族交融到共同富裕：广西米粉的多重叙事及其意义诠释》，《南宁师范大学学报（哲学社会科学版）》2021年第5期，第55页。

(13) 郑佳佳：《故事讲述的人类学意义》，《广西民族大学学报（哲学社会科学版）》，2023年第4期。

(14) 彭庆中：《中国六堡茶》，北京：中国科技技术，2010年，第21页。

(15) 访谈对象：梧州市苍梧县文化馆 SRF，苍梧县六堡镇人，访谈人：李星莹；访谈时间：2023年8月13日。

所产茶叶就被人们称为‘六堡茶’”。⁽¹⁶⁾

三是源于“舜帝南巡”传说

舜帝南下至“苍梧之野”，在带来华夏农耕文明和传授纲常伦理的同时，也传播了茶的生产 and 茶文化。⁽¹⁷⁾南巡期间，他从潇贺古道进入六堡镇塘坪村，在塘坪村传授种茶技术，并亲手种下第一棵茶树。后人为了纪念舜帝传茶，就把他所种的茶叫作六堡茶，把这个小村称为“舜口”。⁽¹⁸⁾

四是源于“五十万秦军南下”传说

传说秦始皇平定岭南期间，分批次陆续派遣近 50 万大军进驻岭南，因岭南地区一直以来都受瘴气侵袭，行军面临着严峻的气候条件，其中包括潮湿闷热的气候，容易引起水土不服。为了祛湿清热、减轻身体湿气和高温所带来的不适，秦人学习岭南先民采集草药、茶叶并熬煮成汤水饮用，并在效仿过程中将先进的农业技术传入岭南，使岭南地区逐渐形成了零散种植茶叶的习惯。这一过程中，秦人不仅适应了当地的气候条件，还促进了文化交流和种茶、制茶等相关技术传播。⁽¹⁹⁾

综上，六堡镇流传着与六堡茶相关的传统民间故事和神话，这四则地方叙事蕴含着民族交融与文化共生的内在逻辑。“茶萝娘”作为瑶族的土地神信仰，反映了六堡瑶族有关六堡茶的历史记忆、文化认同与生态智慧，展现了瑶族对自然的敬畏和依赖，也体现了瑶族对生态的保护和平衡的追求；“龙母传说”是中华龙文化在岭南的延伸，是中华民族多元文化融合的结果，也是六堡茶文化融入中华文化的直观反映；“舜帝南巡”和“五十万秦军南下”则呈现了岭南先民对中华文化的认同，并将这种认同融入六堡茶的地方叙事中。这些民间故事和历史事件的交织，不仅展现了六堡茶文化的深厚底蕴，也彰显了历史上岭南一带对中原文化的认同与吸纳。随着时间的流逝，六堡茶从一个地方特产发展成为中华茶文化中的重要组成部分，不仅传承了区域性的传统文化，也成为了中华文化创新融合的典范。

（二）六堡茶演化的历史叙事

六堡镇及周边地区有着悠久的产茶传统，庄晚芳教授考证，六堡茶产制历史可以追溯至 1500 多年前，大约在南北朝时期⁽²⁰⁾。因岭南自古以来多瘴气，先民为适应环境，采摘草药煎熬成汤，以消暑祛湿、清热解毒。西汉至南朝，因中原战乱，广信地处偏僻且安定，吸引了大批中原名仕南迁，并

(16) 该数据由广西壮族自治区梧州市苍梧县六堡镇镇人民政府提供。

(17) 梁直：《六堡茶的前世今生》，《文史春秋》2019 年第 8 期。

(18) 童团结：《六堡茶：黑茶中的瑰宝》，《三月三——故事王中王》2018 年第 3 期。

(19) 访谈对象：梧州市苍梧县文化馆 ZXL，苍梧县六堡镇人，访谈人：李星莹；访谈时间：2023 年 8 月 14 日。

(20) 于春燕：《六堡茶韵·中国红》，南宁：广西科学技术出版社，2018 年，第 29 页。

将中原文化、经济和技术带入，推动岭南、交广一带饮茶文化和制茶技术的发展，并在此基础上掀起岭南地区崇茶、饮茶文化，以及以茶待客之风，在《茶经》引用《桐君录》中的记载称：“南方有瓜芦木，亦似茗……而交广最重，客来先设。”⁽²¹⁾这段记载表明了茶在岭南地区的地位逐渐兴起，甚至成为待客礼仪和款待客人的重要饮品。

中唐“茶道大行”之后，茶饮之风自南而北地盛行全国。⁽²²⁾六堡茶作为一种独特的黑茶，也随之传播开来，逐渐融入人们的日常生活，成为不同文化交流的纽带。宋元以前，岭南一带野生茶树广泛分布，茶叶大致上是按照产区来划分，获得广泛认可的主要是长江中下游一带的茶叶，六堡镇的茶叶基本上仍属于峒茶⁽²³⁾之列，尚未广为人知。⁽²⁴⁾后因气温变化，岭南茶因出茶时间早、茶品质量上佳，外加交通运输便利、费用低等多种因素逐渐崭露头角，融入了中国饮用茶行列之中，并在岭南地区、中原地区迅速流通，声名鹊起。由此，使六堡山区所产的紫芽品种首次在史料中得以记载，即《太平寰宇记》·岭南道·封州·土产中记载的：“春紫笋茶，夏紫笋茶”。⁽²⁵⁾

清代以后，六堡茶不再只是一种产品，更成为中华饮食文化的代表之一。清同治年间的《苍梧县志》中就有记载：“茶产多贤乡六堡，味醇隔宿不变，茶色香味俱佳。”⁽²⁶⁾这一时期，六堡茶以散茶的形式广泛售卖，凭借其独特的风味、耐保存和不易馊等特点，成为当时茶叶市场上的瑰宝。根据《广西通志稿》的记载：“六堡茶在苍梧，茶叶出产之盛，以多贤乡之六堡及五堡为最，六堡尤为著名，畅销于穗、佛、港、澳等埠”。⁽²⁷⁾在《六堡茶大观》中记载，“六堡镇合口街设立固定的六堡茶叶收购点，有文记、万生、同盛、悦盛、兴盛等五家茶庄，其中一半以上的总号分布在广东各地，前来收购的茶商主要来自广东、香港等地”⁽²⁸⁾，这些资料为汉族茶商对于六堡茶外销支持的佐证。

随着梧州六堡茶的产量逐步提高，六堡茶开始在西江流域逐渐传播开来。在制茶技艺方面，六堡镇茶农秉持传统的制茶工艺，即“采摘鲜叶——杀青——揉捻——堆闷——复揉——干燥——自然发酵——制成毛茶”这一流程。这个制茶过程注重自然发酵，为茶汤带来醇厚口感。由此在广

(21) [唐]陆羽：《茶经》，张则桐注解，陕西：三秦出版社，2020年，第87页。

(22) 马士成：《六堡茶大观》，桂林：漓江出版社，2016年，第40页。

(23) 因乾隆年间所刊《梧州府志》载：“茶，梧属山间皆产，种者少。岑溪大峒山巅有之，叶粗味厚，故有峒茶之名”，而岑溪之峒茶即六堡茶，两地相邻，所产茶品类也一致。

(24) 陈勇：《“六堡茶”区域民族茶文化互动研究》，《贺州学院学报》2023年第2期，第54-65页。

(25) 王文楚：《太平寰宇记》，北京：中华书局，2007年，第3139页。

(26) 苍梧县志编纂委员会：《苍梧县志》，南宁：广西人民出版社，1997年，卷之十食货志物产二十二。

(27) 袁柳，杜娟：《六堡的地名及其茶叶产销运的历史轨迹》，《文化学刊》2018年第11期。

(28) 马士成：《六堡茶大观》，桂林：漓江出版社，2016年：第40页。

东、香港等地区受到了广泛认可，被誉为“陈茶”“桂青”“四钱茶”“大叶”。⁽²⁹⁾晚清时期，鸦片战争的爆发导致大量华工涌向南洋谋生。在潮湿的矿井中工作使得许多华工遭受腰酸背痛、风湿疼痛等疾病的困扰。在那个医疗资源匮乏的时代，六堡茶常被视为一种药用良方，以其卓越的祛湿调肠胃功效而闻名，成为拯救“落南洋”华工性命的奇迹之物，被赞誉为“保命茶”。由于价格低廉、船运便利等因素，六堡茶迅速走红，并大量出口至马来西亚、新加坡、印度尼西亚等地。在此时期，六堡茶因其广泛的出口而被称为“侨销茶”。

在1979年之前，六堡茶长期未被准确确定性与归类，一直被泛称为“其他茶类”。直到2016年，国家依据标准的明确定义，将六堡茶划分至黑茶一类，并为其设定了独特的品种、工艺、等级等评判标准。这一划分不仅为六堡茶的发展提供了清晰的指引，也意味着六堡茶正式纳入中国茶文化的体系中。改革开放以来，越来越多的人纷纷加入茶文化的体验中，茶已经不仅仅是一种饮品，更成为人们追求品质生活和文化交流的象征。由此，现代市场的需求对于制茶速度提出了更高的要求。在制茶过程中，为了达到醇厚口感的要求，充分的发酵时间是不可或缺的。然而，长时间的发酵也带来了制茶周期的延长，如果每一批茶都需要发酵5年、10年甚至20年，显然现有的制茶速度无法满足市场的迅速增长。为了解决这一矛盾，现代工艺的引入成为一种有效的解决方案。

“通过运用现代工艺，制茶周期得以缩短，同时仍然能够保持茶叶的品质和口感，发酵的茶叶所制成的茶汤口感与自然发酵的茶汤也近乎相同。由此，山坪村的茶农、茶商与外部乡镇进行了紧密的合作。六堡镇在保持传统制茶工艺的基础上，将茶叶制成毛茶，而后续的工序和售卖则由外部合作方负责。相较之下，六堡镇以外的地方更多采用现代工艺，他们收购山坪村生产的毛茶，然后通过蒸压发酵技术进行筛选、拼配、渥堆、汽蒸等工序，最终制成成品茶；或采用冷水渥堆发酵的方法，从初制的毛茶中筛选、分拣、拼配，经泼水渥堆、发酵、汽蒸、干燥、晾置、洞穴陈化等多个工艺步骤，制成最终的成品茶，再进行售卖”⁽³⁰⁾

六堡茶以其悠久的历史和独特的制茶工艺在不同历史时期都发挥着重要作用，既连接了不同地域和不同民族，成为一种跨越时空的文化纽带，转变为广西各民族的共创共享共传文化符号；又在市场化进程中，推动瑶族茶农与汉族茶商、传统技术与现代技术的紧密合作，形成一种多民族互嵌式发展的产业共同体，推动六堡茶产业的快速发展，为不同地域和民族的文化交流提供了可贵的范例。

三、从竞生到共生：六堡茶传承中的民族交融

六堡镇有16个村和1个社区，共242个村民小组，总人口2.9万人，主要是汉、瑶两个民族的聚

(29) 彭庆中：《中国六堡茶》，北京：中国科技技术，2010年，第21页。

(30) 访谈对象：六堡镇山坪村村委ZXL，六堡镇山坪村人，访谈人：李星莹；访谈时间：2023年8月15日。

居地。汉族主要分布在六堡、合口、大中、高规、梧洞、大宁等地，而瑶族则主要居住在山坪瑶族村委会所辖的旭勾、龙富、冲泣、山坪、石牛、山槛、界板、应深和竹较等地。其中，瑶族人口为 501 人，属于平头瑶支系，而汉族则有 28499 人，六堡镇茶园种植面积约 58528 亩，茶农从业人员约为 5000 人。⁽³¹⁾

(一) 六堡瑶族的发展与变迁

瑶族在苍梧县经历了漫长的发展过程，与周边民族经历了从冲突到融合，从竞生到共生的演变过程。在封建王朝时期，瑶族常被冠以“生瑶”“熟瑶”等许多不同的称呼。不服封建政府管束、不入版籍、不纳赋税的被称为“生瑶”，接受封建政府招抚、守边隘又“服王化、供租赋”、编户纳粮的被称为“熟瑶（也称良瑶、粮瑶、民瑶）”。⁽³²⁾其中，“生/熟”是封建王朝在针对具体、特定的民族之不同部分的指称，是对异民族内部差异性的描述，所谓“生/熟”乃是其接近汉文化的程度和距离的不同。⁽³³⁾作为茶农的六堡瑶民在历史上从“生瑶”向“熟瑶”的转变是一个复杂的过程，涉及不同时期的诸多因素，如民族政策、经济发展和社会交流等。

1. 六堡瑶族的迁徙路径

据有关记载，瑶族“祖居深山”，南岭地区崇山峻岭，因此有“南岭无山不有瑶”的说法。地处南岭走廊的六堡镇，活跃着一支以“游耕”为主要生计方式的瑶民，这支瑶民最早于宋末从“黔中五溪”开始陆续迁入。起初，一部分瑶民是宋至道元年（995 年）从广东调遣来征战的士兵定居后形成的，居住年代最为久远⁽³⁴⁾；据《梧州府志》“卷之八·瑶壮”却记有岑溪县连城乡“（瑶人）有事则折箭、斫钱，以为约誓。豪民募使耕山，谓之招主，官府勾摄，不听命，招主谕之，则往”记载⁽³⁵⁾，描述了当地豪民招主“募瑶屯耕”，从细节上挖掘，后一部分是元代至大元年（1308 年）应地方豪强士绅之邀约，以瑶弩手的身份由粤北清远市一带进入苍梧县协助剿贼，之后依约获得给赏，并定居下来的，是较早迁徙至苍梧六堡一地，并产制茶叶的瑶族群体⁽³⁶⁾；一部分是元、明、清期间因统治者驱赶或民族争斗迫迁从湖南多地（道县、江华、江永）、广东以及广西恭城等地迁入。⁽³⁷⁾大约至明代成化七年（1471 年），先迁徙而来的土瑶支系或者陆续迁离，分散至贺县、昭平等地，或者部分编

(31) 该数据由广西壮族自治区梧州市苍梧县六堡镇镇人民政府提供。

(32) 范玉春：《汉语支瑶族的分布及族源初探》，《广西师范大学学报（哲学社会科学版）》2004 年第 1 期。

(33) 周星：《古代汉文化对周边异民族的“生/熟”分类》，《民族研究》2017 年第 1 期。

(34) 梧州地区志编纂委员会：《梧州地区志（上）》，南宁：广西人民出版社，2011 年，第 211 页。

(35) 吴九龄：《梧州府志》，史鸣皋，纂修。乾隆三十九年（1774 年）刻本，第 180 页。

(36) 陈勇：《“六堡茶”区域民族茶文化互动研究》，《贺州学院学报》2023 年第 2 期，第 54-65 页。

(37) 梧州地区志编纂委员会：《梧州地区志（上）》，南宁：广西人民出版社，2011 年，第 211 页。

入户籍与后迁徙来的壮族、汉族聚居生活。⁽³⁸⁾在明末清初，土瑶先民从广东迁到广西梧州定居多年，随着苍梧一地的民族迁徙流动，后迁到贺州八步区贺街⁽³⁹⁾，而入贺的土瑶基本上是入苍剿贼瑶族的后裔，据黄淑娉、龚佩华两位学者的调查发现，贺州土瑶自述曾在梧州、苍梧、六堡一带居住，并且有种植、加工六堡茶的传统。⁽⁴⁰⁾此外，一部分瑶民源自贺县辣牛山，历经肇庆顶、应深、通天、冲元、水泵等山地定居。部分抵达六堡后，已传承七代，近200年历史。截至1985年底的统计显示，瑶族在该地共有36户，346人，分散居住在旭勾、龙富、冲碰、山平、石牛、山濑、介板、应深、竹较等山寨。⁽⁴¹⁾

2. 六堡镇瑶汉关系的变迁

六堡镇瑶族在历史上经历了从“生瑶”到“熟瑶”的演变，以及政治、经济和文化的多层面对象变动。宋代，在“牌、甲、保”的制度下，瑶族迁入苍梧县后选择分散在山区，定居深山老林，与统治者保持一定的距离，不入户籍，不服徭役，不服从王化政策。因此，当地瑶族多为“生瑶”，普有“瑶归瑶、朝归朝”的抗争观念，形成了一种游离于王朝之外的民族意识，即瑶族内部自我管理，瑶族事务不纳入中央政权的统一管理，而中央对于“生瑶”以招附和防止扰边为主，不强求他们的归附。⁽⁴²⁾明代，保甲制度和宽松的民族政策使得一些瑶族逐渐归附当地政府，并使其从“生瑶”向“熟瑶”过渡。万历六年（1578）总督凌云翼抚定七山地区（在今苍梧新地一带）的瑶壮，使更多的瑶民归顺中央，这些“熟瑶”需要承担一定的赋役，编民计田入赋，中央也提供了一定的优惠政策，如免去驿夫银、减少岁征等⁽⁴³⁾，这些政策有助于减轻瑶民的负担，并在后来的时间内，推动瑶族逐渐融入汉族社会。同时，从明中期到清代雍正、乾隆时期，六堡茶的发展进入“兴起阶段”，在这个时期，六堡茶的茶园规模逐步扩大，六堡茶开始在广东特别是西江流域传播，这对于当地经济的繁荣和瑶族社区的发展都起到了积极作用。⁽⁴⁴⁾

民国时期，六堡茶的发展受到了外部冲击。同时，民族歧视加剧了瑶族的困境。在这段时期，瑶人常被污名化，并受到言语和行为上的双重歧视。瑶族被划分为甲，其在行政和社会体制中的地位

(38) 梧州地区志编纂委员会：《梧州地区志（上）》，南宁：广西人民出版社，2011年，第211页。

(39) 陈容娟：《空间与秩序：贺州土瑶安龙仪式与村落空间的构建》，硕士学位论文，广西师范大学，2016年。

(40) 陈勇：《平桂土瑶契约意识与行为的研究——基于土瑶《入山照》等文献的考察》，《贺州学院学报》2022年第4期。

(41) 中国人民政治协商会议苍梧县委员会文史资料编辑室：《苍梧文史第2辑》，南宁：广西人民出版社，1986年第58页。

(42) 刘迎胜、姚大力：《清华元史——第七辑》，北京：商务印书馆，2022年，第204-238页。

(43) 苍梧县志编纂委员会：《苍梧县志》，南宁：广西人民出版社，1997年，第6页。

(44) 彭庆中：《中国六堡茶》，北京：中国科技技术，2010年，第21页。

边缘,为本族人担任的甲长职位也受到限制,需通过贿赂才能获取,为了躲避歧视,瑶族通常成群结队到六堡趁圩进行买卖,不敢个人外出,而平时几乎活动于深山野岭,与外界几乎隔绝。⁽⁴⁵⁾“抗战结束后,由于多种政治原因,六堡镇向外运输的海路、水路阻塞,使得六堡茶能销售的范围日渐缩小,它的发展也停滞不前。与此同时,六堡茶的价格降入冰点,茶农无法靠制茶、卖茶来维持日常生活,很多人都把家中的茶树砍了种八角、肉桂等经济作物,多弃茶而经营其他,使得产茶量从繁荣时期的平均每年的5450担减少至1500担左右,古法工艺也基本‘销声匿迹’,甚至有学者称六堡茶已经断代。”⁽⁴⁶⁾

在20世纪初,中国共产党针对广西北部瑶、苗少数民族地区,总政治部发布了《关于瑶、苗民族工作的原则指示》《关于对苗瑶民族的口号》和《关于争取少数民族的指示》,即号召“反对汉族对少数民族的压迫和剥削,宣布要实行各民族一律平等和民族自决权”⁽⁴⁷⁾,建立平等、团结、互利的新型民族关系。新中国成立后,对广西少数民族进行了民族关系的调整和政策支持。政府发布了一系列文件,禁止带有歧视性的称谓,废除民族压迫政策,以民族区域自治制度为基础,推进少数民族自治地方的建立,保障杂居、散居少数民族的平等权利。此外,在经济建设、民族识别、少数民族干部培养工作上制定多项少数民族照顾政策。围绕党中央提出的“中华各族人民亲如一家,共同实现伟大复兴中国梦”指示,以坚持共同繁荣、团结奋斗为主题,制定《“土瑶”聚居贫困村脱贫攻坚三年行动方案》等相关政策,牢固树立中华民族共同体意识,促进各民族交往交流交融,响应共同富裕的号召。这一过程中,政策调整、社会变革和文化交流等因素相互交织,为瑶汉共同发展六堡茶产业奠定了深厚基础。

(二) 从家族传承到师徒传承

瑶族广泛分布在广西、湖南、云南等地,其丰富的饮茶历史和制茶传统可以追溯到唐宋时期,甚至更早。最初,六堡茶最早由粤北应地方士绅之约入苍剿贼的“土瑶”支系民众制作,这些瑶族成员长期在高山林密之处生活,通过将高寒系原种茶进行驯化,种植在山腰处,培育了适应当地气候的特殊茶树。由于山区气温较低,茶芽持嫩时间较长,制成的茶叶质地独特,通过繁琐的工艺,六堡茶的茶叶得以进一步完善和提炼,使其口感清纯霸气,回甘持久。居住在六堡镇的平头瑶,是较早

(45) 中国人民政治协商会议苍梧县委员会文史资料编辑室:《苍梧文史第2辑》,南宁:广西人民出版社,1986年第58页。

(46) 访谈对象:苍梧县六堡镇镇人民政府 QJJ,苍梧县六堡镇山坪村人,访谈人:李星莹;访谈时间:2023年8月15日。

(47) 卢献匾:《广西民族工作和民族问题研究报告》,南宁:广西民族出版社,2012年版,第25页。

迁徙至苍梧六堡一地并产制茶叶的瑶族群体⁽⁴⁸⁾。在六堡镇的瑶族社区中，茶文化对当地人来说是珍贵的，瑶茶被认为是最圣洁、最养生的益茶。同时，六堡茶以其季节分明的特性，分为“社前茶”“清明茶”“生产茶”“霜降茶”，在民俗中则有“女儿茶”“陪嫁茶”“老茶婆”“茶谷”等别称，展现了茶的丰富多样。这不仅是一种饮茶文化的体现，更是地方文化、民族文化的丰富表达。

山坪村是瑶族聚居的村落，全村居民都是平头瑶。他们将六堡茶视为神圣之物，异常敬仰。这种敬仰表现在他们不仅仅把最好的茶叶留下来用于祭祖、祭年神、祭土地神，还将纯手工操作六堡茶从原茶到成品的制作技艺，通过口传身授的方式代代相传。在六堡茶制作技艺的发展过程中，传承是文化作用的形态之一，是六堡茶文化场域能够生存和发展的重要动因，是最核心的部分。⁽⁴⁹⁾在制茶技艺的传承过程中，六堡茶呈现出两种主要的习得形式，即家传和师传。在过去，传承主要通过家族内代际传递，随着六堡茶制作技艺的发展，逐渐演变为师传。这两种传承方式形成了一个相互补充、相互促进的传承网络，为六堡茶的传统技艺注入了新的活力和创新。

在中华人民共和国成立前，当地的瑶族遭受了来自政策、言语和行为层面的多重歧视。这种歧视体现在他们被贴上贬义标签，甚至在日常生活中，瑶族的物品都受到汉族的拒绝。这种歧视不仅限于言辞，还表现在行为上，如在日常行走中避让瑶人。这样的不公平对待导致瑶族生活艰难，被迫生活在相对隔绝的深山野岭中。此时，由于瑶族与其他关系民族之间的关系紧张，六堡茶制作技艺仅在瑶族内部传播，使得六堡茶文化在一定时期内相对封闭，形成了瑶族内部的家族传承体系。

中华人民共和国成立后，《中华人民共和国宪法》规定：“中华人民共和国各民族一律平等”。1949年冬季，人民政权在瑶族民众聚居地区建立了基层组织——居民小组，由瑶族人担任组长。而后，再从小组逐步发展到六堡茶生产合作社和生产队，再到实行体制改革，形成了山平瑶族大队，这些组织的建立和发展使得六堡茶文化传承在社会空间中得以传承和演变。这一时期，瑶族社区逐渐融入国家的社会主义建设，与周边汉族、壮族等民族形成了和谐稳定的新型民族关系，共同推动了六堡茶产业的快速发展。在六堡镇，祝雪兰作为山坪村的书记，出生于瑶族“制茶世家”，是六堡茶制作技艺自治区级代表性传承人。为了发展六堡茶产业，她办起了“茶园讲堂”，传授“三炒三揉”的制作工艺，打破了家族传承。来自隔壁塘坪村的汉族群众韦洁群，通过向祝雪兰的外公拜师学艺，投身于六堡茶文化和产业的宣传与推广，最终成为六堡茶制作技艺国家级代表性传承人。

(48) 陈勇：《“六堡茶”区域民族茶文化互动研究》，《贺州学院学报》2023年第2期，第54-65页。

(49) 赵世林：《论民族文化遗产的本质》，《北京大学学报：哲学社会科学版》2002年第5期。

表 1: 六堡茶传承谱系表

代别	姓名	性别	民族	传承方式	代际传承阶段
第一代	祝 JT	男	瑶	家传	
第二代	祝 WZ	男	瑶	家传	第一阶段 瑶族家传
	祝 YY	男	瑶	家传	
第三代	祝 DA	男	瑶	家传	
	祝 ML	女	瑶	家传	
第四代	祝 XL	女	瑶	家传	第二阶段 瑶汉师传
	韦 JQ	女	汉	师传	
	禩 YL	女	汉	师传	
第五代	石 L	女	汉	家传	
	石 RF	女	汉	家传	

表 2: 六堡茶制作技艺现有传承人统计表⁽⁵⁰⁾

级别	人数(位)	民族	代际传承阶段
国家级	1	汉族	
区级	9	瑶族 1 人, 汉族 8 人	第三阶段
市级	7	汉族	民族间互相传承
县级	235	瑶族 5 人, 壮族 3 人, 汉族 227 人	
总人数: 252 位			

目前,六堡茶的传承方式逐步从过去的家族传承向师徒传承过渡。据调查,六堡茶制作技艺共有 252 位传承人,分别来自瑶族、壮族、汉族。从家族内部传承的农家茶到如今各民族共享共创共传的六堡茶,体现了各民族优秀文化的交融共生以及六堡茶文化的多元性和协作性,进一步凸显瑶、壮、汉等民族的共生关系。这种文化的创新交融不仅增进了民族间的精神联系和文化交流,也为六堡茶文化和产业的发展注入了新的动力。

四、产业共同体: 六堡茶产业中的民族互嵌式发展

六堡茶展示了社会、经济和文化三个层面的交织,近年来发展壮大为一个产业共同体。六堡茶产业共同体,是指六堡茶的种植者、制作者、经销商、消费者等各方利益相关者,共同参与六堡茶的生产、流通、消费和文化遗产,形成了一种基于六堡茶的社会经济网络。六堡茶产业共同体是各民族

(50) 该数据由广西壮族自治区梧州市苍梧县六堡镇镇人民政府提供。

互嵌式发展的结果，在跨民族传承和协作的过程中，实现了瑶族、壮族和汉族等民族的利益共享和协同发展，对六堡茶文化传承和民族团结起到积极作用。2023年，梧州市茶业呈现出令人瞩目的繁荣景象。全市茶园总面积已扩展至31.22万亩，其中通过SC认证的茶企达到114家。最引人注目的是，六堡茶年产量突破3万吨，综合产值更是突破了160亿元，凸显出梧州六堡茶的强大市场竞争力。其区域公用品牌“梧州六堡茶”更是以44.03亿元的价值被评为“2023最具品牌发展力品牌”，成为茶业品牌发展的佼佼者。⁽⁵¹⁾

（一）经济互嵌

在梧州市的产业化进程中，通过广泛的商贸网络，各地区、各民族实现了互利合作，促使六堡茶从过去的“侨销茶”转变为今天的“畅销茶”。在这一进程中，梧州市多次举办六堡茶论坛交流活动，加强与东盟国家及粤港澳大湾区等地区的沟通交流，与多个国家建立起固定的茶叶展销关系，促使六堡茶在全国范围内近30个省（自治区、直辖市）畅销，并成功远销到马来西亚、韩国、日本、波兰、印度尼西亚、泰国、文莱、斯里兰卡等国家。据广西梧州六堡茶股份有限公司负责人CYJ先生介绍：

“我们公司成立于2016年，拥有标准化茶园基地608亩，主要与南宁、广州、上海等地的经销商合作，后将产品销往东盟、欧美等地。同时，在多地联合举办“共植六堡茶”“六堡茶种植大讲堂”

“签订跨区域协作机制”等系列共建共融活动，以产业振兴促进两地各族群众幸福家园建设，以旅游兴旺促进各民族广泛交往全面交流深度交融，铸牢中华民族共同体意识。”⁽⁵²⁾

经济互动与交往是多元民族社会的客观需求和现实动力。⁽⁵³⁾位于六堡镇大朗组的大生茶厂，以附近的自然条件和技术优势，以及当地居民的擅长种茶和制茶的传统而著称，是六堡茶的一个中心产区。在访谈时，CKX说道：

“我们大生茶厂的建立，有着源远流长的传统，可以追溯至清朝康熙年间，承载着六堡茶制作几个世纪的历史，我们代代从事茶叶种植，对六堡当地传统茶制作拥有深厚的情感。大生茶厂最初是由广东茶商与当地梁氏族人合作开设的。广东方面负责提供资金和茶叶销售，而梁氏族人则负责茶叶采购和加工。在当时，镇里几个村庄的茶叶基本上都由我们收购，在如今只有我们有记录显示曾前往村庄采购茶叶。

不仅如此，在我们茶厂发展最佳时期，我毅然创建了六堡茶制作技艺传习所，定期开设培训班，无偿传授祖传的古法制茶经验和改良技术。来自附近茶农、区内其他城市的茶叶爱好者以及广东、黑

(51) 郭俊杰：《梧州六堡茶：点“叶”成金 脱贫致富助增收》，梧州日报，2023年10月17日，第4版。

(52) 访谈对象：CYJ，梧州市，访谈人：李星莹；访谈时间：2023年8月15日。

(53) 李稳稳：《他者之镜：近代西方人视野下安多地区民族交往交流交融》，《北方民族大学学报》2023年第3期。

龙江、北京、四川、上海等地的茶叶爱好者甚至包括来自国外如马来西亚、韩国、匈牙利的友人，都前来我这里学习。在过去的五年里，我们累计培训指导人数超过 100 人。采用“公司 + 农户”模式扶持手工制茶的 50 多户农户，以合作社形式培训 18 户农户成为传统制茶能手，帮助他们发展集体经济，提高了农民的收入。

最后，我们茶厂探索了“茶厂 + 合作社”的模式，年产 25 吨优质六堡茶，年产值约 300 万元。这为当地创造了更多就业机会，提高了村民的生活水平，同时也丰富了六堡镇的民族文化和经济。”⁽⁵⁴⁾

六堡茶产业的发展在梧州市不仅是岭南地区各民族互嵌式发展的缩影，更是促进各民族交往交流和经济合作的桥梁。通过建立广泛的商贸网络，六堡茶从传统的“侨销茶”成功转型为“畅销茶”，体现了不同地区、不同民族资源整合和互利共赢的经济模式。梧州市的各种六堡茶论坛和跨地区交流活动不仅加强了与东盟国家及粤港澳大湾区的联系，还促进了文化和经济的互动，为地区经济全面发展提供动力。更重要的是，六堡茶的蓬勃发展强化了中华民族共同体意识，其在促进民族间经济合作和文化共享中的作用，不仅提升了其国内外影响力，也成为加强民族团结和国家统一的有效途径。总而言之，六堡茶产业的这种模式不仅为中国茶产业乃至多元民族社会的和谐共处和共同繁荣提供了宝贵经验，也展现了中国特色社会主义在经济和文化融合方面的成功实践。

（二）文化互嵌

六堡茶文化在梧州代代传承，不仅是一种饮茶的方式，更是一个连接不同民族的纽带。这种连接在各种互动仪式中得以彰显，民众通过茶文化的庆祝、茶会和共享茶的仪式来传递情感、理解差异，并建立紧密的联系。每年立春后的第五个戊日，六堡镇的春社日“分肉”祭茶神传统是六堡茶文化中的独特仪式。这一传统源自当地的传说“太公分猪肉，人人有份”，传达了人们对神灵的深切信仰。在这一仪式中，社肉被传递至家庭餐桌，成为家庭团聚和共享的象征。这样的庆典和仪式早已融入了当地文化，特别是在茶事中，已经成为六堡茶文化不可或缺的一部分。尽管现代文明的浪潮对一些传统习俗造成了一定冲击，但春社日仍然在当地文化中焕发生命力。

外来茶商的融入，使当地春社节的气氛变得愈加浓厚。在收茶的季节，六堡镇的合口街、马练坪等多处都曾设过茶叶收购集市。六堡镇合口街的茶庄，大多兴建于清代光绪年间，起初主要由来自广东、香港的茶商兴办，其中多数是客家人。由于当时在合口街收茶的客商、茶庄很多，竞争甚是激烈，为了保证收到更多更好的六堡茶，很多茶商各出奇招，为掌控一部分茶农的手茶货源，这些茶庄融入当地文化，加强构建梧州当地的人际网络，开始庆祝春社日。在祭祀那天，外地茶商以及茶庄老板会购买乳猪，并率领家人和员工前往庙宇祭祀，到江边祭拜神明，最终将乳猪肉奉献于茶园的

⁽⁵⁴⁾ 访谈对象：传承人工作坊 CKX，苍梧县六堡镇塘坪村人，访谈人：李星莹；访谈时间：2023 年 8 月 17 日。

茶树下。仪式结束后将乳猪肉供给茶农和客家人共同享用，并将剩余部分分发。这种传统做法不仅是为了庆祝春社日，更体现了人际网络构建和资源共享的智慧，这种互动反映当地六堡茶文化对社区凝聚力和文化多元性。

除此之外，“互动仪式构成了社会和群体关系的动力来源，而仪式则被视为情感传播的媒介。”⁽⁵⁵⁾ 其中，情感是中华民族共同体连接的基础因素，它在仪式传播中起到重要作用。⁽⁵⁶⁾ 例如，六堡茶与民间艺术之间有着紧密而深刻的联系，而茶乡的各个节日庆祝活动，如赛会、饮酒、斗唱采茶调等风俗，六堡茶文化与生活紧密交织，为茶乡的人们提供了一种愉悦的方式来传承和庆祝他们的传统。采茶歌，作为一种重要的民间艺术形式，在这一进程中起到了促进作用。在六堡镇，瑶族采茶歌主要在山坪茶区和狮寨岛朝大昌茶区传唱，使用瑶族语言演唱，通常是多人无伴奏的清唱或男女对唱。尽管曲调并不复杂，但和声婉转优美，经常采用歌谣的形式。对于汉族采茶歌，它主要集中在苍梧与贺州交界的小水茶区，通常以山歌的形式传唱。梧州当地的瑶族和汉族采茶歌在内容上有许多共通之处，经常讲述各地区的民间故事、传说、风俗民俗和乡间趣事，融合了民族情感。通过歌谣和山歌的传唱，为各个民族提供了一种互动和交流的途径，使人们能够更好地理解彼此的文化差异，进一步加强了不同民族之间的情感联系，促进文化的交融。

（三）心理互嵌

心理互嵌是各民族心理上的相互认同和情感上的相互亲近，以及作为中华民族共同体成员的归属认知和情感依恋。⁽⁵⁷⁾ 六堡茶的传播和发展，不仅仅是物质层面的传递，更是心理上的联系和文化上的认同。

DBJ 先生是将六堡茶传遍南洋的茶庄老板 DYC 的侄子，在听到六堡茶文化认同时，他说道⁽⁵⁸⁾：

“晚清时期，中国社会陷入动荡，民生艰难。同时，国内茶叶市场不景气，六堡茶销路受损，茶园大面积荒废。在这个困难时刻，我伯伯作为六堡镇英记茶庄的老板，得知南洋有大量华工前往开采锡矿，因环境不适应，许多人患上发烧、痢疾等病症。而六堡茶具备药用特性，能够缓解这些症状，伯伯便决定带着十几名伙计将积压的茶叶运往南洋。在霹雳州的矿山里，他们亲自煮茶，并免费分

(55) [美] 兰德尔·柯林斯：《互动仪式链》，林聚任、王鹏、宋丽君等译，北京：商务印书馆，2009年，第170-173页。

(56) 马凜：《华裔青年中华民族共同体意识的情感传播路径——互动仪式链理论视角》，《华侨大学学报（哲学社会科学版）》2021年第2期。

(57) 马忠才：《中华民族共同体的多维互嵌结构及其整合逻辑》，《西北民族研究》2021年第4期。

(58) 访谈对象：六堡茶茶商 DBJ，广东清远市人，访谈人：李星莹；访谈时间：2023年8月19日。

发给需要的矿工。经过半个月的六堡茶疗法，矿工们的身体状况明显好转。六堡茶的药用价值逐渐为人所知，传遍南洋，成为南洋地区最畅销的茶叶之一。

如今，马来西亚华裔家庭受到父辈和祖辈的影响，从出生起便饮用六堡茶。无论是在药店还是祭祖时，都能见到六堡茶，足以看出他们对六堡茶的喜爱和认同。这种生理需求的满足不仅仅是简单的口感享受，更是一种心理上的安慰和归属感。通过提供适宜的生活调剂，六堡茶渐渐成为异国他乡的华工们的心灵寄托。他们通过饮用六堡茶来缓解思乡之情，维系与故土的联系，强化自己的民族认同和文化遗产。”

为了进一步说明这一点，团队成员采访了几位在马来西亚生活多年的老人⁽⁵⁹⁾，他们说：

“我们每天都会喝上几杯六堡茶，因为这样可以让我们感觉自己还是中国人。在马来西亚这样一个多元化的国家里，来到这里需要很长的时间去适应，身在异国他乡的我们，常觉得自己是边缘化和孤立无援的。因此，每当我们喝着六堡茶时，就会想起自己的祖先和故乡，感觉到家的温暖和亲情的牵挂，六堡茶是我们与中国文化和历史相连的纽带。”

通过上述案例，充分展现了六堡茶作为“思乡良药”，是超越单一商品属性的文化符号，承载着独特的历史记忆和情感价值。六堡茶的传播和普及，不仅仅是茶文化的传递，更深刻地体现了从个体心理互嵌到群体间中华文化认同的转变，这对于铸牢中华民族共同体意识扮演了重要角色。在海外华人社群中，特别是马来西亚等地，六堡茶不仅满足了华人的生理需求，更成为了他们思乡情绪的寄托和文化认同的象征。这种心理互嵌让六堡茶超越了单纯的饮品属性，成为了跨越地理界限的文化纽带，加深了海外华人与祖国之间的情感联系。更进一步，六堡茶在海外的流行不仅是对特定饮品的喜爱，而是对中华文化深厚底蕴的认同和传承，形成了对中华文化的共识和认同。通过这种文化认同的形成和强化，六堡茶在全球范围内成为了中华民族共同体意识的重要载体，不仅在物质层面上连接了世界各地的华人，更在精神和文化层面上加强了他们与祖国的紧密联系，促进了海外华人华侨对中华文化的认同和传承，进而铸牢了中华民族共同体意识。

五、结语

六堡茶的发展历程，是中国茶文化发展兴盛的缩影，也是区域社会中族际关系从竞生走向共生的例证，更是多民族交往交流交融以及铸牢中华民族共同体意识的地方实践。起源于瑶族地区的六堡茶，通过“舜帝南巡苍梧之地”“茶箩娘”等地方叙事融入中华茶文化体系当中；同时六堡茶以独特的制茶工艺传承，并经过交往交流，逐渐从封闭空间走向更广阔市场进而形成茶产业经济协作互

(59) 访谈对象：马来西亚华裔 LHX、LRS、LSS，分别是玉林容县人、福建福州人、玉林北流人，访谈人：李星莹；访谈时间：2023年6月12日。

惠共同体，得益于区域社会中各民族基于开放包容的态度对中华茶文化的传承创新。岭南地区的六堡茶文化已嵌入瑶族、汉族等诸多民族的日常生活与产业共同体建设过程中，以经济互嵌、文化互嵌和心理互嵌三种方式促进了多民族交往交流交融，是构建共有精神家园和铸牢中华民族共同体意识的一个窗口和载体。可以说，岭南地区的六堡茶已经超越单一商品属性，成为跨越时空的文化纽带、交流中介和象征符号。

总之，六堡茶是中国茶文化演进中的一个个案，体现出瑶、汉、壮等民族关系交融共生的演化逻辑，呈现出中华民族饮食文化的包容性特征。六堡茶的历史和文化价值，可以为中国茶文化的研究提供一个独特的视角，也可以为探索各民族交往交流交融的路径提供经典案例。

作者简介：郝国强，男，广西民族大学民族学与社会学学院院长、教授、博士生导师，四部委铸牢基地广西中华民族共同体意识研究院首席专家，研究方向：非遗传承与乡村振兴、铸牢中华民族共同体意识等；李星莹，女，广西民族大学民族学与社会学学院硕士研究生，研究方向：民族文化与非物质文化遗产、铸牢中华民族共同体意识；奉媛，广西民族大学民族学与社会学学院博士研究生，研究方向：民族文化与非物质文化遗产。

泰国瑶族传统银饰锻造技艺的传承、发展与助力乡村振兴⁽¹⁾

泰国瑶族基金会 -- 都银厂有限公司

邓有利

邓顾贵

摘要

银饰锻造技艺是泰国瑶族的传统工艺技术，也是非物质文化遗产项目。历史上，泰国瑶族不论男女都有佩戴银饰的习俗，其佩戴的银饰都是瑶族民间艺人制作的。但过去瑶族制作银饰主要是为了满足瑶族人佩戴，没有形成银饰制作产业。随着泰国旅游业的发展，瑶族制作的银饰不仅是瑶族服饰装饰品，而且已经成为泰国瑶族地区民族旅游销售的工艺品。泰国楠府谱县巴岗乡巴岗村瑶族邓有利前任泰国瑶族基金会与都银厂有限公司的创始人，除了将银器制作工艺发展到国际水平之外，还与职业教育委员会办公室下属的干恰那披色学院与皇家金史密斯学院建立了教育合作。每年招收10名学生，免费课程来学习银器工艺专业，并传承瑶族银饰锻造技艺。直到让银饰成为几乎每个村庄游客的手工艺品，已成为一村一品的旅游工艺品，被认为是传承瑶族传统银饰工艺的典范。学生毕业后可以到都银厂有限公司工作，也可以自己回村创业，传承瑶族银饰锻造技艺，发展民族民间贸易，推动瑶族地区的乡村振兴。尽管对于手工艺消费者来说，瑶族银器手工艺经济似乎具有异国情调且在政治上无关紧要，但其名称、标志、服饰和旅游活动等某些特征却为瑶族重塑公众对瑶族的看法提供了可能性；从自卑、原始、贫穷、毒品和麻烦制造者，到杰出的国际化土著群体，该群体在专业知识和经济增长方面都特别成功地利用了这种高价值商品。

关键词：泰国瑶族，传统银饰，制作技艺，传承，发展，助力乡村，振兴

Inheritance, development and contribution to rural revitalization of the traditional silver making skills of the Yao people in Thailand

Somchai-Phimporn Runggratchatavanit, the Lu Mien Thai Foundation and Doi Silver Company Factory Co., Ltd.

(1) 本文以个人经历和观点所写下来的，仅供瑶族文化学术研讨会交流知识之用。于2024年10月10日至16日在日本东京神奈川大学举行的瑶族文化国际研讨会上发表。在此，特别感谢中国广西民族大学国社会科学与民族学学玉时阶教授、谭静博士，云南曲靖师范学院仲如林副教授和泰国清莱皇家大学社会学院刘玉兰博士对撰写和翻译本文的帮助和支持。

Abstract

The craftsmanship of silver is a traditional craftsmanship of the Iu-mien or Yao people in Thailand, and it is also an intangible cultural heritage item. Historically, both men and women of the Yao people in Thailand have the custom of wearing silver ornaments, and the silver ornaments they wear are all made by Yao folk artists. However, in the past, the Yao people made silver mainly for the Yao people to wear, and there was no silver manufacturing industry. With the development of Thailand's tourism industry, the silver made by the Yao people is not only a decoration for Yao people's clothing, but also has become a handicraft sold in ethnic tourism in Thailand's Yao area. Mr. Somchai Rungratchatavanit, a Yao ethnic group in Phakhang Village, Phakhang Sub-district, Pua District, Nan Province, Thailand, established an educational cooperation with the Royal Goldsmiths College Kanjanapi Theological Seminary through the establishment of the Thai Yao Foundation and Doi Silver Factory Co., Ltd., and recruits 10 students every year to learn silverware crafts for free. Professional, inheriting the craftsmanship of Yao silver. In the Yao area of Nan Province, silver has become a tourist craft for every village. After graduation, students can work in Doi silver Factory Co., Ltd., or they can return to the village to start their own businesses, inheriting the craftsmanship of Yao silver jewelry making skills, develop ethnic and folk trade, and promoting rural revitalization in Yao areas. although seemingly exotic and politically insignificant to crafts consumers, certain features of the Iu Mien silver crafts economy, such as the names, logos, attire, and tourism activities act as spaces that allow for the possibility for the Iu Mien to reconfigure the public's perception of the Iu Mien; from that of inferiority, primitivity, poverty, drugs, and troublemakers, to that of a distinguished cosmopolitan Indigenous group that has been particularly successful in engaging with this high value commodity both in terms of expertise and economic growth.

Keywords: Thailand Yao people, traditional silver, production skills, inheritance, development, helping rural areas, revitalization.

บทคัดย่อ

งานหัตถศิลป์เครื่องประดับเงินเป็นงานฝีมือดั้งเดิมของกลุ่มชาติพันธุ์อิวเมี่ยน (เย้า) ในประเทศไทย และยังเป็นมรดกทางวัฒนธรรมที่จับต้องได้ ในอดีตทั้งชายและหญิงของกลุ่มชาติพันธุ์อิวเมี่ยน (เย้า) ในประเทศไทย มีธรรมเนียมการสวมใส่เครื่องประดับเงิน และเครื่องประดับเงินที่พวกเขาสวมใส่ล้วนทำโดยช่างเครื่องเงินชาวอิวเมี่ยนทั้งสิ้น อย่างไรก็ตาม ในอดีตชาวอิวเมี่ยนทำเครื่องประดับเงินเพื่อให้ชาวอิวเมี่ยนได้สวมใส่เป็นหลัก และยังไม่มียุทธศาสตร์การทำเครื่องเงิน แต่ด้วยการพัฒนาของอุตสาหกรรมการท่องเที่ยวของประเทศไทย เครื่องประดับเงินที่ทำช่างเครื่องเงินชาวอิวเมี่ยนไม่เพียงแต่เป็นเครื่องประดับตกแต่งในเครื่องแต่งกายของชาวอิวเมี่ยนเท่านั้น แต่ยังคงกลายเป็นงานฝีมือที่จำหน่ายให้แก่กลุ่มชาติพันธุ์อื่นในพื้นที่ต่างๆของประเทศไทยอีกด้วย คุณสมชาย เป็นคนอิวเมี่ยนในหมู่บ้านปากกลาง อำเภอปัว จังหวัดน่าน ประเทศไทยผู้ซึ่งเป็นประธานมูลนิธิอิวเมี่ยนไทยคนปัจจุบัน และผู้

ก่อตั้งบริษัทเครื่องเงินที่ชื่อว่า บริษัท ดอยซิลเวอร์ แฟคตอรี จำกัด นอกจากพัฒนางานฝีมือด้านการทำเครื่องเงินสู่ระดับสากลแล้ว ยังได้สร้างความร่วมมือด้านการศึกษา กับสถาบันกาญจนาภิเษกวิทยาลัย ช่างทองหลวง สังกัดสำนักงานคณะกรรมการอาชีวศึกษา รับสมัครนักเรียนปีละ 10 คน ทุกปีเข้าเรียนฟรีเพื่อเรียนรู้งานฝีมือเครื่องเงินและสืบสานงานช่างเครื่องเงินชาวอิวเมียนในเขตจังหวัดน่าน จนทำให้เครื่องประดับเงินกลายเป็นงานฝีมือของนักท่องเที่ยวเกือบทุกหมู่บ้าน ถือว่าเป็นต้นแบบของการสืบทอดงานฝีมือเครื่องประดับเงินดั้งเดิมของชาวอิวเมียน และยังเป็นกำลังเสริมฟื้นฟูอาชีพให้แก่ชุมชนท้องถิ่นด้วย อย่างไรก็ตาม แม้ว่าจะดูแปลกใหม่และไม่มีนัยสำคัญทางการเมืองสำหรับผู้บริโภคงานฝีมือ แต่คุณลักษณะบางประการของเศรษฐกิจงานฝีมือเครื่องเงินของชาวอิวเมียน เช่น ชื่อบริษัท เครื่องแต่งกาย และกิจกรรมการท่องเที่ยว ได้ทำหน้าที่เป็นพื้นที่ที่ช่วยให้ชาวอิวเมียนสามารถกำหนดการรับรู้ให้แก่สาธารณชนใหม่ที่มองว่า ชาวอิวเมียนในภาพแห่งความด้อยพัฒนา ความดึกดำบรรพ์ ความยากจน ผู้ด้อยเสพติด และผู้ก่อปัญหา กลายเป็นกลุ่มชนพื้นเมืองที่มีความโดดเด่นทั้งในระดับประเทศ และนานาชาติ ทั้งในแง่ของความเชี่ยวชาญและการเติบโตทางเศรษฐกิจ

คำสำคัญ : กลุ่มชาติพันธุ์อิวเมียน(เย้า)ในประเทศไทย เครื่องเงินแบบดั้งเดิม ทักษะการผลิต มรดกทางวัฒนธรรม การพัฒนา การช่วยเหลือชนบท และการฟื้นฟู

一、引言

“银饰锻造技艺”是瑶族传统工艺技术，这种制作工艺和文化从古一直传承至今。现已成为楠府“一村一品”的五星级旅游工艺品。特别是传统制作银饰的手工雕刻、镶嵌工艺超过楠府巴岗村瑶族银饰加工标准，由此发展为今天的都银厂有限公司。公司所生产的银饰产品一直在泰国收到消费者的好评，公司除了生产、加工、销售银饰产品外，还是职业院校教学实践基地，对外向社会和游客参观学习、鉴定银饰的场所。公司回馈社会，每年资助 10 名学生接受高等教育，提供免费食宿，这种理念体现瑶族人顺势而变、继往开来应变能力，在复杂多变的世界发展环境下保持着本族文化认同、制作工艺世代相传的价值观。

30 多年前瑶族定居在高山地带从事伐木为耕的农业生活，包括砍伐和焚烧树木的农业系统或者人们常称为轮耕的农业系统。尤其是在那个时候，高山农业种植主要是鸦片，从而导致了毒品问题和农业种植之间的矛盾。后来，政府为了解决这一矛盾，建立了山地部落发展和援助中心，发展工商业与农业的同时，推广更多经济作物种植，鼓励村民从事副业，增加收入，社区里的农民逐渐有人开始制作银器，轮耕、毒品问题也逐渐减少。

银饰制作工艺视为瑶族人的传承智慧。它被认为是反映其民族身份的手工艺品，并拥有杰出的专业制作银饰的技能。如：瑶族银饰制作传承人邓有利和邓顾贵，他们将祖先的银器制作工艺传授给都银厂有限公司，通过公司生产、加工和销售，把瑶族制作银饰文化艺术传播到社会。在传播过程中，通过成立小型银器博物馆供游客参观来印证瑶族人接受现代生产制度的很好案例。因此，本文

是根据本人邓氏家族的经验与我们瑶族祖先银器知识和传承的经历写成的，划分以下问题作为研究瑶族知识传承的内容。

二、邓氏家族银饰锻造技艺传承谱系

邓进堂先生是邓氏家族银饰锻造的先驱者，是邓有利的父亲，也是邓有利学习银饰锻造的榜样。先父邓进堂出生于老挝人民民主共和国沙耶武里省红沙镇，是财飞和菜清女士的儿子，其先祖都是从中国移民过来，祖父那一代就具备使用瑶语、中文、老挝语和泰语在内的多种语言交流的能力，同时祖父也是社区领袖，并受到当地村民的尊重。延续至今将制作银器的知识传授给自己的自己的子孙后代。由于邓进堂小时候，财飞爷爷就去世了，家庭的责任就落在了邓进堂的身上。并将制作银器的技艺发展成为家庭主要收入仅次于农业中的收入。

邓进堂先生与瑶族妇女美洪夫人结婚，夫妻勤劳互助，以种玉米为生，于1960年在老挝生下邓有利，当时，老挝处于君主制和社会共产主义之间的战争状态。后来，决定前往泰国避难，于1972年从老挝那边翻山越岭徒步穿越三天三夜到达泰国高山丛林，途中他遇到了一名共产党战士，士兵问他从哪里来，跨越国境做什么？他回答士兵要带儿子出家为由，并前往泰国探望兄弟姐妹，才让他们顺利过境，最终来到泰国楠府普阿县斯帕康乡帕康村定居，一边做银匠，一边务农。

先父邓进堂是一个制作银器工艺精湛的工匠，被称为杰出的银饰工匠传承人之一。以上荣誉来自泰国和国外的亲朋好友和同行以及客户的证词。认识先父邓进堂的人都赞不绝口称赞他不仅是一个普通的银匠。而是一位真正的艺术家。因为他的每一件产品必须标准化，不能有丝毫瑕疵，比如制作针织项链，手工编织必须平衡、工整。他说盖印的手的力度要适中，这些工艺手法都在他的大脑中构思：哪些线条先画、怎么画，线条怎样冲压，冲压线条需要功道垂成，若冲压中工匠操作出现失误，需要重新整块银片熔化以再次印上图案。因此，先父的产品制作时间可能比其他银匠花费时间要多，但并没有阻碍先父制作的匠心精神。事实证明先父制作的产品得到客户的认可（顾客需要排队才能购买到产品），因为泰国和外国客户都想购买到先父亲手制作的产品。

这些工艺也是邓有利从他父亲那里继承的。出生于银匠世家这让他从小就受到祖父制作银器文化的熏陶，直到父亲那一代才将工艺传授给邓有利，他从15岁起就开始学习、研究、尝试制作传统部落图案的银器，让他对传统部落制作银器图案产生极大兴趣，带着对祖先知识遗产的热爱和继承制作银器，反复钻研、改进制作工艺，最终使他的制作手艺得到社会高度认可。

邓有利还从他父亲那里得到了如何制作银器的模型，他看到父亲在一张旧木桌上加工，只使用了一些简易工具，却能楠府瑶族银匠界创造出美丽的作品，同行对父亲的天才十分敬佩。因为父亲能够使用简易的工具就地取材制作出精美的产品。1984年，父亲收到了一位居住在美国的瑶族朋友

联系，帮他制作了一套精美的银器并发到美国加州使用，该套银器在当地的瑶族同胞中受到高度赞扬。

此外，先父邓进堂在制作银器方面是一位杰出的工匠，在加工制作银饰产品中，每一件产品都会有一个细致的标准，这些都是瑶族部落制作银饰的智慧和延续下来的遗产，在制作银饰过程中继承传统并与与时俱进。先父说为了保存瑶族的传统风貌和文化，也不会随着时间的流逝而消失。但在改进图案和品位中困难重重，因为银器的大小、重量需要根据顾客需求和喜好来制作加工。比如制作5层项链（簪琬）需要1公斤左右，或者稍薄一些，8-9克左右，但考虑到每个人的品位层次，主要从注重九面人形的传统标准，龙、天鹅、植物、种子等图案均符合九面人形传统。其最重要的是该图案必须像传统方式那样制作得精致、美丽、细致的传统作品。

邓有利作为邓进堂的儿子，最先在受到父亲制作银饰文化启发，并继承了瑶族传统银器的文化遗产。当年在老挝时就开始学习如何采用的是传统的方法（熏炉）制作银器，由于当时他16岁，年轻，不太注重学习，后来从祖父和父亲那里吸收了制作银器的故事，从而对制作银器产生浓厚兴趣。17岁时，他看到亲戚制作银器出售，能够获得不错的收入，随即产生谋求生计的想法，于是他接受制作银器的培训，在培训日子里，教学空谈无实，随之开始转向父亲和其他亲戚学习制作银器。

24岁时，邓有利与邓顾贵（原姓李）结婚，是他成为银器制作工匠的一个重要转折点。由于瑶族人的婚姻生活始于务农，他们租了大约4-5莱（1莱=400平方瓦或一莱等于2.4亩）的土地种植水稻供家庭消费；种植玉米主要是出售，这些是为了为家庭提供收入来源。当时，布瓦县的大多数村民大面积种植玉米，尽管种植量很大，但所获得的收入抵不上劳动力成本，所以邓有利觉得这种职业不适合他的工作。于是他开始对制作银器充满想法，他通过种植玉米、制作银器赚取额外收入产生了兴趣。通过与邓占勇先生签订合同生产蛇形图案项链，邓占勇先生既是邓有利的叔叔，也是父亲的朋友，他们从农业和园艺中起家创业成功。因此，直到今天，由农从商仍然是银器制作传统的起源。



三、邓氏家族历史

邓有利，泰语名为 Somchai Rungrachatawanich 出生于1960年12月6日，原出生地为老挝人民民主共和国猜武里省虹沙县班帕岱村，1973年移居泰国，1979年挂三灯，与妻子邓顾贵于1984年结婚，育有三子。大儿子邓福昌（2528年生）、二儿子邓福明（2530年生），于1998年7月18日挂灯。三儿子邓福义（2534年生），2003年挂三灯。大儿子邓福昌，2012年与傣族女子乔瓦潘（1991

年生)结婚, 2014 年大儿子阿 liu (小名高昌) 出生, 2016 年小儿子阿 li (小名罗昌) 出生。大儿子主要负责管理 Doisilver 工场和学校等相关工作。妻子有自己的公司, 从事银饰生意。二儿子邓福明, 2530 年生。在曼谷上大学期间, 对银器制作技艺极感兴趣, 协助家里生意, 主要在网络寻求市场并进行推广宣传。2553 年 (2010 年) 大学毕业后返家, 一个月后突发心脏病去世。

除了邓有利本人与父亲邓进堂学习打银, 还有其他人也来拜师学艺, 有亲戚, 也有毫无血缘关系的人, 但主要是瑶族, 没有其他民族。比如, 有一个叫盘奶娃的人向父亲学习, 后来他也从事过一段时间打银的工作, 但是现在他已经改做陶器了。还有一个家住楠府会利村的名叫苏盖的人也学过。其实还有很多人都学过, 但是后来他们移民去了美国。总之, 父亲邓进堂对他们都平等对待, 只要他们对打银感兴趣, 他都毫无保留的教给他们。来学习打银的人, 都在家里同吃同住。材料都是师父的, 如果做出成品卖钱了的话, 本金还给师父, 利润算个人的收入。

发展到邓有利这一代, 主要根据个人的打银技艺定工钱。最低工资的学徒工, 每天只有 300 泰铢, 也有按月算工资的, 也可以包工做一个作品, 但是包工包料比较花时间, 主要是看他们的技术精湛程度给工资, 这种情况的话可以在家自己做, 工具可以借给他们用。

邓顾贵出生在楠府南空村李姓瑶族家庭, 父母共生育 11 个子女, 她排行第 4。1984 年她与邓有利结婚, 改姓邓。婚后三年多, 收入主要靠种植玉米, 家里没有钱, 很穷困。1985 年 -1986 年, 邓有利到一家银厂做学徒打工, 老板叫高晴。虽然邓有利的父亲也会打银, 但是很少教他, 而且父亲邓进堂做的银饰比较少, 样式也以传统的银扣为主, 购买群体主要是移民美国的瑶族, 所以收到的订单数不是很多。邓玉帕的父亲给予邓有利很多帮助, 他愿意教邓有利学习打银, 甚至教了他更加精细的技术。

当邓顾贵怀孕的时候, 邓有利为了不让她种玉米那么辛苦, 于是就让她在家里做一些简单的技术, 在家里偷偷的做银饰。打银这种工作, 一般不让女人做, 所以邓顾贵都是自己在房间里偷偷地做, 慢慢地学会了手艺。这样, 1987 年, 他们在家的路口租了间小房子, 即修车、补胎, 又打银。

1986 年至 1988 年, 邓有利会带着银器到清迈等地售卖, 期间, 他遇到了一个叫阿登的老板。阿登在清迈经营一间叫兰纳银器的店铺, 他让邓有利把银器放在他的店里卖, 帮他卖了之后再让邓有利去拿钱。之后, 邓有利就在兰纳银器打工, 自己打的银器也可以在店里卖, 这样在那里工作了大概两年左右。

1987 年, 邓有利仔楠府开了一家自己的小店叫“DoiBadaen” (银山), 自己打银自己销售。当时泰国总理的夫人定制了一条银腰带, 所以吸引了很多人下单购买, 于是在楠府开了打银厂。城里的场地不够, 邓顾贵又在南空村开了银厂。楠府打银主要集中在巴干村, 南空村有了银厂之后, 很多人到那里去打工, 有很多人学会打银之后, 自己自立门户。

后来高晴找邓有利一起开公司，1992年开始讨论，1994年8月4日注册，于是51个会打银器的人在楠府城里合资合股办了一家公司，以Chongpupuka山名给公司命名。公司股份最多的是邓有利、其次是邓顾贵的二姐，第三是高晴。与其他人合股开公司的同时，自家的打银生意也在做。

期间，银料涨价，每公斤从15000泰铢涨到42000泰铢，打银生意不好做，于是，1995年，邓有利又建房打算开超市。1996年，DoiMark在波县开业，一共有4栋加上地下共有4层。除了做超市之外，二楼打银，一楼也留了一间小店卖银。Chongpupuka有2个会打银的人跟随邓有利到波县，之后员工又慢慢增多80人。

大概有4年多的时间，夫妻二人都是分开各自做生意。2001年邓顾贵从Chongpupuka到Doimark。孩子们上大学时候又卖了城里的Doibadaen（银山）。2003年，在现在的Doi银厂这里，花600000泰铢买了不到1莱土地，初步建立了工场，生产银饰。建厂后经常有人来参观，后来有人提议同时开商店，于是采纳了建议在银厂前面开了一间银店。

2005年开始，有美国、加拿大、意大利等公司来看工场考察并洽谈合作事宜，由品牌商提供设计，在Doi银厂定制，再销往国外。之后慢慢的在周边购买土地慢慢扩展成了今天的事业规模。

父亲邓进堂去世之后，孙子们想把爷爷的工具留下做纪念，为了更好的保存邓有利夫妻俩四处打听寻找合适的办法。有一次，曼谷某私立大学的一个艺术家(Ajarn Paivet Wangborn)受邀到楠府做设计，借这个机会邓顾贵向该艺术家请教如何保存爷爷的工具。艺术家加以做一个私人博物馆，并免费为博物馆做了设计。博物馆中展陈了家族中最有贡献的四位老人的纯金锻造的照片，材料费以外的费用都没有收。身为瑶族，背负着祖辈的传统文化，他们为了让更多人能了解自己的文化，于是又建了民宿。民宿中不仅有瑶族传统民居还有泰北其他民族的民居。关与邓氏家族的传承谱系如下：

第一代：曾祖父

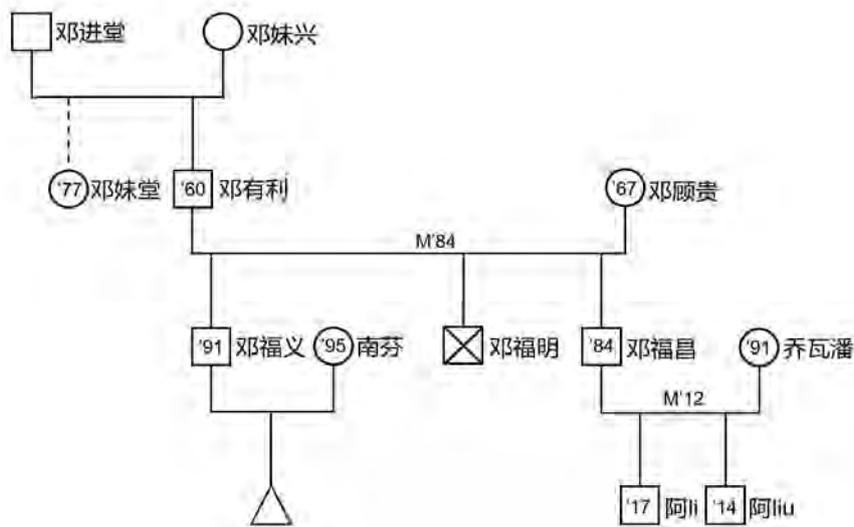
第二代：祖父

第三代：父亲 - 邓进堂

第四代：本人 - 邓有利

第五代：儿子 - 邓福昌、邓福义

目前，邓福昌长子作为第五代邓氏家族的银饰锻造技艺传承者。邓福昌出生于楠府布瓦县，上中学时，离开县城去到楠府，最后接受曼谷地区的高等教育，由于从小就接触到瑶族部落的银器，在巴岗村看到邓进堂老师和先父制作银器，在他5-6岁的时，就开始练习编圈，随着年龄的增长，逐渐学习编织项链，在假期里，他回家总是帮着家人制作银器。在斯巴顿大学工商管理学院学习国际商务时，也有一个想法，就是想把家族企业扩展到其他业务领域，例如酒店；因为有3个兄弟可以共



同管理一家银器公司。对于 3 个人的公司的规模来说似乎太小，当邓福昌先生加入后，认为可以将家业扩展到其他领域将是一个不错的选择，对于一个尚未毕业的大学生应届毕业生能够在银器公司工作，在他 4 年时间里，通过营销渠道把银器产品带到泰国各地的零售珠宝店销售，然后在都士银器公司搞管理工作，公司旗下由邓福昌先生负责，销售渠道主要顾主要为批发市场：80%，零售市场：20%，另外，泰国顾客和外国顾客的比例各占 50%，大部分顾客喜欢穿休闲装搭配传统服装，这也继承瑶族原始秀面图案的独特性以及邓福昌时代与邓进堂老师的技艺遗产的智慧，通过将教师融入到双元教育体系保留教学与工艺的模式；通过与甘咋纳披瑟金匠学院合作，挂牌成立珠宝分行项目，邓顾贵对楠府 Ratchaprachanukroh 学校很感兴趣，也挂牌成立珠宝项目。所以邓有利和邓顾贵委托邓福昌先生负责管理系统教育项目，将职高一二年级的学生送到都银厂有限公司学习制作银器的教学与实践模式，周一至五按照课程大纲学习理论课程，周末学习职业实操，通过教学 + 实践获得职业教育部颁发的职业证书。其次，学校在实践教学点有住宿，有力保证的教学，通过与企业合作，也保障了学生就业。

邓福昌作为公司董事长兼总经理，他打算把都银厂有限公司发展成为一家拥有自己设计的综合性银器制造公司。生产流程管理以为零售和批发分销为主，包括从继承祖父的传统山地部落银器制作的学习中心（邓进堂大师），让新一代了解如何以传统面风格制作精确的银器，将传统图案引入当代并加以应用，通过制作工艺创造新的模式来满足不断变化的市场的需求。此外，都银厂有限公司在邓福昌时代开始线上营销，邓福昌先生认为，销售领域拓宽了，这对公司和客户来说都是一个便捷的渠道。

小儿子邓福义就读于楠府布哇县高中，毕业于易三仓大学，获学士学位。而我是都银厂有限公

司位于曼谷的家族中的销售经理，这是家族企业发展的一部分，通过开发应用型银饰设计来满足更多元化客户的需求。



邓有利继承银器职业生涯与先父邓进堂有所不同。这是由于邓有利注意到邓占勇先生的制作银器主要发往清迈的瑶族商人出售而引起的，虽然收入不错，但如果能开拓更广阔的市场，拓展到其他消费人群，就能产生更高的收入，因此，拓展市场的概念就更加重要了。后来苏万老师的出现，推荐邓有利去龙仔厝府纪念品商店销售手镯，由于商品风格陈旧传统，结果只卖了一支，于是心灰意冷地回到家里，之后邓有利乘坐巴士车在去清迈，150 泰铢租了一辆三轮车把东西托运到店里，带着银饰到商店推销，总是被店主拒绝而告终。邓有利从楠府到清迈往返了 3 次，直到有一天，在清迈府汕甘烹县发现有一家银器店，他们有销售需求，于是几天后，店家联系我产品已经卖完了，由于当时制作一套新银器的资金不够，于是通过交订金加工产品的方式，店主支付资金购买白银继续制作银器，我们收到资金 2000 泰铢的汇票，继续制作一套新的银器。银器制作方式经历了一段变化时期，这对当时银器制作生活非常重要（当时，白银的价格为 3,000 泰铢 /1 公斤）。

后来，生意开始好转。邓有利每个月驾驶摩托车和邓进堂大师一起购买 382 克白银（10 港币），一直坚持从手工制作中开展业务，邓顾贵在家帮忙编织项链。当订单增多，他还邀请邓有利的亲戚过来帮忙；若产量增加，第一家商店无法购买，邓有利就寻找第二家的商店。起初，在第一家店的同一地区还发现了另外一家店，这家店是一家以销售国外旅游为主的大型商店，店主告诉邓有利，他可以安排邓有利在店里住宿，并驻在店里销售产品给外国客户，当时订单量很大，能生产多少，就能销售多少，逐渐地邓有利的家庭作坊生产开始雇佣更多的工人，由于大批量生产，导致供过于求，以至于商店无法再购买全部产品。最终商店解除与购销 2 年的合作协议，邓有利又回到了家。

在 1989 年邓有利和邓顾贵的生意已经巴岗村站稳脚跟，于是又从巴岗村搬到楠府居住，并在楠

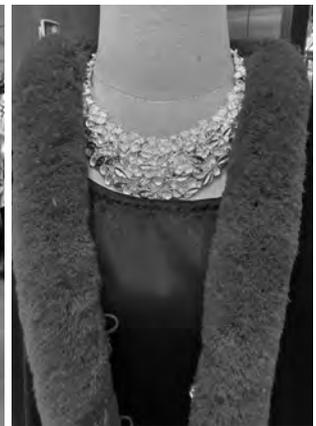
府开设一家银器生产店，将店名取名为“都银厂有限公司”，并在店门前销售产品。他们婚前生活在楠府郊区，由于当时大多数人喜欢种植玉米，很难找到技术工人，所以当时他们建立工厂就坐落在楠府，他们在南空村工作 2-3 年的时间，那段时间我主要做批发皮带。

1996 年，受经济危机的影响货币开始贬值，白银价格变得更加波动。邓有利试图在布瓦县开设第一家超市，并使用“都马”这个名字来销售银器，邓有利注意到营销人员如何开展销售并维护客户，通过营销管理方法，他把这种营销方法应用到银器的销售中，还聘请一位学习营销管理的亲戚担任营销人员，将银器销售推广到给泰北的各个纪念品商店。通过采用直销系统，销售额增长了很多，因此邓有利在“莫拉冬都”成立首家生产银器并以“莫拉冬都”的商标进行销售，从原来只有 2-3 名专职技师，在短短一年内技师数量就增加到 40-50 名，银器产量大幅增加。随后，邓有利和邓顾贵在楠府布瓦县萨塔街道 205 号成立了 Doi Silver 公司。邓有利担任公司的总裁，公司生产的银器均保留了瑶族的传统图案，满足不断变化的市场需求。后来通过认识一位美国珠宝商人开发现代化的银器模型和生产系统，使得产品具有更高的国际质量标准。由于邓有利从邓进堂大师那里继承了银饰工艺和独特性，一直保留着传统类型的银器，把生产出来的产品销售给当地的瑶族客户，例如项链 (Jawan) 和订婚手链。(PuChiam)、银色纽扣 (La Khao Bei) 和正面装饰的项链。(Pachan Lim)、背面装饰的项链 (Titan Lim) 等。

雕刻的方法



银饰锻造方法





专业和执着使他成为第四代家族的银匠制造商的继承人。在土居银工场公司看到银饰作品，它除了是著名的手工艺中心外，还延续着祖辈、祖辈到子孙的银饰手工艺。

四、银饰锻造技艺的发端：都银厂有限公司

邓有利 10 岁的时候就开始学习打银，虽然他在老挝读到了 3 年级，但是到泰国后，又得重新从 1 年级开始读书。在 Bagann 村，本来就有些老前辈在打银了，还有几个人合伙开了小店铺。邓有利最开始先是看人家打，在家里他也偷偷看父亲打，也去店里看老前辈打。但是老前辈们都有自己的徒弟，他们认为邓有利还太小了，所以没人想要收他为徒。于是，邓有利等老前辈们休息的时候，就偷偷打老前辈们打的银链，结果打错了，挨了老前辈的批评。

但是，邓玉帕的爸爸邓四周却觉得邓有利很认真好学，所以就教他打银。先是安排他做链子，让他拿银子回家自己做。不到一周，他自己在家里练习好了，拿去给师父看。师父说：你做的不是很好，但是我可以修改一下，这样就可以了。于是，给了他 25 泰铢的工钱，这是 10 岁的邓有利（3-4 年级）赚到的第一份工钱。当时，1 泰铢就可以买一碗面。得到了这个鼓励，邓有利打银就更加努力了。

大概是 1977 年，等他到了要读初中的时候，父母不想让他继续读书，想让他在家里帮做农活。因为初中在波县，如果继续读书的话，路费和服装费都要花很多钱。邓有利非常渴望继续读书，于是他利用放长假的 2 个月时间赚了 5000 泰铢。他从早上 6 点，就去找师父拿订单，回到家就开始制



作一直到天黑，之后再点煤油灯继续编银，以至于早上起来后鼻子里面黑黑的都是油烟。尽管这样很辛苦，但是非常有成就感。

都银厂有限公司位于楠府布瓦县的银器手工艺中心。楠府是泰国知名的银器和珠宝生产地，并在美国闻名。都银厂有限公司 (Doi Silver Company Co., Ltd.) 拥有 70 多年的银饰制作经验，工厂生产的银器产品经过长期的不断演变，从瑶族人的传统款式发展到更现代、质量更丰富的新款式。另外，公司还通过在银饰、镀银饰、镀金饰上镶嵌钻石、宝石来增加银制品的价值，以提升产品档次，更加满足顾客的需求。除此以外，它被认为是一个手工艺中心，可以鉴赏当地独特的智慧，并将其发展成为优秀的出口产品。

从邓有利的创业奋斗的经历，自 2003 年以来的一年里 成立都都银厂有限公司 (Doi Silver Company Co., Ltd.)，地址为 205 Moo 1, Ban Na Pan, Nan-Thung Chang Road, Sathan Sub-district, Pua District, Nan Province。后来成为甘咋纳披瑟金匠学院师生和教师教学实践的场地，扶持了泰国 56 府 Rajaprachanukhro 的学校。

都银厂有限公司是政府机构和私营企业的学习中心，为不同组织的人群提供就业机会，很多私营企业前来参观学习银饰制作，以及教学观摩和实习的基地。公司白银发展业务。都银厂有限公司自 2011 年至今一直开展国际出口业务。在加拿大、美国、中国、台湾都有客户群，年销量约 2400 公斤。

邓有利创立了都银厂有限公司 (Doi Silver Company Co., Ltd.)，邓进堂 (Chantong

Rungrachatawanich) 先父的独生子，他是一位技艺精湛的银饰制造商，是家族银匠第四代的继承人，并注册成立了“都银厂有限公司”，有 100 名工匠在国外生产线上生产（美国 70%）。

都银厂有限公司是著名的手工艺中心，它的银饰品的艺术和手工艺从祖辈、祖父辈传承给了一代又一代的子孙 了解更多信息：<https://www.thai-tour.com/shop/3987>

五、银饰锻造技艺的创新与发展

邓有利一直致力于发展和传承制作银饰工艺领域的知识，秉持初心努力将制作工艺传递给子孙后代，包括以瑶族传统风格生产和销售银器模式，也重视推广银饰制作知识，并以多种形式将其传授给新一代。无论是作为学习还是工作的地方，他通过创建博物馆供人们学习和研究，提供给甘咋纳披瑟金匠学院师生建立教学实践基地，扶持了泰国拉差普拉查努克罗学校第 56 的学生，致力于对银饰工艺感兴趣的新一代学生的发展建立合作关系。

2014 年，都银厂有限公司与甘咋纳披瑟金匠学院签署合作备忘录（MOU）。通过建立双边职业教育体系 开放教授银器知识，帮扶工人提升职业教育能力，每年有 10 人获得职业证书（中专、大专业证书），其培养方式公司特供免费教育、免费住宿和免费伙食，以此激励瑶族学生有兴趣、有发展的新一代人他们的工作。制作银器的技能 而最重要的是，让瑶族人的传统知识得到更广泛的传承。

邓有利是银饰制作的创始人和关键人物，在他的努力下将银饰制作与职业教育中心协调起来，把珠宝行业 与都银厂有限公司合作，成立职业教育委员会下属的甘咋纳披瑟金匠学院，具备颁发职业



证书资格,扶持了泰国扶持了泰国拉差普拉查努克罗学校第 56 的学生进入 Kanchanaphisek Wittayalai Chang Thong Luang 学院学习与生活纳入到职业教育中。2015 年~ 2019 年聘用都银厂有限公司熟练技师作为培训师,成功接受甘咋纳披瑟金匠学院第 56 的学生进入职业教育课程,并获得职业资格证书,部分学生进入公司工作已经被公司培养成专业技术人员。

2016 年第二届泰国拉差普拉查努克罗学校第 56 的学生接受专业职业教育,已毕业 6 人,目前,都银厂有限公司有银饰技师一人,四个人继续深造高职职业资格证书,另一个人已申请到其他公司工作,大部分学生毕业后,能够在银器制领域工作。

到目前为止,第三届学生还在公司教学实践基地学习,其中包括接收第三批 2017 年来自龙仔厝府府一个,楠府的个院校五个,红统府一个,总共七名学生,其中五人正在深造职业大专证书。

2018 学年第四届共录取楠府的学校学共八人,泰国拉差普拉查努克罗学校第 56 的学生三个人,其中有两个人已退学,六个人仍在就读职业中专二级证书。

2019 学年第五届共招收 Bansan Kururat Rangsan 学校学生十一个人,其中 Phukha Wittayakhom 学校学生四个人、Rajaprajanukroh 学校学生三个人、清迈府学生两个人。十一个人正在深造中专职业 1 级证书,至今培养的学生如下;

序号	学年	学生总数	退学	毕业生	继续读大专	工作	
						留工厂	自创业
1.	2015	5	3	2	2	2	-
2.	2016	13	7	6	4	1	1
3.	2017	7	1	4	3	3	1
4.	2018	5	1	4	2	2	2
5.	2019	11	4	7	1	2	5
6.	2020	3		2	1	1	1
7.	2021	4		4	1	1	3
8.	2022	7					
9.	2023	3					
10.	2024	3					
总共		61	16	37	14	12	13

从 2015 年至今培养了 51 名学生,在学过程中退学了 16 名,中专毕业 37 名,继续读大专毕业 14 名,毕业后留在工厂工作 12 名,其他 13 个自己回家创业和找其他工作了。另外还在理论与实践模式为社会与需要学习银器的学生进来学习,各个学校采用选拔学生的常规方法。其中最重要的是,来学习的学生大多是少数民族学生,他们有兴趣和有决心继承传统智慧,富有创造性的思维发展。

邓有利和邓顾贵作为双元教育中心的创始人,承担着多个头衔和职位,是该双元教育中心的主任,珠宝界的专家和培训师,职业培训教学的客座教授



产业发展与乡村振兴的互动

此外，还有许多其他社会贡献，例如；社会方面、自豪感，被任命担任该职位

- 楠府布瓦县政策审计、评审委员会委员
- 楠府商会理事
- 楠府工业委员会主任
- 楠府布瓦县 Somdet Phayupparat 医院基金会理事
- 楠府布瓦县职业技术学院教育委员会委员 (2010-2021 年)
- 楠府布瓦县巴岗中学教育委员会委员 2012-2014 年
- 曾担任普阿扶轮社 (世界级私人组织) 主席 3 次
- 瑶族基金会董事会主席 2020-2024 年
- 都银厂有限公司董事长
- 当选全国模范父亲 2021 年

不仅如此，邓有利伦格拉查塔瓦尼特于当年启动了瑶族民族学习馆，开发建设于 2019 年，都银厂有限公司成为学习银饰相关艺术和文化的源泉。瑶族人的知识与智慧，逐渐成为不同组织机构职业人的学习中心，为社会上的人群提供机会，吸引社会上商人和游客前来学习和参观银饰制作，定期开展社会上有职业提升的人员进行职业培训。





在都银厂有限公司建立一个模范瑶族民族村。



先祖制作银饰的书籍，呈献给诗琳通公主殿下



诗琳通公主殿下参观瑶族文化学习中心，与学员交流



委员会成员，组织世界瑶族交流活动



扶持、推广和保护瑶族部落的刺绣工作，定期着装瑶族服饰以及让公司员工定制瑶族衣服，向游客展示瑶族文化标识



2018-2019 年楠府瑶族赛装节



公司为保护环境尽一份力量



与社会新闻媒体开展保护大自然、保护环境活动



务社会、帮扶劳动的志愿者活动他是磨县红十字会分会委员。并鼓励员工定期献血

每年获得的奖项和保证

- 1) 2016 年总理出口奖。
- 2) 2017-2019 年泰国旅游标准奖。
- 3) 2019 年泰国商业与专业协会联合会北部地区新星商人。
- 4) 示范单位社会保障办公室劳动部 2019。
- 5) 高级财务和财政主管 (Ban Sor.) 第 7 级, 总审计署, 2020 年。
- 6) Wattanakunakorn, 2020 年为文化部做出贡献。
- 7) 杰出商业女性社会发展和人类安全部 2020。



六、总结

邓有利和邓顾贵家族秉承着坚韧、勤奋、艰苦奋斗的生活作风和瑶族经商的成功榜样,以规范化、标准化的方式诚信经营,在个人创收的同时不忘回馈社会,为社会上弱势群体解决许多就业岗位。他把优先招揽本地区瑶族劳动力为出发点,在他的努力下,瑶族产品成为楠府知名名牌,楠府瑶族旅

游产品也成为全国 12 省中必去的旅游地。

邓有利和邓顾贵公认为是新一代瑶族人成功的典范。瑶族在当今技术变革和数字时代都能保持着传统瑶族智慧和顺应时代发展的潮流,通过不断学习科技、信息技术知识,是自己在时代变革中立足不败之地,通过职业创新启发新一代瑶族人,让他们继承瑶族智慧又能顺势进取,适应新时代下工作需要和终身学习能力,适应社会进步与科技变革中新生活。

最后,泰国新一代瑶族文化和价值观的变化也影响了其他群体新一代职业群体,年轻一代注重独立、自由和个人幸福,他们的观念与老一代思想和价值观有很大变化,这主要是受社会环境下的经济条件、技术变革、工作方式和生活方式等因素影响形成的,但瑶族文化价值观使年轻一代对科技充满信心,学习能力和自主创新能力是他们顺应当今社会发展的重要因素。

参考文献

2016 年楠府 优勉族(瑶)族传统婚纱银饰项目。

楠府优勉族(瑶)传统婚纱银饰制作项目。2016 年,楠府 优勉族(瑶)制作银饰项目。

<https://www.thai-tour.com/shop/3987>

瑶族宗教仪式剪纸研究

中国武汉 中南民族大学文学与新闻传播学院 元教授
何红一

摘要

本文从民俗文化角度探讨瑶族宗教仪式中的剪纸,认为瑶族宗教仪式剪纸与其他民族的同类剪纸一样,是中国民间剪纸的一个重要的组成部分。本研究首次从仪式剪纸与中国巫文化关系入手,追溯仪式剪纸之源。通过类型梳理,将其分为祭祀剪纸、“度戒”剪纸、求子求育剪纸、祈福消灾剪纸、丧俗剪纸等五大类型,进而论证瑶族宗教仪式剪纸所体现出的共通性与独特性特征,揭示瑶族宗教仪式剪纸的学术价值及抢救性整理的社会意义。

关键词: 瑶族宗教仪式; 巫文化; 剪纸; 类型与特征

中国剪纸 2009 年被联合国教科文组织纳入世界级非物质文化遗产名录,成为全世界共同的文化遗产。仪式剪纸是中国剪纸的一个重要组成部分,与宗教文化、民俗礼仪文化密切相关。

瑶族传统文化中宗教仪式和民俗礼仪种类繁多,仪式剪纸也尤其丰富。由于仪式剪纸依附于特定仪式,一般由瑶族宗教职业者随仪式进程现场剪制,用过即焚,所以存世甚少,不太容易引起学界的普遍关注。但它却具有深厚的历史文化价值,其研究领域亟需开拓。随着擅长剪纸的老人逐渐谢世,传统剪纸也处于濒临失传的境遇。急需研究者和非遗保护工作者积极行动起来,开展田野调查和资料收集工作,进行抢救性研究。

一、瑶族仪式剪纸与中国巫文化

(一) 剪纸起源于巫术

人类社会早期的剪纸大多被用于祈福避祸的巫术活动,巫术剪纸是剪纸的初原形式,也是民俗剪纸的重要类别。后世的宗教仪式剪纸就是在巫术剪纸基础上发展起来的。

巫术是人类文化的早期形式之一,“当人类遇到难关,一方面只是与实际控制的力量都告无效,而同时又必须继续向前追求的时候,我们通常会发现巫术的存在。”⁽¹⁾ 巫术“是人类为了有效地控

(1) 马林诺夫斯基著,费孝通译《文化论》,北京,华夏出版社 2002 年版,第 72 页。

制环境（外来自然）与想像的鬼灵世界所使用的手段”。⁽²⁾ 世界上每个民族的童年时期都有过巫术信仰与巫术行为，中国也不例外。

早期的巫文化催生了中国的巫术剪纸，同时也影响着各地民间剪纸发展。汉武帝时期的“灯烛照影”传说，是当时的术士利用类似纸张的软质材料剪出人形来招魂的巫术，这种模拟巫术，也被当做后来出现的剪纸和皮影戏的源头。

迄今为止被发现的最早的剪纸文物，是解放初期我国文物考古工作者在新疆吐鲁番阿斯塔那古墓群中发掘的魏晋南北朝时期（公元460年左右）的剪纸实物。作为随葬的冥物，这些剪纸虽出土于边陲，但体现的仍是中原一带汉族遗俗。唐时，民间剪纸招魂术盛行，故杜甫在“安史之乱”时逃难路过彭衙，友人为他招魂压惊，留下“暖汤濯我足，剪纸招我魂”的诗句。直到现代，中国广大农村和一些偏远地区仍流行剪纸人招魂、求子、祛病巫术。在楚国南郢故地南漳县，尚可见到端公（巫师）做法时，手执剪刀上剪出五个黄表纸人，焚香祷告、歌舞招魂的楚风遗绪。

剪纸招魂、求子、祭祖直接源于古代巫术。是古人生命巫术观念的体现。这种方法被引申到与生命相关的其他人类巫术仪式中，发展为剪纸招魂、剪纸求子、剪纸祭祖、剪纸祈福……，剪纸是中华民族古老仪式中的重要道具和不可或缺的巫术手段。

（二）早期的剪纸与巫术活动

我国新疆吐鲁番阿斯塔那古墓葬群中出土的一批古代剪纸，系盛唐至中唐时期（公元七世纪中）时期的文物。其中一件剪纸，排列成行的七个小人，即为“有寓意招魂的人胜”⁽³⁾，剪纸招魂，在汉唐时期非常流行。

《荆楚岁时记》载：“正月七日为人日，以七种菜为羹，剪彩为人，或镂金箔为人，以贴屏风，并戴之头鬓；又造华胜以相遗。”说的是古代“人日”习俗。“人日”亦称“人辰”、“灵辰”、“人生日”、“人节”、“人胜节”，节期在农历正月初七，相传为人的诞生日。“人日”这天，人们通常要用七种菜煮菜羹来吃，还要将彩色丝绸和薄金属片剪制、镂刻成一种叫“胜”的装饰物，佩戴以辟邪。其中剪刻成人状的叫人胜；剪刻成花鸟状的，叫华胜（花胜）；剪刻成双菱形套叠在一起的，叫方胜；更大一点的象小旗帜一样的，叫幡胜。

“胜”的原始意义是压、盖过，“厌胜”，为古代巫术之一，即“厌而胜之”的意思。厌胜，《辞海》释义：古代方士的一种巫术，谓能以诅咒制服人或物。“厌”字此处念 ya（阴平韵），通“压”，

(2) 张紫晨《中国巫术》，上海三联书店1990年版，第37页。

(3) 新疆维吾尔自治区博物馆《吐鲁番县阿斯塔那——哈拉和卓古墓群发掘简报（1963—1965）》，《文物》1973年第10期。

有倾覆、适合、抑制、堵塞、掩藏、压制的意思。人日节戴“胜”，最初是为了辟邪，后来才转为庆贺和祝福。人们为什么要用这种方式来庆贺人日呢？这恐怕要从原始巫术中的招魂、厌胜术谈起。古人相信人的生命是由魂与魄两部分组成，人的生病或死亡，是由于魂魄离散，如果设法招魂复魄，便可化凶为吉、起死复生。故古代招魂术盛行。

“人日”相传是人的生命的一大关口，是一个危机四伏、凶险交加的日子。所以人们格外小心谨慎，采用剪纸招魂、厌胜的办法来趋吉避祸、解厄渡关⁽⁴⁾。“胜”的原意为盖过、占优势。引申义很多，有象征力量和权利、生命崇拜和生殖崇拜、辟邪驱鬼的灵物等多种文化意蕴。与中国其它传统节日一样，人日节的起源非常古老。古老的前兆巫术观念和生命崇拜观念在人日的产生、发展演变过程中，起着重要作用⁽⁵⁾。因为“胜”为人日节的一个重要标志，故“人日节”又被称为“人胜节”。

剪纸人祛病招魂、求子祈福，后世皆有遗存。

云南曲靖有于年三十夜剪纸人替身分别放于家庭成员贴身处，然后于子亥相交时分取出焚烧以祛病解厄的旧俗⁽⁶⁾。越南瑶族亦有剪纸人巫术，“较普遍的一种是剪一个纸人，对着纸人念对方的姓名，然后挂在树枝上，用弓箭射击。人们认为，如果纸人被射中，对方不死也会患重病”⁽⁷⁾，这些皆为“人胜”古俗之流变。此例甚多，不赘述。

起初，“胜”的材质，是用薄金银片、或丝帛彩绸等软质材料制作，造型也以人胜为古，后来发展为华（花）胜、方胜等装饰纹样。造价低廉的纸张的出现和普及以后，纸自然成了金箔彩胜的替代品。唐代人日节人们使用和佩戴“人胜”、“花胜”、“彩胜”，宫中民间皆不例外。每年的这一天，人们都要剪制大量的幡胜作为求吉避祸的祥物，互相馈赠。皇帝也在这一天接见群臣，分别赐予他们金银或春罗剪制的幡胜，以示庆贺。剪纸就在这样一种民俗需求和文化氛围中得到普及和发展。

日本正仓院藏有两枚来自中国唐代的人胜。据日本齐衡三年（公元856年）《杂财物实录》载：“人胜二枚……天平宝字元年闰八月二十四日献物”，日本天平宝字元年即为唐代至德二年（公元757年）。其中一枚为罗地金箔字，上面剪出“令节佳辰，福庆惟新，夔和万载，寿保千春”十六字祝颂吉语。另一枚则用金箔镂刻出复杂的边饰，并饰以红绿罗的花叶，中心是幼童竹林下戏犬图⁽⁸⁾。因

(4) 何红一《人日节与“鼠嫁女”》，《民俗研究》2000.3。

(5) 何红一《人日节俗与楚巫文化》，收入方培元主编《楚俗研究》（第二集），湖北美术出版社1995年版，第147页。

(6) 笔者1999年10月22日于云南昆明民间剪纸张月仙老人家中，采访老人时所获。

(7) 奉恒高主编《瑶族通史》（下卷），民族出版社2007年版，第1014页。

(8) 张道一《中国民间剪纸艺术》（英文版），外文出版社1989年版，第5页。

为年代久远，两枚人胜已粘连在一起。它们虽然被称为“人胜”，但与初原状态的“人胜”相去甚远。既有文字点题，又有人物、动植物图案，刻镂得精致细腻，这是“人胜”这一厌胜物在历史长河中艺术化的结果。随着社会的发展，人们控制自然，战胜疾病的能力逐渐提高，巫术观念的淡漠，“胜”的巫术意味逐渐化为一种潜在的文化积淀，审美意味日益凸现，最终成为节日的装饰和点缀，这是民间文化进化的必然。

人日“戴胜”的初原意义在于辟邪护生，中古以后，“人日”古俗逐渐式微，人胜剪纸逐渐演变成节日里的装饰，“华胜（花胜）”、“彩胜”，成为朝廷内外、举国上下庆祝节日、表达美好祝愿的手段之一。民艺专家张道一先生指出，“剪纸是镂刻金箔的普及化和大众化的合乎逻辑性的发展”⁽⁹⁾，肯定了人日之“胜”在剪纸发展史上的重要作用。

二、瑶族宗教仪式剪纸的类型

按照瑶族宗教仪式剪纸的应用功能，本文将瑶族宗教仪式剪纸分为如下几类：

（一）祭祀剪纸

祭祀剪纸为祭祀祖先、讨好神灵所用。“我们对鬼神也很实际，供奉他们为的是风调雨顺，为的是免灾逃祸。我们的祭祀很像请客、疏通、贿赂。我们的祈祷是许愿、哀乞。鬼神在我们是权利，不是理想；是财源，不是公道。（费孝通）”⁽¹⁰⁾ 瑶族祭祀剪纸的代表性样品有祭祖神龛的装饰剪纸、还盘王愿时所用的“红花帐”剪纸等。

瑶族祭祖神龛（亦称神台）状如一座木制小楼阁，一般过山瑶家庭厅堂都有，是瑶族人供奉盘王及家先的场所，目的是祈求祖先赐福，保佑家人与子孙平安。正如神龛上对联所示：“敬祖自然天赐福，奉宗必定地生财”。

神龛上层类似阁楼，供奉盘王或家神神像。神像前供有香炉，安放“家先单”（祖先的花名册）。神龛的下层由四只木柱支撑，四周空悬于地。神龛内柱上挂有经书、法器。神龛周边装饰着层层叠叠的各色剪纸花，五彩斑斓，远看就像一座花屋。“瑶族地区普遍存在着这样一种说法，人都有三个魂魄，一个住在天庭，一个住在祖居地，另外一个住在神龛处”⁽¹¹⁾。这样一个重要的地方当然要重点装扮。

“还盘王愿”是瑶族拜谢盘王的祭祀仪式，盘瑶支系宗教生活中的一件大事，因许愿而还愿，反

(9) 张道一《剪纸的起源和历史》，收于张道一、廉晓春《美在民间》，北京工艺美术出版社1987年版，第237页。

(10) 费孝通《美国与美国人》，上海三联书店1985年版，第110页。

(11) 徐祖祥：《瑶族的宗教社会：瑶族道教及其与云南瑶族关系研究》，云南：云南人民出版社，2006年版，第221页。

映了瑶族社会“人神不欺”的契约精神。人们认为只要在一定时间内履行与盘王的约定，举办还愿仪式，就能获得盘王带来的福祉和庇佑。反之，则会引起祖先、盘王动怒，导致不祥之事发生。剪“红花帐”，是“还盘王愿”仪式所需的重要道具。

还愿主家在“还盘王愿”时搭建的愿堂，又叫神堂，是还愿仪式的重要场所，布置神堂称“装堂”，或“挂功德”。一般情况下还愿仪式有两次“装堂”过程：首次“装堂”挂众神像，多挂民间神画像，也有的挂剪纸神像⁽¹²⁾。等到仪式进展到“请盘王”阶段，就要进行二次“装堂”（亦称“排王席”、“盘王席”），拆除神像，换上代表盘王位的大红剪纸“红花帐”（“红花帐”各地称呼不一，亦有称“红罗缎”、“红罗花帐”的）。“红花帐”形制为矩形，上面叠剪出一层层代表不同内涵的图形。

湖南蓝山汇源瑶族乡的“红罗缎”上有太阳花、油茶树叶、猪心、盘王印、香炉、鱼等符号。“红罗缎”前设一张长桌供案，上置一头宰杀好的圈猪，猪的首尾部堆放糯米粑，上插剪纸花旗36面和花览（即“花朵”）36朵⁽¹³⁾。湖南江华的“红花帐”图案中有盘王像、红烛、酒杯、酒壶、铜铃、牲猪，每物图案可剪制六件或十二件，红罗帐两侧剪出百花竞放，剪好后挂于盘王位上⁽¹⁴⁾。湖南郴州的“红花帐”（瑶话叫“莲花伏朵”），在一张长方形红纸上剪（雕）纸各种图案，上下剪莲花，最上一层莲花孔用于竹签或绳子穿挂。中间剪多层特定图案，分别有：盘王像、香火或香炉、蜡烛；酒杯与酒壶、猪、旗帜、摇铃、供桌、酒缸、鲤鱼，最后是莲花下面手拉手的人物剪纸⁽¹⁵⁾。三地“红花帐”比较，其中的“盘王像”（蓝山是“盘王印”）、猪（蓝山是“猪心”）、花朵，这些图案是共同的。此外，鱼、香炉、烛也有较大的相似度。

广西贺州的还盘王愿仪式中，首次“装堂”，悬挂“三清”神像画。仪式进行到次日晚二十三时许，便开始第二次“装堂”：取下画像，换上以剪纸形式呈现的“盘王殿”（“盘王席”）。报道人称该剪纸（红花帐）是盘王到来之表征，上面的图案元素均为瑶族文化符号。剪纸自上而下的图案分别是：四季花、三位庙王（连州庙唐王、伏江庙盘王、伏灵庙五婆圣帝）、香炉、三个童男、长鼓、三个童女、鱼。⁽¹⁶⁾亦有的红罗花帐用一张长50cm、宽35cm的红色花纸凿刻，分为六行，从上至下分别是石榴、石榴花、泡桐花、猪心、盘王印、天狗和香炉，红纸底部粘贴一行同等宽度的黄色纸凿花，

(12) 李祥红、郑艳琼《湖南瑶族奏档田野调查》指出：如果祭祀堂大厅比较大可以挂上“满堂众主”及会首的纸剪像。岳麓书社2010年版，第13页。

(13) 张劲松等《蓝山县瑶族传统文化田野调查》，岳麓书社2003年版，第92页。

(14) 李祥红、郑艳琼《湖南瑶族奏档田野调查》，岳麓书社2010年版，第93页。

(15) 湖南郴州民委赵砚球口述：郴州茶坪李炳胜师公2004年所剪“红罗缎”图案。

(16) 邹宇灵《仪式艺术的文化边界与技艺传承——广西贺街镇瑶族还盘王愿个案》，《民族艺术》2018.5，第126页。

造型为鱼。盘王席上的剪纸小旗象征着盘王喜欢的三十六花园⁽¹⁷⁾。

可见，“红花帐”是各地还盘王愿仪式中是最有代表性的关键道具，其中的剪纸装饰符号也大同小异。

七月十四，剪纸衣、喃神祭祖是瑶族的重要节日。人们从十三就开始过，连过三天。十三这天，男人剪纸衣，女人包粽子做糍粑；十四这天杀鸡杀鸭，喃神祭祀祖先，把纸衣、粽子、糍粑、酒肉等喃送给先祖，以表孝心，也祈求先祖保佑家里人畜平安；传说十五中元节这天，阴间的先祖们要穿上新衣去赶集，所以需剪制新衣相送。

有些地方的瑶族七月十三迎祖，十五送祖，送时要烧化纸船、纸衣。广西大瑶山甲江一带的山子瑶除了剪纸衣，还要剪纸伞、手巾烧化给祖先。凡能记起名字的祖先，各得一份。远代的件数较少，近代的件数较多，由家长烧化。如家长未度过戒，必须请塞翁（师公，作者注）代替⁽¹⁸⁾。

（二）“度戒”剪纸

“度戒”为瑶族成年男性功德修成和地位提升的过渡仪式。瑶族人认为成年男性只有在现时世界中举行挂灯、度戒、加职、加太等一系列仪式，死后才能得到祖先的庇护和子孙的供奉，进入永生的神灵世界，并拥有相应的官职。

“挂灯”是受戒者神职级别的一种等级评定，“挂三台灯”后，男子获得法名，拥有阴兵护卫，就有成为一名师公的资格，但只有做小仪式的资格。只有到达挂七星灯、十二盏大罗灯的级别，才可以主持度戒、还愿、打醮等大型仪式。无论是在世俗世界或神灵世界里，师公都比常人具有较高地位和优势。因此，只要经济条件允许，瑶族家庭都要为家庭成年男性举行挂灯、度戒仪式。“度戒”亦称“打幡”、“抖筛”、“度身”、“度师”、“奏档”等，不同支系叫法不一。“度戒”剪纸为瑶族在举行“度戒”仪式时所使用的剪纸。

泰国瑶族“挂灯”椅，装饰五颜六色剪纸，显得隆重而精致⁽¹⁹⁾。湖南蓝山县汇源乡度戒仪式用醮坛，需设十二宫门。每个宫门上方，都贴有一张用红纸剪的五谷神像，神像上方为包谷图案，下方为猫及香炉。此外，在搭建花坛（亦称师坛）时，用篾条在方桌上方搭成双层楼廓，上贴七个剪纸太阳，其余为剪纸星星，顶端插一纸扎白鹤⁽²⁰⁾。剪纸中的植物造型有鸡公尾花、棉花、茶花、五谷神；动物有蜘蛛、团鱼、鲤鱼、蜈蚣、蛇等⁽²¹⁾。

(17) 李彦、陈敬胜、曹莉《仪式场域下黄洞盘瑶“神凿花”的符号功能》，《装饰》2017.6，第127页。

(18) 张有隽《瑶族宗教论集》，广西瑶族研究会印，1985年版，第101页。

(19) 引自赵砚球、刘玉兰《明灯照耀传香火——中泰勉瑶挂灯仪式调查与比较研究》PPT。

(20) 张劲松等《蓝山县瑶族传统文化田野调查》岳麓书社2003年版，第142页。

(21) 张劲松等《蓝山县瑶族传统文化田野调查》岳麓书社2003年版，第135页。

云南蓝靛瑶“度戒”中的“装坛”，也需在主人家堂屋的神龛前搭建“花坛”两扇。用竹子搭建框架，“上部贴有五色剪纸花，有的花形为葫芦，下部用于届时挂神仙画像。堂屋顶上四周也贴五色彩纸，道边还贴有剪成的人形、写有二十八星宿名的剪纸”。⁽²²⁾

广西贺州度戒中的“请神”要启用神像剪纸。神像剪纸以道教人物为主要原型进行凿刻，每张神像剪纸长 55 cm，宽为 40 cm，分别为元始天尊、灵宝天尊、道德天尊、玉皇、圣主、张天师、李天师、赵元帅、康元帅、四府、功曹、金庚、库官。其中库官剪纸为两张，其余各一张，共 14 张，称为“一套”。神像剪纸是仪式所用的“法器”，将其悬挂于仪式大堂之内，象征各位神灵到场，见证仪式顺利进行。仪式中会用到五套神像剪纸，故师公需一次凿刻五张神像。仪式结束后，便将神像剪纸取下，与其他剪纸一起到大堂外焚化。⁽²³⁾

贺州“度戒”中的“围台凤”，是用于“度戒”仪式和打醮仪式中的剪纸。“围台凤”是一种具有龙凤图案的红色剪纸。四张双龙双凤剪纸贴于仪式中门祭祀的神台上，相向而望，翩翩起舞，形象生动。“围台凤”寓意“天上有凤，地下有龙”，一方面用于师公请师，另一方面用于师公与天上地下所有神灵交流，将有所神灵请于此地⁽²⁴⁾。另有“神凿花”剪纸，裱于绳索上，顺序排列悬挂在仪式中门的 9 个宫门上⁽²⁵⁾。

广西金秀一带茶山瑶“度戒”要剪五色挂笈幡胜 90 条，装饰仪式场所。五色挂笈幡胜底部剪出“周”和“虎”字，其意待查。

（三）求子与婚育剪纸

求子与婚育剪纸指在求子、求育类仪式活动中所使用的剪纸。如民间在“祭花婆”、“作花楼”、“做还花”等仪式上所使用的剪纸。由纸人、花朵和祭坛、花楼、拱门装饰剪纸构成。

“作花楼”仪式主要源于“花婆”崇拜。“花婆”亦称床头婆婆、花王（皇）圣母、婆王、三楼圣母、三婆、花王神、花婆神、送花娘娘等，花婆信仰即生育神信仰，广泛流传于壮族、侗族、瑶族、苗族、毛南族、仫佬族、水族等少数民族聚居区，生育神崇拜的重点就在于解决人类生存繁衍问题。民间俗信“花婆是世间掌管生育、延寿、收魂、姻缘的女神，她负责管理花山，养育众多鲜花（即小孩）。她送花给谁，谁家就生孩子。送白花就生儿子，送红花就生女儿。花山上的花长得茂盛、鲜艳，就代表人间的小孩茁壮成长；如果花山上的花长虫、缺水、少肥，小孩就会生病、早夭、受劫等。花婆将两株花栽在一起，男女便结为夫妻。人死了，灵魂就回归花山，变化为花，再由花婆赐予别家，重新

⁽²²⁾ 徐祖祥《瑶族文化史》，云南民族出版社 2001 年版，第 141 页。

⁽²³⁾ 周莉《贺州盘瑶仪式剪纸艺术特征研究》，湖南师范大学 2018 硕士学位论文，第 17 页。

⁽²⁴⁾ 周莉《贺州盘瑶仪式剪纸艺术特征研究》，湖南师范大学 2018 硕士学位论文，第 23 页。

⁽²⁵⁾ 李彦、周莉《贺州盘瑶度戒仪式剪纸的类型与审美特征》，《大众文艺》，2017.07，第 36 页。

投胎人世。”⁽²⁶⁾

在广西金秀瑶山，人们普遍信仰生育神“花婆神”（俗称“三婆”），认为孩子均为“花婆神”所送，故有了孩子的人家，都要“做还花”仪式酬谢“三婆”。其中茶山瑶完整的还花仪式前后需做八次。“做还花”可单做，也可兄弟姊妹合做，视规模大小扎制单楼、双楼、三楼不等的祭坛。祭坛中弓形的拱门上装饰以剪纸纸花⁽²⁷⁾。金秀山子瑶“做还花”也要扎花塔，以红白两色纸剪成花朵与人形⁽²⁸⁾。

（四）祈福消灾剪纸

祈福消灾剪纸为消灾祛病、延年益寿目的举办的各类打醮、架桥、安龙、收金、祈雨、赶鬼、除秽等仪式上所用的剪纸，一般由剪纸挂笺、幡胜以及祈福桥、祈福轿上的装饰剪纸构成。

广西金秀茶山瑶“做洪门”，亦称“洪门祭祀”、“打香火醮”，为茶山瑶隆重的祈禳祭典，一般许多年才做一次。做时由血缘亲近的房族联合举办，目的在于祈求人丁安乐、五谷丰登、六畜兴旺。“做洪门”的祭典场所悬挂层层叠叠的五色挂笺幡胜剪纸，烘托出场地隆重庄严的气氛。

“架桥”“祈福”是瑶族为家人祈福延寿的方式之一。北加州瑶人赵成仙告知，在其父亲年高体衰，恐运势不佳的情况下，兄弟们便为父亲举行了一次“架桥”仪式来祈福延寿。“架桥”仪式用竹竿搭建了一座桥，桥的周边大量使用五色剪纸幡。北加州瑶族师公李如坤身体不适，被认为魂不在身，遂请另一大师公邓才福（师公世家，1985年成为大师公）为其做“释师傅”仪式来驱灾祈福，其中也使用剪纸人和白色的剪纸旗幡。

（五）丧俗剪纸

丧俗剪纸指在打斋、安魂、送亡等丧俗仪式场所中使用的剪纸，有招魂幡、棺材罩、纸扎冥器上的装饰剪纸等。

贵州从江瑶族丧俗中的引魂幡，为度戒之人专有。引魂幡上部扎有灯罩类笠

形顶，饰以剪纸花。下垂白幡近6米长，两侧饰以彩色剪纸花边。白幡上书奉请三清大道、四府群仙……加职等语句。假如亡者度过戒，亦有有儿子，其子以后度戒便可以直接获得加职。这种习俗影响下，亡者的引魂幡为一长一短两根，是专门为有惠于后人而设置的⁽²⁹⁾。

(26) 朱展炎《过关与护花——广西昭平县仙回瑶族乡“作花楼”仪式考察》，《宗教学研究》2017.2，第149页。

(27) 刘保元、莫义明《茶山瑶文化》，广西人民出版社2002年版，第207-211页。笔者2008年在金秀调研时，观看金秀民委所提供的茶山瑶民俗视频资料也有类似影像描述。

(28) 笔者2008年在金秀县长峒街调研时，采访师公李光文所获。

(29) 图片及信息由中山大学博士生李明洁提供，是她于2023年夏季在贵州从江调研时所获。

湖南蓝山汇源“过山瑶”度过戒的成年人去世后做道场科仪，要书写榜文，制作道场挂吊，榜文和挂吊的末端剪蜘蛛、团鱼、鲤鱼、青蛙、蜈蚣、蛇、鸡尾花、棉花、茶花、螃蟹等⁽³⁰⁾。

广西大瑶山山子瑶认为人死后不能马上升天，要先在地狱服役，三年后（亦有改为一年者）请道公“修醮”，送灵魂去天宫。做这项仪式时，要用纸糊一座房子，写上“逍遥宫”、“快乐乡”、“十道真人来接引”等匾额、对联，于法事后烧掉。⁽³¹⁾“纸糊房子”即纸扎灵屋，其中包括剪纸技艺。

（六）其他

宗教或礼仪场所，司仪人员的服饰装饰剪纸。如师公的法冠帽饰，亦称“神额”，仪式时师公佩戴于头部，是神权的象征。神额分九个部分，每部分都绘有神仙人物和图案。一般绘有三清、玉帝和圣主、张天师和李天师七位神人。“神额”由多层纸粘连制成（手绘+镂空雕刻）。外形类似僧帽，呈扇面状。法冠两侧亦有剪纸镂空装饰。

此外，各种仪式中通用的兵马旗、纸花、幡胜、纸人纸马，以及阴阳牒等物的剪纸装饰，及上述类型中未尽述之剪纸，暂归于此类。

三、瑶族宗教仪式剪纸的特征

（一）依附性与神圣性

仪式剪纸依附于民间仪式活动，多为在特定的仪式场所由瑶族祭司现场制作，对制作人有严格的要求。例如“还盘王愿”中“红罗花帐”与“花旗”一般必须仪式当天裁剪制作，平时不能裁剪也不能使用。神像剪纸作为神像的替代物，具有神圣性。这些剪纸的制作较为复杂，可由神职人员依据仪式安排，在仪式准备阶段提前凿刻，但所凿图案与凿出的纸屑都需妥善处理。

多数仪式剪纸要求现场制作，其制作环境被视为神圣空间，亦有许多礼节。例如湖南江华瑶族“红罗花帐”由主师主制，需取圣洁水盥手后方可动手剪制⁽³²⁾。剪制时的禁忌与仪式现场的禁忌相同：例如不能说不吉利的话、严禁嬉戏吵闹、严禁做不净之事等。在旧时代，还盘王愿时严禁汉人进入，也严禁在愿堂说汉话。否则，会引起祖先的怪罪。

师父在制作前必须沐浴，还要提前七天禁绝房事；剪纸制作过程中，女性和不属于本家族的人不能碰剪纸，否则被视为不敬；剪纸完成后，需要对其进行开光。悬挂时，仪式过程中，剪纸不能随意丢弃与遭人践踏。仪式过后即通过焚烧处置。

(30) 张劲松等《蓝山县瑶族传统文化田野调查》，岳麓书社 2003 年版，第 264 页。

(31) 张有隽《瑶族传统文化变迁论》，广西民族出版社 1992 年版，第 159 页。

(32) 李祥红、郑艳琼《湖南瑶族奏档田野调查》，[M]. 岳麓书社，2010. P93.

（二）符号性

仪式剪纸与其他生活和节日装饰用剪纸不同。一般纹饰简约、构图规整，以简代繁、约定俗成。多为概括性描述，无复杂的结构，由师父用折叠剪纸技法快速剪成，所剪的剪纸符号都带有特定的象征意义。

一般人形代表神（或祖先）、鬼、人；花一般用于装饰环境，但在求花（求子）仪式中则代表孩子，其中红花代表男孩、白花代表女孩。

在“还盘王愿”中，“红花帐”代表“盘王”在场。仪式进行到“请盘王”阶段，要进行二次“装堂”，俗称“排王席”、“盘王席”。此时拆除神像，换上大红剪纸“红花帐”，“红花帐”就是盘王在位的标志性符号。

再如“大庙花”是供在神台上的大型剪纸，画面上有瑶族特有的代表瑶族十二姓的长鼓十二个、香炉六只、神仙形象六位、还有代表年年有余的吉祥鱼纹十二条。剪纸强化十二这个有意味的数字，以简代繁，表达十二姓瑶人及其相关符号丰富的文化内涵。

贵州瑶族“关煞”仪式纸幡总共 4 条，最上面的圆形图样固定不变，象征太阳，下方 4 条幡带的图样根据事主遭遇的关煞而变化。其中纸幡用于“丧门白虎煞”，犯此煞者如遇“白虎”（指一种鬼怪）扑倒，容易生重病。因此，纸幡的图样从上至下依次是“树花”（象征森林）、碗、人以及鱼，意思是在森林中放置一碗，并且碗在人的前面，那么老虎先见到就是碗而不是人，由此可保人周全。另一纸幡用于“拐棍关煞”，犯此煞者会赖床犯懒，因此使用的纸幡图样从上至下依次是水仙花、鱼、人、鱼，象征鲤鱼打挺将水仙花拱出水面，由此人就不会赖在床上不动。⁽³³⁾

广东贺州瑶族神像剪纸脱胎于瑶族神像画，但与神像画相比，更加简明扼要、抽象概括。以元始为例，元始天尊又称盘古大神、道教鼻祖。经书记载：元始天尊“头戴金冠之顶，身着龙凤之衣，脚踏龙凤之鞋”。剪纸中的元始天尊神像，也为上下两层次。上层为元始天尊像，束发、头戴官帽，手捧香炉，左右衣袖上各有一朵梧桐花和桂花。下层为童男童女，头顶上都凿有一束光环，手势相同。左边为童男，右边为童女，两人面部相向而望，童男童女中间摆放一个大香炉。四周为一些几何样式的装饰图案。

（三）综合性

综合性主要指仪式剪纸在工艺多样、造型多样、功能多样上所呈现出的综合特性。

工艺多样。仪式剪纸是聚纸扎、剪纸工艺为一体的综合艺术，剪凿并用、剪刻兼用，运用剪刀、刻刀、凿刀等多种工具，通过剪刻、鏤刻、凿刻多种方法完成制作。仪式剪纸的工艺制作过程充分表

(33) 李明洁《德国巴伐利亚州立图书馆瑶族文书的再语境化研究》，中山大学 2022 年度硕士论文第 72 页。

现了瑶族法师一专多能，擅长利用纸质材料即兴创作的综合技能。

造型多样。同是剪“红花帐”，湖南与广东、国内与国外瑶族都不尽相同。即使同是湖南的过山瑶的“红花帐”，也会同中见异，各具其貌。例如湖南郴州资兴师公20年前做法事所剪的“红罗缎”分十层，内涵丰富。后来同样在资兴盘王节祭祀上出现的“红罗缎”就简单得多。当地瑶族学者告知，瑶人一路迁徙，到郴州就定居下来了，所以当时老师公所剪“红罗缎”能保持较原始的状态。后面的人把有些图案弄丢了，有的人甚至会剪，也讲不清其中的含义了⁽³⁴⁾。

功能多样。仪式剪纸兼仪式道具、环境装置、仪式标志等多种功用为一体。作为环境装置，亦具有神圣与世俗场景转换、神灵指代等多种功能。例如在“还盘王愿”仪式中，“红花帐”的出现，就标志着盘王在场。“盘瑶宗教仪式中重要的仪式器物，它不仅是神圣与世俗空间转化、人神沟通的符号，具有连接仪式主体和仪式客体的中介功能，而且还与仪式依附共生，系统地体现了瑶族宗教神灵的体系构架，是瑶人宗教精神的外化和客观化符号”⁽³⁵⁾。仪式剪纸，无疑也属于这种仪式器物体系。

仪式剪纸有时会在多个仪式中通用。例如“兵马旗”“令旗”“纸幡”可运用在“还盘王愿”“度戒”“挂灯”和其他仪式中；神像剪纸和围台凤在“度戒”、打醮仪式上都可使用。瑶族俗语称“人爱风流，鬼爱花”，花既用于祭祀神灵，也用于祭祀野鬼。供碗中的米用于供奉道场周围的野鬼。米碗上插上剪纸，中间的剪纸象征鬼，左右的剪纸象征花，花用于供奉野鬼⁽³⁶⁾，其功能的多样性也是显而易见的。

（四） 共通性与独特性

共通性与独特性是相辅相成的一对特性。中华民族文化多元一体，体现在不同民族宗教仪式剪纸上也表现出一些共通性特征。例如广西、贵州一带壮、瑶、仫佬、苗、布依等民族都有“求花”、“还花”及架“求子桥”习俗，仪式中的剪纸方式大抵相似，这正是各民族求子文化在互动中相互影响、融合的产物。

纸伞与棺罩是南方一些民族丧仪的重要道具。广西茶山瑶丧葬仪式中用纸伞、棺罩，与海南黎族丧仪用纸伞和棺材罩（又称“龙被”、崖州被，其中棺材罩就有的是用剪纸制成）。而多地瑶族民间仪式中也重视用纸伞，并有祖先盘王为迁徙中的瑶族同胞送伞避难的传说，这些均表现出不同民族在剪纸民俗中“你中有我，我中有你”，交融互动而形成的共通性特征。

(34) 郴州原民委主任赵砚球口述。

(35) 李彦、陈敬胜、曹莉发表的《仪式场域下黄洞盘瑶“神凿花”的符号功能》，装饰2017.6, P127.

(36) 李明洁《德国巴伐利亚州立图书馆瑶族文书的再语境化研究》，中山大学2022年度硕士论文第73页。

瑶族宗教仪式剪纸与南方其他民族相比，既有相通之处，又显示本民族的独特性。例如神龛剪纸与瑶族注重祖宗神灵安放的家庭祭祀有关、“还盘王愿”时剪“红花帐”，也是瑶族独有的祭祀先祖盘王仪式的产物，所用的剪纸形式及图案，均体现出瑶族宗教仪式剪纸的独特性，具有鲜明的本民族文化特色。

四、余论

（一）瑶族宗教仪式剪纸是瑶族文化不可忽略的一个组成部分。

本研究涉及到民俗信仰和民俗艺术诸方面，通过鲜明生动的剪纸符号来表达深厚的文化内涵，为解读瑶族文化提供新的路径。

（二）瑶族仪式剪纸的抢救性调查与研究亟待加强

在宗教仪式中，所有的剪纸用品用即焚，不能保留。师公解释这是神灵的东西，是归神灵所有。按宗教传统，人间之物只有经过焚烧，神灵才能接收并享用。所以，这类剪纸存世甚少。随着擅长剪纸的老人逐渐逝去，宗教仪式剪纸也处于濒临失传的处境。急需研究者和非遗保护者积极行动起来，开展田野调查和资料收集工作，对特定的剪纸传统、技艺、口述历史、图像意义作抢救性记录与整理，建立实物档案和信息档案，为进一步研究创造条件。

宗教仪式剪纸的田野调查是一门操作性极强的工作，需要严谨的科学态度和细致专业的操作程序。除图样的收集外，还需调研图样背后的文化内涵、图样的制作工艺和使用功能，制作人的传承谱系和纹样传承谱系等信息。把调研工作放到仪式活动的进程中去，在活态文化中展开调研，获得第一手材料也是非常必要的。要找到有影响的师公、道公等神职人员和他们的亲友，对仪式剪纸制作人及相关文化做更深层次的历史追问，获得完整的调研资料。防止因时过境迁，剪纸图样及技艺在传承中发生变异、重要内容简化或遗失而带来的遗憾。

宗教仪式剪纸研究领域，尚存许多可开拓空间，本文仅为抛砖引玉，敬请行家多多关注，共同推进！

Importance of Livestock for the Mien (Yao) People Living in a Hillside Village in Northern Thailand: Focusing on their Sacrificial Utilization

Kanagawa University, Japan
MASUNO Takashi

Abstract

This study aims to, first, provide an overview of Mien livestock husbandry in a Mien hillside village (Village P); second, demonstrate the number of pigs and chickens that are sacrificed at Mien New Year Festivals; third, indicate their source of supply of sacrificed pigs and chickens at these festivals; and fourth, discuss how the Mien people maintain traditional rituals from the viewpoint of sacrificial animals. The results are as follows. Almost all households keep chickens, pigs, and dogs, and many households keep cats. The Mien people sacrifice chickens, pigs, cattle, and ducks, including Muscovy ducks. During the Mien New Year Festivals, the Mien people frequently conduct rituals for their ancestors, during which many chickens and pigs are sacrificed. The villagers in Village P raise chickens and pigs for traditional rituals. However, they sacrifice not only the livestock that they raise but also those that they buy from lowland Thai villages. Mien traditional rituals are maintained by partly using lowland Thai villages.

1. Introduction

Peasants in Southeast Asia not only farm, but also engage in many other subsistence and economic activities, including livestock husbandry (Yoshino et al, 1999; Masuno, 2012; Masuno, 2014). They raise various livestock such as cattle, water buffaloes, pigs, and chickens. Although most peasants do not treat livestock husbandry as their primary subsistence activity, they are closely related to livestock. Some ethnic groups, particularly the Mien, have traditionally conducted and used livestock as sacrificial animals (Masuno, 2012; Masuno, 2015).

Some studies exist on Mien rituals and documents for these rituals; however, few have reported on livestock for sacrifice. Livestock for sacrifice is as important as Mien priests, who conduct their traditional rituals, and Mien documents.

This study aims to, first, provide an overview of Mien livestock husbandry in a Mien hillside village (Village P); second, demonstrate the number of pigs and chickens that are sacrificed at Mien New Year Festivals; third, indicate their source of supply of sacrificed pigs and chickens at these festivals; and fourth, discuss how the Mien people maintain traditional rituals from the viewpoint of sacrificial animals.

2. Research area

Main research was conducted at Village P in Phayao Province, Northern Thailand (Figure 1). Village P is located on a hillside at an altitude of around 950 m (Photo 1). It was established more than 100 years ago, and in 2023 had a population of about 120. The villagers are Mien people. Household A belongs to Village P. Abundant forest surrounds the village, but it has been designated as protected forest by the Royal Forest Department of Thailand since 1991. All photos of this report were taken by the author in January 2023.



Figure 1. Research area



Photo 1. Agricultural fields around Village P (January 2023)

The main subsistence and economic activity in the village is agriculture, and almost all households engage in upland farming. They mainly grow upland rice and maize. Some households engaged in gum tapping. Villagers of Village P keep a variety of livestock (Table 1). Chickens are most popular livestock in the village (Masuno, 2008 and 2009). The use of working animals has declined in recent years. In the 1970s, horses played an important role carrying heavy packs in Mien villages (Hakari 1978:168-169), but pickup trucks and motorbikes have largely taken over this role. Mien people use a variety of livestock for many purposes, which can be roughly divided into four categories: sacrifice, labor, home consumption, and sale (Table 2). Chickens and pigs ritually sacrificed are eaten at feasts. And I have often seen Mien people eating chicken, pork, and beef. For the Mien in Northern Thailand, eating dog is not taboo, but few like to eat it and it is very rarely done. The Mien never eat cat.

The Mien practice animist rituals strongly influenced by Taoism (Schliesinger 2000:158). The Mien conduct a variety of rituals (Yoshino, 2009). Many of these rituals are related to ancestor worship and are conducted by Mien priests. The priests have three ranks: little priest, semi-master, and great master. The most complex rituals are conducted only by the great masters. The Mien hold prominent annual events twice a year, around the first day of the First Month and the fourteenth day

of the Seventh Month based on the lunar calendar. The former is the main festival, the Mien New Year Festivals (Photo 2).

Table 1. Number of Livestock raised in the Village P (February 2015, just after the Mien New Year Festivals)

Types of livestock	Total number	Number of livestock per household		Household owing livestock	
		Average	Range	Number	Percentage
Chikens	257	12.2	4 - 30	21	100.0
Pigs	188	9.0	0 - 21	19	90.5
Dogs	22	1.0	0 - 3	15	71.4
Cats	7	0.3	0 - 2	6	28.6
Ducks	16	0.8	0 - 14	2	9.5
Cattle	2	0.1	0 - 2	1	4.8
Others	0				

Notes: Chickens are limited to adult birds. In Mien New Year Festivals of 2015, 98 chickens and 19 pigs were sacrificed in the Village P.

Source: Masuno (2015)

Table 2. Breakdown of livestock utilization by the Mien people in rural Northern Thailand

Types of livestock	Utilization			
	Sacrifice	Labor	Home consumption	Selling
Chickens	XXX	-	XXX	X
Pigs	XXX	-	XXX	XX
Dogs	-	X	X	X
Cats	-	-	-	-
Ducks	X	-	X	X
Goats	-	-	X	X
Rabbits	-	-	X	-
Cattle	X	-	XX	XXX
Water buffalo	-	-	X	XX

XXX: Very popular, XX: Popular, X: Seldom, -: Not observed

Note: Dogs are watchdog.

Source: Masuno (2012)

The Mien is well known that they frequently sacrifice chickens and pigs, and much less frequently ducks and cattle, in rituals. In the study area, two species of ducks are found: the common duck (*Anas platyrhynchos*), a native species of Asia, and the Muscovy duck (*Cairina moschata*) which originated in South America. Mien people in the study area do not make a distinction between

the two species. Both species can be used in their ritual sacrifices. It has been reported that goats can also be used for Mien rituals (Chob Kacha-ananda 2000:115).



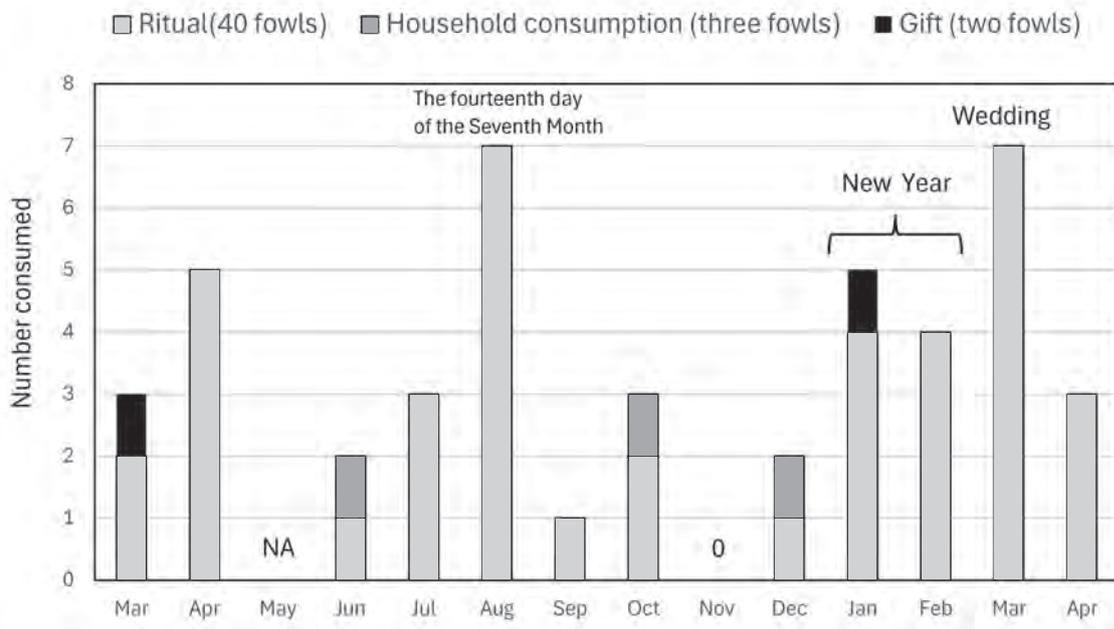
Photo 2. The Mien New Year Festivals: Representative of each household visit all houses in the village (January 2023)



Photo 3. Slaughter a pig (January 2023)

3. Sacrificial Utilization of Livestock in the Mien village

The Mien conduct a variety of rituals daily of weekly and they frequently sacrifice chickens and pigs (Photo 3). Figure 2 shows monthly chicken consumption by purpose in household A from March 2005 to April 2006 and household A slaughtered at least 45 chickens in total.



Note: NA means Not Available. Household consumption did not involve any rituals. Gifts comprised offerings to visitors (March) and to agricultural workers (January). Household A consists of seven people (four adult person and three children).

Source: Modified from Masuno (2008 and 2010)

Figure 2. Monthly chicken consumption by purpose in household A from March 2005 to April 2006.

Consumption for rituals was observed almost every month. Household consumption, on the other hand, was observed three times (June, October, and December 2005; one fowl being consumed each time) and consumption as a gift twice (March 2005 and January 2006; one fowl being consumed each time). Household consumption did not involve any rituals. Gifts also did not involve any rituals and comprised offerings to visitors (March) and to agricultural workers (January). Household consumption, consumption for rituals and consumption for gifts were three fowls (6.7%), 40 fowls (88.9%) and two fowls (4.4%), respectively. About 90% of the chickens were consumed for ritual purposes (Table 3). A custom of using chickens as a gift existed in the study village.

The two months in which the fourteenth day of the Seventh Month (August 2005) and the wedding ceremony (March 2006) took place saw the greatest numbers of chickens consumed during the research period (Figure 2). Six fowls were consumed during the Mien New Year Festivals (January 2006), but the number of chickens consumed was not significant in Figure 2. This is because the ceremony lasted over two months (January and February 2006).

Table 3. Numbers and proportions of sacrificed chickens at household A from March 2005 to April 2006.

Variety of ritual	Number of chickens consumed [fowl]	Proportion [%]
Rituals for ancestor worship and praying for good fortune, good agricultural harvest, etc.	21	52.5
The fourteenth day of the Seventh Month (One of prominent annual events)	6	15
The New Year celebration of the Mien people (One of prominent annual events)	7	17.5
Wedding ceremony	6	15
Total	40	100

Note: Figure 2 shows monthly chicken utilization at household A in Village P.
Source: Modified from Masuno (2010)

The number of pigs and chickens sacrificed for the Mien New Year Festivals of February 2010 in the Village P were reported (Masuno, 2012). During the New Year Festivals of February 2010, 13 of the 21 households sacrificed a pig each (Table 4). Out of those pigs, 12 had been raised by the households, while one household bought its pig from outside the village. This household was the only one not keeping pigs at the time. All households sacrificed chickens during the New Year Festivals, as part of their ancestor worship rites (Photo 4). A total of 137 chickens were

sacrificed (6.5 chickens per household). Seven households bought 43 chickens in total, mainly from other lowland villages, especially Khon mueang villages. They bought live chickens and kept them for their rituals.

In the case of the Mien New Year Festivals of February 2015 in Village P, 85 percent of households sacrificed 19 pigs in total and 95 percent of household sacrificed 98 chickens in total (Masuno, 2015).



Photo 4. Sacrificed chickens for the Mien New Year Festivals (January 2023)

When the villagers do not have enough good chickens or pigs to sacrifice, they buy live animals for their rituals. They sacrifice the animals just before the rituals begin. Most of the Mien people in these villages believe that slaughtered chickens or pigs sold at market are useless for Mien rituals. The villagers in Village P raise chickens and pigs for traditional rituals. However, they sacrifice not only the livestock that they raise but also those that they buy from lowland Thai villages.

Table 4. Number of pigs and chickens sacrificed for the New Year Festivals in Village P (February 2010)

Item	Livestocks sacrificed	
	Pigs	Chickens
Households conducting sacrifices, n (%)	13 (62)	21 (100)
Male (n)	11	112
Female (n)	2	25
Total (n)	13	137
Average (n/household)	0.62	6.5
Households that purchased pigs or chickens, n (%)	1(5)	7(33)
Purchased pigs or chickens, n (%)	1(8)	43(31)

Source: Modified from Masuno (2012)

4. Conclusions

In Mien society in Northern Thailand, a variety of Mien traditional rituals still conducted daily or weekly basis and villagers of Village P still frequently sacrifice chickens and pigs. In the Mien New Year Festivals, chickens were sacrificed in almost all households and pigs were sacrificed in many households. The custom of sacrificing chickens and pigs is still commonly conducted by the Mien

who follow the Yao Taoist religion. Livestock for sacrifice is as important as Mien priests, who conduct their traditional rituals, and Mien documents. The villagers in Village P raise chickens and pigs mainly for their traditional rituals. However, they sacrifice not only the livestock that they raise but also those that they buy from lowland Thai villages. Mien traditional rituals are maintained by partly using lowland Thai villages.

Acknowledgement

I thank the Villagers of Village P for their help with my field research.

References

- Chob Kacha-ananda 1997 *Thailand Yao: past, present, and future*, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.
- Hakari, Hiromitsu 1978 “Economic Life.” In: Shiratori, Y. (ed.), *Ethnography of the Hill Tribes of Southeast Asia*, Tokyo: Kodansha. pp.305-310.
- Masuno, T. 2008 “Chicken consumption at the mountain village in Northern Thailand.” *Livestock Research for Rural Development*. Volume 20, Article #37. Retrieved September 7, 2024, from <http://www.lrrd.org/lrrd20/3/masu20037.htm>
- Masuno, T. 2009 “Implementation and drawbacks of caponization in a hillside village in northern Thailand.” *Livestock Research for Rural Development*. Volume 21, Article #147. Retrieved September 7, 2024, from <http://www.lrrd.org/lrrd21/9/masu21147.htm>
- Masuno, T. and Nakai, S. 2009 “Pig husbandry.” In: Akimichi, T. (ed). *An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin*, White Lotus Press. pp. 55-58.
- Masuno, T. and Ikeya, K. 2010 “Chicken Production and Utilization for Small-Scale Farmers in Northern Thailand: Case Study at a Mien Hillside Village.” In: Sirindhorn M.C. and Akishinomiya, F. (eds.), *Chickens and Humans in Thailand: Their Multiple Relationships and Domestication*, Siam Society. pp.290-312.
https://drive.google.com/file/d/1XJyswjiDTuyv7u6a1UuNjzc_uWWt6nXf/view?usp=sharing
- Masuno, T. 2012 “Peasant Transitions and Changes in Livestock Husbandry: A Comparison of Three Mien Villages in Northern Thailand.” *The Journal of Thai Studies*, 12:43-63.
https://thaigakkai.org/wp-content/uploads/journal/12_43.pdf
- Masuno, T. 2014 “Livelihoods of hillside areas in the past and the present: Mien (Yao) people in Northern Thailand.” In: Mekong Region Social Research Center ed. *Changing Way of Life of Ethnicities in the Mekong Sub-region*. Ubon Ratchathani: Faculty of Liberal Arts, Ubon Ratchathani University. pp.35-53.
https://www.ubu.ac.th/web/files_up/00131f2022051710060289.pdf#page=35
- Masuno, T. 2015 “Animal Sacrifice in the mien (Yao) Society in Northern Thailand.” *Biostory*, 23: 24-27. (In Japanese)
増野高司 「ニワトリとブタの供犠：タイ北部に暮らすミエン族の事例」
https://drive.google.com/file/d/1oFstB_0QxFgHkzbDEKqOi7PTpoN1nflH/view?usp=sharing

- Schliesinger, Joachim 2000 *Ethnic groups of Thailand: non-Tai-speaking peoples*, White Lotus Press.
- Yoshino, A., Mongkhol, C. and Somkiat, C. 1999 *Labour Migration of Highlanders of Northern Thailand: Research on the Mien-Yao's labour migration and its social influences*, Tokyo Gakugei University.
- Yoshino, Akira 2009 “The Functions of Chinese Literacy in the Iu Mien Society of Northern Thailand.” *Senri Ethnological Studies* 74: 117-127.

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月12日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループD「儀礼実践の諸相」

D組「儀式実践的各種形態」

瑶族度戒仪式

——从金门与优勉两个支系的对比研究视角出发

文化旅游应用研究院 博士
陈友山

摘要

本研究旨在深入分析瑶族宗教信仰的特性，特别关注金门支系与优勉支系在度戒仪式上的异同。本文将详细阐述两个支系在度戒仪式中的共通之处。然而，更加核心的是，通过对比这两个瑶族支系在度戒仪式上的年龄要求、性别角色、仪式目的、神圣空间配置以及具体仪式活动的差异，来揭示两者之间的独特性。本研究聚焦于越南北部山区的瑶族群体，对其度戒仪式进行了系统的考察。

关键词：度戒仪式，瑶族，门支系和优勉支系，宗教信仰。

瑶族主要分为金门和优勉两大支系，其度戒仪式在诸多方面表现出显著差异，包括但不限于仪式对象、举办时间以及仪式构成要素。本研究旨在深入分析这两个支系度戒仪式的异同点，并探讨这些差异背后的原因及其制约因素。研究区域集中在越南山区，即瑶族的主要聚居地，而研究时段则定位于当代，同时，本研究还将参考历史资料，对现行仪式与过往仪式进行对比分析。

在越南，瑶族的两个主要支系，金门和优勉，分别居住在不同的地理高度区域。优勉支系主要分布在海拔 1000 米以上地区，包括红瑶、窄裤瑶、卢刚瑶、大板瑶、谷昂瑶和谷勉瑶等群体；而金门支系则主要聚居在 1000 米以下地区，包括蓝靛瑶、长衣瑶、白裤瑶和平头瑶等群体。根据 2019 年越南全国人口普查数据，瑶族总人口为 891,151 人，其中约 60% 属于金门支系，约 40% 属于优勉支系。

一、对优勉支系与金门支系度戒仪式的概述研究

关于瑶族度戒仪式的研究资料相对匮乏，尤其是深入探讨每个具体问题的专著。目前，在越南和中国仅有少数关于瑶族度戒仪式的专著出版。越南关于瑶族度戒仪式的首部专著为番玉奎于 2003 年⁽¹⁾出版的《谅山卢岗瑶的度戒仪式》。其次，瑶族年轻研究者盘俊能于 2019 年⁽²⁾出版的《越南瑶族度戒仪式》专注于高平和北干两省窄裤瑶的度戒仪式研究，并主要采用民族学描述方法。该书对度戒仪式的多个环节及控制因素进行了分析。此外，闭曰等、阮克颂、依忠、阮南进合著的《越南

(1) 番玉奎 (2003 年) - 河内文化通讯出版社

(2) 盘俊能 (2019 年) - 河内文化民族出版社

北部瑶族》以及李行山 1971 年的《越南北部钱瑶》中也有专门章节介绍度节仪式。在中国，关于度戒仪式功能的介绍较为有限，如李祥红、郑艳琼主编的《湖南瑶族抖筛田野调查》⁽³⁾，详细描述了抖筛仪式（优勉支系度戒仪式）。刘涛在 2021 年的著作《蓝靛瑶度戒仪式的人类学研究》⁽⁴⁾中，除了描述蓝靛瑶度戒仪式外，还分析了仪式的表征系统和结构。黄贵权先生的《瑶族志：香碗 - 云南瑶族文化与民族认同》⁽⁵⁾对比了金门支系和优勉支系之间的度戒仪式。总体而言，无论是中国还是越南，对瑶族度戒仪式的研究都较为缺乏。中国已开始对金门支系和优勉支系的度戒仪式进行研究，而越南则主要集中在优勉支系的度戒仪式上。这些研究大多采用民族学描述方法（黄贵权先生的著作除外），尚未有学者对金门和优勉支系之间的度戒仪式进行比较研究，这仍是瑶族度戒研究领域的一个空白，也是理解两个支系数仪式异同的关键。

二、优勉支系与金门支系度戒仪式的比较分析

（一）优勉支系与金门支系的度戒仪式的共通性

优勉支系与金门支系的度戒仪式在目的上存在共同性，即均旨在标志瑶族男孩的社会成年以及在宗教信仰生活中的进阶，增强其对信仰的信赖，并预示其来世的幸福生活。该仪式根据灯的数量分为不同的级别：第一级为 Tǎng Dèn (Đǎng Yén) – Hanh Ho (Hạnh Hạ chay)，第二级为青灯：Tu Pu – Công Hìn，第三级为：Công Vương – Mì Dòn Chải，而第四级则为：Minh Chân – Hồng Wuǎn (Minh Châu 洪恩大会)。尽管度戒仪式包含多种丰富的程序，其核心环节包括清洗斋坛以迎接各方神圣，向神圣提交奏疏并祈求其接纳师公与家主的请求；摆设宴席以供奉神灵，举行象征度者成年的仪式，以及送神归位等主题。

（二）优勉支系与金门支系在度戒仪式上的区别

金门支系的度戒仪式在受度者的年龄、性别、时间以及仪式的各个环节上与优勉支系存在显著差异。

度戒年龄

优勉支系主要针对的是青春期末至 18 岁前的儿童。在 2023 年，我们对老街、安沛和宣光三省的 17 场度街仪式进行了考察统计，结果显示其中 15 场是专门为 10-16 岁儿童举行的度戒仪式，仅有两场包含 30 岁及以上的参与者。优勉支系的师公已普遍认同将便利度戒的年龄范围定为 10-16 岁。根

(3) 李祥红，郑艳琼（2014 年）- 长沙，岳麓书社出版社

(4) 刘涛（2021 年）- 中国科学社会出版社

(5) 黄贵权者（2009 年）瑶族志：香碗 - 云南瑶族文化和民族认同 - 云南民族志丛书出版

据蓝靛瑶的观念，为儿童举行度戒仪式旨在促进其早日成熟，承担社会责任并加入师公队伍（条件允许的情况下）。在过去四年（2020年至2023年）的研究中，我们在老街省对优勉支系的12场度戒仪式进行了观察，发现度者分为挂3灯、挂7灯和挂12灯三个层次。挂三灯的主要对象是刚进入青春期末至16岁的儿童以及因经济条件受限而延迟度戒的人群。按照瑶族的传统习俗，13岁以上的孩子即可挂三灯，但多数情况下，人们会选择在孩子结婚后为夫妻二人一同进行度戒，因此目前挂三灯的年龄通常在20岁以上。

度者的性别和人数

在两个不同的支系之间，度戒仪式的一个显著差异在于参与者的性别。金门支系专门针对男性进行度戒，而优勉支系则同时为夫妇两人（即男性与女性）举行度戒。若配偶之一已逝世，则会制作一个木制人偶来代替，并相信这样可以使逝者回到人间接受度戒。这种做法甚至可扩展到为已故多年的父母或祖父母进行。

此外，两个支系在度戒仪式的规模上也有所不同。传统上，金门支系只为一名男孩举行度戒。然而，近20年来，如果家庭中有两到三个年龄相近的男孩，他们将会共同接受度戒。这种集体度戒的做法是近期的现象，主要是出于节约成本的考虑，相较于为每个孩子单独举办度戒，这种方式可以节省更多的资金、家畜和家禽。集体度戒的形式，如挂三灯、挂七灯和挂十二灯，已经变得相当普遍。

自21世纪初以来，每次优勉瑶族的度戒仪式都会集合几十对至50对夫妇，这种现象在老街和安沛省尤为常见。集体度戒的主要原因是为了减少开支，因此优勉支系在度戒的年龄和形式上更为灵活。挂十二灯的费用平均为每人30,000,000至50,000,000越南盾，但如果采用集体形式，则只需支付10,000,000至12,000,000越南盾。目前，大部分金门支系的家庭选择为两名以上的孩子举行挂灯仪式，这也是出于节约成本的考虑。

度戒的层次和等级

优勉支系将度戒仪式划分为三个等级。

挂三灯：在师公的等级体系中，挂三灯代表最基础层级，通常授予那些资历较浅者。在30余名挂三灯的成员中，有11位担任师公职务，而余下的20多位成员则仅持有挂三灯的资格，并未担任师公角色。

挂七灯：在老街省沙巴大屏乡的，我们对21名悬挂七灯的个体进行了调研，发现其中六人从事师公职业。2023年记录到七对夫妇参与悬挂七灯，其度戒年龄平均介于25至30年之间。

挂十二灯：在大屏乡，共有9对夫妇参与挂灯仪式，总计悬挂12盏灯。然而，仅有两位担任师公角色。参与挂灯者的平均年龄超过30岁。

师公的资格与能力通过挂三灯、挂七灯和挂十二灯的不同等级来体现。仅具备挂七灯和挂十二

灯资格的师公，才有资格为挂三灯的师公主持仪式。特别是挂十二灯的师公，必须联合其他同等级的师公共同进行仪式。根据我们在老街省沙巴和坝刹县进行的调研，目前仅有 20 余位师公达到挂十二灯的级别。三十年前，举行挂十二灯的仪式时，需要邀请来自安沛省的资深师公至坝刹协助完成仪式。

上述度戒仪式的三个等级，师公的级别威信和能力，通过所挂灯的数量来区分，其中挂有 7 灯的师公在道教修为及能力上超越仅挂 3 灯的师公，且有资格为后者主持仪式。而挂有 12 灯的师公则代表着最高级别的修为，据 20 世纪末的数据显示，每个县中此类高级别师公的数量通常仅为 1 至 3 人。

金门瑶族的度戒仪式，分为四个不同的等级，这与优勉师公所获取的等级制度有所不同。

第一级：Tăng dền 登宴 Hanh Ho（幸夏斋）：这是蓝靛瑶族中规模最小的度戒与斋仪，仅持续一天。仪式需一名师公主导，主要祭祀家神“Pau man”及蒂姆神“Tà Phù Man”。

第二级：青灯 Tu Pu – Còng Hìn：此为较初级的度戒与斋仪，旨在祈求平安和治疗疾病，持续两天。仪式邀请盘王与四代祖先降临，由师边和道边的师公共同参与。

第三级：Cồng Vương – Mi Dòn Chải：这是一个规模较大的求平安或还原度戒仪式，持续三天。仪式中有六位大师公与多位小师公参加，涵盖师边与道边的师公。

第四级：明真 - 明珠洪恩大会：这是最大规模的度戒与斋仪，过去十年在老街、安沛、宣光等省份未举行。据黄贵权先生指出，中国已久未见此仪式。该仪式需要众多师公参与，持续七天，目的在于还愿、求子、求寿及解秽。由于成本高昂且程序复杂，近期未有举办记录。

金门支系在度戒和斋戒的等级划分上，并不如优勉支系那样体现出层次的高低，其主要反映的是度戒和斋戒的目的及其实施的规模。

金门支系与优勉支系在度戒的神圣空间方面存在显著差异。

神圣空间在社会学、人类学和宗教学领域引起了广泛关注。Mircea Eliade 在其关于宗教起源（1948 年）及神圣与世俗（1956 年）的研究中探讨了神圣空间的概念，他提出“所有被认为神圣的空间都经历了一种显灵事件，即神圣力量的介入，这种力量将特定区域从其周边环境里分隔出来，赋予其独特的性质”（M. Eliade 1956: 27）。他还指出，“神圣空间通常位于具有特殊意义的地点，它充当着中介的角色，或者是人们试图与神灵建立联系的通道”⁽⁶⁾。

蓝靛瑶族的度戒仪式便是在房屋内外进行的。在进行度戒仪式之前，瑶族家中的神圣空间是用于安置神龛和祖先灵位的区域。

(6) 黄文忠主编(2022 年): 提醒现代社会的神性 - 红河三角洲神圣空间再构筑过程研究, 河内科学社会出版社, 第 65 页

在举行度戒仪式时，参与者将构建五个神圣空间：上八坛、下八坛、天庭所、五台以及经房。这些空间被视为神灵的居所，他们在仪式中辅助家主和师公。因此，这些神圣空间成为了家主、师公与神灵之间交流的场所，在特定的神圣时间段内（从神灵降临直至仪式结束并送回神灵至原处）。

蓝靛瑶族的度戒仪式中，其神圣空间构成包括：正坛（上八坛），副坛（下八坛），经房（用于度者学习诵读经文之场所），天庭所，以及五台。这五个区域均作为迎接神灵降临之圣地，各自承担着不同的仪式职能与作用。

上八坛

在庄严的度戒仪式中，上八坛作为最宏伟且核心的空间，被赋予了特殊意义。该空间专为天界神祇降临而设计，以便在师公和家主进行度戒时提供神圣的协助。因此，参与者们对构建正坛（即上八坛）投入了极大的努力。在仪式中，家主会举行祭祀活动，祈求鲁班神从山上获取必需的材料，并在神龛前搭建一座高约 2 米、宽约 3 米的竹笆结构。

他们采用多种图案、神祇图像以及记录神灵居所的地名，同时标注道边和师公职位及其对联等元素来装饰上八坛。上八坛沿纵向分为三个层级，底部设有用于放置香炉的区域。根据蓝靛瑶的传统观念，这三个层级分别被称为应天府（“Anh tẽn pu”）、混原府（“Hoãn nhòn pu”）和九龙府（“Chầu lònng pu”）。

位于上八坛核心区域的“Bản bụ đên”文武殿，标志着师边（三原）与道边（三青）的分界线。从该位置向下观察，可见香炉亦按此界限分为两个部分：师边和道边。师边区域记录了三原神祇各自所在的地名（地名府），而道边则标注了三青神祇的居住地（地名府）。

下八坛

对面上八坛就是下八坛，在堂的那边。2023 年 3 月 29 日我们观察老街省保胜县板街乡赵文正先生的度戒仪式，师公也在正门里面两侧安排下八坛。这两侧对面上八坛。下八坛分为大门左边和大门右边的两侧⁽⁷⁾。左边是祭祀道教的一部分神灵（有一个香碗和两幅人形 - 红色面具），这两个人形是祭祀玉皇和功曹。下八坛右边是祭祀盘王和师边师傅父母的香碗。祭祀盘王也是举办盘王节，演唱盘王歌的地方。师傅的父母有阻拦坏鬼进入八坛的任务。阻拦坏鬼的力量就是师傅的母亲。她才有阻拦坏鬼的权能。香碗的两边放两个甘蔗。下八坛写 “Dạ pát đản” - 下八坛，“Dạ pát đản” - 青华府，“Lên đư đòng” - 练度堂。

经房

经房，是度者进行经文研习的专用场所。此处为师公指导其徒弟日夜诵读经文之地点。经房位于正坛左侧，寓意着龙虎山的象征意义。此地亦是张天师历经十年修炼之所，因此，经房同样象征

(7) 从上八坛的视角看出来的方向。

着道教修行及经文学习之地。在此，道边师公向徒弟传授关键的经文知识⁽⁸⁾。当徒弟外出时，需佩戴经过师公敕化的帽子，帽上铭刻有“天师宝府、三原宝府、四帅宝府”等字样。

天庭所

位于大门之外，有一座以黄纸与红纸装饰的小型神庙，其上标有“天庭所”字样。此庙专门供奉村城隍，作为所有神灵从天府降临参加度戒仪式的必经之地。仅当城隍开门时，神灵方可通行，因此师公对此村城隍给予极高的重视，并备有详细的奏疏。此外，天庭所亦作为家宅之外的土地神、社王等神灵的居所。

在成都府的“Rảnh tú pu”以及城隍殿“Rảnh vòng đên”等地名中，我们可以发现一系列与村城隍职责相关的对联。其中，“天庭所”指的是天上神灵集会的场所，在这里，各位神灵等待村城隍开启门户以便进入祭坛。此外，“天庭所”还承担着阻挡恶鬼和坏鬼的责任，这一任务由男性村城隍完成。因此，门外阻挡恶鬼、坏鬼的力量归属于男性，而门内（下八坛）则由女性掌管。

五台

在2023年3月29日举行的赵文正度戒仪式中，选择了一个距离住所较近的平坦土地，宽度介于50至70米之间。回顾2017年老街保胜县板咯李文科度街仪式，五台被搭建在田地上，距家约100米。根据保胜县板街乡的赵文贵师公和春光乡梅村的黄土力师公所述，50年前老街和安沛省瑶族村寨的人口稀少，村落空间包括房屋、森林及山地。因此，可以在房屋前的高山中选择较为平坦的土地来搭建五台。五台通常由木地板构成，设有四个支撑柱，朝向东方，并有五个台阶。在高山上搭建的五台象征着梅山，这是三原派修行的核心地带，也是该教派的圣山。在传说中，这座山极为险峻，对师公来说充满挑战。通往五台的楼梯均插有刀。在仪式举行前，师公需进行武术表演以清除所有邪灵，确保五台的安全。

优勉支系的神圣领域（以红瑶族为例）

优勉瑶族的神圣空间包括中门、Pàu Lào 大厦、Tò Sên 山脉以及梅山等四个独特区域。与金门族群的神圣空间相比，优勉族群的神圣空间特征在于其规模宏大和广阔的地域面积。

金门支系通常在有孩子度戒的家主住所内举行度戒仪式。然而，在金门支系的红瑶族中，根据参与度戒的人数，必须建造一个能够容纳40-70人生活或挂12灯度戒的大型建筑。这个建筑被称为中门，其房头（孔子的房间）朝东，而房屋的末端则是厨房和女性用餐的地方，位于西边。中门的内部纵向分为四个部分：最外侧（向北）是客人活动和被度戒者的饮食场所；第二部分是拜神、修炼和诵经的门，也是被度戒者的睡眠场所；第三部分是悬挂供奉画的地方；第四部分是封闭的，供所有

(8) 在宝安区龙福的 Dang Van Minh 男孩的仪式上，师公阐释道：右侧的香碗既是供奉盘王之所，也是供奉 Thám Thôn 之处（管理祖先的神）。

受度戒男性的妻子修行和休息之用。在中门内，最神圣的地方是建造供桌支柱和度戒的场所，墙壁上挂有供奉神灵的画作，其中包含 18 幅宣光红瑶族、安沛省白裤瑶地区的画作，但也有地方如老街沙巴的红瑶和安沛省西部的红瑶挂有 36 幅画。在中门内，继供桌之后的第二个神圣位置是三清、玉皇、天府、圣主、海番、右圣、地府、张天师、李天师等神祇的神龛。在供桌圣坛上，三清和玉皇祭坛位于中间，占据着最为庄重的位置。

每扇门和每个神龛上均装饰有代表道教神圣象征的剪纸画以及记录各神圣名字的纸条。这些门和神龛位于墙上，对面挂着各位神圣的画像。尤其在中门，神龛及度者椅上的剪纸画像呈现了优勉瑶传说与绘画中的重要符号。从祭祀家先神龛至中门，12 根捆绑的葛根象征着瑶族盘王传说中的 12 个姓氏。

庞大楼

庞大楼为高地上的宏伟建筑，因此即便位于平地，亦需建造两层横向结构。此处是发放证书的场所（在玉皇大帝的见证下，夫妇双方签署婚约）。

Tò Sên（度山）

位于中门房的东方，是一座由四根巨大柱子支撑的正方形平台。每根柱子都装饰着与天空相连的竹枝。在 Tò Sên 度山内，还设有供奉玉皇的神龛，神龛朝向东方。在度山的西角地面上，安放着供奉土地的神龛。在进行祭祀仪式时，师公将上奏疏，上香请求玉皇降临作为见证，并为挂 12 灯的夫妻颁发印章。

梅山

梅山必须位于一个森林茂密的山区。此山位于中门房东方，是师公向其男性弟子传授法术的圣地，在度戒仪式期间，严禁外人进入。

优勉支系神圣空间，设有 12 灯，包含以下几个重要部分：中门房，作为神灵降临和参与度戒仪式的圣地；Pàu Lào 台（庞大楼），是向度者夫妇颁发证书的场所；Tò Sên（度山），此处负责向度者夫妇授予印章；以及梅山，师公在此地向男性度者徒弟传授法术。

度戒仪式的结构

优勉瑶族并未像金门瑶族那样，将度戒仪式明确区分为师边和道边两个部分。在优勉瑶族文化中，度戒仪式与还盘王愿的仪式密不可分，共同构成了一个包含度戒和还盘王愿两个重要环节的综合性仪式。

金门瑶族的度戒仪式，分为师边和道边两种形式。这两种形式代表了一对对立的观念，其中师边代表武边，主要功能为捉妖驱鬼；而道边则代表文边，主要职责是教导徒弟如何做人。此外，金门的度戒仪式与做斋仪式密不可分，任何一次度戒仪式都伴随着做斋仪式。同时进行度戒和做斋，体

现了对立结构的深层观念。

关于艺术要素 金门与优勉

不管是金门瑶族的仪式还是优勉瑶族的仪式，都是不同艺术形式的表演。在这里，有语言艺术有表演艺术有民间装饰造型艺术。特别是在祖先祭坛附近的中门祭坛最神圣的位置庄严地展示了优勉群体艺术崇拜画。但目前越南的金门瑶中只有白裤瑶，平头瑶是挂着缩小版的祭画，而其他优勉瑶都不挂祭画。但金门瑶们都有面具。其中，最多的面具和最受欢迎的是蓝靛瑶。在蓝靛瑶族人的度戒仪式中，木制面具具有三种不同的类型。给孩子开路的指路角色的面具类型，玉皇大帝的二皇子的面具类型，玉皇大帝的面具白裤瑶的木制面具只有一种是盘古关于保护礼台、保护孩子的面具，广宁省青衣瑶族人的卡度面具。纸面具的类型在青灯2级仪式中很常见：土普-薄面和3级方门，有18-24个面具。在4级中，纸面具的数量从48到60个不等。纸面具是众神参加册封仪式的象征。因此，在蓝靛瑶中，颜色级别越大，面具的数量就越多参加颜色仪式的神的数量就越多。特别是在金门瑶，在三灯度戒仪式上只使用了三个面具，那就是三清给巫师的面具。红面具给师教戴，白面具给开坛师戴。

在民间艺术领域，优勉瑶族广泛运用祭祀画作为装饰元素，而金门瑶族（蓝靛瑶族则不采用此类装饰）。在度戒仪式上，优勉瑶族采用三枚木制面具，反观金门瑶族，则选用三枚具有不同角色功能的木面具。特别值得注意的是，金门瑶族各等级成员在度戒仪式中使用的纸面具数量，与其所处等级呈正比增加。

三、探究优勉与金门支系间差异及相似性的根源

瑶族各支系均传承了具有一致性主题和宗旨的度戒仪式，这一文化特征在瑶族社区中普遍可见，且伴随着精彩的表演。然而，尽管瑶族内各支系的度戒仪式存在相似性，优勉和金门之间仍展现出差异。这些差异主要源于各自不同的宗教信仰基础。金门支系在其宗教信仰体系中融入了大量原始宗教元素，例如燃神崇拜、图腾崇拜以及繁殖信仰等。特别是，金门族人对于道教的发展和道化过程有着明确的创造理念，他们构建了一系列道教神祇的神话体系，包括玉皇大帝、帝母、三清、三元等事迹，以及张天师、李天师等人物的传说。

徐祖祥学者指出，金门与优勉瑶族各支系之所以存在差异，主要源于它们分别吸收了道教的不同教派。具体而言，优勉瑶族采纳了闾梅教派⁽⁹⁾，而金门瑶族则融合了道教的梅山和文满两派。这些道教派别的特色在瑶族的度戒仪式中体现为师边与道边的典礼差异。此外，金门瑶族保留了较多原始宗教元素，这也是造成两者之间差异的一个重要因素。

(9) 徐祖祥(2006) - 瑶族宗教与社会 - 瑶族道教研究及与云南瑶族的关系，云南出版公司

探究优勉和金门支系在瑶族度戒仪式中的异同，不仅需基于对仪式本身的深入分析，更关键的是要考察瑶族如何吸纳并融合道教的多元教派体系。此过程涉及对度者的年龄与性别差异、度戒仪式的层次与等级、其神圣空间的构建以及仪式时间安排的综合评估。优勉支系在度戒年龄、性别等方面的实践与金门支系存在显著差异，这些差异不仅体现了瑶族文化的丰富多样性，也进一步提升了度戒仪式的文化价值。从历时性角度审视金门与优勉度戒仪式的演变，能够揭示道教主流教派起源及其在不同历史阶段对瑶族度戒仪式的影响和社会特征。而从共时性视角出发，则能明显观察到金门与优勉各自支系在文化表达上的独特性，进一步凸显了文化多样性的重要性。鉴于这些研究议题的复杂性和广泛性，需要开展大规模的研究项目来深入探讨。受限于会议时间的约束，我们在此仅就部分关键问题提出初步见解，期待在 2025 年，能够出版一部全面探讨瑶族度戒仪式的专著，以满足学术界对此领域的研究需求。

参考文献

1. 闭文等 - 阮克颂 - 依忠 - 阮南进 “越南瑶族”，河内，科学社会出版社，1971 年出版。
2. 刘涛：“蓝靛瑶度戒仪式人类学研究”，中国科学出版社，2021 年出版。
3. 李祥红，郑艳琼：“湖南瑶族抖筛田野调查”，长沙，岳麓书社出版社，2014 年出版。
4. 番玉奎：“凉山卢岗瑶度戒仪式”，河内，文化通讯出版社，2003 年出版。
5. 盘俊能：“越南瑶族度戒仪式”，河内，文化民族出版社，2019 年。
6. 黄贵权：“瑶族志：香碗 - 云南瑶族文化和民族认同”，云南民族志丛书出版，2009 年出版。
7. 李行山：“越南钱瑶”，科学社会出版社，2021 年出版。
8. 徐租祥：“瑶族的宗教与社会”，2006 年云南人民出版社出版。

勉瑶挂灯仪式的结构、功能、象征和意义

——基于挂三灯、七星灯、十二盏大罗明月灯的考察

广西民族大学民族学与社会学学院 讲师

谭静

南岭走廊，一条蜿蜒在中国南方的自然与文化纽带，自古以来便是多民族迁徙与交流的通道。这条文化走廊横跨湖南、广西等省份，贯穿于南岭山脉的连绵起伏之中，是一片地理环境独特、生物多样性丰富的区域。这里气候温和，雨量充沛，森林覆盖率高，为众多民族提供了丰富的自然资源和适宜的生存条件。它不仅在地理上连接了湖南与广西，更在文化上串联起了一系列独特的民族传统与习俗。俗语云“南岭无山不有瑶”，这里是瑶族民众世代生活的家园，其中勉瑶作为瑶族的一个重要的支系，在这里展现出其独特的文化风貌。

在这样的背景下，本研究选取了湖南省永州市蓝山县和广西壮族自治区贺州市作为田野调查的重点区域。蓝山，位于湖南省南部边陲，属南岭山脉腹地。贺州，地处湘、粤、桂三省（区）交界的南岭走廊中心地带，位于五岭以南。这两个地区不仅因其丰富的勉瑶文化而著称，更因其在挂灯仪



图 1： 田野地点位置图⁽¹⁾

[基金项目] 本研究受 2021 年度国家社会科学基金项目 (21BY183)、2020 年广西哲学社会科学规划研究课题 (20FMZ001) 资助。

(1) 2024 年 8 月 15 日，根据百度地图 (<http://map.baidu.com>) 修改。

式实践上的多样性和独特性，可以为我们提供深入理解勉瑶文化传统的宝贵视角。这两个看似独立的田野点，实则在南岭走廊的文化脉络中相互映照，共同丰富了勉瑶挂灯仪式研究的宝贵案例。

一、勉瑶挂灯仪式的传承现状

竹村卓二在《东南亚山地民族志》中对勉瑶的入社仪式——挂灯，提供了详尽的阐述。他指出，瑶人把他们的入社仪式称为“挂灯”，但这只是第一阶段的入社仪式，即“挂三台灯”。这一阶段之后，成员才有资格参与更为高级的仪式，即“度戒”或“度斋”、“加职”和“加太”。然而，由于经济成本的制约，这些高级仪式很少举行，导致大多数勉瑶在一生中至少会完成基础的挂三灯仪式。特别值得注意的是，“度戒”仪式进一步细分为“挂大罗灯十二盏灯”与“挂七星灯”，这两种仪式并非所有瑶人都有机会参与，而是根据姓氏的不同而有所区别。例如，李（不包括“李喜”）、盘、赵、黄、邓、冯等姓氏可以挂十二灯，而挂七星灯则是专为“李喜”或“陈”姓的瑶人所设。⁽²⁾这一划分揭示了挂灯仪式不是简单的数字递增，而是一个深植于勉瑶文化中的社会文化传统，它融合了成年礼、宗教信仰和社会等级等多个层面，是勉瑶文化传承和社会结构的体现。

在南岭走廊周边勉瑶地区的田野调查中，笔者观察到勉瑶的挂灯仪式实践在地域上呈现一定的差异性。在湖南省永州市的蓝山县、宁远县、道县、江永县和江华瑶族自治县，盘姓、冯姓和赵姓的勉瑶群体中，以“挂三灯”和“挂十二盏大罗灯”为主。该地区的一些师公，通过度戒仪式⁽³⁾，挂过十二盏大罗灯，成为三戒弟子，拥有较高的祭司地位，能够执行更为复杂和高等级的仪式。相较之下，广西贺州地区的勉瑶，包括李、赵、冯、黄和邓等姓氏，不仅保持着“挂三灯”和“挂十二盏大罗灯”的传统，还延续着“挂七星灯”的习俗。据金竹村的黄春金（勉瑶，1940-2023）师父说：在贺州，土瑶⁽⁴⁾的挂灯仪式最高挂到七星，而勉瑶则等级更高，能够挂到十二灯。但是，由于准备过程繁琐、准备时间长、花费多，以及精通高等级仪式的师公人数的减少，导致挂十二灯仪式的实践并不普遍。⁽⁵⁾此外，贺州的冯、赵、李等姓氏的勉瑶除了挂三灯之外，还普遍挂七星灯。广西十万大山板瑶⁽⁶⁾的挂灯仪式形式则更多，有“挂三灯”“挂七灯”“挂九灯”和“挂十二灯”。⁽⁷⁾这与竹村

(2) (日)白鸟芳郎[编]. 黄来钧[译]. 东南亚山地民族志[M]. 云南省历史研究所东南亚研究室, 1980:48-50.

(3) 据《蓝山县瑶族传统文化田野调查》记载，20世纪50年代前，湖南省蓝山县汇源瑶族乡的勉瑶绝大多数是度过戒的，即便是家庭经济困难的，想方设法也得筹钱度戒。2000年前后，汇源瑶族乡1400多勉瑶中只有26人度了戒，青年的度戒观念已经淡化了。（张劲松等，2002:132）

(4) 土瑶是广西贺州市独有的一个瑶族支系。

(5) 2016年8月-2019年9月，笔者在广西贺州市金竹村调查，与黄春金师父访谈所获资料。

(6) 板瑶是讲勉语的瑶族支系。

(7) 奉恒高[编]. 瑶族通史中卷. 民族出版社, 2007:621.

先生对泰国北部勉瑶挂灯仪式的描述存在差异，突显了挂灯仪式在不同地区的活态流变和丰富性。

在老挝、泰国和越南北部的勉瑶村落进行的田野调查中，笔者发现在老挝的琅勃拉邦、泰国的清莱和难府，以及越南的老街省，勉瑶男子普遍参加挂三灯仪式，但挂灯的年龄却有所不同。泰国北部的勉瑶男子通常在年幼时，大约 10 岁或更小，便开始通过挂灯，而越南老街省的勉瑶男子则将此仪式安排在婚后才进行。老挝琅勃拉邦地区的勉瑶普遍只挂三灯，由于当地师公不能主持度戒仪式，极少数有条件的家庭甚至不惜托亲戚从美国请来师公以完成挂十二灯，但这种情况极为少见。在越南老街省沙巴县大弯乡，许多勉瑶表示，尽管他们的祖辈坚守度戒传统，但集体度戒的复杂性、地点选择、时间协调、前期准备的繁琐，以及能执行度戒的师公的稀缺和仪式成本的高昂，使得这一传统在当代已逐渐淡出人们的生活。同时，通过对老挝、泰国和越南勉瑶珍藏的家先单的考察，笔者发现，近四代至五代的祖先均有法名，而更早的祖先则拥有郎号。按照每代二十年计算，度戒仪式的减少可能发生在近八十至一百年间。由此可见，度戒仪式，正面临着传承上的挑战。

作为一项蕴含深厚文化意义的传统仪式，挂灯仪式在横跨中国的湖南、广西，以及老挝、泰国和越南的勉瑶族群中，呈现出复杂多样的表现形式。这不仅突显了对其进行深入研究的学术价值，也强调了对这一民族文化进行记录、保护和传承的重要性。通过探究挂灯仪式，我们不仅能够更加深刻地理解勉瑶社会的文化传统和内在价值观，而且对于促进这一民族文化的保存与发展，也具有重要的意义。

二、勉瑶挂灯仪式的传承实践

（一）湖南省永州市蓝山县的挂三灯和挂十二盏大罗灯仪式

湖南省永州市蓝山县的“挂三灯”仪式，也被称作“挂家灯”，简称“挂灯”。在蓝山县，挂灯仪式通常出现在还家愿和度戒等仪式活动中。与广西贺州的勉瑶不同，蓝山县的勉瑶在度戒仪式中不挂七星灯，而是挂“十二盏大罗灯”。以下是蓝山县勉瑶还家愿和度戒仪式的主要流程：

从湖南省永州市蓝山县紫良瑶族乡高源村石头地还家愿仪式⁽⁸⁾中可以看到挂家灯的相关仪式环节：化变、敕变米、藏身/变身、升灯、解厄、取法名、退灯、分兵、退碗、拨法、定阴阳、行罡、许催春愿。

从 2006 年湖南省永州市蓝山县湘兰村还家愿仪式⁽⁹⁾中也能看到类似的环节：上光、封斋、升老君凳、化变、升灯/取法名、拨兵拨将、接香炉、拨法、定阴阳、祝词、学摇铃行罡、脱童。

(8) 张劲松，赵群，冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社，2002: 89-130.

(9) (日) 广田律子. 中国民间祭祀艺能的研究 [M]. 风响社，2011: 317-385.

从2008年湖南省永州市蓝山县汇源瑶族乡湘兰村度戒仪式⁽¹⁰⁾中还可以看到补挂三灯的相关仪式环节：请师、敕变水、敕变米、敕变布、敕变钱、敕变凳、打凳、升凳、穿衣、踏莲花、收煞、收伏断、藏身、起寸、变吾身、升灯、挂三灯、退灯、拨桥（补桥）、拨路、拨兵、拨法、分兵、吹米、定阴阳、退莲花、接香炉、学打锣、学吹牛角、传师棍、传卦、学用铃、传牙筒、传铜铃、抬轿子、学走罡步（传七星罡步）、学舞、学摇铃。

再从2011年湖南省永州市蓝山县所城镇幼江村举行的还家愿仪式⁽¹¹⁾中也可以看到挂三灯的仪式环节：敕变水、敕变米、敕变凳、打凳、升凳、穿衣、藏身、踏莲花、变吾身、起寸、收伏断、升灯、挂三灯、退灯、拨桥拨路拨兵拨法、分兵、吹米、退莲花、接香炉、学打锣、学吹牛角、定阴阳、学走罡步、学摇铃、学舞。

除了上述罗列的还家愿仪式之外，2016年12月在蓝山县汇源瑶族乡湘兰村赵家、2024年1月在宁远县紫良瑶族乡，笔者曾有幸多次观察过还家愿仪式中的挂灯仪式。可以发现，挂灯作为勉瑶宗教仪式的核心组成部分之一，其旨在强化整个仪式的精神内涵和宗教意义。在度戒仪式中，挂灯同样承载着不可或缺的重要性。以下是对挂灯仪式中心部分⁽¹²⁾及相关内容的详细描述。

1. 挂三灯的仪式程序与内容

(1) 敕变水 / 敕变米 / 敕变布 / 敕变钱 / 敕变凳

在挂灯前，师公要通过咒语对挂灯中用到的物品进行一系列敕变。敕变时，师公一边诵读仪式文献⁽¹³⁾，一边对水、米、白布、铜钱、木凳实施变化之术。根据文献内容记载，所敕之水变成了“观

(10) (日)广田律子，三村宜敬，佐川润子，李利，内藤久义，谭静，财津直美，大木都志男. 神奈川大学历史调查报告第12集——中国湖南省永州市蓝山县瑶族仪式文献报告I [M]. 2011: 37-45; 神奈川大学瑶族文化研究所官网 (<https://www.yaoken.org>)

(11) (日)广田律子，三村宜敬，佐川润子，李利，内藤久义，谭静，财津直美，大木都志男. 神奈川大学历史调查报告第12集——中国湖南省永州市蓝山县瑶族仪式文献报告I [M]. 2011: 33-116; 神奈川大学瑶族文化研究所官网 (<https://www.yaoken.org>)

(12) 关于“挂灯”仪式的中心部分，吉野晃在其论文《〈挂三台灯〉的结构与变化：泰国、老挝、中国湖南省蓝山县优勉〈挂灯〉的比较研究》中指出“〈挂灯〉仪式的中心部分是从〈挂灯〉到〈抬起身体〉=〈抬轿子〉的部分。从作为仪式名称的〈挂灯〉开始，师父对弟子进行授法。”[吉野2010: 35-40]。

(13) 师公敕变水，诵读内容为：“二变此水为观音杨柳之水，三变此水为真武之水，四变此水为五雷殿上之水，五变此水为八大金刚之水，六变此水为三坛之水，连连化为云雾之水，邪鬼自灭，吾奉太上老君急急如令敕。”；敕变米，诵读内容为：“此米不是非凡之米，米是化为天星养人之米，吾师将来化为千兵万马，抛散速上坛前，将来抛把师男，速变速化，速速变化，吾奉太上老君急急如令敕。”；敕变布，诵读内容为：“此布不是非凡之布，布是化为三尺六寸，白布化为青竹，蛇化为金桥，吾师将来，抛把师男速变速化，吾奉太上老君急急如令敕”；敕变钱，诵读内容为：“此钱不是非凡之钱，钱是三十六文铜钱，化为三十六名雄兵，吾师将来，抛把师男，速变速化，吾奉太上老君急急如令敕。”参见日本瑶族文化研究所收集照片资料。文献序号：A32-b。照片序号：IMG_6179-IMG_6180。摄影：广田律子。

音杨柳之水”“真武之水”“五雷殿上之水”“八大金刚之水”“三坛之水”“云雾之水”等可以消灭邪鬼的水，米变成了“千兵万马”，白布变成了“金桥”，铜钱变成了“三十六名雄兵”……所有这些被变化之后，再在挂三灯的时候，通过“拨桥”“拨路”“拨兵”“拨将”“拨法”等环节，传授给受礼者。

(2) 升灯 / 挂灯

在“挂灯”之前，师公先要“升灯”。将点亮的油灯放在托盘上，由两位负责师父一起端着，面向祭坛悬挂的神像画上的诸神以及面向祭坛外的神灵行礼宣告挂灯，请诸神一同见证“挂三灯”。之后，师公将三盏油灯依次放在受礼者面前的灯架上，进行挂灯。

关于挂三灯仪式中的三盏灯的象征意义，竹村卓二指出：三盏供灯中，中间高一点的象征生命，旁边两盏象征着各自的守护神。⁽¹⁴⁾ 广田律子表示：从受礼者本人的视角来看，左边的灯是本命毫光灯，中间的代表的是本家族的祖宗灯，右边的则代表了世世代代祭司的祖师灯。⁽¹⁵⁾ 此外，松本浩二在其论著中，根据对挂三灯仪式中使用的文献的分析指出：“第一盏代表祖宗，即祖先的灯；第二盏代表自身或者称为本命灯；第三盏则代表了师父灯。”⁽¹⁶⁾。另外，张劲松等人也对三灯了解释，即“三盏灯明分别代表师道公（祭司）的先师——李十六、李十二和李十一”⁽¹⁷⁾，他们认为，代表世世代代师公的“祖师”和作为师公的“先师”的李十六、李十二、李十一的李姓神灵，都代表了作为同一个祭司师父的祖先灯，因此继承了师父灯是肯定没错的。

关于“李十六”，在《请圣书》“李十六咒”⁽¹⁸⁾中可见其描述：“部兵猛将力威勇”“五七将军为大将”“统领三千六万兵”。从这些词句可以看出李十六是一位统领兵将的官衔很高的武官。在挂三灯中，受礼者从被挂上象征着世世代代师公的“祖师灯”开始，就与代表李姓众神的“李十六”建立起了关系，笔者认为正是在这个时候受礼者获得了差遣“李十六”的能力。

(3) 取法名

师公面向元始天尊、灵宝天尊、道德天尊神像，手中拿着写有受礼者生辰八字的红纸条，先向三清说明受礼者的身份。然后，将红纸条放在牙筒之上，一边念诵受礼者的法名，一边将红纸条贴近三清神像画。如果红纸条自然地吸附在某张神像画上的话，就意味着受礼者的法名得到了三清的认

(14) (日)竹村卓二 [著]，金少萍、朱桂昌 [译]。瑶族的历史和文化 [M]。民族出版社，2003: 153.

(15) (日)广田律子。中国民间祭祀艺能的研究 [M]。风响社，2011: 324.

(16) (日)松本浩一。挂三灯仪式 [J]。瑶族文化研究所通讯第一期，2010: 9.

(17) 张劲松，赵群，冯荣军。蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]。岳麓书社，2002: 96.

(18) 参见日本瑶族文化研究所收集照片资料。文献序号：A-32a。照片序号：IMG_4405-IMG_4406。摄影：广田律子。

可。⁽¹⁹⁾之后，师公再在红纸条背后涂上胶水将其贴在那幅神像画上，法名就这样决定了。受礼者获得法名后，被称为“师男”，意思是已经成为了祭司⁽²⁰⁾。同时，师男还将受到阴兵的保护、掌握防身的法术，即可自保也可救助他人，甚至可以获得死后的官职⁽²¹⁾。师男还将获得继承祖先香火的资格，其法名可以被写在记载了历代祖先的“家先牌”上。⁽²²⁾

(4) 拨桥 / 拨路 / 拨兵 / 拨将 / 拨法 / 分兵 / 吹米

在“拨桥”“拨路”“拨兵”“拨将”“拨法”“分兵”“吹米”等仪式环节中，师公把米盛放在已敕变成桥的白布的一端，再扯起白布，让米顺着白布滑到铺设在受礼者膝头的白布的另一端。象征着兵马过桥走到受礼者的一边。然后，用白布包裹米和36枚铜钱，交给受礼者。米象征着千万兵马，铜钱则代表了36个雄兵，所以授予受礼者米和钱，也就意味着授予了兵马和雄兵。随后，师公将若干米粒放在牙筒上，让受礼者张开嘴，并将米粒吹入受礼者的口中，这也是分兵的一种。通过这些仪式，最终受礼者被传授了金桥、兵马和相关法术。

(5) 接香炉

师公将放置在家先坛上的香炉取下，将香炉凑近受礼者的鼻子，让其闻香炉的气味。这意味着受礼者获得了继承祖先香炉的资格。⁽²³⁾

(6) 学打锣 / 学吹牛角 / 学用卦 / 学摇铃 / 学罡步

在“学打锣”“学吹牛角”“学用卦”“学摇铃”“学罡步”等环节，受礼者通过模仿师公的动作，在师公的示范和指导下学习如何敲锣、摇铃、吹牛角、打卦和走七星罡步等基本仪式动作和法术。⁽²⁴⁾

2. 挂十二盏大罗灯的仪式程序与内容

广田律子指出：“瑶族的男性必须经过启蒙才能成为宗教职能者，初次获得作为宗教职能者的法

(19) 在李祥红等人报告的湖南瑶族挂灯仪式的“升职”仪式中也能看到同样的情形。“升职即获得三清认可的神职(老君职位)”[李祥红等2010:45-46]。

(20) 张劲松, 赵群, 冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查[M]. 岳麓书社, 2002: 96.

(21) 李祥红, 郑艳琼. 湖南瑶族奏铙田野调查[M]. 岳麓书社, 2010: 25.

(22) (日) 广田律子. 中国民间祭祀艺术的研究[M]. 风响社, 2011: 335.

(23) (日) 广田律子. 湖南省蓝山县勉瑶道教仪式调查研究——以表演性项目为中心的考察[J] 地方道教仪式实地调查比较研究国际学术研讨会论文集, 新文丰出版股份有限公司, 2013: 324.

(24) 关于“挂三灯”中巫术的传授, 广田律子在《中国民间祭祀艺术研究》中写道:“对于瑶族男性来说, 挂家灯仪式是必须经过的通过仪式, 人们认为这与瑶族祭司李天师的后代有关。此时, 作为祭司进行必要的法术传授。在“发法”和“学摇铃行罡”的场景中, 祭司向受礼者传授如何敲锣、吹牛角、摇铃和如何行罡和跳舞, 并传承作为祭司的术法。在仪式中, 受礼者模仿祭司的行为。笔者认为, 这中祭司在向受礼者传授术法时所进行的模仿和学习再现的行为, 可以说是艺术要素的萌芽。〈略〉模仿祭司的行为意味着获得祭司的能力, 获得与神交流的各种手段。然后, 作为瑶族的男性祭祀祖先, 开始走上祭司之路。虽然是从模仿开始的, 但可以说, 模仿本身就是祭祀性较强阶段演艺中的一种重要表现方法。”[广田2011a: 355-357]。

名，获得继承家的资格，即对祖先进行祭祀和死后接受子孙祭祀的资格，其法名被添加到记载了历代祖先法名的家先单上(挂灯仪式)。在此基础上，为了获得宗教职能者阶段的最高等级而进行的是度戒仪式。在举行度戒仪之前，受礼者必须通过挂三灯仪式，如果尚未实施的，可以在度戒仪式中进行补挂三灯。之后，再举行挂十二盏大罗明月灯的仪式，被传授最高等级的咒法开天门、接受数次考验、被授戒，最终才能获得最高等级。”⁽²⁵⁾。以下对湖南省永州市蓝山县汇源瑶族乡举行的“度戒”仪式的整体流程做简单介绍。

根据张劲松等对湖南省永州市蓝山县汇源瑶族乡度戒仪式的报告⁽²⁶⁾，可知度戒主要包含：立堂/落兵/封小斋/一次拨兵/封大斋/二次拨兵/串坛迎圣/请初夜圣/落禁坛/发功曹/上光·奏表/请中夜圣/升刀/攀刀山/磨刀/上光/还四府愿/上光/合星拜斗/补挂三灯/挂十二灯/开天门/上光·奏表/请末夜圣/回四府功曹/度水槽/上刀梯/抛火石/奏迎兵表/游兵游将/签名押字/升老君职位/上光·贺词/奏青词/上光/招兵/分兵/开斋/合婚合火/吃合欢饭/宣布戒律/上光/奏谢圣黄表/奏谢罪黄表/上光/酬谢阴阳师父/点破宫门/撤坛送圣/开禁坛/拜师拜散/带兵归坛/送船等流程。

此外，根据日本瑶族文化研究所整理的2008年在湖南省永州市蓝山县汇源瑶族乡湘兰村举行的“度戒”仪式记录⁽²⁷⁾，可知此次度戒主要包含：安坛/封小斋/落兵/喝落脚酒/封大斋/认三清/出排盏/上挂吊/上天桥/上阴桥/喝落脚酒/求师/敕锣鼓/拜五方升锣鼓/拜黄幡拜白幡/跑堂/请初夜圣/圆满跑堂/上光(出排盏/求师)/开坛/初夜黄表开天门/补挂三灯/出排盏/请中夜圣/中夜道场黄表开天门/准备封剑山/谢师傅/求师/升刀/翻刀山(拨刀山)/斗刀山/斗刀山舞/谢师傅/谢功曹/试刀梯/敕变刀梯/接刀/出排盏/上光/还四府愿/上光贺星拜斗/出排盏/请末夜圣/挂十二盏大罗明月灯/开天门/度水槽(拨水槽)/供青词/敕变符/出排盏/求师/敕变白鹤/求师/上刀山(拨刀梯)/出排盏/度勒床(拨勒床)/扶罡扶诀·捧火砖/游乡(升职位)/大戒文/老君饭/奏迎兵表开天门/回兵/招兵/谢师/添名押字/奏青词/分兵/开斋/点破宫门/送孤神/拆榜文/谢师/点破宫门/开禁坛/送香炉/送库/求师/削斋表开天门/谢师/拆兵拆将/降香/收圣/合婚/合伙/拜师/带新兵回家/在各会首家举行的仪式(谢新度兵开天门/招五谷神开天门/安置

(25) (日)广田律子. 从构成要素看瑶族的仪式知识——以湖南省蓝山县过山瑶族度戒仪式和还家愿仪式为例 [J] 国学院中国学会报第 58 卷, 国学院大学中国学会, 2013: 1-25.

(26) 参见湖南省蓝山县汇源瑶族乡度戒仪式调查报告(张劲松等 2002: 131-254); 同时参见日本瑶族文化研究所通讯第一号(2009: 29-80)。

(27) (日)广田律子, 三村宜敬, 佐川润子, 李利, 内藤久义, 谭静, 财津直美, 大木都志男. 神奈川大学历史调查报告第 12 集——中国湖南省永州市蓝山县瑶族仪式文献报告 I [M]. 2011: 3-35; 同时参见神奈川大学瑶族文化研究所官网 (<https://www.yaoken.org>)

兵) / 送船等流程。

在上述构成度戒仪式的各仪式环节中，笔者重点关注“补挂三灯”“挂十二灯”“开天门”“翻刀山”“度水槽”“度棘床”“上刀梯”“捧火砖”“升职位”“宣布戒律”“大戒文”“分兵”等环节。

(1) 补挂三灯

在度戒仪式中，若受礼者中有未曾经历挂三灯仪式的会首⁽²⁸⁾，那就要在挂十二灯之前为他们补挂，这一过程被称为“补挂三灯”。其仪式程序与前文描述的挂三灯仪式别无二致，此处不再赘述。

(2) 挂十二盏大罗灯

会首们端坐在被称为“老君凳”的木凳上，由负责挂灯的师公把 12 盏油灯依次放置在会首们面前的竹制灯台上。在蓝山县，这一仪式环节也被称作“挂十二盏大罗明月灯”。⁽²⁹⁾

(3) 开天门

“挂十二盏大罗明月灯”后，紧接着举行“开天门”仪式。⁽³⁰⁾据张劲松等人的报告显示，这一仪式并非一般意义上的开天门，而是一场专门向会首们传授开天门法术的仪式。在这一仪式中，会首们身着仪式正装，手持法具，神情庄严地站立在被称为“文台”的木板之上，观看授法师公如何开启天门。据说，通过这一仪式，会首们将被授予最高级别的法律——开天门，从而获得与天界高位神首次见面的殊荣。这种开天门的仪式，被视为一种通过模仿师公的行为，用学习并再现的方法传授咒语的仪式⁽³¹⁾，它体现了勉瑶宗教传统中对法术传承的重视。

(4) 攀刀山(翻刀山) / 度水槽 / 度棘床(度勒床)

在张劲松等学者的研究中，度戒仪式被阐释为包含“三戒”，即“攀刀山”“度水槽”和“度棘床”。师公在此过程中引导会首们经历象征性的挑战，翻越刀山、渡过水槽、越过棘床，以此作为他们法术实践的初步尝试。此在这一过程中，主醮师施展法术使会首们进入一种特殊的状态，失去知觉，随后由引度师公带领他们踏上通往冥界的旅程。接着，主醮师在挂着四府功曹神像画的功曹祭坛前发功曹，差遣天府地府水府阳间功曹迅速前往各府邸通报，以将失去知觉的会首们从冥界召唤回人间。为了促使会首们迅速苏醒，他们的家人搀扶着会首们坐下，给他们喝水，并大声呼唤其姓名，直至会首完全苏醒。苏醒标志着会首从冥界的回归，同时也象征着他们已获得了下阴法术的传授。此外，据说经过“攀刀山”的试炼后，会首也会被传授一种名为“刀山法”的咒语⁽³²⁾。

(28) 会首指参加度戒仪式的受礼者。

(29) 参见 Ver.02 日本瑶族文化研究所数据库—2008 年度戒程序编号 542-577。2023 年 5 月 2 日更新。

(30) 参见 Ver.02 日本瑶族文化研究所数据库—2008 年度戒程序编号 578-579。2023 年 5 月 2 日更新。

(31) (日) 广田律子. 中国民间祭祀艺术的研究 [M]. 风响社, 2011: 358.

(32) 张劲松, 赵群, 冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社, 2002: 177-194.

关于以上这些仪式环节，广田律子认为这是为了提高祭司的等级而进行的考验。⁽³³⁾然而，笔者认为这些仪式环节不仅仅是考验，它们还象征着受礼者获得应对挑战的能力及与试炼相对应的法术。从度戒仪式的构成来看，每个考验环节如“翻刀山”“度水槽”“上刀梯”“度勒床”之后，都会伴随着“拨刀山”“拨水槽”“拨刀梯”“拨勒床”等授法仪式。这些名称中的“拨”字，暗示了“拨法（授法）”的仪式性质。因此，可以认为，通过这些危险的试炼，会首已被授予了与翻刀山、渡水槽、过勒床等相对应的法术，从而在法术和能力上得到了实质性的提升。

(5) 上刀梯 / 上刀山

“上刀梯”，又被称为“上刀山”，该仪式在远离主祭坛的平坦且开阔的场地举行。这一仪式中，由12把锋利的柴刀交叉捆绑而成的“刀梯”被搭设在“云台”⁽³⁴⁾一侧。刀梯被捆绑得结实稳固，并在云台左右的柱子上悬挂一幅总坛神像画和一幅描绘攀登刀梯场景的大海幡神像画，为仪式护法和作证盟。主醮师先登上刀梯，其次是引度师，紧接着会首们依次登梯。在师公带领下，全体人员登上刀梯后，手持师棍和法铃，在云台上吹响牛角，并念诵“御名意者”等仪式用语⁽³⁵⁾。

完成刀梯攀登后，会首及其妻子在云台下待命⁽³⁶⁾。随后，主醮师站在云台上，分别向会首夫妻抛印，这是一种传递认可的象征性动作。接印的时候，将围裙水平撑开，用以接住主醮师抛下的印章。张劲松等人的报告进一步指出，“祭司先将‘太上老君’印抛给会首，之后再将‘太上王姥’印抛给会首妻子，夫妻接印时均跪在地上用围裙接受”⁽³⁷⁾，这一仪式行为象征着他们对授予法印的尊重和对神灵的虔诚。

通过“上刀梯”的考验，会首们不仅接受了攀登“刀梯”的挑战，还被传授了攀登“刀梯”的法术，并具备了相应的能力。同时，夫妻双方都被授予了法印，这不仅是对他们通过试炼的肯定，也是他们获得法术和能力的物证，标志着他们在宗教身份和地位上的重要转变。

(6) 捧火石 / 捧火砖

主醮师首先将双手浸入经过敕变转化为“雪山水”的盐水之中，随后捧起被烧得滚烫的犁头和石

(33) 广田律子在其研究中指出：“在度戒仪式中，除了挂灯仪式之外，在受礼者必须经历的考验中，祭司也会树立榜样，让受礼者效仿。这些考验被视为从阴界返回人间的过程，以及由象征着死亡和再生的翻刀山、过水槽、过勒床，以及作为实际体验而进行的上刀山（爬上刀梯）和捧火砖（手捧滚烫的石头和铁制的犁头）组成。在进行考验时，首先由祭司挑战，然后由受礼者进行。祭司通过自己的实践来进行指导，受礼者通过模仿来获得祭司能力所需的经验，并最终加入祭司的行列。在祭司的继承中，有同样的经历是必不可少的，可以说是从模仿前辈开始的。”（广田 2011: 358-359）

(34) 云台是用木头搭建的木制高台。

(35) 张劲松，赵群，冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社，2002: 192.

(36) 参见 Ver.02 日本瑶族文化研究所数据库—2008 年度戒程序编号 647-649。2023 年 5 月 2 日更新。

(37) 张劲松，赵群，冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社，2002: 195.

头，绕着“花楼”逆时针方向旋转三圈。随后，会首们在主醮师的引导下，模仿其动作，先将双手浸入同样的“雪山水”中，以获得保护，然后接过犁头和石头，用双手交替颠动，围绕花楼奔跑。⁽³⁸⁾“捧火砖”与“攀刀山”“度水槽”“度棘床”“上刀梯”等仪式一样，构成了度戒仪式中的核心考验。这些考验不仅是对受礼者身体和精神的挑战，更是对他们信仰和法术实践的验证。通过这些试炼，会首们在实践中提升了能力并获得了法术。

(7) 升职位

在度戒仪式中，勉瑶男子可以获得死后位临仙界的官职，这一仪式环节被称为“升职位”，或更正式地称为“升老君职位”。该仪式，不仅是对受礼者即将获得的宗教地位的肯定，也是对其未来在仙界中角色的预设。在“升职位”的仪式中，主醮师面向元始天尊、灵宝天尊、道德天尊的神像画，手持法铃，将写有会首法名及其所升职位的黄纸条——“职位火牌”，放置在笏牌之上。随后，主醮师在摇动法铃的同时，将黄纸条凑近神像画。⁽³⁹⁾如果职位得到了三清的认可，它会自动吸附在神像画上，从而确立会首的职位。这一现象被视为神明对会首职位的神圣认可。通过“升职位”的仪式环节，会首们正式获得了三清认可的神职。会首们通过该仪式环节，正式获得三清认可的神职。在他们百年之后，他们将持文书到仙界上任，开始他们在仙界的官职生涯。

(8) 宣布戒律 / 大戒文

师公诵读“戒文”，并向会首传授戒律⁽⁴⁰⁾。

(9) 分兵

“分兵”环节是授予会首们军事指挥权的重要部分。在这一环节中，会首们被授予“分兵旗”，象征着他们获得了领兵、带兵、引兵的职能。另外，根据日本瑶族文化研究所数据库中的度戒仪式程序记录，师公会在仪式中诵读咒文“招五谷转兵用”⁽⁴¹⁾，同时向会首抛米，以此作为分兵的象征性动作。这一咒文的内容揭示了东西南北和中央五个方位的阴兵被召集而来，每位会首被授予了共计两百三十五万三千名阴兵，从如此庞大的分兵数量可以看出度戒仪式的宏大规模。⁽⁴²⁾

(38) 参见 Ver.02 日本瑶族文化研究所数据库—2008 年度戒程序编号 688-696。2023 年 5 月 2 日更新。

(39) 参见 Ver.02 日本瑶族文化研究所数据库—2008 年度戒程序编号 709-711。2023 年 5 月 2 日更新。

(40) 张劲松，赵群，冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社，2002: 199.

(41) 参见日本瑶族文化研究所收藏仪式文献照片资料。分类号 A-16a。照片序号：DSCN3555。“招五谷转兵用”
内容：东方一夷兵，九九八十一万一千兵。南方八蛮兵，八八六十四万四千兵。西方六荣兵，六六三十六万六千兵。北方五元兵，五五二十五万五千兵。中央三十兵，三九二十七万七千兵。

(42) 参见 Ver.02 日本瑶族文化研究所数据库—2008 年度戒程序编号 761-765。2023 年 5 月 2 日更新。

（二）广西壮族自治区贺州市的挂七星灯仪式

2023年12月18至21日，笔者在广西壮族自治区贺州市步头乡黄石村白竹冲观察了赵家举行的挂七星灯仪式。家主赵W（赵法安），生于己未年八月三十日辰时（公历1979年10月20日），家庭出身贫寒，近年来多发疾病。经师父占卦，算出其“多招疾病、关煞临身”，并且“上克父母、中克兄弟姐妹、下克自身”，推算其为“五行不顺”。如果成为师公拜师学法的话，可以保其自身安宁。他的妻子梁氏（汉族），生于乙卯年四月二十日未时（1975年5月30日），自出生以来便历经坎坷，包括在第一次婚姻中的不幸遭遇——前夫因病去世。赵W与梁氏在广东打工时相识并相恋，梁氏毅然地随夫回到贺州的老家，开始了新的生活。根据二人自身的情况，夫妇商议之后，择日于癸卯年十一月初七日（公历2023年12月19日），请5位师公来到家中举行挂灯仪式。

1. 仪式参与者

除了作为此次仪式核心人物的家主夫妻二人之外，5位师公将各司其职，分担合作完成仪式的所有程序。赵法进作为引教师，要执行挂三台灯、立法名，还作为书表师负责制作仪式需要的疏、表、牒等文书。冯法财作为正教师，携带神像画和兵马来赵家，主要进行安坛、落马、挂神像画、请圣、挂七星灯、接兵、开天门、奏疏表、投递阴牒、升职位、化炼财马、谢圣、授戒和授阳牒等一系列仪式活动。冯法德、王法任、邓法承分别担任证盟师、执香师和吹笛师。

2. 仪式程序与内容

2023年12月19日上午，冯法财到达赵家之后，先到厅堂正面的家先坛前安坛落马，之后把自己带来的神像画、师棍等法器放置一旁。与其余几位师公、家主夫妻、厨官一同喝落脚酒，席间交代仪式的流程、注意事项。结束后，书表师冯法进开始制作仪式所需的疏、表、牒、幡和对联等，主家亲属及邻近的村民到场协助布置祭坛。为了举行此次仪式，家主请丹青绘制了大堂神像画一套，在挂灯前必须先给神像画进行开光。而且由于赵W尚未挂过三台灯，因此在挂七星灯之前先要补挂三台灯。直接相关的仪式主要有：请元帅把坛、请将军镇守、敕变凳、送衣送帽、变师男身、挂三台灯、挂七星灯、解厄、退灯、造桥/分兵、授印/授牒/授剑/授雷令、授戒文、破天门、抬师男起身等环节。

（1）请元帅把坛

师公请“雷霆都司邓元帅、铁笔注簿辛元帅、猛虎玄坛赵元帅、正日灵官马元帅、地狱统兵康元帅、东狱金身张元帅”守护坛场，以确保仪式的顺利进行，并保护受礼者免受邪灵或不利影响的侵扰。

（2）请将军镇守

师公面向五方五位，依次向东南西北中五个方位吹响牛角并焚烧符纸，以祈求五方五位龙神将

军的庇护。⁽⁴³⁾

(3) 敕变凳

师公一边在木凳上绘制符咒，一边念诵咒语⁽⁴⁴⁾，运用变凳法对木凳进行敕变。随着咒语的念诵，木凳仿佛被赋予了神圣的力量，化作一座宝盖之下的莲花宝座，进而转变为金碧辉煌的宝殿。在这宝殿之中，师公的师父与道家祖师太上老君同坐，周围是高墙和铁壁，象征着坚不可摧的防护已经被建立起来。

随后，师公唱起打凳歌⁽⁴⁵⁾。从歌词中，可以感受到师公通过法术将木凳的两端变出了狮子和麒麟，它们分别站立在木凳的两头，威武而庄严，为仪式护法。此外，凳头和凳尾还分别立有杀鬼的棍棒和长枪，以及猛虎与黄龙，它们是驱邪避凶的象征，保护受礼者免受邪灵的伤害。

(4) 送衣送帽

师公让身着崭新盛装的家主夫妇一前一后的端坐在被敕变过的两张木凳上，之后取来两只白碗，让师男两手捏手诀、两脚各踩一只白碗（脚踏莲花）。师公为家主戴帽并整理帽上的流速，看穿戴是否整齐。又以顺时针方向围绕着夫妇二人，一边走动一边念诵咒语⁽⁴⁶⁾，为他们带来神灵的庇佑，确保仪式的顺利进行。

(5) 变师男身

师公给师男变身，为其扫除七灾八难，通过阴阳两次变化，将师男藏匿起来，确保师男在挂灯的

(43) 师公面向东方吹响牛角，口中念诵：“谨请东方坛界东方青帝青龙将军领兵三十万把断东方木轮请方甲乙木号为青龙白王今天吾师中招请攀义安剑出坛中”，化炼符纸；转向南方吹响牛角，口中念诵：“谨请南方火轮将军领兵三十万人把断南方火轮界谨请南方丙丁火号赤火灵将军今日将军中招请领兵来吾师中”，化炼符纸；转向西方吹响牛角，口中念诵：“谨请西方白龙将军领兵三十万庚辛金披金甲志乾坤镇断白帝庚辛内除邪勿侵”，化炼符纸；转向北方吹响牛角，口中念诵：“谨请北方水轮将军领兵三十万人把断北方轮坛界谨请北方壬癸水仙童子逢下吾坛镇断北”，化炼符纸；转向中央吹响牛角，口中念诵：“谨请中央黄帝龙王将军领兵三十万人把断中央土轮火坛界谨请中央戊己土五方五帝龙王森森五龙攀火安剑把断五方谨请火轮大圣者五方结界天王上借七步下借七步借身来身断真身来真身断天地把断谨请老君准吾奉急令敕”，化炼符纸。

(44) 师公口中念诵：“一变琉璃宝盖中，二变莲花宝座中。三变金楼宝殿，吾师老君对坐。说无穷墙高万丈，铁壁千重不克，老君急令敕。”

(45) 师公唱打凳歌：“一打凳头出狮子，二打凳尾出麒麟。麒麟狮子两边立，叫你伤鬼莫伤人。凳头立条杀鬼棍，凳尾立条杀鬼枪。凳头立猛虎，凳尾立黄龙。叫你杀鬼莫杀人，准吾奉太上老君急令敕。”

(46) 师公口中念诵：“天差呀地差呀差，今日老师送衣来。天差呀地差呀差，今夜老师送帽来。师男头戴金冠顶，右手接印踏香门。左手立起老君诀，口念老君法令行。左脚又踏莲花朵，右脚又踏莲花砖。今日师男来学法，后代师男命有缘。头上又立五雷过，脚下紫云脚下安。头上又立龙来过，四边又立虎来藏。太上五雷来镇殿，准吾奉太上老君急令敕。”

过程中得到保护，远离一切灾难和邪恶。⁽⁴⁷⁾

(6) 挂三台灯

挂七星灯前，先为家主夫妇补挂三台灯。师公口中念诵：“第一盏明灯李十六灯，常念将来挂师男头。师男授得李十六明灯了，强于明月出山头。第二盏明灯李十二灯，常念将来挂师男身。师男授得李十二明灯了，师男寿命得延长。第三盏明灯李十一灯，常念将来挂师男人。师男授得李十一明灯了，师男肚内自聪明。”

从师公念诵的咒语中不难看出，挂三台灯中悬挂的三盏明灯，每一盏都有其特定的意义和象征，对应着李十六、李十二、李十一三位神灵。挂了第一盏李十六灯，师男得到了这盏灯的加持后，将会像明亮的月亮一样，从山头升起，照亮周围的环境，象征着光明和力量；挂了第二盏李十二灯，师男将获得长寿，咒中文的“寿命得延长”直接表达了对健康和长寿的祈愿；而挂了第三盏李十一灯，师男将会获得智慧和悟性。

(7) 挂七星灯⁽⁴⁸⁾

挂完三灯之后，紧接着再挂四盏灯，合在一起为七星灯。师公一边挂灯，一边口中念诵：“体挂上台四星灯，照耀师男身上心。普扫不祥邪鬼路，从见灾难脱离身。体挂中台五星灯，护身镇宅在其身。从今命身光享泰，邪魔小鬼走分分。六盏明灯照身明，照破身中白鬼精。师男将身来学法，救得凡民个个兴。七盏明灯照院满，星君头上作证盟。千兵万马都来位，十万施主尽来师。”

通过师公念诵的咒文可知，“上台四星灯”即第四盏灯，这盏灯的光辉照耀师男的身体和心灵，具有清除不祥和邪恶力量的能力，驱逐邪鬼，保护师男免受其害。在此灯的照耀下，师男还能够摆

(47) 先是阴变，师公口中念诵：“谨请祖师变吾身，本师变吾身，吾师造得铁葫芦，头是尾，尾是头，吾师化铁弹子，飞入葫芦肚内藏，准吾奉太上老君急令敕。东方射不着，南方、西方、北方、中央射不着，吾师躺在葫芦肚内藏，准吾奉老君急令敕。”之后再阳变，口中念诵：“谨请三尊变吾身，万鬼除邪不可闻。吾师藏稳无踪迹，铁城里内好藏身。谨请三清变吾身，万鬼除邪不可闻。赞出毫光高万丈，即金宝塔好藏身。谨请天师变吾身，行罡作法转天心。身变毫光高万丈，脚踏红袍紫色云。金甲落衣发火焰，铁城里内好藏身。谨请三元变吾身，落衣金里镇乾坤。现出毫光高万丈，驱邪斩鬼不可闻。吾师藏阴无踪迹，铁城里内好藏身。谨请三清变吾身，驱邪万鬼不可闻。九帝高真通变化，铁城里内好藏身。青云宝盖好藏身，万鬼千邪不可闻。紫薇通天高万丈，金鳞宝塔好藏身。说吾奉上老君急令敕。”接着又念诵：“接着念诵：“又立青云头上过，又立紫云脚下安。头上又立五雷殿，利水曾曾脚下安。东方又立龙来殿，四边又立虎来藏。凳头立条杀鬼剑，凳尾立条杀鬼枪。麒麟狮子两边立，华盖层层盖弟郎。祖师立华盖，本师立华盖。吾师躺在金樽内，后代师男传挂郎。太上老君好传言，身骑白马入青云。龙虎山头好修道，几多修道得成人。谨请祖师华盖盖吾身，本师华盖盖吾身。经策三师盖吾身，急急盖吾前，急急盖吾后，准吾奉太上老君急令敕。”

(48) 如果只挂三台灯的话，师公在挂灯之后要继续念诵三清咒、北斗咒、李十一、李十二、李十六咒、钱马咒、祖师咒等咒文，之后解厄，再退灯、分兵、行桥、拔法、拔兵、给书、给铃、结箬、抬师男起身和引师男列圣等仪式环节。而此次仪式最终目的是为家主度戒挂七星灯，由于家主之前尚未挂三台灯，所以需要先补挂三灯之后才能挂七星灯。于是，在前三盏灯的基础上再升四盏，即为七盏灯。

脱灾难和不幸。“中台五星灯”即第五盏灯，这盏灯具有保护师男的身体和镇宅的作用。从挂上第五盏灯的这一刻起，师男的生活将充满光明与和谐。邪魔和小鬼将被驱散，再无法靠近师男。第六盏灯照亮师男的身体，能够驱散师男体内的不良精神或邪气。师男通过学习法术来提升自己，救助普通民众，使民众生活更加兴旺。第七盏灯使得整个院子都充满了光明，天上的星宿和神灵，为挂七星灯来作见证。众多的神兵神将都已就位，来保护师男。众多的施主也都来支持师男。从整体来看，通过第四盏至第七盏灯的悬挂，师男得到了全面的保护、智慧和力量，以及驱邪避灾的能力。同时，这里也告诫师男通过学习法术，要帮助他人，充分体现出了一种利他的精神。

三灯和七星灯已经挂齐⁽⁴⁹⁾，师公又念南北二斗咒：“南斗火官除毒害，北斗水神灭凶灾。能依凡敬命星照，必富惟愿却灵台。凡有所求皆净应，无厄无门谁敢开。如是七元官，大圣善通灵。度诸厄圣，起出若众生。若有急告清，招魂得安律。邪魔求清刑，五方降镇宅。万福自来泰，长生起八难，皆有奉七星。”

此处所念南北二斗的咒文，体现出浓厚的星宿崇拜的意味。在道教中南斗、北斗星君掌管世人的生死寿夭和富贵吉凶。而师公所念咒文中，南斗星君被视为火官，负责消除毒害；北斗星君则被视为水神，能够扑灭凶灾。咒文表达了对南斗和北斗星君的信仰，如果凡人能够虔诚地敬仰星辰，那么他们的愿望将得到满足，灵台（心灵）将得到净化。“七元官”指的是北斗七星，具有高深法力，能够通灵，能够帮助众生度过困难和厄运。在紧急情况下，向北斗七星祈求，可以安定灵魂。若请求净化邪魔，神灵将从五个方向降临，镇守住宅。通过敬奉七星，可以获得万福，克服生命中的八难，实现长生不老。

接着，师公继续念诵生神咒：“生生身自有，死死保身宁。善似光中影，应如谷里声。三元神兵护，万圣眼同明。无灾也无障，求保道心宁。”此咒不仅为师男带来智慧和力量，也是对师男的一种教诲。告诫师男：生命循环不息，死亡也是生命的一部分，要保护身体安宁；善行如同光中的影子，响应如同山谷中的回声，暗示善行和响应都是自然而必然的；三元（或指天、地、人）由神兵保护，所有圣贤的目光都是明亮的；没有灾难也没有障碍，要寻求保持道心的平静。通过咒语，可以发现，师公传递的更像是道教文化中对宇宙、生命和道德的深刻理解。

(49) 如果三台灯和七星灯都挂齐了之后，师公要继续念诵：三清咒、玄坛咒、北斗咒、元帅咒、李十一、李十二、李十六咒等，要诵经解厄。如果是挂大罗灯，则要继续再升四盏。师公要念诵：“八盏明灯照八难，八仙聚会下坛前。师男桥下来听法，专心听取法真言。九盏明灯照九曜，九九排兵转十方。九郎兵马随身转，救男救女得安康。十盏明灯照身光，十王殿上绝刑藏。地域门前我无过，阎罗天子收家刑。十一盏明灯照院满，四府高真作证盟。”念诵完后，再念六帅咒、解厄、请六帅、齐献酒，最后再分纸钱。

(8) 解厄

师公祈求用太圣北斗七元宫的神力来解除家主夫妇的多种厄运⁽⁵⁰⁾，包括三灾四煞厄、五刑六害厄等，这些厄运涵盖了各种不幸和灾难，如健康问题（七伤八瘫厄）、家庭问题（九星夫妻厄）、生产困难（男女生产厄）、法律纠纷（却贼枷锁厄）等。

之后，师公又开始诵经⁽⁵¹⁾。经文中提到“南无救苦救难观世音菩萨”，这是佛教中的神灵，显示了勉瑶解厄仪式中融合了佛道两教的元素。该经文宣称具有强大的救苦救难的功效，能够救助狱中的重病之人，解除三灾八难，具有超自然的治愈和保护力量。经文还提到了诵读一定次数后的效果，如诵读一千遍可以使个人远离苦难，诵读一万遍可以使全家远离苦难，这凸显了诵读经文的重复性和积累效应。此外，经文中还提到了“南无佛护此经恶心、萨摩伏、清净此官事”，这应该是指通过诵读经文，可以得到佛祖的庇护，驱除邪恶，净化官事（可能指官司或官方事务）。经文最后提到“枷锁自然得解脱”，意味着诵读经文可以帮助人们摆脱束缚和困境。同时，“五百罗汉，救难信士”则表明有众多的佛教圣众会来协助救难。最后，甚至强调了“真言”和“救词”，这可能是用以加强经文的效力，提供更深层次的保护和解脱的特定的咒语。

从整体来看，解厄仪式环节反映了一种综合了道教和佛教元素的风格，其目的是在通过祈求神灵的庇护和诵读经文来消除各种灾难和厄运，以实现对家主及其家庭的平安、健康与和谐。勉瑶的这种借用佛道两教相融合的手法，或许可以使解厄的效果更加拔群。

(9) 退灯

师公口中念诵咒文⁽⁵²⁾，依次将灯台上的七盏灯取下放在托盘内。从咒文中可见“贪狼”“巨门”“禄存”“文曲”“廉贞”“武曲”“破军”七个星宿的名称，合在一起正是北斗七星。

(50) 师公所念咒文为：太圣北斗七元宫能解三灾四煞厄、五刑六害厄、七伤八瘫厄、九星夫妻厄、男女生产厄、复连疾患厄、白虎缠身厄、咒咀缠身厄、虎狼虫蛇厄、却贼枷锁厄、横死地狱厄、天罗地网厄、刀兵水火厄、五星不顺厄。

(51) 师公诵经内容为：“南无救苦救难观世音菩萨，百千万意佛无量功德佛佛告阿难言，此经大善能救狱重病，能救三灾八难，苦若此经者得瘫身患，苦若诵一千遍，一身离苦难，诵一万遍，合家离苦难，南无佛护此经恶心、萨摩伏、清净此官事，得散私事，相休诸天菩萨，五百罗汉，救难信士，弟子身悉皆离，自然观世音菩萨，此落不须解，动诵此经千万遍，枷锁自然得解脱，信受奉行郎，脱真言日金波，救词救帝，陀罗尼词坭席真言揭普捉。”

(52) 退灯七星灯时念诵：“一退贪狼及巨门，文曲水中出宝珠。殿前宝花后来有，法主声声门下迎。二退禄存及文曲，小师五体尽安宁。师男桥下来听法，将身投度法分明。三退廉贞及武曲，九曲水中出宝珠。若还亲授本师教，何愁无路去寻守。四退天街破军星，六丁六甲四件身。去到鬼门鬼便伏，雷霆六帅应雷声。五退武曲及廉贞，武曲水中出宝珠。六退廉贞及武曲，武曲水中水又长。七退武曲破贯星，破贯水中出宝花。”

(10) 造桥 / 分兵

师公将装满白米的木箱置于师男脚边，这是即将分给师男的兵马。又将一条白布从师男的膝头延伸至米箱之上，仿若架起了一座金桥。随着咒文⁽⁵³⁾的念诵，师公将米用法铃盛装轻轻地倒在白布之上，再扯起白布的一端，让米粒顺着布面滑落至师男的膝头，象征着通过金桥授予其兵马。将白布裁剪成适当大小，将获得的米（兵马）捆扎成一包，放置在师男的家先坛上。之后，师公继续念诵咒文⁽⁵⁴⁾，意为今天师父已经授予了你兵马，使你具备了保护自身和救助他人的力量。当有人相请时，你应当领兵救难。

(11) 奏表

正教师向天界神灵呈递“金轮表”，并下界宣告神灵的意志，谓之“奏表”。其内容涉及到对天界神灵的祈求、对师男的保护、劝诫和祝福等。此外，师公要对师男进行初步的训诫和教导，以及请求天地间的自然神灵，包括日、月、星辰的神君和水域的神灵、城隍（地方保护神）、山川土地的神灵，来赐予师男保护。劝诫师男：必须要勤奋学习法术，只有这样，无论是在家中还是在户外，才能不受邪障侵扰，以及躲过凶关恶煞和延长寿命。师公作为太上老君的弟子，拥有神灵的庇护。此外，师公在上表过程中，还请求宗师⁽⁵⁵⁾前来协助，以武职的身份，向天界传达请求和执行法术。并保证，此次举行的仪式将流传下去，不会辜负诸神赐予师男挂灯的恩典。最后，师公又祈求神灵保佑师男全家人平安；祈求财运旺盛，农作物丰收；请求邪恶的力量被遏制，祖先的灵魂得到超度；祈求避免官司和灾难，远离火灾和盗窃。

(12) 授印 / 授牒 / 授剑 / 授雷令

师公口中念诵咒文⁽⁵⁶⁾，首先向家主授予了老君印，又授予妻子梁氏王姥印。授予老君印时，咒文中提到了“天差地遣”，强调了老君印的神圣性和权威性。授予师男老君印，既是师男通过七星二

(53) 师公念诵：“仙女造起金桥路，白鹤含香挂起来。白鹤含香挂三案，三案含香挂仙女。仙女含香挂九郎，九郎含香挂王母。王母含香挂老君，老君含香挂天师。天师含香挂地师，地师含香挂祖师。祖师含香挂本师，本师含香来挂我。我今含香挂师男，后代师男传挂人。自古一世传一世，自古一人传一人。今朝有人齐挂后，后代有人挂子孙。部策众兵传挂你，常有一人挂师男。若有十方人相请，带兵去救十方人。”

(54) 师公念诵：“千兵万马，汇聚于弟子；千军万马，挂于小师。千军过桥，万军行下。十万洪兵，精选三万，留得七万，护我师男。若十方之人相请，领兵救难，展我道力。”

(55) “宗师”应该是师公的师父或者是师公前辈。

(56) 师公传授师男老君印时念诵：“天差呀差地差呀差，老君衙里给将来。玉印打在老君红门，生斗落入绣裙下。玉印原来四四方，老君名字在中央。抛下落阴祖师印，抛下落阳喝玉皇。今日当天给与你，莫放玉印作为闲。若有十方人相请，喝印之时鬼灭亡。有钱来接起，无钱转本师。”传授梁氏王姥印时念诵：“天差呀差地差呀差，王姥衙前给将来，玉印原来四四方，王姥名字在中央。抛下落阴聪明姐，抛下落阳转度娘。保你养物猪财鸡财旺家庄。”

戒的证明,同时也是其身份、能力的象征,更进一步的也象征着被授予了太上老君的法力,可以用以镇邪压煞、制鬼降妖。授予梁氏王姥印,也意味着对其通过七星二戒的认可和证明。梁氏作为汉族人,通过与勉瑶的婚姻,以及与丈夫一同度戒,实现了身份上的全新转变,王姥印是其在勉瑶社会中社会身份的认可和证明。

牒有阴牒、阳牒之分,内容完全相同。阳牒在此仪式环节中,由师公授予度戒夫妻二人。阴牒则在仪式中化炼上奏给金阙九郎功德司君。师公念诵咒文⁽⁵⁷⁾,先授予家主《右阳牒一道当天给付弟子生身收照为凭》,之后授予妻子梁氏《右阳牒一道当天给付信女生身收照为凭》。待他们百年之后,可带阳牒到九郎门下功德司君案前核对身份,再赴任仙官职位。

师公念诵咒文⁽⁵⁸⁾,祈求神灵显灵,授予师男“灵官宝剑”(师刀),以及雷令。这把“灵官宝剑”,将伴随着师男,哪怕他走到天界之门。它的法力强大,可用来驱除邪恶和鬼怪,且绝不容情。雷令则具有更大的威力,师男有了雷令加持,便可以号令神兵神将,以及差遣东西南北中五方雷神镇压邪祟。

(13) 授戒文

师公唱“师教歌”⁽⁵⁹⁾,歌词内容涵盖了师公对师男的全面教育和期望。歌词一开头就强调了

(57) 师公授予师男阳牒时,念诵:“天差呀差地差呀差,合同半印给将来,给下功据牒纸,命于长生高照来。今日给下师男你,千年兴旺求无灾。”授予妻子梁氏阳牒时,念诵同样的内容,最后部分换成对女性的称呼,即“今日给下师如你,千年兴旺求无灾。”

(58) 师公授予师男“灵官宝剑”时念诵:“天灵灵地灵灵,灵官宝剑给来临。显应十方人相请,三天门外用随行。若是神来斗法,除邪打鬼不容情。”授予五雷令时,念诵“天灵灵地灵灵,雷霆律令给将行。今日给下雷霆令,三天门下押邪精。若是十方人相请,法坛显应鬼灭程。”

(59) 师教歌歌词:正好教,正好教,正当好教我师男。一教师男来唱歌,二教师男便成罡。三教师男翻复退,翻来复去便成罡。正好教,正好教,当坛好教我师男。一教师男接江诀,二教师男接香门。三教师男来学法,低头唱也拜祖师。踏上梅山法门去,舍身投入过梅山。一拜祖师来学法,二拜师父教师男。三拜老君真教典,低头礼拜问根源。老君叫你真教典,后来天下救良民。又叫祖师在左右,又叫本师在眼前。又叫老君真教典,手中执印是真人。师男子,师男子,有人相请摸推辞。寅时相请寅时去,急时相请急时行。九冬十月落霜雪,口中没说路头长。就得凡间有功德,没说世间功德钱。有钱相请你也去,无钱相请你也行。打发铜钱你也使,打发赞钱你也收。三三两两为功德,莫说主人奉少钱。师男子,师男子,后来行正莫行邪。你若行邪不依教,四天门下败名声。人家贪酒你莫贪,良筵有位莫贪杯。吃得三盏留一盏,吃得四杯留两杯。你若吃醉归家睡,不得乱言犯四边。依我祖师老君教,州门知得你有名。十方相请出门去,贪花千万莫贪图。你若贪图为师父,随知师父在身边。出门三步叫师父,随知师父在眼前。四边说话聪明子,后来天下有名声。女人说话聪明子,不知暗处败名声。祖师教你接罡诀,本师教你接香门。先生教你知礼仪,知得礼仪正聪明。爷娘教你要孝顺,为人孝顺圣保时。爷娘生你多辛苦,几多辛苦你不知。如今长大成人了,后来记得爷娘恩。朝昏夜里多孝顺,为人孝顺圣保时。爷娘生郎年命大,将身踏入过间山。踏入间山去学法,如今学法用银钱。今朝得了老君职,莫作爷娘安两边。你若知得爷娘义,爷娘知得子有心。你今接得老君法,在家防屋路防身。若有十方人相请,十方相请救良民。大筵小位人相请,十方相请救良民。铜钟挂在高楼上,高楼打鼓有郎名。

师公“正好教”，意在说明师公在恰当的时机教授师男，引导他学习宗教仪式和法术，帮助他成长和进步。也强调了师男应遵循师公的教诲，学习宗教知识和道德规范。歌词表明了度戒学法的重要性。通过学习和实践，使师男逐渐成为能够独立执行宗教仪式的人。师公教育师男要积极回应十方人的请求，无论是有钱或无钱，都应去帮助和救助。师公劝诫师男不应贪图酒色，要懂得节制，要保持清醒，避免因醉酒而失去理智。还教导师男要记得父母的养育之恩，要孝顺并尊重长辈。要知晓礼仪，要聪明、有智慧，这不仅是个人品德的体现，也是与社会交往的基础。如果师男能够遵循教诲，行正道，那一定将获得好声誉。师公还提醒师男要有自我约束力，不要因一时的贪欲而损害自己的名声和修行。教育师男要认真对待从老君那里接过来的教法和职责，要用自己的能力去帮助和救助有需要的人。最后又强调，师男应感恩爷娘的养育之恩，并将这种感恩之心转化为对他人的帮助和回报。总之，在这个仪式环节中，师公教育师男要成为一个有道德、有责任感、有智慧、懂得尊重和感恩的人。师男不仅要学习宗教知识和法术，还要在生活中实践这些教诲，成为一个对社会有贡献的人。

(14) 破天门

在此仪式环节中，师公带领师男到门外列圣并传授破天门之法。师公口中一边念诵咒文⁽⁶⁰⁾，一边带着师男，手持宝剑、上元旗、师棍，将牛角倒扣在师棍上，引领师男来到祭场外文台前，踏在木板上吹响牛角叫天门。请众圣都来支持和保护新入门的弟子，引导师男记住并打开通往天界的门户，授予师男宗教职位和职责，教导师男今后要肩负起守护香门的职责。这一系列仪式行为，不仅是对师男传授法术，更是对其精神的洗礼。师男在师父的引荐下，获得了众圣的拥护，打开了通往天界的门户，天兵降临，地兵来临，千兵万马都前来拥护。师男不仅掌握了高级法术，更拥有了诸神作为靠山和差遣天兵地兵的能力，真是了不得的成就。

(15) 抬师男起身

两位师公各持两根师棍的一端，使师棍从师男的胳膊下穿过，好似抬轿子的样子。师公念诵：“门前江水转悠悠，抬起师男到九州。门前江水转双双，抬起师男到九江。门前江水转声声，抬起

(60) 师公先口中念诵：“一行众圣齐拥护，都来拥护弟子带新挂师男记天门，记破天门封官挂职护香门。”在度七星二戒中师公还要继续念诵：“手拿宝剑上元旗棍倒担牛角转哀哀，列齐众官众圣拥护弟子引带新挂授度师男三朝门外上文台。手拿宝剑上元旗棍倒担牛角转元元，列齐众官众圣拥护弟子引带新挂授度师男三朝门外文台头上叫天门。手拿宝剑上元旗棍倒担牛角转荣荣，列齐众官众圣拥护弟子引带新挂授度师男三朝门外文台头上叫天宫。手拿宝剑上元旗棍倒担牛角转连连，列齐众官众圣拥护弟子引带新挂授度师男三朝门外文台去叫天。”打开天门之后，师公念诵：“一行圣众齐拥护，都来拥护弟子引带新挂师男去叫天，打开天门天兵降，打开地府地兵行，左脚分兵兵便去，右脚排兵兵便行。千兵万马齐拥护，都来拥护弟子引带新挂授度师男去叫天。打开天门榜上圣，打开地府去中槽。”开天门后，师公上奏金轮表，口中念诵：“一行圣众齐拥护，都来拥护弟子去叫天。左脚分兵兵便去，右脚排兵兵便行。千兵万马齐拥护，都来拥护弟子去叫天。打开天门郎奏表，打开地府奏文书。文书奏上正法二郎门下过，玉皇案上做证盟，当天给同给举不差移。”

师男到九京。”念诵完后，喊“抬起”，这时师男便从木凳上站起来，仪式结束。

三、勉瑶挂灯仪式的结构、功能和象征意义

在深入考察勉瑶挂灯仪式的传承现状，特别是对湖南省永州市蓝山县和广西壮族自治区贺州市的挂三灯、挂七星灯以及挂十二盏大罗灯的仪式中心环节进行重点考察之后，我们可以发现，勉瑶挂灯仪式是一个包含了丰富层次的文化现象。虽然挂灯和法术传授构成了仪式的核心，但仪式所表达的内容远不止于此，它实际上是一个更为综合的文化体现。

（一）勉瑶挂灯仪式的结构

挂灯仪式的结构普遍包含：请圣 / 请师、敕变水 / 敕变米 / 敕变布 / 敕变钱 / 敕变凳、升凳、穿衣、点灯、踏莲花、收煞、藏身、升灯、挂灯、解厄、退灯、拨桥、分兵、吹米、定阴阳、退莲花、授法 / 学法、抬轿子等环节。相比较而言，挂三灯作为挂灯仪式的初级形式，其结构相对简单^{（表1）}，通常作为还家愿或度戒仪式的一部分。无论是作为独立仪式还是作为度戒中的补充仪式，挂三灯的基本结构是可以保持一致的。

表 1：挂三灯仪式流程对照表

序号	仪式名称	挂三灯 (湖南蓝山)	补挂三灯 (广西贺州)	补挂三灯 (湖南蓝山)
1	请师	○	○	○
2	敕变水	○	○	○
3	敕变米	○	○	○
4	敕变布	○	○	○
5	敕变钱	○	○	○
6	敕变凳	○	○	○
7	升凳	○	○	○
8	穿衣	○	○	○
9	点灯	○	○	○
10	踏莲花	○	○	○
11	收煞	○	○	○
12	藏身躲隐	○	○	○
13	升灯	○	○	○
14	挂三灯	○	○	○
15	解厄	○	○	○
16	退灯	○	○	○
17	拨桥	○	○	○
18	分兵	○	○	○
19	吹米	○	○	○
20	定阴阳	○	○	○
21	退莲花	○	○	○

22	接香炉	○	○	○
23	学打锣	○	○	○
24	学吹牛角	○	○	○
25	学用卦	○	○	○
26	学摇铃	○	○	○
27	抬轿子	○	○	○
28	学走罡步	○	○	○
29	学舞	○	○	○
30	上光 / 奏表	○	○	○

如果说挂三灯是勉瑶入社仪式中的初级阶段，那么同为度戒仪式的挂七星灯则是在挂三灯基础之上的进阶仪式，挂十二盏大罗灯则算得上等级的进一步攀升。这种等级上的差异在其授法相关的仪式内容上尤为突出。例如，在挂三灯中，受礼者获得法名、挂灯、接香炉，以及跟随师父学习例如打锣、摇铃、用卦、吹牛角、行罡、跳舞等仪式行为，这些都是作为一个勉瑶男子、宗教职能者、香火继承者而言需要掌握的最基本的民族文化传统。

而在度戒中^(表2)，除了要给没挂三灯的受礼者补挂三灯外，还包括更复杂的仪式环节。例如，在广西贺州的度七星二戒中，还给新制的全套神像画进行开光、挂七星灯、授印、授牒、授剑、授雷令、升职位和授戒文等，以及学习开天门等高级法术。此外，作为湖南省蓝山县最高等级的挂灯仪式，挂十二盏大罗灯除了不挂七星灯之外，在包含补挂三灯的基础上，又进一步增加了，如翻刀山、渡水槽、上刀山、度勒床、捧火砖等更具挑战性的试炼环节，并通过这些环节拨给了受礼者刀山、水槽、勒床和刀梯等法术。特别是在挂十二灯前的贺星拜斗中，要请十二星君、开天门、出兵、合星 / 拜星、上光贺星，还要将请圣、升凳、受煞、踏莲花、戴帽、藏身、升灯这些环节再重复一遍，可见其仪式程序的严谨和内容之丰富。需要强调的是，广西贺州挂七星灯的方法，是先挂三盏再加四盏灯，补挂三灯和挂七星灯之间没有明显的间隔，挂灯数量总和为七盏。而在湖南蓝山的度戒中，补挂三灯和挂十二灯是相对独立的，两个仪式之间还包含了更多其他的仪式内容。因此，在实际仪式中挂十二灯的时候，并不是在三盏灯的基础上累加上去，而是从第一盏一直挂到了第十二盏。

表 2：挂七星灯 / 挂十二盏大罗灯仪式流程对照表

序号	仪式名称	挂七星灯 (广西贺州)	挂十二盏大罗灯 (湖南蓝山)
1	新制神像画开光	○	×
2	补挂三灯	○	○
3	挂七星灯	○	×
4	翻刀山 / 拨刀山	×	○
5	上光贺星拜斗	×	○
6	请十二星君	×	○
7	开天门	×	○

序号	仪式名称	挂七星灯 (广西贺州)	挂十二盏大罗灯 (湖南蓝山)
8	出兵	×	○
9	合星 / 拜星	×	○
10	上光贺星	×	○
11	请圣	×	○
12	升凳	×	○
13	受煞	×	○
14	踏莲花	×	○
15	戴帽	×	○
16	藏身	×	○
17	升灯	×	○
18	挂十二盏大罗明月灯	×	○
19	退灯	○	○
20	退莲花	○	○
21	抬轿子	○	○
22	走正道	○	○
23	授印 / 授牒 / 授剑 / 授雷令	○	○
24	开天门	○	○
25	度水槽 / 拨水槽	×	○
26	上刀山 / 拨刀梯 / 抛印	×	○
27	度勒床 / 拨勒床	×	○
28	捧火砖	×	○
29	升职位	×	○
30	授戒文	○	○

(二) 勉瑶挂灯仪式的功能

张劲松等指出：“按规制，每一代人必须挂一次灯，还一次家愿，如果三代人不挂灯、不还愿，就谓祖先盘王不再承认是其子孙；其次，一个家庭的分支传承也要通过挂灯仪式认可，分开香炉，各承香火”⁽⁶¹⁾还论及了度戒的功能，认为其具有相似成年礼仪式；生前受阴护，死后做仙官；以及出师礼仪的宗教功能。⁽⁶²⁾勉瑶挂灯仪式不仅是一种宗教活动，它具有多重的功能，这一传统仪式在勉瑶社会中扮演着复杂而多维的角色。其内涵远远超出了表面的法术传授和仪式行为，它还涉及到社会、宗教、教育等多个层面。

1. 确立社会地位的功能

挂灯仪式作为一种入社仪式，在勉瑶社会中也承担着社会意义上的成年礼与帮助勉瑶男子确立社会地位的功能。挂三灯仪式标志着个体从社会意义上的青少年阶段过渡到成年阶段，获得法名、祭

(61) 张劲松, 赵群, 冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社, 2002: 89.

(62) 张劲松, 赵群, 冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社, 2002: 131-133.

祖权、继承香火权和掌握作为宗教职能者的基本能力，是勉瑶个体社会地位提升的重要标志。挂七星灯或挂十二盏大罗灯，是个体在精神信仰层面的更高追求的体现，也是成为更高等级宗教职能者的必经之路。通过挂灯，个体不仅获得了勉瑶社会的认可，还在宗教和社会层面上获得了新的角色和责任。这种仪式的完成，使得个体在社会中的地位得到逐级的提升，同时也为其未来更好的融入勉瑶社会生活奠定了基础。

2. 获得阴兵及支配权的功能

通过挂灯仪式获得阴兵及其支配权是极为重要的。在挂灯仪式中，有拨桥、分兵、吹米的仪式环节。在挂三灯中，受礼者被授予 36 名雄兵和“下坛兵马”。在度戒仪式中，会首们被授予“上坛兵马”和“分兵旗”，获得可以领兵、带兵、引兵的能力。这不仅增强了个体的宗教地位和能力，也为其自身提供了额外的保护和支持。此外，根据本文中广西贺州的案例，家主赵 W 为了度七星二戒，专门请丹青绘制了大堂和行司神像画各一套并在仪式中进行开光，这与其在仪式中获得的兵马是完全对应的。勉瑶在通过了“挂三灯”和“度戒”仪式之后，便可获得对行司和大堂神像画的所有权和使用资格。⁽⁶³⁾ 大堂和行司神像画就是赵 W 获得上坛兵马、下坛兵马及支配权的证明。

3. 增强社会凝聚力的功能

挂灯仪式通过以家庭、家族和集体共同的仪式活动，加强了勉瑶社会成员之间的联系和团结，是一种社会认同与凝聚力的体现。没有社会成员的参与和支持，挂灯仪式将无法顺利进行。在挂灯仪式中，除了宗教职能者、受礼者及其家人外，受礼者的亲属、近邻和村落成员也会前来协助。这些人员的参与不仅为仪式提供了必要的人力支持，也体现了勉瑶社会对自身宗教信仰和文化传统的认同和维护。通过大家的参与，挂灯仪式成为了一种集体的记忆和经验，它不仅强化了族群的身份认同，还在仪式实践中促进了家庭、家族和村落成员之间的相互支持和合作。通过参与不同规模的挂灯仪式，个体与群体之间的联系都得到了加强，从而增强了整个勉瑶社会的凝聚力。

4. 获得精神寄托的功能

勉瑶通过挂灯仪式表达对神灵的诉求。如通过挂三灯，为挂灯者即主家本人承接本家香炉、传宗接代，得到家先神的护佑，以及祈求成为宗教职能者，获得法名，得到阴兵护佑。挂三灯的原因无外乎传宗接代，然而挂七星灯或挂十二盏大罗灯则是寻求宗教信仰和精神层面的更高追求。例如，通过度戒，无论是挂七星灯还是挂十二盏大罗灯，受礼者都能获得老君印、阴兵、官职、差遣众神和神兵神将的能力，同时获得众神的庇佑，得以香门兴旺、子孙满堂、家畜成群、五谷满仓……在这一实践过程中，受礼者不仅满足了自身的诉求，还在精神层面上得到了众神的支持和荫蔽。此外，挂灯仪式中的请圣、请师、确立法名、升职位和法术传授等环节，都是与众神和超自然力量之间的互

(63) 谭静，仪式神像画所有权及使用资格的获得《民族艺术》2019(02), 121-127, 146.

动，体现了勉瑶对祖先与神灵的敬畏和依赖。

5. 文化传承与教育的功能

勉瑶社会通过传统的宗教仪式将民族文化、宗教知识和社会实践传递给年轻一代，挂灯仪式是诸多仪式中尤为重要的一种。通过挂三灯和度戒仪式，勉瑶为本民族培养了一批具有宗教知识和技能的职能者，未来他们将在社会中扮演着重要的宗教和文化角色。在挂三灯和度戒仪式中，师公对受礼者作为未来宗教职能者的教育和培养尤为突出，法术传授是一个核心环节，它不仅涉及到对宗教知识的传授，还包括了指导受礼者如何对超自然力量去掌握和运用。通过法术传授，受礼者获得了与神灵沟通和互动的能力，这在勉瑶社会中将成为一种重要的宗教和文化资本。或许，这些受礼者中将会产生新的宗教仪式的主持者，同时他们也将成为下一个文化传承和教育的重要推动者。师公在挂灯仪式中一边示范一边教授受礼者各种法器的使用方法、仪式动作、传授法术和戒文等行为，都将成为勉瑶文化传承的重要载体。通过挂灯、度戒仪式，一代又一代的勉瑶年轻人将追随着先辈的脚步，学习做人的道理，理解本民族的文化、传统和价值观念，成为文化传承链条中的一环，从而确保勉瑶族群文化的连续和稳定。

（三） 勉瑶挂灯仪式的象征意义

仪式是一个象征体系，“仪式的情境也可以被理解为一种由视觉和听觉两种可感知形式建构起来的一个虚拟世界，而这个虚拟世界又是由一系列象征符号建构起来的。象征符号也是仪式结构的基本元素。”^{〔64〕}我们可以发现，在勉瑶的挂灯仪式中充满了物质的和非物质的元素，并且在“挂灯”这一特定的语境下，这些元素被赋予了特殊的象征意义。

1. 仪式象征空间的建构

挂灯仪式依托于其他仪式而存在，例如在还家愿仪式中，针对祖先许下的愿望进行还愿和对始祖盘王进行还愿是仪式的核心主题，但前提条件要受礼者先挂三灯，即要求受礼者拥有法名，具备祭祀祖先和传承家先香火等资格。因此，作为先决条件，进行挂灯就成为了还家愿仪式必须先达成的目标。挂灯仪式的结构完整且独立，它既存在于其他仪式的阈限中，同时也自成阈限。例如在悬挂神像画的诸仪式中，画像的悬挂对于仪式象征空间的建构和空间边界的明确起到了重要的作用，而需要在神前举行的挂灯仪式必须在由神像画建构起来的象征空间内进行，因此它的象征空间是建构在更大的仪式象征空间之内的。

勉瑶师公利用神像画建构仪式的象征空间。神像画在仪式开始之前布置祭坛之时被悬挂于坛场的正面和两侧墙壁上。在仪式中，诸神被邀请降临坛场，直到送神归去仪式结束的这段期间，神像

〔64〕 薛艺兵. 对仪式现象的人类学解释（下）《广西民族研究》2003(02): 41-42.

画都象征着神灵的在场，并对整个仪式起到护法、监督、许可、作证等作用。这是贯穿于仪式始末的固定的象征符号，勉瑶师公利用神像画从视觉上直观地营造出神圣且庄严的氛围，并且划清了神圣场域和世俗场域的边界，建构起了一个连贯完整的有神灵在场，见证所有仪式行为真实有效的象征空间。当然，在这个象征空间内，挂灯仪式的所有程序同样被诸神见证，受礼者通过仪式获得的法名、法术、兵马、资格、能力、官职等都得到了诸神的许可。

2. 挂灯仪式的空间及象征

在勉瑶的挂灯仪式中，各种元素共同构成了仪式的象征空间，它们通过一定的仪式程序被赋予了丰富的象征意义。仪式中日常所见的事物并非是我们所认知的一般事物，挂灯仪式中的新制仪式神像画、民族服饰、木凳 / 竹凳、白布、铜钱、米、碗、灯等均有其独特的象征意义。

(1) 新制神像画的象征

在挂灯仪式中对新制神像画进行开光，再授予受礼者，象征着受礼者具有了可统领和差遣上坛兵马、下坛兵马的能力。通过挂三灯仪式受礼者被授予下坛兵马，可获得拥有和使用行司神像画的资格。通过度戒仪式，无论是挂七星灯还是挂十二盏大罗灯，受礼者都被授予上坛兵马，可获得拥有和使用大堂神像画的资格。神像画的使用和所有是宗教职能者的能力、等级、地位，以及所拥有的兵马的数量和等级的标志性象征。

(2) 民族服饰的象征

受礼者在仪式中穿戴的全套新制作的民族服饰，代表了勉瑶的民族身份和文化身份。在仪式中衣帽均经过敕变，化为“老师送来衣”和“老师送来帽”。师公的老师即太上老君，可推断衣帽实际上被变化为“老君衣”和“老君帽”，象征者受礼者获得了太上老君的护佑。

(3) 木凳 / 竹凳的象征

通过敕变，木凳 / 竹凳不再是平凡的凳子，而是转变为“老君凳”，同样也象征着受礼者获得了太上老君的护佑。

(4) 白布的象征

通过敕变，白布被变作“金桥”。桥具有联通的功能，连接阴阳两界。阴界的兵马通过桥被授予受礼者。同时“金桥”还能变化成“白鹤”，可以载着受礼者通往天界藏匿起来，以防其在挂灯仪式中受到邪魔的侵害。

(5) 铜钱 / 硬币的象征

铜钱 / 硬币被敕变后，变化为“雄兵”，象征着受礼者获得了更多的兵力和不同兵种。这象征了受礼者通过仪式获得了抵御邪恶、保护自身的能力。

(6) 米的象征

米在不同的仪式中有不同的用途，在挂灯仪式中，通过敕变，米粒被变成了“兵马”。通过把米吹进受礼者口中，或者是利用白布变成的金桥，兵马被传授。用布把米包起来，放在受礼者的家先坛上，象征者授予受礼者的兵马已安驻在家先坛中。

(7) 碗的象征

在“藏身/变身”仪式中，碗象征着莲花。踏碗莲花，象征着受礼者已经飞上了天庭。退下莲花，则象征着受礼者从天庭回到了坛场。脚踏莲花象征了受礼者挂灯时的不在凡间而是存在于神界的状态，

(8) 灯的象征

在挂灯仪式中“灯”是最为显著和核心的。汉语的“灯”与“丁”谐音，在中国的一些地区和民间传统中，挂灯仪式与家庭添丁（即生育男孩）有关，象征着家族的延续和繁衍。这种习俗在汉族文化中体现了对后代的期望和对家族未来的祝愿。而勉瑶的挂灯仪式，虽然其核心意义上也涉及到继承祖先香火和传宗接代的主题，但在具体内容、仪式步骤、社会功能和象征意义上存在明显的差异。挂三灯仪式中的第一盏灯是李十六灯，象征了祖先；第二盏灯是李十二灯，象征了自身或本命灯；第三盏灯是李十一灯，象征了师父。⁽⁶⁵⁾ 度戒中的挂七星灯，象征天上的北斗七星，⁽⁶⁶⁾ 挂十二盏大罗灯同样也是源自于对北斗七星的崇拜。⁽⁶⁷⁾

(9) 其他

挂灯仪式的程序，如开光、敕变、藏身/变身、升灯、解厄、取法名、分兵、退莲花、定阴阳等，都是通过师公的动作引导和辅以咒语来实现的，这些程序象征着物质向神圣事物的转变，以及受礼者身份的转换和相应能力的提升。此外，在对受礼者进行藏匿/变身的时候，师公念诵“藏身咒”，并撩起师公衣的一片衣襟做出将受礼者遮蔽起来的动作。在解厄中，要手捏七星诀、长命诀，分别象征了借北斗七星的神力进行解厄和为受礼者祈求长寿的含义。同时也会做出射箭的动作，象征射杀和解除那些心术不正的师道公给受礼者带来的危害。可见，除了物质的元素之外，非物质的元素，尤其是师公的身体技法、念诵咒文等，也为挂灯仪式增添了动态的象征意义。

四、结语

本研究通过在南岭走廊地区展开的跨省区田野调查与研究分析，对勉瑶挂灯仪式的结构、功能

(65) (日)松本浩一. 挂三灯仪式 [J]. 瑶族文化研究所通讯第一期, 2010: 9.

(66) 张泽洪. 仪式象征与文化涵化——以瑶族度戒的道教色彩为例 [J]. 民族艺术, 2013(2): 84-100.

(67) 徐祖祥. 瑶族挂灯与道教北斗七星信仰 [J]. 云南民族大学学报(哲学社会科学版)第 23 卷, 2006(2): 102-107.

及其象征意义进行了较为全面的探讨。在细致观察与翔实记录的基础上，本研究揭示了挂灯仪式的复杂性，以及其在勉瑶文化传统中所占据的重要地位和产生的深远影响。

首先，通过对挂灯仪式的结构分析，可以发现勉瑶社会巧妙地将宗教信仰、社会规范与文化价值融合于仪式的各个环节之中。这些环节不仅反映了勉瑶人民对于宇宙观与生命观的深邃洞察，也展现了他们对社会秩序和文化遗产的深切重视。此外，挂灯仪式的地域性差异，映射出勉瑶在迁徙到定居的过程中，其传统文化在不同社会环境和历史时期产生了适应和变迁。其次，对挂灯仪式功能的分析揭示了其在勉瑶社会中的多重角色。作为入社礼和确立社会身份的仪式，它标志着个体在社会学意义上从青少年阶段向成年阶段的过渡，赋予了个体新的权利和责任。同时，通过仪式中的法术传授和兵马授予，个体获得了保护自身和社群的能力，这在勉瑶社会中具有重要的宗教和社会实践意义。挂灯仪式还强化了社会凝聚力，通过集体参与和共同体验，加强了社群成员之间的联系和认同感。此外，在帮助勉瑶获得精神寄托和文化遗产教育方面也发挥了重要的作用。再次，对挂灯仪式象征意义的分析揭示了仪式中各种物质与非物质元素——如神像画、服饰、法器等等——所蕴含的丰富象征意义。这些象征不仅体现了勉瑶的宗教信仰，也反映了他们对自然、社会和超自然力量的理解。深入解读这些象征，有助于我们更全面地理解勉瑶文化的内在逻辑与价值体系。

然而，在本研究中，尽管对勉瑶挂灯仪式进行了横向的比较和探讨，但仍存在一些局限性，尤其是在田野调查的广度与深度方面。目前，对于挂三灯的田野调查成果较为丰富，我们对其结构、功能和象征意义有了较为清晰的认识。但对于度戒仪式中的挂七星灯和挂十二盏大罗灯的田野调查则相对较少，导致对这部分内容的把握不够全面和深入。作为勉瑶度戒仪式中更为高级和复杂的仪式，挂七星灯和挂十二盏大罗灯的实践频率相对较低，田野调查的机会较为稀缺，限制了我们对这些仪式细节的观察与记录，影响了对其深层文化意义的理解。挂灯仪式作为勉瑶文化的重要组成部分，其保护与传承对于维护文化多样性具有重要意义。因此，未来对于勉瑶传统仪式的文化解读仍值得我们持续关注与深入研究。

参考文献

- [1] (日) 白鸟芳郎 [编] . 黄来钧 [译] . 东南亚民族志 [M]. 云南省历史研究所东南亚研究室, 1980: 48-50.
- [2] 奉恒高 [编] . 瑶族通史中卷. 民族出版社, 2007: 621.
- [3] (日) 广田律子. 中国民间祭祀艺能的研究 [M]. 风响社, 2011: 317-385.
- [4] (日) 广田律子, 三村宜敬, 佐川润子, 李利, 内藤久义, 谭静, 财津直美, 大木都志男. 神奈川大学历史调查报告第 12 集——中国湖南省永州市蓝山县瑶族仪式文献报告 I [M]. 2011.
- [5] (日) 广田律子. 湖南省蓝山县勉瑶道教仪式调查研究——以表演性项目为中心的考察 [J] 地方道教仪式实地调查比较研究国际学术研讨会论文集, 新文丰出版股份有限公司, 2013: 217-306.

- [6] (日) 广田律子. 从构成要素看瑶族的仪式知识——以湖南省蓝山县过山瑶族度戒仪式和还家愿仪式为例 [J] 国学院中国学会报第 58 卷, 国学院大学中国学会, 2013: 1-25.
- [7] (日) 吉野晃. 〈挂三台灯〉的结构与变化: 泰国、老挝、中国湖南省蓝山县优勉〈挂灯〉的比较研究 [J]. 瑶族文化研究所通讯第三期, 2011: 35-40.
- [8] 李祥红, 郑艳琼. 湖南瑶族奏钹田野调查 [M]. 岳麓书社, 2010.
- [9] (日) 松本浩一. 挂三灯仪式 [J]. 瑶族文化研究所通讯第一期, 2010: 6-16.
- [10] 徐祖祥. 瑶族挂灯与道教北斗七星信仰 [J]. 云南民族大学学报 (哲学社会科学版) 第 23 卷, 2006(2): 102-107.
- [11] 薛艺兵. 对仪式现象的人类学解释 (下) 《广西民族研究》2003(02): 41-42.
- [12] 谭静, 仪式神像画所有权及使用资格的获得 《民族艺术》2019(02), 121-127, 146.
- [13] 张劲松, 赵群, 冯荣军. 蓝山县瑶族传统文化田野调查 [M]. 岳麓书社, 2002: 131-133.
- [14] 张泽洪. 仪式象征与文化涵化——以瑶族度戒的道教色彩为例 [J]. 民族艺术, 2013(2): 84-100.
- [15] (日) 竹村卓二 [著], 金少萍、朱桂昌 [译]. 瑶族的历史和文化 [M]. 民族出版社, 2003.

过山瑶招郎入赘婚祭祖仪式的宗教人类学阐释

南宁师范大学学报编辑部 编辑, 副研究员
玉璐

摘要

祭祖仪式是祖先崇拜最基本的表现形式,也是民间宗教研究的重要内容。长期以来,招郎入赘作为一种婚姻习俗一直存在于国内外过山瑶社会中,而祭祖仪式则是招郎入赘婚俗的重要内容之一。过山瑶的招郎入赘主要有“卖断”、“卖一半”、“顶两头”等。但不论以何种方式,入赘男子均要通过举行祭祖仪式,请师公用汉语西南官话夹杂瑶语将其身份从原家庭中迁出,经过短期的游离后再归依到新婚家庭中,获取新的身份。这种祭祖仪式,将阴间与阳间紧密相连,承载着过山瑶男子身份的转换,展现了“分隔—边缘—聚合”的过渡礼仪三阶段。人们借助过渡礼仪,实现了从一个阶段向另一个阶段的平稳过渡。过山瑶招郎入赘的祭祖仪式虽然均以“聚合”为目标,但因招郎入赘的方式不同,最终的身份归依也有所区别。过山瑶入赘婚的祭祖仪式,把个人、家庭融入社会结构,人们在仪式中以瑶语夹杂汉语西南官话为媒介进行互动,增强了家族内部的团结与外部的认同,强化了家族内部的凝聚力与社会稳定性,有助于维护社会稳定与社会发展,也体现了各民族文化交往交流交融。

关键词: 过山瑶, 招郎入赘, 祭祖仪式, 过渡礼仪

Interpretation of Religious Anthropology to uxrilocal marriage of Guo shan Yao ancestor worship ceremony

YuLu

Abstract

Ancestor worship ceremony is the most basic manifestation of ancestor worship, and it is also an important part of folk religion research. As a kind of marriage custom, uxrilocal marriage has always existed in Guoshan Yao society at home and abroad, the ancestor worship ceremony is one of the important contents of the marriage custom. uxrilocal marriage exists in Yao society in the following ways: Living in the woman's home all he's life, live in the woman's house for a certain

基金项目: 国家社科基金冷门绝学研究专项“域外瑶族《祖图》的搜集、校注与研究”(项目编号: 21VJXG031)。

period of time, live on both sides. But no matter in what way, the men must hold the ancestor worship ceremony, by Shi Gong's Chinese Southwest Mandarin mixed with Yao language, remove the identity from his original family, after a short dissociated, his identity returned to the newlywed family and gained a new identity. This kind of ancestor worship ceremony closely connects the Yin and Yang, carries the transformation of the identity of the men of the Guoshan Yao, and shows the three stages of the transition etiquette of 'separation-edge-aggregation'. Although the ancestor worship ceremony of Guoshan Yao's uxori-local marriage is aimed at 'aggregation', the final identity of the men who enter the uxori-local marriage is also different due to the different ways of entering the uxori-local marriage. This ancestor worship ceremony integrates individuals and families into the social structure. In the ceremony, Chinese, Southwest Mandarin and Yao language are used as media to interact, which enhances the unity within the family and external recognition, strengthens the cohesion and social stability within the family, helps to maintain social stability and social development, and also reflects the cultural exchanges and integration of all ethnic groups.

Key words: Guo shan Yao; Uxorilocal marriage; Ancestor worship ceremony; Rites of passage.

Author: Yu Lu, Associate Researcher, Phd, Nanning normal university Editorial Department of the journal.

一、问题的提出

祭祖是中华传统文化中一项重要的民俗活动,承载着对先祖敬仰之情和对家族传统的传承,并沿袭至今。人们通过祭祖仪式,表达对祖先的思念,祈求祖先庇佑,并通过祭祖仪式凝心聚力、维系家族团结与社会稳定。招郎入赘作为一种婚姻习俗一直存在于过山瑶社会中,主要有“卖断”“卖一半”“顶两头”等婚姻形态。无论是哪种形态,入赘男子均要通过举行祭祖仪式,请师公将其身份从原家庭中“迁出”,经过短期的游离后再归依到新家庭,获取新的身份。这种祭祖仪式,将阴间与阳间紧密相连,承载着过山瑶男子身份的转换,是招郎入赘婚俗必不可少的传统文化与习俗内容。

仪式既可以教化于民,也可以传承于后^[1]。研究仪式的领域主要分为两个突出的方向。一个是专注于对古代神话和仪式的阐释,另一个是探讨仪式作为社会行为的层面,分析其对社会结构中的功能及其对社会凝聚力的影响。国外的仪式研究主要由阿诺尔德·范热内普拉开序幕,他在仪式研究中提出“过渡礼仪”的概念,提出了仪式的“过程性”或“历时性”特质,将过渡礼仪按阶段分为分隔礼仪、边缘礼仪和聚合礼仪,按状态分为阈限前、阈限与阈限后^[2]。维克多·特纳在此基础上延伸出仪式过程理论,并着重解释了阈限阶段^[3]。涂尔干则侧重宗教仪式对于集体产生凝聚的影响^[4]。之后,这些理论被广泛应用于宗教仪式、丧葬仪式、人生礼仪的仪式研究中。中国学术界

关于祭祖仪式的研究，多以祖先崇拜为切入点，通过地方个案，以丧葬、节庆等视角聚焦各民族祭祖仪式的象征意义与表达功能^{[5] [6] [7] [8]}；或通过关注各民族某一信仰及其仪式行为、象征符号与政治和权力的关系，研究仪式在社会结构中的作用^{[9] [10] [11] [12]}。近年来，透过祭祖仪式探讨家族社会的共同体意识、民族认同和国家认同是较为新颖的研究视角^{[13] [14] [15] [16]}。但在众多研究成果中，围绕各民族婚俗中的祭祖仪式探讨祖先崇拜变迁^[17]、文化象征的学术成果^[18]较少，专注瑶族婚俗中的祭祖仪式也多从身份的转化和社会文化象征进行探讨^{[19] [20]}。可见，研究者通常将空间与文化群体的日常生活紧密融合，以此探讨空间的文化价值。在仪式研究领域，学者们的研究焦点从传统的神话分析、结构功能主义及宗教现象学，逐步转向以空间实践和象征性文化为出发点的仪式空间探索。其中，过渡礼仪常常被用于空间和身份中进行探讨^{[21] [22]}，尤其较多集中于人生礼仪^[23]、丧葬^{[24] [25]}或度戒仪式^{[26] [27]}进行实证性研究。

总之，学术界关于婚俗中的祭祖仪式多散见于各种婚姻家庭研究之中，鲜有从宗教人类学视角对国内外过山瑶招郎入赘婚祭祖仪式进行研究的成果。

过山瑶是瑶族中说勉语的苗瑶语族瑶语支的瑶族，其自称主要有勉(或育勉)、董本优、土优、谷岗优、祝敦优勉、坳标、标曼(或敏优)、史门、标敏、交公勉、金门、甘迪门、藻敏，语言为汉藏语系苗瑶语族瑶语支。其人口约占全世界瑶族人口的三分之二强，主要分布在中国的广西、广东、湖南、云南、贵州和越南、泰国、老挝、美国、法国。国内过山瑶因其历史上长期过着刀耕火种的游耕生活，“择土而耕，迁徙无定。”“伐木耕山，土薄则去，故又名过山瑶。”^[28]国外过山瑶则自称瑶族。受汉族道教的影响，过去这部分瑶族男子16岁之后都会请师公用汉语西南官话夹杂瑶语举行度戒仪式，并取得宗教法名；死后家人将其宗教法名用汉字和瑶族俗字录入《家先单》与《祖图》中，供后人祭祀。历史上，一些民族的招赘婚不承认赘婿在家族继嗣上的合法性，赘婿的身份难以获得认同，导致虽然赘婿成为家族血缘嗣系中的一员，但死后难以获得牌位并受到后人的供奉。但在过山瑶社会中，招郎入赘的男子，通过祭祖仪式得到女方家先的认可，完成身份的转变，死后将其宗教法名列入女方家的《家先单》，便可获得子孙的供奉资格。过山瑶招郎入赘婚的祭祖仪式不仅是男女双方确定夫妻关系的仪式符号，还是入赘男子进行身份过渡并获得宗族、社会认可的重要环节，蕴藏了过山瑶的婚姻观、灵魂观、宗教信仰等传统文化内涵。同时，过山瑶通过用学习汉语、汉字，用汉字与学习汉字创造的瑶族俗字抄写《家先单》，用汉语西南官话夹杂瑶语请神和喃念《家先单》的祖先宗教法名的祭祖文化事像，反映了过山瑶与汉族及其他民族文化交往交流交融的过程。借助过渡礼仪的理论框架，从宗教人类学的视角，研究过山瑶不同形态的招郎入赘婚风俗与民间信仰的文化内涵，探讨祭祖仪式中所反映的过山瑶与汉族及其域外民族文化的交往交流交融，可为构建更为紧密的人类命运共同体提供更加有力的人文支持。

二、过山瑶招郎入赘婚的祭祖仪式

婚礼是个体在社会地位上实现重要转变的仪式，传统的中国婚礼一般分为婚前礼、正婚礼和婚后礼。中国传统结婚习俗，婚前礼和正婚礼是主要程序。在婚礼中，新婚夫妻其中一方要转换家庭、家族甚至村落。长期以来，过山瑶为解决家庭延续与家族继嗣问题，受家先观念和家庭经济的制约，一直盛行招郎入赘婚。随着时间的推移，招郎入赘婚的方式也有了明显的变化，逐渐由单系继嗣制为主的招郎入赘婚向双系继嗣制为主的顶两头招郎入赘婚转变。但不论是何种招郎入赘的婚姻形态，入赘男子都须通过婚前礼和正婚礼的“问祖”、“迁出”、“归依”等祭祖仪式，完成物理空间、精神空间的过渡与转换。20世纪50年代后，随着各民族不断地交往交流交融，瑶族与其他民族的通婚不断增多，过山瑶招郎入赘婚的祭祖仪式逐渐从复杂化与神秘化向简单化与民俗化过渡，“问祖”、“迁出”、“归依”等祭祖仪式的基本程序与内容也逐渐简单化和民俗化。

（一）问祖

自古以来，婚姻不仅仅是两个人的结合，更是两个家庭的联结，甚至涉及到政治、经济和社会地位的考量。因此，父母的意见和决策对子女婚姻有重大影响。长期以来，受到地理环境、生计模式等影响，过山瑶的“家”更强调“个体家庭”的价值和独立自主，以夫妻为主线，侧重于“家”的纵向延续模式。在过山瑶看来，与谁结婚，并获得父母和家先的首肯和支持，被视为婚姻幸福美满的开端。

历史上，过山瑶一直流行男娶女嫁与招郎入赘两种不同的婚姻方式。男娶女嫁一般是有儿有女的家庭。而那些有女无儿的家庭，因无子继承宗祠；或弟妹年纪小，父母年纪大，缺乏劳动力；则招郎上门为婿，上门男子婚后须改从妻姓，从妻居，祭祀妻子家的家先^{（1）}，子女随妻子姓，死后由妻方家人举行葬礼。学术界将这种男子到女方家上门为婿，男子婚后改随妻姓，婚后在妻子家居住生活，所生子女随妻姓，延续女方家族宗嗣，祭祀女方家祖先的婚姻称之为“入赘婚”，南岭走廊一带的汉族将其称为“上门”，瑶族民间将其称之为“招郎入赘”或“招郎”。

长期以来，国内外的过山瑶一直有“长女守家”和“无子招郎”的习俗，凡有女无子的家庭，基本上都是招郎入赘。

历史上，过山瑶的招郎入赘婚主要有“卖断”、“卖一半”。不论是“卖断”、“卖一半”，都须待父母同意后，把男女双方的生辰八字写在一张纸上，俗称“开八字”，互相交换给对方带回家。然后

（1）家先：瑶族民间习俗，将逝世的历代祖先称为“家先”，国内外说汉藏语系苗瑶语族瑶语支的瑶族大多数家庭过去都有《家先单》，用以记载历代祖先的法名。（建议放到第一次出现的地方）

在家中神龕前摆祭品，烧香焚纸钱，祭拜祖先，告诉祖先家中子（女）已经有了合意的对象，再把对方的“八字”纸放在神龕下，用东西压着，俗称“问祖”，意为征求祖先的意见。按习俗，男女双方一般会将对方的“八字”纸压满一个月。在这一个月內，“八字”成为沟通阴阳两界的介质，男女双方的家人每天在神龕前烧香、焚纸钱，并观看“八字”有何变化。如果“八字”纸质有破损，或家中发生意外（如生病、吵架），意为祖先认为双方的“八字”不合，这门亲事则得不到祖先与家人的认可；如果家中相安无事，“八字”纸未破损，则表示祖先同意这门亲事，男女双方就可约定日子“过礼”和“下定”。

一般来说，“过礼”和“下定”是招郎入赘婚的婚前重要环节。“过礼”由招郎入赘婚的女方家庭派家族中德高望重的长辈、亲友到男方家里送礼。过去条件好的家庭，一般根据自家经济情况，用红线捆一点钱，再用一些稻草或茅草包好鸡蛋，鸡蛋为双数，寓意成双成对；或是一些酒、一两只鸡，去男方家。如果经过接触，男方家觉得不合适，不同意这门亲事，可以将“过礼”的物品退还；如男方家同意这门亲事，便可与来“过礼”的女方家亲属商量一个时间“下定”。“下定”就意味着这门婚事板上钉钉了。在“下定”当天，经济情况好的女方家庭，带几尺布、一些酒、一些礼金去男方家；经济条件一般或是困难的家庭，就带一些鸡蛋和自己做的糍粑。“下定”之后，男女双方家的亲戚便可互相走动、拜访，并将男女双方的“八字”交由师公择定结婚的良辰吉日。

（二）迁出

举行婚礼仪式，象征着双方婚姻关系的缔结，还表明两个家庭姻亲关系的建立。在过山瑶婚礼过程中，入赘男子在前往新家庭前，除了向家中长辈、亲友辞行外，还要请师公在家中神龕前举行祭祖仪式与原有家庭分离，泰国瑶族将之称为“拆丁”。即请师公在男方家神龕前烧香祭祖，并用汉语西南官话夹杂瑶话禀告男方家祖先，某人要到别人家上门，请祖先同意将其身份从家屋中迁出。“迁出”是入赘男子进行精神空间过渡的重要环节。通过祭祖仪式，弱化原有的家族关系，并重新构建和强化新的家庭家族关系。

在 20 世纪 50 年代前，“卖断”与“卖一半”是过山瑶单系继嗣制招郎入赘婚的婚姻形态。“卖断”亦称“上门改姓”或“上门过房”，是指男子入赘后要用女方家姓氏及字辈改名换姓，在女方家居住生活，所生子女亦随妻子姓。“卖一半”，即夫妻婚后可以在女方家居住生活，也可以返回男方家庭居住生活；夫妻婚后所生子女，第一个随妻子姓，第二个随父姓。为了保证家族的延续或上门男子应尽的义务等，单系继嗣制的招郎入赘婚在结婚时要立契约，写清楚赘婿要赡养女方父母、夫妻恩爱勤俭持家、以及男方是否从妻姓和所生子女的姓氏等问题。并在婚前邀请双方长老、亲友商定协议，签订入赘契约，议定婚后必须互相恩爱、协力生产、尊老爱幼、继承财产等有关事项；但也有的入赘

契约是口头承诺即可。在婚礼前几天，男方家须请家中长辈、亲友来家吃饭，意为向家中长辈、亲友辞行。婚礼当天，女方家会派 1-2 人到男方家接亲，男方家一般只有 1-3 个较为亲近的亲人一同前往。出门前，男方家须在神龛前摆上供品、酒及入赘契约，请师公上香祭拜祖先，请祖先查阅契约，用汉语西南官话夹杂瑶话告知祖先家中某位男子将要上门改姓，须将其身份从本家族迁出，前往某户人家为婿，今后不再获得本家家先的庇佑。若是“卖一半”的入赘婚，还须告知上门入赘男子身份“归依”家族的时间。“迁出”仪式完成后，上门男子踏出家门的那一刻，即表示该男子身份及灵魂已从原生家族迁出，不再受本家家先的庇佑。

20 世纪 50 年代后，随着男女地位逐渐平等，过山瑶招郎入赘婚中的“卖一半”逐渐被“顶两头”取代。“顶两头”是过山瑶两可继嗣制婚姻形态，过山瑶民间认为这是一种有别于“卖一半”的婚姻。最初的“顶两头”在男女双方家庭都举办婚礼，夫妻婚后在外面独自居住生活；或从妻居住，但男子不改姓氏，女方家的神龛同时供奉男、女两家祖先的灵位。婚后所生的子女由夫妻“平分”，一般是第一个孩子随母姓，第二个孩子随父姓，依此类推。男子结婚时须请家中长辈、亲友吃饭，表示辞行，并在神龛前举行“迁出”仪式，摆鸡、猪肉、酒等贡品，上香祭拜祖先；请师公用汉语西南官话夹杂瑶话告知祖先神灵，家中某人将与某人结婚，请家中一位祖先神灵随男子一同前往。到女方家后，亦请师公祭告女方家祖先神灵，上门男子带有一位祖先神灵一同上门，请让其与女方家祖先共同享受女方家人的供奉。男子上门期满回自家定居时，再举行仪式，摆供品，烧香焚纸钱，请随上门的自家祖先神灵随自己回家。

随着社会不断进步，人们的婚姻观也在不断发生变化。21 世纪以来，过山瑶的“顶两头婚”发生了较大的变化。夫妻婚后不再同双方父母居住，而是在外自立门户，独自居住、生活，平时谁家父母有事就回去帮助，逢年过节轮流回双方父母家看望老人，婚后所生子女分别随夫妻二人姓，形成一种“不嫁不娶”的婚姻形态。因为不论是男方还是女方，在结婚前都不愿意接受彩礼，认为接受彩礼就是同意嫁或娶，无论是嫁或娶，都会导致男女双方家庭利益难以平衡。现代的顶两头婚虽然在继嗣方式和赡养父母、财产继承等问题上与过去的顶两头婚没有什么区别，但在结婚的祭祖仪式上，不仅是男方家请师公祭祖，举行“迁出”仪式；女方家也要请师公祭祖，举行“迁出”仪式，并请师公在新的住所举行祭祖仪式，重新打造带有男女双方祖先姓氏的神龛，供奉双方的历代祖先神灵。

（三）归依

在过山瑶的婚礼中，入赘男子到女方家后，需要经过一系列的程序方可“礼成”。但对入赘男子自身而言，“过门”之后的祭祖仪式才是入赘男子结束身份游离，获得新家庭的家先认同，实现身份“归依”，完成精神空间转换的重要过程。

20世纪50年代前,受有神论的影响,过山瑶民间习俗认为,“卖断”“卖一半”的过山瑶招郎入赘婚在进行时,由于入赘男子的身份从原家庭迁出后,其灵魂一直处于游离的状态,没有得到家先以及神灵的庇佑,极不安全。入赘男子身体从本家到女方家发生物理空间位移时,在送亲路上长途跋涉,身体在野外难免遭受各种阴魂野鬼的纠缠,为避免各种鬼魂随其进入女方家,须举行“过门”仪式,将尾随而来的孤魂野鬼清除。在入赘男子进院子前,女方亲友须杀一只公鸡,将鸡血淋在房屋四周的墙角,以及大门的门槛边后,入赘男子方可进门。过山瑶民间习俗,认为撒鸡血可以“驱邪”。同时,还在放一盆火,燃放鞭炮,入赘男子须在鞭炮声中跨过火盆进大门。燃烧的火苗既有着“净化”的功能,又寓意婚后的生活红红火火。身份归依是入赘男子在婚礼上最看重的一件事。为了尽快缩短身份游离的时间,重新获得神灵及家先的庇佑,“过门”后,立即举行祭祖仪式。神龛前摆放好鸡鸭、米饭、苹果、喜糖、茶水、酒等祭品,供奉家先,新娘及家中德高望重的长辈均聚齐神龛前。新郎进门后,在神龛前与新娘汇合,叩拜新娘家的家先。然后开始祭祖。先由新娘家的长辈上香祭祀,并将新郎则签订好的契约放在神龛上,请师公用汉语西南官话夹杂瑶话逐一将《家先单》上的家先请到,禀告家先今天家中有喜事,希望家先们能庇佑这个新组建的家庭,保佑他们延续香火、和睦幸福,并向家先祭酒。之后,新郎、新娘向家先上香祭拜,由师公告知新娘家的家先,今天成婚的人是谁,结婚形式是“卖断”还是“卖一半”,并为入赘者按女方家字辈改名换姓,请家先同意接纳新郎的新身份。告知家先新郎签订的契约内容。如契约没有纸质签订,则需要把口头契约的内容复述一遍,请家先们作证并接纳、保佑入赘新人,使其实现上门身份的“归依”,获得女方家先的庇佑。最后,新人双方一起在神龛前焚烧纸钱,祭祖仪式礼毕。

20世纪50年代后,两可继嗣制的顶两头婚在婚礼进行的祭祖仪式延续了单系继嗣制招郎入赘婚的程序。由于顶两头婚不用入赘改姓,故在祭祖仪式时,不必呈上契约,上香祭拜新娘祖先时,师公只需要告知女方家先新郎的姓名、法名及从哪里来,请女方家先单接纳、保佑新婚夫妇。21世纪以来,婚礼上的祭祖仪式趋于简化。婚礼的酒席一般是男方与女方家各办一场。在哪一方家办酒,新人进门后就在堂屋的神龛前祭拜那一方的家先。由新人的家长向家先上香祭拜,告知家先今天和谁结婚,请祖先庇佑新组建的家庭美满顺利。

一般来说,祭祖仪式完成后,一对新人就形成新的聚合,对新家庭形成认同感。新婚夫妇的身份通过祭祖仪式获得双方家族及家先的认可与庇佑,双方一起拥有共同认同的祖先,强化了宗族的凝聚力。特别是20世纪50年代后,随着民族关系的融洽,瑶族与汉、壮、苗、侗等民族的通婚家庭越来越多,据2020年全国人口普查数据统计,瑶族与其他民族通婚率达到36.08%,其中瑶族与汉族通婚占23.38%,与壮族通婚占11.21%,与苗族通婚占0.58%,与侗族通婚占0.32%,与仫佬族通婚占0.15%,与毛南族通婚占0.09%,与京族通婚占0.06%,与回族通婚占0.05%,与彝族通婚占0.02%,与

水族通婚占 0.02%，与其他民族通婚占 0.19%。^[29] 顶两头逐渐成为招郎入赘婚的主流，婚后子女分别随父母姓，各民族的交往交流交融越来越深入，夫妻双方互学、互鉴对方的优秀传统文化，进一步铸牢了中华民族共同体意识。

三、过山瑶招郎入赘婚祭祖仪式的宗教人类学阐释

仪式作为一种历史记忆对一个特定的民族、国家、社会和传统的价值是不言而喻的。^[30] 在过山瑶的传统信仰中，人们认为以人为主的世俗人界和以祖先、鬼神为主的神灵世界是同时存在的。所以，在过山瑶的传统婚礼仪式中，祭祖仪式是一种兼具世俗与宗教特质的仪式活动。正如范热内普所说：“婚礼成为从一社会地位到另一社会地位的最重要过渡，因为至少婚姻一方需转换家庭、家族、村落或部落，有时新婚双方还需要建立新居处。居处变化以分隔礼仪的仪式活动为标示，总是集中表现在地域之过渡。”^[2187] 结婚是过山瑶成年人最重要的过渡性仪式之一，人们通过这一特定的仪式来认可个体身份。随着“问祖—迁出—归依”婚礼礼仪的依次举行，入赘男子通过分隔礼仪、边缘礼仪、聚合礼仪在女方家屋空间内的一系列的物理空间、社会空间、精神空间的过渡与位置不断转换，呈现“神圣—世俗—神圣”的循环特征。借助这些过渡礼仪，入赘男子实现了从一个阶段向另一个阶段的平稳过渡，最终获得生命的完整意义。

（一）分隔礼仪

过山瑶民间习俗认为，每个人都有灵魂，人死灵魂不灭，灵魂离开人体后变成鬼，俗称“面”或“曼”。人的灵魂不仅是能够独立的，而且灵魂是不会消亡的。人死亡只是肉体的终结，而灵魂则转入另一个世界中去，转化为神或鬼，重新生活。在过山瑶看来，人有 3 个灵魂，人死后，其灵魂变为鬼魂，一个鬼魂在墓地，一个回到祖先居住的地方，一个在家中的神龛上。^[31] 所以，在过山瑶地区，每个家庭的堂屋都有一个神龛，神龛中的香炉是这个家庭祭祀死去的祖先灵魂居住的地方之一。过山瑶几乎每个家庭都设有供奉家先的神龛，是本家“家先”灵魂接受后人祭祀的地方。所谓“家先”，是指那些生前做过度戒仪式，把宗教法名记在自家的《家先单》上，并得到后世子孙供奉的家族男性祖先，并不是本家族所有已去世的祖先。过山瑶社会观念是以男性家庭为中心的建构逻辑，展现出以夫妻为主体的家的延续谱系结构，直到现在每个家庭都有一本《家先单》，《家先单》只能记载有父系血缘关系为继嗣的所有祖先的姓宗教法名，这些人生前必须举行过度戒仪式，取得宗教法名，并有子嗣。生前未举行过度戒仪式，婚后无子嗣的人，死后不能成为家先，其姓名不能列入家中的《家先单》。过山瑶普遍认为，瑶人如果死后进不了家中的神龛，不能到阴间去与祖先团聚，这个人不能算是瑶族。这个只融入“活着的父系亲属”而未融入“已经去世的”亲属的人，不能算是

本家族的人，因为他最终没有获得“家族认同与文化认同”。在这里，灵魂归宿与文化认同成为“家族认同与文化认同”的重要标志。只有在死后成为“家先”，才能算是过山瑶。所以，能否记入《家先单》，是过山瑶男子非常在意的事情。

在过山瑶招郎入赘婚祭祖仪式中，“问祖”是婚礼能否成功的重要环节，也是入赘男子身份能否转变的先行条件。神圣领域与世俗世界的沟通常常通过祭拜活动和献祭品来达成，借助仪式和祭品，让人们得以达到与神灵和家先对话的目的。祭品是宗教仪式中用于敬奉、祭祀神灵、祖先或其他神圣对象的供品，具体取决于特定文化和宗教的传统。过山瑶民间习俗认为，在招郎入赘婚礼不同阶段的祭祖仪式中，写有个人出生年、月、日、时辰的“八字”纸虽然不是祭品，但它承载着一个人的吉凶祸福、贵贱夭寿，是古代判断婚姻凶吉的重要依据，两位新人能否顺利喜结连理，要通过其“八字”来预测推算。同时，这也意味着家先是否同意入赘男子即将迁出《家先单》。当在祭祖仪式中把“八字”纸压在神龛上后，“八字”纸就被赋予超自然的力量，成为了人与神灵、家先沟通的介质，承载着“问祖”的重要使命。而判断家先们是否同意这门婚事，则是依据一定时间内家中是否一切顺利、有没有发生任何不幸的事件。入赘男子通过师公“问祖”，来获取家先对于婚姻的肯定以及“迁出”身份的资格。过山瑶入赘男子从“问祖”直至“下定”期间，虽然身份还未从家庭中迁出，但该入赘男子却已经结束单身，并基于对女方的尊重与相互负责，已处于身份准备过渡阶段。

（二）边缘礼仪

过山瑶男子的宗教法名一生中只能记在一本《家先单》。在过山瑶传统社会中，不经过度戒仪式，没有取得宗教法名的男子姓名是不能载入《家先单》的，死后灵魂也不能到“扬州”去与历代祖先团聚，只能当孤魂野鬼。在招郎入赘婚中，男子入赘前，家人须请师公向男方家的家先举行“迁出”仪式，请求将入赘男子身份及灵魂从男方家迁出。所以，入赘前的祭祖仪式可以看作是边缘礼仪，通过这样边缘礼仪，入赘男子的身份与灵魂进入阈限阶段。人类学者认为，阈限阶段带有一种不确定性。在这个阶段，参与仪式的个体既没有明确的社会角色，也没有特定的社会地位，在仪式过程中，处于两种结构、或两种稳定状态之间的时空阶段。“迁出”仪式通过祭品、喃念等形式，连通世俗世界与神圣世界，让入赘男子的灵魂向神圣世界里的家先们辞行，在“迁出”祭祖仪式完成后，入赘男子的身份与灵魂就进入一个游离的阶段。受生计模式和居住环境的影响，入赘男子上门的路程一般都较远，近的要走半天以上，远的1-2天。过山瑶民间习俗认为：在这个阶段中，由于入赘男子的灵魂脱离了本家《家先单》中历代祖先神灵的保佑，其灵魂在神圣世界处于边缘地段，无法得到本家家先和新家家先的护佑。而自然界是一个有生命的世界，无论是山、水、树、草，还是猪、马、牛、羊等，都像人一样有灵魂，并将其人格化，作为超自然力与神灵崇拜。所以，人们认为入赘男子出门在

野外长途跋涉，一路上最大的威胁或许来自自然界的各种邪灵或鬼怪，这个状态非常危险，若是被它们缠身，会招致不利。所以，在入赘男子到女方家门口时，不能马上进门。他们认为，“门”在这个仪式中扮演着划分空间的角色，它将入赘男子与原家族剥离出来。入赘男子一旦出了自己的家门，便进入了一个处于一种边缘的、不确定的状态，他的身份变得不确定，即既不属于自己原来的家族，也尚未成为新娘家的一员。只有通过举行仪式，跨过新娘家的门，得到新家家先的保护，他才进入一个较为安全的范围。宗教人类学将这种涉及个人和群体之地位改变有关的仪式称为“通过仪式”。而“围绕出生、成年、结婚与死亡的仪式，是这些生命危机仪式中的典型例证。”^[32]所以，女方家会在入赘男子入门前，通过在门前“撒鸡血”、跨火盆等方式进行驱邪仪式和洁净仪式，以达到驱除“污秽”、免受“鬼神”侵扰的目的。在过山瑶看来，公鸡属阳，其血与火功能相似，都具有安魂驱邪和阻挡邪神进入房屋的功能。只有做完这些“通过仪式”后，入赘男子才能进入女方家，融入新家庭。在这个过程中，门不仅是一种物理空间的分隔，而且是一种象征性的界限，它将家庭内部与外部世界区分开来。入赘男子一旦跨过新娘家的门槛，就意味着他进入了一个全新的生活空间。

（三）聚合礼仪

婚礼不仅是婚姻成立的标志，同时也是家庭和谁对婚姻认可的方式，是不同家庭和民族交往交融的时刻。完成“入门”仪式后，过山瑶入赘男子需要通过祭拜新娘的家先来正式确认身份，获得女方家庭的家先认同，方能实现身份归依，完成精神空间转换，融入女方家庭，实现聚合礼仪。过山瑶的聚合礼仪具有交融性，由家族成员共同举行祭祖仪式，师公烧香喃神，请女方家先“到场”见证，为“卖断”与“卖一半”入赘男子改名换姓，并写入入女方家的《家先单》中。供桌上的入赘男子婚前签订的契约，仪式中和酒水、食品及焚烧的香烛、纸钱等则成为从世俗社会迈入神圣领域的重要介质，被赋予神圣的力量和灵性；借助师公的语言、行为等方式将入赘男子的身份从世俗世界转换到神圣世界，实现人神沟通，祈求神灵庇佑人财两旺、家庭平安。聚合仪式给予入赘男子身份的转换，使其完成了身份的合理化，心理上得到满足。顶两头婚的聚合礼仪又不同，先由师公将上门瑶族男子三代家先的宗教法名抄录在女方家的《家先单》中，供在女方家神龛上。师公烧香喃神后，新婚夫妇跪拜《家先单》中的双方祖先神灵，婚后所生子女分别随夫妻二人姓。这种结婚礼仪既是女方家接纳新郎的过程，也是新郎与新娘家神灵“聚合”的过程，使得婚礼具有社会性和神圣性的特质。如新郎不是瑶族，则在师公烧香喃神后，新婚夫妇在女方家神龛前跪拜女方家祖先神灵即可。婚后所生子女分别随夫妻二人姓，夫妻如不是同一民族，婚后所生子女的民族成份则分别随父母。

结语

过山瑶招郎入赘婚礼中的祭祖仪式展示了民间信仰文化的丰富内涵，通过举行象征性的过渡仪式，为个人赋予新的身份。这些仪式标志着个人生活状态的转变，引导其步入全新的生命阶段。它不仅仅是宗教活动的一种表现形式，更是过山瑶社会文化的重要组成部分，承载着深厚的传统文化内涵与社会功能。

从宗教学的角度来看，过山瑶的祭祖仪式体现了对祖先的敬仰和对家族的尊重，是一种深植于中国传统文化中的信仰表达。祭祖仪式通过象征性行为与祖先建立联系，这种联系在文化和宗教层面上具有重要意义。在招郎入赘婚礼不同阶段的祭祖仪式中，入赘男子通过师公“问祖”获得家先对于婚姻缔结的认可和从原生家庭迁出身份的资格，使其处于阈限前阶段。在婚礼当天通过师公举行仪式，将其灵魂“迁出”家族，并以门为界，使其身份进入一个游离的状态，直至顺利“入门”，再通过祭祖仪式重新“归依”，获得新家族家先及神灵的庇佑，虽然同样是祭祖仪式，但在这些阶段中入赘男子实现了身份从“分隔”到“边缘”再到“聚合”的转变。

语言文字是沟通人与人之间的重要媒介，也是民族交往交流交融的基础。在过山瑶祭祖仪式中，参加婚礼仪式的过山瑶及亲朋好友除了使用瑶语作为表达情感、交往交流的工具外，还使用汉语西南官话、汉字及借鉴汉字形成的瑶族俗字作为表达情感、交往交流的工具。所有的瑶族《家先单》、亲戚朋友送的礼单、贺仪等都用汉字与瑶族俗字抄写，家中神龛西周的对联亦用汉字抄写；请师公举行的祭祖仪式均用瑶话夹杂汉语西南官话喃念经书和《家先单》，请家先到场，这种语言互动、文字互鉴、文化交流的民族团结、和谐的情景，充分反映了瑶族对中华民族文化的认同意识与认同过程。

铸牢中华民族共同体意识，最基础的是培育个人对家庭和家族的忠孝伦理价值观，而敬拜祖先是其培育的重要策略和手段。^[13] 过山瑶招郎入赘婚的祭祖仪式把一个家庭的成员聚合在一起，通过仪式连接神圣和世俗两个世界，实现个人及家庭与家先在精神上的沟通，加强了个人与家族之间的联系。对于过山瑶新婚男子而言，通过参与祭祖仪式，一方面获得了家族的接纳，实现了个体与家族的连接；另一方面获得了家先的接纳，实现了个体生命与神圣世界的沟通。婚礼中的祭祖仪式在不同阶段对入赘男子进行身份的区分与认同，不仅是个体身份转换与精神归依的过程，同时也是文化认同与社会和谐的体现。人们通过祭祖活动借助祖先的权威，在把个人、家庭融入社会结构的同时，使招郎入赘男子与新娘家庭建立起深厚的情感联系，增强了家族内部的团结与外部的认同，强化了家族内部的凝聚力与社会稳定性，有助于维护社会的稳定与发展。

参考文献

- [1] 彭兆荣. 论仪式在非物质文化遗产传承中的“固体—活态”结构[J]. 中国非物质文化遗产, 2023(1): 57-63.
- [2] 阿诺尔德·范热内普. 过渡礼仪[M]. 张举文, 译. 上海: 商务印书馆, 2010: 1.
- [3] 维克多·特纳. 仪式过程: 结构与反结构[M]. 黄创波等译. 北京: 中国人民大学出版社, 2006: 113.
- [4] 涂尔干. 亲教生活的基本形式[M]. 渠东、汲喆译. 北京: 商务印书馆, 2011: 523.
- [5] 李吉熙, 阿衣, 吉木哈学. 仪式、归属与重构——中国彝族“尼木”祭祖送灵仪式与韩国棺头洁净仪式比较研究[J]. 民族学刊, 2019(3): 81-87+129-130.
- [6] 陈琼. 家祭仪式: 乡村日常生活的道德叙事——基于一个湘南村落的考察[J]. 江汉论坛, 2021(2): 135-141.
- [7] 尹可丽、兰淼森、李慧. 仪式动作、象征意义和积极情绪增强控制感 双路径机制[J]. 心理学报, 2022(1): 54-65.
- [8] 田泥. 从祖先到家先: 湘西苗族墓祭仪式的发生——以湘西凤凰县吉信苗寨为例[J]. 湖南科技大学学报(社会科学版), 2022(1): 169-177.
- [9] 彭兆荣. 重建中国仪式话语体系——一种人类学仪式视野[J]. 思想战线, 2021(1): 71-79.
- [10] 郭于华. 仪式与社会变迁[M]. 北京: 社会科学文献出版社, 2000: 2.
- [11] 高丙中. 民间的仪式与国家的在场[J]. 北京大学学报(哲学社会科学版), 2001(1): 43.
- [12] 徐天雨. 仪式象征与民族交融——对云南彝族宗枝节的田野考察[J]. 北方民族大学学报, 2021(6): 72-78.
- [13] 蒙祥忠, 麻国庆. 祖先本质的多面性与(夙)家祭祖仪式研究——铸牢中华民族共同体意识的一个思考视角[J]. 中央民族大学学报(哲学社会科学版), 2021(2): 26-34.
- [14] 蔡富莲. 彝族祭祖仪式中的献祭叙事与文化记忆[J]. 宗教学研究, 2021(4): 192-200.
- [15] 霍晓丽. 传承与发展: 湘西苗族祖先崇拜研究[J]. 宗教学研究, 2018(3): 148-156.
- [16] 徐燕. “跨民族”宗族共同体研究——以偃氏、完颜氏和赵氏宗族为例[J]. 民族论坛, 2021(3): 23-33.
- [17] 张永钦, 邓文金. 闽台祖先崇拜的延续与变迁——以入赘婚俗为例[J]. 宗教学研究, 2020(2): 278-284.
- [18] 邓宏烈, 王禹栋. 过渡和认同: 羌族婚俗中的仪式象征解析[J]. 贵州民族研究, 2019(4): 59-65.
- [19] 冯智明. “自然”身体的文化转化: 瑶族婚礼的过渡意义[J]. 广西师范大学学报(哲学社会科学版), 2016(1): 64-69.
- [20] 陈容娟, 贾仲益. 两性平权与婚前协商: 互动仪式链视角下的过山瑶婚俗[J]. 广西民族研究, 2022(3): 92-101.
- [21] 维克多·特纳. 仪式过程: 结构与反结构[M]. 黄剑波, 柳博资译. 北京: 中国人民大学出版社, 2006: 27-42.
- [22] 张帆, 黄镇邦. 布依族踩狱仪式的空间转移及其社会文化意涵——贵州紫云县荣上秦个条研究[J]. 民族研究, 2019(1): 57-71+140.
- [23] 李旭东. 反思“仪式过程理论”的效度——以呼和浩特地区的两个仪式为例[J]. 内蒙古民族大学学报(社会科学版), 2017(3): 22-27.
- [24] 蓝希瑜. 浙江景宁畲族“做老者”仪式探微[J]. 民族研究, 2014(4): 65-76+125.
- [25] 蓝希瑜. “拔伤”: 浙西南畲族死者的过渡仪式[J]. 民族研究, 2016(3): 55-64+124-125.
- [26] 桂榕, 刘虎飞. 仪式的超越表征研究——以河口瑶族度戒仪式为例[J]. 湖北民族大学学报(哲学社会科学版), 2021(4): 146-157.

- [27] 张继驰、张泽洪. 从空间过渡到身份过渡——以广西贺州大平乡威竹村度戒仪式为例 [J]. 三峡论坛 (三峡文学·理论版), 2017(4): 45-50.
- [28] 谢启昆修, 胡虔纂; 广西师范大学历史学中国历史文献研究室点校: 《广西通志》卷 278《诸蛮一》, 南宁: 广西人民出版社, 1988: 6874; 6875.
- [29] 廖凌子. 民族交融视角下广西族际通婚研究——基于第五、六、七次全国人口普查资料分析 [J]. 南宁师范大学学报 (哲学社会科学版), 2023(3): 24-34.
- [30] 彭兆荣. 人类学仪式的理论与实践 [M]. 北京: 民族出版社, 2007: 237.
- [31] 玉时阶. 历史的记忆: 瑶族传统文化研究 [M]. 北京: 民族出版社, 2016: 556.
- [32] 菲奥纳·鲍伊. 宗教人类学导论 [M]. 金泽、何其敏译. 北京: 中国人民大学出版社, 2006: 184.

藍山縣荊竹瑶族鄉散花儀式社會功能芻議

四川大學道教與宗教文化研究所 2018 級博士研究生
西南民族大學外國語言文學學院 講師
盧順維

摘要

置花與散花是閩山教三奶夫人教派的通過性質的儀式。本文詳細記錄了湖南省藍山縣荊竹瑶族鄉蒲林村瑶族師公趙昌發 2022 年 1 月 20 日晚在本村為十七歲鄧姓瑶族青年舉行的散花儀式過程，分析了該地散花儀式的由來，論述了散花儀式的象徵意義和社會功能。認為散花儀式中的“斬雞頭”是三奶夫人教“斬蛇”主題的象徵，“花園”、“花公花母”是三奶夫人教“救產”主題的象徵，“十二關煞”是所有人間坎坷的象徵。散花的社會功能表現在三個方面，一是教化功能，二是“成人禮”功能，三是彰顯人類生命的意義與價值，喚起人類社會尊重生命和關懷生命的功能。

關鍵詞：散花 三奶夫人教 臨水夫人 成人禮 瑶族生育文化

一、置花與散花

置花，又稱“置造花園”，是將小孩子的魂魄寄存到象徵生育神的花公、花母處，並認東王公、西王母為“契爺”、“契娘”，將小孩子的凡人身份轉變成為神靈子嗣的一種“寄名”儀式。馬林諾夫斯基認為，“當人類遇到難關，一方面知識與實際控制的力量都無效，而同時又必須繼續向前追求的時候，我們通常會發現巫術的存在。”在生產力比較低下的時代，家族人口眾多，食物短缺，醫療水準不發達，人類的生命很容易遭受到各種各樣的威脅，人口平均壽命普遍比較短。小孩子往往因為營養不良，抵抗力弱，很容易出現疼痛、發燒、哭鬧等生理異常。這就產生了驅邪禳災，求福祈吉的儀式需求，“置花”儀式就是在這種背景下產生的。

“散花”是與“置花”相對應的儀式。當地小孩子在 3 歲左右置花，



圖 1：《置花科全集》⁽¹⁾

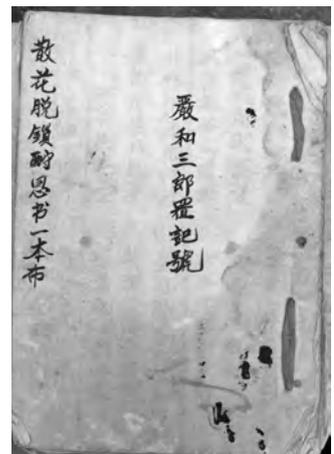


圖 2：《散花脫鎖酬恩書》⁽²⁾

- (1) 藍山縣荊竹瑶族鄉趙昌發師公家藏祖父輩抄本，抄寫人為趙昌發師公外祖父白法令。
- (2) 藍山縣荊竹瑶族鄉嚴維昌師公家藏父輩抄本，抄寫人為嚴維昌師公父親嚴和二郎。

置花結束後，用一塊一米見方的紅布將象徵藏有花男花女除煞過關後的靈魂的十二根五色花枝包裹起來，外面用十二根黑線纏繞，放在家先壇上。等小孩子長到十七八歲談婚論嫁時，就必須把置花時藏起來的靈魂解放出來，稱為“散花”，又叫“出花園”。散花是一種慶祝成年並酬神的科儀，置過花的花男花女在婚前必須進行酬神散花儀式，有時甚至是婚禮的一部分⁽³⁾。散花的流程與置花的流程大體相同，所不同的是散花多了兩個環節，一是師公對成年花男花女的囑戒環節、一是把重新過關斬煞後的靈魂送還花男花女的環節。

二、散花儀式的個案考察

筆者2022年1月底前往湖南永州瑤族地區進行田野調查，於20日晚在藍山縣荊竹瑤族鄉蒲林村觀看並記錄了瑤族師公趙昌發為當地一名鄧姓17歲瑤族花男舉行散花的儀式。花男生於2005年，於2008年3歲時置花，當時為其置花的是趙昌發師公的父親趙甫一郎。置花、散花在當地師公看來是“小事”，一個師公一個晚上7個小時就能完成，並不算什麼複雜的儀式。但是在當地村民看來，這也算是一件小喜事。相比置花，散花儀式在當地是比較隆重的慶祝活動，花男花女的親戚都會到場，村裡的父老鄉親都會帶鞭炮、紅布條前來慶祝，親戚比較多、人緣比較好的家庭做散花儀式時，就像婚宴一樣熱鬧，要擺十多桌酒席。⁽⁴⁾現在瑤族地區生活水準、醫療水準普遍提高，生活過得比較富足，因此很難遇到置花儀式了。據趙昌發師公回憶，他最近的一次置花儀式是2016年給他兩歲的外孫女置花的時候。置花與散花儀式流程大致相同，現以散花儀式為例進行說明。此次散花儀式的流程如下：

(1) 裝壇

在堂屋正中央，離主家神龕1米左右的前方擺大方桌（以下稱“祭桌”）一張，桌子的後方固定一根竹竿，懸掛總壇圖，圖高2.5米左右。總壇圖前方的桌面上，左側放一個木桶，木桶裡盛米或者沙子，裡面擺放三張佛像，桶朝外的一側捆上吞口像。總壇圖前右側擺三個竹筒，裡面盛米，上放三奶夫人像，從左到右依次是吹角陳夫人、持印林夫人、持牙簡李夫人，三位夫人都是騎馬造型。三奶夫人前面有兩排酒杯，第一排三個酒杯倒茶，第二排三個酒杯斟酒。杯子前方是一個飯碗，裡面有一小塊熟肉。熟肉碗的前方，即祭桌中央最前方是兩個飯碗。左側飯碗盛一碗米，米上置法印，法印上置銅卦，法印前方置竹卦，後方有主家放的一個紅包。右側飯碗盛淨水，碗上置令牌。

(3) 湖南藍山荊竹瑤族鄉嚴維昌師公家藏《散花脫鎖酬恩書》中就有“花女出嫁謝聖”的科儀唱本。

(4) 當晚該家有酒席三桌，請了男女廚官，男廚官兼任執香師，做師公的助手。席間閒聊時，師公回憶該村某戶人家散花時情景說，印象中只有那一家搞得特別隆重，就像辦酒席似的。因為正值疫情期間，當地有關部門對酒宴規模有嚴格規定，原則上不超過50人。也許是因為這一規定，當晚該地村民都是儀式開始以後才陸續過來慶賀的，稍微逗留一會兒就各自回去了。

祭桌最右側從裡至外，依次是盛果品點心的菜碗、茶壺、酒壺。方桌最左側、吞口的前方置紙錢。祭桌的最前面用一個紅色的包袱遮擋。祭桌下放一洗臉盆，盆內有少許水，深度 5 釐米左右，內置水車一個。在堂屋左側靠近大門的地方懸掛一捆紙錢（稱為“長錢”），此外，懸掛一桿秤，秤鉤上懸掛了一件花男小時候穿過的上衣，秤鉤上還掛有一把剪刀，一個卷尺⁽⁵⁾。紙錢與衣服均拴有紅布條。另有龍角一個、師刀一把、小鑼一面、深藍色法衣一件、紅頭巾一根。



圖 3：“散花”儀式的裝壇



圖 4：“散花儀式”上的“三奶夫人”神像

(2) 準備疏表

該儀式需要兩份疏表，由師公提前寫好帶來主家，一份是《散花申壇狀》，向神靈告知儀式內容。一份是《混元王府都司大衙法院給出追關斬煞取魂公牒一道》。寫好花男花女姓名、生辰八字後蓋印折好，用香籤別在總壇圖右側。



圖 5：“散花”儀式的《追魂公牒》



圖 6：夾在總壇圖上的“散花”文疏

(3) 請師請神

師公穿上藍色法衣，紮好紅頭巾，朝總壇圖撒米，用令牌在方桌上書“三清諱”，用力敲祭桌三

(5) 按照規矩，應該使用尺子，即 33.33 釐米長的直尺。現在很難見到了，所以改用卷尺。

下。點燃右手的錢紙照亮總壇圖，朝總壇圖吐一口氣，默念請師神辭。請完師父後，又點燃左手的錢紙，分左右兩堆放在身後兩側，分別獻給祖師、本師。

(4) 勅水

端起水碗，走罡步到壇前，拿起水碗上的令牌畫符勅水。用銅卦陰卦確認。

(5) 收煞

取錢紙一張，一邊念咒一邊將紙折成團，朝內收煞一遍，朝外收煞二遍。用竹卦陰卦確認。三張紙揉成一個大紙團放在米碗內用米埋好，上面用法印壓住。

(6) 勅變師刀、龍角、小鑼

該儀式可以是一個人，不需要打鑼。也可以帶一個打鑼的助手。

(7) 請師請聖

師公吹響龍角，右手持龍角在胸前轉圈，跳 8 字形師公舞類比趕路的情景。喃唱請神請聖神辭。銅卦陰卦確定。

(8) 奏《散花申壇狀》

取下《散花申壇狀》疏表，左手拿一疊紙錢，上面放疏表，把法印壓在疏表上。取一條長凳代表雲台，置於方桌前方，用師刀沾法水灑淨，吹角後將左脚抬起踩在長凳上，放下。再次吹響龍角，抬起右脚踩在長凳上。念畢踏上長凳。站在長凳上，再次吹響龍角。右手持龍角，左手拿著文疏揮舞，喃神。完畢，蹲在凳子上喃唱《散花申壇狀》。喃唱完畢後，把疏表卷成紙筒立到米碗裡，用香簽固定。上蓋一張錢紙，錢紙上面放米壓住。在龍角裡塞一張紙錢，放入大米，米上放銅卦、竹卦。請師。把牛角往身後一送，把米和銅卦、竹卦一同向後拋出，需要銅卦、竹卦同時是勝卦。獲得需要的卦象後用紙錢點燃疏表，在米上燒掉。待疏表燒盡後取灰燼放入牛角，師公站立，對著總壇圖吹向空中。再次吹響龍角。取師刀在長凳上跳神，謝神閉天門。轉身右脚先下長凳，表示下雲台。燒紙跳神、謝師。吹龍角一聲結束。

(9) 奏《追關斬煞取魂公牒》

師公取下另一個疏表。依前持龍角跳師公舞請師請神。像前面程

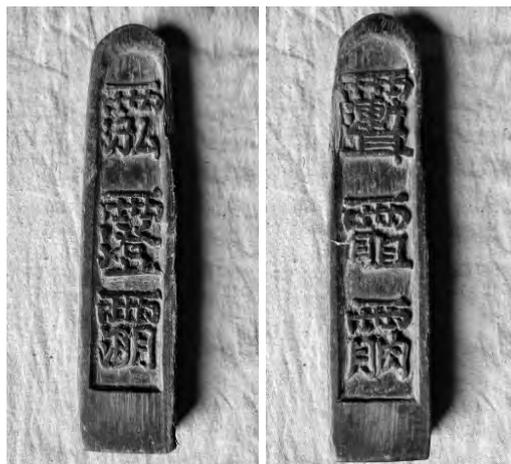


圖 7：雕刻有“三清諱”的令牌

圖 8：雕刻有“紫微諱”的令牌



圖 9：收煞



圖 10：勅變龍角小鑼

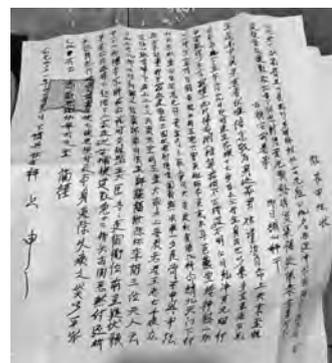


圖 11：《散花申壇狀》



圖 12：上雲台



圖 13：雲台奏文牒



圖 14：立文疏解神意

式一樣右手持紙錢、疏表、法印跳神。放下疏表法印，把紙錢放地上酒杯前。念追魂疏表。念完後把疏表放地上紙錢上。回壇用師刀沾法水淨碗，然後燒幾張紙到碗裡，用錢紙把碗擦乾淨放地上。一個一個擦拭乾淨後排成 2 個 2 排，最後一個碗放在另外四個碗上。

(10) 贊雞

取一隻雄雞。用令牌對雞畫符，用令牌在桌子上畫符，把雞放符上，抓幾把米撒落於桌上逗雞吃米。同時唱《告神唱雞歌》。



圖 15：贊雞

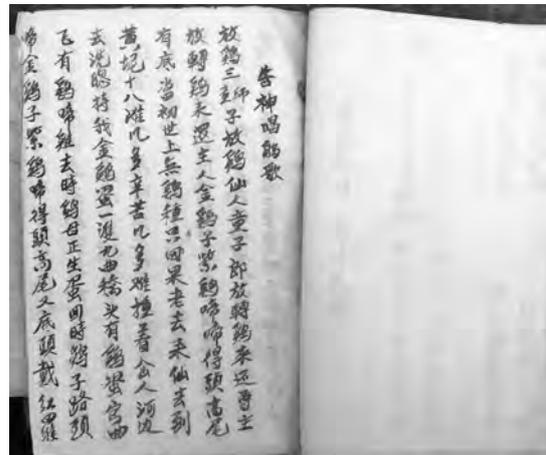


圖 16：《告神唱雞歌》⁽⁶⁾

(11) 祭五傷五猖

執香師預先在堂屋左側地上朝門外方向依次擺放三杯酒、三杯茶、一碗熟肉、三根一組的線香五組，擺放在一鐵錘柄上。師公贊雞完畢，抓起雞來到地上的碗邊，用腳踩住雞脖子，右手抓住雞頭，用力將雞脖子扭斷取雞血滴到文疏上，並灑到地上的五個碗裡。用畢，把雞丟出堂屋外。這只雞是獻給猖兵的，不能食用，要丟到野外隱蔽的地方。往滴了雞血的五個碗中倒一點點酒，祭祀五

(6) 來自 2020 年暑期筆者於藍山縣荊竹瑶族鄉蒲林村嚴維昌師公家採集到的《散花脫鎖酬恩書》中。

傷五猖。喃唱《五傷五猖歌》：

一聲鳴角好洋洋，九洲山前祭五傷。五傷五郎身最小，百般武藝甚高強。年登□八請官糧，
鑼在身聲角又鳴，鑼聲鼓角請神兵。(7)

把銅卦的兩片卦前後各一片搭在右肩膀上。把桌前紅包袱撩起。吹響龍角，左脚踩在桌子上，雙手挽訣念咒(8)，每唱完一段，就轉身彎腰把銅卦掉落在地上，得到所要的卦象後，撿起銅卦向外施禮。重複5遍。請完了以後，把祭桌的紅包袱放下，取米碗，師刀，牛角，茶壺，酒壺，紙錢到地上。吹角，每次端起一個酒碗獻酒，一遍一遍地念咒獻酒，祭東南西北中五方五傷五猖，也叫“賞兵賞將”，這是師公祭祀、犒勞自己的兵馬。



圖 17：祭五傷五猖前的準備



圖 18：祭五傷五猖

(12) 疊寶塔

獻酒完畢，把雞血酒往外潑，口喊“哦”，示意五方兵馬前來領受。如此重複。把碗摺起。挽訣結束。摺碗，又叫“疊寶塔”，方法是：把兩個碗的碗口相對扣好放到一個碗裡，上面用一個碗蓋住，再在上面放一個碗，碗口朝上，把五個碗疊成寶塔



圖 19：疊寶塔



圖 20：化《追關斬煞取魂公牒》

狀。寶塔疊好了以後，抬起右脚繞寶塔轉三圈後把寶塔踢翻打碎。然後說吉祥話，化錢，化《追關斬煞取魂公牒》，陰卦交定。放鞭炮。師公撒米撒到門口，往門外不停地撒米，賞兵賞將。陰卦交定。

(7) 來源同上。後續唱辭殘缺。

(8) 本人對手訣沒有研究，據葉明生編著：《福建省龍岩市東肖鎮閩山教廣濟壇科儀本彙編》，臺北市：新文豐，1996年，第351頁，疑似“餓虎訣”。

(13) 追魂

執香師提前準備好一件花男或花女的衣服，稱為“收魂衣”，尺子、剪刀、桿秤、長錢，捆在一起放到牆角下。師公右手持龍角，左手持師刀，跳舞請神完畢後到門口撒米念咒追魂，追魂完畢後銅卦竹卦同時卜卦，同時勝卦確定後將桿秤等放回原處。



圖 21：追魂



圖 22：桿秤、長錢、尺子與收魂衣

(14) 搭橋

在祭桌的左前方豎著放兩條高長凳，長凳相連，另一側接八仙桌，八仙桌接長凳的一側有一個竹條彎曲製作的拱門，拱門用紅布包裹。拱門下從八仙桌的桌面朝長凳方向鋪一條紅布，長度 1 米左右。拱門高度、寬度以插有花枝的大湯碗（即“花園”）能通過為準。八仙桌上，靠近長凳的一側有一個飯碗，內盛米，插香，主家置紅包一個。其次是三杯茶、三杯酒、一隻蠟燭，再其次是一個盛有熟肉的飯碗，其外側是四碗菜。除接長凳一側外，另外三側各放一條矮的長凳，左右的桌面上置一套餐具，包括一雙筷子、一個酒杯、一個飯碗，與師公、祭桌正對著的一側放兩套餐具。一壺供保人喝的酒。將祭桌下放有水車的水盆轉移到八仙桌下。桌上放硬幣十二枚，5 釐米左右的長條形糍粑十二小塊，一些紙錢。另外，祭桌上要擺一碗菜，右側擺兩個飯碗、兩雙筷子、兩個酒杯供師公和打鑼的助手使用。



圖 23：十二關煞橋



圖 24：保人筵席

(15) 贊花園

回壇端“花園”喃神跳舞。所謂的“花園”，又稱“五色花園”，是方桌左側放置的一個廣口的大湯碗，如下圖所示。內盛滿大米，正中間插著用紅布包好了的置花時保存到散花這一天的五色花枝，外面纏著 12 根黑色的粗繩子。在湯碗的前面豎著一個生雞蛋。贊花園完畢後，將黑線纏繞的紅布包裹打開，取出十二花枝，將花枝插入米中，圍成一個圈。將紅布蓋在花枝上。將捆綁紅布的黑繩子搭在紅布上，邊念咒邊在上面撒米。花園中央插一根點燃了的蠟燭。



圖 25：五色花園正面



圖 26：五色花園背面

(16) 鋪橋

師公取出用紅布條纏繞的畫有十二關煞的長軸畫，一邊解開紅布，一邊將長軸畫鋪在長凳上，使紅布條壓在長軸畫下方以便儀式結束後捆綁十二關煞。長軸畫上描繪的十二關煞依次是金雞、白鶴、南蛇、天狗、五鬼、六害、黃斑、獅子、蜈蚣、木馬、芭蕉、寶塔。在每個關煞的圖片上放一張紙錢蓋住。取一個飯碗碗口大小的糍粑切成長條，擺在蓋住了關煞的紙錢上。另準備一個木制的飯勺。當師公用師刀斬煞時，用飯勺墊著。



圖 27：鋪橋



圖 28：保人入席

(17) 請保人入席

師公用師刀沾法水淨橋。喃神確定保人。陽卦卜定。請保人入席。師公，保人同時入席、吃席。保人代表的是東王公、西王母。席間師公與保人要進行若干的問答環節。花男的外公將桿秤等扛在左肩上。

(18) 贊花

師公象徵性地喝點酒，象徵性地問了幾個問題後，就開始贊花。即喃唱十二個月中的十二種不同的花。

(19) 過關斬煞

把花園從祭桌上挪到橋頭。從正月開始唱起，把正月的贊花詞唱完了以後，向保人說明第一關煞是什麼煞，問保人“要不要斬？要不要過？”保人回答“要斬要過”，然後師公用師刀將糍粑斬成兩截，一截由保人用墊在糍粑底下的紙錢連同一枚硬幣包好點燃，丟進水車盆裡，一截由師公丟

向神像後面。第 1 橋金雞煞，第 2 橋白鶴煞，第 3 橋南蛇煞，第 4 橋天狗煞，第 5 橋五鬼煞，第 6 橋六害煞，第 7 橋黃斑煞，第 8 橋獅子煞，第 9 橋蜈蚣煞，第 10 橋木馬煞，第 11 橋芭蕉煞，第 12 橋寶塔煞。一一渡過。前十一橋需要斬斷，唯有第 12 橋寶塔煞不斬，而是送走。用紙錢將糍粑包好送到屋外大門口。



圖 29：十二關煞圖



圖 30：過十二關煞橋

(20) 接花枝

十二關煞全部通過後，將花園穿過拱門放到八仙桌上。師公拿掉蓋在花枝上的線和紅布，交給保人。把花枝一根根拔出來拿到手裡。師公和保人們圍成一個圈，師公一支一支地把花枝傳給第一個保人的右手裡，保人把右手的花枝傳到左手，右手接到師公新傳來的花枝時，把左手裡的花枝傳給第二個保人的右手，右手轉左手，依次傳遞，直到傳完十二根花枝。然後四個保人拿花枝出去扔到野外別人不知道的地方。期間，師公把門關上。聽到外面保人叫門後，開門盤問一番後才放他們進來。保人們手裡持綠色樹葉回到屋內。將樹葉插在花園裡，表示“開枝散葉”，人丁興旺。



圖 31：接花枝



圖 32：開枝散葉

(21) 斬雞斬煞

師公又取一隻雄雞，用筷子蘸法水對著雞頭畫符，用筷子按雞頭喝法水。用令牌在雞頭上畫符。師公在門口橫放一條長板凳，用令牌畫符。花男坐在凳子上，一保人在旁撐傘。另外的保人取來一個圓盤，圓盤裡面一個砧板，一把菜刀，放在男孩的頭頂。師公用令牌在砧板上畫符。取菜刀、雄雞回到壇位喃神，用雄雞一點過十二關煞，來到頭頂用刀把使勁砸一下砧板。如此重複 3 遍。最後

一遍結束後，用力一斬，把雞丟出堂屋，把鬮盤連同端盤的保人們一起推出堂屋後，把門關上。⁽⁹⁾只剩下花男和打傘的保人。女廚官把紅布條搭在男孩的左肩膀上後，開門，放鞭炮，保人打傘將花男送入一間臥室，讓花男坐到床上。其父親把紅布系在床頭。



圖 33：花男接受斬煞 圖 34：攔門斬煞

(22) 交魂

師公取桿秤、衣服、尺子、剪刀等來到祭桌前，勝卦卜定確認是否藏魂。在衣服、長錢等器物上蓋印。把大錢放地上燒掉。把桿秤、收魂衣等一併交給花男父親，然後放孩子睡覺的房間，將插滿綠葉的花園也放入花男的房間。



圖 35：脫鎖後的花男 圖 36：交魂

(23) 囑戒

師公、男孩入席。男孩正對方桌，師公坐其右邊。跟男孩交代成人以後的注意事項。囑戒分男女。囑戒中途，男孩吃長壽麵。囑戒完成後，花男父親致謝。



圖 37：囑戒

圖 38：花男吃長壽麵

(24) 收關煞

從保人席一側，連同墊在畫軸下的紅布一起，將十二關煞畫軸卷好，用紅包徹底包好、用繩子捆好，表示將兇神惡煞全部收藏並封印了。

(25) 謝師收壇

謝師、分兵分將，燒紙燒拱門水車。收壇，帶兵回壇。

三、“花”與生命生育信仰

在西南少數民族當中，存在各種各樣的“求花”、“架橋”等與生育相關的儀式。廣東連南瑤族自治縣的瑤族當中流行兩種架橋儀式，其中一種用竹篾編一拱橋，上麵糊上五色彩紙，請師公搬到

(9) 散花時，出於護生，只是象徵性地斬頭，並不把雞頭斬下。但在置花時要把雞頭斬斷。

村寨的溪邊，念經禱告，請求神靈保佑小孩健康成長。⁽¹⁰⁾ 另外，連南瑤族認為小孩晚上哭鬧是因為被孕婦摸或者抱時小孩子的“花”被孕婦帶走了，需要請師公進行“收花”的儀式，要做三個晚上的法事。⁽¹¹⁾

在湖南郴州莽山瑤族鄉中，如果家中有人長期生病，久治不愈時，就會到山中砍一根新樹，到一處木橋上，把最中間的那根木頭換掉。然後請師公向殺雞獻祭，祈求橋公、橋母保佑病人早日康復，稱為“架花橋”。⁽¹²⁾ 在廣西北部的瑤族當中，如果家中有小孩得重病，經巫師占卜認為是丟魂了的話，就需要巫師在村寨的河溝邊架一五色竹篾小橋，通過儀式將小孩的魂魄引渡過來，當地稱為“架花橋”。⁽¹³⁾

壯族有他們本民族的創世神話，並普遍崇拜他們的創世神——姆六甲，在壯族的創世神話裡，人類是女神姆六甲的後花園裡的花轉世投胎而來的，於是在壯族中就有在路邊的小溝渠上“架花橋”，為孕婦將花魂從女神姆六甲的花園中接過來的習俗。⁽¹⁴⁾

在廣西羅城仫佬族聚居區，有三月三過“婆王節”的風俗。“婆王”即“花婆”，在當地被認為是婦女兒童的保護神，掌管著人類的繁衍生息。當地仫佬族認為人類的靈魂是花婆山上的花朵，“花婆”送花就是送孩子，人死去後會重新回到花婆山，變成一朵花。當地“花婆”信仰比較濃厚，每個村寨都有“婆王廟”。⁽¹⁵⁾

貴州黔西南布依族苗族自治區的貞豐縣的布依族當中有請巫師搭橋求子習俗。巫師用兩根小竹子造一座橋放在臥室，橋上放許多用紅紙、綠紙剪的紙人，另請當地巫婆在臥室外跳神並將連接在花橋上的白線一直牽到村口來為婦女求子嗣或者男孩，稱為“搭花橋”。而貴州省黔南布依族苗族自治州羅甸縣、荔波縣等貴州南部的布依族也有“架花橋”的求子習俗，儀式內容又不一樣。巫師喃唱《米魂引花歌》、《粽子引花歌》、《雞蛋引花歌》，並用一頭掛了白布的木棍去引花，如果白布把竹筒裡面的花粘上來了就算求子成功。望謨、冊亨一帶的布依族正月請巫師來家中求子，巫師要喃唱到王母娘娘花園中採花送子的唱辭，如果求子成功要舉行殺豬獻牲還願的儀式。⁽¹⁶⁾

(10) 連南瑤族自治縣地方誌編纂委員會：《連南瑤族自治縣縣誌》，廣州：廣東人民出版社，1996年，第668頁。

(11) 《民族問題五種叢書》廣東省編輯組編：《連南瑤族自治縣瑤族社會調查》，廣州：廣東人民出版社，1987年，第219頁。

(12) 玉時階：《歷史的記憶：瑤族傳統文化研究》，北京：民族出版社，2016年，第606頁。

(13) 玉時階：《歷史的記憶：瑤族傳統文化研究》，北京：民族出版社，2016年，第606頁。

(14) 楊樹誌：《師公·儀式·信仰 壯族民間師公教研究》，南寧：廣西人民出版社，2007年，第140頁。

(15) 楊樹誌：《師公·儀式·信仰 壯族民間師公教研究》，南寧：廣西人民出版社，2007年，第140頁。

(16) 陳長平，陳勝利主編；丁宏等編寫：《中國少數民族生育文化上》，北京：中國人口出版社，2004年，第224-225頁。

廣西金秀的茶山瑤認為小孩子的靈魂由“山婆”掌管，小孩子生病是因為山婆掌管的命花長蟲了或是枯萎了的緣故，要請巫師舉行禳災祈福儀式。(17)

泰國瑤族中也有和花相關的生育信仰，他們把小孩子的魂稱作“花魂”，如果家裡沒有兒子，可以舉行求子儀式，叫做“架求花橋”、“架花橋”，是需要請三個師公，舉行二天二夜的大儀式。(18) 在泰國北部的瑤族師公的經書名目繁多，品種齊全，多為十八世紀之後的手抄本，其中就有《架橋書》、《架花橋書》，說明早在 300 多年前瑤族就有“架花橋”、“架橋”儀式。(19)

瑤族人民在從事沒有把握的狩獵捕魚農事時往往求助於巫術。婚後無子要“架花橋”；為老人求健康增壽要“架黃河大橋”。江華瑤族自治縣平地瑤中“修正花根”依舊盛行。(20) 在當地叫做“壅花苑”(21)。

楊樹喆在研究了廣西、貴州壯侗語族的“求花”、“架花橋”儀式後，說：

有一點卻是確切無疑的，即上述的壯侗語族各民族都有“花”為人魂的觀念和花婆信仰，而且這種信仰觀念應當在這些現代民族還沒有分流之前就已經形成。由此我們再回過頭來看壯族民間師公教的花聖母崇拜，就可以清楚地看出，這種崇拜實際上與壯侗語族各民族源遠流長的“花”為人魂觀念和花婆信仰是一脈相承的，前者是後者的繼承和發展，同時又對後者有所強化，二者相輔相成，相得益彰。(22)

湖南藍山縣荊竹瑤族鄉一帶的“置花”儀式與上述西南地區各少數民族的“花婆”、“花公花母”、“花神”信仰是相通的，都是啓請“花公花母”護花來達到請求生育神保護花男花女的目的。但是，湖南荊竹瑤族鄉瑤族群體中的“置花”儀式是江西南部漢族閩山教三奶夫人派傳入當地的結果，並不是當地瑤族本身固有的傳統文化，因此與其他瑤族相關“花”與生命的信仰存在本質上的不同。

四、湖南藍山三奶夫人教的由來

“三奶夫人”即“陳林李三夫人”，其核心是“臨水夫人陳靖姑”，與“三十六婆神”中的“羅

(17) 楊樹喆：《師公·儀式·信仰 壯族民間師公教研究》，南寧：廣西人民出版社，2007年，第142頁。

(18) 張有雋：《張有雋人類學民族學文集上》，北京：民族出版社，2011年，第367頁。

(19) 黃鈺 黃方平著：《國際瑤族概述》，南寧：廣西人民出版社，1993年，第260-261頁。

(20) 胡鐵強，陳敬勝：《族群記憶與文化認同：瑤族史詩〈盤王大歌〉的文化學解讀》，湘潭：湘潭大學出版社，2013年，第57頁。

(21) 筆者在江華水口鎮做田野調查時，當地鄧啓蘭師公說他每年都要做好幾次的“壅花苑”的儀式。

(22) 楊樹喆：《師公·儀式·信仰 壯族民間師公教研究》，南寧：廣西人民出版社，2007年，第143頁。

源林九娘”、“泉州李三娘”合稱“三奶夫人”。⁽²³⁾

江西南部受福建影響盛行閩山教，分“夫人教”和“老君教”兩派，以“夫人教”居多。奉“三奶夫人”為教主，信奉玉皇大帝、太上老君、靈寶老君、張天師、李真人、許真君、觀世音菩薩、華光大帝、哪吒、木吒。⁽²⁴⁾

位於江西南部安遠縣的三奶夫人教壇，在裝壇時，在祭桌裡側擺三個枱子，從左至右分插李三娘、陳奶娘、林九娘神像火牌，三位夫人都是騎馬造型，李氏挽弓、陳氏揮刀、林氏吹角。枱子前擺一方形的米斗，米上插祖宗宗師牌位、香燭、令旗，祭桌上有龍角、師刀、銅卦、木魚、令牌等各種法器，⁽²⁵⁾這與湖南藍山的裝壇是一致的，而且令旗、龍角、師刀、銅卦、木魚、令牌⁽²⁶⁾等法器也是一模一樣的，尤其是銅卦，可以說是“三奶夫人教”所特有的，相關經書如《武頭壇》《文頭壇》《散花脫鎖酬恩書》上有銅卦的特定標記，以提示科儀進行到某一步時必須卜得的卦象。



圖 39：《武頭壇》中銅卦卦象標記

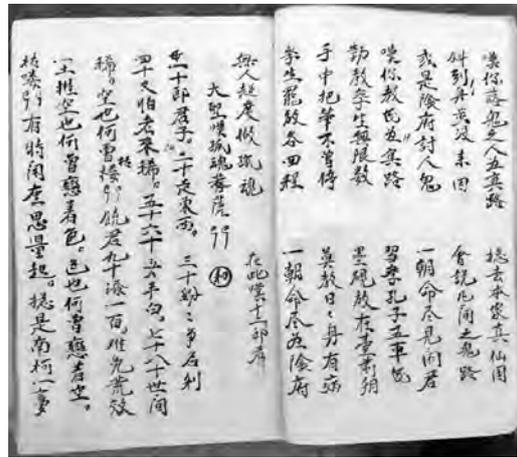


圖 40：《蒙山科》中銅卦卦象標記

湘贛兩省交界處崇義縣上堡鄉道教各壇使用的經書主要有《妙法蓮華經》《南斗經》《北斗經》《血盆經》《彌陀經》《解冤消愆經》《觀音心經》《救苦經》《太上感應篇》《道德經》《三官經》《金剛經》。懺主要有《土地懺》《藥王懺》《盤古懺》《蟲蝗懺》《水懺》。⁽²⁷⁾以上經書在永州荆

(23) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第277-278頁。

(24) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第276頁。

(25) 蔣燮：《嶺南音樂文化闡釋叢書·嶺南客家音樂的樂學闡釋》，福州：福建教育出版社，2017年，第146頁。

(26) 湖南藍山三奶夫人教的法器有龍角、藍刀、銅卦、竹卦、紅頭巾、法印、令牌。贛南三奶夫人教的器物請參看蔣燮：《余客共醮·樂以相通：贛南道教節日祈祥法事科儀音樂研究》，上海：上海音樂學院出版社，2016年，第258-259頁。福建閩山教法器請參看葉明生編著：《福建省龍岩市東肖鎮閩山教廣濟壇科儀本彙編》。

(27) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第279頁。

竹瑤族鄉除了《太上感應篇》《道德經》《三官經》《金剛經》這些純經典以及《南斗經》《北斗經》沒有以外，其他都有，只是名字有些不一樣。例如，《血盆經》在荊竹瑤族鄉是《目連破血科》。

另外崇義縣上堡鄉三奶夫人教常見的咒：《陳氏奶娘咒》《李氏奶娘咒》《王姆咒》《茅山咒》《雪山咒》《祖本二師咒》《老君咒》《淨口神咒》《解冤咒》《觀音咒》《勅符咒》《玉皇咒》《點帶咒》《隨身咒》《解穢咒》《祝香神咒》⁽²⁸⁾中，大部分與趙昌發、嚴維昌師公的《武頭壇》經書中的咒語是一致的。

至於上堡鄉道教使用的訣：《祖師訣》《本師訣》《祖本二師訣》《黃斑訣》《角訣》《獅子訣》《雪山訣》《障訣》《隔訣》《和合訣》《三奶夫人訣》《蓮花訣》《閩山法主訣》《太上老君訣》《哪吒太子訣》《王姆仙娘訣》《紫微大帝訣》《三寶訣》《都天五雷訣》《茅山法主訣》中，在趙昌發、嚴維昌等師公中是否有完整的傳承，還有待進一步調查。但是有兩點說明：一是當地喪葬儀式“送船”、“祭將”、“開天門”科儀都有用訣，“請師”、“開天門”科儀要踏罡，筆者不知道相關名稱。二是當地流行的《符書》中有《雪山符》《和合符》《隔鬼符》《普庵祖師符》《送船符》，如果符咒罡訣要一起使用的話，那麼應該有相應的訣和罡。

關於“三奶夫人”教派，非佛非道、亦佛亦道，既有佛教的經懺，又有閩山教的道教成分。劉勁峰的看法是“上堡介於湘贛兩省之間，鄉民祖先多來自粵湘贛各地，受漢族正統文化與楚越土著文化的雙重影響，使得該地民間道教表現出亦佛、亦道、亦儒、亦巫的多元特點”。當地信眾也認為，“無論普庵教還是先天教，都是道教，其法事內容都是文、武兼備，半佛半道”。⁽²⁹⁾江西西部的上猶、崇義、大庾與湖南東南部的桂東、汝城交流密切，在宗教面貌上亦互相影響。崇義縣上堡鄉的道教，文法事“請三寶如來、阿彌陀佛及觀音、地藏等”⁽³⁰⁾，科文念誦具有佛教密宗色彩的真言妙語，“當與佛、道齋公有著千絲萬縷的聯繫”；武法事“請神主要請三清四帝、王姆、陳林李三奶夫人、三元將軍、茅山法主、鐘公法王、梅山法主，章開頭自稱‘閩山法院’、‘陽平大衙’”，⁽³¹⁾梅山、閩山二者關係密切。⁽³²⁾

在永州荊竹瑤族鄉蒲林村一帶的師公群體中，請神的神唱有兩套，一套是《文頭壇》，用於超度法事，請的神靈是釋迦牟尼佛、阿彌陀佛、救苦救難觀世音菩薩等幾十個跟佛教相關的神靈，超度用的經書多是懺文的《慈悲水懺》《藥師懺》《地藏懺》《觀音懺》《蓮花寶懺》。跟上述上堡鄉

(28) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第280頁。

(29) 劉勁峰：《崇義上堡的民間道教文化》，《贛南宗族社會與道家文化研究》，2000年，第260-261頁。

(30) 賴盛庭：《石城的閩山教》，《贛南地區的廟會與宗族》，1997年，第175頁。

(31) 賴盛庭：《石城的閩山教》，《贛南地區的廟會與宗族》，1997年，第175頁。

(32) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第277頁。

的情況是一致的。

一套是武事用的《武頭壇》，武事在當地主要用在“置花”、“暖花”、“散花”、“樹幡”、“做蒙山”、“賞兵賞將”、“招廟兵”等儀式上。其中，“置花”與“暖花”、“散花”是捆綁的儀式，“樹幡”與“做蒙山”是捆綁的儀式，過去“置花”儀式普遍，現在比較少見。而“樹幡”是當地喪葬儀式的最高規格，一般只有師公過世了才樹幡、做蒙山。荊竹瑤族鄉上一次樹幡、做蒙山是嚴維昌父親嚴和三郎過世的時候。2021年趙昌發父親趙甫一郎師公過世，按理是要樹幡、做蒙山的五天五夜大道場的，但是因為疫情的緣故，沒能做成，超度儀式都是兩年以後才補辦的。當地三天三夜以上的大法事需要同時在室內室外分別立文武壇，但是師公壇班就只有一個，也就是說一個壇班的師公要做文武兩套法事科儀。

謝重光介紹江西南部道教信仰時說，贛南閩山教基礎深厚，夫人教、老君教、普庵教和先天教混雜，但基本做法大同小異。其中武法事有陽平大幡、五龍清醮、平安醮、拜文疏、置花、暖花、散花上鎖、暖鎖、出花燈、小續魂、起火膛、打符、送煞、安龍奠土、契拜等項。⁽³³⁾而其中的“樹幡（湖南永州稱“祖師幡”，即陽平大幡）”“清醮”“平安醮”“置花”“暖花”“散花脫鎖”“送煞”“寄名（即契拜）”在永州藍山縣荊竹瑤族鄉都有傳承。而且在當地師公看來，“置花”、“暖花”、“散花”、“寄名”這些都是“小事”，就是沒有什麼難度的法事。

蔣燮在《畚客共醮·樂以相通：贛南道教節日祈祥法事科儀音樂研究》一書中詳細記錄了他考察贛南安遠縣江村萬壽宮“朝八月皇”儀式的田野記錄，其中就有“八月初一晚上‘碗花祭將’——《贊雞歌》”、“八月初一晚上‘蒙山施食’”的科儀。⁽³⁴⁾在湖南永州嚴維昌師公所藏的《散花脫鎖酬恩書》中就有《告神唱雞歌》，二者內容基本一致。祭將時主壇師左手持雞“向其發水並用令尺書‘火斗令’、‘紫微令’等符字，主壇師將雞放瓷盤上，不一會兒，雄雞開始啄米，待其吃飽，主壇師唱起《贊雞歌》並將雞置於牛角口，舉角繞殿行走一圈，贊雞結束，即行祭將”⁽³⁵⁾，這與筆者2022年1月20日觀看的趙昌發師公的“散花”儀式中“碗花祭將”⁽³⁶⁾的科儀是一致的，只是趙昌發師公沒有舉雞繞堂屋走一圈而已。而“蒙山科”已經在上面介紹過了，它是當地三天三夜以

(33) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第280頁。

(34) 蔣燮：《畚客共醮·樂以相通：贛南道教節日祈祥法事科儀音樂研究》，上海：上海音樂學院出版社，2016年，第213-214頁。

(35) 蔣燮：《嶺南音樂文化闡釋叢書：嶺南客家音樂的樂學闡釋》，福州：福建教育出版社，2017年，第159頁。

(36) “碗花祭將”就是用雞血酒祭五傷五猖。

上大法事時最重要的一個科儀，據趙昌發、嚴維昌師兄弟講這個科儀很危險，⁽³⁷⁾ 開不得玩笑。

謝重光認為“三奶夫人”是江西南部的稱呼，在他家鄉福建武平縣萬安鄉稱“三位夫人”，據此他認為“三奶夫人教”是由福建九溪縣傳至龍岩直隸州，再傳至贛南寧都直隸州和瑞金縣，又由寧都和瑞金傳至石城縣以及贛南其他地區。⁽³⁸⁾ 華欽進說“閩西的民間道教，主要受江西龍虎山天師府的影響，屬全真道閩山教派道士，常年外出為人建醮祈福、消災、超度以謀生計。”⁽³⁹⁾ 當地民間道教屬不屬於“全真道”暫且不論，客家師公經常外出幫人辦事謀生似乎並不假，江西南部客家地區的“贛儺”就是這樣一種狀態。⁽⁴⁰⁾ 所以湖南永州藍山縣荊竹瑤族鄉一帶的“三奶夫人”教派性質的閩山教，應該就是這種“跑江湖”式的文化交流在瑤族地區形成的結果。另據嚴維昌師公講述，他是家傳師公第4代，第1代即嚴維昌的曾祖父從江西遷來本地，嚴維昌師公出生于1968年，今年56歲，以一代人25歲計算，該地三奶夫人教至少有130年歷史。⁽⁴¹⁾

除了以上證明材料以外，嚴維昌師公所藏《散花脫鎖酬恩書》中《盤花公花母》：“我問你：東王公、西母娘，有何緣故向橋樑？……老君衙裡三尊佛，哪吒太子座中央。”中的“哪吒太子”信仰，《散花脫鎖酬恩書》中《告神唱雞歌》：“王姥仙娘聽著龍雞啼，早早起來宅前宅後下羅圍。閩山九郎聽著龍雞叫，子雞啼，當壇拷鬼正當時。一聲鳴角好洋洋，九洲山前祭五傷。五傷五郎身最小，百般武藝甚高強”中的“王姥”信仰、“五傷五郎”信仰與贛南地區的“三奶夫人”教也是吻合的。其中“拜謝九郎陳林李，三奶夫人在壇前。請得師人來契拜，將你契拜奶娘邊。”又說“第五散花身姓楊，申奏王姥眾先娘。第六散花身姓陳，申奏三位眾夫人”、“閩山門下散花師，散花仙人童子郎”、“一招進張李天師手上兵，一招進陳林李奶手下人。一招進普庵祖師手上兵，一招進雪山和尚手下人。”從中也可以看出湖南永州藍山荊竹瑤族鄉蒲林村一帶的瑤族宗教的確屬於三奶夫人教。

(37) 嚴維昌父親嚴和三郎的壇班某次在兩家同時舉行喪葬儀式，嚴和三郎交代在另一家做法事的大徒弟千萬不要做“蒙山科”，大徒弟可能出於無奈違背了師意自行做了“蒙山科”，結果在儀式結束後騎摩托車回家的路上被落石砸死，當地人認為跟“做蒙山”有直接關係。

(38) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第277-278頁。

(39) 華欽進：《員峰山的賴仙公及其道士》，《汀州府的宗族廟會與經濟》，國際客家學會等1998年版，第408頁。

(40) 相關介紹請參看中央電視臺“地理·中國”欄目錄製組錄製的《儺舞尋蹤》系列片贛儺影像資料。

(41) 源自筆者2019年8月在藍山縣嚴維昌師公家做田野調查時的訪談記錄。

五、“置花”“散花”儀式的象徵意義

(一) “過橋”、“斬頭”的象徵意義

“置花”與“散花”是現代廣泛流傳于福建、浙江、江西、湖南、廣東、臺灣等地的閩山教的一種通過性質的禮儀，尤其在贛南、湘南一帶的漢族、畚族中具有深厚的信仰基礎，又稱“出花園（散花）”、“過關”、“栽花根（置花）”、“過橋”⁽⁴²⁾。閩山教在南方的廣泛流播與深厚的陳靖姑信仰是分不開的。陳靖姑，通常稱“臨水夫人”，又稱“臨水娘娘”、“大奶夫人”、“陳夫人”、“陳十四”、“陳十四娘娘”，在閩、浙、粵、贛等地的唱本臺詞中又寫作“陳靜姑”、“陳正姑”、“陳貞姑”，有多種不同稱呼。⁽⁴³⁾

明代《三教源流聖帝佛祖搜神大全》中“大奶夫人”條說：

昔陳四夫人，祖居福州府羅源縣下渡人也。父諫議，拜戶部郎中，母葛氏，兄陳二相，義兄陳海清。嘉興元年，蛇母興災吃人，占古田縣之靈氣穴洞于臨水村中，鄉人已立廟祀以安其靈，遞年重陽買童男童女二人以賽其私願耳，遂不為害。時觀音菩薩赴會歸南海，忽見福州惡氣沖天，乃剪一指甲，化作金光一道，直透陳長者、葛氏投胎。時生於大曆元年甲寅歲，正月十五日寅時。誕聖瑞氣祥光罩體，異香繞闈，金鼓聲若有群仙護送而進者，因諱進姑。⁽⁴⁴⁾

從這一條史料中可以看出，陳靖姑是福建古田縣人，乃佛教觀世音菩薩的指甲所化，生於虎年、虎時，象徵其具有猛虎般威猛無敵的法力，是受觀世音菩薩使命來人間斬蛇除妖、為民除害、保民利生的。

在江南民間有濃厚的陳靖姑信仰，關於陳靖姑的史料非常多。《藏外道書》轉引清朝乾隆年間《福建通志》卷二百六十三說：

臨水夫人，古田人。唐大曆二年生。歸劉杞。夙慕元修，年二十四卒。邑臨水有白蛇洞，常吐氣為疫癘。一日，有朱衣人執劍，索蛇斬之，鄉人詰其姓名，曰：“我江南下渡陳昌女也。”遂不見。乃知其神，立廟洞上。凡禱雨暘，驅疫求嗣，無不靈應。宋淳佑間封崇福昭

(42) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第280頁。另葉明生編著：《福建省龍岩市東肖鎮閩山教廣濟壇科儀本彙編》一書中的相關介紹。

(43) 朱恒夫主編：《中國儺戲劇本集成：松陽夫人戲·永康醒感戲》，上海：上海大學出版社，2018年，第1頁。

(44) [明]《三教源流聖帝佛祖搜神大全》卷4，臺北：學生書局，1989年，影印西天竺藏板七卷本，“大奶夫人”條。

惠慈濟夫人，賜額順懿，八閩多祀之。⁽⁴⁵⁾

清末福建詩人梁章鉅在《退庵隨筆》中描述清末福建閩山教的盛況時說：

夫人名靖姑，古田縣臨水鄉人。閩王璘時，夫人兄守元有左道，隱居山中。夫人常餉之，遂受秘籙符篆，役使鬼神。曾至永福誅白蛇怪，璘封為順懿夫人。後逃處於海上，不知所終。⁽⁴⁶⁾

從這兩則材料都可以看出陳靖姑與斬蛇除妖二者的密切聯繫。其斬蛇除妖的傳說不斷發酵，進而發展出了以陳靖姑信仰為中心的三十六婆神女神體系信仰，與福建、浙江、廣東、臺灣等沿海地區的媽祖信仰，二者甚至到了難解難分的地步。⁽⁴⁷⁾ 與大奶夫人陳靖姑一起斬妖除邪的還有其助手羅源林九娘和泉州李三娘，並稱“陳林李三奶夫人”，是三奶夫人教的創教主。大奶夫人陳靖姑與其手下的三十六婆神一起，被尊為為民除害、祈晴求雨、解救產難的婦女兒童保護神。⁽⁴⁸⁾

三奶夫人斬蛇除妖的事蹟得到了老百姓的愛戴，在福建、浙江、廣東、江西有許多相關的民間戲曲、木偶劇和儺儀。浙江麗水松陽縣流行“夫人戲”，即“三奶夫人戲”，其中講述了陳靖姑除妖救人的故事。而該故事在浙南一帶據說“老少皆知，口耳相傳，眾口皆碑，無限崇敬”。⁽⁴⁹⁾ 相關劇本，如《南遊記》⁽⁵⁰⁾《夫人傳》⁽⁵¹⁾等都詳細展演了三奶夫人斬蛇除妖，為民除害的故事。

斬蛇、護產是三奶夫人教的兩大主題，因此，三奶夫人教表現得比較勇猛、粗狂，以彰顯其法術的威猛，在科儀上有許多難以讓人接受的、充滿暴力色彩、血腥色彩的環節。在置花、散花儀式的“祭五傷五猖”環節，師公腳踩雞脖，用力扭斷雞頭，或者用嘴直接咬斷雞脖取雞血祭兵的場景，在其他民間信仰中比較罕見。在置花科儀的最後環節，師公用菜刀在砧板上一刀將雞頭斬斷，以此威猛的形式斬斷所有的兇神惡煞，象徵花男花女從此以後不會再有任何的難關和不順。這其實是“斬蛇”除妖強硬態度的體現。“過橋”象徵著三奶夫人的大無畏精神，以及有求必應，解人於倒懸的一種人文關懷。而“斬頭”則是這種大無畏精神以及無私精神所激發出來的一股正義的力量，

(45) 胡道靜：《藏外道書》第18冊，成都：巴蜀書社，1992年，第641頁。

(46) 吳任臣：《十國春秋》第3冊，北京：中華書局，1983年，第1423-1424頁。

(47) 鐘晉蘭：《客家學研究叢書第3輯 田野中的客家婦女與民俗信仰》，廣州：暨南大學出版社，2018年，第232頁。

(48) 謝重光：《客家民系與客家文化研究》，廣州：廣東人民出版社，2018年，第276-277頁。

(49) 朱恒夫主編：《中國儺戲劇本集成：松陽夫人戲·永康醒感戲》，上海：上海大學出版社，2018年，第10頁。

(50) 朱恒夫主編：《中國儺戲劇本集成：松陽夫人戲·永康醒感戲》，上海：上海大學出版社，2018年，第14頁。

(51) 朱恒夫主編：《中國儺戲劇本集成：松陽夫人戲·永康醒感戲》，上海：上海大學出版社，2018年，第12頁。

要麼遠走高飛、速速遠離，要麼坐以待斃、屍首異處，這是三奶夫人信仰體現出來的一種正邪不兩立的、慷慨激昂的人文關懷。是尊重生命價值、尊重人世生活的一種表現。

(二) “花”與“花公花母”的象徵意義

三奶夫人教尊重生命價值、尊重生活意義的特質與臨水夫人信仰的產難主題是分不開的。萬曆《古田縣誌》載：

臨水神，姓陳，家世巫覡，祖玉、父昌、母葛氏，生於唐大曆二年，神異通幻，嫁劉杞數月，會大旱脫胎往祈雨，果如注；因秘泄，遂以產終決之：“吾死後不救世人難產不神也。”卒年二十有四。身後靈跡顯著。⁽⁵²⁾

這是關於臨水夫人信仰的一個重要情節，在福建、浙江等地的戲曲、傳說中都有體現。“吾死後不救世人難產不神也”所表現出來的力量，對古代社會地位比較下的女性來說是前所未有的。古代醫術不發達，因為難產造成一死兩命的悲劇時有發生，在民間婦女生產往往被說成是“過鬼門關”，其恐怖程度可想而知。拯救因為難產而游離在死亡邊緣的婦女和胎兒，這正是臨水夫人被尊為婦女保護神的根本原因。也是三奶夫人信仰尊重生命的集中體現。臨水夫人被尊為“扶胎救產，保赤佑童”的女神，廣泛流傳于福建地區。由此衍生出了與生育、養育相關的“過關”、“收驚”、“扶產”、“保胎”等一系列小法，⁽⁵³⁾而為小孩“過關斬煞”的“置花”和“散花”就屬於“過關”法事中常見的兩種儀式。清乾隆《福州府志》卷二十四《風俗》援引萬曆《福州府志》記載：

民間男女，年十六，延巫設醮，告成人於神，謂之“做出幼”。⁽⁵⁴⁾

此處的“巫”是明代流行福建等地的閩山教無疑。⁽⁵⁵⁾由於過於簡略，無法窺探儀式始末，從“延巫”、“出幼”看，可能是“散花”相關的最早記錄。

清道光《福州通志》記載：

以竹支架，用紙糊作城門形，由道士穿“奶娘”法衣，口吹號角，引護小孩過關，意為如此

(52) [明] 劉日暘、陳薦夫、林春華等纂，王繼祀續修，丁朝立、魏煬等續纂：[萬曆]《古田縣誌》，萬曆三十四年（1606）增補二十八年（1600）本。

(53) 福建省炎黃文化研究會：《中共福州市委宣傳部編：閩都文化研究（下冊）》，福州：海峽文藝出版社，2006年，第504頁。

(54) [清] [乾隆]《福州府志》卷二十四《風俗》援引《萬曆府志》：[清] 徐景熹修，魯曾煜、施廷樞等纂：[乾隆]《福州府志》，清乾隆十九年（1754）刻本。

(55) 吉宏忠主編：《道教大辭典》，上海：上海辭書出版社，2020年，第7-8頁。

小孩便易成長，一直到十六歲為止。⁽⁵⁶⁾

此處穿“奶娘”法衣的即是三奶夫人派的師公。以竹子搭一個支架，上麵糊些紙做城門，這與藍山縣“置花”、“散花”科儀的拱門是類似的。“過關”、“十六歲”等信息與“散花”也是契合的。



圖 41：“散花”儀式中的橋及門



圖 42：“散花”儀式關煞及門

徐曉望《福建民間信仰源流》介紹臨水宮前的“百花橋”說：

臨水夫人還是閩中的祈嗣之神，福建民間傳說，人間子息來自上天兜率山的孩溪，“此孩溪上接天根，下接人間，世人之胎息都由此溪之水所結。形質流至百花橋，分男女出世，自古至今無異。”百花橋座落于古田臨水宮前，由臨水夫人與其手下的鄒奶掌管，橋下百花盛開。民間傳說，這裡每一朵花都是一個嬰兒，於是，婦女到臨水宮進香，都要到橋下采幾朵花回去，據說，這能使她懷孕生子。⁽⁵⁷⁾

從這段描述中我們可以看出閩山教“花”、“花園”的由來，以及“花”、“花園”與“花男花女”的關係。藍山縣嚴維昌師公所藏《散花脫鎖酬恩科》中《告神造紅樓贊神》：

一聲鳴角勝洋洋，奉請花公界八娘。二聲鳴角勝洋洋，奉請花母祝三娘。三聲鳴角勝洋洋，奉請監生得大王。請你離宮親出殿，散花下壇赴法壇。花公花母親到座，馬上神扶報師男。⁽⁵⁸⁾

對比經書原文，可以看出其中有很多疑點。“花公界八娘”應該是“花公界八郎”，而“界”這一姓氏也可能是某個其他姓氏的代替字。在當地“界”與“介”“解”“戒”發音相同，均讀“gài”。“監生得大口”一句，最後一個字可能是“娘”的俗體字，“得”這一姓氏可能是“鄧”的代替字，因為二者在當地發音相近。其中“奉請花母祝三娘”一句中的“祝”應該就是上文所指的“鄒”，

(56) [清] [道光] 孫爾准等修，陳壽祺纂，程祖洛等續修，魏敬中續纂：[道光]《重纂福建通志》，清道光九年（1829）修，十五年（1835）續修，同治十年（1871）正誼書院刻本。

(57) 徐曉望：《福建民間信仰源流》，福州：福建教育出版社，1993年，第346頁。

(58) 來自筆者2020年暑期在湖南藍山荊竹瑤族鄉嚴維昌師公家所採集到的《散花脫鎖酬恩科》。

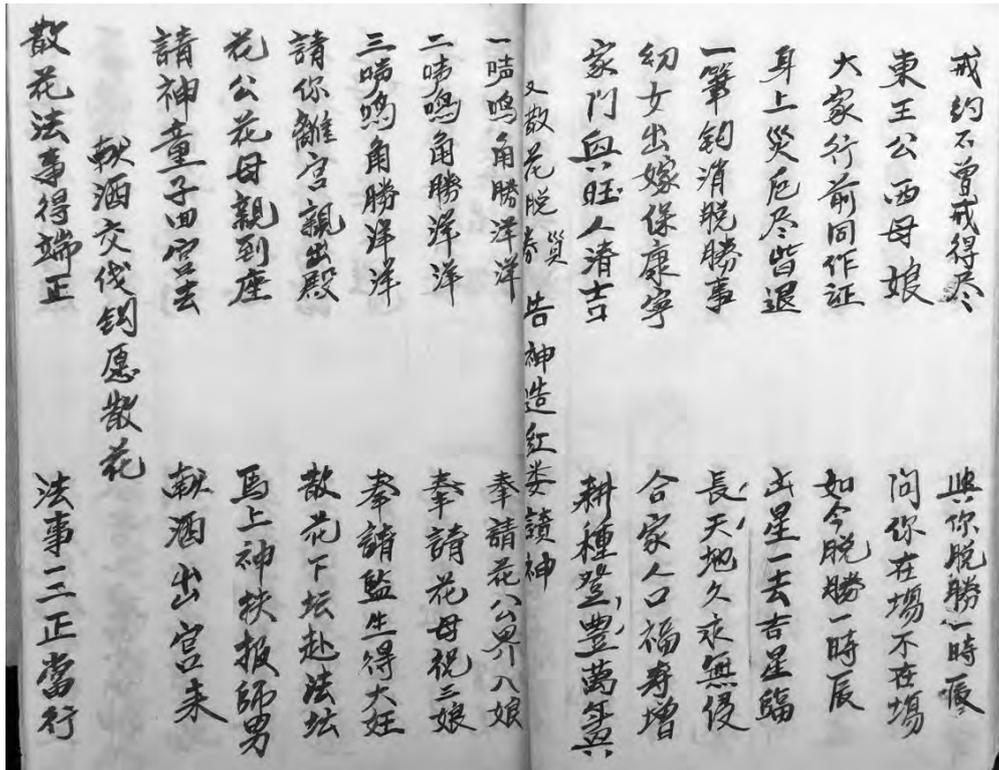


圖 43：《散花脫鎖酬恩科》中《告神造紅樓贊神》頁

因為二者在當地的發音是一樣的。由此可以看出，湖南藍山“花母祝三娘”即是協助臨水夫人保護“花園”的花母——“鄒奶”。據此可以看出，“置花”、“散花”的“花”是“生命”的象徵。在福建、浙江等地至今都保存有“求花”的民俗。清同治《麗水縣誌》卷十三載：

婦女敬事夫人，即所稱“順懿夫人”、“護國夫人”也。順懿廟在太平坊鶴鳴井者，香火尤甚。凡求子者，必赴廟虔禱，兒生，自洗兒及彌月，周歲，必設位於家，供香火，招替者唱夫人遺事，曰“唱夫人”。⁽⁵⁹⁾

在浙江南部，臨水夫人被認為是送子娘娘，武義縣有一“夫人娘娘橋”，橋頭有“十四夫人殿”，供奉三奶夫人。新娘過橋必須下橋，在橋頭“夫人殿”拜三奶夫人，以求早生貴子。生了孩子後要獻上當地的一種糰粿，叫作“大男麻”，以示感謝。⁽⁶⁰⁾

據福建古田臨水宮一帶的傳說，臨水宮前的“百花橋”橋下花園中，每一朵花都是一個嬰兒，想要男孩就摘白花，想要女孩就摘紅花，當地婦女到臨水宮求子，都要到橋下采幾朵花回去，據說這樣就能求子成功。⁽⁶¹⁾

(59) [清] 彭潤章等纂修：同治《麗水縣誌》，1874年刻本，卷十三。

(60) 朱恒夫主編：《中國儺戲劇本集成：松陽夫人戲·永康醒感戲》，上海：上海大學出版社，2018年，第7頁。

(61) 徐曉望：《福建民間信仰源流》，福州：福建教育出版社，1993年，第346頁。

由“求子”又衍生出“還願”、“寄名”、“認契娘”等民俗。嚴維昌師公所藏《散花脫鎖酬恩科》中就有相關內容：“告得仙神同作證，感蒙神恩長成人。是聽當壇來契拜，當壇立疏契神前。契娘契爺一百拜，酬恩答謝眾神明。出外當天拜三拜，天地常照世間人。一拜上聖神尊主，二拜文武眾宗師。三拜契娘爺義重，四拜家先香火神。”很顯然，“置花”就象徵著“契拜”神靈為“契父”、“契娘”，就多了一層特殊的身份。“散花”則象徵著花朵的成熟，即將進入“結果”的階段，即將進入接受“花園”中新的“花朵”的階段，所以必須“出花園”，通過“散花”來酬謝花公花母、契父契娘，這也是經書名字叫《散花脫鎖酬恩科》的原因。

（三）“十二關煞”的象徵意義

藍山縣荊竹瑤族鄉的“置花”、“散花”儀式上都有“過關”的科儀。一共有十二關，分別是金雞、白鶴、南蛇、天狗、五鬼、六害、黃斑、獅子、蜈蚣、木馬、芭蕉、寶塔，師公不稱“第一關”、“第二關”，而稱之為“第一橋”、“第二橋”。“關”是一種攔在眼前的障礙，是“困難”、“困境”、“受困”、“止步不前”等停滯性意義的象徵。“橋”是打通橫向障礙的東西，是“超越”、“度過”、“邁過”、“跨過”等通過性意義的象徵。“十二關煞”是一年十二個月的象徵，也是一天十二個時辰的象徵，所以“十二關煞”代表了人一生會遭遇到的所有的困難。而“金雞”、“白鶴”等名稱當中又蘊含了更深層次的意義。尤其是“南蛇”一詞，是經常被提及的一項內容。

六、置花儀式與散花儀式的社會功能

（一）教化功能

教化功能體現在“散花”儀式上。嚴維昌師公所藏《散花脫鎖酬恩科》一書中有大量關於社會倫理、道德的囑戒內容。這些內容包括了成年以後需要面對的各種關係，對親子關係、夫妻關係、朋友關係、婆媳關係、鄰里關係都進行了囑咐。囑咐花男花女要盡孝道時說：“十月懷胎娘受苦，幾多辛苦在娘身。食娘身上三年血，娘年老來敗積神。幹床幹被兒子睡，濕床濕被母安身。兒有傷寒娘心惶，幾多悠愁惶娘身。養你成人長大了，聚親歸堂奉雙親。孝順還你孝順子，忤逆還你忤逆兒。你敬爺娘天地曉，起頭三尺有神明。切莫嫌空慢爺娘，嫌慢爺娘理不當。嫌慢爺娘天地曉，皇天不容忤逆人。”

囑咐花男花女要夫妻和睦時說：“妻容貌醜莫怨天，前生註定你姻緣。父母堂前好教子，夫妻枕上好商量。敬重丈夫要謹心，千世修來共枕眠。丈夫貴來妻也貴，夫若貧時妻也貧。”

囑咐與子女的關係時說：“兒女多少你莫怨，前世備在你身邊。”

囑咐處理朋友關係時說：“親朋人客要相敬，菩薩面前好念經。”

囑咐處理兄弟姐妹關係時說：“兄弟姐妹要和氣，都是同母共根生。敬重爺娘有福得，尊敬哥嫂壽延長。”

囑咐處理鄰里關係時說：“鄰舍上門茶酒待，莫去人前說是非。”

囑咐處理異性關係時說：“年郎到來莫相咒。”

囑咐處理婆媳關係時說：“開眉笑目奉公婆。”

囑咐處理親戚關係時說：“姊嫂禮頭要和睦，切莫相交外頭人。姊妹叔侄來行往，家中無酒便是茶。姊妹成群正好女，離不傳蜜轉排行。敬奉神明及尊長，舉頭三尺有神明。人客來到寬且座，且得禮義出堂前。”

囑咐成年以後，接下來要謹言慎行時說：“家貧莫學人做賊，不可謀財起騙心。囑你謹記三般事，戒酒除花莫賭錢。”

囑咐成年以後，接下來要常懷感恩之情、修心養性是說：“拜娘三拜謝娘恩，劬勞養你得成人。契娘契爺一百拜，酬恩答謝眾神明。出外當天拜三拜，天地常照世間人。天晴之時便道好，落雨之時莫罵人。拜天三拜謝地恩，四時感謝養君身。行路之時跌脚指，切莫開口罵番壇。”

囑咐成年以後要努力勤奮時說：“一來殷勤耕種好，二來出路要老成。戒語原是老君造，教你孝順要殷勤。男人殷耕得飽食，女人勤身得身光。”

囑咐處理陌生人關係時說：“遠來貴處且通問，你莫癡聾暗啞人。”

尤其是花女出嫁時的囑咐更是催人淚下：“養你成人年長大，出嫁侍奉別人娘。怎得還恩報你母，難得轉來報你娘。你今侍奉人父母，兄嫂侍奉你爺娘。三歎你兄並你嫂，你嫂教你巧梳頭。多謝你兄並你日，感蒙你嫂教你時。紡織裡頭嫂教你，練麻績棉嫂邊成。哥嫂裡頭長孝順，十分哥嫂不忘恩。你今出嫁夫邊去，年終年節報娘恩。若是家中有好酒，傳聲寄信望爺娘。一年三百六十日，時時謹記在心頭。好酒擔來爺娘食，無酒收拾伴茶湯。莫作雞婆抱鴨仔，你去遊食不思娘。”最後一句的比喻更是發人深省。

最後說：“今日當壇說戒你，留心謹記切莫忘。戒你當前囑咐你，夫妻壽命得延長。”很有師父向徒弟傳戒的意味。

(二) 入社功能

入社功能體現在“散花”儀式上。花男花女長到 15 歲、16 歲到了談婚論嫁時就需要舉行“散花”儀式，把“置花”時關在花園裡的靈魂釋放出來，是一種“成人禮”的表現。花男、花女散花後意味著不再是小孩子，而是一個成年人了，所以“散花”儀式與“置花”儀式的區別就體現在對散了花後的花男花女的諄諄囑咐上。“散花”釋放出兩個強烈的信號，一是花男花女已經成年，需

要加入到成年人的社會中來了，不能脫離該社區，要逐漸逐漸參與社區的活動，儘快成為社區的一員，為建設社區付出自己的努力，這又是一種“入社”性質的禮儀。其中在囑戒環節中喃唱的處理各種社會關係的技巧就是一個很好的證明。

第二個釋放出來信號是花男花女可以談婚論嫁、可以組建自己的家庭了。提醒父母、親戚、朋友、鄰居可以準備為花男花女物色結婚物件了。有時，這種信號還沒有來得及釋放出來，花女就要出嫁了、花男就要娶妻了。這其實比第一種入社信號更強的就入社信號，象徵著花男花女不僅不是小孩子了，馬上就要成家立業、為人父母了，這意味著花男花女全面地加入到整個社區生活中來，沒有任何的可以依靠的東西了，因為在舊社會，成家就意味著獨立，意味著必須靠自己的雙手去打拼自己的幸福生活。

所以很多時候花男、花女“散花”是在其婚禮上舉行的，也是必不可少的。置了花如果不散花，就意味著還是小孩子，是沒法步入婚姻殿堂的。所以為了節省人力、物力，往往“散花”與婚禮一起進行。《散花脫鎖酬恩科》中就有《花女出嫁謝聖》一段，其中“一拜祖公並祖婆，二拜叔伯及姑孃。三拜家中眾兄弟，四拜姑嫂及姑姨。多蒙朝夕教訓我，如今出嫁得成雙。幼女當壇來拜謝，一雙粗手拜公婆。感蒙神兵護我日，多蒙聖力扶吾身。今日成人隨夫去，如今出嫁伴夫君。拜謝九郎陳林李，三奶夫人在壇前。眾師受了幼女拜，扶持保幼伴夫君。”是出嫁前的拜別儀式唱辭。其中“爺娘養你不得大，如今長大嫁別人。只得大來奉父母，誰知今日奉別人。養你成人年長大，出嫁侍奉別人娘。怎得還恩報你母，難得轉來報你娘。你今侍奉人父母，兄嫂侍奉你爺娘。你今出嫁夫邊去，年終年節報娘恩。若是家中有好酒，傳聲寄信望爺娘。一年三百六十日，時時謹記在心頭。好酒擔來爺娘食，無酒收拾伴茶湯。莫作雞婆抱鴨仔，你去遊食不思娘。”等句子就是對即將出嫁的花女的一種敲打，“身上災厄盡皆退，凶星一去吉星臨。一筆勾銷脫券事，天長地久永無侵。幼女出嫁保康寧，闔家人口福壽增。家門興旺人清吉，耕種豐登萬年興。”等句子是對出嫁花女未來生活的一種祝願。

（三）對生命價值的肯定

“置花”與“散花”都是對生命的敬畏、對生命的一種普遍的尊重。人的一生，都是“生老病死”，這是平等的。但是如何“生”，如何“活”，卻因人而異、因環境、家庭、社區而異。“蓬生麻中，不扶自直。”“近朱者赤，近墨者黑。”生活在一個有熱度的家庭、群體中，生活自然也充滿了熱度與激情。生活在一個冷淡的家庭、群體中，甚至是邪惡、冷血的家庭、群體中，是很難擁有熱度的。這是閩山教三奶夫人派的根本出發點，它關懷的不是名與利，而是生育與養育，是有熱度、有激情的一種信仰體現。它能讓人把目光的焦點放到新生命上，放到新社會成員上。通過展演花公

花母對花男花女的保護，暗示整個群體保護新生命的重要性。傳遞出很強烈的對生命、對生活的熱愛與尊重。這正是三奶夫人教強烈的生命關懷的一種集中體現，也是三奶夫人教得以迅速傳播、得以在江南各地、甚至在臺灣、香港都長盛不衰的原因。與高高在上的正統道教、佛教相比，這種具有人情味的小傳統更接近老百姓的實際、更接地氣、更能體現對普通老百姓生命、生活的關切與關懷。

結語

湖南永州藍山縣荊竹瑶族鄉“置花”、“散花”儀式是贛南三奶夫人教傳播到當地的結果，有可能是嚴維昌師公的曾祖父從江西帶入瑶族地區的產物，在當地傳承了至少 130 年之久。三奶夫人教的斬蛇、產難主題，衍生出斬妖、驅邪、求雨、救產、救嬰等“扶胎救產，保赤佑童”的職能，進而催生了“過關”、“置花”、“暖花”、“散花”、“斬煞”等儀式，在生產生育方面形成了與三奶夫人教宗旨相呼應的“花公花婆”信仰。“散花”儀式的社會功能主要體現在社會教化上，是對即將成人的花男花女的一種入社前的囑咐、訓誡。其次體現在接納花男花女入社的功能上，是一種具備“成人禮”功能的通過性禮儀。第三是通過斬雞頭、扭雞頸、請保人、交魂衣、囑戒等能留下強烈印象的場景彰顯人類生命的意義與價值，能夠讓整個社會都把目光聚焦在生命的關懷上。以上三種社會功能都是三奶夫人教對人類生命的尊重和關懷的一種體現。

附錄（一）《散花申壇狀》：

西元天下湖南省藍山縣荊竹鄉蒲林村北古元組小地名各連沖

乍恩福主通天仙女道役聖啓建散花出原救恩射信度光斬煞消災集福迎保泰全妻鄧氏

右領合家眷等 即日誠心拜幹

至造光中具呈意者伏惟信念敬為身邊花男鄧△△自命上天京至照自本命二〇〇五年△△月△△日△△時建生，花根△△歲，自從父母生身出世以來，多生患病，少見平安，筵纏日久，闔家惶惶無計，將命附人推算：花根不正，橋道不明，父母尅沖，弟兄相行，十二橋頭金雞、白鶴、南蛇、天狗、五鬼、六害、黃斑、獅子、蜈蚣、木馬、芭蕉、寶塔神煞，一切凶關惡煞，重命生災，恩無可度，生方卜取今月大吉良利，虔備凡科，命請九天門下行兵弟子趙甫一郎於家啓建散花出園求恩射信度關斬煞法事一夕連宵，于申具《申壇文狀》一紙，鳴角飛聲上：

三十三天昊天金闕玉皇大帝、太上吾靈老君、王姥七千徒眾、閩山三方九叩三位仙師、三位蠻師、茅山法主師娘福州陳林李奶三位夫人、雲中一十二部祖本宗師、花公花母、聖□監生大臣，各各連禦衙位前 呈進

伏願

早差雄兵猛將下赴信士人家庭，巡宅捕捉道奴鬼、十二橋頭凶關惡煞付還橋頭誅斬施行。根尋花男三魂七魄，急須付還本身，免除久病之災，以平安之兆有雲。

金叩聖恩激切屏雲之至 口謹

西元二〇二一年十二月十八日 下情具狀百拜 上 申⁽⁶²⁾

附錄（二）《混元王府都司大衙法院給出追關斬煞取魂公牒一道》：

本壇牒迎

天廷八十二萬正劄副將，億排天兵地兵，銅枷鐵鎖廉同本家先祖，田元沿途土地司命等神，領執文牒，前去東、南、西、北五方四路追尋七姑七娘、金甲冷壇傷亡等眾、三十二精、竹木二奴、人殃火鬼、二十四瘟王、千年冤家萬年咒詛口呀良願等不佞之神、游方產難失魂之所、壇前壇後跟尋現花子鄧△△，本命△△年△△月△△日△△時建生，花根△△歲，三魂七魄。急須赴還本身。冤途九病之災、早以平安之兆。前項狀造十二橋頭：金雞、白鶴、南蛇、天狗、五鬼、六害、黃斑、獅子、蜈蚣、木馬、芭蕉、寶塔一切凶關惡煞付還橋頭，誅斬施行。定限今宵即刻回壇繳消，如有強良不服者，許將先斬後奏，不用申文。眾兵追捉星火到壇，火速奉行，須至牒者：

右仰差

三元五虎大將軍 位下 承牒准此

西元二〇二一年十二月十八日壇司發行⁽⁶³⁾

附錄（三）《告神唱雞歌》：

金雞子、紫雞啼，啼得頭高尾又低。當初世上無雞種，只因果老去來仙。去到黃泥十八灘，幾多辛苦幾多難。撞著仙人河邊去，持我金雞蛋一隻。（中略）幼少又怕鷹來打，大來又怕客來殺。生得好年無好月，生得好日無好時。客來又罵狐狸打，主人又罵客來殺。一日食你三勺米，三日食你九勺禾。生蛋之日無好日，出世之時無好時。脚下生得黃龍線，天晴落雨不沾泥。春來不怕泥漿水，夏來不怕熱如湯。秋來不怕寒風起，冬來不怕雪嚴霜。一更要啼不敢啼，又恐冤家咒詛有災厄。二更要啼不敢啼，又恐深山邪鬼上門啼。（中略）五更要啼正當啼，皇皇登殿正當時。左邊排起龍鳳鼓，鼓響之時武官齊。金雞子、紫雞啼，啼得頭高尾又低。做官郎子聽

(62) 筆者沒有採集到相關經書信息，因此上文中錯字、漏字之處，筆者無法訂正。

(63) 根據 2022 年 1 月 20 日當晚儀式文疏整理。

著龍雞叫子雞啼，早飛起來排衙唱道正當時。八十公公聽著龍雞叫、子雞啼，早飛起來唱起兒孫讀書正當時。八十婆婆聽著龍雞叫、子雞啼，早飛起來梳頭將洗面抱兒度孫正當時。讀書郎子聽著龍雞叫、子雞啼，早飛起來磨墨寫字正當時。一舉首登龍虎榜，十年身到鳳凰池。耕田郎子聽著龍雞叫、子雞啼。早早起來擔頭鴨子掙頭犁去到田裡正當時。（中略）娥媚梳得前鬢光、後鬢光，烏蠅飛過跌斷腸。大烏蠅飛過跌出屎。小烏蠅飛過跌出一條腸。十四十五妹妹未曾梳頭鬢，再過兩年生個子。發倒一頭盡虱麻，罵盡已多老少姐。咒盡已多老冤家，槌男打女出問門。十七十八嫂嫂聽著龍雞叫、子雞啼，早早起來挨籠打礁正當時。一日三時績籠纜，子隨身轉勤儉婦人得逍遙。丈夫出外羅衫著，身穿爛衣人笑人。行船郎子聽著龍雞叫、子雞啼，早早起來撐船搖槳正當時。行路郎子聽著龍雞叫、紫雞啼，早早起來打扮出門正當時。叫郎早早要回歸，（中略）除花戒酒莫賭錢，門前狗子昂昂吠。（中略）王姥仙娘聽著龍雞啼早早起來宅前宅後下羅圍。閩山九郎聽著龍雞叫、子雞啼，當壇拷鬼正當時。壇上弟子聽著龍雞叫、雞子啼，當壇賞將正當時。（64）

(64) 《贊雞告神歌》，在福建、江西等地又有不同叫法，如《贊雞歌》、《唸雞祭將》，內容充滿詩情畫意，唱腔也十分優雅、大方，具有很高的藝術價值。但是在學界沒有看到相關歌詞，這裡將湖南藍山版本的《贊雞歌》歌詞部分分享，供閩山教研究使用。為了保護閩山教行業秘密，筆者刪掉了一些研究意義不大的歌詞。

III. 研究報告 2



2004年10月 湖南省瑶族盤王節調査より 撮影：廣田律子

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」報告

東京學藝大學 名譽教授
吉野 晃

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」は神奈川大学みなとみらいキャンパス米田吉盛記念ホールで、10月11日(金)と12日(土)の二日に亘って開かれた。一日目の10月11日は、グループA「歌謡の諸相」とグループB「移住・方術・冥界などに関する社会文献・儀礼文献」の研究発表が行なわれた。二日目の10月12日には、グループC「生業・技術」とグループD「儀礼実践の諸相」のテーマの元に発表が行なわれた。一日目と二日目の発表は、前者が文献に基づく研究の発表が多かったのに対し、後者はフィールドワークに基づいた研究の発表であり、対照的であった。

10月11日の最初の三本の発表は故事歌のテキストの分析であった。A1 金文京「ベトナムの瑶族の『韓朋伝』と敦煌本『韓朋伝』および新発見唐代写本について」2019年に新疆で発掘された「韓朋伝」の唐代写本が、敦煌出土の「韓朋賦」と同系統であるが、「韓朋賦」とは異なるエピソードを含んでおり、それがベトナムのヤオ族に伝わる「韓朋伝」にも同じ内容があることを指摘した。A2 郭正宜「ベトナムヤオ族の『英台古』に関する整理と研究」梁山伯と祝英台の恋愛譚(略して「梁祝」)が歌としてベトナムのヤオ族の許に伝わっていることを報告し、その歌詞を整理した上で、梁祝の歌詞の広西賀縣本と「壮族梁山伯与祝英台」本との異同を明らかにした。A3 鄭美恵「ヤオ族における物語歌の流伝 — 広西の『舜兒古記』とベトナムの『舜兒古篆記』の事例を中心に —」ベトナムのヤオ族に伝わる『舜兒古篆記』と広西凌雲縣のヤオ族に伝わる『舜兒古記』、中国古代の『舜子至孝變文』などの舜兒故事との異同を検証し、ベトナム本の特徴を解明した。これら三本の発表によって、漢族とも共通する故事がヤオ族の許でも歌として広く伝承されていることが分かる。

A4 吉野晃「タイにおけるミエンの歌における歌謡語彙の特徴について」タイのミエンの歌謡語彙が漢字との関係により語彙の素性が異なり、また歌の種類によって語彙素性の異なる語彙の割合が異なっており、歌詞の解説を難しくしていることを明らかにした。A5 廣田律子「中国藍山縣『盤王願』に見る歌娘と師父の歌」藍山縣のミエンの盤王願という儀礼で男女によって唱われる歌について報告した。歌の中の神話は儀礼を継承執行する原動力であり、また祖先の移住の記憶を確認するものでもある。男性師父の歌は神話伝説が多く、女性歌娘の歌は儀礼の進行を唱い、夫々の歌の内容が異なり、漢字の読み方と曲調も異なるが、内容が即応する歌詞を唱い合う

こともある。七言詩、対句、反復、恋愛歌の挿入など、複雑な方法で神を喜ばせ、儀礼が立体的に組み立てられていることを明らかにした。この二つの発表は、ミエンが実際に唱っている歌の語彙と儀礼の中の歌について明らかにした。グループ A の発表に対しては、金文京氏がコメントした。

B1 張澤洪「ヤオ族の儀礼および文献における道教の法術」ヤオ族の儀礼文献におけるムン(藍靛ヤオ)の秘語、ミエンとムンの呪言、手印、神符について、漢族の道教文献における対応する記述を報告してその関連を論じた。次の二本の発表はタイのミエンが所持する祖先の安葬地を記したリスト「祖図」に関する報告である。B2 玉時階・玉璐「『祖図』— タイのヤオ族の移動ルートと時間を記載した民間文献 —」は、ミエンが焼畑耕作に伴い、中国からベトナム、ラオスを経てタイへ移動したその経路を、祖先の墓の位置にもとづいて再構成し、一世代 20 年として、29 冊の祖図に記載された夫々の墓の場所の滞在期間の長さを推定した(祖図には葬った年月日は書かれないため)。B3 Thanyalak Saeliao (劉玉蘭)「『祖図』タイミエンヤオの祖先の移動ルート — 盤氏家族、鄧氏家族の事例を中心に —」ミエンの鄧氏 2 家族と盤氏 2 家族の祖図 4 冊を分析し、夫々の移動経路を明らかにした。この二つの発表で、祖図がミエンの移動経路を再構成するための重要な資料であることが示された。

B4 丸山宏「ヤオ族儀礼文献研究試論 — テキスト間の相互関係について —」藍山縣のミエンの許で開壇儀礼に使われる『善果書上本』と『聖書下本』の中の異なる儀礼文献の中に眼に関する様々な表現が、祖師、鬼など異なる対象について使われていることを指摘し、こうした手法によってミエンの儀礼文献の特徴を把握することができることを示した。B5 陳玫奴「ミエンヤオの『評皇券牒』から見る『盤瓠』とその叙事の伝統的な分析について」ミエンの「評皇券牒」を政治的文献と見るよりも宗教儀礼文献と見るべきであるとし、「評皇券牒」中の盤瓠から盤王、さらには盤古と変化したのはミエンの道教化を示していると論じた。B6 Martin Tse (謝孟謙)「五方香火魂 — 藍靛ヤオの『禁盆秘語』を閲読する —」(改題)ムンの「禁盆秘語」は祖先の魂を取り戻す方法を説く書である。ムンの祖先の魂は、「邪人」によって奪われ、霊界の様々なところに隠されるが、道公がその奪われた魂=香火を集めて祖先の身体を再生し、救い出すと解釈した。B7 孫嘉玥「すべては魯班が教えた — ヤオ族の魯班信仰と儀礼と法術について —」ヤオの魯班信仰を取り上げ、ミエンの木工職人の間では技術と法術の祖とされ地位が高いが、ムンの祭司にとっては儀礼の時に呼び寄せる外神であって地位が低く、これは夫々の社会における木工職人と祭司の社会宗教的地位を反映したものであることを指摘し、漢族とヤオとの共通性とヤオの独自性を示しているとした。グループ B については謝聰輝氏がコメントした。

二日目の10月12日はCグループ「生業・技術」から始まった。このグループは物質文化を対象とした発表が続いた。C1 郝国強「六堡茶の伝承における多民族の交流、融合、および相互浸透による発展」では、広西梧州市の特産品である六堡茶の製茶技術がヤオ族内の家伝で伝承されていたものが家族に関わらない師弟による伝承へ変化し、それに伴ってヤオ族から漢族へ製茶技術が広まり、民族間の交流と協力が強まったことを報告した。C2 Somchai Rungrachatanit (鄧耀利)・Phimporn Rungrachatanit (鄧顯貴)「タイにおけるヤオ族の伝統銀細工制作技術の伝承、発展と農村振興への支援」タイのナーン県におけるミエンの伝統的な銀細工が当初は家内作業で作成されてミエン内部での需要に応じていたが、後に会社化して外部の需要にも応じるようになり、さらには技術伝承のために学校や博物館を設立するなど伝統工芸が事業化する過程を報告した。

C3 何紅一「ヤオの宗教儀礼における切り紙の研究」ヤオ族の儀礼で使用する切紙を1. 祭祀切紙、2. 「掛燈」「度戒」切紙、3. 子求め・子安切紙、4. 祈福消災切紙、5. 葬俗切紙に分類し、これらの切紙の特徴を1. 儀礼への依存性と神聖性、2. 象徴性、3. 多様な技術・造形・機能の総合性、4. 多民族との共通性とヤオの独自性として明らかにした。C4 増野高司「タイ北部のミエン(ヤオ)族が暮らす山村における家畜の重要性—供犠利用の観点から—」タイのミエンの村では儀礼の供犠に用いるために豚と鶏を飼っていること、新年祭の時には祖先祭祀儀礼ですべての家で鶏が、多くの家で豚が供犠されていたことを報告した。しかし、村内で飼っている豚・鶏だけでは儀礼の需要を満たすことができず、村外からの購入に依存していることを明らかにした。グループCの発表には佐野賢治氏がコメントした。グループCの発表は、従来あまり扱われなかったテーマを追究しており、興味深かった。

D1 Joseba Estevez・David Palmer「Spiritual Warfare in a Daoist Society at the Margins of Chinese Empire: Conquering the Forest and Fortifying Households, and Villages」(改題)ラオスのムンの世界観では自らを中華帝国とムアン(タイ系民族の平地政体)の辺境に位置づけるのであるが、森林を切り開く開山儀礼においては、自らを中華帝国になぞらえ、靈的戦闘によって辺境の森林を征服すると論じた。

D2 Joseba Estevez「Killing Magic among the Lanten Yao of Laos」(改題)ラオスのムンの立体的世界観を詳述し、靈的に人を攻撃する方法を報告した。それによると、被害者の魂を身体から分離し、様々なところに隠したり、熱い釜で煮たりして被害者を弱らせ、死にいたらしめる。これに対して、五人の師神を駆使して救う方法が報告された。D3 Tran Huu Son・Nguyen Thi Hong「ベトナムにおけるランテンヤオとホンヤオの度戒儀礼に関する比較研究」は発表者が来日できなくなったため、中止となった。D4 譚静「ミエンヤオ掛燈儀礼の構造・機能・象徴と意義—掛三燈・掛七星燈・掛十二盞大羅明月燈の考察に基づき—」中国国内のミエンの掛三燈、掛七星燈、掛十二盞

大羅燈の儀礼について報告し、ミエンの村でも後二者については域的差異があることを示した。分析の結果、これらの儀礼には社会的地位確立機能、陰兵獲得・操作機能、社会的凝集力増強機能、精神の抛り所獲得機能、文化伝承・教育機能があり、儀礼空間、神画、倚子、白布、銅銭、米、碗、灯などに象徴的意味が示されていることを明らかにした。

D5 楊小君「インタラクティブな儀礼チェーンからの『年猪を殺す』文化の実践表現」「年豚を殺す」儀礼は広東省のミエン（過山瑶）の村で農曆正月前に個人宅で行なわれる祖先祭祀儀礼で、親族・隣人・友人などが豚を屠り供犠する共同作業を行なう。この共同作業により、社会的凝集力が増強され、且つ伝統文化のアイデンティティと個々人の社会的地位が確立されると説く。D6 玉璐「ヤオ族の婿入り祖先祭祀儀礼の宗教人類学的解釈」中国のミエン（過山瑶）の許では入婿婚に、1. 婿が妻方に改姓婚入し、子は妻姓となる単系婿養子婚、2. 婿が有期妻方居住・不改姓で子姓は妻姓・夫姓に分ける双系婿入婚、3. 独立居住で婿不改姓、子姓は妻姓・夫姓均分の「両頭を頂く」婚の三種が行なわれている。婚礼の段階において妻方、夫方の祖先との関係で異なった位置付けがなされている点を指摘した。D7 廬順維「藍山県荊竹瑶族郷における散花儀礼の社会機能について」藍山県荊竹瑶族郷蒲林村における散花儀礼は、子どもの花魂が霊界の「花園」に置かれていたのを婚姻適齢期のころに花園から取り出す通過儀礼である。この散花の詳細を報告し、それがヤオ族固有ではなく、100年以上前に江西省南部の漢族の閩山教三奶夫人派の儀礼を受容したことを明らかにして、この儀礼に教育機能、成人儀礼機能、生命価値校訂の機能があることを述べた。D8 張卓「『九州』を過ぎる — 排ヤオの生命儀礼における華夏のメタファー」排ヤオの過九州儀礼を梅山教の蹂躪九州大壇儀礼と比較し、辟邪の呪句、「地脈を縮める」力、兵馬の伝度、邪鬼を九州牢獄に入れるなどの共通点を指摘して、過九州には祖先の移動の記憶を喚起して排ヤオのアイデンティティを強化する機能と、華夏への志向性があることを述べた。遠藤耕太郎氏がグループDの発表に対してコメントした。グループDの発表は実際の儀礼の観察に基づく研究であり、発表数も多く、聞き応えのある発表であった。

これらの発表の中には、人類学の通常の研究対象の単位たるミエンやムンといった ethnic group の事例であるか明記していない発表や、調査地を明記していない発表が少数あった。これが残念な点であった。しかし、全体を通してみると、テーマが歌謡、儀礼文献、物質文化・生業、儀礼と幅広く、中国、ベトナム、ラオス、タイと広い地域をカバーし、ミエンやムンなどに及ぶ多数の発表がなされており、質量共に充実したシンポジウムであった。

神奈川県立日本常民文化研究所・一般社団法人ヤオ族文化研究所主催 2024 年度企画展「国境を越える民族のアイデンティティー ～ヤオ族の儀礼と神像画～」
学生による参加報告まとめ

神奈川県立 非常勤講師
増野 高司

Summary of Participants' Comments on Special Exhibition of Ethnic Identity Transcending National Borders: Yao Rituals and Ceremonial Paintings held in 2024 at Kanagawa University, Japan

Takashi MASUNO

1. はじめに

2024年9月9日(日)から10月31日(木)にかけて、神奈川県立大学ミュージアムコモンズ企画展示室(神奈川県立大学横浜キャンパス3号館1階)において、神奈川県立大学日本常民文化研究所・一般社団法人ヤオ族文化研究所主催による2024年度企画展「国境を越える民族のアイデンティティー ～ヤオ族の儀礼と神像画～」が開催された。筆者は神奈川県立大学において「文化人類学」の講義を担当させていただいている。この講義は教室で実施されるものだが、受講生らには、教室で学ぶだけでなく各家庭の年中行事やさまざまなイベントに参加することを強く勧めている。「百聞は一見にしかず」と言われるように、座学は座学として重要ではあるが、実際に見たり聞いたりすることは、座学とは異なる学びとともに、教室での学びをより深く多面的に理解することに繋がると考えるからだ。

今回、ヤオ族の神像画に関する展示会がキャンパス内で開催され、レプリカではなく実物の神像画がほぼフルセットで展示されるとのことで、「文化人類学」の受講生らには、展示会に関する解説動画を見てもらった後に、この展示会に足を運んでもらい、参加報告書を作成・提出してもらった。

これまでヤオ族について2019年11月に、神奈川県立大学インターナショナルウィークのイベントのひとつとして「少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承(インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス)」が開催され、学生らの目の前でヤオ(ミエン)族の祭司による神像画に魂を入れる儀礼の実演や、ヤオ族の儀礼で用いられる切り絵作成の実演などが行われた(神奈川県立大学・ヤオ族文化研究所2019a:2019b)。参加した学生のコメントを見たところ、このイベントは多くの学生にとって印象に残る異文化体験の機会になっていた(増野、2023)。

また、海外ではあるが2017年11月にはチュラーロンコーン大学（タイ・バンコク）において、ヤオ族文化研究所主催による『越境した民族（ミエン・ヤオ）の文化資源の継承への協働展』が開催された。この企画展には、チュラーロンコーン大学の学生を中心に大学の教職員など、たくさんの方々に来場いただいた。チュラーロンコーン大学で美術を専攻する学生らがヤオ族の神像画を美術作品として鑑賞していたことや、ヤオ族の神像画に描かれた神々について、道教の神々として、説明を見るまでもなく、理解できている人が多くいたことが印象に残っている。この企画展は、大学のピロティで開催されたことから、展示された神像画はカラーコピーによるレプリカが利用された。当時、筆者らが展示会場で実施したアンケート調査では、有効回答者216人のうち116人（約54%）がヤオ・ミエン族について全く知らなかったと回答し、154人（約71%）もの人がレプリカではなく実物の神像画を展示した方が良いと回答した（増野、2021）。私が見る限り良く出来たレプリカだったが、実物を求める声はとても大きかった。

本報告では、学生らに提出してもらった参加報告をもとに、解説動画への評価およびコメント、企画展示を実際に見てからの評価およびコメント、そして学生らが興味を持ったり面白いと感じたりした神像画のランキングや個別の神像画に対するコメント等を紹介することから、学生が企画展示に参加し実物を鑑賞することの重要性について考えてみたい。

2. 神像画の解説動画、ヤオ族の神像画、参加報告の作成方法

2.1. 神像画の解説動画

「ヤオ族の神像画企画展」開催に合わせて、廣田律子教授による、企画展の解説動画が公開された（廣田、2024）。この解説動画は約35分の長編動画で、YouTube やヤオ族文化研究上のホームページで公開されている。

この解説動画ではまず企画展の意義について説明がなされ、これに続きヤオ族の分布などヤオ族について解説された。ヤオ族の特徴として儀礼文化があることが紹介され4分50秒（解説動画内の時間、以下同じ）からヤオ族の通過儀礼について解説された。5分50秒からヤオ族が伝承している漢字で書かれた経典の解説とともに、ヤオ族に伝わる過海神話などが紹介された。

次に、第1展示室内に移動し15分23秒からは、展示された神像画について解説された。神像画は18世紀に描かれたものが残っており、19世紀に描かれた神像画が多いとのことだった。神像画にはヤオ族の神々、道教の神々、仏教の神々が描かれているという。19分13秒から道教の三尊（元始天尊、道德天尊、靈宝天尊）が紹介された。20分30秒からヤオ族の神々などが描かれた「総壇」について解説が行われ、一番上に道教の三尊が描かれており、そのすぐ下に仏教の観音が描か

れていることなどが紹介された。21分4秒からは「十殿」が紹介された。リーフレットに「十殿」について「地獄の十王による裁判と獄卒による釜ゆで、のこぎり引き、臼のすりつぶし等の責め苦が描かれる。この構図は東アジアに共通する地獄観を表している」との説明がある。24分5秒からヤオらしい神として、太尉が挙げられ、太尉が乗る白い馬は太尉が盗んできたものだという伝承が紹介された。

最後に、第2展示室へ移動し30分4秒から、2018年にベトナムのミエンの絵師に描いてもらった神像画が紹介された。2019年に神奈川大学ひらつかキャンパスで開催されたイベント「インドシナデイズ」において、この神像画に魂を入れる儀礼の実演が行われた。33分20秒からベトナムの「評皇券牒」の紹介があり、解説動画が終了した。

2.2. ヤオ族の神像画

今回展示された神像画はヤオ族のうちミエン語を話す集団、過山系ヤオ族などと紹介される集団、に伝わる神像画である。ヤオ(ミエン)族の伝統的な儀礼はミエンの祭司によって行われる。神像画は、葬送儀礼、結婚の儀式、成人の儀礼など、通過儀礼を行う際に、儀礼の場に掲げられる。神像画を掲げることで神々が見守る儀礼空間を作り出すことができる。神像画は大きな儀礼を執り行うことができる「大祭司」などが、個人的に所有するものである。神像画は大きな儀礼の際に利用されるので、普段は目にすることはない。また、儀礼が行われるなか、ゆっくりと鑑賞できるものでもない。

今回、展示された神像画はヤオ族文化研究所が収集したもので、古い神像画にもかかわらず、とても状態の良い物に見えた。展示された神像画には1番から23番までの番号が振られており、企画展のリーフレットに、その主題、制作年、使用地、絵師などが記述されている(図1)。

私がタイで行われた儀礼の際に見た神像画は、ところどころ破けていたり、シミが付いていた、判読できない部分があるようなものだったり、そうでなければ新しいものの極彩色の色合いが目立つカラーコピーで作成されたものだったりしたことを覚えている。これだけたくさんの神像画を間近にゆっくり鑑賞することは、今回のような展示会でもない限り困難である。

ヤオ(ミエン)族の人びとは道教の影響などを受けた彼ら独自の宗教を信仰している。このため、彼らの神像画には道教の神々などが描かれている。譚(2015)によると、廣田律子は2011『中国民間祭祀芸能の研究』風響社352頁で、「宗教文献に記された神名や軸に描かれた神像からは道教からの影響を色濃く受けていると言えるが、長年かけて道教神が受容されミエンの独自の神体系が形成されている。三清神を最高神とし、太上老君・玉皇大帝・太歳・張天師・馬元帥・唐・葛・

主要展示資料	
<p>1 ①鄧元帥(トウゲンスイ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①趙元帥(チョウゲンスイ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>2 ①天府水府(テンブスイフ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①陽間地府(ヨウカンチフ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>3 ①大海番(ダイカイパン)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①大海番(ダイカイパン)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>4 ①小海番(ショウカイパン)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①小海番(ショウカイパン)②1845年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>5 ①李天師(リテンシ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①李天師(リテンシ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>6 ①總壇(ソウダン)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①總壇(ソウダン)②1845年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>7 ①聖主(セイシュ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①聖主(セイシュ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>8 ①道德(ドウク)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①道德(ドウク)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>9 ①元始(ゲンシ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①元始(ゲンシ)記載は靈宝②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>10 ①靈宝(レイホウ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①靈宝(レイホウ)記載は元始②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p>	<p>11 ①玉皇(ギョッコウ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①玉皇(ギョッコウ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>12 ①大太尉(ダイタイ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①太尉(タイ)②1845年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>13 ①十殿(ジュウデン)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①十殿(ジュウデン)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>14 ①張天師(チョウテンシ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①張天師(チョウテンシ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>15 ①趙元帥(チョウゲンスイ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①王明(オウメイ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>16 ①小太尉(ショウタイ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①三將軍(サンショウグン)②1845年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>17 ①陽間地府(ヨウカンチフ)②1811年③ベトナム(ラオカイ省)④不明 ①天府水府(テンブスイフ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>18 ①監齋(カンサイ)②1843年③中国(湖南省 藍山)④李法開</p> <p>19～23 ①過海(カカイ)③ベトナムおよび中国</p>
<p>【凡例】①主題②制作年③使用地(制作地詳細)④絵師 ※1～17の全て「上段:ベトナム神像画大軸」「下段:中国神像画大軸」</p>	

図1 『国境を越える民族のアイデンティティー：ヤオ族の儀礼と神像画』主要展示資料
出所：『国境を越える民族のアイデンティティー』リーフレットより抜粋

周三將軍等道壇に掛けられ祀られる神々との一致をみることができる。一方で張天師の対面に掛けられた李天師はミエンの宗教職能者の祖と考えられ、また海嶺もミエン独自の法術を授ける守護神といえる。」と指摘しているという。例えば、元始天尊(9番)、道德天尊(8番)、靈宝天尊(10番)は、道教の三清(さんせい)として知られ、道教の最も高位の神格とされている。このほか、解説動画によると、神像画にはヤオ族の神々ばかりでなく、仏教の神々も描かれているという。

2.3. 「ヤオ族の神像画企画展」参加報告の作成方法

学生らには「ヤオ族の神像画企画展」参加報告を作成するにあたり、廣田先生による企画展解説動画を見てから、企画展に参加・見学するように指示した。参加報告については、4つの選択式のアンケートおよび3つの記述式問題(A、B、C)に答える形で作成するように指示した。4つの選択式のアンケートは解説動画に対する感想を問うものと、企画展を実際に見た感想を問うもので、具体的な質問内容は分析結果の部分で示す。記述式問題(A、B、C)における質問内容は、以下の通りである。

記述式問題 A：廣田先生による解説動画を見て、面白かった点、興味を持った点、質問や疑

問点について記述してください。また、解説動画への要望などありましたら、ここに記述をお願いします。全体で 200 文字以上を目安に記述してください。

記述式問題 B：企画展全体について、面白かった点、興味を持った点、質問や疑問点について記述してください。また展示や企画展への要望などがあれば、ここに記述してください。全体で 200 文字以上を目安に記述してください。

記述式問題 C：興味をもったり面白いと思ったりした神像画等を少なくともひとつ選び。神像画の番号を書き、その神像画を選んだ理由などについて記述してください。全体で 300 文字以上を目安に記述してください。

学生らには、上記の問題に対する回答を作成し、Microsoft Forms を通じて参加報告を提出してもらった。この参加報告の提出は「文化人類学」の成績評価に直結する重要な提出物とした。

2024 年度後期の横浜キャンパス「文化人類学」の受講者は 200 名で、このうち 168 名が Microsoft Forms を通じて参加報告書を提出した。Microsoft Forms 以外の方法で提出した学生も 5 名ほどいたが、アンケートへの回答や記述方法が異なっていたため、彼らの回答は本報告の結果には含まれていない。

3. 「ヤオ族の神像画企画展」参加報告の分析結果

3.1. 学生による展示の解説動画への評価およびコメント

学生らには企画展に参加する前に、企画展の解説動画を見るように指示した。企画展の解説動画に対する学生の評価は以下の通りである。

3.1.1. 解説動画が面白かったのかどうかについて

解説動画が面白かったのかどうかについて選択式で質問をした結果、「とても面白かった」と回答した者の割合が 32.1%、「面白かった」と回答した者の割合が 43.5% だった^(表1)。両者を合計すると約 75% が解説動画を好意的に評価したといえる。さらに、解説動画が「つまらなかった」と回答した者の割合が 4.8%、「とてもつまらなかった」と回答した者は 1 名のみ(0.6%)で、否定的な評価が少なかったことが指摘できる。

表 1 展示の解説動画は面白かったですか。

とても面白かった。	54	32.1%
面白かった。	73	43.5%
普通だった。	32	19.0%
つまらなかった。	8	4.8%
とてもつまらなかった。	1	0.6%
合計	168人	100.0%

出所：学生へのアンケートより筆者作成

3.1.2. 解説動画がわかりやすかったのかどうかについて

解説動画がわかりやすかったのかどうかについて選択式で質問をした結果、「とてもわかりやすかった」と回答した者の割合が 29.2%、「わかりやすかった」と回答した者の割合が 41.7% だった(表2)。両者を合計すると約 71% が解説動画を好意的に評価しており、面白かったのかどうかについて聞いた結果(表1)と同じ傾向の結果が得られたと考えている。さらに、解説動画が「わかりにくかった」と回答した者の割合が 7.7%、「とてもわかりにくかった」と回答した者は 1 名のみ (0.6%) となっており、面白かったのかどうかについて聞いた結果と同様に、否定的な評価をした学生は少なかったと判断できる。

表 2 展示の解説動画はわかりやすかったですか。

とてもわかりやすかった。	49	29.2%
わかりやすかった。	70	41.7%
普通だった。	35	20.8%
わかりにくかった。	13	7.7%
とてもわかりにくかった。	1	0.6%
合計	168人	100.0%

出所：学生へのアンケートより筆者作成

3.1.3. 学生による解説動画へのコメント

記述式問題 A に対する記述から、解説動画を見た学生らのコメントのうち、いくつかを抜粋し紹介する。記述式問題 (A、B、C) の学生による記述について、明らかな誤字、脱字、文章の間違ひは、内容を変化させない範囲で筆者が修正した。

コメント A1：神像画の解説が興味深かった。特に、白い馬に乗る神をカッコいいと感じていたのに、その白い馬は盗んできたものだという裏話が面白かった。神が盗みを働いていいのか、と疑問を持った。また、神の足元に亀や蛇がいる神像画では、星の神なのかもしれない、と説明があったが何故星に繋がるのか疑問に思った。さらに、1 人だけ顔の色が青い神が見えた。何故、その神だけ肌の色が違うのかも質問したい。紹介があった神像画の他にもたくさんの神像画があったから、1 枚 1 枚解説を聞きたいと思った。

コメント A2：私は廣田先生によるヤオ族の解説動画を見て、まずこんなに沢山の神像画があることに驚きました。今も神像画は作り続けられていますが、絵師の減少で印刷されたものなどが増え今回の展示のような神像画はすでに作成が難しく貴重なものだと感じました。神像画はどれも制作された年月が古く、昔の時代にどのように制作していたのかがとても気になりました。解説動画の要望としては、途中声が聞き取りづらい箇所があったのと、いくつか難しい言葉が出てきたのでそれについての解説もあるととても分かりやすかったです。

コメント A3: 廣田先生の解説動画を見ると、興味深かったのは、ヤオ族の神像画には観音や十殿など仏教に関連する神々や場面が描かれていることがある同時に、道德天尊、元始天尊といった道教の神々の神像画もいる。中国では昔から仏教と道教の対立が繰り返されてきたが、ヤオ族の中では、両者はさしたる対立や論争もなく融合し、同時代に仏教の神も道教の神も肖像画に登場しているようだ。ヤオ族がどのようにして2つの宗教を自分たちの文化に融合させてきたのだろうか。紹介動画に字幕が付けられたらいいと思う。

コメント A4: 解説動画を見て思ったことは、何も知識のない状態で神像画の企画展に行くより、解説ありで知識を付けてから見に行く方が興味深く神像画を見ることができるといことだ。描かれている絵が誰なのかどのような場面なのかを解説によって理解することで神像画に関連性や、ストーリーが見えてきて興味深いと感じた。具体的には、会場の中央に展示された衣服もただ見に行くだけでは面白くないが、ヤオ族の企画展パンフレットの表紙である海番という神様がその衣服の一部を身に着けていることを動画を視聴して事前に知ったうえで、企画展に行ったのでより神像画を楽しむことが出来た。

ここに紹介していない学生についても、解説動画を見た感想やコメントが素直に記述されていた。事例 A1 の学生は白い馬が、盗んだ馬であると説明されたことに強く興味を持ったようだ。事例 A2 の学生は神像画の数の多さに驚くとともに、絵師の減少に言及している。事例 A3 の記述は、他の学生と比べて詳しすぎるように思われる。おそらく中国あたりからの留学生だろう。とても上手な日本語である。事例 A4 の学生は、事前に解説動画を見ていたことで、企画展への理解が深まったと述べている。

解説動画に対する要望として、音声が乱れている部分があるため修正すべきという意見や字幕や難しい言葉への解説を付けて欲しいとの意見があった。動画をどこまで作り込むかという問題は、録画した動画での講義を行った経験のある教員が共通に抱える問題だろう。普段見慣れたテレビ番組のようなレベルの動画を求められても、教員による対応は難しい。

3.2. 神像画企画展への評価およびコメント

3.2.1. 神像画の企画展が面白かったのかどうかについて

実際に企画展に参加してみて、企画展が面白かったのかどうかについて選択式で質問をした結果、「とても面白かった」と回答した者の割合が 38.1%、「面白かった」と回答した者の割合が 42.9% だった^(表3)。両者を合計すると 81% が企画展を面白かったと評価した。あれだけの数の神像画の

実物を実際に目にした結果、何らかの感情を抱いた学生が多くいたものと推測している。また「とてもつまらなかった」と回答した者が見られなかった。多様な学生が存在する中で、「とてもつまらなかった」と回答した学生がゼロだったことは、特筆に値すると考える。

3.2.2. 神像画の企画展の説明がわかりやすかったのかどうかについて

企画展がわかりやすかったのかどうかについて選択式で質問をした結果、「とてもわかりやすかった」と回答した者の割合が27.4%、「わかりやすかった」と回答した者の割合が42.3%だった(表4)。両者を合計すると69.7%の学生が企画展について、わかりやすかったと評価した。表4を見ると、表1、表2、表3の結果と比べ、「普通だった」と回答した者の割合が最も多くなっている。いっぽう「とてもわかりにくかった」と回答した者は見られず、否定的な評価をした学生は極めて少なかったといえる。

3.2.3. 神像画の企画展を見た学生の感想やコメント等

記述式問題 B への回答から、実際に企画展を鑑賞した学生らコメントを、いくつか見てみる

コメント B1：実際に、展示を目で見ると迫力が凄かった。静止画なのに神々が今にでも動き出しそうな威圧感があった。展示された神像画は、統一感のある色彩と細かい描写によって、神聖な力が宿っているように感じられた。特に、鮮やかな朱や深い藍を基調とした色彩は、神々の存在を浮き彫りにし、惹き付けるような魅力を感じた。さらに、絵の中に潜む霊的なエネルギーが今なお息づいているようだった。面白いと思った点は、神々の眉毛に個性が出ていたことだ。角度や太さが様々でみな、たくましい表情をしていた。疑問点は、ラーメンの器にある模様のような雲のイラストについてだ。この雲のような形が多く見受けられた。この色とりどりの雲は一体何を表現しているのか疑問に思った。

表 3 神像画の企画展は面白かったですか。(アンケート配点 0 点)

とても面白かった。	64	38.1%
面白かった。	72	42.9%
普通だった。	24	14.3%
つまらなかった。	8	4.8%
とてもつまらなかった。	0	0.0%
合計	168人	100.1%

注意：四捨五入した値を足し合わせた結果、合計が 100% になっていない。

出所：学生へのアンケートより筆者作成

表 4 神像画の企画展の説明はわかりやすかったですか。(アンケート配点 0 点)

とてもわかりやすかった。	46	27.4%
わかりやすかった。	71	42.3%
普通だった。	42	25.0%
わかりにくかった。	9	5.4%
とてもわかりにくかった。	0	0.0%
合計	168人	100.1%

注意：四捨五入した値を足し合わせた結果、合計が 100% になっていない。

出所：学生へのアンケートより筆者作成

コメント B2：企画展について面白かったところは一つ一つの神像画の迫力に驚いたことです。動画で見ると神像画の迫力に気づけなかったが実際に企画展に行ってみて、上下2つある神像画に囲まれるととても威圧感があり、みていてとても楽しかったです。また、企画展には神像画だけでなく、襪履や裂き織りなどどのようなものが使われていたか実際に目にして分かるため、とてもイメージしやすかった。そして企画展にあった襪履上着がとても色がよくかっこいいと思った。

コメント B3：評皇券牒などを実際に見ることが出来てよかった。基本的に神話や儀式のために作られたものであり、質感や用いられた染料の褪せ方など目に見える歴史というのを感じることができ、神像画の布や中国とベトナムでの違いが比較できるように展示されており、非常に面白かった。ベトナムの神像画は中国の神像画よりも余白はなく、余白となるところに細かい模様が施されたものや、肌の色が黒色になっている神像画もあり、同じヤオ族でも地域によって違いを感じる事が出来た。また、この細かい模様にも何かしら意味を持たせて描かれているのか気になった。神像画には18種あり、いろいろな種類の神像画があったが一人1枚ではなく、1枚に大人数描かれている物もあり、仏教の観音様もいることから様々な神様を信仰していると見られ、地獄の内容が書かれた十殿もあるため、ヤオ族を知らない日本人が見ても身近な感覚を得られると思う。

コメント B4：会場の中央にある女性の衣装に興味をもちました。全体的にみて重そうと初めに思いました。でもしっかり見てみると被り物、上着、脚絆、銀の飾りどれもとてもきれいでした。どれも刺繍がきれいできめ細かいと思ひ、丹精込めてつくられていると興味をもちました。被り物に関しては、現代の人が町でつけている被り物とは違い、頭の上に高さがあって独自性があり、ヤオ族らしさが出ていると思ひました。気になった点として被り物や上着を作る人がヤオ族の中にどれくらいの割合でいるのか気になりました。

コメント B1 の学生は神像画の神々が今にでも動き出しそうな威圧感だったと述べ、実際の展示を見た際の迫力の凄さを語っている。実物を見ることが、とても重要な場合がある。コメント B2 の学生も、展示会場での神像画の迫力に言及している。この学生は、神像画だけでなく展示されていたミエンの民族衣装についても興味を示している。コメント B3 の学生の記述は一般の日本人の学生にしては詳しすぎるように感じられる。中国とベトナムの神像画などが展示されていたが、この学生は両国間で違いが見られる点に興味を持っている。コメント B4 の学生は展示さ

れていたミエンの民族衣装に興味を持ったようだ。とくにミエンの被り物が気に入ったようである。今回の企画展は、神像画を中心に絵や文書の資料が多く展示されたが、多くの学生が民族衣装の展示に言及していた。道教の神々よりも衣装に親しみを感じた学生が思いのほか多かった。

3.3. 学生らが興味を持ったり面白いや感じたりした神像画

記述式問題Cの問題文は「興味を持ったり面白いや感じたりした神像画等を少なくともひとつ選び。神像画の番号を書き、その神像画を選んだ理由などについて記述してください。全体で300文字以上を目安に記述してください。」だった。ここでは、学生らが興味を持ったり面白いや感じたりしたという神像画の番号を収集し、各番号が言及された回数を数え、学生らが興味を持ったり面白いや感じたりした神像画の順位を示すとともに、学生らのコメントをいくつか紹介する。

3.3.1. 学生らが興味を持ったり面白いや感じたりした神像画ランキング

学生らが興味を持ったり面白いや感じたりした神像画ランキングを表5に示した。主要資料番号および主題は『国境を越える民族のアイデンティティー』リーフレットに示されたものに対応している(図1を参照)。主要資料番号は1番から23番までであるが、学生が挙げた神像画は1番から18番までの神像画で、19番から23番の「過海」を挙げた学生はいなかった。1番から18番までの各神像画については、少なくとも2名以上の学生が言及しており、学生に全く言及されなかった神像画は見られなかった。また学生のうち1名が別室で展示されていた「評皇券牒」に興味を持った資料として挙げていた。

最も多くの学生が興味を持ったり面白いや感じたりした神像画は「十殿(13番)」で、41名の学生が言及していた。2番目に多く言及された神像画は「総壇(6番)」で、33名の学生が言及した。そして3番目は「大太尉/太尉(12番)」で、22名の学生により言及されていた。いっぽう、最も学生に言及されなかった神像画は「陽間地府/天府水府(17番)」で、2名の学生により言及された。

最も多くの学生が言及した「十殿(13番)」は東アジアに共通する地獄観が描かれている。2番目に多く言及された「総壇(6番)」には、ヤオ族の神々のひとつとして仏教の観音が描かれている。いずれも解説動画内で大きく紹介された神像画で、日本の文化との共通性を見いだすことができる神像画といえる。3番目に多く言及された「大太尉/太尉(12番)」も、解説動画内で大きく取り上げられた神像画である。白い馬が大きく描かれている点も、学生の関心を引く要因だと思われる。参加報告の作成にあたり、学生には事前に説明動画を視聴したうえで企画展を鑑賞するように指示を出した。このこともあり解説動画内で大きく取り上げられた神像画に興味を持つ学生が多くなったと考えられる。

表5 学生らが興味を持ったり面白と感じたりした神像画ランキング

順位	主要展示資料番号	主題	言及した学生数 [人]
1	13	十殿	41
2	6	総壇	33
3	12	大太尉/太尉	22
4	18	監齋	18
5	15	趙元帥/王明	14
6	3	大海番	13
7	8	道德	11
8	1	鄧元帥/趙元帥	10
9	14	張天師	9
10	4	小海番	8
10	9	元始	8
11	16	小太尉/三將軍	6
12	10	靈宝	5
13	2	天府水府/陽間地府	3
13	5	李天師	3
13	7	聖主	3
13	11	玉皇	3
14	17	陽間地府/天府水府	2
15		評皇券牒	1

出所：参加報告書の記述から筆者作成

3.3.2. 神像画に興味を持ったり面白と感じたりしたことについての学生によるコメント

記述式問題 C への回答から、神像画に興味を持ったり面白と感じたりしたことについての学生によるコメントをいくつか紹介する。

コメント C1：面白いと思った神像画は、6 番の「総壇」。他の神像画に比べて、たくさんの神々が描かれていて興味が湧いた。神々だけでなく、動物も下に描かれているのが面白と感じた。二つ目は、13 番の「十殿」。中国の方はいくつかの四角で囲われていて、漫画のように描かれていて面白と思った。死後の世界、地獄について描かれていて、拷問器具など裁きの厳しさを強調する象徴が多く登場しているところも興味深と感じた。疑問点としては、位置やサイズ、向き全てに意味があるのか、またあるのならその意味はどんなものなのか気になった。神像画の印刷化が進む中で、どのようにして伝統的な絵画技術が保存されるのかが気になった。実際に神像画を見てみると、動画で見るとは全く異なる迫力を感じるこ

ができた。似たような構図のものもいくつかあって面白いと思った。

コメント C2:6 番の「総壇」に興味を持った。この神像画には廣田先生による解説動画にあったように、ヤオ族の神々が描かれている。神像画の最上段には道教の三尊（道教の最高神たち）が描かれている一方、その少し下には仏教の観音が描かれている。道教がヤオ族の中で信仰されていたが、なぜ仏教の上から2番目の地位にある菩薩を描いたのか（最も上の存在は如来。捉え方によっては、如来は尊い存在であるため描かなかったともとれる）。また、描いたということは信仰心があったはずだが、道教の三尊の下に来るように描いたのはわざとなのか（これも全体の中央に来るように描いたともとれる）。さらに、神々はみな正面ではなく中心の線を見るように描かれている。こういった配置の数々にはどういった意味が込められているのか疑問に思った。

コメント C3:12 番の神像画（大太尉/太尉）が1番気に入りました。1枚ずつ左右に4人の神が描かれており、その神一人一人に意味があることにとても興味を持ちました。その4人は、天、水、地、地火の世界を表しており、その世界にたくさん神がいることを意味していて、特に12番は他の神像画と違い白馬に乗っている神がいたり、顔もハンサムないで立ちをしたりしていて、とてもカッコいいと思いました。解説動画のなかで、この神が乗っている白い馬は盗んできたものとの説明があり、そのことにとても驚きました。なぜなら神にはそのようなことをするというイメージがなかったためです。神でも自分の気に入ったものを盗んだりするんだなと思いました。そして、解説動画のなかで、この神は崇高というよりとても周りの人から親しみやすい神との説明があり納得しました。

コメント C1の学生は「総壇」と「十殿」を面白いと思った神像画として挙げ、とくに「十殿」について多く記述している。「十殿」は最も多くの学生に言及された神像画で、東アジアに共通する地獄観を表す絵であるとされる。コメント C1の学生は「十殿」の絵について、漫画のような四角の囲いが見られることや、拷問器具に興味を示している。また神像画の実物を実際に目にしてみ、動画で見たのとは異なる迫力を感じたと述べている。また「総壇」については、神々ばかりでなく、動物が描かれている点に興味を持ったとしている。

コメント C2の学生はヤオ族の神々が描かれている「総壇」に興味を持ったという。この学生は仏教の観音が描かれていることに着目し、その描かれた位置や、仏教の神のうち、なぜ観音が選ばれたのかについて疑問を示している。日本人になじみのある観音が描かれていることで、ヤオ

族の宗教観のなかに自分の宗教観との共通点を見いだしたのだろう。廣田先生による解説動画を見て興味を引かれ、実物を鑑賞することで、神像画に対する疑問点などが膨らんだように見える。

コメント C3 の学生は、白馬に乗る神をハンサムでかっこいいと述べるとともに、盗みをする神が存在することについて驚きを示している。廣田先生による解説動画の説明に言及し、親しみやすい神との説明に納得したという。このコメント C3 の学生をはじめコメント C2 の学生は、神像画に描かれた神ばかりでなく白い馬をはじめとする動物の存在に興味を引かれているように見える。

4. まとめ

2024年9月の末に、学生にどのような課題を課したら良いのかを考えながら企画展を鑑賞した。展示会場の入り口にカラーのリーフレットが準備されており、これを見ながら展示を見てまわった。もともと大変状態の良い神像画であるが、ガラス張りの展示ケース内に飾られた神像画は、タイの儀礼で利用されている時以上に、荘厳さを感じるものだった。赤色を基調とする神像画自体は大変素晴らしいものなのだが、正直なところ、このリーフレットの説明のみでは、多くの学生が興味を持つことは難しいだろうというのが、現場で抱いた第一印象だった。

その後10月に入り、廣田先生による企画展の解説動画が公開された。この解説動画のおかげで、学生らがヤオ族や神像画について、いろいろな興味や疑問を持ちつつ、神像画の実物を鑑賞することができたと感じる。2019年に神奈川大学ひらつかキャンパスで開催されたイベント「少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承」の時には、事前に講義の中でヤオ族や彼らの儀礼について取り上げ、学生らにはヤオ族について多少の知識を持たせた上でイベントに参加してもらった。今回、企画展が夏休み中から後期の講義の前半にかけての開催だったことから、ヤオ族について講義内で取り上げることが難しかった。このため解説動画が公開されたことは、学生にとり大変良いことだったと考えている。参加報告を「文化人類学」の単位取得に関わる提出物のひとつとしたこともあるのだろうが、多くの学生が、解説動画を視聴した上で企画展を鑑賞し、真面目に参加報告を作成してくれた。参加報告をまとめた結果、学生らが解説動画および企画展の両方を高く評価していたことが明らかになった(表1~表4)。

今回のヤオ族の神像画企画展で、なによりも素晴らしかったことは、これほどにも多くの実物の神像画が展示されたことである。2017年11月にタイ・バンコクのチュラーロンコーン大学で『越境した民族(ミエン・ヤオ)の文化資源の継承への協働展』が開催された。このとき、現地での声としてレプリカではなく実物の神像画を展示すべきとの声がとても大きかった(増野, 2021)。今

回、学生らのコメントにも展示場で実物を見ると動画で見たのとは異なる迫力があつたなどのコメントが数多くあり、改めて実物を展示することの重要性を強く感じた。

この企画展も、大学のキャンパス内ではない、どこかの博物館などで開催されていたならば、学生らに企画展を鑑賞するよう、指示することは難しかった。大学のキャンパス内での開催だったことから、参加報告を講義の課題にすることができたと考えている。今後も大学のキャンパス内で多様な企画展を開催していただければと思う。このような企画展を、大学の講義のなかで利用してゆきたいと考える。

謝辞：神奈川大学ミュージアムコモンズ企画展示室の関係者、神奈川大学日本常民文化研究所所員の皆さま、一般社団法人ヤオ族文化研究所の所員の皆さま、廣田律子教授には、このような立派な企画展を神奈川大学のキャンパス内で開催していただき感謝いたします。

参考文献

廣田律子 2024 「企画展解説動画「国境を越える民族のアイデンティティー～ヤオ族の儀礼と神像画～」廣田律子所員」神奈川大学日本常民文化研究所 . <https://www.youtube.com/watch?v=nL2Y1EaxSzs>

神奈川大学・ヤオ族文化研究所 2019a 『インターナショナルウィークインドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス 一少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承—説明集』神奈川大学・一般社団法人ヤオ族文化研究所。 <https://www.yaoken.org/data-room/data/handoutBookletB.pdf>

神奈川大学・ヤオ族文化研究所 2019b 『国際シンポジウム「儀礼と神話」&インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス 一少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承—発表要旨集』神奈川大学・一般社団法人ヤオ族文化研究所。 <https://www.yaoken.org/data-room/data/handoutBookletA.pdf>

増野高司 2021 「山地民そしてミエン・ヤオを知っていますか? : チュラーロンコーン大学(バンコク)で実施したアンケート調査より」『瑶族文化研究所通説』8 : 193-198。

増野高司 2023 「神奈川大学インターナショナルウィーク「少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承(インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス)」参加報告: 参加学生によるコメントまとめ」『瑶族文化研究所通説』9 : 100-106。

譚 静 2015 「過山系ヤオ族(ミエン) 儀礼神画に関する研究 一湖南省南部及び広西壮族自治区東北部の儀礼神画について—」『年報 非文字資料研究』11:267-310。

その他の資料

リーフレット・主要資料画像

『2024 年度企画展「国境を越える民族のアイデンティティー～ヤオ族の儀礼と神像画～」リーフレット・主要資料画像』神奈川大学常民文化研究所ホームページ内で配布 http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/exhibition/koplr00000000st-att/leaflet_catalog.pdf

瑶族文化研究所 通迅 第十一号

2025年7月18日 発行

編集・デザイン

一般社団法人 ヤオ族文化研究所

岡本 浩一

表紙写真

2004年10月湖南省瑶族盤王節調査より

撮影：廣田律子

裏表紙写真

2004年10月湖南省瑶族盤王節調査より

撮影：廣田律子

発行

一般社団法人 ヤオ族文化研究所

印刷

株式会社 ポートサイド印刷

※本書の内容について文書による許可なく、無断転載・複製することを禁じます。